

ラブライブ×イナイレ  
「～11人の女神の奇跡  
～」

乾電池

## 【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

フットボールフロンティア出場を夢見て音の木坂に入部した穂乃果、海未、ことりの3人

しかしサッカー部は去年廃部になったと言う

それならばと再度自分たちで部活を立ち上げ、3人だけのサッカー部が幕を開けた

この作品はラブライブキャラメインのクロス作品です！

イナイレの相手校が対戦相手として出てきます！

# 目次

前半	
プロローグ「始まり」	1
第1話「体験入部に来ました!」	10
「お遊びでやるならさっさとやめなさい」	29
「UTX高校!?!……ってどこですか?」	39
「こんなの……サッカーじゃない……!」	61
「止めなきや気が済まない!!」	85
「サッカーを嫌いにならなくてよかった」	109
第2話「尾刈斗高校?」	119
「試合までの色々」	146
「尾刈戸高校と練習試合!!」	157
「オカルトサッカーの真骨頂」	174
第3話「監督ゲツトだぜ!」	203
第4話「公式戦スタート!」	218
「VS野生高校!」	240
「たつまきおとし!!」	256
第5話「挑発」	273
「合宿!!」	297
第6話「VS御影専農!」	321

	「試合終了！」	338		
	第7話 「個性的な方々」	377		
	第8話 「VS秋葉名戸！」	405		
	「試合終了！」	427		後半
	第9話 「助っ人？」	443		第1話 「お母さん!？」
	第10話 「vsUTX高校、前半戦①」	464		「エキシビションマッチ、vs母親チム(ダイジエスト)」
	「vsUTX高校、前半戦②」	483		第2話 「絢瀬絵里、氷の女王」
	「UTX高校、前半戦③」	505		735
	第11話 「vsUTX高校、後半戦」	520		「可愛い子分たち」
	「vsUTX、後半戦②」	540		「もうすぐ本選!」
	「vsUTX高校、後半戦③」	560		第3話 「vs戦国伊賀島」
				「守備の要、小泉」
				837
				808
				795
				772
				698
				680
				638
				597
				579

第4話 「心残り？」

853

「立ち込める暗雲」

870

第5話 「v s 千羽山戦」

888

「わがまま言ってもいい？」

926

「私たちはそんなに頼りないですか？」

961

第6話 「う、嘘だよね？」

997

「誰が責任を取るの？」

1015

第7話 「v s 木戸川清州」

1045

「みんなが待ってるの!!」

1077

「ツバサさんって呼んでいいですか!!」

1132

第8話 『思いっきり暴れてこい』

1146

「……頑張ろうね」

「悔いのないように」

第9話 「v s U T X戦い、開始！」

1237

「蘇りしペガサ…ス？」

「……どうしましょっか」

「優木あんじゅという人物、前半戦終了

！」

第10話 「穂乃果のために」

「かつこいい先輩」

「小泉花陽、嫉妬」

「南ことり、何か」

1191

1274

1349

1400

1437

1490

1513

「統堂エレナ、G K」

1551

「東條希、嫌いにならないで」

1576

「東條希、本当の自分」

1626

「ロスタイム、あなたのわがまま」

1654

1654

試合終了

1694

最終兼コラボ？

最終話兼コラボで書かせていただくは

ずだったもの①

1753

②

\_\_\_\_\_

1778

③

\_\_\_\_\_

1800

④

\_\_\_\_\_

1841

前半終了控え室⑤

\_\_\_\_\_

1868

後半開始⑥

\_\_\_\_\_

1889

⑦

\_\_\_\_\_

1926

⑧

\_\_\_\_\_

1996

⑨

\_\_\_\_\_

2043

構想??

\_\_\_\_\_

2066

?

\_\_\_\_\_

2083

番外編

UTX一年目

\_\_\_\_\_

2108

2年目

\_\_\_\_\_

2186





# プロローグ「始まり」

穂乃果「ここが……音の木坂高校かあ〜!!」バツ

海未「穂乃果、入学早々問題を起こさないでくださいね」

穂乃果「ひどいよ海未ちゃん!!」

ことり「流石にまだ起こさないと思うけど……」

穂乃果「うん……今はことりちゃんの正直なところが胸に刺さるよ……」

海未「ほらほら、早くいきますよ2人とも」

ことり「うん!」

穂乃果「いくよ!!」

「「サッカー部へ!!」」



先生「ここ」ガラッ

穂乃果「……………ここ本当に去年まで使ってたの？」

海未「中は広そうですね」

ことり「ヒィ!!蜘蛛の巣が……………」

穂乃果「ここを片付けたらまた部屋として使っていいんですよね？」

先生「もちろん！」ニカッ!

穂乃果「よし、やるよ！海未ちゃん！ことりちゃん！」

海未「ええ！やりましょう！」

ことり「ふええ……………」

穂乃果「うぎぎぎ……………重い……………」グググ

ことり「ヒイイ!!ンミチャアン……」

海未「あ、蜘蛛の巣ですね。こうやって……」スツ

ことり「はあく……」

穂乃果「うぐぐぐ……」グググ

海未「蜘蛛の巣というのは一つ張るのにかなりの日数が必要なんです」

海未「無闇に壊すということはしてはいけません」

ことり「へえー、そーなんだ」

穂乃果「も、もうダメエ!!」ブワツ

ことり「あ」

ドガツシヤアアアン!!!!!!

海未「あああああああ!!!!!!」

穂乃果「大丈夫海未ちゃん!?!」

海未「蜘蛛さんごめんなさい……うちの穂乃果がああ……」

ことり「なにこの海未ちゃん可愛い」

先生「お前ら楽しそうだなあ」

海未「うう……蜘蛛さん……」シヨボン

ことり「落ち込みながらもテキパキとした動きをする海未ちゃんのおかげで無事掃除が終わり、なんとか小綺麗な部屋になりました」

穂乃果「わーすごく説明口調」

先生「あとは部屋にあるもの使って練習しててもいいよ」

先生「グラウンドはこの人数じゃ使用許可は出せないけど」

先生「顧問は適当に探しときな」

穂乃果「先生がしてくれるんじゃないんですか!？」

先生「私はもう他の顧問もしてるからな。」

先生「学校外の人でも信用できる人なら大丈夫だからまあ頑張りな」

穂乃果「はい!ありがとうございます!」

海未ことり「ありがとうございます!」

穂乃果「まずどうする？」

海未「そうですね、まず……」

ことり「ケーキ作ってきたからお茶入れよつか！」

穂乃果「やった！ことりちゃんのケーキ大好き!!」

ことり「今回は自信作なの！」

穂乃果「明日はうちの和菓子も持ってくるからね！」

ことり「楽しみ〜!!」

穂乃果ことり「えへへへへ」

バンツ

穂乃果ことり「ヒウ!!」ビクウ

海未「たるみ過ぎです!!」

穂乃果「う、海未ちゃん？」ガタガタ

ことり「カオガコワイヨ〜？」ガタガタ

海未「お茶だのケーキだの和菓子だのどこぞの軽音部じゃないのですから……」  
ことり（メタい……）

海未「明日までに練習メニューを作っておくので明日からはそれをしましょう」

穂乃果「よし！じゃあ今日はケーキ食べて解散ということのでクレープでも食べて帰ろう！」

ことり「行こー！」

海未「あなたって人は……」

穂乃果「……嫌なの？」ウルウル

ことり「ンミチャアン……」ウルウル

海未「い、行きますからその目で見ないでさいいい!!!」

穂乃果（こうして始まった私たちのサッカー部）

穂乃果（ことりちゃんにイラストを描いてもらい部員勧誘）

穂乃果（いっぱい集まってくるといいなあ）

穂乃果（そして、次の日から本当に地獄の日々が始まりました）

穂乃果（学校ではボールを使った練習と体力トレーニング）

穂乃果（ここまではいいんだよ、普通のサッカー部らしくてね）

ことり（問題は休日、トレーニングと称して登った山は数知れず）

ことり（家には登山のリュックに登山靴、ピッケル？っていうのまで置いてあるから）  
穂乃果（お母さんには登山部に入ったの？と言われる始末）

ことり（荒れた舗装されていない山道をなんともないように登れるようになったよ）  
ことり（おー！！）

穂乃果（それでも毎日毎日少しでも場所を見つけてはパスの練習をしたりリフティン  
グ）

ことり（おやつを食べてる時もボールを足から離さないようにしてたよ）

海未（部室でおやつ食べてること自体問題なんですけどね）

穂乃果（それは置いといて……なんと！）

穂乃果（助っ人でビデオとフミコとミカが試合の時だけならきてくれることになったよ！）

ことり（有難い話だねえ）

穂乃果（これで六人！）

穂乃果（目指せ、フットボールフロンティア優勝！）

ことり海未（おー！！）

海未（色々あった一年間でしたが私たちも無事、二年生になりました）



穂乃果ことり（色々あったのは主に海未ちゃんの登山だよね……）

海未「何か言いました？」

穂乃果ことり「いえ別に」

凜「かよちゃん！こっちこっち!!」タッタッ

花陽「凜ちゃんまってえ〜！」ゼエゼエ

真姫「……………はあ」テクテクテク



凜 「かよちゃん!どこの部活に行くの?」

花陽 「えと……その……凜ちゃんはどこ行くの?」

凜 「凜はー、今日も陸上部かなあー」

凜 「かよちゃんは?」

花陽 「わ、私は……帰宅部かな……」

花陽 「やりたい部活ないし……」モジモジ

凜 ニツ

凜 「凜知ってるよー?かよちゃんは昔っからサッカー大好きだったこと」

凜 「入学する前もサッカー部あるって喜んでたでしょ?」

花陽 「だ、だけど……」

凜 「タイムミング逃したらもっど行きにくくなっちゃうよ?」

凜 「だから早く行こー!」グイグイ

花陽 「まって、待って!」グッ

凜 「……?」

花陽 「あ、のね?わがまま言っても……いい?」

凜 「しようがないなら、なに?」

花陽 「一緒に……サッカーやりたいなって……」

凜「凜も？」

凜「……無理無理無理無理!!!」

凜「走るのは得意だけど、サッカーなんてしたことないし……」

花陽「そ、だよね……」

凜「……もー！わかった！体験ならついて行ってあげるから一緒に行きこー！」グイッ

花陽「え？え？だ、ダレカタスケテー!!」グイイ！

真姫「……………」ピラッ

【サッカー部部員募集中！】

真姫「……………」パサッ

スタスタスタ

凜「すいませーん!!体験入部でーす!」ガラツ  
花陽「凜ちゃん!ノック……」

穂乃果「海未ちゃんあーん」

ことり「海未ちゃんアーン」

海未「や、やめてください2人とも!!!」

ことり「よいではないか、よいではないか」

海未「い、いやあーーー!!!」

「あの一……」

穂乃果「は、はい!ごめんなさい!練習します!」

凜「そ、そうじゃなくて……えつと」

海未「体験入部の方ですか?」

花陽「そ、そうです!」

花陽（大丈夫かな？）

穂乃果「よかったあ〜！昨日誰も来なかったから今年は0人かと思つたよ……」

ことり「2人とも？」

凜「はい！でも凜は付き添いなんですけど……」

穂乃果「見てるだけっていうのもアレだしやってかない？」

ことり「それいい！」

凜「いや、凜は……」

花陽「やろうよ凜ちゃん！」

凜「うう……わかつたに……よ」

海未「？…決まりですね」

海未「では名前を教えてください」

花陽「こ、小泉花陽です」

凜「星空凜です！」

穂乃果「一応部長の高坂穂乃果だよ！穂乃果って呼んでね！」

ことり「南ことりです！ことりでいいよ♪」

海未「園田海未です。好きに呼んでもらって構いませんよ」

花陽凜「よろしくお願いします!!」

ことり「よーしじやあ着替えちやおー!」

花陽「は、はい!」ヌギヌギ

ことり「おおく……花陽ちゃんおっぱい大きいね〜」サワサワ

花陽「ピヤア!!」ビクウツ

花陽「凜ちゃん助けてえ〜!!」

凜「フフ……持つものには持たざる者の気持ちはわからないんだよ……フフ」

花陽「凜ちゃん!!!」

凜「こういう時いつも感じる胸囲の格差……」

海未「バカなことやってないで早く着替えてください」

穂乃果「海未ちゃん元気出して」

海未「何がですか!!」クワツ

花陽「うう……」

ことり「えへ」ツヤツヤ

海未「じゃあまずはボールを使って少し遊びましょう」

凜「あの、凜本当に初心者で……」

海未「大丈夫ですよ、まずは鳥かごをしてみましよう」

穂乃果「うへー……あれ苦手……」

凜「……なにそれ？」ヒソツ

花陽「鳥かごっていうのはね、三人が1人を囲んでボールを回すの」

花陽「ボールをもらった人はキープしてから他の2人に回す、中の人はパスカットするかキープしてるボールを奪うとその人と交代するの」

花陽「わかった？」

凜「んー……多分大丈夫！」

海未「わからなくなったらまた聞いてくださいね」

海未「私は抜けていきますからジャンケンで決めてください」

穂乃果「いくよー！ジャンケン……」

「「「ポン！」」」

凜「あちゃー……凜が最初かあ……」

穂乃果「じゃあいくよー！」

穂乃果「それ！」ドツ



花陽「わっと」トッ

海未（柔らかくそつのないいなし方……相当ボールに触っていないと身につかないかなれ感）

凜「たあー！」タツタツタツ

花陽「わわわっ！」ザザザッ      ボールキープ

凜「ふっ、んむむ」ザザッ

花陽「ことり先輩！」ドッ

ことり「うん！」トッ

海未（凜の足を開けるタイミングを見計らつての股抜きパス……加えて足元への正確なパス、かなりやっていますね）

凜「うう……」

花陽「凜ちゃんは凜ちゃんの得意なもので勝負しなきゃ」

凜「でも凜初心者だし……」

花陽「中の人はボールを持つんじゃないやなくてカットすれば勝ちだよ？」

凜「……………そっか……………」ダッ

花陽「……………」ニコッ

ことり「ふっふっふ」

凜「たあー！」ダッ

ことり「穂乃果ちゃん！」ドッ

凜（いまだ!!）ジャリッ

凜（中の人はずきニツクも何もいらぬ、止めれば……）

凜「勝ち！」トッ　　ズシャアアア!!

穂乃果「だ、大丈夫!？」タツタツ

花陽「凜ちゃん！」ダッ

コロコロ……

凜「え、えへへへ、取ったよかよちん」

海未「怪我はなさそうですね」

ことり「すっごく速かったよ凜ちゃん!!」

穂乃果「うん!あそこから追いつくなんて!」

花陽「もおく……無茶すぎだよお……」グイッ

凜「えへへ、ごめんね」グッ

海未「さて、それでは次はドリブルの練習をしていきましょう」

海未「コーンをよける練習です」

海未「………所に注意して行ってください」

凜「よっ……わわわ!!」トッ コロコロ

海未「凜！早く行こうとするのではなく、一つ一つ確実に通過してください」

海未「慣れれば自然と早くなります」

海未「ボールは一度に大きくけるのではなく細かく繋いでいきましょう！」

凜「は、はいい!!」ゼエゼエ

海未「花陽！その調子です！」

花陽「はい！」ハアツハアツ

海未「次は………」

ハイ！ワカリマシタ！

イクヨハナヨチャン！

ダ、ダレカタスケテー！

海未「それでは今日はこれで終わります」

海未「2人は先に帰っててください、私たちはもう少しやることがあるので」

花陽凜「ありがとうございます！」

海未「はい、ありがとうございます」

穂乃果「ありがとうございます！」

ことり「ありがとうございます♪」

タノシカッタネー

ネー

ことり「かわいい子達だったね〜！」

海未「花陽は経験者ですし凜も練習次第でかなり上達するでしょう」

穂乃果「よーし！それじゃあもう少し練習を……」

コロコロコロ……

穂乃果「ボール？」

「ちよつといいかしら」

「ごめんな」

海未「……生徒会長と……副生徒会長……」

絵里「理事長の娘さんは……」

ことり「私ですけど……」

絵里「あなた……理事長からこの学校が廃校になるって聞いてる？」

海未「……なっ……！」

穂乃果「廃校!？」

ことり「……」

海未「ことり……」

絵里「その様子だと知ってたみたいね」

穂乃果「へ、は、廃校ってどういうことですか!?! どうして先輩方は知ってるんですか

!？」

絵里「さつき職員室の前を通りかかったら聞いちやったのよ」

希「秘密にしといてって言われたんやけどなあ」

穂乃果「そ、そんなあ……」

海未「もう、決定なのですか？」

絵里「正確には来年の入学希望者数によるらしいわ」

希「まあこのまま行ったらほぼ決定らしいけどね」

穂乃果「廃校…編入…試験…中途退学…」「ブツブツ

穂乃果「はは…穂乃果はここまでみたいだよ」ガクツ

海未「諦めが早すぎです!!」

絵里「編入の件は大丈夫よ、編入試験はなく、今の一年生が卒業するまで私たちは残るらしいわ」

穂乃果「そ、そうだったんですか!? やっ……」

海未「たーじやありませんよ、凜と花陽に後輩のいない高校生活を送らせる気ですか？」

穂乃果「た、確かに…：…なにかしないと!」

希「といつても時間はあまりないんよ」

ことり「その…：…ごめんなさい…」

ことり「私がつと早くに言ってたら……」

絵里「ああ…：…違うの、責めてるわけじゃないのよ、ごめんなさい……」

海未「短期間で爆発的に知名度を上げる方法……」

穂乃果「……………！」ピーン！

穂乃果「海未ちゃん、ことりちゃん！」

海未「……………なんですか？」ジトツ

ことり「う、海未ちゃん目つき目つき！」

海未「こういう時ロクなことを言い出さないじゃないですか」

穂乃果「名案中の名案だよ！」

穂乃果「穂乃果たちで廃校を阻止しよう！」

海未「あなた……………簡単にいいますがどうやってですか……………？」

ことり「そうだよお、今からできることなんて……………」

穂乃果「今までとすることは何も変わらない」

穂乃果「私たちが大会で優勝すればいいんだよ！」

絵里希「！」

穂乃果「もしたら入部希望者だつてきつと増えるよ！」

みんな「……………」

海未「た、たしかに知名度はこれまでになく上がるでしょ」

ことり「これまで私たちがやってたことが廃校阻止に繋がるなんて……………！」

ことり「よーし！じゃあ早速練習しよう！」



穂乃果「しよー!」

タツタツタツ

絵里希「……………」

海未「……………」というわけですみません、私たちは練習に戻りますので……………!?!」  
ガシツ!

海未「な、なななんですか!?!」

絵里「私たちも……………」

希「チームに入れて!」

海未「ああなるほど、チームに……………」

海未「ん?」

絵里「だめかしら……………」

タツタツタツ

穂乃果「どうしたの?」

海未「えっと……………先輩方がチームに入れて欲しいと……………」

穂乃果「……………うそ」

海未「……………穂乃果？」

穂乃果「……………や……………」

ことり「や……………」

「やったあ!!!」バンザーイ

絵里「ハラシヨ―！ありがとう！」

海未「大歓迎です」ニコツ

穂乃果「これで八人！」

ことり「凜ちゃんとか陽ちゃんも合わせると十人！あと一人だね！」

海未「ちなみにサッカーの経験は……………」

絵里「高校でやめてたけど一応小中はやってたわ」

希「えりちな、氷の女王って言われとったんよ。」

絵里「ちよ、ちよつと……………」

希「ロシアの学校でな」

穂乃果「氷の女王？」

ことり「ロシア……」キラキラ

絵里「恥ずかしいからやめなさい!」

希「それはまた今度のお楽しみやね」

絵里「お楽しみじゃなくていいから!!」

希「ちなみにうちは少しだけ」

絵里「希はなんでもすぐ上達するから心配ないわ」

希「照れるやん〜!」

ことり「凄い……!」

希「にしし、それは置いといてちよつといいかな?」

穂乃果「何ですか?」

希「あと1人、塞ぎ込んでる怖がりさんを引き入れたいんよ」

海未「怖がり……ですか?」

希「ちよつと訳ありでこれ以上言えんかなあ」

海未「その方の名前は……」

希「矢澤にこ」

「お遊びでやるならさっさとやめなさい！」

穂乃果「あの話って本当なのかなー」ドツ

海未「矢澤先輩ですか？」ドツ

穂乃果「うん…」

ことり「まさか私たちの練習ずっと見てたなんてね〜」ドツ

にこ「……………」コソコソ

にこ「……………」ジー

穂乃果「あ、いた！」ボソボソ

海未「意識してみると丸見えですね」

海未「隠れる気あるんでしょうか」

ことり「1年生みたいに可愛いね」

にこ「……………」ザツザツザツ

穂乃果「え、こつちに來るんだけど」

海未「練習に参加したかったんじゃないですか？」

にこ「あんたたち……」

ことり「はーい！」

にこ「お遊びでやるならさっさとやめなさい！」

海未「な…!?!」

穂乃果「遊びでなんかしてません!!」

にこ「へー、そうは見えなかつたけど？」

ことり「ことりたちは真剣です！」ちゅんちゅん

海未「そういうとこですよことり」

にこ「いい？サツカーを侮辱しないで！」

スタスタスタスタ

穂乃果「……」

穂乃果「あれが……」

((塞ぎ込んでる怖がりさん……))

ことり「イメージと全然違つた……」

海未「どこが恐がりなのですか……」

穂乃果「塞ぎ込んでるようには見えなかつたけど……」

((ひねくれてるなあとは思つたけど)) いましたけど

河川敷

「ここ「ふん……なによあいつら……」テクテク

「ここ（あいつらの練習メニューなら一年間毎日見てたけど……）」

「ここ（文句を言いながら……でも少しもサボらなかつた……）」

「ここ（……遊びでできる練習量じゃなかつた……!!）ギリッ

「ここ（試合に出れるわけもない人数でなんでそんなに……）」

—————

「なんで部活でそんなにまじめにやってるの？」

「楽しく試合できたらいいじゃん」

「ここ」で、でも！やっぱり出るからには……!!」

「正直、ついていけない……」

「1人だけまじになって馬っ鹿みたい」

「1人でやってなよ」

—————

「ここ……」

「ここ」1人になっても続けるなんて……無理よ」

「ここ」どこで……間違ったのかな……」ボソツ

イケー！シュートー！

ウワー！ヤラレター！

イイゾー！

「ここ」あんな風は無邪気に遊んでいた頃があつたわね……」

「ここ（あの頃は本当に楽しかった……）」



イテ!?

スイマセン！

オイオイコレオレチャツテンジヤネ？

アーコレハオレテルワ

ゴ、ゴメンナサイ…

イヤーマジデイテー

にこ「つち……今時あんな馬鹿みたいな連中いるのね」

ザザザザツ

「ちよつとあんたたち！」

不良A「ん？誰だお前」

にこ「あんたたち小さい子に寄ってたかって恥ずかしくないの？」

不良B 「兄貴の腕が折られたんだよ、なんか文句あるか」

にこ「小学生のパスが当たったくらいで折れる腕なんて、腕に問題があると思うけど」  
にこ「カルシウムとって出直してきたら？」

不良A 「っ!!こいつ」ガシッ

にこ「あつれ〜?女子校生に手上げちゃうの?にこわーい」

にこ（なにも考えずに出てきたからなんの対策もしてないわ……どうしよ）スルッ  
にこ（あ、リボン落ちちゃった……）

不良B 「おいおいおい」ズイッ

不良B 「兄貴怒らせると怖えー……ぐはああつ??」ドサッ

不良A 「ど、どうした!」パッ

にこ「ゴホッゴホッ……!」ヨロッ

テンテンテン      コロコロ

にこ（あれは……サッカーボール）

ここ（どこから？） キョロツ

??? 「……………」 クルクルクル

ここ（あの子が蹴ったの??）

ここ「逆光で顔が見えない……………」

不良A「お、お前の仲間か!？」

不良A「舐めた真似しやがって!!」 バツ!

ここ「……………」

ここ「ボール借りるわよ」 トトツ

フツ

ドキユツ!!!

不良A 「へぶあ!!」 ドサツ

にこ「……ふう」

不良B 「お、覚えてろよ!!」 タツタツタツ

にこ「古……」

オネーチャンスゴイ!

メツチャカツコヨカツタ!

にこ「……あなたたちは絶対こんな使い方しちやダメよ」

にこ「サッカーは純粹に楽しいものだから」

にこ「それと、周りに気をつけること!!」

ハ—イ!

??? 「……………大丈夫?」

にこ 「……………助かったわ、一応礼を言っとく」

??? 「別に……………足が滑っただけ……………」スツ

??? 「はいこれ、ちゃんとボールは仕舞っておきなさいよ」

ハ—イ! 赤髪のおねーちゃんもありがと—!

??? 「それじゃあね」

にこ 「まちなさい」

にこ 「名前ぐらい名乗りなさいよ」

??? 「人に聞くにはまず自分からって習わなかった?」

にこ 「つぐ……………矢澤にこ、音の木坂よ」キユツ

??? 「!……………そのリボンの色……………三年生だったのね」

にこ 「わかるの? あんたも音の木坂?」

真姫 「音の木坂一年、西木野真姫よ」

にこ 「あなた……サッカー部にはいなかったわね」

真姫 「……サッカーは……できないの」

にこ 「なんで？そんなに上手なのに」

真姫 「……家の事情よ」

にこ 「……ふーん？」

真姫 「それじゃあ」ペコッ

にこ 「ええ……」

「UTX高校!?……ってどこですか?」

翌日の放課後

にこ「……で、なに?」

穂乃果「サッカー上手なんですよね!」

海未「希先輩から聞きました」

にこ(あいつ……) イラア

ことり「ことりたちと一緒にやりましょう!」

にこ「……私は遊びでやる気なんてない」

穂乃果「私たち、遊びじゃないです!」

にこ「はーん、どうだか」

にこ「じゃあ目標を言ってみなさい」

「フットボールフロンティア優勝!!」

にこ「…っ」ビクッ

にこ（即答…）

---

にこ「さあ！目標決めるわよ！」

「えー？どうするー？一回戦突破？」

「謙虚すぎwwwやっぱ優勝でしょ！」

にこ「よし！じゃあ優勝で………」

「いやー無理でしょ優勝なんて」

「だよねー、二回戦突破ぐらい？」

「あー、妥当だね」

「あつはははははは!!」

にこ「……」ギョッ

---



にこ「……………今日って体験入部あったわよね?」

海未「はい、ありますが」

にこ「部室でちよつと待つわよ」

ことり穂乃果「?」

花陽「お、お邪魔します……………」

穂乃果「お、来たね花陽ちゃん!」

海未「今日は凜はいないのでね」

花陽「は、はい!陸上部の方に行くみたいですよ」

ことり「えく…サッカー部来てくれないのかなあ……………」

海未「流石に強要はできませんよ」

にこ「ちよつといい？」

花陽「は、はいい!？」ビクウツ

穂乃果「ちよつと！うちの部員を怖がらせないでくださいよ！」

海未「まだ部員じゃないですけどね」

にこ「あんた……目標は？」

花陽「え？」

にこ「この部活に入ってからからの目標よ」

花陽「そ、それはもちろんフットボールフロンティア優……」

にこ「優勝なんて言わないわよね？」

一同「!？」

穂乃果「ちよつ……！先ば……」

海未「穂乃果!!」

ことり「穂乃果ちゃん!!」

穂乃果「え……なんで……?」

にこ「で、どうなの？」

にこ「一回戦突破、二回戦、ドリブルが上手くなる、ハットトリックを決めたい、なんでもいいわよ」

花陽 「は……花陽は……」

穂乃果 「……………」

海未 「……………」

ことり 「……………」

花陽 「ゆ……………」

花陽 「優勝以外考えてませんでした……」

花陽 「ごめんなさい……………」 シュン

にこ 「……………!!」 パチクリ

にこ 「……………つぷ……………」

にこ 「あっははははは!」

花陽 「え……………え?」

にこ 「あんたたち面白い子捕まえたわね」

にこ（こんなに気弱そうなのに、目標はしっかりと決めてるみたいね）クスッ

穂乃果「うんうん、さすが花陽ちゃんだね」

海未「全く、ヒヤヒヤしました」

ことり「花陽ちゃん言っちゃったね♪」

花陽「え？え？いったいなにがなにやら……」

にこ「いいわ、入ってあげる」

穂乃果「ほ、本当ですか!？」

海未「人騒がせな人ですね」

にこ「そのかわり、にこが部長よ!」

花陽「えええええ!？」

穂乃果「はい、いいですよ!」

海未ことり花陽「えええええ!!?」

にこ「リーダーはあんただけだね」

穂乃果「頑張ります!」

にこ「事務的なことは私の方が慣れてるからね、あんたらはチームをまとめてなさい」

海未「全く穂乃果らしいと言いますか……」

ことり「あ、はは……」

ガラッ

希「はーい、体験入部にきましたー!」

絵里「お邪魔するわね」

ことり「あー!先輩方いらつしやーい!」

希「お、にこつちやつとかあ」

にこ「あ……あんたねえ……」プルプル

希「この子らが一年生の時からずっと見ててやつと今入るなんてどれだけツンデレ

……」

にこ「希いいー!!!」ドタバタ

希「いやーんにごつち大胆ー!」ドタバタ

海未「ちよつと暴れないでください!」

絵里「やめなさい2人とも!」

にこ「ま、まちなさい!」ゼエゼエ

希「にこつち体力落ちたなあ」タツタツ

花陽「あ!」

ことり「そつちは!!」

希「いやあ!!!!」

にこ「蜘蛛の巣からまったあー!!!!!!」

海未「蜘蛛さあー!!!!!!」

花陽（つて、よく考えたら先輩しかいない……!!）

花陽「ダレカタスケテー!!」

穂乃果「賑やかになってきたね」ニコニコ

### 理事長室

穂乃果「何かあつたんですか？」

理事長「あなたを呼んだのは他でもありません」

理事長「試合をしてもらいます」

穂乃果 「え!?練習試合取ってきてくれたんですか?」

理事長 「それが、向こうから言ってきたんです」

穂乃果 「ちなみに相手は……」

理事長 「……………UTX高校です」

穂乃果 「ゆ……………UTX高校……………!!!」

穂乃果 「ってどこですか?」

理事長 「……………」アキレ

理事長 「前回、前々回のフットボールフロンティア優勝校ですよ」

穂乃果 「あーなんだ優勝校……………って」

「ええええええええええ  
!!!???

花陽 「ひ、ひいい……………」ガタガタ

海未 「それで……………」

ことり「……受けてきちゃったの？」

希「それにこの日にち……」

にこ「仮入部期間終わってないじゃない!!」

穂乃果「そ、そうなんですよねえ……」

絵里「まあ決まっちゃったものは仕方ないわ」

絵里「人数は何人いるの？」

海末「二年生三人、三年生三人、花陽も入れて助っ人の三人も入れると……」

ことり「十人……だね」

にこ「どうするの？あと一人」

花陽「あ、あの!!」

花陽「多分……凛ちゃんきてくれると思います」

花陽「ひとまず助っ人なら……」

穂乃果「てことは……」

希「うん!一人揃ったね」

にこ「よし!それじゃあ早速特訓行くわよ!」

「「「おー!!!」」」

!!!



海未「……………穂乃果、その手どうしたんですか?」

ことり「わあ、絆創膏だらけ……………」

穂乃果「あ、これ?料理失敗しちゃって……………難しいねほんと」

海未「気をつけてくださいよ、ただでさえ不器用なんですから」

穂乃果「わかってるよーだ!」タッタッタツ

海未「……………ことり」

ことり「うん」

海未「どうすれば手のひらまで怪我するんでしょうね」

ことり「本当に穂乃果ちゃん嘘下手だよね」

穂乃果「たっだいま〜！」

雪穂「おねーちゃん靴ちやんと揃えて！」

穂乃果「いつてきまーす！」

雪穂「コラー!!!」

鉄塔

穂乃果「さあ！今日もこのタイヤで特訓だよ！」ザッ

穂乃果「でもこんなの本当に意味あるのかなあ……」

—————

穂乃果「ん〜…どうすればキーパーの実践的な練習ができるんだろう…」テクテク

???「鉄塔広場のタイヤを使ってみて」ボソッ

穂乃果「へ!?!」クルッ

穂乃果「……だれもない……」

鉄塔

穂乃果「ハア……ハア……とー……ちやく!」ザッ

穂乃果「ここに来るだけで疲れるよ……」

穂乃果「えーつと……あの声によれば……タイヤタイヤ……」キョロキョロ  
!

穂乃果「あ!あのぶら下がってるやつかな!」タツタツタツ

穂乃果「……これでどうやって特訓するんだろう」

穂乃果「……」ブランブラン

穂乃果「……もしかして……!」グッ

穂乃果「あはは！ブランコみたい！」ブウンブウン！

穂乃果「違う、こんなことしてる場合じゃない」

穂乃果「……………」ウーン

穂乃果「……………！わかった」ぐ　グツ

グンツ！

穂乃果「これで返ってきたやつを……………」

フワツ

ヒュウウウウウ……………！

穂乃果「とめる!!」

ドゴオ!!

穂乃果「うわあ!?!」ゴロンゴロンゴロン

ゴチン！

穂乃果「い……………たい…」ガクツ

—————

穂乃果「最初は散々だったなあ……」シミシミ……

穂乃果「……よし、今日もいくよ!」グッ

グンッ!

……ヒュウウウウ!!

穂乃果「……はあ!!」バツ

ドガア!!

穂乃果「ツグ……!!」ズズズズ……

穂乃果「……もう一回!」グッ

グンッ!

別の日

穂乃果「そういえば希先輩って……その、関西にいたんですか?」

希「……ああ、この喋り方？」

にこ「しかもちよつと……いや、かなりエセなのよね」

花陽「何か訳があつたり？」

希「これには浅くない訳があるんよ？」

ピクツ

希「聞きたい？」

花陽「い、いえ！大丈夫です！」

希「まあ話すつもりはないけどね！」

にこ「そんなことだろうと思つたわ……」ハア

絵理「あら？でも一年生の自己紹介の時は標準語だったような……」

希「あ、あ……！！！！も、もうこんなに時間が経つてるー!!」

希「練習いこ！練習！」

海未「急にどうしたのですか？」

希「どうもせんよ!?!突然時間が惜しくなっただけ!!」

花陽「ちよ、ちよつといいですか？」

花陽「あの、凜ちゃんのことなんですけど」

穂乃果「凜ちゃんがどうかしたの？」

花陽 「実は……凜ちゃん」

花陽 「ちよつと口調を変えようとして……」

穂乃果 「口調?」

花陽 「いつも、えーつと……今とは少し違う喋り方で……猫、みたいな」

ことり 「絶対可愛い」 キツ

海未 「ことり」

花陽 「小さい時、猫と話そうとせずと云つてたら定着したみたいで……」

にこ 「でもそんなの聞いたことないわよ?」

花陽 「高校生になる前に聞かれたんです」

花陽 「凜のこの話し方おかしいと思う?」

花陽 「その時私はそのままがいいって言っただけ……」

—————

凜 「うう……わかったに……よ」

—————

海未 「ああ…… あれはそういう……」

絵里 「まあ誰にでもそう言う時期はあるものね」

希 「あんまり触れてあげんほうがええんやない?」

にこ「つまり希もあまり触れて欲しくない」と……

希「なんか言った？」

にこ「いえべつに……」

花陽「そ、そうですね。ごめんなさい……」

海未「……花陽はどうしたいのですか？」

花陽「わ、私は……」

花陽「……」

花陽「前の凜ちゃんに戻って欲しいです」

花陽「今の凜ちゃん……無理してるのがみていて辛くて」

海未「なら、その道を信じて背中を押してあげてください」

海未「幼馴染とはそういうものです」

ことり「やーん、海未ちゃんかっこいいー!!」

穂乃果「うーみちやーん!!」ダキッ

ことり「ことりもー!」もぎゅ

海未「は、離れてください2人とも!!」

にこ「ほんつと騒がしい……」

希「ええやんええやん、こんな楽しい部活他にないよ？」



絵里「本当にね」

花陽「えへへへ」

穂乃果「でも口調を変えるか……」

ことり「なんだかイメージつかないね」

「そう? 私は結構つくけどね」

「!?!」

海未「こんな感じですよ」

穂乃果「い、一瞬誰が喋ったのかわからなかったよ……!」

ことり「ことりはやっぱりいつもの海未ちゃんがいいな!」

海未「ええ、変えるつもりもありませんよ」

穂乃果「えへへへ!」

穂乃果「も一回ギュー!」

ことり「ギュー!」

海未「……………」

海未「……………はあ」ギユッ

穂乃果（こうして、あつという間に試合の日となった）

海未（初めての試合、怖くないといえは嘘になります）

ことり（みんな今日までしつかりと集中して練習できた）

絵里（そのことに自信を持っていればきつと大丈夫）

花陽（が、頑張ります！）

希（今日は思いっきり楽しみたいな）

ここ（につこにつこにー！あなたの………）

角間「さーてやってまいりました音の木坂!!今日はなんとここでUTX高校と練習試合だー!!!」

ここ「あんた誰よ!!」

角間「私角間と言います!!音の木坂の試合は全て私が実況させていただきます!!!」

((((キャラ濃!!)))

ちなみに女子です

「「「「嘘お!」」」」

フミコ「穂乃果ちゃーん!」

ヒデコ「来てやったよー!」

ミカ「数合わせだけど一生懸命やるからね!」

穂乃果「ありがとう三人とも!!」

花陽「凜ちゃん!今日は頑張ろうね!!」

凜「うん!楽しみだに……ね!!」

海未「それで、対戦相手はどこに……?」

ことり「お母さんによればもうすぐ来るらしいけど……」

希「……ね、あの大きなリムジン……」

絵里「まさか……高校生よ?」

にこ「あんたら知らないの? UTX高校は移動全部リムジンなのよ?」

にこ「どうしよ……サインもらおうかしら」

花陽「ああ……!!この目でこの瞬間が観れるだけでももう悔いはありません!」

にこ「あ、あんた……この光景のありがたみがわかるのね!!」

花陽「矢澤先輩もですか!」

にこ「にこでいいわ!花陽!」

花陽「はい!にこ先輩!」

花陽「さあ、この瞬間を」

「目に焼き付けましょう!!」

「こんなの……サッカーじゃない…!!」

花陽 「さあ、この瞬間を」

「目に焼き付けましょう!!」

??? 「……」 スタスタスタ

にこ 「あれがA—RISEのうちの1人」

穂乃果 「A—RISE?」

花陽 「チームの中で特に強い3人のことです!」

花陽 「そのパスは機械のごとく1センチのズレも許さないほどの技術の持ち主」

「精密機械の統堂エレナ」

穂乃果 「あの2人どうしたの?」

希 「やらせたって、まさに水を得た魚状態やから」

凜 「凜はこっちのかよちゃんも好きだよ」

??? 「……」 スタスタスタ

にこ 「あれがA―R I S E 2人目」

花陽 「大人の魅力でファンクラブも存在するという」

「セクシー担当優木あんじゅ」

絵里 「なんか雑じゃない？」

ことり 「え、絵里先輩……」

バサア……！

穂乃果 「マント!？」

穂乃果凜希 「かっこいいーーーー!!!」

??? 「……………」スタスタスタ

にこ 「そしてリーダーでありキャプテン」

花陽 「一時期はイカサマとまで言われたボール支配力」

「支配者綺羅ツバサ」

にこ 「……………」ハアハア

花陽 「……………」ハアハア

にこ 花陽 「ガシッ

穂乃果 「いい友情だね」ウンウン

海未 「バカなんです」

凜 「やっぱり優木さんだけ雑なような」

穂乃果 「たしかに1人だけ見た目だもんね」

絵里「でもあのツバサって人、なんかオーラあるわね」

海未「同じリーダーでも穂乃果とは大違いですね」

穂乃果「ひどいよ海未ちゃん！」

花陽「穂乃果ちゃん穂乃果ちゃん！」

ことり「向こうの人が挨拶に来たみたいだよ？」

ツバサ「どうも、音の木坂の皆さん」

ツバサ「リーダーの綺羅ツバサよ」

穂乃果「はじめまして、リーダーの高坂穂乃果です！今日はよろしくお願いします！」

ツバサ「ええ、よろしく」ニコッ

ツバサ「そっちは全員揃ってる？」

穂乃果「はい！これで全員です！」

ツバサ「……そう」

ツバサ「それでは、いいゲームにしましょうね」スタスタスタ



凜 「なんだか感じのいい人だね」

花陽 「うん！」

ことり 「なんだか凄みがあったね…」

穂乃果 「大丈夫だよ！日頃の練習の成果を出しきればきつと！」

穂乃果 「行くぞー！」

「「「おー!!」」」

ツバサ 「はい、まだ現れていないようです」

ツバサ 「そもそもサッカー部にもいないようですし……」

ツバサ 「はい……はい」

ツバサ 「……!？」

ツバサ 「………」 ギリツ

ツバサ「……わかりました」ピッ

ツバサ「あんじゅ、エレナ」

あんじゅ「ええ」

エレナ「だいたいの話はわかった」

ツバサ「……やるわよ」

あんじゅ「……わかってるわ」

エレナ「ああ……」

真姫「……………」ザッ

角間「さー！ 始まりました音の木坂V S U T X 高校!!」

角間 「いったいどんな試合になるのか私今からドキドキが止まりません！」

F  
W

絵里、にこ

M  
F

希、ことり、海未、花陽

D  
F

ヒデコ、ミカ、凜、フミコ

G  
K

穂乃果

海未 「とりあえずフォーメーションはこれでいきます」

花陽 「わ、私がMF!？」

凜 「かよちゃん遠いにゃ……」

「ここにはFW向きじゃないんだけど……」

海未「それはまた修正していきましよう」

穂乃果「みんなー!!しまつてこー!」

ピーーーーー

角間「さあ試合開始のホイッスル!音の木坂ボールで試合がスタートします!」

絵里「ん?」タッタッタ

海未「これは……」

角間「おーつとこれはどうしたことだあ!?!UTX陣営全く動かないー!!!」

穂乃果「?どういうこと?」

「ここ」そのまま決めなさい!絵里!

絵里「え、ええ!!」

絵里「いくわよ!」

ツバサ 「止めなさい」

D F I            タタツ

シュバツ!

絵里 「あ……!」

花陽 「なにあれ……」

ことり 「速すぎるよお……」

D F I            ドツ

ツバサ           トツ

ドキュウツ

!!!!!!!

穂乃果 「………へ？」

ドギユルルルルルル  
!!!!!!

海未「穂乃果!!」ダッ

ことり「穂乃果ちゃん!」ダッ

凜花陽「穂乃果先輩!!」

角間「ゴーーーーール!!!」

角間「なんとという事だあ!!!綺羅が蹴ったボールはそのままキーパー高坂ごとゴールへ  
突き刺さったあ!!!」

ツバサ「……」

穂乃果「うう……」ヨロツ

にこ「大丈夫?穂乃果」

希「あんなにシュートが速いなんて……」

絵里「それにDFも……なによあれ」

穂乃果「ご、ごめんねみんな!!」

穂乃果「次は絶対止めるからみんなは点を取ることに集中して!」

海未「……」

絵里「穂乃果……」

にこ「ほら、さつさといくわよ!」

ピーーーーー

にこ「絵里!」ドツ

ツバサ「あんじゅ」

あんじゅ「命令しないで」ダッ

角間「音の木坂ボールでスタート……あーつと!!いきなりボールを奪ったA—R—I

S E 優木!!」

あんじゅ「ほっ」ドキユウツ!!

ギユウウウウン  
!!!!!!

凜「!?」

ドガア!!

凜「うわああ!!!」ドサツ

花陽「凜ちゃん!」

角間「これはパスマミスかあ!? 敵チームの星空にボールが当たり再び優木の元へ戻って  
いったあ!!」

花陽「今わざと……!」

にこ「……」ギリツ

海未（観客もほとんどいないからやりたい放題、という事ですな）



ことり「普通に戦っても強いはずなのに……」

あんじゆ「……………」

希「いつまでも好きにはさせへんよ！」ダッ

あんじゆ「……………」スウ                    ハア

ツバサ「……………！」

エレナ「……………」

あんじゆ「……………ボールが欲しいの？」ドッ

希「え？……………わっ」と」ポン

角間「優木何故か相手の胸元に優しくパスウ!?それを東條柔らかくトラップ……………」

あんじゆ「落とさないでよ？」クルツ

希（これ、やばっ……………逃げ……………）

絵里「希!!」

あんじゆ【ジャツジスルー!】

ドゴア!!!!

ポヨン

希「うわあああ!!!」ドサッ

ことり「希先輩!」ザッ

あんじゆ「……」

希「えっへへ……」ムクリ

角間「これは東條無傷だー!!!」

にこ「その憎つたらしい脂肪の塊のおかげで助かったんでしょ」

凜「あー……」

希「えっへん」

希「……ゲホッ」ズキズキ

絵里「希……」

あんじゆ「……」

あんじゆ「ねえもういい?」ドッ

ツバサ「ええ」トッ

角間「いつのまにか綺羅がゴール前に上がっていたあー!!!これは完全にフリーだあ

!!」

ツバサ「あんじゆ、エレナ」ダッ

あんじゅ「任せなさい」ダッ

エレナ「ああ」ダッ

角間「ボールを受け取った綺羅と優木と統堂が並んでゴールへ向かっていくー!! いったいどうするつもりだー!?」

ツバサ「デスゾーン、開始」

海未「穂乃果!!」

ことり「気をつけて!」

ツバサ           グルグル

あんじゅ       グルグル

エレナ           グルグル

ギユオオオオ!!

ドキュツ  
!!!

ツバサあんじゅエレナ【デスゾーン!!】

ゴオオオオオオオオオオ!!!!!!

角間「これはすごい!必殺シユートだー!!3人の回転で蓄積させたパワーが一直線に音の木坂ゴールへ向かっていくー!!」

穂乃果「止める……!!」ザッ

穂乃果「はあああ!!!!」バツ

ドシユウウウウウウウウウウ!!!!!!!

角間「決まったー!!A—RISE早くも2点を先制いーー!!!!」  
穂乃果「あ……うあ……」ドサッ

海未「穂乃果あ!!」

ことり「穂乃果ちゃん!」

花陽「そ、そんな……」

凜「コレが……サッカー？」

凜「こんなの……サッカーじゃない…!!」ギョツ

希「えりち……」

絵里「ええ……」

絵里「……」スウ

絵里「みんな聞い……」

にこ「あんたたちなに塞ぎ込んでんのよ!!」

絵里「にこ……」

にこ「穂乃果、海未、ことり、あんたたちが集めたメンバーよ」

にこ「自信を持ちなさい」

穂乃果「にこ……先輩」ヨロツ

穂乃果「……うん、そうだよね」

穂乃果「みんな!まだまだ試合は始まったばかりだよ!」

穂乃果「諦めなければきっと勝機はある!」

凜「先輩……!」

凜（先輩が一番ボロボロなのに……）

海未「……」

海未「絵里先輩」

絵里「なにかしら？」

海未「お願いが……」

ピーーーーー

角間「試合開始わずか数分で2点を失った音の木坂、ここから逆転なるかー!？」

絵里「行きなさい！」ドッ

海未「ありがとうございます」トッ

角間「コレはどうしたことだー!!! デイフェンダーの園田が前線に上がってきたあ!!! この作戦が吉と出るか凶と出るか!!!」

海未「穂乃果のカタキ!!」タッタッタッ

にこ「穂乃果死んだみたいね」

穂乃果「死にかけだけでも……」

ツバサ「そんなに必死になって面白い人ね」

海未「どいてください！」

ザッザッ      ガッ      ザッ      ザッ

角間「コレは激しい攻防!!両者一步も譲らない!!」

希「すごい……」

凜「海未先輩ってちゃんと上手だったんだ」

花陽「り、凜ちゃん!」

ツバサ「……………」

海未「……………ここ!!」バッ

角間「抜いたー!! 園田、綺羅を抜き敵陣へ切り込んで行くー!!!」

ことり「やったー海未ちゃん!!」

絵里「……………そんな」

海未「あ……………あれ？」ザツ

ツバサ「あら」

ツバサ「落し物よ？」トツ

角間「!!!こ、これぞ綺羅ツバサの真骨頂!! 選手すら欺く圧倒的テクニック!! 取られて

いたことに一瞬気がつきませんでしたあ!!」

ツバサ「ボールが欲しいんですけどしょ？」

海未「つく……………!!」

ドゴオ!!!

海未「ウグウ……………!!!」ドサツ

絵里「海未!!」

ツバサ「あなたもよ」ドツ!!

バシイ!!

絵里「つが……………!!!」ドサツ

ツバサ「……………」ドツ



ツバサ「……まだかしら」キョロキョロ

あんじゅ「こないんじゃない？」トツ

チラツ

花陽「ひい……！」ビクッ

ドオツ!!!

にこ「花陽!!」バツ

バシイッ!!!

にこ「あああ……!!!」ドサツ

花陽「にこ先輩!!」

あんじゅ「………」ザツ

ドツ!!ドゴオ!!ドシュウウ!!ドオツ!!

ヒフミ「ウワアア!!!」ドサツ

凜「いつ……!!!」ドサツ

花陽「きやああ!!」ドサツ

ことり「ふぐう……!!!」ドサツ

希「み、みんな……」ズキイン

希「うぐ……」ドサツ

角間 「こ、これは!!!音の木坂陣営に立ってる選手は高坂のみ!!!」

あんじゅ 「大丈夫よ彼女も同じにしてあげるか……ら!!!」 ドシュツ!!

穂乃果 「止める……!!!」

フミコ 「ああああ!!!」 バチィ

穂乃果 「フミコ!!!」

あんじゅ 「…!!!」

ドサツ

ピピーーーーー

角間 「おおーっところだけで人がです!!しかしここで控えの選手がいない音の木坂!!!このまま十人での続行となるのか!？」

フミコ 「リ、リーダーが倒れちゃ……ダメでしょ」

穂乃果 「フミコ……」

真姫「……………」グッ

—————

父「真姫、我が家でサッカーはしてはいけないんだ」

父「このボールは処分しておこう」

まき「いや！やめてパパ!!」

母「ごめんね真姫ちゃん……」

母「新しいピアノ買ってあげるから」

まき「ピアノは今のやつでいいから捨てないで！お願い！」

父「それ以上わがまま言うならピアノも捨てるぞ」

まき「!?」

母「あなた、それは流石に……」

まき「ごめんなさい……………いい子にするから……………ピアノは捨てないでえ……………」グスグス

父「……………すまない真姫、大人になってくれ」

まき「ご、こえんなさい……………」グスグス

—————

真姫「パパ……………ママ……………」

真姫 「ごめんなさい」

真姫 「この状況を見過ごすぐらいなら、私はまだ子供でいい」ザッ

「止めなきや気が済まない!!」

UTX高校のラフプレーになすすべなく倒れこむ音の木坂の面々  
そんな中、グラウンドの外から静かに歩み寄る人物が……

角間「換えの選手のない音の木坂は十人で……おお!? いったい誰でしょうか!!  
グラウンドにだれか入ってきました!」

ツバサ「……」ニツ

あんじゅ「はー、よかった」

エレナ「もういいんだろ?」

ツバサ「ええ」

あんじゅ「というかエレナ何もしてないじゃない!」

エレナ「……」

あんじゅ「無視……!?!」

絵里「だ、だれ？」ヨロツ

にこ「あ、あんた……!!」

真姫「怪我で抜けた人のところに入らせてください」

海未「……この有様を見てそう言えるんですね」

希「なんやおもしろそうやん」

凜「あー!!西木野真姫ちゃんだに……だ!」

花陽「同じクラスの……」

真姫「生徒会長、あなたのことは知っています」

絵理「それは嬉しいわね」

真姫「作戦があるんですけど……」

絵里「わかったわ、教えて」

にこ「……私とポジション交代よ」

海未「にこ先輩がそういうなら……」

ピーーーーー

角間「十一人目に西木野真姫が入り試合続行!! UTX高校ボールからスタートです  
！」

あんじゅ「お手並み拝見ね」

ツバサ「行くわよ、あんじゅ、エレナ」ダッ

エレナ「ああ」ダッ

あんじゅ「任せて！」ダッ

グルグルグル

ツバサ あんじゅ エレナ 「デスゾーン！」

ドゴオオオオオオオオ

!!!!!!

タツタツタツ

タツタツタツ

ツバサ 「なっ!？」

エレナ 「どういうことだ？」

角間 「おおーっ?!? 西木野と絢瀬がボールを無視して敵陣に突っ込んでいくー!! 勝負を捨てたのかー!？」

穂乃果 「……」 グッ

エレナ 「私たちのシユートが彼女が止めると思ってたの行動か」

ツバサ 「……」

あんじゅ 「……」 クルクル

エレナ 「無視か……」



真姫「シユートへの流れですが……絶対の前提条件は敵のシユートを止めること  
す」

穂乃果「!」

凜「あんなシユートを……?」

ことり「いくらなんでもそれは……」

穂乃果「無理?」

ことり「い、いや!そういうことじゃ……」

海未「できますか?」

穂乃果「……確証はないよ、でも……」グツ

穂乃果「止めなきや気が済まない!」

絵理「ふふ、さすがリーダーね」

真姫「止めた後は……」

海未「穂乃果……」ギユツ

ゴオオオオオオオ!!!

花陽「……………」

花陽「ねえ凜ちゃん」

凜「なあに？」

花陽「凜ちゃんは どうして無理して変わろうとしてるの？」

凜「へ!? べ、別に凜は……………」

凜（き、気づかれてる……………さすがかよちんだね）

花陽「わかるよ……………幼馴染だから……………」

凜「だ、だって子供っぽいし……………変だよ」

花陽「実は私ね、みんなに言っちゃったの」

花陽「凜ちゃんが口調を変えようとしてるって」

凜「なっ……………!?!」

花陽「みんなどんな反応したと思う？」

凜「絶対変な目で……………」

花陽 「それがどうしたの? って顔してたよ」

凜 「そ、そんなはずない……!!」

花陽 「凜ちゃんがどう思ってるかはわからないけど、私たちは待ってるよ」

花陽 「凜ちゃんが勇気を出してくれること」

凜 「……」

花陽 「無理して変わらなくなるといいんだよ」

凜 「……!」

ゴオオオオオオ!!!

穂乃果 「……」

絵里海未にこ 「穂乃果!」

ことり希 「穂乃果ちゃん!」

花陽凜 「穂乃果先輩!」

ヒフミ「……………！」ギユツ

穂乃果「……………」グツ

穂乃果（何だろこの感じ……………）

穂乃果（力が湧いてくるっていうか……………）

穂乃果（みんなが信じてくれるからかな）ググググツ……………

真姫「あの人……………まさか本当に」

ツバサ「……………あれは」

穂乃果「はあああああ……………」バツ

ゴオオオオオオオオオ！！！！

ドゴオオオオオオオオオ！！！！



角間「なんと高坂、UTX高校の必殺シユートを止めたあ!!!」  
ツバサ「なに今の……マジン？」

海未「穂乃果あああ!!!」ダー!

ことり「穂乃果ちゃああん!!!」ダー!

花陽「次は……凜ちゃんの番だね」グツ

トン

凜「あ………!」ザッ

穂乃果「海未ちゃん!」ドッ!!

ポーン!

あんじゅ「……シユート止められて終わりなんて……」

あんじゅ「させない!!」ダッ

エレナ「あいつ……目的忘れてないか？」

ツバサ「全く……」

海未「つく！」ザッ

海未（取られる……!）

凜（……無理して変わらなくていい、そんな一言で……）

シュバツ!

凜「いただきだにやー!!!」トンッ

凜（こんなに心が軽くなるなんて!）

あんじゅ「なっ!？」

花陽「……………」ニッ

希「凜ちゃん……………」

にこ「あいつあんなに速かったの!？」

ことり「自分を変えようと無理していたことがストッパーになってたみたいだね」

凜「や、やった…………!!」ズザザザッ!

MF2「つち……………」タツタツタツ

ツバサ「あの子まで……………」ハア

凜(…きた…………!!)

—————



凜 「大きく蹴らずに……細かく……」 ザザツ

凜 「慣れると速くなるから丁寧……」 ザツザツ

凜 「ふーっ……疲れたー！」 ドサツ

凜 「なんで凜……サッカーの練習なんてしてるんだろ……」

凜 (陸上部に入るつもりなのに……)

凜 「というかドリブル難しすぎるよ……」

凜 「バク転とかは普通にできるのになあ……」 タツタツタツ

クルクルツ、バツバツバツ！ スタンツ

凜 「……」 フーム……

凜 「というかこれでドリブルすればいいんじゃない……！」

凜 「……」 ザツ

凜「早速……」タツタツタツ

クルクルツ、バツバツバツ！スタンツ

凜「！できた！」

凜「………ボール置いてきちやっただけど……」

凜「ん………ここまで激しい動きは無理なのかな……」

凜「じゃあもうちよつと抑えつつアクロバットな動きを入れながら……」ザツ

—————

凜（あれから一回もできなかつただけど……）

凜「今ならできる気がする！」タツタツタツ

MF2「はあ！」タタタツ

花陽「凜ちゃん!!」

凜 ニツ

凜「いづくにやああ!!!」ザツ

グウン!ダツ!グルツ、スタツ

MF2 「なっ!？」

角間 「こ、これは素晴らしいドリブルだあ!!」

真姫 「あれほどアクロバティックな動きをしつつあのキープ力……」

海未 「アクロバット……ドリブル……」ブツブツ

希 「……アクロバットキープ……といったところかな？」

海未 「……!!」ガーン

穂乃果 「凜ちゃん!!」

海未 「やりましたね」

ことり 「にやーつていうの可愛すぎない？」

ここ 「そこ!？」

花陽 「えへ……えへへへ」グツ

真姫「生徒会長へ!!」

凜「う、うん!」

凜「先輩!」ドッ

絵里「任せなさい!」トッ

—————  
真姫「敵のデیفエンダーはみんな一流です、普通にシユートを打っても途中でブ  
ロツクされる可能性が高いです」

真姫「そこで……」

絵里「……」

絵里「なるほど、じゃあそれはあなたに任せるわね」

真姫「……いいんですか?」

絵里「ええ、頼んだわよ」

—————

G K 「……」グッ

絵里「吹き荒れる……」

パキパキパキパキ

穂乃果凜ことり「か、カツコいい……」

ぶるる

にこ「なんだか……寒くない？」

希「これが……エリチが氷の女王と言われる所以」

絵里【エターナル・ザリザード!!】ドツ!

ドゴオオオオオオオ

!!!!!!

エレナ「こんなやつ……データにないぞ……!」

あんじゅ「目的ってあの赤髪の子だけじゃなかったの!？」

G K「……………」

D F 1「させない！」バツ

エレナ「目的忘れてるやつが多すぎだ……………」

あんじゅ「うぐ……………」グサツ

ツバサ「自覚はあったのね」

角間「おおーつとお!! 絢瀬の必殺シュートの前にD Fが立ちふさがる!! 直接止める気だお!!」

絵里「残念ながらあなたはお呼びじゃないの」

ギユウウウン!!

角間「絢瀬が放った必殺シュートは明後日の方向へー!!! これはミスショットかあ

!?  
」

タツタツタツ

真姫 「流石ね、完璧よ」フツ

真姫 「そこで……………」

角間 「ボールの先には西木野——!!!!これは……………」

真姫 「シュートチェインをしようと思います」

角間 「シュートチェインだああ!!」

真姫 「……………」グッ

テクテク

まき「う……うー……グスツ」グスグス

お爺さん「お、真姫ちゃん、どうしたんだ？」

まき「パパが、サッカーしちや、ダメって……」グスグス

まき「どうしてしちやダメなのかなあ……」

お爺さん「……さあな」

まき「私、もうサッカーできないの？」ポロポロ

お爺さん「ならウチでこっそりやればいい」

まき「……いいの？」グスツ

お爺さん「ああ、思う存分やりな」

—————

ダンツ！

グルグルグルグル

真姫「キツ

真姫【ファイア・トルネード！】



ゴオオオオオオオアアアア  
ツバサ「……へえ」  
!!!!

G K「……!」バツ

ドシユウウウウウウウ  
!!!!!!

角間「決まったー!! 絢瀬と助つ人西木野による連携シユートで一点をもぎ取りまし  
た!! これで試合はどう動くのでしょうか!!」

「」「」「やったああああ!!」「」「」

穂乃果「すごかったよ凜ちゃん絵里先輩! 西木野さん!!」

ことり「うん! 凜ちゃんかわいい!」

海未「よくぞ取ってくれました……!!」

希「氷の女王復活やね」

絵里「ちよつ……やめなさいよ!」

花陽「凜ちゃん……」

凜「なんだかスッキリしたにや」エヘヘ

真姫「……」

にこ「何辛気臭い顔してんのよ」

真姫「!?べ、別にしてないけど!!」

にこ「……やるじゃない」バシッ

真姫「……」クルクル

プルルルルル

ツバサ「……はい、はい、……承知しました」パタン

ツバサ「音の木坂の皆さん」

ツバサ「今日は帰ります、それでは」

ザッザッザッ

海未「ちよ、ちよつと!!」

穂乃果「なんだか嵐のような試合だったね」

ことり「これって結局どうなるの？」

角間「こ、これはあ!!! A—R—I—S—Eが棄権したことにより……音の木坂の勝利となります!!!」

凜「やったあ!凜たちの勝ちー!」ピヨンピヨン

花陽「勝ったって言えるのかなあこれ……」

真姫「……じゃあ、私は帰ります」スタスタ

にこ「あ……ま、真姫!!」

真姫「……」ピタッ

にこ「えと……その……」

にこ「明日も来なさいよ!」

真姫「……!」

真姫「……」ペコツ      スタスタスタ

絵里「ふーっ……なんとか終わったわね」

絵里「ね、のぞ……」

ドサツ

絵里「の、希？」

「サッカーを嫌いにならなくてよかった」

絵里「の、希？」

絵里「……ねえ、どうしたの希!!」

海末「そういうえば希は1人だけ技を受けましたし……」

あんじゅ「ジャツジスルー！」

ことり「そのダメージが今……」

凜「そ……そんな……!!」

凜「おっぱいは……」ガクツ

にこ「……万能ではない……」ガクツ

花陽「2人ともふざけてる場合じゃないよお!!」

希「や……く……たい……」

絵里「なに!?なんて言ってるの!?!」

希「焼肉……食べたい……」



「ここでしょ？」

海未「ふふふ、2人にはお見通しでしたか」

「ここ「あつたりまえでしょ！……ていうか……」

「ここ「ちよつとあんたら！こいつ運ぶの手伝いなさいよ!!」

「ここ「ただでさえこいつ人より重いもんぶら下げてんだから協力ぐらい……」ワシッ

穂乃果「ワシ？」

「ここ「あ………」ガタガタガタ

希「そんなこと言うにこつちには……」

「ワシワシMAX~~~~!!」ワシワシワシ！

「ここ「いやあー!!!」

海未「ほんと元気ですね」

ヒデコ「……うん、いい感じだね」ピッ  
フミコ「じゃあ送るね」  
ミカ「素直じゃないよね」

凜「焼肉美味しかったにやー!!」

希「うちも満足満足!」ぽんぽん

にこ「何人前食べたのよってぐらい食べてたからね……」

海未「明日の練習は無しにするので皆さんしっかり休んでくださいね」

「「「「はーい!!」」」」

にこ（真姫に連絡しておかないとね）



バイバーイ!

サヨナラ〜

ゾロゾロゾロ

希「いやー美味しかったなあ」テクテク

絵里「満足してくれてよかったわ」テクテク

希「太つても知らないわよ?」

絵里「うち太りにくい体質なんよ」

希「まあ栄養の行き先は一目瞭然だからね……」

希「うぐぐぐ……」

ガシツ

希「え、なに?」

絵里「あなたは」

希「なになにに怖いって!うちを路地裏に連れ込んでなににする気なん!」

希「同人誌みたい……同人誌みたいにするつもりなんやろ……!!」

希「なになにに怖いって!うちを路地裏に連れ込んでなににする気なん!」

希「同人誌みたい……同人誌みたいにするつもりなんやろ……!!」

にこ「静かにしなさい！警察来ちやうでしようが!!」

絵里「あなたの行き先は薬局よ」

希「……あ」

にこ「気づかないと思ったの？」

絵里「ほかのみんなも気づいてたわよ」

にこ「みんなが使ってってほら」

ジャラジャラ

にこ「どれだけ買う気なのって感じよね」

希「みんな……」

グウウウウ

「……………は？」

希「えへへ……実は痛みであんまりお肉食べれんかったんよね」

希「気抜けたらお腹すいて来ちやつた」

絵里「怖い……初めて食欲で人が怖いと思った……」ブルブルブル

にこ「この世の真理を超えてるわあんた」

希「ついでに夜食も買ってこっかなー」

ここ「はあ、もういいわ……」

絵里「夜のお店ってドキドキするわね！」

ここ（こいつ、学校で生徒会長してる時と違って……）

希　　ッ

トントン

絵里「なに？」クルツ

絵里「え、誰もいない……!?」ピクツ

絵里「ああああ……!!!希いい!!」ガタガタ

ここ（……ポンコツ？）

希宅前階段

希「ほんとに皆優しいなあ……」トントン

希「……」ウルツ

希「あかんあかん！一人になったらすぐ感傷的になる！」ブンブン！

希「えーつと……鍵は……」ガサゴソ

希「あつた！」

ガチャン！

希「ん？なにこれ？」ガサツ

希「ドアノブに袋が……」ガサガサ

希「湿布に……塗り薬？」

希「いったい誰が……」カサツ

希「……！紙が入ってる」

「めんなさい」

希「……」

希「……まさかね」

にこ「全く……あいつの食欲には呆れさせられるわ……」ガチャツ  
にこ「ただいま……？」  
にこ（………何か忘れてる気が……）

翌日

部室前

真姫「……行け……行くのよ西木野真姫……！」ウロウロ

真姫「……！」ピタッ

真姫「……」スウ ハア

コンコン

シーン…

真姫「………？」

コンコン！

真姫「………」

ドンドンドン！

真姫「…なるほど」

真姫「誰も居ないじゃない!!」ポツーン

## 第2話 「尾刈斗高校?」

理事長 「突然ですが、再び練習試合を行います」

穂乃果 「ほんとですか!？」

理事長 「UTX高校に勝ったことでかなり注目されているようですよ」  
にこ 「正直ありがたいわね」

穂乃果 「今度はどこの学校ですか？」

理事長 「尾刈斗高校よ」

にこ 「お、尾刈斗お!？」

穂乃果 「にこ先輩知ってるんですか？」

にこ 「あそこはね……」

凜 「すびりちゅあるばわー？」

希「そうそう」

花陽「そ、それって……」

希「噂では呪いにかかって金縛りにあうとか……」

絵里ことり花陽「きゃー！！」ガクブル

ことり「……って」

花陽「生徒会長も怖いのが手なんですわ……」

絵里「そ、そんなはずないじゃない！冗談よ、冗談！」

にこ「呪いなんて嘘に決まってるでしょ」

海未「そそそそですよ！オカルトなんて馬鹿馬鹿しい」ガタガタ

穂乃果「海未ちゃんうるさい」

希「それがあながち嘘でも……」

コンコン

絵里「？誰かしら」

穂乃果「どうぞー！」

???「失礼します……」ガラガラ

希「お」



花陽「西木野さん!」

ことり「いらつしやあい!」

ここ「……………」ソローリ

真姫「……………矢澤先輩」ギロツ

ここ「ヒイ!!」ビクツ

絵里「……………に何したの?」

海未「またですか…」ハア

穂乃果「やっちやいましたねにこ先輩」

ここ「何よあんたたち!!」クワツ!

真姫「……………明日来なさいって言った……………」

ここ「……………ええそうね……………」ダラダラ

真姫「行ったら…誰も居なかった」ポロポロ

ここ「ちよ、ちよつと!」アタフタ

希「うわーにこっちサイテー」

ことり「罪だね」

穂乃果「やっちやいましたねにこ先輩」

ここ「ほんとに何よあんたたち!!」

にこ「た、だいたい、休みつて海未が決めたんじゃない！」  
にこ「には悪くないわ」

海未「あ、ことり新しい髪留め買ったんですね」

ことり「さつすが海未ちゃん、よく気づいたね！」

にこ「海未いい!!!」

真姫「まだ部員は募集してますか？」

穂乃果「もちろんだよ！」

ことり「入ってくれるの!？」

花陽「西木野さん！」

真姫「う…あ…と…」ビクッ

真姫「しょ、しょうがないから入ってあげるのよ!!勘違いしないで!!」クルクル  
希「お手本のようなツンデレ……」

にこ「でもあんた……」



真姫「そのつもりよ」

真姫父「……そうか」

真姫「……」

真姫父「頑張れよ」

真姫「!？」

真姫父「……」ペラッ

真姫「な……反対してたんじゃ……ないの？」

真姫父「……まあ座れ」

ストン

真姫父「どこから話すか……そうだな」

真姫父「私の父……真姫にとってはお爺ちゃんになるか」

真姫パパ「父はサッカーが嫌いだった」

真姫「……!」

真姫父「私の将来の夢はサッカー選手だったが……まあそういうことだ」

真姫「じゃあ……私も？」

真姫父「ああ……父は自分の孫がサッカーをしているのが我慢ならなかったんだろう

な」

真姫父 「私が弱かったばかりに……真姫にまで迷惑をかけてしまった……」 スツ

真姫 「パ、パパ!」

真姫父 「すまなかつた」

真姫 「……」

真姫 「あの頃は本当に悲しかったし訳がわからなかつた……」

真姫 「でも、ある人のおかげでサッカーはできた」

真姫父 「……お爺さんか？」

真姫 「……!知つてたの？」

真姫 「……まさか……パパが？」

真姫父 「ああ、私の時も世話になつた」

真姫父 「真姫の時も電話をしたら、二つ返事でOKしてくれたよ」

真姫 「そっか……. そんな昔から」

真姫父 「父が死んでも、お前にサッカーやっていいなんて……言えなかつた」

真姫父 「虫が良すぎると思つてな……」

真姫父 「そして……おじいさんも亡くなつた時、真姫は遂にサッカーをする場所がな

くなつた」

真姫 「…….」

真姫父「だからまた……サッカーを始めてくれて本当に嬉しい……」グツ  
真姫「……………」

真姫父「お前が今日打ったシュートな」

真姫「……………うん！」

真姫父「私よりすごいシュートだったぞ」ポンツ

真姫「……………」パアア！

真姫父「その調子で頑張れ、真姫」ナデナデ

真姫「うん！パパ！」

真姫ママ コソツ

真姫ママ（よかったわね、真姫ちゃん!!）ダー！

……………

にこ「……………訳は聞かないでいてあげる」

真姫「そうしてくれると助かるわ」

真姫「はいこれ、入部届です」

穂乃果「うん！確かに受け取ったよ！」

ことり「わぁ……!!」

希「これで正部員は八人かぁ」

絵里「だんだんらしくなって来たわね」

真姫「そういえばさつきそこで……えーと」

真姫「この前試合に出てた……ショートカットの……」

花陽「凜ちゃん!!」

真姫「多分その子が入部届持ってグラウンドの周りでウロウロしてたわよ」

花陽「どうしたんだろ……やることがあるから先に行ってて言ったのに……」

ことり「凜ちゃん……サッカー部入らないのかな……」

希「グラウンドってことは……陸上部?」

穂乃果「……ちよつと穂乃果行ってくる!」ガラッ

海未「あ、穂乃果!!」

絵里「無理やりはダメよー!」

穂乃果「えーつと……このへんにいるはず……」キョロキョロ

凜「……………」ウロウロ

穂乃果「あ、いた！」

穂乃果「おーい！凜ちやーん!!」ブンブン

凜「ほ、穂乃果先輩!？」ダッ

穂乃果「ちよ、ちよつと!!なんで逃げるのさ！」ダッ

凜「少し一人にしてください!!」タツタツタツ

穂乃果「入部届けだしてくれたいよ！」タツタツタツ

凜「そのことで一人にしてくださいって言うてるんです！」タツタツタツ

穂乃果「なんで!!」タツタツタツ

凜「なんでもです！」タツタツタツ

穂乃果「答えになってないよ！」ダッ

凜「!!」ダッ



河川敷

カアー

カアー

カアー

凜「……ゴホツ、ゲホオツ！」ゼエゼエ

穂乃果「し……死ぬ……」ガクガク

凜「まさか……ゴホツ、こんなとこまで来ちやうなんて……」ドサツ

穂乃果「びつくり……ハア、だねえ……」ドサツ

凜「自業……自得ですよ……」フウ

穂乃果「凜ちゃんは……なんで迷ってるの？」フウ

凜「！」

凜「……なんでわかつたんですか？」

穂乃果「迷ってなかつたらあんなどこでウロウロしてないよ」アハハ!

凜「……正直に言おうと……」

凜「サッカー……楽しかったんです」

穂乃果「でも自信が持てない？」

凜「……試合で相手を抜いた時……」

凜「サッカーっていう競技への見え方全てが変わりました……」

凜「苦手意識はなくなって、もっとやりたいと思いました」

凜「でも……」

穂乃果「でも？」

凜「今更サッカー始めても……きつとみんなの足を引つ張つちやう……」

凜「それだけは嫌なんです」グツ

凜「みんな……いい人たちだから」

穂乃果「大丈夫だよ、希先輩も初心者だし！」

凜「と、東條先輩は上級生だから……」

穂乃果「……」

凜「……」ムクツ

凜「……」

凜「中学の頃は、高校でも陸上部に入るつもりだったんです」

凜「だから、みんなに迷惑かけるぐらいなら……陸上やろうかなって」

凜「でも…サッカーも諦め切れなくて…」

凜「結果あんなところでぐるぐる回ってた…ってことです」あはは…

穂乃果「……………」

凜「……ハアアア」ドサツ

凜「……………」

凜「かよちんの付き添いでサッカー部へ行って……………少し強引に体験入部して……………勝手に自主練して……………試合で……………」

凜「なんでこうなっちゃったのかなく……………」

穂乃果「……………」

凜「………先輩」

穂乃果「……………」

穂乃果「なあに?」

凜「……凜は……………」

凜「どうすればいいですか?」

穂乃果「……………」

穂乃果「ひとつだけはっきり言わせてもらうね」ムクツ

凜「は、はい……………」

穂乃果「凜ちゃんはまだ初心者だし、初めのうちは練習や試合で周りに迷惑かけちゃうかもしれない」

凜「じゃあ……やっぱり陸上部に」

穂乃果「でもそれでいいと思う」

凜「そ、それじゃあダメで……」

穂乃果「……」スクツ

凜「先輩？」

穂乃果「はじめのうちはミスなんて怖がらなくていい、一度も失敗しなくて成功した人なんていないんだから」

凜「でも……」

穂乃果「凜ちゃんがどう思っているように……」

穂乃果「私たちは凜ちゃんとサッカーがしたいよ」

凜「っ……!!」

穂乃果「だから！」むいー

凜「ふえ、ふえんふあい!？」むいー

穂乃果「ここまで言っただから」パツ

凜「うう……」ヒリヒリ

穂乃果「凜ちゃんの口からも聞きたいな」

穂乃果「凜ちゃん……」スツ

穂乃果「私たちと一緒に、サッカーしませんか？」ニコツ

凜「……」

凜「……やりたい」

穂乃果「……」

凜「不器用だし、サッカー始めたのもついこの間で、走るのだけが取り柄だけど……」

凜「この……」

凜「サッカーを好きだって気持ちは本物だにや！」ガバツ！

凜「これからかける迷惑は自分で取り戻すから……」

凜「メンバーの一人にしてください…!!」バツ

穂乃果「……」ニコッ

穂乃果「喜んで！」ガシッ

凛「体験入部に来ましたー!!」ガラッ

花陽「凛ちゃんノック……」

穂乃果「いらっしやーい！」

ことり「お菓子あるよー！」

海未「餌付けしない」

希「にこつちと凛ちゃんどつちが……」

にこ「どこの話してるのよ！」

絵理「大丈夫、凛にはまだ成長期が残ってる」

にこ「だからどこ見て言ってるのよ!!!」

—————

凜（……冷静になると、なんだかすごく恥ずかしいことしてる気分……）

子供「まーあれー」

母親「これぞ青春ね！」ポロポロ

子供「うわぁ……」

次の日 休日練習日

穂乃果「というわけで！」

凜「新入部員の星空凜です!!」

花陽「凜ちゃあぁあ!!!」ダキッ

凜「うぐっ……!」

真姫「吹っ切れたみたいね」

凜「えへへ、西木野さんも入ったんだね」

真姫「まあね」

絵里「凜……」ホッ

希「いやー、凜ちゃんが入らんかったらどうしよってにこつちがうるさくてうるさくて」

にこ「なにでつち上げてんのよ!」

凜「え……入らない方が……良かったですか……?」シユン

にこ「ち、ちが……!……もー!」

にこ「……入らないんじゃないかって心配だったのよ……入ってくれて嬉しいわ」

希「ヒューヒューにこつち男らしー」

ことり「にこ先輩も大概ツンデレだよね」

海未「全くです」

にこ「あんたらそういうこと言うのやめなさいよ!」

にこ「特に希い!!」ダッ

ヤメテー! マテー! チョットシズカニシテクダサイ!



凜「えへへ……!」

凜（やっぱりこの部活でよかったにや!）

真姫「そういえばこの間部室のドアノブにこんなものがかかったんですけど」ガサツ  
希「!!」

希（家にかかっていたのと同じ袋……!）

絵里「薬局の袋ね……」

にこ「中身はなんなの?」

海未「これは……!」

ことり「消毒液に湿布、塗り薬に絆創膏」

花陽「それも全部一回り高いやつですわね……」

穂乃果「いったい誰がこんなもの……」

希「あ……あんな……」

海未「まあ誰かはわかりませんがくれると言うのならありがたく頂戴しましょう」

ことり「うん！この前の試合でいっぱい怪我しちゃったから……」  
にこ「次戦うときはめつためたにしてやるんだから！」

花陽「い、いいのかな……」

凜「いいんじゃないかにや？」

希「……皆、ちよつと……」スッ

海未「どうしたのですか？」

希「これ……」ガサツ

花陽「これ……！」

ことり「同じ薬局の袋だね……」

にこ「なーんだ、あんたが買ったやつだったの？」

絵里「それならそうと言ってくれればよかったのに」

希「違うんよ、これ家のドアノブにかかって……」ガサガサ

希「これ見て」スッ

穂乃果「どれどれ？」

凜「ごめんなさい？」

にこ「……どういふこと？」

ことり「これが希先輩の家にあったってことは……」

絵里「希に対する謝罪ってこと?」

海未「そして部にも置いてあるということは……思い当たるのは一つだけですわね」

花陽「A—R—I—S—E……」

にこ「……な訳ないじゃない」

にこ「あいづらは私たちを潰しにかかったのよ?」

にこ「希なんて技まで食らったんだから」

凜「!だから東條先輩へは家にまで……」

「「「……」」」

穂乃果「穂乃果は信じるよ」

にこ「はあ!?!」

穂乃果「あの人のシュート受けたからわかるんだ!」

穂乃果「芯が通ってて、まっすぐで綺麗なボールだった」

穂乃果「きつと何か事情があったんだよ」

にこ「あんた……」

希「うちも信じるよ!」

ことり「希先輩……」

花陽「わ、わたしも!」

花陽「私は……ずっとファンだったから」

花陽「信じたい！……です」

凜「凜も凜も！」

海未「この文字に嘘があるとは思えません」

海未「わたしも信じましょう」

ことり「ことりも！」

絵里「まったく……いいわ、わたしも信じる」

にこ「……何よ、これじゃあにこが悪者みたいじゃない」

希「にこっちはいつだってヒールがお似合いやけどね」

にこ「なんですって!!」

にこ「……はあ、いいわ、にこも信じる」

にこ「……ファンだしね」チラッ

花陽「……!はい!」コクコク

穂乃果「次会ったとき本当のことを聞いてみよう！」

海未「そうですね」

凜「少し怖いにや……」

花陽「うん……」

希「大丈夫、いざという時は助けに入るよ」

絵里「ええ!」

希「にこつちが」

にこ「なんでよ!!」

希「え、助けへんの?」

にこ「ああもうめんどくさい!!」

絵里「あ、そうだ」

「[[[[?]]]]」

絵里「……ね、希」

希「ん?……ああ〜」

穂乃果「どうしたの?」

絵里「ええーつと……. その…」

絵里「……にこ!」

にこ「はあ…….」

にこ「話変わるけど、練習で私たちに気使ってるやついるでしょ」

ことり花陽穂乃果 ギクツ

にこ「あんたは違うわよ穂乃果あ!!」

穂乃果「えへ」

絵里「これが試合だったら重大なミスになりかねない」

希「そこで！」バンツ

「三年生先輩禁止令を出します!!」

海未「先輩禁止令……ですか？」

にこ「ええそうよ、私たちに敬語もいらなし呼び捨てでいいわ」

にこ「さあ花陽、呼んでみなさい」

花陽「え?え?」

にこ「せーの!」

花陽「に、にこちゃん!」

にこ「ワンモアセイ!」

花陽「にこちゃあん!!」

にこ「よろしい」

凜「めっちゃめっちゃ強引だにやー」

穂乃果「それならにこちゃん!」

にこ「なによ」

穂乃果「」コク

ことり海未「」コクリ

穂乃果「ここに！」バン!

ことり「二年生も！」ババン!

海未「先輩禁止令を立てます!!」バババン!

絵里「じゃあもうみんな先輩なしってことね」

希「ゆつくりでええからね」

穂乃果「う……う絵理ちゃん！」

絵里「な、なに?穂乃果」ビクウツ

穂乃果「えへへ、呼んでみただけ!」ニヘラア

絵里「ねえ希、この子持って帰っていいかしら」

希「落ち着いて」

絵理「大丈夫、ちゃんと育てる」

希「サイコパスやん」

花陽「こ、ことりちゃん!」

ことり「はい♪」

凜「海未ちゃん！」

海未「はい！」

真姫「……………」

ここ「あつれ〜？真姫は恥ずかしいのかな〜？」

希「さあさあ呼んでみ？」

絵里「うわあ……………」

ことり「親戚のおじさんで似た人いたなあ」

凜「お酒飲むとあんな感じになるよね」

真姫「えと……………」

真姫「希……………にこ、ちゃん……………」

ここ「ちよつとお!!なんでにこだけちゃん付けなの!？」

希「まあ見てみ、真姫ちゃんの耳」

ここ「耳？」

真姫「……………」真っ赤っか

ここ「はっはっは〜ん！」

ここ「真姫ってば恥ずかしかったんだ〜」



「ここに「ごめんね〜?」

「ここにこつてば全然気づかぶへエ!!」ドサツ

「ここにみぞおち……」ガクッ

希「これはにこつちが悪い」

## 「試合までの色々」

無事に凜が入部し、UTXを信じると決めた音の木坂一同

先輩禁止令を定め、みんなが少しづつチームとして歩み寄ろうとしていたとき、穂乃果がふと小さな疑問を口にした

穂乃果「そういえばこの前の試合前にこちゃん、あれなんだったの？」  
にこ「あれ？」

穂乃果「にっこにっこにー！」

穂乃果「つてやつ」

花陽「私も気になりました！」

海未「あれ、なんの意味があるんですか？」

にこ「あーあれは……」

希「にこっちの夢はアイドルなんよ」

絵里「アイドル!？」

凜「確かに一部の層に受けそうだなや」

ことり「凜ちやくん！お口チャツク♪」

真姫「で、考えついたのが……」

穂乃果「穂乃果もう一回見たい!!」

にこ「…しようがないわね〜!」

にこ「いくわよ？」スウ

にこ「にっこにっこに〜!あなたのハートににこにこに〜!笑顔届ける矢澤にこにこ  
〜!」

にこ「にこにこに〜って覚えてラブニコ!!」

穂乃果「おお……」

海未「……これは……」

ことり「すごい……」

希「にこつちメンタル強いなあ」

絵里「……ハラショー……」

花陽「フムフム」カキカキ　　サッカーニハコウイウコトモヒツヨウ

凜「ちよつと寒くないかにや？」

真姫「気持ち悪い」ズバツ

にこ「ちよつと後半二人!!」

穂乃果「それって誰が考えたの？」

にこ「ちつちやい時からバ：お父さんに教えられてきたのよ」

にこ『笑顔の魔法だ!』ってね」

海未「素敵なお父様ですね」

にこ「ええ……いいお父さんだったわ」

希「!」

ことり「あ……あー!ことりクツキー焼いてきたんだけど食べる？」

穂乃果「食べる食べる!」

凜「やったにやー!」

にこ「……!」

ことり　　パチツ

にこ（ありがと……）スツ

海未「……」

海未「つて穂乃果！みんなの分も食べてはいけません！」

穂乃果「ふえ？」モゴモゴ

にこ「あー！私も食べようと思ってたのにい！！」

希（ふふ……）

希「うちも入れてー！」

希「つてもうない！！」ガーン

「真姫ちゃんにとっては一大事」

真姫「……………おかしい」

穂乃果「真姫ちゃん！ピアノ聴きに来たよー！」  
ことり「真姫ちゃんおかし持って来たよお〜♪」  
海未「真姫、新しい練習メニユーの件ですが…」  
希「真姫ちゃんは可愛いな〜」なでなで  
絵里「真姫、イクラってロシア語なのよ」  
にこ「真姫〜、喉乾いた〜」

真姫「……………」

お昼休み

凜「かよちゃんほつぺにご飯粒ついてる」

花陽「あ、ほんとだ。ありがと凜ちゃん！」

真姫「……………」モキュモキュ

花陽「西木野さん、そのお米食べていい？」

凜「西木野さん！トマトあげる！」

真姫「……………」ゴックン

真姫「なんでよ!？」

花陽「ごめんなさい!!」

凜「トマトの気分じゃなかった？」

真姫「いや、トマトはもらうわ…」

凜「えへへ、あーん」

真姫「あー…………」パクっ

真姫「……………」モキユツモキユツ

真姫「……………」ゴックン

真姫「……………」美味しい

凜「それ田舎のおばあちゃんから送られて来たんだ！」

真姫「ああ、どうりで……………」

花陽「凜ちゃん家の野菜とっても美味しいんだよ！」

真姫「へー」

真姫「……………」

真姫「じゃなくて!!」

真姫「その……………」

真姫「……………わたしは名前で呼んでくれないの?」

花陽「えつと……………私たちも思ってたんだけどね」

凜「タイミング逃しちやったなーって……………」

真姫「じゃあ今から……………ね!」

凜「えー、でも凜たち……………恥ずかしいなー」チラツ

花陽「!わ、わたしも……………!」

真姫「し、白々しい!!」

凜「ああ……………!!恥ずかしい!」バツ

花陽「は、恥ずかしいー」バツ

真姫「くくく!!わかつたわよ!」

真姫「……………」スウ　　ハア

真姫「……………」

真姫「り、凜……………花、陽?／／／／／カアアア

「……………」

真姫「ちよ、ちよつと!なにか……………」



凜 「真姫ちゃんかんわいいにや〜!!」ダキッ

花陽 「ごめんねええ!! 可愛いよお真姫ちゃん!」ダキッ

真姫 「ヴェエエエ!! 抱きつかないで!」

凜 「そんなこと言いつつ顔はニッコニコだにや」

花陽 「ピユアだね」

真姫 「もう勘弁してえ!」

「廃校予告!」

花陽 「た、たいへんですう〜!!」ガラッ

にこ 「廃校になるかもしれないわ!!」

凜 「後輩がいないなんてやだにや〜!!」

真姫 「静かでもいいじゃない」クルクル

凜 「真姫ちゃんは黙ってるにや〜!」わしやわしや

真姫 「うええええ…!?」ボサア

にこ「ちよつとみんな聞いている……の」

穂乃果「美味しい〜！」ハグハグ

ことり「今回のマカロンは自信作なんだあ〜！」

海未「穂乃果、そんなに食べるまたお腹が痛くなりますよ」

海未「練習前なのでそれからほどほどにしてください」

希「まあまあ海未ちゃん、美味しいものは食べたい時に食べるのが一番よ？」パクツ

絵里「そのとうりよ」サクツ

絵里「ハラショー！美味しいわ！」

ことり「えへへ、ありがとう！」

にこ「待て待て待てー!!!」バンツ！

フワツ

ことり「マ、マカロンが……!!」

シュバツ            サササツ

トツトツトツトツ

凜「……っふー、危なかつたにやー」

ことり「ありがとうお凜ちゃん！」ギユツ

凜「お…落ちる…！マカロン落ちる…！！」プルプル

穂乃果「もーにこちゃん！せっかくのマカロンが台無しになるところだったよ！」

希「そーだそーだ！」

にこ「ご、ごめんなさい…」

にこ「……………」

にこ「いやいやおかしいにこは悪くない！」

絵里「今日のにこは怒りっぽいわね……………」

絵里「カルシウムとったほうがいいわよ、イチゴミルクいる？」スツ

にこ「あ、ありがとう」ジュ……………」

にこ「じゃなくて!!」ベシツ

絵里「私のイチゴミルク!!」

にこ「あんたらどうしてそんなに……………」

海未「に……………」

にこ「入ってくんじゃないわよ!!話を進めたいの!!」

海未「ご、ごめんなさい……………」ビクツ

海未「わ……………私は、説明を……………しようと」ウルウル

にこ「あ……ご、ごめん海未、ついカツとなっちゃって」

海未「は、はい……」グスッ

希「なーかしたーなーかしたー！」

凜「せーんせーにー言ったーろー」

にこ「……」イラア

バシイ!!

希凜「おぶち……!!」

にこ「つまりみんな知ってたのね」

花陽「これが生徒会長の権力……!!」

絵里「た、たまたま聞いちやっただけよ!!」

凜「これを手中に収めたのは大きいにや」

希「せめていないとこで言おうね凜ちゃん」

穂乃果「凜ちゃん花陽ちゃん真姫ちゃんのためにも、廃校を阻止するぞー!!」

一同「おーー!!」

# 「尾刈戸高校と練習試合!!」

角間 「さあーて！やってみりました練習試合！今日の相手は尾刈斗高校だあ!!!」

角間 「この試合の実況も、角間、角間がお送りいたしまあああす!!!!」

角間 「両者整列完了しました!!」

ヒデコ 「フミコ変わろつか？」

フミコ 「いやいいよ。それより、絶対勝って来てよ！」

ミカ 「フミコの分も頑張るよ！」

ヒデコ 「うん！」

花陽 「こわいよお……」ブルブル

海末 「花陽、相手がなにをしてくるにしても同じ高校生です」

海未「心配することはありません」

穂乃果「物陰から出てきてくれたらもつと説得力あるんだけどね海未ちゃん」

花陽「海未ちゃん整列だよお!!」

凜「希ちゃんのスピリチュアルパワーで倒せないの?」

希「うちのパワーはそこまで万能じゃないからなあ」

にこ「にこにこーパワーでイチコロにこ!」

凜「ちよつと寒くないかにやー?」

にこ「ぬわぁんですつてえ!」

ことり「三人とも、サツカーの話だよね!」

絵里「あら?真姫、緊張してるの?」

真姫「まさか……いや、少ししてるわね」

絵里「フフフ、この試合も期待してるわよ」 スッ

真姫「そつちもね」 スッ

パチン!

幽谷「あれが西木野と絢瀬か」

地木流 「あの二人以外は雑魚ですよ」

穂乃果 「今日はよろしくお願いします!」

地木流 「……………ああ、西木野さんと絢瀬さんによろしくとお伝えください」

花陽 「ムウ……………」

海未 「……………ちよつと聞き捨てなりませんね」

凜 「凜たちもいるにゃー!」

地木流 「他のザコはせいぜい二人の邪魔をしないようにしてくださいね」

真姫 「……………ツチ」

絵里 「感じ悪いわね」

ことり 「おやつにしてやる……………」

穂乃果 「ちゅんちゅん!」

海未 「悪ノリしない」

にこ 「ちよつとみんなく? 顔が怖いにこ」

にこ 「……………」

にこ 「ぶつ潰すわよ  
!!!!!!」

「「「おーーーーー!!!」」」

希（アイドルがしてはいけない顔をしているので自主規制）ピーーーーーー

F W

絵里、真姫

M F

希、海未、ことり、にこ

D F

ヒデコ、ミカ、凜、花陽

G K

穂乃果



ピーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー

角間 「さあ！試合開始のホイッスル!!」

幽谷 「いくぞ！」ドッ

黒上 「おう！」トッ

黒上 「どけどけー！」タッタッタッ

角間 「黒上ドリブルで上がっていくー!!!」

海未 「させません！」バッ

黒上 「木乃伊！」ドッ

木乃伊 「……」トッ

角間 「尾刈斗木乃伊に綺麗なパスが通った!!顔が包帯でぐるぐるですが怪我ではない  
とのことですのでご安心を!!」

穂乃果 「花陽ちゃん！凜ちゃん！マークついて！」

凜 「まかせるにや！」タッタッタッ

花陽 「……………」

角間 「おおーっとこれはどうした!?!小泉が全く動かなああい!!!」

ことり「花陽ちゃんどうしたの!？」

花陽「……………です」

穂乃果「え？」

木乃伊「甘い」バツ

凜「にゃ!？」

幽谷「素人に止められるかよ！」

角間「木乃伊抜けたー!!音の木坂開始早々ピーンチ!!」

花陽「……………」カタカタ

花陽「あの人……………怖……………いんです」カタカタ

凜「かよちゃん……………」

ここ「……………まあ……………」

希「包帯でグルグル巻きの人間が走って来たらなあ……………」

木乃伊「……………」ドッ

黒上「いくぜ!!」トッ

ヒデコミカ「気をつけて!!」

黒上「いつけええええ!!!」

黒上【ファントムシユート!】

ドキュウウウ!!

穂乃果「負けないよ!」

穂乃果【マジン・ザ・ハンド!】

ドゴオオオオオオオオ  
!!!!

シユルルルル………!

穂乃果「……よし!」

黒上「な、なに!?!」

ことり「やったあ穂乃果ちゃん!」

花陽「あれ【マジン・ザ・ハンド】って名前になったんだ」

凜「かつこいいにゃ〜!」

ヒデコ「穂乃果！矢澤先輩フリーだよ！」

にこ「よこしなさい！」

穂乃果「……………」

ドツ!!

花陽「…………へ!？」パシッ

にこ「…なっ」

ミカ「ちよ、穂乃果！なんで先輩に渡さないのさ！」

穂乃果「花陽ちゃん！」

花陽「は、はい！」

穂乃果「大丈夫、怖くないよ！」

花陽「え、え？でも……………」

凜「かよちゃんかよちゃん……………」コソッ

花陽「……………ん？」

凜「海未ちゃんより怖いものつてある？」

—————

海未「花陽！こんなところで弱音を吐いていたら日が暮れてしまいますよ！」

花陽「で、でもお……………」

海未「まだまだ先は長いんですから、急ぎますよ！」

花陽「流石に……………」

花陽「……………」スウツ

花陽「流石に富士山なんて無理だよお〜!!!」ダレカタスケテー!

海未「今日中に登り切ります！」

海未「山頂アタックです！」

—————

花陽「…………あ、あああ…………!!」ガクガク

絵里「?どうしたのかしら」

真姫「さあ」

幽谷「DFにパスするなんてな、奪っちまえ！」

木乃伊「……………」ダツ

ことり「花陽ちゃん!来てるよ！」

花陽「う…………う海未ちゃん…………より…………怖いものなんて…………」

花陽「ない!!!」ザツ　　ザザザツ　　ダツ

木乃伊「……………」ガクツ

角間「小泉が木乃伊を華麗なドリブルで抜いたあああ!!!」

海未「いいですよ花陽!」

花陽「海未ちゃんのおかげだよ!」ドツ

海未「?それは…… どういたしまして……?」

希「ほっ」トツ

角間「ボールは東條へと移った!!攻撃の起点になるのかあ!」

希（誰にパスしよかな…）チラツ

真姫「……」タツタツタツ

鉦「!西木野をマークしろ!」

希「……ふふ」タツタツタツ

希「エリチのマーク甘すぎやん?」ドツ

鉦「…… なに……!」

絵里「……」トツ

絵里「吹き荒れろ……」

パキパキパキパキ

絵里【エターナルブリザード！】  
ドキユウウウ  
!!!!!!

鉦「つく!!」バツ

ドシユウウウ……!!!!!!

角間「ゴーーーーール!!!!!!先取点は音の木坂です！尾刈斗鉦は反応しきれなかったあ!!!!」

絵里「……ふう」

真姫「やるじゃない」スツ

絵里「どういたしまして」パチン

凜「見かけほど大したことないにやー!」

海未「油断は禁物ですよ」

尾刈斗0—1音の木坂

ピ—————

ドツ

角間「さあ尾刈斗ボール！ここからどう攻めていくか！」

にこ「はあ!!」ガッ!

円谷「しまった！」

角田「これは矢澤！すぐさまスライディングでボールを奪い取ったあ!!」

にこ「絵里！」ドツ

絵里「ええ！」トツ

幽谷「ダイフェンス!!」



絵里「吹き荒れる……」  
パキパキパキパキ

不乱「……！」バツ

絵里「……………」ニツ

絵理「真姫！」ドオツ！

真姫「ナイスパス！」トツ

角間「ま、まさかー!? 絢瀬のシュートを囮に使ったあ!!!! 敵を引きつけ手薄になった西  
木野にパスがとおったあ!!!」

凜「いけー! 真姫ちゃん!」

にこ「二点目いただきよ!」

鉈「次は入れさせん」ユラユラユラ

真姫「……………」

希「!!真姫ちゃんあかん！」

真姫「……………」

真姫「ふっ！」ダンツ!

グルグルグルグル

真姫「……………」うっ……………」

真姫「……………」キッ

真姫「ファイアトルネード！」  
ドキユウウウ！」

鉦【歪む空間】ユラユラユラ

シユルルルルルル ポスッ

角間「と、止めたあ!!! 尾刈斗鉦今度はしつかりボールをキヤツチイ!!!」

真姫「なっ!?!」スタツ!

絵里「そんな…」

花陽「真姫ちゃん「ファイアトルネード」が…」

希「……………やっぱり」

ことり「希ちゃん何か知ってるの?」

希「いや、何か嫌な予感がしただけ」

希「でもあれどこかで……………」

にこ「もったいぶらずに教えなさいよ!」

希「いやいやほんまに思い出せんねんって!」

凜「だいじょーぶ！多分まぐれだにや！」

にこ「そう、たまたまよ、たまたま」

希「……………」

にこ「……………」ハア

にこ「氣い引き締めていくわよ!!」

「「「おー!」」」」

絵里【エターナルブリザード!】

ドゴオオオオオオ!!

鉦【歪む空間】 ユラユラ

ヒュルルルル…………… ポスツ

絵里「どうして……………」

凜「さつきは決まっていたのに……………」

「ここにここからが本番ってわけね……!!」

## 「オカルトサッカーの真骨頂」

決まっていたシュートがなぜか決まらなくなってしまった音の木坂  
尾刈戸高校の攻撃は止まらない

にこ「ここからが本番ってわけね……!!」

地木流「まったく……」バサッ

地木流「調子に乗ってんじゃねえぞザコども!!」

ことり「ヒッ!!」

花陽「きゅ、急に怒鳴らないでください……」

地木流「マーレーマーレーマレトマレ、マーレーマーレーマレトマレ……！」

凜「な、なにあれ？」

真姫「もしかすると……呪いかもね」

絵里「いやああ!!!」

希「……？」

穂乃果「みんな来てるよ！」

角間「これは尾刈斗高校、五人で並んで敵陣へ突っ込んでいく!!ボールを持っているのはセンターの幽谷だあ!!」

ここ「センター……」ピクッ

ことり「行かせない！」

ここ「止めるわよ！」

ぐにやああん……………

ことり「あ、あれ？」ゴシゴシ

にこ「…!?!」ゴシゴシ

角間「これは尾刈斗高校！巧みなフォーメーションチェンジで敵を惑わしていくー  
!!」

ぐにやああん……………

にこ「いや……………これフォーメーションチェンジってレベルじゃ……………」

ことり「顔がぐにやくんってなつて……………誰が誰だか……………」

穂乃果「にこちゃんは包帯の子、ことりちゃんは向こうのキャプテンをマークして!!」

にこ「え、ええ！」バツ

ことり「任せて！」バツ

ヒデコ「な……………にこ先輩!?!」



ミカ「ことりちゃん違う!!」

にこ「ちよ……!!」ザッ

凜「にゃ!」ザッ

にこ「なんで……」

ことり「あれ?」ザッ

花陽「ヒィ!!」ザッ

ことり「どういふこと……?」

角間「どうした音の木坂!!仲間同士でマークしあってしまったああ!!」

角間「この隙に尾刈斗高校どんどん上がっていく!!!」

希「……」タッタッタッ

幽谷「これで終わりじゃないぜ」

地木流「マーラーマーラーマレトマレ……見せてやれ!お前たちの力を!!」

幽谷「ゴーストロック！」

ブワアアアアアアアアアア!!!

凜「……ん!?!」グツグツ

絵理「ひいひい!!!動かないいいいい!!!」グツ

海未「そんなバカな……」グツグツ

にこ「ちよつと!離しなさいよ!!」グツグツ

ことり「誰も掴んでないよお……」

花陽「す、すびりちゅある……」

穂乃果「ま、まずいよ……」グツグツ

幽谷 「あははっ！」 ドキユ!!

穂乃果 「つく……!!」

シユルルルルルルルルルル!!!

角間 「決まったああ!! 音の木坂動かない!! いや、動けない!!!」

角間 「これが尾刈斗高校の必殺タクテイクス!!」

角間 「ゴーストロックだあ!!」

花陽 「必殺タクテイクス……!!」

にこ 「こんなもので私たちが……」

幽谷 「ゴーストロック!」

ドシューウウ!!

ピーーーーー

角間「ここで前半終了のホイッスルウウウ!!!音の木坂まったく動けず二点を失いました!後半は逆転なるかあ!?!」

部室

ガンツ!!

にこ「なによあれ!イカサマジやない!!」

真姫「そんなに怒ってもしょうがないじゃない」

にこ「は!?!あんたは悔しくないの!?!」

真姫「問題はこういうタネなのか……でしょ？」

花陽「まさか、本当に呪いとか……。」

海未「そ、そんなの非常識です!!」

穂乃果「そうだよ!絶対タネがあるよ!」

絵里「そ、そうよ!呪いなんてバカバカし……。」

凜「あ!絵理ちゃんの後ろに何かいる!」

絵里「いやああ!!!希いい!!」ガシッ

希「オブウ……!!」ポキッ

穂乃果「希ちやああん!!」

凜「嘘!嘘だから!!落ち着いて!」アワアワ

にこ「凜ンンン!!」グワッ

凜「ごめんなさい!!」

絵里「だ、大丈夫……?」パッ

希「……。」

絵里「希?」

希「……あ!ごめん、考え事してた……。」

絵理「?」

尾刈斗2—1音の木坂

ピ—————

角間「さーて、後半開始しました!!音の木坂はこの現状を打開できるのかあ!？」

地木流「後半も同じだあ!!」

地木流「マーレーマーレーマレトマレ……」

絵里「もう嫌あ!!」パツ

にこ「ちよ、ちよつと絵里!」

角間「これは絢瀬!!耳を塞いでしまったああ!!こんなことで試合はできるのかあ!？」

幽谷「そんな状態のやつなんかに取りられるほどトロクねえよ!!」ダツ

絵里「ああ……!」ガクツ

幽谷 「いくぞ！」

幽谷 「ゴーストロック！」

ブワアアアアアア!!!

にこ「う、ごけない……」グツグツ

希 「なんで……!!」グツ

花陽 「うごいて、動いてえ……!!」グイグイ

凜 「本当にタネなんてあるのかにや……？」グツ

ことり 「ふええ……今日いいとこなしだよ……」グツグツ

海未 「くっ……!!まだ日頃の鍛錬が足りないと言うのですか……!!」グツグツ

穂乃果 「穂乃果が止まっちゃったら本当にまずいよ!!」グイグイ

絵里「隙あり！」ガッ…！

幽谷「なに!？」

「……………」

「「「「「え？」」」」」」

角間「こ、これはあ!! 絢瀬がゴーストロックの呪縛から逃れていたあ!! いったいどうしたのでしょうか!!」

真姫「あ、動ける」

ことり「どうして絵里ちゃんだけ無事だったんだろ……」

海未「一番怖がつていたはずでしたけど……」

にこ「そうよ! さっきだって耳塞いで縮こまってたくせに……」チエツ



凜 「にこちゃんいいとこ持っていていかれて拗ねてるにや〜」  
にこ 「拗ねてないわよ!」

希 「……………」

地木流 「マーレ〜マーレ〜マレトマレ…………」

角間 「これは巧みなフォーメーションチェンジでかわしていく!!」

絵理 「もういやあ!!」ガバツ

角間 「おーっと!耳を塞いで縮こまってしまったあ!!」

……………

!!!

希「……………そうか!!」タツタツタツ

にこ「何かわかったの?」タツタツタツ

希「とりあえず走りながら……………」

にこ「……………なるほど……………」

希「頼める?」

にこ「あつたりまえじゃない、にこを誰だと思ってるの?」

角間「あぁーっつと! 絢瀬自分で上がっていったがボールを奪われてしまったあぁ

!!」

絵里「だって誰も来てくれないんだもの!!」

幽谷「まぐれは2度は続かない!」

幽谷「ゴーストロック!」

ブワアアアアアア!!!

花陽「ぬぐぐぐ………」

ことり「え、絵里ちゃんなら……!」チラッ

絵理「エリチカお家帰るうう………」グスツ

ことり花陽「かかっているんかい!!」ピシッ!

角間「今度は全員がかかってしまったあ!!このままりードを広げられてしまうのかあ  
!?!」

幽谷「だからまぐれと言ったろ」スタスタ

穂乃果「ふん!ふん!」グイグイ



ビリビリビリ……!!!

幽谷〔……………シュート!〕

ドキュウウウ!!!

穂乃果「う、動ける!」パッ

穂乃果「とりや!」バシイ!

穂乃果「よし!」

角間「と、とおめたああああ  
!!!!!!」  
「なんと高坂、寸前でゴーストロツクを破りシユートを  
受け止めたあ!!」

花陽「やったね穂乃果ちゃん！」

凜「にこちゃん、いくら目立ちたいからってあれは……………」

にこ「な、なによ!!にこが破ったんだから!!」

にこ「もつと感謝しなさい!!」

ことり「にこちゃんが破った？」

海未「さつき叫んでいたのがそれですか？」

にこ「そうよ!」

にこ「詳しいことは……………希に聞いてちょうだい」

希「にこつち……………」ハア

希「要するにな、あれは催眠術やったんよ」

真姫「催眠術？」

希「相手の監督がブツブツ言ってるのと敵の巧みなフォーメーションチェンジ」

希「これらが合わさって目と耳がごちゃごちゃになったってわけ」

海未「なるほど…」

絵里「だから耳塞いでた時効かなかったのね」

凜「凜は今ので頭ぐちやぐちやだにや…」

花陽「凜ちゃん…」

穂乃果「さすがだね！希ちゃん！」

希「えっへん！」

にこ「ちよつと！破ったのはにこなんだからあ！！」

穂乃果「うんうんすごいすごい」

にこ「感情を込めなさいよ！！」

希「次も期待してるよ、にこっち」

ことり「タネがわかったからもう怖くないね！」

希「そっやね！」

希「……………でもちよつとおいたが過ぎるかな……………」

ことり「え？」

希「なんでもないよ！」

穂乃果「さあ！反撃開始だよ！」ブン！

ヒデコ「ほっ」トツ

ヒデコ「おねがい！」ドツ

ことり「よつと……」トツ

ことり「絵里ちゃん！」ドツ

絵里「ナイスパスよ」トツ

角間「これは鮮やかなパス回し！尾刈斗高校ボールに触れない！」

絵里「……真姫の分まで……決めてやる！」ダツ

真姫「……絵理!!」タツタツタツ

絵里「なに!!」タツタツタツ



真姫「相手の手を見ちゃダメ！」

絵里「手!？」

真姫「あれも催眠術よ！」

絵里「手の動きが催眠術………」

—————

希「…思い出した!!」

にこ「なにが？」

希「あの手の動き!この前本で見た！」

希「たしか……平衡感覚をなくすとかなんとか……」

ことり「それでシュートの威力を半減させて……!」

海未「つまりキャッチ自体は普通ということですね」

にこ「とか普段どんな本読んでんのよ……」

希「今すぐエリチに伝えて！」

真姫「わかった！」ダッ

—————

絵里「手を見ない…手を見ない…」

絵里「吹き荒れろ……………」  
パキパキパキパキ

鉦「無駄だ」ユラユラユラ

絵里【エターナルブリザード！】

ドキユウウウ  
!!!!

鉦【歪む空間】 ユラユラユラ

鉦「ぐはあ!!」

ドシユウウウウ  
!!!!!!

角間「きまったあああ!!! 鉦の必殺技を破りついに同点へこぎつけたあ!!!」

尾刈斗2—2音の木坂

ピ—————

真姫【ファイアトルネード!】

鉦【歪む空……】

鉦「ぐわあああ!!!」

ドシユウウウウウ  
!!!!!!

角間「先ほど止められた西木野もゴールを決めついに逆転しました!!」

地木流「そんな……………バカな……………」

尾刈斗2―3音の木坂

ピ……………

地木流「マレトマレ!!!」

幽谷「俺たちが…こんな弱小に……………」

幽谷「負けられるか!」ダッ

幽谷「ゴーストロック！」

ブワアアアアアアアアアア  
!!!

穂乃果「いくよみんな！」

穂乃果「せーの!!」

「「「「「につっこにつっこにー」」」」」  
!!!

パアアアアア  
!!!!

幽谷「くっ……!!」

幽谷「まだ試合は終わってない!!」ダッ

希「もう終わるよ」

幽谷「チツ……邪魔するな!」ザッ

幽谷「くらえ!」バツ!

幽谷【呪い】

ズズズズ

幽谷「はははは!これでお前は……つて……」

ズズズズツ……

幽谷「……なんで」

ズズズズズツ……!!!

幽谷「なんで俺に来るんだ!」

ズズズツ………

幽谷「やめ……やめろ……!! 来るな!!!」ガタガタ  
ズズズズ……

幽谷「う……ああ……」ドサツ

希「あーあー……」

希「人を呪わば穴二つ」

希「簡単に呪いなんて言うもんやないんよ」

幽谷「あ……ああ……」ガタガタガタ

希「相手が悪かったね」

テンテンテン……トツ

希「スピリチュアルやん？」

ピッ ピッ ピー……!!

角間「ここで試合終了のホイッスル!!! なんと勝利したのは怒涛の追い上げを見せた音の木坂イレブン!!」

角間「実況は角間でお送りしましたあ!!!!!!」

ありがとうございますましたああ!!

地木流「そ、それでは失礼して……」そそくさ

凧「ベーーーーーだっ！」

真姫「凧ダメ」

にこ「」シュッ

花陽「にこちゃんその手はまずいよお!!」

ことり「そういえば希ちゃん」

希「ん？」

ことり「結局最後ってどうなったの？」

凧「そうそう！なんかよくわかんなかったにや！」



希「向こうの人がミスしてくれたんよ、ラッキーってやつやね」

絵理「……なんか見てはいけないものを見てしまった気分だわ」

にこ「一番怒らせちゃいけないのはやっぱりあいっただわ……」

穂乃果「よーし！じゃあ今日の試合の打ち上げいこう！」

希「いいねー」

ヒデコ「あ、私たち今日もちよつとやることあるから……」

ミカ「楽しんできてね〜！」

穂乃果「今日もかぁ……」

海未「用があるのなら仕方ありません」

ヒデコ「それじゃあバイバイ！」タツタツ

フミコミカ「バイバイ！」タツタツ

ことり「バイバイ！」フリフリ

にこ「で、どこにする？」

凜「じゃあいいところ知ってるにや!!」

にこ「へー、なんてとこ？」

凜「雷雷軒!!」

## 第3話 「監督ゲットだぜ！」

見事尾刈斗高校に勝利した音の木坂、打ち上げの場所は凧が行きつけのラーメンと言  
うことだが……？

雷雷軒

凧 「おつちやーん！きたよー！」 ガラガラ

店長 「おお、いらっしやい」

海未 「このお店ですか」

ことり 「中思ったより広いね」

穂乃果 「初めてきたよ！」

真姫 「そうなの？てつきり何度も来てるかと思っただけど」

穂乃果 「これでも穂乃果女子高生だからね！」

穂乃果「学校帰りはクレープなんだ！」

絵里「そんな決まりはないと思うけど……」

にこ「え〜？にこー、こんなおじさんっぽいところ入れない」

希「穂乃果ちゃん！にこっち帰るってさ！」

にこ「ちよつと!!冗談に決まってるでしょ!？」

凜「おっちゃん八人いける？」

にこ「冗談つつつてんのよ!!」

花陽「は……白米が……!!白米がああ!!!」

花陽「食・ベ・放・題!!!」

花陽「幸せです〜!!!」ハグハグ

ことり「ブ、ブラックホール……」モニュモニュ

希「おっちゃん替え玉もう一丁!」ズルズル

凜「凜もー!」ズズズズ

海未「二人とも食べ過ぎ注意ですよ！」

希「凜二等兵！食べるのもトレーニングだ！」

希「決して手を抜くんじやないぞ！」

凜「はっ!!希隊長！」ズルズル！

海未「二人とも!!」

真姫「見てるだけで胸焼けしてくるわ……」パクツ

絵里「そういえば正式な試合に出るには監督がいるのよね？」ズルズル

穂乃果「そうなんだよねえ……」ハム

穂乃果「新しい必殺技も練習しなきゃなのに……」モキユモキユ

絵里「【マジン・ザ・ハンド】だけじゃダメなの？」フーフー

穂乃果「そんなに世の中甘くないんだよ絵理ちゃん……」ゴックン

店長「……………」

店長「……一人で止めるには限界がある」

絵里穂乃果「え……？」バツ

店長「……」ジュー

絵里「……一人で止めるには……」

穂乃果「限界……」

にこ「……ねえ穂乃果……」

穂乃果「なに？」

にこ「……」ゴニヨゴニヨ

穂乃果「それちよつと穂乃果も思つた」

絵里「なにが？」

穂乃果「店長さん！」ガタツ

店長「……」

穂乃果「私たちの監督になつてください！」

真姫「……!？」ブフツ

「「「はあああああああ  
!!!!?」」」

店長「いいぞ」

「「「えええええええええ  
!!!!?」」」

店長「ただし」

穂乃果「……」

店長「俺とのPKで勝つたらだ」

絵里「PKつて……」

凜「おっちゃんサッカーできるの!？」

店長「見くびつてくれるなよ、凜」

店長「これでも元キーパーだ」

凜「そのお腹ムグウウ!!」ムググ

花陽「それ以上はいけない」グググ

店長「俺の爺さんもキーパーだったんだ」

花陽「おじいさんも……」

店長「まあそれはいいとして」

店長「PKとはいったが俺は蹴るだけだ」

店長「この中でキーパーは誰だ？」

穂乃果「はいはいはい!!!」

店長「やっぱりか」

にこ「ちよつと穂乃果、本当に勝てるの？」

海未「というか、監督はこの方で大丈夫なのですか？」

絵里「多分大丈夫よ」

ことり「何か訳があるの？」

絵里「……勘？」

ズコーーーーー!!!

真姫「こ、これだけことをおおごとにしておいて……勘つて……」

にこ（まあ、あの一瞬でアドバイス出せるくらいだからかなりの経験者だと思うけど）  
店長「で、やるのか？ やらないのか？」

穂乃果「やります！」

海未「ほ、穂乃果……！」

花陽「本当にいいの!？」

凛「もしおつちやんが監督になったら練習終わりにタダでラーメン……」ブツブツ  
希「凛ちゃんストップストップ!!」

店長「食い終わったらそのキーパーだけ残ってくれ、詳しい日時を話す」

穂乃果「はい！」

店長「一対一の真剣勝負だ、観客はいらない」

海未「本当に大丈夫なのでしょうか……」

凛「ラーメン……無料……替え玉一丁……」ブツブツ



花陽「お願い凜ちゃん戻ってきてえ!!」

自宅

穂乃果「今日は勝負の日だからね、いつもと違う服で行こう！」

雪穂「んくアイス美味し♪」テクテク

雪穂「……ん？」チラッ

穂乃果「……うーん？」コレカナ、コレカナ

雪穂「なになに？おねーちゃんデート？」ニヤニヤ

穂乃果「デートよりも大事なことだよ！」

雪穂「……え」ポロっ

ドタドタ!!

オカーサーン！オネーチャンガーー!!!

穂乃果「よし、これで行こう！」

ケツコンスルカモシレナイ!!

アンタナニイッテルノ？

河川敷コート

店長「…やっときたか」

穂乃果「バッチリ勝負服できました！」

店長「他の奴らには言っていないな？」

穂乃果「はい！みんなは今日普通の練習の日です！」

店長「よし、じゃあまず準備運動だ」

店長「それからPK3本勝負」

穂乃果「てことは……」

店長「ああ、二本止めればお前の勝ちだ」

穂乃果「よーし！負けません！」パンツ

店長（……キーパーを見ればチームが見える）

店長（見せてみる、お前たちの力を）

海未「穂乃果はまだ家から出ていません」

ことり「ねえ海未ちゃん……これって」

凜「普通に犯罪だにやー……」

海未「勝負とあればいつもの練習着で行くはず、発信機を取り付けておいて正解でした」

希「海未ちゃん……エグい……」

絵里「愛がなせる技ね」

にこ「病的すぎるわよ！」

店長「じゃあいくぞ」ザッ

穂乃果「はい！」グッ

トッ タッタッタッ

ドキュッ!!

ゴオオオオ!!!

穂乃果「はあ……!!」バッ

バシイイイ!!!!!!

ズズズズ……!!

穂乃果「す、すごい……」

店長「どうした、もう限界か？」

穂乃果「ま……まだまだ!!」ポイツ

コロコロコロ トツ

店長「……………」タツタツタツ

ドキュウウウウ!!!!

ゴオオオオオオオオオ!!!!!!

穂乃果「…これ…………!!」

穂乃果（さつきより強い…………!!）

穂乃果「はぁぁ!!」バツ

バシイイイ!!!

穂乃果「…………つぐ…………!!」グググ…………

ギュルルルルル!!! バチイ!

穂乃果「きやぁ!!」ドサツ

ドシユルルルルル……!

穂乃果（入っちゃった……）

コロコロ……

穂乃果「……」ドツ

店長「なんだ、もう限界か」トツ

穂乃果「まだ……勝負は終わってない！」

店長「……これで一対一だ」

店長「止めてみる!!」ダッ

ドキユウウウウウ

!!!!

ゴオオオオオオオオオオ

!!!!

穂乃果「今までよりはるかに強い……」

穂乃果「……でも！」

穂乃果「まだ手はある！」バツ

穂乃果「はあああ!!!」グッ

穂乃果「………?」

店長（………?）

穂乃果（え、マジンが出ない………なんで）

穂乃果（待って、待って、ヤダヤダ…!!）

穂乃果（これ決められたら穂乃果の……）

……………!!

穂乃果（………負けたくない!!!）

穂乃果「はあああ!!!」

ゴオオオオオオオオ  
!!!!

店長「あれは……」

穂乃果（よかったあああ!!!）

穂乃果【マジン・ザ・ハンド！】

ドオオオオオオ……!!!

店長「……それが例の……【マジン・ザ・ハンド】か」

穂乃果「えっへへ！止めたよ二本！」

店長「ああ、約束どうりお前たちの監督になろう」

穂乃果「や………やったあー!!」



カー、カー、カー

海未「……………穂乃果出てきませんね」  
海未「みんなも帰ってしまいました……………」

ママーヘンナヒトイルー  
シツ！ミチャイケマセン！  
海未「……………穂乃果あ……………」ポツン

## 第4話 「公式戦スタート！」

無事雷雷軒の店長を監督に引き入れた音の木坂、挨拶もそこそこほとんどどのメンバーにとって初めての公式戦、第1回戦の相手が知らされた

店長「今日から監督になった」

監督「よろしく頼む」

「「「「お願いしまーす！」」」」

にこ「よくやったわね穂乃果」

穂乃果「頑張ったよ！」

海未「…いつたい…いつのまに…」ブツブツ

ことり「海未ちゃんあれからずっといたんだって………」

花陽「はらしょー………」

凜「海未ちゃんも大概やばいにやー」

監督「早速だが一回戦目の相手が決まった」

監督「野生高校だ」

にこ「野生高校……」

真姫「知ってるの？」

にこ「一年のとき当たったことがあるわ」

絵理「確か……」

にこ「ええ……もちろん惨敗よ」

ことり「そんなに強いんだ……」

凜「で、でも！こつちには【ファイアトルネード】も【エターナルブリザード】もあ

るんだよ？」

にこ「まあ最後まで聞きなさい」

にこ「その試合はこつちもそんなに良くなかったのよ」

にこ「チームがあんなだったからね……」

希「にこつち……」

にこ「でもそれ以上に……」

花陽「恐るべきはあの身体能力です」

絵理「身体能力？」

にこ「さすが花陽ね」

花陽「えへへ」

にこ「奴らは大会屈指の身体能力を持つてる」

花陽「特にすごいのが……」

にこ花陽「空中戦」

穂乃果「空中戦……」

にこ「あれをどうにかしないと真姫の【ファイアトルネード】も絵理の【エターナルブリザード】も止められてしまう可能性がある」

ことり「そ、そんな……」

真姫「異論はないわ」

絵理「私も」

凜「じゃ、じゃあどうするの!？」

穂乃果「ならやることは一つ!!」

にこ「新必殺技ね」

穂乃果「そのとおり!」

穂乃果「試合は3日後!」

「がんばるぞー!!」

「!!!!!!」

凜「にこちゃん今回珍しく真面目だったね」  
にこ「はっ倒すわよあんた」

### 練習後

穂乃果「んく……どうしよっか」

海未「結局それらしいのは出てきませんでしたね……」

ことり「高ーく飛ぶにも限界があるからね……」

穂乃果「あーあ、ゲームみたいに二段ジャンプができたらなあ……」

ことり「飛んでる亀さんを踏み台にしたりしてね♪」

海未「何馬鹿なこと言っ……」

海未「!!」

ことり「!!」

穂乃果「あく! あったねそんなのも!」

穂乃果「……? どうしたの?」

海未「ことり……気づきましたか?」

ことり「……うん」

穂乃果「き、気付いたって何が?」

穂乃果「……もしかして海未ちゃんのおやつ食べちゃったこと?」

海未「いえそれではなく……って」

海未「犯人はあなただったんですね!」

穂乃果「気づいたんじゃないの!」

穂乃果「騙すなんて最低だよ海未ちゃん!」

海未「なぜ私が怒られなければならないのですか!!」

海未「私が楽しみにしていたほむまんを……」

穂乃果「も、元々は穂乃果の家のお饅頭なんだから!」

海未「いつもあんこは飽きたと言っていたではありませんか!」

穂乃果「お腹すいてたんだからしょうがないじゃん!」

海未「まだ屁理屈をいいますか!」

海未「だいたいあなたは……………」

ことり「海未ちゃんストップストップ！」

海未「……………はっ！そうでした」

穂乃果「もー！結局なんだったのさー！」

海未「……………なんでしたっけ？」

ことり「海未ちゃあ〜ん……………」

次の日

絵理「二段ジャンプ？」

海未「そうです」

凜「海未ちゃん遂におかしくなっちゃったかによー……………」

海未「それでは説明します」ギリギリギリ

凜「にやああああああ!!」グイイイ!

ことり「図に書いてみるね」キュポッ

海未「お願いします」パッ

凜「い、痛い………」ヒリヒリ

真姫「自業自得ね」

花陽「今回ばかりは……」

凜「かよちゃんが冷たい……!!」ガーン

希「はいしっかり聞くんですよ」

ことり「ふふ、じゃあ説明するね」

ことり「まず二人で同時に飛びます」キュッ

海未「次に片方がもう一人を踏み台にしてもう一度ジャンプするんです」キュキュッ

ことり「でも踏まれる方痛くない?」

海未「はい、ですから」キュッキュッ

希「なるほど!」

海未「はい、下の人は足を上にして押し上げる形をとります」

ことり「上の人はその足と自分の足を合わせて飛ぶの!」

絵理花陽「………」



穂乃果「つまりね……」

穂乃果「二人の力が合わさってもっと高く飛べるってことだよ！」フランス  
絵里「いや、それはわかるんだけど……」

花陽「できるのかなあ……」

にこ「もしできるとすれば……」

真姫「軽い人が適任なんじゃない？」

にこ「ここは無理よそんなの」

凜「じゃ、じゃあ……！」

海未「上は絵理が適任かと」

凜「…………！」

絵里「私？」

海未「はい、絵理のフィジカルならばいけると思います」

穂乃果「絵理ちゃんバランス感覚いいもんね！」

花陽「体も柔らかいし……何かやってたの？」

絵里「バレエをちよつとね……」

穂乃果「……おお……!!なんかカッコいい!!」

凜「その時の動画とかがあってあたりする？」キラキラ

絵里「……残念ながら消しちゃったの」

真姫「……………」

凜「見たかった……」ガクリ

穂乃果「きつと可愛かったんだろうなあ〜！」

海未「話は最後まで聞いてください」

海未「……で、踏み台になるのは……」

希「エリチが上なら下になるのはうちかな？」

海未「さすがですね、お願いします」

穂乃果「二人とも、頑張つてね！」

絵理「ええ、任せて」

希「プレッシャーやなあ……」

花陽「……………」

花陽「……どうしたの？凜ちゃん」

凜「……………なにが……？」

花陽「……いや、なんでもない……」

凜「変なかよちゃんだにゃ〜」

穂乃果「早速練習だよ！」

海未「準備はできましたか？」

絵里「ええ」

希「ばっちり！」

海未「ほかのみなさんはトレーニングしててください」

穂乃果「えー！穂乃果たちも見たいよおく！！」

海未「だだこねない！」

ことり「穂乃果ちゃん穂乃果ちゃん」コソツ

穂乃果「なに？ことりちゃん」ソツ

ことり「部室にお菓子置いてあるからトレーニングの後で食べよう♪」

穂乃果「おー！さすがことりちゃん！」

ことり「だからトレーニング頑張る？」

穂乃果「……もういつそのこと今から行っちゃう？」

ことり「それもいいね〜！」

穂乃果「よーし！それじゃあ……」

にこ「海未〜！！穂乃果がサボろうとしてる〜！！」

穂乃果「ちよ、にこちゃん!？」

花陽「そんなこと言ったら……」

真姫「私しーらない」

海未「全部聞こえてるので大丈夫でーす!!」

穂乃果「ことりちゃんが誘惑するからあーーー!!!!」

ことり「えへ」

凜「確信犯だね」

海未「いきますよー！」

絵里「ええ！」

希「よっしゃ！」

海未「それ！」ドツ

希「行くよ！」タツタツタツ

絵里「ええ！」タツタツタツ

希「はあ！」ダツ

絵里「フツ」ダツ

海未「そこで足を合わせて!!」

スカツ

絵里「あら……？」

希「へ？」

ドシヤア!!

絵里「………い………たた」

絵里「希、大丈………」モニユ……

絵里「ぶ……？」

絵理（落ち着くのを洵瀬絵理、こんなベタな展開あるわけないじゃない、そう、そう

よ、この柔らかいものは希のアレじゃなくてきつと……何か……何か別の……あ、マシユマロみたい……) モニユモニユ

絵里「……」チラッ

希「いやん♪えりちのエツチ」

海未「大丈夫ですか!？」タツタツタツ

絵里「ご、ごごごごめんなさい!!」パッ

海未「絵里?」

絵里「なによ!!」パッ

海未「か、顔が赤いですよ?」

絵里「わ、私水飲んでくるから!」ダッ

海未「?」

希「エリチおもしろいなあ」クスクス

花陽「ハア……ハア」 テクテク

ことり「疲れたく……」 テクテク

凜「あれ？真姫ちゃん髪縛ったの？」 テクテク

真姫「ええ、走るのに邪魔だから」

凜「似合ってるにゃ〜！」

真姫「左右を軽く止めたただけけど」

ことり「かわいいよ真姫ちゃん♪」

花陽「うん！すつごくかわいい！」

真姫「……もう！わかったから！」 カアア！

穂乃果「あ、いたいた」 ザツ

穂乃果「そろそろ終わりだよー！」

海未「おや、もうそんな時間でしたか」

絵里「私たちはもう少しやっていくわ」

希「本番まで時間もないしね」

穂乃果「そっか！じゃあ先帰ってるね！」

真姫「ほどほどにしておきなさいよ」

海未「あ、あのー……」

ことり「どうしたの？海未ちゃん」

海未「実は今日この後予定がありまして……」

希「あー……」

絵里「どうしましょう」

花陽「休むことも大事ですよ！」

凜「……」

凜「あ、あの！」

凜「り、凜がお手伝いするにや！」

花陽「凜ちゃん!」

希「ほんまにいいの？」

凜「うん！」

絵里「……じゃあお願いしようかしら！」

真姫「遊んで迷惑かけないようにしなさいよ」

凜「しないよ!!」

ことり「凜ちゃんなに企んでるのかな？」

絵里「え、そうなの？凜」



希「うちらを利用する気やったんやね……」

凜「なんでそうなるにやあ!!」

凜「凜は純粹にお手伝いしようと思ってたのに……」グスツ

絵里「……冗談よ、ありがとう」なでなで

希「ちよつと意地悪しちやつたかな」なでなで

凜「……えへへ」

花陽「凜ちゃん……」

凜「かよちんごめんね、先に帰ってて」

花陽「う、うん……」

凜（もう何回目かもわからないほど失敗してるけど二人は全く諦めようとしなかつた）

凜「いづくにやあー！」ドツ

絵里「今度こそ!!」タツタツタツ

希「うん!」タツタツタツ

凜「……………」ジー

希「はあ!」バツ

絵里「ほっ!」グッ

凜「おお…………!!」

グラー

絵里「…………く!」バツ

希「あわあ!」ドシヤ!

希「いつつ…………」

凜「大丈夫!?希ちゃん!」バツ!

絵里「ごめんなさい…………!」

希「もー!そんな顔せんといて!」

希「ウチがちやんと着地できんかっただけやん?」

希「ほら、もう一回やろ!

絵里「…………いえ、今日は終わりましたよう」

希「せっかく良い感じになってきたのにく…」

絵里「もう暗くてボールもよく見えないし……なにより！」ピシッ

希「……！」ビクッ

絵里「あなたが怪我したらどうするのよ！」

凜「そうにやそうにや！」

希「ウチが怪我するわけないやん？」

凜「どこからくるにや、その自信……」

絵里「いいから、今日は終わりましたよ」

希「……そやね、じゃあお言葉に甘えて」

凜「凜が片付けてるから着替えてて良いよ！」

絵里「何言ってるのよ、みんなで片付けるのよ」

凜「後片付けは後輩の役目だにや！」

希「凜二等兵！先輩禁止令第2条!!」

凜「は、は!!」

凜「部員はいつ如何なる状況下において平等であり、年齢による格差はないものとする！」  
「イエッサー！」

絵里「というわけで早くやるわよ」

希「練習に付き合ってくれただけでも嬉しいのに片付けまで押し付けるわけないや

ん

凜「絵里ちゃん……………希ちゃん……………」

帰り道

凜「ばいばーい！」ブンブン

希「フフ」

絵里「どうしたの？希」

希「いや、なんか妹みたいやなって」

絵里「……………そうね」

絵里「それもとびつきり可愛い」

絵里「ま、亜里沙には敵わないけどね！」

希「相変わらずやなあ……」

絵里「でも最近連絡繋がらないのよね…」

希「忙しいんちゃう？」

絵里「だといいんだけど……」

凜「……ここなら下も柔らかいし……」

ダツ　　ザザツ　　ドサツ　　ザツザツ

凜「……違う」ハアハア

次の日

練習後

絵里「……なんでできないのよ……」ハアハア

希「なんかバランスが崩れるなあ……」ハアハア

花陽「何がダメなんだろう？」

海未「……明日はもう試合ですから今日はしっかりと休んでください」

絵里「でも……!!まだ完成してないわ！」

ことり「ごめんね絵里ちゃん……」

絵里「ことり……」

にこ「あんたらが怪我でいなくなったらにこたち試合に出られないんだから」

真姫「素直に心配って言えばいいのに……」クルクル

にこ「あんたに素直にって言われるとは思ってなかったわ」

希「……………えりち、明日がんばろ…?」  
絵里「……………」

## 「VS野生高校！」

必殺技が完成しないまま試合当日となってしまうた音の木坂  
わずかな不安を抱えつつ、メンバーは会場へと足を運ぶ

角間「さあーやってまいりました、フットボールフロンティア予選第一回戦!!今日の  
相手は野生高校だああ!!」

絵里「……大丈夫かしら……」

希「大丈夫やって！案外普通に勝てるかも知れへんよ？」

絵里「だといいけど……」

海未「……絵里はまだ落ち込んでいるようですね」コソツ  
ことり「私たち……間違ってたのかな」

花陽「そ、そんなことないよ！」



花陽「きつと……！絵里ちゃんたちなら完成してくれる！」

真姫「花陽の言うとうりよ」

真姫「じゃないとこの二日間が無駄になるじゃない」

ことり「……うんそうだよね！」

海未「すみません、少し弱気になっていたみたいです」

凜「……………」ボォ…

にこ「……………」ちよつと！」バシッ

凜「……………」っは！」ビクッ

にこ「しつかりしなさいよ、試合始まるのよ？」

凜「ちよつと考え事してて……………」アセアセ

にこ「凜が考えることなんてラーメンぐらいでしょ」

凜「たまにはラーメン以外も考えるにや!!」

にこ「……………」たまになのね」

監督「……………」

ピーーーーー

ドツ

角間「はじまりましたあ!! 身体能力で勝る野生高校相手に一体どのような試合を繰り広げるのでしょうかあ!!」

絵里「……………ことり!」 ドツ

ことり「ほっ!」 トツ

にこ「ことり! よこしなさい!」

ことり「……………! にこちゃん!」 ドツ

にこ「…よし!」 トツ

角間「音の木坂、慎重にパスをつないでいく!! ここからどう展開する気だ!?!」  
にこ「いきなさい! 真姫!」 ドツ

角間「僅かに会いたスペースを矢澤、見逃しませんでしたあ!!」

真姫「…ふっ!」 ダンツ

グルグルグル

真姫「フアア……………」

鶏井「コケーー！」バツ

真姫「つく！」スタツ

鶏井「コケーー！」スタツ

角間「これは野生鶏井素晴らしいジャンプ力!!西木野の必殺シユート完全に封じ込めましたあ!!」

にこ「……ツチ、やっぱりね」

鶏井「コケーー！」ドツ

水前寺「へっ！」トツ

希「止めるよ！ことりちゃん！」バツ

ことり「うん！」バツ

水前寺「遅すぎるぜ！」シユバツ！

希ことり「そんな……！」

角間「水前寺一瞬で二人を抜き去ったあ!!はやあい!!まるで草原を駆け抜けるチーターのようだあ!!!」

水前寺「五利！」ドツ

五利「うほー!!」トツ

凜「しまった……！」

花陽「穂乃果ちゃん！」

五利【ターザンキック！】

ドゴオ！

穂乃果「はあああ!!」バツ

ゴオオオオオオ!!!

穂乃果【マジン・ザ・ハンド!!】

ドシユルルルルル………!!

角間「止めたああ!!!音の木坂高坂、強力な必殺技で見事止めましたあ！」

穂乃果「凜ちゃん！」ドツ

凜「よっ……!!」トツ

にこ「凜！いけるとここまで持ち込みなさい！」

凜 「わかったにや！」 タツタツ  
猿田 「ウッキー！」 バッ

凜 【アクロバットキープ！】

バッ！クルツ！ザツザツ

花陽 「……うそ……」

海未 「そんな……」

猿田 「ウツキー!!!」

バッ！グルツ！ザツザツ

角間 「これは猿田!!! 星空と寸分違わずついていくー!! とても人間業とは思えません  
!!」

凜 「う、海未ちゃん！」 ドツ

海未 「ナイスパスです！」 トツ

海未 「絵里！」 ドツ

絵里 「……決める！」 トツ

絵里 「吹き荒れろ……」

パキパキパキパキ

絵里【エターナルブリザード!!】  
ドゴオオオオオオオ!!

ウホウホウホ!!

【ディープジャングル!】

ドオツ!

シュウウウ……………!!

真姫「…………… やっかいね」

絵里「ええ……………」

ドツ!

水前寺「ほっ」トツ

海未「いかせません！」

水前寺「遅い遅い！」シユダツ！

海未「つく…速すぎます…！」

水前寺「大鷲！」ドツ

大鷲「つと」トツ

穂乃果「…くる！」グッ

大鷲「コンドルダイブ！」

ドキユウウウ  
!!!!

穂乃果「マジン・ザ・ハンド！」

ドシユルルルル…

角間「またもや高坂ガツチリとキャッチ!!これは頼もしい！」

花陽「ナイスセーブ！」

穂乃果「えへへ！ありがとう！」

海未「とはいえ、このままだとまずいですね…」

希「…あれしかないか」

真姫「やっぱりやるのね」

絵里「大丈夫、必ず成功させるわ」

海未「試合前と違って随分頼もしいですね」フフ

絵里「だってもうやるしかないじゃない！」

希「頼りにしてるよ！」

希「むつつりスケベなエリチ」ボソツ

絵里「だ…!!? だからあれは!!」アセアセ

希「ほらほら！ボールくるよ！」

絵里「くく!!」トツ

角間「前線の絢瀬へボールが渡ったあ!!エターナルブリザードか!？」

絵里「海未、お願いね」ドツ

海未「任せてください」トツ



絵里「希！」ダッ  
希「うん！」ダッ

海未「はあ！」ドキュッ！

角間「園田、上空へとボールを蹴り上げたあ！一体何をするつもりだあ!!」

絵里「ふっ！」ジャンプ

希「ほっ！」ジャンプ

角間「二人で同時に飛んだあ!!これは新必殺技かあ!？」

鶏井「コケー！」バツ

角間「しかし空中戦にはこの鶏井が立ちはだかります!」

希「このまま……」グッ

絵里「いける……!」グッ

グレア

希絵里「……!」バツ

絵里「……」スタッ

希「……」スタツ

鶏井「コケー！」バツ

角間「おおー！!? どうやら空中でバランスを崩したようだあ!! ボールを奪われてしまったあ!!」

ワーワー！

ことり「よし！」トツ

角間「南ボールを奪ったあ!!」

ことり「絵里ちゃん！」ドツ

絵里「ふっ！」ダツ

希「やあ！」ダツ

鶏井「コケー！」

グラア

絵里「つく！」スタツ

希「うゝ……」スタツ

鶏井「コケー！」バツ

角間「までも失敗ー!!音の木坂リズムがつかめません！」

蛇丸「スネークショット！」

穂乃果「はあ！」バシッ!!

大鷲「コンドルダイブ！」

穂乃果「うぐっ……!!」バシイ!

五利「ターザンキック！」

バシイ!

穂乃果「うわああ!!」ドサッ

テンテンテン………

ピッピッピッピッ……

角間「ここで前半終了です!!完全に流れが来ている野生高校が押し切るのか!それとも音の木坂が必殺技を炸裂させるのか!!後半も楽しみです!」

絵里「どうして……!どうしてできないのよ!!」

希「えりち落ち着い……」

絵里「これでどうやって落ち着けていうの!!」

絵理「だいたい……!」

希「えりち!!」

花陽「……!」ビクッ

凜「……!」ビクッ

しーん……………

絵里「……………希……………」

希「落ち着こ、ね？」

絵里「わ、たし……………ごめんなさい……………」

ことり「穂乃果ちゃんその手……………！」

海未「こんな手でよくゴールを守りましたね」

穂乃果「えへへ……………穂乃果はキーパーだからね」

穂乃果「みんなのために、がんばるよ！」グツ

ヒデコ「救急箱持ってきた！」

真姫「ありがとうございます」ガサゴソ

真姫「…氷はないからスプレーね」シューー

穂乃果「冷た！」ビクッ

真姫「我慢しなさい」シューー

にこ「……………ね、あんたが取り乱してる暇なんてないのよ」

絵里「……………ええ、そうよね！」パン！パン！

にこ「……!びっくりした……」

にこ「つて……あんた……」プルプル

希「あつははは!!えりち顔真っ赤!」

にこ「力強すぎでしょ!」あははは!

絵里「き、気合い入れるにはこれぐらいがいいのよ!」

にこ「あははは……ええ、そうね……」プルプル

希「ふっ……そのとうりやね……ふっ」プルプル

絵里「もう!」

海未「ほらほら後半始まりますよ!」

花陽「もうゴールは打たせないようにしよう!」

凜「うん!一本も通さないにや!」

ヒデコ「穂乃果一人に任せらんないからね!」

フミコ「頑張つてね、二人とも」

ミカ「うん!」

凜「……ね、ねえ海未ちゃん」

海未「どうしました?」

凜「えっと……その……」チラッ

絵里「やるわよ希！」  
希「うん！」

凜「……………」  
凜「後半、頑張ろうね」  
海未「もちろんですよ」 ナデナデ  
凜「えへへへ……………へへ」

「たつまきおとし!!」

前半全くシュートが合わなかった絵里と希

しかし鷄井の高さを突破するには新必殺技は不可欠

気合いを入れ直し、再びグラウンドへと戻っていった

ピーーーーー

角間「後半開始しました！一体勝利の女神はどちらへ微笑むのか！」

水前寺「遅い遅い!!」ダッ

ことり「ああ……!!」



海未「……つくく！」

「ここ「ああもう……!!」」

凜「行かせないニヤア!!」ズシヤアアア!

水前寺「つち」

角間「これは星空!!水前寺のスピードに負けてないぞお!!見事なスライディングだあ!!」

テンテンテン……

花陽「海未ちゃん!」ドツ

海未「……いきますよ」トツ

絵里「……ええ!」

希「うん!」

海未「はあ!」ドキュ!!

絵里「はっ!」ジャンプ

希「んっ!」ジャンプ

角間「音の木坂前半一本も合わなかったシュート、後半は決めてくるかあ!?!」

鶏井「コケー!」

グラア

絵里「…つまた…!!」バツ

希「くっ…!!」バツ

スタツ　スタツ

鶏井「コケー！」ドキュツ！

角間「またも失敗!!野生高校にボールが移りました!!」

蛇丸「シャー！」トツ

ことり「行っちゃダメです！」バツ

ガツ　ガガツ　ザツザツ

ドツ

猿田「ウキー！」トツ

にこ「こっちは抜かせないにこ！」バツ

角間「前半とは違い守備が硬くなっているぞ!!これは攻めにくい！」

猿田【モンキーターン！】

にこ「な、によその動き!？」ガクツ

ヒデコ「はあ！」ガツ！

角間「音の木坂ディフェスからうじて防いだあ!!!」

花陽（とはいえこちらでも攻め手が無い状況、点を決められないまでも、決めることが

できない膠着状態が続き、いよいよ試合終盤が近づいてきました)

花陽(それまでに絵理ちゃんと希ちゃんは何度も挑戦し、失敗しました。もうダメなのか、そんな考えが頭をよぎりかけたそんな時でした)

角間「さあ依然ボールは野生高校! いったい勝負はどうなってしまうのでしょうかあ!!」

にこ「つく……………どうすれば……………」

海未「もう必殺技は諦めてしまうのも一つの手ですが……………」

絵理「海未……………」

にこ「……………いやよそんなの」

にこ「にこは認めない」

希「にこっち……………」

ことり「でも……………どうすれば」

花陽「……………」

真姫「……………」

凜「……………」

穂乃果（……!）

穂乃果「みんな!!まだ試合は終わってないよ!!最後まで諦めちゃダメ!」

絵里「穂乃果……」

穂乃果（他に……なんて声をかければ……）ギョツ

監督「……」ハア

監督「凜!!」

凜「は、はい!」ビクッ

監督「今グラウンドの中で全力で戦っていないのはお前だけだ!!」

監督「やる気がないならグラウンドから出る!!」

凜「おっちゃん……」

—————

凜「おーっちゃん！ラーメン全部のせ大盛り！」

店長「お、今日は気前がいいな。何かあったのか？」

凜「凜ね、サッカー部に入ったの!!」

店長「……ほー、サッカーか」

凜「まだ初心者なんだけど、絶対上手くなつてみんなを助けるにや！」

店長「……ならもつと食わないとな」ジュー…

店長「へいおまち！」トン トン

凜「へ？凜餃子なんて頼んでないよ？」

店長「上手くなるんだろ？なら飯を食え」

店長「俺のおごりだ」

凜「おっちやくん!!」ジーン

—————

監督「やりたいことがあるならやってみろ」

凜「……」

花陽「ど、どうしたんだろ……」

希「一体何を……？」

水前寺「なんだかわからねえが抜かせてもらおうぜ！」ダツ！

花陽「しまった……！」ガクツ……！

凜「……！」ギリツ

凜「にやあああああああ  
!!!!!!」ガツ！

角間「ゴール手前で星空強引に奪い取ったあ!!時間的にもこれが最後の攻撃!一体どうなる!？」

花陽「凜ちゃん……!!」

猿田「ウキー!!」ザツ!

凜【アクロバットキープ!】

ザツ、クルツ、スタツ!

猿田「ウキツキー!!」

ザツ、クルツ!

角間 「またもや猿田完璧についていく!!」

凜 「……………つんにやあ!!」グンツ!

猿田 「キ……………キキ!?」ガクツ

角間 「星空振り切ったああああ!!!」

にこ 「あいつ……………」

凜 「希ちやあん!!」

希 「なに!」

凜 「凜と一緒に飛んで!」

希 「ど、どういう……………」

凜 「いいから!」ドツ

海未 「凜!」トツ

絵里 「……………!」

凜 「いくよ!」ダツ

希 「…あゝゝ!!もう!」ダツ

海未 「はあ!」ドキュ!!

凜「はっ！」ジャンプ

希「ほっ！」ジャンプ

角間「こ、これはー!?先ほどまで絢瀬と飛んでいた東條が今度は星空と飛んだあ!!」

鶏井「コケー！」ジャンプ

凜「希ちゃん！」グツ

希「……うん！」グツ

ダン!!

鶏井「コケ!?!」

角間「こ……超えたああああ!!! ついに鶏井の高さを超えました!」

凜「にああああ!!!」ドキュツ!!

ゴオオオオオオオオオ!!!



猪口「ガ……ガアア……!!」

ドシユルルルルル!!

角間「決まったあああああああ!!!  
!!!試合終了間際で必殺シュート炸裂うう!!」

真姫「まるで竜巻が落ちていくよちなシュート……」

海未「たつまきおとし……」

ピッピッピッ……

角間「ここで試合終了のホイッスル!!」

角間「初戦を突破したのは音の木坂高校!」

角間「実況は角間、角間でお送りしました!」

ありがとうございますあ!!!

花陽「……………」

花陽「凜ちゃんやったね!!」

凜「うん!できたよかよちん!」

絵里「……………」

凜「あ……絵理ちゃん……あの、ね……」

凜「ごめんなさい！」ペコッ

絵里「り、凜!？」

凜「凜にこちゃんの次に軽いのに選ばれなかったのが悔しくて……」

凜「一人で練習したり……練習手伝うふりしてタイミングを覚えたり………してました」

希「あの練習の時……」

にこ「なるほどねえ」

凜「あの……本当に、ごめんな……んグウ！」ンムム

絵里「凜、それ以上謝らないで」パッ

凜「絵理ちゃん……？」プハッ

絵里「私はあなたに感謝してるわ」

凜「ど、どうして!?!だって凜……絵理ちゃんの技……」

絵里「実を言うよね、少し感じてたのよ」

絵里「私に向いてないなって」

絵里「もっと軽い人がいいんじゃないかってね」

希「下から蹴り上げる場合、力を込めれば込めるほどバランスが崩れやすくなる」

希「つまり、軽い人が上の方がいいってこと！」

絵里「やっぱり希も気づいてたのね」

希「気づいたのはついさつきやけどなあ」

ことり「ついさつき？」

希「凜ちゃん乗つけた時、エリチの時よりスムーズにできたんよ」

希「なんかやりやすいなあって」

花陽「なるほど……軽い方が」

穂乃果「じゃあにこちゃんがいちばん適任だったってことか！」

にこ「にこは無理よあんな動き」

希「にこつち体おぼあちゃんやもんなあ」

にこ「誰がおぼあちゃんよ!!」

凜「……怒って……ないの？」

絵里「怒るわけないじゃない……むしろ」

クシヤクシヤクシヤ

凜「わ!…わわわわ!!?」

絵里「ナイスシュート!」うりやうりや!

穂乃果 「うん！ナイスシュートだったよ！」

絵理 「……それから」ボソッ

にこ 「なに？」

絵理 「技を諦めたく無いって言ってくれてありがとう」

にこ 「……!!べ、別ににこはそんな深い意味で言ったんじや……！」アセアセ

絵里 「ふふ、それでもいいのよ」ナデナデ

にこ 「撫でるなあ!!」

ワイワイガヤガヤ！

穂乃果 「よーし！雷雷軒で打ち上げだー！」

「「「「おー！」」」」

監督 「金は払ってけよ」

「「「「えー……」」」」

ヒデコ「穂乃果!」

フミコ「私たち今日も……」

ミカ「ちよつと用があるから!」

穂乃果「わかったー!」

ヒフミ 「バイバーイ!」

穂乃果「バイバーイ!!」ブンブン

海未「さて、帰りましょうか」

にこ「もうクツタクタよ……」

希「だ、大丈夫? ほら、手持つててあげるからその石に腰掛けて……」

にこ「いゝつもすまないねえ……つて」

にこ「誰がおぼあちゃんよ!!」

希「そこまで乗つといてそれはないわにこつち」

にこ「あんたがやらせたんでしようが!」

凜「……」

絵里「もう、どーしたの? まだ落ち込んでるの?」

凜「……うん」

絵里「あの一点がなきや私たち負けてたかもしれないのよ?」

絵里「もつと胸を張りなさい！」バシッ

凜「いた!？」

絵里「今日はラーメンおごつてあげるから！」

凜「ほ、本当!？」

絵里「ええ！」

凜「な、何頼もう……片っ端から頼んじやおうかな……」

絵里「い、一杯だけだからね!？」

凜「もういつそトツピングも全部のせで……」

絵里「りいーんーいーんー!？」

穂乃果（私、リーダーなのに……全然チームを励ませなかった……）

穂乃果（私がリーダーでいいのかな……）

監督「……リーダーはお前じゃないといけない」

穂乃果「へ!?!」バツ

監督「お前以外にリーダーをさせる気は無い」

穂乃果「監督……」

穂乃果「……何企んでるんですか？」ジト……

監督「お前な……」ハア

ヒデコ「……よし、録画転送完了!」

フミコ「毎度のことながらめんどくさいねえ」

ミカ「なんで親つながりでお願いされないといけないの……」

ヒフミ「西木野パパめ!!」

ビデオ「真姫〔ファイア……〕」

真姫父「真姫が、サッカーしてる……!!」ダー！



## 第5話「挑発」

試合まであと1週間

—————

海未。パパ「海未、ちよつといいかい？」

海未「……？はい」

海未。パパ「最近サッカーばかりのようだが剣道の鍛錬は疎かにしていないか？」

海未「もちろんです」

海未。パパ「……見せてみなさい」

海未「では道場へ……」テクテク

道場

海未「ハッ！ハッ！ハッ！」ザッ ザザッ

海未パパ「……………」

海未「……………」ハアハア

海未「どう……………」でしたか」ハアハア

海未パパ「……………」フム

海未パパ「これなら次の段階に進んでも大丈夫そうだな」

海未「次の段階……………」ですか？」

……………

「……………」ちゃん！」

「……………」みちゃん！」

「海未ちゃん!!」バツ

海未「はいいいい!!」ビクッ

穂乃果「もー！何ぼーつとしてるの！」

穂乃果「練習行くよ！」

ことり「海未ちゃんがぼーつとするなんて珍しいね」

海未「……少し疲れているだけですよ」

ことり「無理しないで休むときは休んでね」

穂乃果「そうだよ！無理して怪我でもしたら大変だよ！」

海未「……そんなこと言って……私がいない間にサボるつもりですわね」ジロツ

穂乃果「へ……!?そ、そそそそんなはずないよ……？」キヨロキヨロ

ことり「穂乃果ちゃん……」

海未「ほら、早く行きますよ！」テクテク

穂乃果「ちよつとまってよ海未ちゃん！」タツタツタツ

ことり「……フッフ」タツタツタツ

海未「……」テクテク

海未「次の段階というのは？」

海未パパ「……………真剣を扱ってもらおう」

海未「し、真剣はもう少し後だと……………」

海未パパ「今のお前ならできるだろう」

海未「しかし……………それだとサッカーの時間を削らなければ……………」

海未パパ「何か問題があるか？」

海未「……………!!」

海未パパ「別にやるなどは言っていない、削るだけだ」

海未「……………で、でも！」

海未パパ「話は終わりだ、頑張れよ」

海未「……………はい」

部室前

穂乃果「とーちやーく！」ガラッ

海未「皆さん準備……」

にこ「やめっ……離しなさいよ！」

希「にこっちがいたずらするからやん？」ワシワシ！

にこ「ごめん！ごめんって!!」

希「謝るなら最初からせんことやね！」ワシワシ

にこ「いやー！！」

絵理「これ……止めた方がいいの？」

花陽「にこちゃん……」

真姫「まあ自業自得ね」

凜「希ちゃんも容赦ないにやあ」

にこ「だ、大体！あんなの引つかかる方が悪いのよ！」

希「!!」

ことり「何かあったの？」

花陽「……えつと……その」

海未「大方、にこがまた何かしたのでしよう」

凜「あれは……つい10分前のことだったにや…」

真姫「何か始まったわね」

—————

ヒュー

にこ「あーん」パクッ

希「マシユマロキヤツチ上手やね」

絵理「にこ、はしたないわよ」

凜「凜も凜も！」

にこ「いいわよ、ほら！」ポイー

凜「あーん！」パクッ

花陽「凜ちゃん……」

凜「おいしいにや〜」ムグムグ

真姫「……くだらない」パクッ

にこ「とかいいつつつまみ食いでんじやないわよ！」

希「にこっちー！うちもちよーだい」あー

にこ「……………いいわよ」ガサツ

絵理「全く希まで…」

にこ「ほらっ！」ポイー

希「あー……………ん!?」パクッ

希「……………」プルプル

絵理「ど、どうしたの？」

花陽「プルプルしてる……………」

凜「にこちゃん何したにやー！」

希「これ……………キャラメル味……………」プルプル

にこ「はーっはっはっは!!この前ワシワシした罰よ！」

絵理「いつの間に……………」

にこ「投げる直前にすり替えたの」

花陽「希ちゃん、キャラメルダメなの？」

絵理「ええ、飲み物もダメみたいよ」

希「……………」ゴクン

にこ「へ？」

花陽「マシユマロを……噛まずに飲み込んだ……」

希「うちの……ペットボトルを……」プルプル

真姫「……これ？」スツ

希「あ、ありがと……」パシッ

希「……」ごくごくごく　　ぷはあ

にこ「……の、希？」

希「……… にこっち」ユラア

にこ「や、やだなあく怖い顔して！ちよつとした冗談でしょ？ほら、笑顔笑顔！にこ

！」

希「………」ボソッ

にこ「え……なに？」スツ

希「………」

希「ワシワシMAX!!!」バツ

にこ「いやあーーー!!!」



凜「へえ、希ちゃんキャラメル苦手なんだ」

花陽「凜ちゃん悪い顔してるよお!!」

真姫「……やめときなさいよ」

—————

海未「やっぱりここが何かしたんじやないですか」

絵理「はいはいみんな聞いて!」

にこ「次の対戦相手が決まったわよ」ハアハア

穂乃果「どこどこ?強いところかなあ!」

花陽「なんで嬉しそうなお……」

穂乃果「どうせやるなら強い方がいいよ!」

海未「それもそうですね」

穂乃果「だよね!」

ことり「ついていけないその感覚……」

凜「いったいどこの戦闘民族かじゃ?」

穂乃果 「カカロットオオオ!!」

凜 「ベジータアア!!」

パシツパシツ!!

にこ 「話聞きなさいつつつてんのよ!」

穂乃果凜 「ご、ごめんなさい……」

絵理 「相手は御影専修農業高校よ」

穂乃果 「御影……せん?」

希 「御影専修農業高校、略して御影専農って言われてる」

花陽 「データによるサツカーを武器としている高校です」

穂乃果 「なんだか堅そうな学校だね……」

海未 「ですが情報を武器にするということはこちらの動きが読まれるということ

す、侮れませんよ」

真姫 「私たちの技も全部知られていると考えてもいいかもね」

ことり 「そんな……」

穂乃果 「まあそんな堅い話は置いておいて、練習がんばるぞー!」

海未 「穂乃果! そんなに樂觀的では……」

穂乃果 「どのみちデータを上回るには練習しかないよ!」

穂乃果「努力をした人にだけ勝利の女神は微笑むんだから！」

希「穂乃果ちゃんという通りやね」

凜「話が難しくなりそうだったから切ったんじや……」

穂乃果「聞こえているぞカカロツトオオオ!!」

凜「ベジータアア!!!」

にこ「バカなことやってないでいくわよ」

凜「おお〜！クリリンやる気だなあ!!」

にこ「なんでにこがクリリンなのよ!!」

にこ「あれがいいわ、あの〜……変身するやつ」

穂乃果「ウーロン！」

にこ「ギヤルのパンティおくれ〜!……って何やらせんのだよ!!」

にこ「プーアルに決まってるでしょ！」

凜「どっちも一緒にや」

にこ「全然違うわよ！」

絵理「ふふ、にこ楽しそうね」

希「何だかんだ嬉しいんやろなあ」

海未「まったく……」

真姫「……」クルクル

花陽「真姫ちゃんも入りたいの？」

真姫「そ、そんなわけないでしょ!？」

真姫「穂乃果!!早く練習いくわよ！」

穂乃果「はい！」

花陽「フッフ！」

御影専農グラウンド

海未「……」ザザザッ

下鶴「よっ」ザッ

下鶴「はああああ!!」

ドゴオオオ!!

穂乃果「……」バツ

ドシユウウウウ!!

御影5—0音の木坂

真姫「……」タツタツタツ

真姫「……」ダッ

グルグルグル

真姫【ファイアトルネード】

ドキュウウウ!!!

杉森【シユートポケット!】

フワン……!

パシッ!

ピ—————

シミュレート完了、試合のデータを転送いたします  
杉森「……………音の木坂が勝利する確率はほぼ0%だ」  
下鶴「ああ」

### 河川敷グラウンド

海未「凜！攻め急ぎすぎです！」

凜「は、はいにや！」キキツ！

海未「花陽！もっと圧力をかけてください！」

花陽「わかりました！」ザッ

ここ「…………クツ！」ザザッ

希「にこつちいただき!!」バツ

ここ「あ…!!」

海未「にこ！むやみに突っ込んでいかない！」

にこ「わかってるわよお！」

真姫「はああああ!!」ドオツ!

穂乃果「つく!!」バシイイイ!

穂乃果「もう一本！」

絵理「つふ!!」ドキュ!!

穂乃果「たあー！」バシイ!!

海未「10分間休憩です」

凜「はい、かよちゃん、真姫ちゃん!お水！」

花陽「ありがと！」

真姫「悪いわね」

絵理「大丈夫?穂乃果」

穂乃果 「大丈夫！絵理ちゃんも真姫ちゃんもいい感じだね！」 ハア……

真姫 「……………試合は5日後」

穂乃果 「今の二人ならどんな敵でも大丈夫だよ！」

ザッザッザッ

にこ 「ん？誰よあいつら」

花陽 「あ、あれは！次の対戦相手、御影専農のキーパー、杉森さんとストライカー下

鶴さんです！」

にこ 「んん？……………あー、たしかに」

海未 「私たちに何のご用ですか」

杉森 「なぜこんなに必死になって練習する」

にこ 「は？そんなの勝つために決まってるでしょ、頭おかしいんじゃないの？」

絵理 「一体なにが言いたいのが？」

下鶴 「どれだけ頑張ろうとムダだよ」

杉森 「私たちはすでにお前たちに勝っている」

凜 「……………ムッ」

真姫 「聞き捨てならないわね」 ザッ



穂乃果「……そこまで言うなら勝負だよ!!」

ことり「穂乃果ちゃん!」

海未「いけません穂乃果、試合前に敵チームと戦うなど……」

下鶴「いいだろう」

杉森「こちらは一本で十分だ」

花陽「ムウ……馬鹿にして……!」

穂乃果「こつちだつて一本で十分だよ!!」

凜「穂乃果ちゃん! そんな人たちに負けちゃダメだよ!」

希「これで相手の実力が少しはわかるかな」

絵理「いったいどんなシュートを打つのかしらね」

下鶴「フンツ……」

穂乃果「……こい!」バツ

絵理「さあ、始まるわよ……つて、え!?!」

真姫「!!」

穂乃果「あれは……!!」

グルグルグル

下鶴【フアイアトルネード!】

ドゴオオオ  
!!!!

穂乃果「はああああ!!」バツ

ゴオオオオオオオオオオオオオ

穂乃果【マジン・ザ……!】!!!!

ドシユウウウウ……!!!!

穂乃果「そんな……！」

下鶴「口ほどにもないな」

花陽「うそ……！」

絵理「威力、速度、正確性まで真姫と同じってことね……」

海未（いや、下手をすればそれ以上……）

真姫「次は私よ！」ザツ

杉森「ムダなことを」

凜「いつけー真姫ちゃん！」

花陽「偽物は本物にかなわないんだよ!!」

真姫「フツ！」ダンツ

グルグルグル

真姫【ファイアトルネード！】

ドゴオオオ!!!

杉森「シュー！トポケット！」

ブワン……………！

パシッ！

杉森「想定内だ」

真姫「……………なっ!?」スタツ

ことり「そ、そんな……………」

海未「コピーされただけでなく……………まさか止められるとは」

花陽「真姫ちゃん……………」

下鶴「これでわかっただろ、無駄なんだよ」

にこ「このっ……………!!」バツ

穂乃果「……………にこちゃん！」ガシッ

にこ「なによ！今こいつに……………」

にこ「……………！」

穂乃果「……………」

にこ「……………なんでもない」スツ

希「どうしたんにこっち、珍しく大人しく引き下がったやんにこ」「……別に」

絵理「……へえ」

穂乃果「御影専農の皆さんにお伝えください」

穂乃果「……5日後、よろしくお願いしますと」

花陽凜「！」

下鶴「諦めの悪いヤツめ」

杉森「いくぞアラタ」ザッ

下鶴「ああ」ザッ

穂乃果「……ツフー」

凜「ベーだっ！」

にこ「ベー!!」

海未「二人とも……いえ、今回は許します」

絵理 「とはいえこのままじゃまずいわね」

希 「こうなったら必殺技より根本的に鍛えないとあかんかもなあ」

真姫 「でもそんな場所がどこにあるの？ジムにでも通う？」

花陽 「ジ、ジム!？」

凜 「それはちよつと……」

穂乃果 「じゃあいい方法があるよ！」

ことり 「いい方法？」

穂乃果 「明日から連休でしょ？」

穂乃果 「だから……」

ゴクリ

絵里 「合宿よおー!!!」 ババン!

穂乃果 「穂乃果が言いたかったのに!!!」

花陽 「で、でもどこでやるの？」

凜 「真姫ちゃんのお家別荘とか持ってそうだよね！」

ことり 「流石にそれは……」

真姫「あるにはあるけど……」

((((あるんだ……)))

真姫「……………」ピッピッピ

真姫「無理よ、全部埋まってるわ」

希「今から宿は取れんやろうしなあ……………」

にこ「そもそもお金どうすんのよ、結構かかるわよ？」

絵里「個人での合宿だからね」

海未「それではウチに聞いて見ましようか？」

絵里「ウチ？」

凜「海未ちゃん家って確か……………」

海未「はい、道場をしているので広さは十分ですよ」

海未「連休の間は閉めることになってるので……………」ピピピッ

プルルル

海未「……………海未です、はい……………はい、連休の間道場で合宿しても……………はい、はいそうです」

凜 「海未ちゃんってお家の人も話すときも敬語なんだね…」

花陽 「うん、厳しい家庭なのかな……」

ことり 「海未ちゃんちっちゃい時からあの喋り方なんだよ」

凜花陽 「はえく……」

海未 「はい、ありがとうございます！それでは……」ピッ

真姫 「いけたみたいね」

海未 「はい！」

穂乃果 「じゃあ荷物をまとめて海未ちゃん家しゅーごー！」

「「「「おー……」」」」

希 「バナナはおやつに入るかなあ」

絵里 「合宿に行くんだから……」

凜 「花火するにゃー！」

花陽 「枕投げも！」

にこ 「合宿だつってんでしょ！」



# 「合宿!!」

次の対戦相手に実力差を突きつけられた穂乃果達  
根本から鍛え上げようと合宿を計画し、全員が海未の家へと集まった

「「「「うわ〜!!!」」」」

凜「ひろいにや〜!!」

花陽「ザ、日本の家って感じだね」

穂乃果「海未ちゃん家は日舞の家系だからね」

ガラッ

海未「お待ちしてました、どうぞ中へ」

絵里「お、おじやます……」

希「気後れするなあ……」

にこ「に、にににこはこんなのぜ〜んぜん……」ギギギ……

凜「にこちゃんロボットみたいになってるにや……」

花曜「現実で右手と右足一緒に出す人初めて見た……」

真姫「緊張しすぎでしょ」

穂乃果「お邪魔しまーす！」ドタドタ

ことり「おじやましまーす！」テクテク

ウミチャンママ！コンニチワ！

アラオオキクナリマシタネ

エ、ヨコニデスカ……

イエイエソウデハナク

モウ、ホノカチャ〜ン！

「「「さすが幼馴染……」」」

絵里「で、なにする？」

海未「そうですね……入ってください」

希「？」

スーッ

海未パパ「……いらっしやい」

「「「お、お邪魔してますー」「」」

海未パパ「合宿と聞いたんだが……」

海未「はい、なのでどのようにトレーニングしようかと考えていたところです」

絵里「なにかいいトレーニング法はありますか？」

海未パパ「それなら丁度良かった」

凜「……？」

ガサガサ!

絵里「あつたわ! 太くて長くていい感じじゃない!」

希「ほらにこっちも頑張つて! 暗くなる前に帰らないとやからね」

にこ「なんで……」プルプル

にこ「なんでにこたち、薪拾いしてんのよ!!」

海未パパ「みんなで薪拾いでもしてもらおうかな」

絵里「薪拾い……ですか」

凜「えつと……凜たちサツカーの練習を……」

海未パパ「いいからいいから!靴は新しいの沢山あるから使っていていいよ」

海未パパ「終わったら山で鬼ごっこでもしといで」

海未パパ「じゃあ海未、任せたよ」

海未「は、はい……!」

スーッ　　タンッ

にこ「………海未?」

絵理「練習メニューのアドバイスを聞きたかったんだけど……」

花陽「今のって雑用じゃ……」

真姫「しかも鬼ごっこって……」

凜「どうか薪拾いなんて昔話でしか聞いたことないにや」

海未「うちではお風呂も料理も薪なんです」

花陽「と……ということとは、ご飯は……」

海未「はい、釜で炊きます」

花陽「みなさん！頑張りましょう！美味しいご飯のために!!」

にこ「ご飯のこととなると目の色変わるわね……」

凜「凜はこっちのかよちゃんも好きにやー」

海未「……父は人の思いを裏切るような人ではありません」

海未「きつと……何か意味があるんだと思います！」

「「……………」」ウーン

穂乃果「よし、やろう！」

ことり「うん！海未ちゃんのパパの言うことなら大丈夫だよ！」

絵里「……そうね、とりあえずやってみましょ、どこにいけばいいの？」

海未「すぐ近くに山がありますからそこへ行きます」

穂乃果「じゃあ三班に別れよう！丁度一学年3人だから3人ずつだね」

にこ「え……ほんとにいくの？」

凜「そんなこと言つてにこちゃん山が怖いんだにや〜」  
にこ「な訳ないでしょ!？」

にこ「いいわ、早く行きましょ！」

花陽「……チョロい」

海未「そういえば父から伝言を授かつていました」

希「伝言？」

海未「落ちてる薪以外拾わず、歩かないこと、だそうです」

海未「それと、穂乃果だけ別メニューです」

穂乃果「穂乃果だけ？」

凜「座禅とか組まされたりして……」

穂乃果「うへー……それだけは勘弁だよお……」

にこ「穂乃果雑念多そうだもんね〜」

凜「人のこと言えないにや〜」ボソツ

にこ「何ですつてえ!？」グイイイ!

凜「いいいいい! ほほをひっはらはいへ!!」ムニイー!

絵里「じゃあ準備して、各班スタートしましょ！」

グツ、グツ、グツ

凜「ここ地面悪くてめちやめちや疲れるにやー……」

花陽「あ、薪発見！」ダツ

真姫「この辺の木折っちゃだめかしら」

花陽「だめだよお！」

ことり「海未ちゃん、これって……」

海未「はい、おそらくファルトレクというトレーニングなんだと思います」

ことり「へー、そんな名前がついてるんだ」

にこ「トレーニング？」

希「にこつち落ちてる薪拾う時どんな体勢になる？」

にこ「どんなって……前かがみに……！」

にこ「そう言うことね」

絵里「走って拾うというのも持久力と足腰を飛躍的に鍛えるため」

にこ「この山道で走れるようになれば平地では楽勝ね」

希「まあぶつちやけトレーニング4、お手伝い6つてところやろうけど」

穂乃果「なんで穂乃果だけ薪割りなのお!？」

海未パパ「いいからやってみな」

穂乃果「うう……こうやって」スツ

穂乃果「こう！」ダン！

グシユツ！

海未パパ「ダメダメそんなんじゃ、もっとヘソの下に力を入れて！」



穂乃果「ヘソの下……」

穂乃果「はぁ！」ブンツ

パツカーン！

海未パパ「そうだ！ただ闇雲に力一杯振るんじやなく、力の出し方を考えながらやつてごらん」

穂乃果「ヘソの下……！」

穂乃果（これ……もしかして……！）

海未パパ「……」ニコツ

穂乃果「よーし！頑張るぞー！」

海未パパ「じゃあ後これだけよろしく！」

ドドーン

穂乃果「こ、こんなに〜!？」

穂乃果「はあ……はあ……」

穂乃果「終わったああ……」

穂乃果「みんなどこ行つたんだろ……」キョロキョロ

ゾロゾロ

凜「終わったにやー！」

花陽「もうクタクタだよお……」

真姫「わ……たし、は……別に……平気だけ、どね……はあ……」ゼーゼー

海未「真姫は体力ですね」

ことり「海未ちゃんどうしてそんなに元気なおく……」

にこ「体力、おぼけなんですよ……こいつら……みたい、に」ゼーゼー

絵里「そんなことないわよ」

希「にこつちが体力不足なだけやん？」

にこ「にこは普通よ！」

穂乃果「よし！じゃあ鬼ごっこしよう！」

凜「やるにやー！」

真姫「え……」

にこ「あ、明日にしない？」

花陽「た、たしかに……」

絵里「死にそんなメンバーが何人かいるわね」

海未「そんなの気持ちでなんとかあります！さあ行きますよ！行きましよう！山で鬼  
（ゴッコ）ー！」

海未「あははははは！」

ガシッ

希「まあまあ海未ちゃん」ググググ

希「疲れてるときは怪我もしやすい、まだ初日やしました明日にしよう？」ググググ

海未「う……それも……そうですね」ググググ

希「うん、わかってくれて……って……」ググググ

希「ちよつと力緩めてくれん!?未練溢れ出してゐるから!!」

海未「す、すみません……!!」スウ……ハア……

ことり「あの海未ちゃんを……!!」

穂乃果「希ちゃんは猛獣ハンター……」

凜「いや……」

穂乃果凜「珍獣ハンターだったんだ!!」ババン!



花陽「？」

カツポーン

「「はー……………」」

穂乃果「いやー疲れたね〜…………」

絵里「穂乃果はなにをしたの？」

穂乃果「薪割り！」

花陽「薪割り!?!」

穂乃果「力の入れ方とか教わったの！」

穂乃果「多分トレーニング……………な気がする」

海未「気がするんですか…………」

にこ「にこも薪拾いがトレーニングって気づいたけどね！」

絵里「希に言われてやつとね」

にこ「うぐつ……………ほ、ほんとは気づいてたの！」

希「はいはい」

にこ「きー!!」

凜「あれってトレーニングだったんだ……」

真姫「ま、私も気づいてたけどね」

花陽「気づかなかった……」

ことり「普段の練習より運動量少ないはずなのに疲れるね」

絵里「パワーアップしてる証拠よ、あと4日、頑張りましょう！」

海未「いえ、試合の前日は疲れを取る意味でも軽い練習にしましょう」

絵里「それもそうね、なら……あと3日！頑張るわよ！」

「「「おー！！」「」」ザパア！

凜（やっぱり……）

にこ（間違いない！）

花陽　バイーン！

ことり　ボイーン！

絵里　ドーン！

希　デデデデーン！

にこ凜「……」ハア

海未「どうしたのですか二人とも？」

海未「元気がないようですが……」

凜にこ「…………」チラッ

海未 ササヤカナフクラミ

凜「海未ちゃんみてたら元気出たにや」

にこ「ええ、あなたのおかげよ海未」

海未「……………そうですか……………って」

海未「どこみて言ってるんですかあああ!!」バシヤア!

凜にこ「ごめんなさいい!!」ザバア!

ご飯

凜「おいしーにやー!」パクパク

花陽「ほんのり香ばしい…………おこげの味が…………食欲を掻き立てる…………」ハグハグハグ

ハグ!

ことり「ブラックホールの再来…………」ハムツ

海未ママ「お代わりあるのでたくさん食べてくださいね」ニコニコ

花火

にこ「くらないなさい！ネズミ花火10連発！」バツ

シューーー!!!パンパンパンパン!!

花陽「ピヤアアア!!!」

真姫「ヴェエエ!!」

にこ「イヤアアア!!!」

希「あほやん」

海未「にこーー!!!」

海未。パパ「海未、少しきてくれ」

海未「なんですか？」

海未。パパ「今からこの部屋で真剣の稽古をする」

海未「!!本当にするのですね」

海未。パパ「ああ、やり方は知ってるな」



海未「はい」

海未パパ「ならばこれを……」パカッ

海未「こ、この刀は……!」

海未パパ「園田家に代々伝わる刀だ、元を辿れば沖田総司が使っていたものだから」

海未「こ、これを私に?」

海未パパ「これをつっかりと扱えるようになった時、お前に譲ろうと思う」

海未パパ「さあはじめるぞ!」

海未「は、はい!」

### 就寝前

海未「……」パチッ

海未「……おや? みなさんどうして倒れているのですか?」

絵里「……もう……海未が寝てる横で……」

ここ「枕投げはしない……」ガクッ

「「「……」」」コクリ

## 3日後

凜「みつけ！」ダッ！

凜「この地面にも慣れてきたにや！」

真姫「凜も随分薪拾い上達したわね」

花陽「サッカーも上手になつてるといいんだけど……」

にこ「ほっ！よつと……」ザッ　ダッ

希「初日より疲れにくくなつてきたなあ」

絵里「たった4日だったけど案外変わるものね」

ことり「穂乃果ちゃんどうしてるかなあ」  
海未「サボってなければ良いのですが……」

穂乃果「ほい！ほい！ほい！ほい！ほい！ほい！」パコーンパコーンパコーンパコーン  
海未パパ「初日に比べると見違えたなあ」  
穂乃果「えへへ！コツがつかめてきました！」

鬼ごっこ

希「この木の陰ならバレへんはず……！」  
にこ「あいつ……どこに……！」  
にこ「ツチ……見つけたああ!!」ダッ  
希「いやああなんでえ!?!」ダッ

にこ「その肉の塊が木からはみ出してんのよ!!」  
にこ「あんたわざとでしょ!」

希「えへ」

にこ「まてえ!!」

その夜

海未パパ「やってみろ」

海未「……」フウ……

海未「……はあ!」ザン!

ズズズズ……ゴトン

海未パパ「……いい切り口だ」

海未「ありがとうございます」

海未（……今の瞬間の鋭さ………なにか……）

海未パパ「まあまだまだ未熟だがな」

海未「これからも精進いたします」

海未（きつと気のせいですね）

次の日朝

穂乃果「ありがとうございますました！」

「」「」「ありがとうございますました！」「」「」

海未ママ「またいらしてくださいね」ニコニコ

花陽「ご飯とても美味しかったです!!」

海未ママ「ふふ、ありがとうございます。試合応援してますからね」

花陽「はい！頑張ります！」

穂乃果「よし、いこう！」ザッ

## 河川敷グラウンド

海未「今日は軽くボールを使った練習をして明日に備えましょう！」

「「「はいー」」」」

花陽「ほっ！」トツ

にこ「いかせない！」バツ

海未「！対応が素早い……!!」

凜 タツタツタツ

希「待てー！凜ちゃん！」ダツ

凜「ボールは取らせないにやー！」グンツ

希「ちよっ……まだ速くなるの!?!」

真姫「はあ!!」ドキュ!!

穂乃果「ふん!」バシッ

絵理「たあ!」ドキュ!!

穂乃果「……………行くよ」

絵里真姫「?」

穂乃果「穂乃果の超最強スーパー必殺最強技!!」

絵里真姫（最強って二回言った…）

穂乃果「はああ!」クルッ

穂乃果【ど根性キャッチ!】ドシユルル……………

絵理真姫「……………」

穂乃果「どう!?穂乃果の新必殺……………」

絵理真姫「2度とやらないで」ズバア

穂乃果「……………あい」シヨボン

海未（穂乃果……）ハア

海未（まあ、みなさんパワーアップできたようですね）

海未（私も……）

ズバア！

海未（……あの鋭い感覚はなんだったんでしょか……）

海未（なにかに活かせるかと思っただんですが……）

絵里「海未ー！もう練習終わるわよ！」

海未「は、はい！今行きます！」ダッ



## 第6話「VS御影専農！」

合宿での特別トレーニングにより手応えをつかんだ音の木坂イレブン  
御影専農に一泡吹かせることはできるのでしようか

角間「始まりましたフットボールフロンティア予選第2回戦！御影専農グラウンドで行われます！」

角間「前評判ではUTX高校にも匹敵すると言われていたその実力、どんな試合になるのか非常に楽しみです!!」

凜「なにここ……アンテナみたいのがいつぱいだにや〜」

花陽「ここ……学校だよね？」

ここ「なんかやばいことやってんじゃない？」

希「また縁起でもないことを…」

角間「両者整列完了しました！」

下鶴「無駄だと言ったのに」

穂乃果「勝負はやってみなきやわからないよ！」

杉森「データでは何度も勝っている」

海未「勝利の女神は最後まで諦めずに戦ったチームに微笑みます」

真姫「別にデータで何度勝ってくれても構わないけど？今日勝つのは私たちだけ  
ね」

杉森「……」

角間「両者配置につきました！一体どのような試合を見せてくれるのでしょうかあ  
!!」

F  
W

絵里、真姫

M  
F

ことり、海未、にこ、希

D  
F

ヒデコ、ミカ、凜、花陽

G  
K

穂乃果

ピーーーーー

ドツ

角間 「音の木坂ボールでスタートしました！絢瀬ドリブルで上がっていく！」

下鶴 「……………」

角間 「おーっと！御影専農動かない!!」

絵里 「?なんなの？」

真姫 「……………そのまま持ち込んで！」

絵里「えええ！」タッタッタッ

角間「音の木坂上がって行くー！早速チャンス到来だあ！！」

杉森「……」

杉森「ディフェンスフォーメーション！ yesリー！！」

ササササッ！

絵里「！」

デブーン！

角間「絢瀬のいく先にディフェンスが集まっている！」

角間「これでは攻めれない！！まるで絢瀬の動きを読んでいたかのようなディフェンスだあ！！」

真姫「こっち！」

絵里「えええ！」ドッ

真姫 トッ

ササササッ

真姫「つく！」

角間 「早い早い！またもやシュートコースを塞いだあ！」

真姫 「邪魔なの……よ！」 ドオツ!!

角間 「西木野強引にうったあ!!」

バシバシバシバシ!

杉森 パシッ

真姫 「ツチ……」

角間 「デیفエンスに当たって威力が削がれたあ!!杉森ナイスセーブだあ!!」

杉森 ドツ!!

藤丸 トツ

ことり 「たあー!」 バツ!

藤丸 「ふっ!」 クルツ!

ことり 「むう……!」

希 「てりやあ!」 ザザザッ  
!

藤丸 「つく!」 ドサッ

データに誤差あり、修正します

テンテンテン……

凜「よし！」トツ

にこ「前線へ繋いで！」

凜「絵理ちゃん！」ドツ

絵理「ええ！」トツ

下鶴「いかせねえよ！」バツ

絵里「海未！」ドツ

海未「はい！」トツ

角間「慎重に、しかし確実にボールを進めていきますよ！」

海未「……そろそろ行かせてもらいますよ」

下鶴「……！」

海未「はあ！」ダツ

三郷「くっ！」

花岡「くそっ」

角間「園田鋭いドリブル！二人をあつという間に抜き去った!!」

データに誤差あり、修正します

下鶴（こいつら……この間までと動きが違う）

にこ「海末の奴……やるじゃない！」

希「すごお〜」

室伏　　ガッ！

海末「しまった！」

角間「御影専農室伏、素早いディフェンスでピンチをしのいだあ!!園田、攻め急ぎ過ぎたかー!？」

室伏「下鶴！」ドッ

下鶴「ああ」トッ

にこ「まちなさいよ！」ザッ

下鶴「はっ！」ザザザッ

にこ「くっ！」ガクッ

角間 「ぬいたあー！鮮やかなドリブルだあ！！」

絵里 「『ファイアトルネード』来るわよ！」

花陽 「行かせません！」

凜 「とめるにやあ！！」

下鶴 「おらあ!!!」ドキユツ！

ヒユウウウウ………

穂乃果 「？蹴り損ねたのかな………」

花陽 「穂乃果ちゃん、気をつけて！」

穂乃果 「へ？」

ボシユウウウ!!!

下鶴 「パトリオットシュート！」



ゴオオオオオオオオ  
!!!!!!

穂乃果「マ、マジン・ザ……」

海未「間に合いません！」

穂乃果「うっ……！」バツ

バシイイイ!!!!

穂乃果「うぐぐぐ……!!!!」ズズズツ

穂乃果「うわあああ!!!!」

ドシユルルルル!!!!

角間「入ったああ!!!!!!」入ってしまった、先取点!!!高坂は必殺技を出す間もありませんでした!!」

穂乃果「あんなシュートがあつたなんて……！」ダンツ!

花陽「しょ、しょうがないよ今のは！」

海未「油断するからですよ全く……」

にこ「別に大丈夫よ一点ぐらい、でしよ？」

絵里「ええ、まかせて！」

真姫「あの時の借り、まだ返してないからね」

穂乃果「おお……！みんな頼もしいね！」

海未「なのであなたはゴールをしつかり守っていてください」

海未「油断せずに」ギロツ

穂乃果「……はくい……」シユン

ことり「海未ちゃん……ほどほどにね」

ピ—————

御影専農 1—0 音の木坂

角間「さあ失点直後の音の木坂、どう展開していくつもりだあ!?!」  
ドツ

絵里「いくわよ！」トツ

真姫「ちようだい！」

絵里「真……！」バツ

下鶴　　ザッ

絵里「チツ……」ピタッ

ことり「こつち！」

ドツ！

ことり「真姫ちゃん!!」ドツ

真姫「任せなさい！」トツ

角間「音の木坂南、ダイレクトで前線へパスをつないだあ!!」

杉森「……」

真姫「前とは違うってどこ見せてあげる！」

真姫「フッ！」ダンッ！

グルグルグル

真姫【ファイアトルネード！】

ドゴオオオオオオオ  
!!!!!!

杉森【シュートポケット！】

ブワン……………！

ボオオオオオオ  
!!!!

ドシユウウ  
!!!

杉森「……！」バツ

ドシユルルル……………  
!!!!

杉森「……………」

角間「キーパー杉森とめたあ!!素晴らしいキャッチだ！」

真姫「……まだまだ！」スタツ

凜「次行けるよー！」

杉森（…パワーが上がっている…）

データに誤差あり、修正します

杉森「藤丸！」ドツ

藤丸 トツ

海未「はあ！」ズザザッ！

藤丸「…」ドツ

花岡 トツ

ポーン

トツ

ドツ

トツ

角間「おーつとお、これは!? デイフェンスにボールを戻して攻めない!! どうした御影専農!!」

海未「どうして攻めないのですか！」

山岸「どうして攻めなせればならない？」

海未「!!」

希「くっ……！」バツ

藤丸 ドツ

花岡 トツ

希「ああもう！」

凜「全然攻めてこないにやろ……」

花陽「どうしたんだろ……」

角間「御影専農、自陣でボールを回しなかなか攻め上がらない!!これは時間稼ぎかあ  
!？」

監督「……………サッカーサイボーグ、か」

ヒーヒーヒー

角間「ここで前半終了おー!!後半はどの様なプレイを見せてくれるのでしょうかあ  
!!」

控え室前

ゾロゾロ

杉森「……………」テクテク

希「ちよ、ちよつと落ち着いてつて……………」

穂乃果「杉森さん!!」

杉森「……………」ピタッ

穂乃果「どうして攻めてこないんですか!」

希「こういうのは戦略としてあるんよ穂乃果ちゃん」

穂乃果「……………!でも……………!」

杉森「1点でも100点でも勝利は勝利だ」

下鶴「データより少しはパワーアップしたようだが無駄だったな」

穂乃果「本当のサッカーは、もつと……………こう、心の底から楽しいものなんです!」

穂乃果「杉森さんたちはどうしてシュートを決めても笑顔にならないんですか!!」  
杉森「笑顔……?」

下鶴「そんなものサッカーに必要ないだろ」

杉森「……ああ、後半も同じだ」

スタスタ　ガチャ

ことり「……穂乃果ちゃん……」

穂乃果「………」

穂乃果「データが全てじゃないって……思い知らせる!」

凛「めつためたにしてやるにや!」

花陽「うん!」

にこ「練習の成果出てるじゃない」

海未「まだまだ足りませんよ」

絵理「あれがまさか全力なんて言わないわよね?真姫」

真姫「この私がそんなわけないじゃない」

真姫「それよりそつちもちゃんとパワーアップしてるんでしょね」



絵里「当たり前じゃない、かしこいかわいいエリーチカだからね♪」

真姫「かしこいかわいい……何って？」

絵里「な、なな何でもないわ！忘れて！」

真姫「？」

「試合終了！」

効率を重視した機械のようなサッカーに怒りを隠し切れない穂乃果  
後半の敵の戦略は……

ピーーーーー

御影専農 1-0 音の木坂

角間 「さあ後半が始まりました！音の木坂逆転なるかあ!？」

下鶴 ドツ

花岡 トツ

角間 「またディフェンスにボールを戻したあ！やはり攻めない！」

穂乃果 「……攻めてこないならここにいてもしょうがないよ！」 ダツ

ガシッ

穂乃果「ウグツ!!」ドサッ

穂乃果「な、何するのさ!?!」

ヒデコ「あんたはキーパーなんだからみんなを頼って守ってなって」

穂乃果「で、でも……!!」

ミカ「みんなで特訓……したんでしょ?」

角間「おーっと矢澤! 強引に奪い取ったあ!!」

穂乃果「!」

ミカ「ほらね」

にこ「希!」ドツ

希「任せて!」トツ

山岸「スーパースキャン!」

希「どれが本物のボールかな?」

クルッ

スタッ

希【イリユージョンボール】

山岸「なっ!?!」

未確認の必殺技確認、記憶します

にこ花陽（あの技……!）

希「お先〜!」タツタツタツ

凜「すごいにや〜希ちゃん!」

絵里「いつのまにあんな技……!」

希「真姫ちゃん!」ドッ

真姫「今度こそ……!」トッ

グルグルグル

真姫【フアイアトルネード!】

ドゴオオオ  
!!!!

角間「再びゴールを狙う西木野お!! 同点ゴールなるかあ!?!」

杉村【シユートポケット!】

ブワン……!

ボフアアア!!

ドシユウウウ!!

杉森「つく!」バツ

ドシユルルル!!

杉村「!!」バチイ!

テンテンテン……

下鶴「ば、バカな!」

データに再度誤差あり、修正します

角間 「は、弾いたあ!! ルーズボールを拾うのは誰だあ!？」

絵里 「はああ!!」 トツ

角間 「絢瀬が拾ったあ!! そのままシユートかあ!？」  
にこ 「いきなさい! 絵里!」

絵里 「吹き荒れる……」

パキパキパキパキ

絵里 「エターナルブリザード!」

ドゴオオオ  
!!!!

杉森 「シユートポケット!」

ブワン……!!

パキパキパキ

ドシユウウウ!!

杉森 「つく!」 バッ

ドシユルルル!!

バチイ!!

テンテンテン……

データに誤差あり、修正します

角間 「またもや弾いたあ！」

絵里 「ツチ……」

穂乃果 「惜しいよ二人とも！」

真姫 「絵里！」 ドツ

絵里 「ええ！」 トツ

角間 「ボールは再び音の木坂！ シュートの嵐だあ!!」

絵里 「エターナルブリザード！」

ドゴオオオ!!!

真姫 タツタツタツ

角間 「西木野が走り込んでる!?! こ、これは……」

グルグルグル

真姫【ファイアトルネード！】

ドゴオオオオオオオオオオオオ

角間「シユートチエインだ!!!!!!  
あ!!これは決まるかあ!?!」

杉森「つ……………!」

杉森【ロケットこぶし！】

ドオオオ  
!!!



角間 「ふ、防いだああ!!! 完璧なブロックだあ!!」

真姫 「……ハア」

絵里 「そんな……」

海未 「まだ技を隠し持っていたのですか……!」

杉森 「……不可解だ」

杉森 (シユートポケットで対処できると思ったが……)

杉森 「……プログラムの故障か？」

ヒユウウウウ

角間 「ブロックしたボールはあ!？」

藤丸 バツ

花陽 「取らせません！」 バツ

ガツンツ!!

花陽 「きやあ!!」 ドサッ

藤丸 「うぐっ……!」 ドサッ

角間 「これは激しいぶつかりあい!! 大丈夫かあ!？」

テンテンテン……

凜 「ことりちゃん!」 ドッ

凜 「かよちゃん大丈夫?」 ギイッ

花陽 「みんな……強くなってる……! だから私も!」 グッ

希 「ナイスガッツ! 花陽ちゃん!」

にこ 「怪我すんじゃないわよ」

ことり 「ハア、ハア」 タッタッタッ

花岡 ザッ

ことり 「はあ!」 クルッ ザザ!

花岡 「つく!」

データに誤差あり、修正します

角間 「南ドリブル突破!!滑らかなスピンドあ!!」

ことり 「海未ちゃん！」ドツ

海未 「はい！」トツ

穂乃果 「いけー！海未ちゃん！」

ズバア！

海未（あの鋭さを……シュートに……!!）

ドキュ!!

杉森 【シュートポケット】

ブワン……………!!

パシッ

海未「まだ……もつとです！」

真姫「……海未？」

杉森「弘山！」ドッ

弘山「……」ドッ

トッ

ドッ

角間「再び自陣でボールを回していく!!」

にこ「こいつら……!!」

希「さつきより徹底してる……」

下鶴「そのまま試合終了まで指くわえて見てな」

にこ「くっ！」

???「……」タツタツタツ

花岡 トッ

穂乃果「てやあああ!!!」ズザザ!

花岡「!?」バツ

ことり「ほ、穂乃果ちゃん!」

角間「おおっとお!? キーパー高坂上がってきていたあ!! しかあし! ということは……」

ヒデコ「あー! 目を離れた隙に!!」

ミカ「早く戻ってきて!」

角間「ゴールはガラ空きだあ!」

花岡「くっつ!」ザザッ

杉森「なんだこいつ……なぜキーパーが…」

穂乃果「ここ!」ドキュッ!

ポーン!

角間「ボールを蹴り出したあ! 均衡を破ったぞ!!」

下鶴「チィ……!!」

下鶴(なんだ……なんで思い通りにならない……!!)

海未「ナイスプレーですが早く戻りなさい!! おバカ!!」トッ

穂乃果「えっへへへ! 試合で初めてブロックしちやった!」タツタツタツ

凜「それでこそ穂乃果ちゃんだにや!」

花陽「早く! 早く戻ってえ〜!」

絵里「す、すごいわね……」

真姫 「さすがといふかなんといふか…」

角間 「ブロックしたボールは園田へ！一体どうする!？」

海未 「……………」 ザッ

絵里 「海未！こっちへ……………」

真姫 「そのまま打って!!」

絵里 「真姫？」

真姫 「多分……………」

真姫 「何かやろうとしてる」

絵里 「何か……………」

杉森 「お前のシュートでは決められん」

海未 「……………」

海未 「……………」 フッ

トン……………」

試合前日の夜

海未。パパ「とういうわけで、真剣の修行は今日で終わりだ」

海未「お、終わりですか？」

海未。パパ「ああ」

海未「まだ……1週間もたっていないませんが」

海未。パパ「いいんだ」

海未「……?わ、かりました」

海未。パパ「どうだ」

海未「はい?」

海未。パパ「サッカーに生かせそうなことはあつたか？」

海未「……!」

海未「そのために……?」

海未。パパ「……さあな」

海未「……正直わかりません」

海未「……」

海未「そういえば、この刀の名前はなんというのですか？」

海未パパ「？言ってなかったか？」

海未「はい」

海未パパ「その刀の名前は……」

—————

ズバア!!

海未【菊一文字!】

ドゴオオオオオオオ  
!!!!!!

真姫「海未の新技……」

ことり「すごい……」



杉森 「こ、こいつの必殺技は……データがない……!!」  
杉森 「データにないぞおお!!」 バッ

杉森 「シュートポケット！」

ブワン………!

ズバア!!

ドシューウウ!!

杉森 「つぐ……！」 バッ

ギョルルルルル!!!!

杉森 「ぐぐぐ………！」

海未 「決まってください！」

穂乃果 「決まれえええ!!!」

杉森 「ぐ………ぐあああ!!!」 バッ

ドシユルルルルル………!!!!

角間「き、決まったあああ!!! 同点ゴールは園田です! 新必殺技で決めてきましたああ  
!!」

穂乃果「すごいよ海未ちゃん!!」

ことり「いつのまに覚えたの!?!」

海未「父にヒントを教えられました」

海未「成功して良かったです」

花陽「すごい威力だったよ!」

海未「っ……」

凜「さっすが海未ちゃんだにや〜!」

希「……」

希「ちよつとごめんな」グッ

海未「いっ……!」

海未「な、何するんですか希!!」

希「さっきのシュートで痛めたやろ?」

海未「！……気づいていたのですね」

ヒデコ「…交代する？」

海未「いえ、少しテーピングを巻いてきます」

フミコ「救急箱持ってきたよ！」パカッ

海未「ありがとうございます」シユル

フミコ「私たちが巻くからじつとしててね」

海未「いえ、そこまでは……」

ミカ「いいから、任されてなよ！」

海未「……すみません、では」

ココガイタイ？

ハイ、コノスジノトコロガ

オツケー！

シユルルルル マキマキ

凧「そ、それじゃああのシユートは打てないの？」

希「これからのことを考えるとやめておいたほうがいいかもね」

凧「そっか……」

にこ「凧、私たちも油断はできないわ」

にこ「敵はまた点を取ってくる」

凜「にこちゃん油断しちゃダメだよ」

にこ「あんたに言ったのよ！今！！」

海未「穂乃果、頼みましたよ」

穂乃果「うん、もう一点もとらせないよ」

絵里「私たちも……ね、真姫」

真姫「ええ、」

真姫「借りを返さないと気が済まないわ」

希「フフ、頼もしいね」

穂乃果「さあ！あと一点！絶対にとるよ！」

「「「「おー！！」」」」

下鶴「……………」

杉森「どうした？」

下鶴 「いや……」

杉森 「？」

角間 「さあ同点になりました！時間消費を目指していた御影専農は一体どのような攻めを見せるのか！」

ピ—————

御影専農———音の木坂

ドッ

下鶴 「はあ！」ダッ

にこ 「きやあ！」ドサッ

角間 「御影専農下鶴！強引にドリブル突破だあ!!」

にこ 「この……!!」

花陽 「私が！」ザッ

ミカ 「行かせないよ！」ザッ

下鶴 「ハッ」ドッ

山岸 ドッ

下鶴「よつと！」トッ

花陽ミカ「そんな……！」

角間「これは下鶴鮮やかなワンツ―！計算されたチームワークです！」

下鶴「もうデータの修正は済んだ」

穂乃果「こい！」パン！

グルグルグル

下鶴【ファイアトルネード！】

ドゴオオオオ  
!!!!!!

穂乃果「おへその下……おへその下あ!!!」バツ

ゴオオオオオオオオオオオオオオオオ!!!

穂乃果「マジン・ザ・ハンド！」

ドシューウウウウ……………!!

下鶴「な、なに!」スタツ

角間「止めたああ!!!高坂、圧巻のキープ力だああ!!」

杉森「バカな…………シミュレートでは決まっていたはず…………」

下鶴「この短期間でどれだけパワーアップをしているというんだ…………!!」

穂乃果「凜ちゃん!」ドツ

凜 トツ

角間「星空へボールが渡ったああ!!」

下鶴「素直に行かせるかよ!!」ザツ!

角間「が、しかあし!!すぐさま下鶴が立ちはだかる!!」

凜「遅いよ!」ダツ!

下鶴「…………!くそつ…………!」

データに誤差あり、修正します

凜「ことりちゃん！」ドッ

ことり「うん！」トッ

花岡「止める」ザッザ

杉森（もうあいつのデータの修正は済んでる）

ことり「はあ!!」ザザザッ

ダッ!

花岡「そんな…！」ガクッ

データに再度誤差あり、修正します

角間「抜いたあ!!先ほどよりキレが増しているぞ！」

杉森「こいつら……試合の中で強くなっているのか……?」

弘山 シュバッ!

ことり「あう……!」

角間「御影専農弘山、素早いブロックでボールを奪ったあ!!」

ドッ!

藤丸 トッ

にこ「てやあ!!」ザザザッ

!

ポーン!



データに再度誤差あり、修正します

角間 「矢澤思い切ったスライディング！飛んでいったボールは東條へ！」

希 「ほっ！」 トツ

山岸 「先ほどの技はもう記憶した」

希 「なら止めてみ？」 ニツ

クルツ スタツ！

希 「イリユージョンボール！」

山岸 「スーパースキャン」

ザザツ！ タツタツタツ

山岸 「その程度か」 タツタツタツ

角間 「山岸！東條のイリユージョンボールを破ったああ……………？」

希 「……………」

希 「えーと……………」

希 「君はなにを取ったつもりでいるん？」 トツ

山岸「なっ……!!ボ、ボールは!」キヨロキヨロ

角間「なあと!!ボールは東條が持っていたああ!!これぞまさにイリユージョンだあ!!」

希「君が取ったのは幻やったってことかな」

希「エリチ!」ドツ

絵里「ナイスよ希!」トツ

真姫「絵里!」グツ

ダンツ!

絵里「吹き荒れる……」

パキパキパキパキ

絵里【エターナルブリザード!】

ドゴオオオオ!!

グルグルグル

真姫「ファイアトルネード！」

ドゴオオオオオオオオオオ  
!!!!!!

ビーーーーーー      ビーーーーー      ビーーーーー

危険度、レッドゾーンです

杉森「バ、バカな……！」

杉森「こんなことが……あつてたまるかあ！」バツ

杉森「ロケツトこぶし！」

ドオオオ!!!

杉森「ぐっ……！」ググググッ

絵里真姫「いける!!!」

杉森「何故だ………何故！」ググググ

ドシューウウウウウ  
杉森「ぐわあ!!」バツ!!!!

角間「決まったあああ!!!決勝点を入れたのは絢瀬と西木野のダブルエースだあ!」

「「「「いやったあ!!!」」」」

花陽「信じてたよお二人とも!!!!」

穂乃果「ついにやったね!!」

凜「流石だにや!!」

にこ「あんたちよつと疑ってたじゃない」

にこ「海未ちゃんがシュート打てないの?やばいにやろって」

凜「なんのことにや?」

にこ「こ……こいつ……!!」

希「やったね、エリチ、真姫ちゃん!」

絵里「ええ!」スッ

真姫「別に……」スッ

パンツ！

杉森 「なぜだ……完璧なデータを持っているはずなのに……」  
下鶴 「完璧な……データ……」

ピーーーーーー

角間 「さあ一点ビハインドの御影専農！どう攻めていく!?」  
ドツ

下鶴 「データは絶対だ！」ダツ  
にこ 「さつき突き飛ばしたお返しよ！」

下鶴 「もうお前のデータの修正は……」  
ガツ！

にこ 「はっ！案外大したことないわね！」トトツ

角間 「音の木坂矢澤、小柄な体格を生かしたディフェンスで下鶴からボールをうばっ

たあ!!」

下鶴「そんな……」ガクツ

データに再度誤差あり、修正します

下鶴「……何回修正するんだ……」

下鶴「……!」ギリイ!

下鶴「……こんなもの!!」ブチイ

ポトツ

杉森「…アラタ!」

下鶴「うおおお!!」ダダダダツ!

にこ「きやあ……!!」ドサツ

角間「下鶴再度ボールを奪い取ったああ!!恐ろしい執念だ!!」

下鶴「……」ザザザツ

下鶴「みんな!!いいのかこのまま終わっても!」

御影専農「!」

下鶴「データばかり追いかけてもこいつらには勝てない!」

下鶴「ならするしかないだろ!自分たちのサッカーを……!!」

下鶴「俺たちのサッカーはデータの中にあるんじゃない……」

下鶴「フィールドの中にあるんだ!!」

御影専農「……………」コクリ

ブチイ　ブチツ　　ブチイ　　ブチイ　　ブチイブチツ

杉森「……………」

杉森「俺は…………キャプテン失格だな」

ブチツ

下鶴「藤丸!」ドツ

藤丸　トツ

海未「通しません!」ザツ

ズキイ!

海未「ぐっ……………」ヨロツ

藤丸「はあ!」ダツ

海未「しまった!」

角間「藤丸園田を抜いたあ!!」

藤丸　ドツ

下鶴「よし!」トツ

山岸「はあ！」ドシュ！

穂乃果「たあ！」パシッ

真姫【フアイアトルネード！】

杉森【シュートポケット！】

真姫「ツチ……」

杉森「フツ……」

藤丸「くそっ……！」ザザッ

にこ「やるじゃない……！」ザッ

下鶴【パトリオットシュート！】

穂乃果【マジン・ザ・ハンド！】

下鶴「次は決める！」

穂乃果「受けて立つよ！」

希【イリユージョンボール！】

山岸【スーパースキャン！】

希「そんな……!?!」

山岸「よし………!」



角間「こ、これは壮絶な試合展開……!! 一体勝利の女神はどちらへ微笑むのでしょうか!!」

下鶴「……このままじゃ……!」

杉森「アラタアア!!」ダダダダ!

下鶴「キャプテン!!」

杉森「あがるぞ!」

角間「な、なな何ということでしょうか! キーパー杉森が下鶴と共に上がっていく!」

絵理「面白くなってきたじゃない」

希「ディフェンス!」

凜「任せるにやあ!!」バツ!

杉森「アラタ!」

下鶴「ああ!」ドッ!

杉森 ドッ

下鶴 トツ

凜 「そんな……!!」

角間 「またまたワンツ―だあ!だが先ほどより隙がなくなっている!!」

花陽 「と、止めます!」 バツ

下鶴 チラッ

花陽 「!させません!」 ダツ

下鶴 「甘いんだよ!!」 シュバツ!

花陽 「あ……!!」

角間 「ワンツ―と見せかけてそのままぬいたあ!!前半より攻撃にキレが出ているぞお!!」

杉森 「いけるか?」

下鶴 「………多分」

杉森 「ハハ!多分なんて言ったのいつぶりだろうな」

下鶴 「これから何度だって言うようになるさ」

杉森 「行くぞ!」 バツ

下鶴 「ああ!」 バツ

グッ グッ

ダンッ！                      ダンッ！

グルグルグル

絵里「あれは……【ファイアトルネード】！」

グルグルグル

花陽「す、杉森さんも!？」

希「【ファイアトルネード】!？」

真姫「いや、回転が逆よ！」

杉森下鶴「はあああ!!」

杉森下鶴【ダブルトルネード!!】

ドキュウウウウウウウ!!!!!!

角間「こ、これは!?!? 御影専農の捨て身の必殺技だあああ!!!」

穂乃果「杉森さんと下鶴さんの熱い思いが、痛いほど伝わってくる……!」ブルッ

穂乃果「でも、穂乃果たちも負けるわけにはいんだよ！」バツ  
ゴオオオオオオオ!!!

穂乃果【マジン・ザ・ハンドオ!!】

ドシユルルルルルルルルル!!!

下鶴杉森「いけええ!!」

海未「止まれ!!」

ギユルルルルルルルルル  
!!!!!!!

ドシユウウウウ………!!

穂乃果 ニッ

角間 「と、止めたあ!! 御影専農の捨て身のシュートを最後に受け止めましたお!!」  
ピッピッピッピッピッピッ

角間 「ここで試合終了のホイッスル!!」

角間 「勝つたのは音の木坂だああ!!」

角間 「実況は角間、角間でお送りいたしましたあ!!」  
ありがとうございます!!

穂乃果 「杉森さん!」

杉森 「ああ、データばかりに囚われていたのが馬鹿みたいだ」

海未 「気持ちをつつけ合い、精一杯戦う、それが私たちのサッカーですから」

下鶴 「今頃その大切さに気づけた、ありがとう」

下鶴 「足を怪我していたようだが大丈夫か?」

海未 「はい、軽く痛めただけですから」

杉森 「いいシュートだった」

海未「！ありがとうございます！」

杉森「……………」

杉森「音の木坂の皆……」

「「「「「？」「「「「」」

杉森「数々の非礼、本当にすまなかつた、どうか」ペコリ

下鶴　ペコリ

御影専農一同　ペコリ

海未「そ、そんな……顔をあげてください！」

ことり「そ、そうだよお……」

にこ「いや、あれは許されることじゃ無いわね」

凜「そうにやそうにや！」

絵里「にこ……………」

花陽「り、凜ちゃん……………」

杉森「なんでも言ってくれ」

にこ「じゃあ……………」チラッ

凜「うん！」チラッ

音の木坂一同「……………」ゴクリ

にこ「また私たちとサッカーしなさい」

凜「前半みたいなのじゃなくて最後みたいに！」

杉森「ああ……!!もちろんだ！」

下鶴「次会うときはまたよろしく頼む」

穂乃果「うん！またサッカーしようね！」

監督「全てを出し切ってぶつけ合った後にこそ真の友情が芽生えるんだ」

凜「監督！雷雷軒いこ！」

「「「「いえー!!」」」」

響木「金は払えよ」

「「「「あー……」」」」

海未「当たり前です！」

ヒデコ「今日は私たちも行くね！」

フミコ「今日は休みでいいよね」

ミカ「いいでしょ！」

穂乃果「よし！じゃあ早速……レッツゴー！」  
「「「「「おー！」」」」」」

真姫パパ「まだ……送られてこない……」

看護師「西木野さん！オペ中にほーつとしないでください！」

真姫パパ「あ、ああ……」ズブツ

真姫パパ「……間違えた」

看護師「西木野さあん!!!」



## 第7話「個性的な方々」

なんとか二回戦を突破した音の木坂、次の対戦相手の情報を入手するがなんとも信じがたい内容で……

カランカラン

「「おかえりなさいませ！ご主人様！」」

「ここに……おかしくない？」

「ここに「な」さんで「こ」たちメイド喫茶でバイトしてるのよ!？」

花陽「そ、それは……」

穂乃果「よーし！次の試合まであと3日！」

穂乃果「今日も練習がんばるぞー！」

「「「「おー！」」」」

凜「そういうえば海未ちゃん、あれって本当なの？」

海未「あれ、とは？」

凜「ほら、次の対戦相手はメイド喫茶に入り浸ってるっていう」

絵里「にわかには信じ難いわね」

にこ「そんなチームが準決勝まで上がってきてるとは思えないけど…」

ことり「あ、あのく…」

海未「どうしました？ことり」

ことり「ことり今日ちよつと用事が…」

にこ「今日も休むの？」

ことり「う、うん…」

絵理「用事があるならしょうがないわ」

絵里「明日は来れるでしょう？」

ことり 「うん…ごめんね？」

タツタツタツ

花陽 「用事ってなんなんだろう…？」

希 「練習を休み人目につかないところで密会…：相手との関係性やいかに！」

凜 「真相はCMの後で！」

穂乃果 「CM入りまーす」

バシバシバシッ！

にこ 「ふざけてる場合じゃないでしょ！」

希凜穂乃果 「すみません…」 シユン

花陽 「そうですよ！スキヤンダルなんてチームの危機！一大事ですよ！」

真姫 「そんなに心配ならついていけばいいじゃない」

ササササッ

真姫「なんで私もなのよ!!」

穂乃果「真姫ちゃんしー! 気づかれちゃうよ!」

真姫「誰によ……ことりはもうどこいったかもわからないじゃない」

絵里「もし近くにいたらバレちゃうじゃない」

真姫「どうして絵理までそんなにノリノリなの……?」

凜「海未ちゃん! 今ことりちゃんはどこにいるの?」

ピッピッ

希「もうナチュラルに発信機を使うのすごいね」

絵里「もしかして私たちにも……!」

にこ「ヒッ……!」

海未「それはないので大丈夫です」

希「そこまでバツサリいかれるとそれはそれでシヨックやなあ……」

にこ「シヨックとは」

海未「……おや? ここは……」

希「どこなん?」

海未「それが……」

海未「メ、メイド……喫茶、というところですよ」

「「「メイド喫茶!」」」

花陽 「ことりちゃん……メイド喫茶にハマってるのかな……」

にこ 「だからって練習をサボるのはいただけないわね」

穂乃果 「……よし! みんなで突撃だ!!」

にこ 「ひっ捕らえて引きずり出すわよ」

花陽 「お、お手柔らかにね……」

カランカラン

穂乃果 「たのもー!」 バンツ!

海未 「穂乃果……道場ではないのですからもう少し静かに……」

「おかえりなさいませ!」主人……さ、ま?」

ことり 「……うそ」

花陽 「ことりちゃん……!?!」

メイド「ミナリンスキーちゃんどうしたの？」

絵里「ミ、ミナリンスキー……？」

にこ「あ、あんた……」

絵里「そ……」

「」「」「そつち（メイド）!?!?!」

ことり「あうう……」

穂乃果「いつ頃から始めたの？」

ことり「3人でサッカー部を作ったあたり……かな」

にこ「結構前ね」

絵里「というかミナリンスキーってなによ!？」

花陽「ミナリンスキーといえば……」

花陽「出てきて数ヶ月でカリスマとまで呼ばれるようになった伝説の!？」

ことり「なんか……いつのまにかそうなっちゃって……」

凜「きっかけはなんだったの?」

ことり「うん、駅前で呼び止められて……」

ことり「最初はあるまり乗り気じゃなかったんだけど、だんだん面白くなってきて

……」

海未「なぜ…メイド喫茶を?」

ことり「私は…何も無いから」

穂乃果「何も無い?」

ことり「穂乃果ちゃんや海未ちゃんたちと違って……何も……」

ことり「……」

「「「「……」」」」ウーン

穂乃果「そうだ!」

海未「何か考え付いたのですか?」

凜「嫌な予感しかしないにや……」

絵里「いや、万が一もあるかも」

希「エリチ……」

穂乃果「私たちもメイドをやろう!」

「「「「はあああ?」」」」」

にこ「なんでそんなぶっ飛んだ発想になるのよ！」

海未「そ、そそそそうですよ！」

海未「メイドなんて……破廉恥です！」

希「別に破廉恥では無いような……」

真姫「私は反対」

花陽「メイドはちよつと……」

穂乃果「だって次の相手はメイド喫茶大好きなんでしょ？」

絵里「……！わかったわ、情報収集ね！」

穂乃果「その通り！さすが絵理ちゃん！」

海未「くっ……！情報収集のためとあらば……!!」

花陽「そ、そんなあく……」

真姫「じゃ、あとは頑張つてね」トコトコ

ガシツ

真姫「うえええ!!？」

海未「逃がしませんよ……！」ギリギリ

真姫「わ、わかったから痛い痛い!!」

にこ「にこは嫌よ！誰がメイドなんか……」



凜 「にこちゃんもうフリにしか聞こえないにや……」

ことり 「店長く！大丈夫ですか？」

店長 「……」グツ  
シヤクシヤク

凜 「……スイカ食べてる……」

カランカラン

にこ 「おかえりなさいませ！ご主人様あ〜？」

にこ 「お二人ですかあ？にこがご案内いたしまあ〜す！」

にこ 「こちらへどうぞ！にこ！」

凜 「やつぱり……」

花陽 「昔のバイト先のような安定感……」

絵里 「流石にこね！」

希 「にこつつちやるときはやるからなあ」

カランカラン

凜「いらつしやいませ！」

ことり「凜ちゃん、いらつしやいませじやなくておかえりなさいませって言わなきや  
！」

ことり「ご主人様だからね」

凜「……ことりちゃんもアニメではいらつしやいませって……へブチ！」チョップ

凜「痛いよお〜！」バツ

真姫「言つてはいけないことを言う気がしたからつい……」

花陽「あ……ははは」

カランカラン

穂乃果「へいらつしやい！」

ことり「ほ、穂乃果ちゃん!？」

海未「居酒屋ですか……」

花陽「穂乃果ちゃんらしいね」

穂乃果「そんなこと言うのはこの口か！」プニプニ

花陽「ううう……！ほっぺプニプニしないでえ！」プニプニ

「こつち注文お願いしたいんだなあ〜！」

真姫「…はあ、はいはいただいま」スタスタ

相戸留「今日は新しい子が多いんだな！みんなアイドルみたいに可愛いんだな〜！」

真姫「…そんなことより注文を…！」

仮沢装　　ダッ

ササササッ

真姫「なっ…！なにを…!!」

穂乃果「あ！真姫ちゃん猫耳つけてる！」

凜「ノリノリだにや！」

仮沢装　　スッ

凜「え？凜たちも？」

穂乃果「わあ！穂乃果は犬耳だ！」

真姫「こんなのいらな…！」

穂乃果「どう？凜ちゃん！」ワンワン！

凜「似合うにやー！凜は凜は？」ニヤーニヤー！

穂乃果「似合ってるよお〜！」わしやわしや

凜「にや〜!!」

仮沢装「グー！」グー！

相戸留「目線、こつちにお願いなんだな！」パシヤパシヤ

真姫「ちよっ……！やめなさいよ！」

穂乃果凜「いえーい！」

真姫「二人も！」

穂乃果「ほらほら真姫ちゃんも！」グイッ

凜「せつかくだから！ね？」グイッ

真姫「なんで私まで……」

相戸留「じゃあ最後に一枚！」

穂乃果凜「いえい！」ニヤー      ワン

真姫「い……いえーい……」ハア

パシヤッ！

希「お客さん居なくなつたから来てみたらなんか面白いことになつてるやん」

絵里「真姫随分ノリノリね」

真姫「ちがつ……!!これは!!」

穂乃果「希ちゃん!」

凛「この人アイドル好きなんだつて!」

にこ「なんですつて!?!」

ダッ

にこ「誰!!アイドル好きは!」

相戸留「俺なんだなく!」

にこ「……ごほん」

にこ「につこにつこにー!あなたのハートにラブニコ!みんなのアイドル矢澤にこで

す!今日はく!にこのことだけでも覚えて帰ってください!にこ!」

音の木坂一同「……」

凜「寒い……寒いにや……」ガクブル

真姫「絵理の【エターナルブリザード】より寒いわ……」ガタガタ

絵里「真姫……」

にこ「あんたら……覚えてなさいよ……!」

相戸留「可愛いんだな〜!!」パシヤパシヤ

仮沢装 スッ

にこ「やーん!ありがとうございます!!」スチャツ

希「にこつちの一発芸が受けてる……!」

にこ「一発芸じゃないわよ!!」

花陽「それは……うさぎ?」

仮沢装「グー!」

真姫「頭痛くなつて来たわ……」

ことり「あの〜、皆さんにお聞きしたいんですけど……」

ノベル「なんだい?」

漫画家「僕らが答えられることなら答えるよ」

相戸留「ミナリンスキーの頼みとあればお任せなんだな！」

仮沢装「グー！」

ことり「えっと、メイド喫茶によくお越しになるサッカーチームって知りませんか？」

ノベル「んー、聞いたことないなあ……」

漫画家「君たちサッカーやってるのかい？」

穂乃果「はい！今大会中なんです！」

凜「次は準決勝だにゃ！」

漫画家「奇遇だなあ、僕らも今ちよつと大きな大会に出てるんだよ」

穂乃果「サッカーやってるんですか!？」

凜「びつくりだにゃ……」

ノベル「僕らも次準決勝なんだ」

真姫「まさか……」

漫画家「なんて大会だっけ……」

相戸留「えーつと……忘れたんだな」

ノベル「フットボールフロンティアだよ」

花陽「……え？」

漫画家「あぁ〜！確かそんなだった気がするよ！」

真姫「うそ……」

絵里「フ……」

「「フットボールフロンティアア〜!」」

ことり「じゃ、じゃああなたたちが!」

希「秋葉名戸学園!」

漫画家「うん、そうだよ」

海未「メイド喫茶に入り浸るサッカーチーム……」

海未「まさかこの方々だったとは……!!」

穂乃果「とりあえず海未ちゃんは裏方から出てこよっか」

凜「声が遠いやく」

絵里「今日は練習休みなんですネ」

漫画家「? 僕らは練習なんてしないよ?」

海未「それは……一体どういう……」

ノベル「あ、もうこんな時間だ」



ノベル「そろそろ帰ろうか」

相戸留「だなく」

海未「ちよ、ちよつと待ってください!」

ノベル「3日後、よろしくたのむよ」

漫画家「僕らは……勝たなくちやいけないんだ」

相戸留「だなく!」

カランカラン

穂乃果「……行っちゃった……」

ことり「どんな試合になるんだろ……」

カランカラン

「「」」

ことり「おかえりなさいませ……!」

相戸留「さ、さいごに!」ハアハア

仮沢装 サササツ

スチャツ スチャツスチャツスチャツスチャツ

凜「こ、これは……!」

希「たぬきさん……」

絵里「きつね……」

花陽「シカさん……」

海未「黒うさぎ……」

ことり「……………トサカ」

凜「ブフウ…!!」

ことり「な、なに!?凜ちゃん!」

凜「だ……だ……だ……!!ト、トサカ……ふふ……」プルプル

ことり「わかってるから言わないで!」

ことり「ふん!」プクーツ

凜「ことりちゃんごめんにや〜!!」ダキッ

ことり「……………ふん!」

凜「なんでもいうこと聞くからあ!」

希「あ」

真姫「言っちゃった……」

ことり「……………なんでも?」

凜「い、いや……なんでもっていうのは言葉の綾っていうか……ね?」

ことり「なんでもかあ〜!」

ことり「…………… うん！許してあげるね！」

凜「そんなあ……………」

海未「自業自得ですよ」

希「……………」コソツ

凜「？」

「トサカの大盤振る舞いや〜」

「フハンツ……………!!」ブフウ……………!

ことり「……………」

凜「……………」

ことり「うわーん!!!」ダキッ

希「よしよし、大丈夫よ」ヨシヨシ

凧「待つて今の絶対希ちゃんのせいだよね」

相戸留「じゃ、最後に一枚お願いしたいんだな!」

絵理「ハイみんな並んで」

穂乃果「ほらほら凧ちゃん!並んで並んで!」

凧「うゝ…!腑に落ちない!」

にこ「ちよつと、センターは私よ!」

相戸留「はい、チーズなんだなあ!」

パシヤ!

カランカラン

にこ「ふー、今度こそ帰ったわね」

真姫「まったく…誰がこんなもの…!」

凧「ねえことりちゃん、肩もんで欲しくない?」

ことり「え、いいの？ありがとう凜ちゃん！」

ことり「お願いは使わないけど」

凜「ううう……」モミモミ

海未「ことり、恐ろしい子……！」

にこ「花陽、次の相手……どう見る？」

花陽「はい、前評判では参加校最弱とまで言われてたけど……」

花陽「どうなんだろ……」

にこ「まあ準決勝まで来てるわけだけど……」

にこ「……油断しなければ今までの相手よりマシでしょ」

花陽「そうだね」

にこ「だから油断はダメよ」

花陽「はい！」

絵里「さ、片付け始めるわよ」

ことり「細かいのはことりがやるからみんなは拭き掃除お願い！」

「「「「はーっー」」」」

海未「……………」

ことり「？海未ちゃんどうしたの？」

穂乃果「ボケたけど誰も拾ってくれなかったから拗ねてるの」

海未「別に……………気にしてなんか……………フフ」ブツブツ

ことり「うわあめんどくさい時の海未ちゃんだ」

穂乃果「もう少しオブラートに包もうね」

シヤクシヤクシヤク

凜「え、あの人凜たちが来てからずっとスイカ食べてる……………」

真姫「あれがラストの一つね」

花陽「はらしよ……………」

河川敷

にこ「ほら！もつと気合い入れなさい！」ダッ

ゼーゼー

凜「はあい!!」ダッ

花陽「はああく……もうだめ……」バタッ

凜「か、かよちん!?!」ザッ

にこ「何よ……ハア、もう、限界なの？」ハアハア

花陽「凜……ちゃん……最後に……言わなきや、いけない……こと、が……」ガクッ

花陽「……」

凜「かよちん……?かよちん!!」ユサユサ

にこ「……休憩にするわよ」

花陽「やった!」ガバッ

凜「かよちん!!」パアア!

にこ「なにこの茶番…」

花陽「えへへ」

絵里「……」

絵里「ねえ希、なんだかいつもより練習厳しすぎない？」

希「今回の相手は多分そんなに強敵じゃないから決勝に向けて厳しめにしようって海未ちゃんが」

ことり「にこちゃんいいって？」

希「そういうことやろなあ」

希「あの様子やと」

絵里「へえ、あのにこが目の前の試合より先の試合を重視するなんてね」

海未「しかし、今のままではあのUTXに勝つのは厳しいというのも事実…」

海未「悪い選択ではないかと」

ことり「もちろん前日は軽くだよね？」



穂乃果「休んでなんかいられないよ!!前日も練習だあー!!」

ことり「うう〜…」

絵里「大丈夫よ、ちゃんと軽くするから」

海未「当たり前です!」

海未「まったく穂乃果は……」

穂乃果「えへへへ、ごめんなさい!」

穂乃果「……ところで真姫ちゃんは?」

海未「先ほどお手洗いに行くと行っていました」

穂乃果「そっか!」

希「よーし!ウチ達も練習練習!」

「[[[[おー…]]]]」

海未(それにしても……個性の強い方々でしたね)

相戸留ノベル漫画家仮沢装「ハックシユン!」

相戸留「ああ…!!フルコン逃したんだなあ!!」

凜「じゃあねー！」

花陽「うん！また明日！」

真姫「……ええ」

凜「ふんふんふーふんふんふんふんりんりんがベー♪」

「凜!!」

凜「にや!？」クルツ

真姫「私と……ハア……やってほしいことがあるの！」

凜「やってほしい……こと？」

真姫（御影専農戦で見たダブルトルネード、あれを応用すれば……）

真姫「今から時間ある？」

凜「あるけど……」

真姫「公園にいくわよ！」グイッ

凜「え……ええ!!」グイッ

タツタツタツ

凜「ええ……!!」

真姫「しっ！声が大い！」ヒソッ

凜「ほ、本当にそんなことできるの？」

真姫「できるかどうかじゃない」

真姫「やるかやらないかよ」

真姫「やらないの？」

凜「やるにや！」

真姫「……厳しいわよ」スッ

凜「望むところだにや！」パチンッ！

真姫「……………」

凜「?どうしたの?」

真姫「いや……握手のために手、出したんだけど……」

凜「ご、ごめんね真姫ちゃん!!」 ガシツ      ブンブン!

真姫「……………痛い」 ブンブン

## 第8話 「VS秋葉名戸！」

秋葉名戸学園

穂乃果「ここ……すごいね……！」

絵理「ええ、アニメのポスターがたくさん貼ってあるわ」

希「音の木坂やったら規制対象やなあ」

海未「ハ、破廉恥です!! あんな……スカートの短い女の子が……!!」

ことり「なんだか秋葉原って感じだね」

花陽「ここは個性的な生徒が集まる学校らしいからそのせいかも」

にこ「……本当に強いのかしら」

凜「にこちゃん、かよちん、真姫ちゃん」

にこ真姫花陽「なに？」

「……………」シャクシャクシャク

ポロポロポロ

凜「あそこにメイド喫茶の店長がいる……」

にこ「あの人がこの監督だったの!？」

花陽「なんで泣いてるんだろう……」

「実は……」

真姫「ヴェエ!? 誰よあんたたち!」

マネージャー「私たち、秋葉名戸のマネージャーなんですけど……」

にこ「……なんでメイド服着てるの?」

マネージャー「我がチームと試合するチームのマネージャーにはこの服を着てもらおう  
決まりなんです……」

真姫「も、もう嫌よ、その服!」

花陽「待つて真姫ちゃん!」

花陽「マネージャーってことは……」

マネージャー「はい、そちらにマネージャーがいらつしやらないので……」

マネージャー「監督落ち込んでるんです」

にこ「何事かと思ったら……」

にこ「すつごくくだらないことじゃない!!」

凜「あ、もうフタ2玉目食べ始めたにや」

花陽「お腹チャプチャプにならないのかなあ」

真姫「スイカは殆どが水だからね」

にこ「あそこにあるの全部食べ切る気かしら……」

絵理「ハラショー……」

希「スピリチュアル……」

にこ「あんたら無理やり入ってくんじやないわよ！」

絵理「そ、そんなつもりは……！」

希「な、ないよ？」

にこ「目泳ぎまくってんのよ！」

穂乃果「よし！みんな行くよ！」

「「「おー！！」」」

凜「……真姫ちゃん」

真姫「ダメよ」

凜「だよね……」

角間 「さあ……前半も終わりが近づいてきておりますが」

角間 「以前得点は動きません……」

角間 「ずっと自陣でボールを回す秋葉名戸……！」

海未 「………なんだか変な感じですね……」

絵理 「御影専農とはまた違う感じがするのよね……」  
にこ 「勝負する気あるの？」

希 「てやあー！」 ダッ

ロボ 「はあー！」 ザッ



ロボ「ガシーンガシーン！ハイパーボール！！」

ロボ「発射！」ドッ

希「あつ……」

真姫「いい加減にしなさい！」

ヒーロー「来たな、悪の軍団め！」トッ

ヒーロー「この町の平和は、俺が守る！！」

真姫「はあ!？」

ヒーロー「……」

角間「ここで前半終了おー!! 一体どうした秋葉名戸!!」

にこ「なんなのよ!？」

海未「何か意図があるのでしょうか思えません……」

ことり「後半は流石に攻めてくるよね……?」

凜「そうじゃなきや試合にならないにや〜」

花陽「毎回こんな戦い方してるのかな?」

穂乃果「後半攻めてくるならやることは一つ!」

絵理「カウンターよ!」

穂乃果「また穂乃果のセリフとったあ!!」

希「よーし!後半、油断しないように頑張ろー!」

「「「おー!」」」

海未「特に穂乃果あー!!」

「「「おー!!」」」

穂乃果「すっごく複雑……」

ピーーーーー

秋葉名戸0—0音の木坂

角間 「音の木坂ボールで後半スタートいたしました！」

ザザザツ  
！

角間 「……おおっとお!?前半とは違い全員で敵陣へ切り込んで行く秋葉名戸!!」

絵理 「前半とは動きが違う！」

にこ 「面白いじゃない……！」

ノベル（我々の体力では1試合戦い抜くことは不可能！）

漫画家（後半勝負！）

にこ 「むっ……！」 タツタツタツ

ヒーロー 「フツ……！」

ヒーロー 「フェイクボール！」

ヒーロー            タツタツタツ

にこ 「は？何がフェイクボールよ……」

にこ 「全然止められて……!!」 ガツ

にこ 「なっ……はあ!？」

凜「あ、あれは!!」

花陽「スイカア!？」

角間「おーつとこれは不運!!フィールド外から乱入したスイカと入れ替わってしまつたああ!!」

監督　　シヤクシヤク

希「ずいぶん汚い手使うやん?」ダツ

ヒーロー「とう!」ドツ

ノベル　　トツ

希「あ……」

ノベル「いくよ!」

穂乃果「こい!」グッ

ドシュ!!

フミコ「なっ!？」

穂乃果「どういうこと!？」

角間「こ、これはあ!? ゴールの目の前にいるにもかかわらずゴールとは正反対の方向へシュートを繰り出したあ!!」

海未「一体何を……」

海未「!!」

シャキーン!

ゲーマー【ど根性バット!】

ゲーマー「どおうらあああ!!!」  
ブウン!

カキーン!

穂乃果「そんなっ!!」  
ダッ

ドシユルルル!!

角間「き、きまったあ!! 秋葉名戸に一点がはいりましたあ!!」

穂乃果「……………」正座

海未「……………」

花陽「う、海未ちゃん……………」

海未「……………」はあ

海未「今回はしかたありません、あれは流石に予想外です」

絵理「それより、やつと攻撃できるわね」

こ「あのスイカさえなければこが上がつていったのに!!」

凜「あのスイカなんだかずるいにや」

ことり「……………」

真姫「こうやって今まで勝ち進んでたのかしらね」

希「やられっぱなしは嫌やしな」

穂乃果「よーしみんな！せめて攻めて攻めまくるよ!!」

「[[[[[[おー…]]]]]]」

海未「次は……頼みましたよ……？」ジロツ

穂乃果「……ひゃい……！」ガクガク

秋葉名戸「1—0音の木坂

ピ—————

角間「1点ビハインドの音の木坂！どう攻め上がるのか!？」

クルツ タツタツタツ

クルツ タツタツタツ

にこ「!……こいつら……」

絵理「全員で守るつもり!？」

海未「絵理！突っ切ってください！」

絵理「ええ！」ダッ

ノベル ザッ

クルッ ダッ

ザザザッ

絵理「ことり！」ドッ

ことり トッ

タツタツタツ

漫画家「はあ！」

ことり「希ちゃん！」ドッ

希「ほっ！」トッ

ヒーロー「行かせないぞ！悪の手先め！」

ヒーロー【フェイクボール！】

希【イリユージュオンボール】

タツタツタツ



ヒーロー「な、なにい!?」ガッ

ヒーロー「へブチッ……!!」ドサッ

希「すり替えられんかったみたいやね!」

凜「さっすが希ちゃん!」

希「真姫ちゃん!」ドッ

真姫「ええ……!」トッ

ゲーマー「いくぞ!」

「五!」「里!」「霧!」「中!」

ズバババババババババ  
!!!!!!

ボフウウウウウウウ  
!!!!!!

真姫「つぐ……!この砂嵐の中じや跳べない……!」

絵里「真姫、いただくわよ！」  
真姫「絵里！」

「吹き荒れる……」

パキパキパキパキ

絵里【エターナルブリザード！】

ドゴオオオ  
!!!!

ドシユウウウウ………！

………

絵里「決まったかしら……」

真姫「砂嵐が激しすぎて見えないわ……」

コロコロコロ……

相戸留「はあ……はあ……」

角間「なあと!! 絢瀬の放ったシユートは惜しくもゴールを外していたあ!!」

絵里「そんな……! たしかに真ん中を狙ったのに……」

海未「どういうことでしょう……」

海未【菊一文字!】

ドシユウウウウ!!

真姫「ちよつと離れば……」ダンツ!

グルグルグル

真姫【ファイアトルネード!】

ドシユウウウウ!!

コロコロコロ……

相戸留「はあ……はあ……」

角間「どうしたどうしたあ!?!音の木坂ごとごとくゴールを外していくぞお!!」

真姫「どういふこと？」

海未「……わかりません……」

希「ゴールの真ん中を狙っても外れる……」

角田「残り時間も刻一刻と過ぎていきます！」

アーケード「えー、まもなくー、秋葉名戸学園のおー、勝利ー、勝利ー」

ことり「あの砂嵐の中で何が……」

ことり「！」

ことり「凜ちゃん！」

凜「にや？」

ことり　　コシヨコシヨコシヨ

凜「……うん！やってみるにや！」

凜「希ちゃん！真姫ちゃん！」

真姫「何か思いついたみたいね」

希「面白そうやん！」

角間「おーつと星空があがってきたあ!!」

にこ「凜！」ドツ

凜「いくにやあ！」トツ

タツタツタツ　　ザザザツ

クルンツ　　ダツ！

角間「これは素晴らしいドリブルだあ!!グングンあがっていくぞお!!」

凜「真姫ちゃん！」ドツ

真姫「えええ！」トツ

ドキュツ！

角間 「これは高く蹴り上げたあ!!またまた【ファイアトルネード】かあ!?!」

漫画家 「させないよ!」

「五!」「里!」「霧!」「中!」

ズババババババババ!

ボフウウウウウウウ!!!

真姫 「つぐ……!」

真姫 「甘いのよ!………凛!」

凜「希ちゃん！」ダッ

希「うん！」ダッ

グッ                    ダンッ!!

凜【たつまきおとし!!】ドキュッ!!

ノベル「どんな技でも無駄だよ！」

真姫「どんな技でも……ね」ニヤッ

ドシユルルルル  
!!!!



ノベル「あ、あれは!!」

角間「こ、これはあ!? 星空のシュートはゴールへは向かわず砂嵐の足元へ打ち込まれたあ!!」

ドシユルルルルル  
ブワアアアアアア  
!!!!!!!

花陽「砂嵐がなくなっていく………つて」

海未「な、なんですかあれは!」

凜「現行犯だにや……」

相戸留「バ……バレたんだな……」

角間「こ、これは秋葉名戸!! ゴールを動かしていたあ! これではシュートが入らない

!!  
」

ノベル「なぜわかったんだい」

ことり「あれは目くらましとはまた……別の役割があるんじゃないかなって思ったんです」

希「大当たりやったってことやね」

ノベル「さすがだね、でもまだ試合は終わってないよ！」

ことり「こんなことして勝って……！一体何になるんですか！」

ノベル「勝てばいいのだよ！勝てば!!」

漫画家「僕らは……どんな手を使っても勝たなくちゃいけないんだ」

ことり「………！」 ギュッ

「試合終了！」

ことり「こんなことして勝って……！ 一体何になるんですか！」

ノベル「勝てばいいのだよ！ 勝てば!!」

漫画家「僕らは……どんな手を使っても勝たなくちゃいけないんだ」

ことり「……………！」 ギュツ

卑怯な手を使い勝利しようとした秋葉名戸に何か、込み上げるものを感じたことり  
一体……？

相戸留                    パシッ

角間「ワンバウンドした星空のシユートはキーパー相戸留ががちりキャッチ！」

相戸留「だなー！」ドツ

漫画家 トツ

ことり「たあー！」ズザザザツ

漫画家「うわあ！」ドサツ

角間「これは激しいスライディング！見事ボールを奪ったぞ！」

ことり タツタツタツ

にこ「ちよっ……ことり!？」

花陽「そっちはゴールじゃないよおろ……」

凜「あつちだにやー！」

ことり ピタツ

ダツ！

角間「センターラインまで戻った南！一気に敵陣へ駆け抜けていく！」

ことり「凜ちゃん来てて！」

凜「へ!?!う、うん！」ダツ

ヒーロー「いかせん！悪の軍……」

ことり「悪はどっちですか！卑怯な手ばかり使って……」

ことり「今あなたのしていることは、子供に胸を張って言えることですか!!」

ヒーロー「う……」ガクツ

ノベル「止めてみせる！」

漫画家 タツタツタツ

ことり「……………」タツタツタツ

……………

メイド喫茶

ノベル「この本は僕と彼の共同で作った本なんだ」

漫画家「高校の間に出せるようになって頑張った甲斐があつたなあ……」

ことり「わあ……！おめでとうございます！」

ノベル漫画家「ありがとう……！」

ことり「ちよつと待っててくださいね！」タツタツタツ

タツタツタツ

ことり「お待たせしました！」

コトツ

漫画家「？これは？」

ことり「……私からのお祝いです！」

ことり「お店には内緒ですよ？」シ

—————

ことり「あの時は本当にすごいと思いました……でも、実はこんな卑怯な人たちだったなんて……」

ことり「読者さまに謝ってください！」

ノベル「はっ……！」ガクツ

漫画家「くっ……！」ガクツ

にこ「ねえ、ついていけないんだけど」

真姫 「ことりも溜まってるものがあるんでしょ」  
絵里 「ハラショー……」

ゲーマー 「まずいつ……！」

「五……」 「里……」 「霧……」 「中……」

ズババババババババババ！

ポフウウウウウウウウウ!!!

ことり 「うぐっ………！」

ことり 「まだこんなことを続けるんですか！」

ゲーマー 「うるさい！これが俺たちのやり方だ！」

ことり 「………！」

ことり 「もう怒りました………！」

ことり 「激おこちゅんちゅん丸です！」 バツ！

海未 「なんですかその気の抜けるような怒り方は………」

ことり「凜ちゃん！希ちゃん！」ドツ！

凜希「はあああ!!!」グンツ！

凜希「たつまきおとし！」

ドシユルルルルル  
ブワアアアアアア  
!!!!!!!

ゲーマー「くっ……砂嵐が晴れて……」

ポーン

角間「地面にワンバウンドしたボールは高く上がっていく！」



ことり 「これがことりの気持ちです!」  
ドキュツ!!!

相戸留 「なああ!!」 バツ

ドシユルルルル!!!

ことり                    スタツ

ことり 「月に変わって、お仕置きです!」

「「「グフウ………!」」」」

## ドサドサドサドサ

海未「ことりいいいい!!」ダッ

にこ「何が何だかわからないけどとにかくすごいわあんた」

花陽「セーラームーン……懐かしい」

穂乃果「月に変わって、お仕置きよ？」キッ

ことり「ほ、穂乃果ちゃん……！」アワワ

凜「決まってたにやー!……恥ずかしいぐらいに」

ことり「違うの! ついやっちゃったっていうか……」

絵里「大丈夫よ、私たちの友情はそんなことで崩れたりはしないわ」

真姫「ええ、ナイスシュートだったわ」

ことり「違うのにい!」シヨボン

絵里「凜と希もお疲れ様!」

花陽「うん! すごかった!」

凜希「えへへ」テレテレ

ノベル「……………ぼくたち、何してたんだろうね」

漫画家「目先の欲に囚われて、本当に大事なことを忘れてたよ」  
ヒーロー「子供に胸を張れる……………か」

ノベル「みんな！正々堂々勝ってやろうじゃないか！」

「「「「「「おー！」「「「「「「」

ゲーマー「グレネードショット！」

穂乃果「マジン・ザ・ハンド！」

ことり「うぐっ……！」ザッザッ

ヒーロー「誇れるヒーローに……なってみせる！」バツ

ことり「ふぐっ……！」ガクッ

ノベル「はっ！」ドッ

漫画家「ほっ！」ドッ

ノベル「よつと！」トッ

にこ「こいつら……！なんて息のあった連携」

角間「さあ両者一步も譲らず時間だけが過ぎていきます！」

絵里「さつきより手強いけど楽しいわね」

海未「ええ、彼らの強い気持ち伝わってきます」

にこ「感心してる場合……!?!」

角間「残り時間もわずかとなりました！追加点を入れるのはどちらのチームだあ!?!」

花陽「真姫ちゃん！」ドッ

真姫「これで終わりよ！」ダンッ！

グルグルグル

真姫【ファイアトルネード！】

ドゴオオオ  
!!!!

相戸留「な、なななんだなー!!」バツ

ドシユウウウウ!!!

角間「ゴーーーーール! 追加点を決めたのは音の木坂です!」

「「「「「やったあ!!」」」」」

ピッピッピーーーーー

角間「ここで試合終了のホイッスルー!」

角間「勝ったのは音の木坂高校ー!!」

角間「実況は角間、角間でお送りしましたあ!!」

ありがとうございますあ!

ザッザッ

ノベル「君は……どうしてそうまでして……」

ことり「ことりは……頑張ってる人が好きなんです」

ことり「秋葉名戸さんはみんな何か一つ、胸を張れるほど頑張っているものを持つてる」

ことり「だからことりは秋葉名戸さんの方たちも好きだったんです」

ことり「そんな人たちに卑怯な手を使って欲しくなかった……それだけです」

ノベル「そうか……色々勉強になったよ、ありがとう」

ことり「いえいえ♪」

ことり「そういえば、どうしてそうまでして勝とうと思ってたんですか？」

漫画家「フットボールフロンティアで優勝すれば、アメリカ行きって特権が付いてくるんだ」

漫画家「そこにしかない限定フィギュアを買うつもりだったのさ」

ことり「はあく……なんだかすごいですね」

ノベル「もう今となっては無駄だけどね、君たちの勝利を祈ってるよ」

ことり「はい！頑張ります！」タッタタッタ

穂乃果「よーし！それじゃあ雷雷軒に……」

絵里「ちよつと待って」

海未「どうしたのですか？」

絵里「次はいよいよUTXよ、だからいつもは休みだけ……」

絵里「練習は今からにしましょう」

凜「ええ〜!?いつも試合の後は休みなのに……」

花陽「花陽は今日ほとんど動いてないから……」

真姫「それもそうね、悪くないわ」

こ「みんな今日はいつもより動いてないから大丈夫でしょ」

凜「ラーメン……」

監督「予選突破したら腹一杯食わせてやる、タダでな」

凜「よーし！決勝に向けて頑張るにやー！」



にこ「切り替え早！」

花陽「花陽はこっちの凜ちゃんも好きだよ」

希「……………二人はいいコンビやね」

花陽「へ？どういこと？」

真姫「凜と花陽は仲よしねってことよ」

凜「えへへ！でも…」グイッ

花陽「うん！」グイッ

真姫「ちよ、ちよっと！」グラッ

花陽「今は真姫ちゃんもだよね！」ギューッ

凜「にやー！」ギューー！

真姫「ちよ、はな……………離しなさいよ！」ジタバタ

ことり「こんな真姫ちゃんの顔初めて見た…」

海未「顔真つ赤つかですわね」

穂乃果「レアシヨットゲット」パシヤパシヤ

真姫「撮らないで！」

ヒデコ「よし、送信完了」

フミコ「もう真姫ちゃんのとこ抜粋しないで送ったけど別にいいよね？」

ミカ「いいんじゃない？」

西木野パパ「どこだ……！どこにいる真姫！」 ジーツ

看護師「オペ中ですつつつてんでしょうが!!」

## 第9話「助っ人？」

予選決勝に無事駒を進めた音の木坂

当初の目的であった音の木坂の知名度はどれほど上がったのか…？

穂乃果「絵里ちゃん、入学希望者はどうなってるの？」

絵里「……かなり増えてきてはいるけど……」

希「まだ廃校取り消しとはいかんかなあ」

凜「もー！一体どれだけ勝てば良いにやあ！」

海未「少なくとも予選突破するぐらいでなくては人は集まらないでしょう」

花陽「うう…やっぱり簡単じゃないんだね」

にこ「あんたら……」

にこ「私たちの目標は!!!」

一同「フットボールフロンティア優勝!!」

にこ「わかってるんだったら今更バタバタしない!」

にこ「つ、次はいよいよ決勝なんだから!」ガタガタ

凜「生まれたての子鹿みたいになってるにや……」

希「今から緊張しすぎやん」

真姫「決勝はどこなの?」

海未「決勝へは順当にUTX高校が勝ち上がって来ているようです」

希「……A|R|I|S|E」

監督「そういえば……助っ人は見つかったのか?」

穂乃果「助っ人?」

海未「大会要項を読んでいないのですか?」

絵里「大会予選決勝からは最大二人まで中学生以下から助っ人を呼ぶことができるの

「よ」

花陽「でも……そんな子いるの？」

希「中学生以下っていうと……亜里沙ちゃん？」

真姫「誰？その子」

絵里「私の妹よ、アイススケートが得意なの」

絵里「もちろんサッカーもね」スッ

絵里「でも今連絡つかないのよね」トトトツ

凜「それじゃあダメだにゃ」

絵里「日本の親戚の家にいるはずなんだけど……」

絵里「今度行ってみるわ」

海未「穂乃果、雪穂はどうですか？」

ことり「そっか！確か雪穂ちゃんサッカーやってたよね！」

穂乃果「でも……高校ではしないって」

にこ「なら連れて来なさいよ」

穂乃果「だからしないって言って……」

にこ「高校では、でしょ？」

希「中学生助っ人としてなら来てくれるんじゃない？」

穂乃果「にこちゃんものすごい屁理屈……」  
にこ「賢いって言ってくれる？」

絵里「そうね、頼んでみてくれる？」

にこ「でも私たちについてこれるの？」

真姫「確かにそれは問題ね」

監督「……一度練習に来て貰えばいい」

穂むら

雪穂「試合？いいよ？」パクッ

穂乃果「そうだよね、ダメだよね……」

穂乃果「つてええ!?!いいの!?!」

雪穂「……なんでお姉ちゃんがびっくりしてるの……」ムグムグ

穂乃果「だ、だつて、ダメだと思つてたから」

雪穂「まあ落ち着いて、チヨコいる？」

穂乃果「ありがとう」パクッ

雪穂「あんこ入りだけど」ニヤッ

穂乃果「後出し!!」ムグッ!?

穂乃果「あんこあきたあー!!」バタバタ

雪穂「白あんもあるよー」

穂乃果「もつと飽きたあ!!」ジタバタ

穂乃果ママ「表まで聞こえてんのよお!!」パンツ!

穂乃果「ご、ごめんなさい……」ビクッ

ピシャン!

穂乃果 ジロリ

雪穂 ピュ〜♪

雪穂「で、私はどうすればいいの?」

穂乃果「あ、そうだ、一度練習に来てよ!」

雪穂「う、うん……それはいいんだけど」

穂乃果「?何かあるの?」

雪穂「次の試合って……4日後だよね?」

穂乃果「そうだけど……」

雪穂「1日……いや、2日だけ待って！」ドタバタ

穂乃果「……………どうしたんだろう？」

雪穂（受験勉強でついたお肉少しでも落とさないと…………!!）

絵里「ええ!? 亜里沙はウチに来てる!？」

「ええ…………お姉ちゃんのとこで暮らすからって…………1ヶ月ぐらい前から」

絵里「1ヶ月…………」

「そっちに行つてないの？」

絵里「い、いえ! すみません! 勘違いだったみたいです、アハハハ…………」



絵里「亜里沙……どこ行ったの？」トボトボ

絵里「まさか……事件に巻き込まれたんじや……!!」

ピロリン

絵里「希かしら？」トトツ

絵理「……………!!」

絵里「亜里沙あ!?!」

絵里「一体なんて……………」トトトツ

ピッ

絵里「……………どういうこと？」

「もうすぐだね」

???「……………」コソツ

夜

真姫「うぐっ……!!」ドサッ

凜「いにや!」ドサッ

真姫「もう一回よ!」スクッ

凜「うん!」スクッ

試合まであと1日

雪穂「姉がいつもお世話になってます!」

雪穂「助っ人に入らせていただく、妹の高坂雪穂です!」

雪穂「よろしくお願いします!」

雪穂「音の木坂中学です!」

絵理「!」

ことり「雪穂ちゃんいらっしやい!」

海未「大きくなりましたね」

雪穂「久しぶり！」

花陽「海未ちゃんたちは幼馴染なんだね」

凛「穂乃果ちゃんとはあんまり似てないにや〜」

にこ「礼儀正しいとことかね」

穂乃果「ひどいよにこちゃん！」

にこ「ま、うちの子たちも負けないぐらい礼儀正しいけどね！」

凛「なあんだ、にこちゃんのところも似てないんだね」

にこ「どういうことよ……!!」ギリギリ

凛「いはいいいはいい!!」ギリギリ

希「でもなんで2日空いたん？」

雪穂「そ、それは……!心の準備とか……いろいろです!」アセアセ

雪穂（少しでも体重落とすためなんて言えるわけないじゃん……!!）

絵里「……………」

監督「それじゃあテストを始めるぞ」

雪穂「はい！」

監督「と言ってもかしこまることはない、今日一日練習を見て決める」

穂乃果「いくよ、雪穂！」タツタツタツ

雪穂「わかつてるよ！」タツタツタツ

ことり「ふふ、張り切ってるね穂乃果ちゃん」

海未「全く……いつもあんならいいのですが」

にこ「どんな子なのかしらね」

花陽「私たちの後輩だよ！凛ちゃん！」

凛「楽しみだにやー！」

雪穂「はあ、はあ、はあ」タツタツタツ

にこ「……はあ……はあ」ゼーゼー

にこ「体力は……はあ、大丈夫そうね」

希「むしろにこっちの方が限界やん？」

にこ「ま、まだまだあ！」

雪穂「ふっ……！」ノペー

ことり「ほおっ……！」ノペー

絵里「んっ……」ノペー

にこ「あいつらなんなの？」ググググッ

凜「いだだだだだ!!!」

にこ「あ、よそ見してたわ」

凜「ひどいや!!」

希「柔軟性は大丈夫みたいやね」ググググッ

花陽「は……はい！」ウググ

穂乃果「も、もうダメ……！」バタッ

海未「穂乃果！あなたまたまた家での柔軟サボりましたね!？」

穂乃果「お助けく!!」ヒィィ!

凜「ほっ！ほっ！」ザザザッ

雪穂「はっ！はっ！」ザザザッ

絵里「凜の動きに負けてないわね……」

花陽「普通に凄いよね」

真姫「ポジションはどこかしら……」

海未「雪穂！次は私です！」

雪穂「うん！」ダッ

ガッ！　　ザザザッ！　　ガガッ！

穂乃果「いけー！雪穂ー！」

穂乃果「海未ちゃんをやつつけろー！」

雪穂「なんか……ごめんね」

海未「いえ、あとでお仕置きしておきますか……らー！」ダッ

雪穂 「ぬわー！抜かれたあ！」

海未 「まだまだ負けませんよ！」

ガッ

雪穂 「危ない！」

海未 「おっと！」 スタツ

テンテンテン      コロコロ……

雪穂      ホッ

絵里      トン

海未 「すみません絵里、取っていただけですか？」

絵里 「え……あ！うん！」 ドツ

海未 「……？ありがとうございます」 トツ

監督 「よし、集まってくれ！」

監督 「テストの結果だが……」

雪穂 「ゴクリ」

穂乃果 ことり 海未 「ゴクリ」

監督 「……合格だ、試合の日、頼んだぞ」

雪穂 「はい！」

真姫 「ポジションはどこなの？」 クルクル

雪穂 「DFです！」

花陽 「わあ……！私もだよ！」

花陽 「一緒に頑張ろうね！」

凛 「凛も！凛もだよ！」

雪穂 「はい！よろしく願います！」

にこ 「このにこにーが明日までに色々叩き込んであげるわ！」

希 「どっちかかっていうと教えてもらおうことの方が多そうやけど……」

凛 「……反面教師……」 ボソリ

にこ 「聞こえてんのよ!!」 グリグリ



凜「ぎにやあああああ!!!!!!」

絵里「あの……雪穂ちゃん?」

雪穂「はい?……あ! 亜里沙のお姉さん!」

絵里「! やっぱり亜里沙を知ってるのね!」

雪穂「はい! よく話は聞いてますよ!」

絵里「それで……最近亜里沙におかしなことなかった?」

雪穂「おかしなこと……?」

雪穂「あゝ……そういえば」

絵里「な、なに!!」バツ

雪穂「帰りよくクレープとか一緒に食べてたんですけど、なくなつたなくつて」

雪穂「基本まっすぐ帰るようになりましたね」

雪穂「ダイエツトでもしてるのかな?」

絵里「それは……いつごろから?」

雪穂「えーつと……」

雪穂「あんまりはつきり覚えてないですけど……一、二ヶ月ぐらい前……ですかね」

雪穂「普段はなににも変わったところはないですけど……」

絵里「一ヶ月前……」

絵里「そう……ありがとう」

雪穂「い、いえ……何かあつたんですか？」

絵里「大丈夫よ」ニコツ

真姫「凜、今日もやるでしょ？」ヒソツ

凜「当たり前だにや！」

希「なぐにを企んでるんかなあ？」

真姫凜「な、なにも!!」

穂乃果「じゃあバイバーイ！海未ちゃんことりちゃん！」

海未「はい、明日頑張りましょうね」

ことり「絶対勝つよー！」

雪穂「うん！今日はありがとう！」

穂乃果「じゃあ帰ろっか！」

雪穂「……ごめんお姉ちゃん」

雪穂「用があるから先に帰っててくれる？」

穂乃果「もう暗いし穂乃果もいくよ？」

雪穂「大丈夫だよ！すぐ終わるし」

穂乃果「そう？気をつけるんだよ！知らない人には……」

雪穂「もうそんな子供じゃないよお!!」

穂乃果「まだら、ゴオルじゃなあ〜い♪」テクテク

穂乃果「今日の晩ご飯はなーにかな？」テクテク

穂乃果「？」

穂乃果（家の前に誰がいる……）

??? 「久しぶりね」

穂乃果「……誰」

??? 「あら、忘れちゃったの？」 テクテク

穂乃果「あ、あなたは！」

穂乃果「綺羅さん！」

ツバサ「こんばんは、高坂穂乃果さん」

穂乃果「な、なにしに来たんですか……！」

ツバサ「……試合前に、リーダーであるあなたに言っておこうと思って」  
スツ

穂乃果「ちよ、ちよつと……！」

ツバサ「この間の練習試合のこと……」

ツバサ「ひどいプレーをしたこと……謝るわ」

ツバサ「本当にごめんなさい」

穂乃果「……」

穂乃果 「確かに……私たちはあの試合で怪我もしました」

穂乃果 「辞めた子はいなかったけどそれなりにダメーajもありました」

穂乃果 「でも……なんの意味もなくしているように思えませんでした」

穂乃果 「希ちゃんの家と部屋にあった薬のこともあるし……」

穂乃果 「なにか……意味があつたんですよね？」

ツバサ 「東條さん？」

ツバサ (あんじゅが薬局でコソコソしてたのはそういうこと……)

穂乃果 「はい……」

ツバサ 「ええ、それは確かに私たちよ」

ツバサ 「あなた達にひどいことした訳も確かにある……でも」

ツバサ 「ごめんなさい……まだ答えられないの」

穂乃果 「……」

ツバサ 「お願い……今更私たちが言えることじゃないかもしれないけど……信じて」

穂乃果 「……」

穂乃果 「わたしたち、決めたんです」

穂乃果 「綺羅さんたちに本当のことを聞くまで、信じようって！」 ニコッ

ツバサ 「………！」 パアア！

穂乃果「本当のことを言ってくれるまで、待ってますから」  
ツバサ「……ありがとう、本当に」ペコッ

穂乃果「だ、だから顔あげてください!!」

穂乃果（先輩に頭下げられるのムズムズする！）

凜「今日もダメだったにや〜…」

真姫「いいところまで行ってたのにね」

凜「きつと明日には出来るようになってるにや!」

真姫「だといいいけど……」

凜「!!」

真姫「凜?」

凜「隠れて!」バツ

真姫「うぐっ……!」

真姫「なにするのよ!」

凜「しーっ！あれ見て！」ヒソヒソ

真姫「あれは……穂乃果？」

真姫「隣にいるのは……綺羅ツバサ……!？」

穂乃果 アワアワ

ツバサ ペコツ  
スタスタ

凜「今の……」

真姫「一体……？」

雪穂「……………」スタスタ

ピタッ

???「……………!」クルッ

雪穂「ごめん……待たせたね」

雪穂「亜里沙」

亜里沙「もう、遅いよ雪穂！」

## 第10話 「V S U T X 高校、前半戦①」

控え室

穂乃果 「……つてことがあったんだ」

海未 「そうだったのですね……」

ことり 「わざわざ家にまできてくれたんだね」

にこ 「ま、もうにこたちは信じるって決めてたんだから今更でしょ？」

凜 「にこちゃんいい感じにひねくれてるにや〜」

にこ 「それ褒めてないわよね!？」

希 「でもにこっちファンやつたんやる？」

にこ 「……正直その面ではかなり嬉しいわね」

希 「さつきから口角微妙に上がってるからね」

にこ 「う、うそ……!!」 ババツ

希 「う・そ♪」

グワシッ!



希「痛い痛い痛いあああああ!!!!!!」  
にこ「…………花陽、あんたは？」パツ

花陽「花陽もずつとファンだったから…………嬉しい！」

穂乃果「……………」

穂乃果「みんな……………」

穂乃果「今日勝てばついに本戦だよ」

穂乃果「思う存分ぶつかってこよう」

海未「ええ」ニコッ

ことり「うん！」ニコッ

穂乃果「胸を借りるんじゃない……………」

穂乃果「叩きのめすつもりで行くよ!!」

「…………おー!」…………

希「うちもうお嫁に行かれへん…………」シクシク

角間「さあ！やってみてまいりました予選決勝!!これで勝ったほうが本戦へと駒を進める  
ことができます！」

ツバサ「今日はよろしくお願いするわね」

穂乃果「はい！みんなも改めて納得してくれたみたいです」

ツバサ「よかった、今日とっても楽しみだったの」

ツバサ「とっておきもあるし」チラッ

絵里「？」

ツバサ「この前とは違う、正々堂々な勝負を！」スツ

穂乃果「よろしくお願いします！」ガシッ

海未「希……気づいてますか？」

希「うん、あのベンチのフードかぶってる子……」

絵里「これまでの試合で出てなかった……助っ人の可能性が高いわね」

花陽「切り札……ってことなのかな？」

凜「かっこいいにや〜！」

にこ「単に控えなだけでしょ」

雪穂「……………」

ことり「どうしたの？雪穂ちゃん」

雪穂「あ……………いや、えっと……………ちよつと緊張してて…！」

ことり「緊張してる時は、人って字を手を書いて飲み込めばいいんだよ！」

雪穂「へ……………」

にこ「……………」スツスツ      ゴクリ

凜「あー！にこちゃんこつそりやつてるにや！」

絵里「にこも緊張してたの？」

にこ「べ、ベベ別ににこは緊張なんてしてないし!？」

にこ「リベンジのこと考えすぎて眠れなかったとかもないし!!」

希「にこつち……………」

凜「全部言ってるにや……………」

真姫      スツスツ      ゴクツ

角間「前年度優勝校 v s 今回初出場校の対決!! あっさりと U T X が優勝を決めてしま  
うのか……それとも!!」

角間「音の木坂が下克上を果たしてしまうのかあ!?!」

F W

絵里、真姫

M F

希、ことり、海未、にこ

D F

ヒデコ、雪穂、凜、花陽

G K

穂乃果

ピーーーーー

角間「今！試合開始のホイッスルが鳴らされましたあ!!」

ドッ

ツバサ「よし」

真姫（お手並み拝見ね）ザッ

ツバサ「はあ！」クルッ

真姫「つく……！」

真姫（こ、こんなにうまいの!?)

にこ「……いくわよ！」ザッ

海未「はい！」ザッ

ツバサ（あんな試合をした私たちを信じてくれた……彼女たちに敬意を込めて）グッ

ツバサ（今日は戦う！）ヒュッ

トントン クルッ グンッ！

角間「ぬいたあ!!一人で3人をあつという間に抜き去ってしまったあ！」

海未「そんな…!?!」

にこ「さすが……！」

穂乃果「っ…………！」グッ

ツバサ「挨拶がわりよ！高坂さん！」ザッ

ツバサ「ペガサスショット！」

ドキュウウウ  
!!!!

角間「凄まじいシュートだああ!!どうするキーパー高坂！」

穂乃果「マジン・ザ……………」

タツタツタツ

雪穂　　ニッ

雪穂「ハンターズネット!!」

ドシユルルルル!!!

ブチブチ…!!

ドウツ!!

雪穂「つぐ…!!」ズザザザ!

雪穂「…よし!」トツ

穂乃果「さっすが雪穂!」

ことり「雪穂ちゃん!」

角間「と、とめたああああ!!あの綺羅ツバサの必殺シユートを止めたのは伏兵、中学生  
助っ人の高坂雪穂だああ!!」

ツバサ「…へえ」

あんじゅ「やるわねあの子」

雪穂「花陽さん!」ドツ

花陽 トツ

M F I「流れは渡しません」ザッ

花陽「M F Iさんは攻守共に長けていますがそれは1対1の時だけ」

タタタッ！

花陽「凜ちゃん！」ドッ

凜 ドッ

花陽「ばつちりだよ！凜ちゃん！」トッ

M F I「ッ……！やりますね」

花陽「あなた達の試合は擦り切れるほど見直しましたから」

角間「星空、小泉のワンツ―で突破したあ！」

花陽「海未ちゃん！」ドッ

海未「………」トッ

海未「真姫！」ドッ

真姫「！」ポロッ

希「真姫ちゃん！」

テンテンテン………

真姫「しまった……！」ダッ

絵里「落ち着いて」トッ

真姫「絵理……！」ホッ

真姫（私としたことが……）



DF1 「隙だらけだよ！」 バッ

DF1 【フレイムダンス！】

クルクルクル                   ボフウアアアアア  
!!!

絵里 「きやあああ!!」 ドサッ

DF1 「じゃあねー！」 タッタッタッ

真姫 「つち……!!」

MF2 「よこせ！」

DF1 「む……… たった一歳年上なだけで偉そうに……」 ドッ

MF2 「ああ!？」 トッ

DF1 「なんでもないのでーす」

ことり                   ザッ

MF2 「どいてろ！」 バッ

MF2 【ならくおとし！】 ドッ！





穂乃果「パワーアップしたのはそっちだけじゃない！」バツ  
ゴオオオオオオ!!!

穂乃果【マジン・ザ・ハンド！】

ギュルルルル!!!

穂乃果「……ぬぐぐぐ……!!」ズザザザ!

パチイ!!

穂乃果「うわあ……!!」ドサツ  
ガアン!

ツバサ「……へえ……」

角間「キーパー高坂がはじいたボールはゴールポストへ!!危機一髪だあ!!」

雪穂「ナイスお姉ちゃん!」トツ

穂乃果「ううう……かっこ悪い」

海未「いえ、かつこよかったですよ」

エレナ「ピンチなことには変わりないだろう？」ザッ

雪穂「つく……！」キヨロツ

凜「……！」

ツバサ ザッ

花陽「……！」

あんじゅ ザッ

ことり「こっちだよ！」

雪穂「ことりちゃん！」ドツ

ことり「よし！」トツ

角間「デیفエンスラインまで下がって来ていた南!! いい判断だ!!」

ことり「希ちゃん！」ドツ

希「うん！」トツ

DF2「ウチは抜かせんよお!!」

希「うわあ……キヤラ被りはやめてほしいなあ……」

DF2「あんたみたいいなエセと……一緒にすな！」バツ

D F 2 「スーパーしこふみ！」

希「……………！」ヒュッ

ドゴオオオオ  
!!!!!!

希「き、きくう……………」ドサッ

D F 2 「どうやニセモン！……………つてあれ？ボールは？」

希「後ろ後ろ」

テンテンテン……………

絵里「さすが希ね！」トッ

D F 2 「ぬわー！！しもた！」

D F 2 「あんたやるなあ」タッタッタッ

希「にしし……………！」

希（ちっちゃいのになんて威力……………！）ググッ

角間「なんとかボールを前線につないだ音の木坂!! シュートチャンスだあ!!」

絵里「吹き荒れる……………」

パキパキパキパキ

絵里【エターナルブリザード!】

ドゴオオオオオオオオ  
!!!!

ことり「決まって!」

G K「……………」

G K【パワーシールド】ドッ

ギョルルル!

バチイ!

角間 「防いだあ!!これが全国ナンバーワンキーパーの実力です!」

角間 「決勝まで無失点!この鉄壁を破ることができるとは、驚きです!」

海未 「無失点……」

絵里 「やるわね」

GK 「……!」

ポーン……!

DF1 「ほっ!」 トツ

真姫 「いたたくわよ!」 パシツ!

DF1 「うっそお!」

MF2 「気い抜くな!!」

DF1 「ツうく!!」

角間 「西木野にボールが渡ったあ!」

にこ 「真姫!」

真姫 「……」 キツ



グルグルグル

真姫【ファイアトルネード】

ドゴオオオオオ!!!

G K 「……………」

G K 【パワーシールド】

ドシユルル!

バチイ!

海未「そんな……………!」

穂乃果「真姫ちゃんまで…」

G K 【パワーシールド】は連続で出せるから……………」

角間「再度ふせいだあ!!この守備力を破る方法はあるのでしょうか!!」

真姫「……………」スタツ

絵里「真姫、気にしないで、次とりましょ！」ポーン

真姫「ええ、絶対ぶち破るわよ」

絵里「ふふ、頼もしいわね」

「v s U T X 高校、前半戦②」

U T X 高校のレベルの高さを肌で感じる音の木坂

しかしあの日のような恐怖はなく、ただただまっすぐで誠実なサッカーだった

テンテンテン

D F 1 「よーし！あがろーあがろー！」 トツ

M F 2 「よこせ！」

D F 1 「……………べーだ！」 ベー

D F 1 「あんじゅさん！」

M F 2 「……………！」

あんじゅ 「二人とも試合に集中しなきやダメよおく？」 トツ

MF2 「し、してますよ！」

あんじゅ 「ならいいけど」

MF2      ジロツ

DF1      ピユッ

DF1 (だって先輩完璧にマークされてるんだもん)

MF2 (まあマークつかれてたからしゃーねーか)

にこ 「ふん！」 ザッ

あんじゅ 「ふふ」 トトツ

フワッ      ダッ！

にこ 「……もう！」

角間 「空を舞うようなドリブル!!まるで草原を飛びまわるバタフライだあ!!」

あんじゅ 「ツバサ！」 ドツ

ツバサ 「準備はいい？」 トツ

あんじゅ 「ええ！」

エレナ 「大丈夫だ」

ツバサ 「いくわよ！」

ヒデコ「させない！」ザッ

雪穂「止めますよ！」ザッ

ツバサ「……水ささないでほしいわね」

クルツ　スタン……！

ツバサ【イリキュージョンボール】

ヒデコ「そんな……！」ガクッ

雪穂「希さんと同じ……！」ガクッ

希「……………」

絵里「あれは希の！」

花陽「いえ……………あれはもともと、綺羅さんの技です」

海未「え……………」

希「……………あの人がみたいに動けたらと思って真似したんよ」

希「他の試合の動画探してね」

ことり「真似したって……………すごいね」

凜「人は見かけによらないにや〜」

希「凜ちゃん、試合の後ワシワシね」

凜「にや〜……………」

ツバサ「デスゾーンはまだ序の口……………」

ツバサ「これはどうかしら？」

ピューー………イ!!!!!!  
ドシユドシユドシユドシユドシユ

ツバサ「こうていペンギン……！」ドキユツ！

ドシユウウウ!!

あんじゅエレナ「2号!!」ドゴオオオ!

【こうていペンギン2号】

ゴオオオオオオオ  
!!!!!!

穂乃果「な、なに……この、シユート……！」

雪穂 「お姉ちゃん!!」

穂乃果 「!……うん!」 バッ

ゴオオオオオオオオオオ!!

穂乃果 「マジン・ザ・ハンド!」

ドオオオオオオオ  
!!!!

穂乃果 「う……ぐぐぐ……!」

穂乃果 「止める……絶対に……止め、なきや……!!」  
ズズズツ  
ググググツ!

花陽 「いけます!」

海未 「穂乃果!」

キイイイイン!



穂乃果「きゅ……急に強く……！」グググググッ

穂乃果「うわああ!？」ドサッ

ドシユルルルル………!!

角間「き……決まったああああ!!先取点はU T X 高校です！」

海未「穂乃果！」

絵里「そんな……」

にこ「まだあんなシユートを隠し持ってたなんて……」

穂乃果「うう……ごめんみんな」ググッ

海未「本気でぶつかつたのなら謝ることはありませんよ」ガシッ

ことり「そうだよ！」ガシッ

絵里「んー、あのキーパーを破るには……」

希「ちよつと試してみたいことやっつていい？」

真姫「試してみたいこと？」

希「凜二等兵！」

凜「はっ！」

希「覚悟はできてるか！」

凜「イエッサー！わたくし、命をかけて使命を……じゅ、従……！」

凜「……………」

凜「頑張る気持ちです！」

希「よし！がんばれ！」

花陽「日本語おかしくなってるよ凜ちゃん……」

絵里「な、何か考えがあるのね？」

真姫「凜、頑張りなさいよ」

凜「おまかせにや！」ドンッ

U T X 高校 1—0 音の木坂

ピーーーーー

角間 「二点リードのUTX！このまま追加点を狙っていくかあ!？」

絵里 「……」 チラッ

真姫 タッタッタツ

ツバサ ザッ

絵理 「……希！」 ドツ

希 「！」 トツ

エレナ 「すまないが通せない」 ザッ

希 「つく！」

希 (さすが、ほかのメンバーとは圧が違う……!) バツ

希 「イリユージョンボール！」

エレナ 「……所詮ツバサの真似事だ」 フツ

ガッ!

希 「そんな……！」 ガクッ

エレナ 「！」

凜「てやあ！」ドツ

角間「星空が上がってきていたああ!!素早いヘルプだあ！」

テンテンテン……

ことり「ほっ！」トツ

海未　コクリ

ことり「海未ちゃん！」ドツ

海未「凜！希！行けますね！」トツ

凜「うん！」ダツ

希「もちろん！」ダツ

海未　　ドツ！

グツ　　ダン！

凜希【たつまきおとし！】

ドゴオオオオオオオ  
!!!!!!

G K 「……………」

G K 【パワーシールド】

ドオツ!!

ドシユルルルルルル!!!

ピキピキ……

G K 「!?」

エレナ 「……………くそつ、気づいたか」

凜 「希ちゃんの言った通りにや!」

希 「パワーシールドは地面を殴った時に発生する衝撃波でできた壁!」  
希 「つまり! 上の方に行けば行くほど……」

ピキピキピキ……!

希「薄くなる！」

バリイーン!!!

G K「……………」ドサツ

ドシユルルルルルル!!!!

角間「きまったあ!! 同点ゴールを決めたのはなんとDFの星空だあ!!」

凜希「いえーい！」パチン!

花陽「すごかったよお! 凜ちゃん! 希ちゃん！」

海未「よくあんな弱点に気づきましたね」

希「いやー、上手く言ってよかった!」

真姫「あんな手があったなんてね」

絵里「凜ならではね」

希「多分もう同じ手は使えんけどね」

花陽「すごいなあ……」

花陽「私より後に始めたのに……」

ポン

海未「凛は運動神経が武器ですが、花陽は違うでしょう?」

海未「得意なことで勝負するんですよ?」

花陽「……!」

花陽「凛ちゃんは凛ちゃんの得意なもので勝負しなきゃ」

花陽（私が凛ちゃんに言ったんだっけ……忘れちゃってたな）

花陽「……わかった!」グッ

真姫「……衝撃波の壁……」

UTX高校1—1音の木坂

ピーーーーーー

ドッ

ツバサ「頼んだわよ」ドッ

M F 3「了解っす！」トッ

絵里「行かせないわよ！」ザッ

M F 3「ほわあ〜！リアル金髪碧眼じゃないっすか!!」

絵里「え……え？」

M F 3「うちにも似た子が……あ、これは秘密だった……！」

M F 3「あとで写真撮らせて欲しいっす！」

絵里「私を抜けたらね」

M F 3「燃えてきたあ〜！」

M F 3【クリエイション！】バツ

ズズズズ……



絵里「な、何？」

M F 3 「二次創作って知ってるっすか？」

ズズズズ……ガコン！

絵里「と、通れない……！」

M F 3 「想像力って大事なんっすよ！」ダッ！

絵里「ま、待ちなさい！」

角間「こ、これはM F 3！フィールドを描き換えてしまったあ!!」

M F 3 「お任せっす！」ドッ

ツバサ「さすがね」トッ

M F 3 「にへへ……！」テレテレ

希「！」ザッ

ツバサ「お手本を見せてあげるわ」バッ

希「なっ……！」

クルツ　　スタッ！

ツバサ【イリキュージョンボール】

希「っ……！さすが」ガクッ

ツバサ「あんじゅ！」ドッ

あんじゅ「ええ！」トッ

希「ディフェンスもつと圧かけて！」

凜「とりやー!!」ザザザッ

あんじゅ「そんなの……」トンッ

花陽「空中じゃ避けられませんよね！」ガッ！

あんじゅ「…つやるじゃない……！」

角間「小泉強引にうばいとつたあ!!」

花陽「よし！」

海未「花陽の武器は分析力と状況把握能力、それから苦手の無さです」

ことり「絶妙なタイミングだったね」

花陽「よし、にこちゃ……………」

MF2「ボールよこせえ！」ダッ

花陽「ひ、ひい!!」ビクッ

テンテンテン……………

MF2「よし！」トッ

凜「かよちいん!!」ガクッ

花陽「ご……………ごめんねえ」

海未「……………今度また山頂アタックですね」

ことり「ほ、ほほどほにね……………」

雪穂「！」ザッ

MF2「はっ！」バッ

MF2【ならくおとし！】

ドキュッ！

雪穂「ハンターズネット！」

シユルルルルルル……テンテンテン

M F 2 「つち……」

雪穂「希さん！」ドツ

希 トツ

D F 1 「いかせないよお!!」

希「ふふ」ドツ

絵里「いいわよ希！」トツ

D F 1 「あー！ずーるーいー！」

角間「これは見事な連携だあ!!後ろから走ってきていた絢瀬に綺麗なバックパスが通ったあ!!」

角間「そのままあがつていくぞお!!」

絵里「……今度こそ……!」

絵里「吹き荒れろ……………」  
パキパキパキ……………」

絵里【エターナルブリザード！】  
ドゴオオオオオ  
!!!!

G K 「……………」

G K 【パワーシールド】 ドツ

ドシユルルルル……………」

バチイ！

角間「またもや防いだあ!! ボールは高く高く上がって……………」

タタタツ

真姫「いい加減……………決まりなさいよ！」 グツ

ダンッ！  
グルグルグル

真姫「ファイアトルネード！」

ドゴオオオオオオオオ

角間「な、なななんとお!? 西木野がこぼれ球に完璧に合わせていたあ！」  
角間「これは決まるかあ!?!」

G K「……………間に合いません」

あんじゅ「でしようね……………」ダッ

あんじゅ「はあ……………」バッ！

ギョルルル……………!!

ドキユッ!!

角間「西木野あと少しでゴールというところでゴールまで戻ってきていた優木に止められてしまったあ!!」

角間「一体いつのまに帰って来ていたんだあ!？」

D F I 「さっすがです!!」 トッ

あんじゆ「あら……?」 グラッ

フワッ

トサッ

G K 「……大丈夫ですか?」

あんじゆ「……ありがと」

G K 「こちらこそ……ありがとう、ございます……」 パサッ……

あんじゆ「……前髪邪魔じゃない?」

G K 「私は……これでいいんです」

あんじゆ「ツバサみたいに切っちゃえばいいのに」

G K 「綺羅さんのようにはなれませんか……」

あんじゅ 「あなたの目、隠れて見えないわ」

あんじゅ 「せっかく綺麗なのに」 サラッ

あんじゅ 「………勿体無いわね」 タッタッタッ

G K 「………」



# 「UTX高校、前半戦③」

あんじゅ 「あなたの目、隠れて見えないわ」

あんじゅ 「せっかく綺麗なのに……」 サラッ

GP 「私は……綺麗さんのようにはなれませんか……」

不意をついた真姫のシュートによる追加点のチャンスを優木がいちはやく察知し、しのいだ

まもなく前半終了、UTXが前半最後の攻撃を仕掛ける

あんじゅ 「ボールもらえるかしら？」

D F I 「はい！」 ドツ

あんじゆ 「ほっ」 トツ

真姫 「よくも止めてくれましたね」 ザツ

あんじゆ 「いいシュートだったわよ？」 チラツ

あんじゆ 「戻って正解だったわ！」 ドツ

M F I ドツ

あんじゆ 「さすがね」 トツ

M F I 「いえ」

真姫 「速すぎ……！」 ガクツ

あんじゆ 「ツバサ！」 ドツ

ツバサ トツ

シュバツ！

クルツ

ダツ！！

角間 「個人技を活かしながら敵陣へと突っ込んで行く！」

ツバサ 「はああ!!」 ザザザツ クルツ

ダツ！！

にこ「たった一人で……！」

角間「前半も残りわずか！最後に一点、入れることはできるのかあ!？」

海未「……！」ダツ

ツバサ「あんじゅ！エレナ！」

あんじゅ「ええ！」

エレナ「フツ」

ピューーイ！！

ドシユドシユドシユドシユ！

ツバサ「こうていペンギン！」ドキュツ！

ゴオオオオオオ！！

あんじゅエレナ「2号!!」ドキュツ!!

ゴオオオオオオオオオ  
!!!!!!

雪穂「前半最後なんだから……」

雪穂「止めなきや……！」

雪穂「ハンターズネット！」ブワア！

ギチチチチ……！ブチイ！！

雪穂「うわああ！！」ドサツ

ゴオオオオオオ！！！！

穂乃果「止める！」バツ

穂乃果「はあああ！！」

ゴオオオオオオ!!

穂乃果「マジン・ザ・ハンド！」

シユルルルルルル!!!!!!

穂乃果「頑張ってくれた……雪穂のためにも……！」グググググ……！

ドシユルルルルル……！

キユイイイイイ!!

穂乃果「!!ま、また急に強く……!!」

ピシピシ………！

バリイン!!

穂乃果「きやあ!!」ドサツ

花陽「ああ……!!」

ことり「そんな……!!」

ツバサ「……参ったわね」

海未「はあ！」ドキュツ!!

ヒュウウウウ……テンテンテン

角間「ふ、防いだあ!!音の木坂園田も先ほどの優木と同じようにキーパーのカバーへと走っていたあ!!」

海未「うぐう……!!」ドサツ！　ゴロゴロ…

穂乃果「海未ちゃん！」ダツ

海未「穂乃果、よく頑張りましたね」ヨロヨロ

ピーーーーー

角間「ここで前半終了のホイッスル！同点のまま後半を迎えます！これは歴史に残る一戦になりそうだあ!!」

穂乃果「やった！同点だよ!!」

凛「海未ちゃんさすがだにや〜!」

海未「あれが最後のシュートだったので……戻って正解でした」パンパン

花陽「かっこよかったよ!!」

真姫「それより花陽……」

花陽「ヒッ……!」ギクッ

ことり「海未ちゃんが山頂アタックだって……」

花陽「あああ……!! 頑張ります! 頑張りますからあ!!」ガタガタ  
にこ「……海未、あんた本当に山登ってるだけなのよね?」

海未「そのつもりですが……」

海未「多少危険なところを行くぐらいで……」

凜「それだにゃ!」

海未「危険といっても命綱無しで崖登ったりするぐらいですよ」

にこ「トラウマになるには十分すぎるわよ!!」

ことり「え、そうなの?」

穂乃果「それぐらいなら別に……」

絵里「慣れつつ怖い、今日初めてそれを実感しました」

希「ほらほら、エリチが変な悟り開いちゃってるから」

海未「気合いを入れ直しましょう」

海未「ではにこ……あれを」

にこ「嘘でしょ……」

凜「にこちゃん!」

穂乃果「にこちゃん!」

にこ「……あゝ! わかったわよ!」クルツ





ことり「二人とも休憩しようよお…」

絵里「……………」

ツバサ「とっておきもあるし」チラッ

絵里「？」

M F 3 「ほわあく！リアル金髪碧眼じゃないっすか!!」

絵里「え……え？」

M F 3 「うちにも似た子が……あ、これは秘密だった……!」

絵里「まさか……ね」

海未「絵理、聞いていましたか？」

絵里「へ……………」

希「もーしっかりしてよ！」

海未「後半は真姫と点を取りに行ってくださいね」

真姫「行くわよ、絵理！」スツ

絵里「……………ええ！」パチン！

絵里（今は考えても仕方ないわね）

ツバサ「んー……………同点」フーム

エレナ「出し惜しみが過ぎるんじゃないか？」

あんじゅ「園田さんが戻ってなければね」

エレナ「冷静でいい判断だった」

ツバサ「後半はもつと攻めるわよ」

あんじゅ「もちろん♪」

エレナ「楽しみだ」

DF1「よし！私ももつと頑張る！」

MF2「ちんちくりんは下がってるよ」

MF2「アタシが止めんだから」

DF1「べーだ！止めたもん勝ちですよー！」

MF2「ああん…？」スツ

DF1「ヒツ…！！」ビクツ

MF1「こらこら暴力はダメですよ？」クイイツ

MF2「いててて！わ、わかりましたから！」ギリギリギリ！

MF1「すぐ熱くなるんですから…！」

MF2「す、すんません…！」

DF1「うえーん！怖かったです！」サササツ

DF1 ニヤニヤ

MF2「…！」イラア

MF3「相変わらず鮮やかですねー！合気道でしたっけ？」

MF1 「はい、小さい時から」

MF3 「かつこいいっすよね〜!」

フードの子 「はい!まさに日本のヤマトナデシコです!」

MF1 「そこまで言われると照れますね」 テレテレ

MF2 「というか二人はどうしてずっと敬語なんですか?」

DF1 「あー!それ私も思ってた!」

MF1 「どうしてって……」

MF3 「ね?」

「癖」ですよ」 つすよ」

DF2 「まあ……やろーなあ」

GK 「……」 ペラッ

ツバサ 「ほら!バカなことしてないで行くわよ!」

エレナ 「後半も頼んだぞ」

あんじゅ 「点は任せてね!」

フードの子 「あ、あの!」 ガタッ

ツバサ 「わかってるわ……けど、ちゃんと約束守れるわね?」

ツバサ 「一発が限度、二発目は……」

フードの子「……………はい…」

フードの子「それさえ守れば最後まで出してもらえるんですよ」

あんじゅ「約束を破ると……………怖いわよ?」

フードの子「で、でも!ツバサさんたちも禁止してるワザもってますよね?」

エレナ「もってはいいるがそれも同じだ」

ツバサ「一発が限度……………わかったかしら?」

フードの子「……………はい!」

ツバサ「この試合、絶対勝つわよ!!」

「「「おー!」」」」

M F 2 「ちんちくりん、あとでこっち来い」

D F 1 「呼ばれてますよ」

D F 2 「あゝ!ちんちくりんってウチのこと……………つて」

D F 2 「誰がちんちくりんやあ!!」

D F 1 「失礼しちやいますよね?」

M F 2 「いや、アタシはこいつに……」アセアセ

M F 2 (こいつ……しらじらしい……!!)

D F 2 「ウチは身長も胸もこのおチビより1センチ上やし!」

M F 2 「……へ?」

D F 1 「……1センチ……」

M F 2 「それはちよつと……」

M F 2 D F 1 「見苦しい」

D F 2 「やかましいわ!!」

D F 1 (とういかいつ私のバスト知られたんだろう)

M F 2 (なんでちんちくりんの胸のサイズ知ってたんだ?)

? D F 2 (あ、この前話してるのまたまた聞いたって言わんと誤解させるか?) ??

D F 1 M F 2 (怖……) ゾゾツ ??

D F 2 (まあえっか)

## 第11話 「V S U T X 高校、後半戦」

あんじゅ、海未のカバーにより失点を防いだ両者は前半同点のまま折り返すこととなった

U T X 高校も助っ人を投入し、両チーム共総力戦で勝ちを狙いに行く

角間 「いよいよ後半が始まります！ 一体この試合の結末はどうなってしまうのでしょうか!!」

角間 「ここでU T X 高校、一人メンバーチェンジです！」

角間 「……中学生助っ人のようです！」

角間 「どのようなプレイを見せてくれるのでしょうか！」

フードの子 「……よし！」 ザッ



MF3 「リラックスすすよ！」

MF1 「あなたなら大丈夫です、落ち着いて」

フードの子 「はい！」

MF2 「ぶちかましてやれ！」

DF1 「うわゝ野蠻ゝ」

MF2 「……………」バシッ！

DF1 「いったあ!？」

DF2 「もうすぐ後半やねんからほらほら！」どーどー

ツバサ 「……………」本当に大丈夫かしら……………」

エレナ 「あの二人はいつも喧嘩してるな」

あんじゅ 「いざとなったら頼りになるじゃない」

ツバサ 「それもそうね」

ツバサ 「いくわよ！」

エレナ あんじゅ                      コクリ

絵理「あの子……」

海未「どうしました？絵理」

にこ「……あいつ控えじやなかったのね……」

凜「やっぱり秘密兵器だったんだにや！」

花陽「DFだね……」

希「まあ前線にはあの3人がいるからなあ」

ことり「あの子強いのかな？」

穂乃果「知らない！」

にこ「知らないって……まあそうだろうけど」

穂乃果「知らないものは考えても仕方ないよ！」

穂乃果「後半！全力を出し切って本戦に行くことだけ考えよう！」

穂乃果「みんな、ファイトだよ！」

海未「あなたもファイトするんですよ」

穂乃果「わかってるよ！もう！」

にこ「まったく能天気なんだから」

花陽「でも、気が引き締まった感じがするよね！」

海未「……………」フウ

希「何だかんだ海未ちゃん、穂乃果ちゃん頼りにしてるなあ」

海未「本人には絶対に言いませんけどね、調子に乗りますから」

凜「このチームムツンデレばっかりにやー」

UTX高校「……」音の木坂

「……………」

ドツ

角間「後半がはじまりましたあ!!」

真姫　　タツタツタツ

ツバサ「フフツ」ザツ

真姫「ことり！」ドツ

ことり「にこちゃん！」ドッ

にこ「いくわよ！」トッ

角間「後半開始から横にパスを回し幅を使って攻めていきます！」

MF2「行かせるかおらあ！」ダッ

にこ「いやーんにこわーい！」ザッ

MF2「……なんだ？こいつ」

にこ「ちよつとちよつと？なにその口の聞き方は？」

にこ「にこは先輩なんですけ……ど！」ダッ

MF2「うっそだろお!」ガクッ

MF2「ちんちくりんと見た目変わんねーじゃん……」ボソッ

にこDF1「聞こえてるわあ!!」

MF2「おお……地獄耳」

にこ「絵理！」ドッ

絵理「ええ！」トッ

DF2「いったでえ!!実力見せたれ！」

フードの子「はい！」ザッ

絵理「……中学生でも手加減はしない！」ダッ

フードの子「フフ、手加減なんかいららないよ」  
ダッ

クルクルクル

フードの子「アイスグラウンド！」ドッ！

ビキビキビキ！

絵理　　カキーン

シャー

角間「UTX高校サイドの助っ人も素晴らしい力を見せつけましたあ!!」

花陽「なっ!?!」

凜「絵理ちゃんがあんなに簡単に……!?!」

絵理「今の動き……やっぱりあなた……!?!」

パサッ

亜里沙「そうだよお姉ちゃん」

絵理「……亜里沙、どうして……」

亜里沙「お姉ちゃんのせいだよ」ダッ

絵理「私の……？」

絵理「……」

バシッ

絵理「いっ……！」

希「ほら！しっかりする！」

絵理「……わかってるわよ！」

ことり「ことりが相手です！」ザッ

亜里沙「ほっ！」スウー

クルンッ                      ダッ！

角間「氷の上を滑るかのようなドリブル!!何と魅せるプレーでしょうかあ!!」

絵理「あの頃のまま……綺麗なフォームね」

亜里沙「私はずっと……続けてきた」

亜里沙「お姉ちゃんと違って！」

絵理「亜里沙……」

花陽「止めるよ、凜ちゃん！」ザッ

凜「うん、かよちん！」ザッ

亜里沙「うゝ……このまま決めたかったけど……」

亜里沙「ツバサさん！」ドッ

ツバサ「あら、シュートでもよかったのに」トッ

亜里沙「流石に無理ですよ……」

ツバサ「別にいいけど……」タタタッ

ツバサ「……ね!!」ドキュウウウ!!

海未（コーナーギリギリ……！）  
にこ「死んでも止めなさい！」

穂乃果「ふんんん……!!つぐ！」ダッ

ガシイッ!

ゴロゴロゴロ

ザッ

穂乃果「よ、よし！」グッ

花陽「すごいよ穂乃果ちゃん！」

海未「ナイスキャッチです！」

エレナ「あそこまで完璧に反応するとは……!」

ツバサ「野生の勘でも働いていたのかしら……」

エレナ「それは失礼だ」

ツバサ「ごめんなさい……」



あんじゅ「ディフェンス！」

ザザザ！

角間「こ、これはあ!?! UTX高校、全員で全員をマークしてしまつたあ!!」

角間「これではパスコースがないぞお!?!」

海未（ディフェンスの体力を大幅に削る作戦のはずなのに……）

DF1「ふっふーん！」ザツ

絵理「つく……！」

DF2「大人しくしときなく」ザツ

真姫「……ッ！」

海未（息一つ切れていない……!!）

穂乃果「うう……」キョロキョロ

タタタツ！

花陽「穂乃果ちゃん！」バツ

角間「マークを外したのは小泉だあ!!」

穂乃果「花陽ちゃん！」ドツ

海未「いけません穂乃果！」

穂乃果「……あっ……！」

ツバサ「パスコース0からの1」

あんじゅ「ついそこに出しちゃうわよね？」

亜里沙「わざとですよ」トツ

花陽「そんな！」

角間「ゴール前でパスカットされてしまったあ!!全て計画通りかUTX!!!」

希「穂乃果ちゃん気を付けて！」

亜里沙「お姉ちゃん……！」チラッ

絵理「！」

亜里沙「これが、お姉ちゃんに勝つために編み出した……私だけの必殺技……!!」バツ

ドシユウウ!

ドシユウウ!

ギラン………!

亜里沙【パンサーブリザード!】

ドゴオオオオオオオオ  
!!!!!!!

絵理「これが亜里沙の………!!」

ことり「すっごいパワー………」

穂乃果「さっきもつと考えとくんだったあ!!」

海未「おばかあ!!」

希「せっかく見直してくれてたのに………」

穂乃果「つく!」パッ

穂乃果【マジン・ザ………】

ドオオオオオオオオオオ  
穂乃果「!?速すぎる……!!?!」

穂乃果「うわああ!!」ブワアツ!!  
ドシユウウウウウウ!!!

角間「はいつたあ!!追加点を入れたのは中学生助っ人、絢瀬亜里沙だあ!!」

亜里沙「見た?お姉ちゃん」

絵理「亜里沙……」

亜里沙「亜里沙はもうお姉ちゃんより強くなった!」

亜里沙「昔とは違うんだよ」スタスタ  
絵理「……………」

ビキイ!

亜里沙「……っ！」グラッ

ツバサ「おっと、大丈夫？」

亜里沙「へ、平気です！」

ツバサ「どこか痛めた？」

亜里沙「いえ、少し体が軋むだけです」

ツバサ「そう……」

ツバサ「あとはもうディフェンスに回ってなさい、きつかったら交代してもいいわ」

亜里沙「……あの！」

ツバサ「ダメよ、わかってるでしょ？」

ツバサ「二発目を打てばあなたは……」

亜里沙「はい……」

凜「あの子……絢瀬って」

真姫「まさか、絵理の？」

絵理「ええ、妹よ」

海未「少し険悪なムードでしたが……」

絵理「……少し前まではむしろ仲が良かったの」

絵理「でも、急に連絡が取れなくなって……」

希「今日久しぶりに会ったらああなあってたと……」

ことり「何があっただろう」

穂乃果「……絵理ちゃん、戦える？」

絵理「……もちろんよ」

穂乃果「うん、じゃあ行こっか！」ニコツ

にこ「反抗期は誰にでもあるもんよ」

凜「にこちゃんは年中ブフウ!!」ベシツ

凜「は、鼻はだめだよお！」

にこ「なんか来るだろうなと思っただからね」

亜里沙「……」

—————

亜里沙「お姉ちゃんサッカーもう一度始めたんだね！」

絵理「ええ」

亜里沙「バレエは……」

絵理「今度試合があるのよ、きてくれる？」

亜里沙「……」

亜里沙「もちろん！」

絵理「亜里沙はサッカーずっと続けてるんでしょ？」

亜里沙「うん！お姉ちゃんもう追い抜いちやつてるかも！」

絵理「ふふ、楽しみにしてるわ」

亜里沙「うわあー！寝坊しちゃった！」ダダダダッ

亜里沙「し、試合は!？」バツ

亜里沙「どうして……みなさん倒れてるの？」

亜里沙「お姉ちゃんも……」

ピーーーーー

亜里沙「新しい人が加わって……シユートを止めた！」

亜里沙「お姉ちゃんにボールが渡って……！」

【エターナルブリザード！】

亜里沙「す、ごい……2年も空いてたのに全然衰えてない……」

亜里沙「まだ……ダメなの……？」

亜里沙（……亜里沙はお姉ちゃんを追い越すために毎日練習してきたのに……）

亜里沙（2年も間が空いてたお姉ちゃんにまだまだ敵わないなんて……）ギユツ

亜里沙「……」

亜里沙「……ふざけないで」 ダッ

ドキュウウ！



ドシユルルルルル……!!

亜里沙 「はあ……はあ」

亜里沙 (違う……これじゃあまだお姉ちゃんには……)

ブルルルルルル

亜里沙 「……お姉ちゃんから？」

亜里沙 「……」

スツ

亜里沙 「さ！練習練習！」ザツ

ツバサ 「随分苦しそうにサッカーをするのね」

亜里沙 「どなたですか？……！」

亜里沙 「あなたは……さつき試合をした……！」

ツバサ 「……強くなりたいんですよ？」

亜里沙 「……！」

ツバサ 「うちにいらつしやい、設備は整ってるわよ」

亜里沙 「……いいんですか？」

ツバサ 「もちろん！でも条件があるわ」

亜里沙 「条件……？」

ツバサ 「私たちのチームに入りなさい。助っ人としてだけどね」

亜里沙 「助っ人？」

ツバサ 「もちろん、無理には言わない」

亜里沙 「………わかりました」

—————

M F 3 「いやー相変わらずすごいですねー！あのシユート」

M F 1 「以前に増して威力が上がっていましたね、体は大丈夫ですか？」

亜里沙 「少し痛むけど大丈夫です！」

M F 2 「無理すんなよ？きつかったらアタシらがカバーしてやるから！」ワシヤワ

シヤ

亜里沙 「あわわわ！あ、ありがとうございます！」

ツバサ 「一点差で満足なんてしてないわよね？」

あんじゅ「当たり前じゃない」  
エレナ「あれ、行くんだろ？」  
ツバサ「もちろん」

## 「V S U T X、後半戦②」

亜里沙の得点でリードを広げたU T X高校、しかし体に負担を強いる技ゆえにチームは亜里沙を心配する

うまく言葉にできない感情を抱えながら亜里沙は再び自分のポジションへと戻っていった

U T X高校2—1音の木坂

ピーーーーー

角間「追加点を取られた音の木坂！一刻も早く点を取り返したいところ！」

亜里沙　タツタツタツ

角間「おおーつと!?!DFの綾瀬が前線へあがってきたあ!!」

絵里「……亜里沙」

亜里沙「随分丸いサッカーをするんだね」ザツ

亜里沙「……氷の女王だったくせに」ボソツ

絵理「……！」ザツ

希（……！）

希（今の言い方……？）

DF1「亜里沙ディフェンスだつてこと忘れてないかな？」

クルクルクル

ダン！　　ビキビキビキビキ！

亜里沙【アイスグラウンド！】

絵理「ふっ！」ドツ

海未「ナイスパスです、絵理！」

亜里沙「！」ムウ……

絵理（氷の女王……か）

絵理「……昔の話よ」

角間「絢瀬見事なパス回しでブロックを回避したぞお!!」

MF3「そっちは一本道つすよお！」ダンツ！

MF3【クリエイション！】

ズズズズズ!

海未「……………!壁が……………」

M F I「お相手、お願いします」

海未「……………なんだか初めて見た気がしませんね」

M F I「奇遇ですね……………」

M F I「私もです!」ダツ

海未「はあっ!」クルンツ

クルンツ

M F I「ボール、いただきました」トンツ

海未「なんですか今のは……………!」

角間「流れるような動きでボールを奪い取ったあ!!」

花陽「あれが……………」

花陽(相手の動きに合わせてボールを奪う……………あの人のだけの技術)

ここ「本物はえげつないわね……………」

M F I「エレナさん!」ドツ

エレナ「ああ」トツ

凜「行かせない!」ザツ

凜（今この人の前にパスターゲットはない……ここで止めれば……！）

エレナ「……………ツバサ」ガッ

ツバサ「ナイスパス」トッ

凜「そんな…振り返ってもないのに……」

角間「UTX統堂、後ろを見ずにバックパスを出したあ!!後ろにも目が付いているのかあ!?!」

真姫「顔だけでしょ」

絵理「そんな真面目に返さなくても……」

エレナ「残念だったな」

凜「……………!」つぐ……………

海未「とりますよ!にこ!ことり!」

にこ「わかつてるわよ!」ダッ

ツバサ「あら?3対1なんて随分エグいことするわね」

海未「勝つためです!」ダッ

ツバサ「まあ……………取れないんだけどね」

ススツツ　　クルツ　　トントン　　ククツ　　ザザツ

ことり「そんな……………！」ドサツ

にこ「ありえない……………！」ズザザザツ

海未「つく！」ガクツ

角間「さ、3人がかりでもボールを奪えない!!一体どうすればいいんだあ!!」

ツバサ「高坂さん」

穂乃果「！」

ツバサ「これが……………私たちの究極奥義……………！」

ツバサ「こうていペンギンとは比べものにならないわよ？」

タツタツタツ

ズシユウウウウ!!

ゴオオオオオオオ!!  
!!!!!!



花陽「あれは……馬？」

希「いや、羽が生えてる……！」

凜「ユニコーン？」

海未「ペガサスです！」

ツバサ            ダツ

あんじゅ        ダツ

エレナ           ダツ

ドツドツドツ！

ツバサあんじゅエレナ【トライペガサス！】

ドゴオオオオオオオオオオオオオオオ

!!!!!!

海未「今までとは桁違いの威力です!!」

絵理「穂乃果!!」

穂乃果「…綺麗なシュート……」

雪穂「見とれてる場合じゃないってお姉ちゃん!!」

雪穂【ハンターズ……】

ドゴオオオオオオオ!!

雪穂「きやあああ!!」ドサツ

穂乃果「雪穂!」

穂乃果「……はああああ!!!」

ゴオオオオオオオ!!

穂乃果【マジン・ザ・ハンド!】

ドシユルルルル!!!

穂乃果「な、なにこれ!?」グググッ

穂乃果「だ……だめえ……!!」ズルズルズル!

バチイ!

穂乃果「うわあああ!!!!」ブワア!

ガァン!

穂乃果「いつ…!!」ドサッ

海未「穂乃果!」

ドシユルルルル…!!

角間「は、はいったあ!!入ってしまった!!これは厳しい追加点です…」

角間「音の木坂には辛い一点となってしまいました!」

穂乃果「ごめん…」ググッ

海未「いいからじつとしててください」グイッ

穂乃果「いたたたたた!!」ビクンッ

穂乃果「痛いよ海未ちゃん!」バッ

海未「骨は大丈夫ですが、ぶつけた時少し痛めましたね」

穂乃果「大丈夫だよこれくらい」

フミコ「とりあえずスプレーしとくね」シユ一

ミカ「テーピング持ってきたよ！」ザッ

穂乃果「あ、ありがと……」

海未「これ以上無理するなら……」

穂乃果「大丈夫だってば！それよりあのシユートの対策どうにかしようよ！」

海未「たしかにそれも大事ですね……」

にこ「一体いくつシユートを隠し持ってるのよ……」

海未「あれを連発されたらまずいです……」

真姫「まずは一点、一つづつ返していきましょ」

穂乃果「そうだね！ディフェンスはいつもよりもっとプレッシャーをかけて！」

海未「普段より体力を使いますが後後半だけです、がんばりましょう！」

「「「「「おー！」「」」」」」

UTX高校3—1音の木坂

ピ—————

真姫「にこちゃん！」ドツ

ツバサ「はあ！」ガッ

にこ真姫「そんな…!?!」

海未「させません！」バツ！

ツバサ「ふふ」クルツ

海未「ただのスピンで…!!」ガクツ

絵理「止めて！」

凜「かよちゃん！」ザッ

花陽「うん！」ザッ

ツバサ「エレナ！」ドツ

エレナ「まかせ……」

エレナ「!?!」

亜里沙「いただきます！」トツ

ツバサ「まちなさい亜里沙！」

亜里沙「……ごめんなさい」

ツバサ「……!」

ツバサ（あの子まさか…!!）

ツバサ「あんじゅ!!」

亜里沙（一回ゴールを決めたぐらいじゃ勝ったなんて言えない）

亜里沙（ましてや向こうは技も使ってなかった…）

亜里沙（たとえ体が壊れたとしても、私の方が強いんだって証明してみせる!!）

亜里沙「いくよお姉ちゃん!」バツ

ミシ……………!

亜里沙「つぐ……………!」

亜里沙 キツ!

ブワアアア!

ブワアアア!

ギラン……………!

亜里沙【パンサーブリザー……………】

シユバツ!

あんじゆ 「ダメじゃない、亜里沙」 トツ

あんじゆ ドツ

テンテンテン……

ピーーーーー

角間 「ど、どうした優木!! 絢瀬のシユートチャンスが無駄にしてしまったあ!!」

亜里沙 「え……. え?」

トンツ

亜里沙 「……あうっ……!」 フラッ

エレナ トサツ

エレナ「すまない審判、メンバーチェンジだ」

角間「助っ人の絢瀬亜里沙が体調不良の為交代だ!! 大丈夫なのかあ!!」

絵理「亜里沙!」ダツ

ツバサ「大丈夫よ、シユートを打つ前だったから」

絵理「あの、一体……なにが?」

ツバサ「……」

ツバサ「あの技は強力だけど、連続で打てば使用者に多大な負担を強いることになる

……」

ツバサ「身体を破壊するほど」

ガツ!

希「エリチあかん!」バツ

絵理「あなたは……それを知ってて亜里沙を出したの!?!」ググツ

ツバサ「……ツ!あなたに……勝ちたい!彼女はそう言ってたわ」グクグツ

絵理「……はい?」グクグツ



希「エリチ!!」ググッ!

ツバサ「2年もブランクがあるお姉ちゃんに……負けられないって」グクグッ

絵理「……!」パッ

ツバサ　ゴホッゴホッ

亜里沙　　スウ……　　スウ……

絵理「……」

絵理「だから……こんな危険な技を教えたんですか」

ツバサ「この子が自分で編み出したのよ」

ツバサ「血の滲むような練習でね」

絵理「今……亜里沙は……?」

ツバサ「シユートを打つ前だったから大丈夫よ」

ツバサ「一発だけなら筋肉痛ぐらいですむはず、でも二発目は……」

ツバサ「だから本人には嫌という程釘を刺していた」

ツバサ「だけど……」チラッ

絵理「……」チラッ

亜里沙　　スウ……スウ……

ツバサ「そうまでしようとした彼女の気持は、わかってあげて欲しいの」



タツタツタツ

雪穂「……………」

雪穂（冷たい…………おでん缶）

カシユツ

ズズズ

雪穂「…………おねーちゃんにあげよ」

—————

雪穂（亜里沙のやりたかったことって…………こういうことなの？）

ピピピ—————

角間「あーつとここで音の木坂絢瀬にイエローカードが出されました！」

角間「先ほど胸ぐらを掴んでしまったのが原因でしょうか」

絵理「…………」ペコリ

穂乃果「絵理ちゃん…………」

絵理「ごめんなさい穂乃果、切り替えるわ」

穂乃果「…………逃げちゃダメだよ」

ふ

絵理「別に…………そういうわけじゃないわ」

絵理「ほら、始まるわよ」

ピーーーーーー

ブンッ！

凜「にやっ！」トツ

角間「少しいざこざがありましたが無びスタートしました！」

角間「ボールは未だ音の木坂ゴール目前…!!」

M F 3「はあっ！」ザッ

凜「き、きてるう……!!」トトツ

凜【アクロバットキープ！】

ダッ                    グウン！                    シュバツ！

MF3 「やるっすね！」

凜「！」

エレナ「前半のお返しだ」ガッ

角間「抜いたかに見えたがすぐさまヘルプにきていた統堂にカットされてしまったあ  
!!」

エレナ「……！」

花陽「たあ！」ガッ

角間「すぐさま奪い返したあ!!」

エレナ「……読んでいたのか……」

花陽「海末ちゃん！」ドッ

海末「任せ……!?!」トッ

MF2「いかせるかあ！」ザッ

海末「くく!!はああ!!」クルッ

MF2「つち……！」

海末「絵理！」ドッ

絵理（亜里沙……）

「ここに絵理!!」

絵理「あつ……!」ガッ

テンテンテン

シュバツ!

DFI「いっただきー!」トツ

絵理「つく……!」

角間「絢瀬どうした!? 珍しいケアレスミスだあ!!」

DFI「エレナさん!」ドツ

エレナ「ああ」トツ

花陽「通しません!」ザッ

エレナ「また君か」ザッ

エレナ（さつきはやられたが、単純な一対一なら……負けはしない）

花陽（みたいなこと思ってるんだろうなあ……）

花陽「……………」

エレナ「いくぞ……！」ダッ

花陽（……………そう思われる事よりも、何も反論できない方が悔しい）ギユツ……！！

## 「V S U T X 高校、後半戦③」

花陽「通しません！」ザッ

エレナ「また君か」ザッ

エレナ（さつきはやられたが、単純な一対一なら……負けはしない）

花陽（みたいなこと思ってるんだろうなあ……）

花陽「……」

エレナ「いくぞ……！」ダッ

花陽（……そう思われる事よりも、何も反論できない方が悔しい）ギユッ……！



花陽（初心者だったのに新しいことに挑戦し続けてる凜ちゃん）

エレナ タツタツタツ

花陽（入部してすぐエースとして活躍してる真姫ちゃん）

花陽（じゃあ……）

花陽（私は？）

花陽「……………」

エレナ（……なぜ動かない）タツタツタツ

花陽（経験者として入ったのに、大した活躍もできないただの平凡な選手）

花陽（一年生で私だけ……何も無い）

花陽（ことりちゃんもこんな気持ちだったのかな……）

花陽（張り合おうとしてるんじゃない、ただ、役に立ちたい……）ギユツ！

海未「……花陽？」

花陽（あとをついでいくだけの腰巾着なんか……）

花陽「なってたまるか!!」カツ!!

エレナ（!!……くるか？）タツタツタツ

花陽（今まで見てきた映像と今日の試合での誤差を修正……）

花陽（統堂さんの癖、パターン、スピード、反応速度、パワー、瞬発力……）

花陽「……見つけた」

エレナ「……!？」

花陽（私だって、みんなと肩を並べて歩きたい！）ジャリツ

ダッ！

ズザザッ!

花陽「…………よし!」 トッ

エレナ「な、なんだ…!?」 ガクッ

凜「かよちゃん! すっごいにやー!」

にこ「へえ、やるじゃない」

海未「まるで方程式を解くかのようなデフェンス……」

海未「ディフェンス方程式…………!」

海未「……………」

海未「いい…………!! 今自分でもちよつといい感じにできた自覚があります!」 ハアハア

!

凜（海未ちゃんのあの顔…………めちやくちやどうでもいいこと考えてる時の顔だにや

…………）

花陽「ことりちゃん！」ドッ

ことり「いくよお！」トッ

DF2「止めるで！」ザッ

DF2「つておお……!?!」

ことり「ヒッ……!?!」

DF2「遠くから見てても思ったけど、なんちゆう身体してんねん……」

ことり「あ、ありがとうございます？」

ことり（か、身体って言った？……）

DF2「ウチもそれぐらい育ってればなあ……」サワサワ

DF2（まああっちのエセはもつとすごかったけど……）

DF2（……牛か）

ことり「い、いきます！」ザザザッ

DF2「甘いんよ！」ザザザッ

ことり「ほっ！」クルッ トンッ

DF2「んなあ!?!」ガクッ

ことり「私の勝ちく！」ダッ

DF2「ぬあー!!悔しいけど許す！」グッ

あんじゅ「許す!……じゃないわよ!」バシッ

DF2「す、すみません……」シユン……

ことり「希ちゃん!」ドツ

希「ほっ!」トツ

MF2「こい!ちんちくりん!」

DF1「わかりましたーヤンキーセンパイ」

MF2「……この前アイス落として泣いて……」

DF1「あーあーあー聞こえませーん」アワワワワワ

希「あのー……通りまーす!」ダッ

DF1MF2「行かせない!!」クルッ

DF1MF2「ダブルサイクロン!」

ブフオオオオアアア!

希「ちよ……え……ちよお!」

ブワアア!

希「いやぁー!!」ヒューー……

M F 2 「アタシの手柄だな」

D F 1 「私ですう〜!」

M F 2 「アイス……」

D F 1 「もういいですから!!」

テンテンテン

絵理（亜里沙は、体が壊れてでも私より強くあろうとした……）

ツバサ「……」トツ

絵理（でもそんなの……）

絵理「……認められないわぁ」ザツ

えり「バレエ衣装」（……）

絵里（……久しぶりね、元気だった？）

えり（……）

絵里（……つれないわね）

絵里（……）

絵理（あなたのことは嫌いだけど……）

絵理（亜里沙の目を覚まさせるためには、今の亜里沙より強くないといけない

……）

絵理（……お願い、力を貸して）

えり ニコッ

えり（貸すもなにも……）

えり（あなたは私、私はあなただよ）

えり（やつと受け入れてくれたね）スウー……

えり（……私も、あなたのことは嫌い）スウー……

絵里（……）

えり（でもありさは大好き！）ニコッ

絵理（……！）

ブワアアアアア……!!

ツバサ「……なんだか雰囲気が変わったわね」

絵理「……………」

絵理「そうかもしれないですね」スウ…

ツバサ「？」

絵理「亜里沙ああ!!!」

ツバサ「……………」ビクッ

希「えりち……………!?!」

花陽「びつくりしたあ……………」



ベンチ

亜里沙「……………んう……………」モゾモゾ

亜里沙「お姉……………ちゃん？」ムクツ

絵理「亜里沙……………」

絵理「あなたにとって、サッカーがなんなのかは私にはわからないけど……………」

亜里沙「……………！」

絵理「そのためなら体が壊れても構わない？」

亜里沙「……………」

絵理「……………そんな」

絵理「……………そんなバカみたいな考えを改める気がないのなら」

絵理「私がどんな手を使ってでも引きずり戻す」

ツバサ「……………」

絵理「あなたは……………」ジャリッ

亜里沙「!!」

絵理「私の大切な妹なんだから!!」

ズアッ!

ブワアア!

ブワアアア!

ブワア!

ダンツ!

パキパキパキパキ!

カキーン!

亜里沙「い、今のつて……!」ガタツ

—————

バレエコンクール

~~~~~♪

えり「……あつ……!?!」ガッ

ドサッ

えり（……………やっちゃった）ウルツ

審査員「……………」カキカキ

金賞は……………です！

ワーーーー!!!オメデトーーーー!!!

えり「……う……………うあ……………なんで……………」ポロポロ

えり「あんなに……………頑張ったのに……………」ポロポロ

おばあちゃん「エリーチカ、練習ではできてたじゃない」

おばあちゃん「大丈夫、次はできるよ」

えり「もう……………もういい……………!!」

おばあちゃん「エリーチカ……………」オロオロ

えり「バレエなんてもう嫌!!」

えり「こんなの……………!!」

えり「……あ……」ビクッ

おばあちゃん「……」

おばあちゃん「本当に辛かったら……やめてもいいんだよ」ナデナデ  
えり「おばあさま……」

タツタツタツ

ありさ「お……おねえちゃん……？」ハアハア

ありさ「おねえちゃん……やめちゃうの？」

えり「……私は……ここまでみたい」

ありさ「そ、そんな……」ウルウル

えり（……この曲……好きだったんだけどなあ……）ナデナデ

—————

絵理「確かタイトルは……」

絵理「雪の天使様……だったかしら？」トツ

えり ニコッ

絵理（ありがとう）

角間「こ、これは……新必殺技だあ!!あの綺羅からボールを奪ったぞお!!」

角間「まるで雪原を舞い踊るバレリーナのようなだあ!!」

凜「……綺麗」

穂乃果「あれが……絵理ちゃんの新しいサッカー……」

海未「あれだけ激しい動きをしながら軸が全くブレていませんでした……さすがです」

海未「名付けるなら……そうですね」

希「スノーエンジェル」

海未「!?」クルツ

希「にしし!」

亜里沙（お姉ちゃんは……）

ツバサ「……面白くなってきたわね」

絵里「いくわよ!」

亜里沙（何年も目を背け続けてたバレエと……）

絵理「吹き荒れる……」

パキパキパキパキ

亜里沙（完全に向き合ってまで、亜里沙のこと……）

絵理【エターナルブリザード！】

ドゴオオオオオオオオ!!

亜里沙（……想ってくれてたんだね）

G K「……何度やっても同じ」

G K【パワーシールド】ドツ！

ギョルルル！  
ビシイ！

G K「！」

（パワーが上がってる……！でも……）

G K「この程度じゃ……」グググググツ

グルグルグル

真姫「はあああ!!!」バツ

ドキュウウウ!!!

GK「なっ……!?!」

真姫「希が言ってたわね……衝撃波の壁って……」

真姫「つまり!こんな風に押し込んじゃえば……!!」

ミシミシ……ビキイ!

GK「……そんな」ググッ

バリイン!

真姫「突き破れる!」

【ファイアトルネード!】

ドゴオオオオオオオオ!!!

G K 「きやあああ!!」 ドサツ  
ドシユウウウ……!

角間 「き、決めたあ!!!音の木坂のダブルエースが一点を返しました!」  
角間 「これで点差は……一点差です!」

穂乃果 「やったあ!!」

希 「うちのおかげかな?」

真姫 「……ええ、希のおかげよ」

希 「おお……!真姫ちゃんが素直……」

真姫 「な、なによ!人がせっかく……」

穂乃果 「まあまあ落ち着いて!」

絵理 「……」



希「想い、伝わってるといいね」

絵理「きつと大丈夫よ、亜里沙だもの」

希「そ、それでなえりち……さっきの……」

絵理「……希？」キョトン

希（亜里沙ちゃんの言つてた氷の女王って……）

希「……」

希「……さっきの……すごい大きい声やったね！」

絵理「え？……え、ええ」

凜「急に叫ぶからびっくりしたにやー」

にこ「ほんとよ、何があつたのかと思つたわ」

絵理「ご、ごめんなさい……」

花陽「つ、次からは、叫ぶ前に叫ぶっていつてね！」

ことり「それはそれでよくわからないことになりそうだけど……」

海未「あと2点、手足をもがれても取りますよ」

海未「いいですね？皆さん」ギラッ

みんな「は、はいい……」

凜（海未ちゃんの眼力やばいにやー）

希（あれはすでに何人か殺ってる目やね……）

花陽（そんな……!!）

海未「全部聞こえてます……よ！」バシッ

凜希花陽「あう……！」ジンジン

ツバサ「審判、メンバーチェンジよ」

「v s U T X 高校、後半戦④」

亜里沙を止めるため、過去の自分と初めて向き合った絵里  
そんな絵里の姉としての覚悟を見た亜里沙は……

ツバサ「審判、メンバーチェンジよ」

亜里沙　　ザッ

ツバサ「………確認するまでもないようね」

ツバサ「いい顔になってるわ」

亜里沙「……勝つことより大事なこと……忘れてました」

亜里沙「私がサッカーを始めたわけ……」

—————

ありさ「おねえちゃんさいきん笑顔がふえたね！」

えり「そ、そう？」

ありさ「なにかあったの？」

えり「ふふ、じつはね、サッカーを始めたの」

ありさ「さっかー？」

えり「チームで一つになってボールを蹴りあうの！」

ありさ「ふーん？」

えり「まだありさには難しかったかしら……」

ありさ「じゃあじゃあ！ありさもやる！さっかー！」

えり「え、ありさも？」

ありさ「うん！」

えり「それじゃあお母様におねがいしにいきましょうか」

ありさ「やったー！」

ありさ（ありさだっておねえちゃんをえがおにできるんだもん！）

ありさ（……さっかーってなにかわからないけど）

—————

亜里沙（あの頃はお姉ちゃんの後について行くだけで楽しかった……）

亜里沙「ツバサさん達のこともそう」

亜里沙「私のことを想って止めようとしてくれる人がちゃんといたのに……」

亜里沙「全然見えていませんでした……」

亜里沙「ごめんなさい……」ペコッ

ツバサ「……そう」

亜里沙「だから、お返しはプレーで示したい！」

ツバサ「ふふ、存分に暴れてきなさい」

亜里沙「はい！」

あんじゅ「本当をお願いよ？」

エレナ「人のボールを横取りするのはいけない」

亜里沙「ほ、本当ごめんなさい!!」

U T X 高校 3 | 2 音の木坂

ピーーーーーー

角間 「再び絢瀬を加えてスタートしましたU T X 高校！」

角間 「このまま勝利を決めるのか……それとも！」

角間 「音の木坂が逆転勝利を果たすのかあ!？」

真姫 ザツ

ツバサ 「ふふふ」 ザツ ザザザツ

真姫 「つく……また……!」 ガクツ

ツバサ 「頼んだわよ!」 ドツ

M F 2 「はい!」 トツ

ここ 「行かせないわよ!」

ここ 「とりゃあ!!」 ブンツ

ズシユウウウ!

ブワアアアアアア  
!!!!!!

M F 2 「きやあ!!」 ドサツ

ツバサ 「……………」

D F 1 「…………先輩けつこう悲鳴乙女…………」

にこ 「…………何、今の…………」 トツ

真姫 「仮にもアイドル目指してるのにとりやあつて…………」

にこ 「う…………うるさい!」

希 「ええよー!にこつちいー!!」

にこ 「まあいいわ」

にこ 「頼んだわよ海未!」 ドツ

海未 「さすがにこですわ」 トツ

M F 1 「ふふ、またあなたですか」 ザツ

海未「そういえば、花陽が言っていました」

海未「あなたとの一対一は分が悪いと」

M F I「それは光栄ですね」

海未「ならば……こうすればいいんです！」 ドツ

M F I「なっ!? そつちには誰も……」

ギユルルルル！ ドツ

海未【ひとりワンツー！】 トツ

M F I「そんな……！」

角間「なんということだあ!! たった一人でワンツーを成立させて抜いてしまったあ  
!!」

G K「く、来る……！」

G K（私に……止められるの?）

海未（今まで無失点で抑え続けていて今日だけで二失点……）

海未「自信が揺らいでいるようですね」



G K 「そんなこと……ない！」バツ

海未 「その薄皮一枚で繋がっているあなたの自信……」

海未 「私が断ち切ってあげましょう」フツ

トン………

G K 「私は……！」

ズバア！

海未 「菊一文字!!」

ドゴオオオオオオオオ  
!!!!

G K 「………」ギユッ

G K 「パワーシールド！」ドッ

ゴオオオオオオ!!

海未「……………なまくらでは」

バリイン!!

G K「うそ……………」

海未「本気の刃は止められませんよ」

ドシユウウウウ……………!!

G K「あぐつ……………!!」ドサッ

角間「き、決まったあああ!!! 同点ゴールを決めたのは園田だああ!!!」

穂乃果「やったあ!!」

ことり「海未ちゃんさっすが!!」

凜「海未ちゃん!」バツ

海未「り、凜!?!お、重いです……!」ググツ

凜「すごいね海未ちゃん!」

真姫「もう……そんなに簡単に決められちゃ私たちの立場がないじゃない」

絵理「ねー?」

希「相手の子……」

海未「ええ、自分を見失いかけていますね」

凜「畳み掛けるなら今がチャンスにや!」

花陽「で、でも……これ以上失点したら本当に……」

花陽「守備も固めないと……」

ここ「【トライペガサス】……」

穂乃果「……」ズキズキ

穂乃果「それは任せて」

穂乃果「穂乃果が止めるから!」

海未「穂乃果……」

穂乃果「フアイトだよ！」グツ

希「穂乃果ちゃん……」

海未「……」

海未（……左腕が上がっていませんよ、穂乃果）

ことり（いつもはワガママな穂乃果ちゃん、でも肝心なところではいつも……）

雪穂「ちよつとちよつと！」

穂乃果「雪穂……？」

雪穂「何一人で背負い込む気での？」

花陽「そ、そうだよ！」

凜「凜たちもいるにやあ!!」

にこ「みんなで守って、みんなで攻めて、そんなもってみんなで勝つのよ」

穂乃果「……みんな……!!」

絵理「だからあなたは安心して守ってなさい！」バシッ！

穂乃果「いったあ!」ピクンッ

海未「絵理いい!!」

絵理「……やつちやつた？」

穂乃果「おおおお!!」ジンジン

GK「そんな……私……?」プルプル

ツバサあんじゅエレナ ザッ

GK「あ……ご、ごめんなさい……!」

ツバサ「……はあ」

GK「あ……!」ビクッ

エレナ「……自分の限界を決めつけすぎだ」

GK「……え?」

あんじゅ「あなたにはまだまだ伸び代があるわ」

ツバサ「壁に当たった時はそれをぶち破るチャンス」クシヤクシヤ

ツバサ「あなたなら超えられる」パッ

GK「……チャンス……」ボサア……

DF1「そーそー! 一年生同士、もつと頼ってくれてもいいんだよ!」ガシッ

GK「……あり、がとう……」

あんじゅ「……あげるわ」スツ

G K「……これ」

G K「いいんですか？」

あんじゅ「ええ」

G K「……どうも」スツ

U T X 高校3—3音の木坂

ピ—————

角間「一体誰が予想したでしょうか！初出場校がここまでの戦いを見せることを！」  
ドツ

ツバサ「私たちよ」ドツ

エレナ「だな」トツ

にこ「それは光栄ね！」ガツ！

エレナ「……」ザツ　　ガガツ

にこ「はあ！」ガガガッ

エレナ「……」ガッ ザザッ

エレナ（……小柄な体を生かしたディフェンスで懐に潜り込んでくる……）

角間「凄まじい罅迫り合い！矢澤奪えないまでも負けてはいない！」

エレナ「なかなかやる……な！」ドキユッ！

にこ「んなっ!？」

角間「な、なんとということだあ!!あの激しい攻防の最中にもかかわらず正確なミドルパス!!」

角間「綺羅へとボールをつないだあ!!」

ツバサ「それがエレナよ」トッ

エレナ「いちいち騒ぐな、ただのパスだ」

にこ花陽「精密機械……」

花陽「頭ではわかってても……実際に見るとここまで……」

にこ「そんな統堂エレナですらナンバーワンを譲らなければいけない存在……」

ツバサ「ふふふっ」クルンッ

ヒデコ「ぬわ!？」

凜「そんな……!!」

にこ花陽「綺羅ツバサ……!!」

海未「試合中はそれやめてください!!」

ツバサ「……亜里沙!」ドッ

絵理「!!」

亜里沙「はい!」トッ

絵理「亜里沙!」

亜里沙「フフ」

亜里沙「お姉ちゃん……!!」チラッ

絵理「!」

亜里沙「これは、お姉ちゃんの足跡を追いかけ続けて……やっと習得した技」

亜里沙（これが……私の答え……!!）

—————

ありさ「わー!おねえちゃんかつこいい!!」

ありさ「ありさも!ありさもやりたい!」

絵理「亜里沙にはまだ早いから、もう少し大きくなったらね」

ありさ「む……」

ありさ「じゃあもう一回見せて!」



絵里「もう、しょうがないわね……いくわよ？」トトツ  
ありさ「うん！」パアア！

絵里「吹き荒れろ……」  
パキパキパキパキパキ

亜里沙「吹き荒れて……」  
パキパキパキパキ

絵里【エターナル……!!】

亜里沙【……………ツブリザード!!!】ドキユツ!!



亜里沙「……さすが雪穂だね」

「v s U T X 高校、後半戦⑤」

「ハンターズネット！」

ドシユルルルル!!

テンテンテン コロコロ……

雪穂「……いいボールだったよ、亜里沙」

亜里沙「……さすが雪穂だね」

ことり「雪穂ちゃん……！」

真姫「……！」ダッ

雪穂「そおれ！」ドオツ！

エレナ「これは……」

ツバサ「超ロングパス……！」

真姫「ふっ！」ジャンプ

DF1「そんなの！」ジャンプ

DF2「通すわけないやろって！」ジャンプ  
ガツン！

真姫「きやあ!?!」ドサツ

DF1「よし！」トツ

DF2「ごめんなく」

ブワアア！      ブワアア！      ブワアア！

ドツ！

ビキビキビキ      カキーン！

絵理「ごめんなさいね？」トツ

DF2「んなアホな……」

G K 「……………」 スツ

G K パチッ

エレナ 「…………やる気だな」

あんじゆ 「いい髪留めでしょ」

ツバサ 「……………」 フフ

あんじゆ 「……………」

あんじゆ 「やっぱり綺麗な目してるじゃない……」

絵理 「エターナルブリザード！」

ドゴオオオオオオオオオ!!!

G K 【パワーシールド！】

ドシユルルルル!!!

タタタッ

真姫「何度やっても同じ！」バツ  
グルグルグル

真姫【ファイアトルネード！】  
ドゴオオオオオオオオオ  
!!!!

ビキビキビキ  
にこ「いけ！」

花陽「決まって！」

真姫「はああああ!!」グググググ!

GK「……………」ググググ  
ビキキキキキ!!

バキイン……………!!





ことり（穂乃果ちゃんに負担はかけられない！）

ことり「私がいく！」ダッ

DF1「……………」タッタッタッ

MF2「おら！きてるぞ!!」タッタッタッ

DF1（相変わらず口が悪いなあ）タッタッタッ

—————

MF2「たらたらしてんなよ一年!!」

「ほら、あの先輩、ヤンキーみたいで威張り散らしてるの」

「一年生からレギュラーだからってね」

DF1「……………」

片付けを少しサボっただけで怒る、練習中少し遊んだだけで怒る

正直、怒っている人って印象しかなかった

DF1 「うわ〜！遅くなっちゃった！」

あたりは暗くなり、部員はみんな帰ってしまっていた

テンテン…！トツ…！ザザツ！

DF1 「…？なんか音が…」ソツ

MF2 「はあ…！はあ…！」ザザツ！

DF1 （…はあ!?なんで1人で残って練習してるの!?)

MF2 「…そろそろ時間か」トトツ

DF1 （あーはいはい、不良が実は影で努力してましたーってやつね）

DF1 （別にそんなの知ったからって今更印象なんて…）

MF2 「ありがとうございますあ!!!」 バッ!

DF1 「……!!」 ビリビリビリ……!

練習が終わったらグラウンドに挨拶、そんなの当然、いつもみんなやって……

『あーしたー』ペコ

『あざしたー』ペコ

……この程度で……印象なんて

一度意識してしまうと、あとは芋づる式だった

MF2 『おい! 片付けたらたちらしてんなよ!! 次の部活来てんだよ!!』 ヨイシヨ!

MF2 『道具直し忘れてんの誰だ!?! 無くなったら部費から抜かれんだぞ!!』 ガシヤツ

!

……

DF1 「……先ばーい」

MF2 「……あ? まだいたのか?」 ハアハア

DF1 「私も……明日から一緒に練習していいですか？」

—————

DF1 「ヤンちゃん先輩！」 タタタッ

MF2 「……合わせろよ泣き虫小僧!!」

DF1 「小僧じゃない!!」

ことり 「なっ……」 ザッ

DF1 MF2 「ブリタニアクロス！」

ズシューウウウ!!!

ことり 「うわあ!?!」 ドサッ

花陽 「ことりちゃん！」

DF1 「……」 トッ

—————

DF1 「私も……明日から一緒に練習していいですか？」

MF2 「…………ヤダ」

DF1 「はあ!?!」

MF2 「怠け者と練習したらこつちまで怠け者になる、から、やだ」

DF1 「…………じゃあ、私がレギュラーになったら…………してくれませんか?」

MF2 「はいはい、なれたらな」

—————

DF1 (…………ニヒヒ…………)

DF1 「お任せです!」 ドツ

MF2 トツ

花陽 (穂乃果ちゃんのところには行かせない!)

花陽 【デیفフェンス…………】

MF2 「ほっ！」 ドッ

亜里沙 「はい！」 ドッ

MF2 「やるな！」 トッ

花陽 「そんな……！」

海未 「デイフェンス！御三方を徹底マークです！」

海未（穂乃果を守らなければ……！）

ザザザッ！

ツバサ 「あら？」 ザッ

エレナ 「これは手厳しいな……」 ザッ

あんじゅ 「動けないわあ……」 クルクル

角間 「これは完全に得点源の3人を押さえ込んだぞお!!」

海未 「これで……！」

エレナ 「……」 チラッ

凜 キョロキョロ

エレナ（……まだまだ甘いな） コクッ

MF2 「……！」 コクッ

エレナ「一瞬の隙も見せては駄目だろう？」ダッ

ドッ

エレナ「さすがだ」トッ

MF2「へへへ！」テレテレ

海未「マ、マークを外さないように！」

凜「わ、わかったにや！」

花陽「了解です！」

エレナ（……）フフ

エレナ「ツバサ！あんじゅ！作戦Bだ！」

ツバサあんじゅ「！」

海未（さ、作戦B……!?一体なにを……）

海未（いやこれは……私たちを動揺させるための罠！）

エレナ（園田海未、君ならこのハツタリに気づけるだろうが……）

エレナ（他のメンバーには……どうかな？）



凜「う、海未ちゃん……！」 タジタジ

花陽「ど、どうすれば!？」 アワアワ

ツバサあんじゅ シュバツ!

海未「しまった!」

にこ「っ……!」 ダツ

エレナ「ツバサ!」 ドキユツ!

にこ「読んでんのよ!」 タツタツタツ

にこ（シユートは絶対打たせない!）

角間「一足先にパスを読んでいた矢澤! ファインプレーなるかあ!？」

海未「にこ……!」

花陽（……にこちゃんなら知ってるよね……）

にこ（あと……少し!） ダツ

スカッ

にこ「そ……んな！」ガクッ

エレナ「……すまない、計算通りだ」

花陽（統堂さんのパスをカットできた人は……誰もいないって）

ツバサ「これで終わりよ！」トッ

角間「完全にフリーだああ!!」

ズシユウウウウ!

ブワアアアアア!!!

ことり「穂乃果ちゃん！」

ドツドツドツ

ツバサあんじゅエレナ【トライペガサス!】

ドゴオオオオオオオ

角間 「こ、これは決まってしまうのかあ!?!」

角間 「残り時間も後わずか……ここでの追加点は勝敗を決める一点といつても過言ではないでしょう!!」

海未 「穂乃果あ!!」

真姫 「今の穂乃果じゃ……!」

穂乃果 「つつ……!」ズキ

穂乃果 「……はああああ!!!」

ゴオオオオオオ!!!

穂乃果 【マジン・ザ・ハンド!】

ドシユルルルル!!

ミシイ……!」

穂乃果 「つぐう!!」ズザザザザザ!!!

にこ「穂乃果！」

角間「ボールの勢いに押し込まれる!!高坂踏ん張れない!!」

ズキーン……!!

穂乃果「ツ……!!あああああ!!!」ズズズズ!

海未「ほ……穂乃果あ……」

ことり「穂乃果ちゃん……」

穂乃果「……私じゃ……やっぱり……」

穂乃果「……!」ブンブン

穂乃果（穂乃果は今……何を考えたの?）

穂乃果（……みんなが信じてくれてるんだもん!）

穂乃果（最後の1秒まで、諦めるわけにはいかない……!!）

穂乃果（……んだけど……）

穂乃果（なんだろうこの感じ……）

穂乃果「……………」グググッ

穂乃果（ああそっか、こういうのを……………」

穂乃果（格の違いつて言うのかな……………」アハハ…

穂乃果「……………」グググッ

穂乃果「……………」勝ちたかったなあ」ボソッ

タツタツタツ!

雪穂「つ……はあ、はあ……!」ズザザザ!

雪穂「何……一人であきらめムードになってるの?」

穂乃果「ゆ、雪穂……!」ググググ

雪穂「家ではいっつもグータラしてるんだから……」

ガシッ

雪穂「試合中ぐらいかっこいいとこ見せてよ!!」

ゴオオオオオオ  
!!!!

穂乃果「!!」

穂乃果「……そうだね雪穂」

メキメキメキ……!

角間「おおつとおお!?高坂のマジンが姿を変えていきます!」

ツバサ「なにあれ……」

エレナ「そんな……」

あんじゅ「こんなことって……!!」

雪穂「私たちを……」

穂乃果「穂むらの看板娘を……!!」

雪穂穂乃果「甘く見ないで!!!」

ドオオオオオオオオオオ!!!

シユルルルルルル……パシツ……!

穂乃果雪穂「……よし!」

海未「【ホムラ・ザ・ハンド】……ですか」

海未「すごすぎですよ、二人とも……!!」グツ

角間「とめたあ!!!和菓子屋穂むらの看板娘姉妹が【トライペガサス】を止めましたあ

!!」

ツバサ「そんな……」

穂乃果「や……た！」ガクツ

雪穂「おねーちゃん！」バツ

穂乃果「行つて……雪穂！」コロコロ

雪穂「……わかつた！」トツ

角間「さあ、残り時間もごく僅か！一体どちらが勝利を手にするのでしょうか！」

ツバサ「エレナ、あんじゅ、戻るわよ！」

雪穂「凜さん！」ドツ

凜「穂乃果ちゃんの止めたこのボールは……繋いで見せるにや！」ダツ

M F 1「いかせません」ザツ

凜【アクロバットキープ！】

バツ　クルツ　ダツ！

M F 1「いい動きですが私には……」

M F 1（相手の動きに合わせて……）スススツ



凜 ニヤッ

凜 「ほっ！」 クンッ

M F I 「あ、あの体勢からフェイントを…!?」 ガクッ

M F I 「何というボディバランス……」

M F I (私が相手の力量を見誤るとは……!!)

凜 「希ちゃん！」 ドッ

希 「ほい！」 トッ

エレナ 「ツはあ……間に合った」 ザッ

希 「……やっぱり映像じゃ細かいところがみえないんですよ」

希 「でも今日……本物が見れた」

エレナ 「……なにが言いたい？」

希 「こういう……こと！」

クルツ　スタツ!

希【イリユージュヨンボール!】

エレナ「こ、これは……!?!」ガクツ

ツバサ「……」タツタツタツ

あんじゅ「本物と遜色ない……」タツタツタツ

角間「またまた抜いたあ!!止まらない止まらない!!どんどん攻め上がるぞお!?!」

希「真姫ちゃん!」ドツ

真姫「……ええ!」トツ

真姫「凜!来なさい!!」

凜「にや……!?!嘘……!?!」ダダダダツ

花陽「り、凜ちゃん!?!」

にこ「あいつなにやってんのよお!?!」

角間「D Fの星空がまたもや前線にあがってきたあ!!【たつまきおとし】かあ!?!」

G K「あれはもう……決めさせない……」

真姫「今しかないわ、あれをやるのは！」タツタツタツ

凜「あれ……つてまさか！」タツタツタツ

凜「……できないにや、練習では一回も……」

真姫「凜!!!」

凜「……!!」ビクッ

真姫「今、私たちが決めないと……負けちゃうかもしれないのよ」

凜「で、でも……!」

真姫「負けたら……」

真姫「みんなとは二度と……一緒に試合することは出来ない」

凜「そ……そんなの……」

凜「……いやだ!!」グッ

真姫「それにね、凜」

凜「にや?」

真姫「こういう場面で決めた方がかつこいいと思わない?」スッ

凜「……わっつい顔してるにやー」スツ  
コツン

――  
凜「ええ〜!?」

真姫「しっ！声が大きー！」ヒソツ

凜「ほ、本当にそんなことできるの？」

――  
凜「………できるかどうかじゃない」

真姫凜「やるかやらないか!!」ザツ

GK「………」グツ

真姫「行くわよ、凜！」

凜「うん！」

真姫凜　グツ

ダンッ　　ダンッ

真姫「うぐっ……!!」ドサッ

凜「いにや!？」ドサッ

真姫「もう一回よ!」スクッ

凜「うん!」スクッ

グルグルグル

グルグルグル

花陽「………二人とも」

凜「今日もダメだったにや……」

真姫「いいところまで行ってたのね」

真姫凜 バッ

G K「……!!」

凛 「きつと明日には出来るようになってるにや！」

花陽 「……………」

花陽 「いけーいけー!!!」

ドキュッ  
!!!!!!

真姫凜【ファイアトルネードDD！】  
ゴオオオオオオオオオオオオオオオオ  
!!!!!!

にこ「あいつら……いつの間にあんな技……!!」

希「……ふふ」

ことり「希ちゃん？」

希（……やっとなんか成功したんやね）

GK「なんて迫力……!!」ジャリッ

GK【フルパワーシールド！】

ドオオオオオオオ  
!!!!!!

ギョルルルルル!!!

ビキビキ………!

G K 「そんな………」ググググ

G K 「だめ………なの！」ググググ!

ビシイ………!

パリン………!!

G K 「………」

G K 「どうしてえ………」ウルツ

ドサツ

ドオオオオオオ!!!

角間 「シ、シールドが破れたあ!!これで勝ったのは………」

「まだ!!」



あんじゅツバサ「はああああ!!!」バツ

ドキュルルルルル!!!

あんじゅ「絶対に……!」ググググ

ツバサ「止める!」ググググ

角間「綺羅と優木がフォローに走っていたあ!!

真姫「いけ……!」

凜「いけ……!」

真姫凜「いけええええ!!!」

ギュルルルル!!!

ツバサ「……っぐ……!」ググツ

あんじゆ「……この……威力は……！」ググッ  
エレナ「……………」

あんじゆツバサ「きやあああ!!!」ブワアッ！  
ドシユウウウ……………!!!

ピ……………  
角間「き……………」

角間 「決まったあああああ  
ワアアアアアアアアアアアア  
!!!!!!

角間 「なんと勝ち越しを決めたのは音の木坂の一年生コンビだああ!!」

ピツピツピツーーーーー

角間 「ここで試合終了のホイッスル！」

角間 「勝ったのは……」

角間「音の木坂だああ!!」

ワアアアアアアアアアアア  
 イイシアイダツタゾー!ヨクヤツタア!!

真姫「……」ハアハア

凜「………」ハアハア

真姫凜　チラツ

真姫凜「………」?」ハア　ハア

穂乃果「………」

穂乃果「……勝った?」

「「「「………」」」」

凜「いゝゝゝゝ!!!」

「「「「いやつたああああ!!!」」」」

海未「やつた!やつたんですよ穂乃果!」ガッ

穂乃果「い、痛い痛い！」

ことり「穂乃果ちゃあん！」ガッ

穂乃果「ぎやあああ!!!」ガクッ

海未「ここまで長い道のりでした！」

花陽「凜ちゃん！真姫ちゃん！」ガシッ！

凜「ウブブブ！……ップハ！かよちん苦しいにやあ！」ググッ

真姫「あはは！」ググッ

花陽「やったよおお!!」……

花陽「？」ギユッ

にこ「……!!」プルプル

希「にこっち」ギユッ

にこ「うう……!!」ギユッ

絵理「フフ」

ヤッタヨオ!!カッタア!!

「……………」

ツバサ 「……………負けた……………のね」

あんじゅ 「ええ」

エレナ 「あまりいい気分ではないな」

GK 「わたし……………私！」 ポロポロ

ツバサ 「ごめんなさい、勝たせてあげられなくて」 ナデナデ

GK 「ごえ……………ごめんな、さい…!!」 ギユツ

DF1 「う、うあああああー」 ポロポロ

MF2 「……………」 ナデナデ

MF3 「負けたんっすね……………」

MF1 「……………そうですね」

MF3 「……………」

MF3 「もつとみんな……………っ」

MF3 「っ……………ッ」 ウルツ

MF3 「サッカー……………やり、たかっただっすね……………」 ポロポロ

MF1 「……………そう、ですね」 ポロポロ

角間「皆さん！歴史に残る名勝負を果たした両チームに拍手を！！」

パチパチパチパチパチパチ！！

ひと気のない廊下のベンチ

「……………」

亜里沙「お姉ちゃん…」

絵理「亜里沙……………」

亜里沙「その……………ごめんなさい…」

亜里沙「亜里沙…その」

ギョツ

絵理「何も言わなくていいわ」

絵理「……………私の気持ち、受け取ってくれたじゃない」

絵理「……………綺麗なシュートだったわ」

亜里沙「うう……………ごめんなさい、ごめんなさい……………」ポロポロ

亜里沙「酷いこと……………いった、りとか……………！他にもいっぱい……………」ポロポロ

絵理「いいの、いいのよ亜里沙」

絵理「それに、もうあんな危険なことほしないでしよう？」

亜里沙「うん……………！！絶対にしない！」ゴシゴシ

絵理「ふふ、なら安心ね」ナデナデ

亜里沙「そーだよ……………だからもう少し……………そのまま……………」

絵理「亜里沙は本当に撫でられるのが好きなのね」ナデナデ

亜里沙「もう、また……………子供、扱い……………」ウトウト

亜里沙「亜里、沙……………は……………」ウトウト

絵理「……………」ナデナデ



亜里沙「……………」スウ…スウ…  
絵理「おやすみ、私の可愛い妹」チュツ

ポタッ

絵理「あら……………」ゴシゴシ

絵理「おかしいわね……………」

絵理「……………」安心、したからかしら」

亜里沙 スウ……………スウ……………

絵理「これで……………全て元どおり……………」

絵理「……………」

絵理「……!!」ブワッ

ポタッ  
ポタッ

亜里沙「……………んう……………」スウ……………スウ……………

絵理「本当に……………よかつたあ……………!!」ポロポロ

絵理（亜里沙の体は無事だった……………）

絵理（亜里沙に嫌われてもいなかった……………）

絵理「う……………うう……………」ポロポロ

絵理「亜里沙あ……………!!」ギユツ

絵理（私は……………）

絵理（あなたが思ってるほど強くないのよ……………）

パシヤツ

M F 3 (……約束通り一緒に写真撮ろうと思ったのに)

M F 3 (そんな空気でもなさそうだから勝手に撮ったけど……)

M F 3 「流石にダメっすよね……」 トトツ

「削除しますか？」

M F 3 「……………」 トツ

「お気に入りに入れて保存しました」

M F 3 (やっぱりこんなレアショット消すのはもったいないっすよねー!!)

M F 3 (金髪クォーター美人姉妹の妹を膝枕しながら姉涙……………色々盛りすぎじゃな  
いつすか?)

M F 3 (これは早速現像して額縁に…………)

ツバサ 「……………」

M F 3 (にへへへ……………!もう今からウキウキが止まらないっすね!!)

ツバサ 「……………」

M F 3 (何色の額縁買いましょうかね〜)クルツ

ツバサ 「……………」

M F 3 「……………」

ツバサ 「……………」

M F 3 「……………」

ツバサ 「……………」

M F 3 「……」

ツバサ 「……」

M F 3 「………見えました？」

ツバサ 「全部」

M F 3 は目の前が真っ暗になった  
もちろん写真は消えていた

## 第12話 「予選終了」

控え室廊下 ??

絵里「……………」??

ツバサ「……………」??

絵里（き…………）??

絵里（気まずい!!）

??????????

数分前 ??

ゾロゾロ ??

ツバサ「…………… 絢瀬さんと東條さん少しいかしら」??

絵里「わ、私ですか？」

??希「……うちも？」??

あんじゅ「東條さんは私の方に」

??????????

絵里「えつと……私を呼んだのは？」

??ツバサ「……」

??ツバサ「私たちは、あなたに嫉妬している亜里沙さんにつけ込んであんな危険な目に合わせた」??

ツバサ「自分たちが勝ちたいばかりに貴方の妹さんを利用した」

??ツバサ「だから、その落とし前をつけさせてもらおうと思って」

??絵里（……嫉妬？亜里沙が私に？）??

絵里（それはまあ後でいいとして今は……）??

ツバサ「本当にごめんなさい」ペコッ

??絵里「……正直、あの時はものすごく腹が立ったのは確かです……」??

絵里「……」??

絵里「一つ聞いてもいいですか？」

?? ツバサ「なんでも大丈夫よ」??

絵里「どうして、亜里沙に『エターナルブリザード』を打たせたんですか？」

?? ツバサ「……………」??

絵里「止められるってわかってるのに……………」

?? ツバサ「それは……………」

?? 絵理「綺羅さんがなにを考えているのかはわかりませんが、私からしてみれば……………」

??

絵里「私が知らずに生んでしまった姉妹間の確執を取り除くチャンスを与えた」??

絵里「仲直りのチャンスを与えた」??

ツバサ「!!」?? 絵里「姉妹のいざこざに巻き込んでしまっ、すいませんでした」ペ

コッ

?? 絵里「そして、亜里沙を止めてくれて、ありがとう」

ツバサ「……………」

……………??

穂乃果「わたしたち、決めたんです」??

穂乃果「綺羅さんたちに本当のことを聞くまで、信じようって！」ニコッ??





ことり「今のつて…」

??凜「ビンタの音……だよな？」??

真姫「一体なにしているのよ……」

??凜「修羅場かにや？修羅場かにや？」??

真姫「ウキウキしない！」チツッ！

??凜「おぶち…!!」ベシッ

????????

廊下  
??

ツバサ「ツ…！」ヒリヒリ

??絵里「……ごめんなさい」

??ツバサ「…別に謝ることじゃないわ」??

ツバサ「むしろ少しホツとしたわ」ニコッ

??絵里「……」スッ??

ツバサ「！」??

絵里「あなたたちは、亜里沙の暴走を止めてくれたのに、私はあなたの胸ぐらを掴み上げた……」

??ツバサ「あれは……！」??

絵里「……」コクツ??

ツバサ「……」ハア??

ツバサ「全く、敵わ~~な~~ないわね」スツ??

絵里「……」グツ

パアン！

???????

???????

控え室??

にこ「……」??

花陽「二兎目……」

??穂乃果「修羅場……修羅場だよ!!」

??海末「なにちよつと嬉しそうにしてるのですか!!」

??穂乃果「だ、だって……ビンタなんて漫画でしか見たことないし……」??

海末「まあ、現実でビンタなんて普通はしませんからね」

????????????

廊下 ??

ツバサ「……ごめんなさい」

??絵里「い……いえ」グワングワン ??

絵里「一瞬外れたかと思いましたが」??

ツバサ「…身長差のせいで顎に入っちゃったわね」??

ツバサ「あなたはもういいの？」スツ

??絵里「いえ、もう気は済みましたから」フフ ??

絵里「……行きましようか」??

ツバサ「ええ」

???????

また別の廊下 ??

あんじゆ「……優勝おめでとう」

??希「へ……!?あ、ありがとうございます……?」

あんじゆ「それで、えっと……話……なんだけど」

??希（……………）

??

????????????

希「あー!!」バツ

あんじゆ「へっ!? な、なななに!」ビクツ ??

希「聞いてくださいよ優木さん!」

??希「この前の練習試合の後家に帰ったら……なんと!」??

希「ドアノブに湿布やらなにやらがかかってたんですよ!」

??あんじゆ「!!」ギクツ ??

希「そして中にはごめんなさいって書いた紙が入ってて……」

??希「もうウチ頭混乱しちゃって……誰かなーって」??

あんじゆ「……」ギクギク! ??

希「そもそもあの日誰からも謝られるようなことされてないのになって」??

あんじゆ「……へ?」

??希「だから本当に不思議だなーって……」

??あんじゆ「ちよ、ちよつと待ちなさいよ!」

??あんじゆ「なにもなかったってことないでしょ?」??

あんじゆ「あの日は……私が……」??

あんじゆ「!」ハッ

??希 ニヤニヤ ??

希「やつぱり優木さんやったんですね」??

あんじゆ「くくく!!そ、そうよ!」バツ

??あんじゆ「あの日……貴方を傷つけたこと、謝ろうと思って……」??ペコツ??

あんじゆ「ほ、本当にごめんなさい!」

??希「じゃあ……ウチからお願ひ事一つ!いいですか?」

??あんじゆ「え、ええ、できる範囲なら……」

??希「……実は……初めて見た時から気になって……」ワキワキ??

あんじゆ「と、東條さん?その指の動きは……?」

??希「……」

??あんじゆ「……」ワ?

??希「ワシワシ……」ガバツ

??きやあああああ

??ツチイイイン

!!!!!!

ガチャ

?? 穂乃果「あ、お帰……り？」 ??

エレナ「遅かったな」 ??

エレナ「おや？ 上がりだ」 パサツ

?? 花陽「ま、また負けです……」 ??

にこ「や、やるわね……！」

?? ツバサ「どうしてそんなに馴染んでるのよ」

?? エレナ「お前たちを探しに来たらいないから少し構ってもらっていたんだ」 ??

ことり「ど、どうしてみんなもみじ型……」 ??

ツバサ「ま、まあ……」 モミジガタ

?? 絵里「色々……」 モミジガタ ??

希「ありまして……」 モミジガタ ??

あんじゅ「……」 カアア！

凜「希ちゃん絵里ちゃんお帰……」 ワシツ ??

凜「……へ？」 ??

希「ワシワシー!!!」 ワシワシ



??凜「な、なんで!?なんで!」ジタバタ??

希「試合が終わったらワシワシって言ったやん?」ワシワシ

??凜「にやー!!ごめんによ!ごめんによあ!!」ジタバタ

??ツバサあんじゅ「……………」??

エレナ「ツバサ、やることがあるだろう?」??

ツバサ「!ええ、その通りよ」??コホン??

ツバサ「音の木坂の皆さん」??

ツバサ「今からこのあいだの練習試合の件について説明したいと思います」

??「……………」ゴクリ

ツバサ「……………」西木野さんはいるわよね?」

??穂乃果「は、はい!もちろん」

??真姫「私が……………関係あるの?」

??ツバサ「あなた、家が厳しくてサッカーできなかつたらしいわね」??

穂乃果「そうだったの!」

??にこ(家の事情ってそういうこと…………)

??ツバサ「あら?知らなかったの?」??

穂乃果「は、はい……………ってあれ?」

??穂乃果「……じゃあなんで」??

ツバサ「『ファイアトルネード』が使えるのか……」

??凜「そうにやそうにや!」??

ツバサ「彼女の近所にあるお爺さんが住んでいて、その人に教わっていたらしいわ」

??真姫「そんなに前の話をどうして……!?!」??

ツバサ「問題はそこおじいさんよ」??

穂乃果「その人が……なにか?」

??ツバサ「……」??

?ツバサ「かつて炎のストライカーと呼ばれた……サッカー界では有名な人だったの」

??にこ「炎のストライカー……」??

ツバサ「そんな人に教えられていた西木野さんはうちの監督にマークされていたとい

う訳」??

真姫「あのお爺さん……そんなに有名な人だったんだ……」??



?? 穂乃果「あれはそういう……」

?? 穂乃果「つまり私たちは」

?? 希「真姫ちゃんを炙り出すために痛めつけられた……」

?? 希「ここに「私たちがやられている様を真姫なら見過ごせない」と踏んでの作戦ね」??

凜「真姫ちゃん優しいからね」

?? ツバサ「これが、私たちが監督から下された命令よ」??

ツバサ「こんな話、試合前にするべきではないと思っただから……」??

ツバサ「せっかく優勝したのにこんな空気にさせてしまつて……ごめんなさい」

?? 「……」

?? 真姫「じ、じゃあ……!」バツ??

?? 真姫「私のせいでみんなが……?」

?? ツバサ「ツ……」??

真姫「そんな……」

?? 「……」??

穂乃果「うわあ!!」ドサツ??

ヒフミ「きやあ!!」ドサツ

?? 凜「うぐっ……！」ドサツ ??

花陽「キヤア!!」ドサツ ??

ことり「あああ……!!」ドサツ

?? 海未「ぐあ……!!」ドサツ

?? 絵理「うああ……！」ドサツ

?? にこ「うっ……!!」ドサツ

?? 希「いつ……!!」ガクツ ??

真姫「私のせい……」

?? 真姫（どうしよう、みんなになんて言えば……いや、そもそも……） ??

真姫（私はこのチームに居られるの？）

?? 真姫「……う」バツ ??

真姫（……気持ち悪い）

バシイ！

?? 真姫「うぐっ！」ゴホオ！

?? にこ「……」フン！ ??

真姫「に、にこちゃん？」ゴホッ ??

凜「にやー！」バシイ！

??真姫「ヴェエ!?」ゴホオ??

ことり「てやー！」バシッ

??絵里「はっ！」バシイ??

希「とう！」ベシッ

??花陽「え、えい！」ペチッ

??海未「せい！」ドゴオ！

??真姫「ゴハア!!」ガクッ??

穂乃果「真一姫ちゃん！」??

穂乃果「真姫ちゃんが責任を感じることはないんだよ」ムイー！

??真姫「ふお、ふおのか!」ムイー

??穂乃果「ね、みんな！」パッ??

真姫「い、痛い……」ヒリヒリ

??花陽「そうだよ！」??

にこ「真姫が迷惑かけるなんて今に始まったことじゃないでしょ」

??凜「そうにや！」??

真姫「そこは同意して欲しくなかったけど……」??

真姫「……………ありがとう」

??真姫（気分悪い時に叩かれなければもっと良かったんだけど）うっぷ  
??

?ツバサ「……………私たちは保身のためにあなたたちを傷つけた」

??ツバサ「……………本当に」??

ツバサ「ごめんなさい」ペコリ ??

エレナ「すまなかった」ペコツ ??

あんじゅ「……………ごめんなさい」ペコリ

??ツバサ「何か要望があればきかせてもらおうわ」

??一同「……………」

??穂乃果「ねえみんな」??ごによごによ ??

????????????  
??穂乃果「いいかな？」

??みんな コクリ ??

ツバサあんじゅエレナ「？」

? 数日後 ??

M F 2 「くらえちんちくりん！」ズザザ!

?? 「誰がちんちくりんよ！」パツ ??

D F 1 「てい！」ガツ ??

「ここ「つち……!!」

?? M F 2 「いいぞ!ちんちくりん!」

?? 「ここD F 1 「紛らわしいわ!」

?? D F 1 「お願いします!」ドツ

?? M F 1 「お任せを」トツ ??



海未「またあなたですか……」ハア

?? M F I 「こっちのセリフです……よ！」ダツ ??ザツ ザザザツ クルツ！ ??

海未「つく……！体重移動した瞬間に……！！」

?? M F I 「そういうことには敏感なんです」

??花陽「てやあ！」ガツ ??

M F I 「ツ！」グラツ！

??花陽「よし！」トツ

?? M F I （ここしかないというタイミングに入ってくる……いいディフェンスです）

??花陽「真姫ちゃん！」ドツ

??真姫「はあ!!」ドキュウウウ!!

?? G K 「…………！」ガシツ！

??真姫「やるわね」

?? G K 「そっちこそ……」 ??

ツバサ「………本当にこんなことで良かったの？」 ??



亜里沙「うう……！」キョロキョロ??

亜里沙「お願いします！」ドツ??

エレナ「任せろ」トツ

??エレナ「はああ！」ドキュツ!??

穂乃果「そこからシュート!」??

?ダダダッ!??

ツバサ「ふぐつ……！」トツ

??エレナ「さすがだな」ニヤニヤ

??ツバサ「絶対わざといつもよりぎりぎりのところに出したわね……!!」??

花陽「あの速度と正確性を両立したパス……すごいです！」

??ツバサ「……いくわよ！」

??あんじゅ「ええ！」??

エレナ「ああ」

？？？？？？？？  
 ピューーーーーーイ!!!  
 ？？  
 ？？  
 シュドシュドシュドシュドシュ  
 ツバサ「こうていペンギン……!!」  
 ドキユツ  
 ？？  
 ドシュウウウ!!!  
 ？？？？？

エレナあんじゅ「二号おお!!」ドキユ!!  
 ？？  
 ゴオオオオオオ!!!  
 ？？？？？

穂乃果「はあああ!!!」バツ  
 ？？穂乃果「マジン・ザ・ハンド!」  
 ？？ドギルルルルル!!!  
 ？?  
 バチイ!  
 ？?

穂乃果「うわあ！」ドサツ  
ドシユルルルルル……！  
??????  
??

希「やつぱりさすがやね、あんちゃん」??  
あんじゅ「……その呼び方どうにかならない？希」  
ピーーーーーー  
??チームツバサ2——1チーム穂乃果

????????????

????????

公園のベンチ  
??

ツバサ「ココアでよかったかしら？」 ??

穂乃果「わざわざすみません……！」 ??

ツバサ「いいのよ」ストツ

??カシュツ ??ゴクゴク ??

穂乃果ツバサ プハー

??穂乃果「さすがUTX高校ですね、皆さんレベル高かったです！」

??ツバサ「あら？あなた達はそれに勝ってるんだから嫌味になっちゃうわよ？」 ??

穂乃果「い、いえ！そういうことじゃなくて……」アワアワ ??

ツバサ「ふふ、冗談よ」 ??

ツバサ「……楽しかった？」

??穂乃果「はい！すつごく楽しかったです！」

??ツバサ「次は本戦ね」

??穂乃果「綺羅さん達の間も頑張ります！」 ??

ツバサ「……？」 ??

穂乃果「……？」 ??

ツバサ「もしかして……知らないの？高坂さん」

??穂乃果「……なにをですか？」 ??







????????????

ツバサ「それじゃあ行くわね」ガタツ ??

穂乃果「はい！今日は本当にあゆがとうございました！」

?? ツバサ「ふふ、こちらこそ」

???????

あんじゆ「……………」テクテク

?? エレナ「……………」お前、胸揉まれたんだってな」

?? あんじゆ「ぶふう…!!」

?? あんじゆ「な、なんで知って……………」

?? エレナ「当たってたのか、勘だったんだが」 ??

あんじゆ「それどんな可能性よ……………」 ??

あんじゆ「……………」 ??

あんじゆ「ほんと……………」うまい人なのよ、希って」クルクル ??

エレナ「……………」??

エレナ「フィンガーテクがか？」??

あんじゅ「ちつがうわよ!!」バツ

??あんじゅ「多分……………私に気を使わせないようにああいうことしたんだと思うの」

??

あんじゅ「お陰で壁みたいなのも無くなつて仲良くなれたし」

??????????

希「くっしゅん！」ズズツ

??希「ん〜? 誰か噂してるんかな?」

??????????

あんじゅ「だからうまい人って言ったのよ」クルクル??

エレナ「……………」??

エレナ「やっぱりフィンガー……………」??

あんじゅ「やめなさい」

絵里「あら？ 亜里沙どうしてこっちに来てるの？」

?? 亜里沙「へ？」??

?? 絵里「親戚のおばさんの家はあっちでしょう？」

?? 亜里沙「なに言ってるのお姉ちゃん！」??

亜里沙「亜里沙もお姉ちゃんと一緒に住むんだよ！」ババン！??

絵里「な、なんですってー！？」

ババンバンバン!??

亜里沙「おばさんも言ってたでしょ？」

?? 亜里沙「お姉ちゃんのところに行くことになったって」

?? 絵里「…………バレたら怒られるの私んだけど…………」??

亜里沙「だ、大丈夫！おばさんにはごまかしてもらおうように言ったから！」

?? 絵里「でも…………」

?? 亜里沙「それともお姉ちゃんは…………」

?? 亜里沙「亜里沙と一緒に暮らすの…………嫌？」ウルウル??

絵里「さあ亜里沙！今日はパーティーよ！いっぱいご馳走作りましょ!!」??

亜里沙「やったあ！お姉ちゃん大好き！」ギユツ??

絵里「こーら、歩きにくいでしょー？」??

亜里沙「えへへー♪」ギユツ

??絵里「……もう」ギユツ

??????????????

凜「打ち上げは!？」

??監督「カツトだ」

??凜「ラーメン食べ放題は!？」

??監督「カツトだ」

??監督「が……」

??凜「!」??

監督「食べたことにはなってる」

??凜「うあああああ!!!」

??にこ（鬼か）

?????????  
ツバサ「……」テクテク ??  
?????????  
?????????  
??

最初の練習試合後 ??

ツバサ（ほんつと胸糞悪い試合だったわ……） ??

ツバサ（音の木坂の皆さんには悪いことしちゃったわね……あら？） ??

亜里沙「つく……！」ハアハア

??ツバサ（……あのセンス……）

??ツバサ「……いいわね」 ??

ザツザツ ??ツバサ「あなた……」 ??

ツバサ「私たちの助っ人にならない？」  
?? ツバサ（きつと優勝への戦力になってくれる）

??????????  
ツバサ「へえ、あなたって絢瀬さんの妹さんなのね」  
?? 亜里沙「はい……！」??

ツバサ「それはいいとして……」

?? ツバサ「あなたの家からUTXまで遠いわね……」

?? 亜里沙「確かに少し厳しいですね……」??

ツバサ「……ウチくる？」??

亜里沙「い、いいんですか!？」

?? ツバサ「ええ、部屋は余ってるしね」??

亜里沙「ありがとうございます綺羅さん！」??

ツバサ「……ツバサよ」??

亜里沙「へ？」??

ツバサ「ツバサでいいわ、亜里沙」  
亜里沙「は、はい！ツバサさん！」

????????????

亜里沙「だから亜里沙は……お姉ちゃんに負けたくないんです」??

ツバサ「ねえ亜里沙」

??亜里沙「はい？」??

ツバサ「お姉さんは嫌いななの？」

??亜里沙「……嫌いではないですけど……」

??亜里沙「今まで……お姉ちゃんの後を追いかけて来たんです」

??亜里沙「でも今まで背中しか見えなかったお姉ちゃんにやつと追いつけるって思っ

たところに……」

??ツバサ「それは……嫉妬？」??

亜里沙「なんですかね……よくわかりません」??

亜里沙「でも、今お姉ちゃんと会っても、前みたいに笑顔で話せないと思います」

?? 亜里沙「この……モヤモヤを取り除かないと……」

?? 亜里沙「それには……強くなるしかないんです！」??

プルルルル??

亜里沙「……お姉ちゃん」

?? ツバサ「出ないの？」??

亜里沙「はい、お姉ちゃんより強くなるまで出ないことにしました！」

?? 亜里沙「あ、そうだ！聞いてくださいよ、この前お姉ちゃんが……」??

ツバサ（暇があればお姉さんの話ばかり……これで好きじゃなかったのしたらどう

なのよってレベルだけ……）

?? ツバサ（話を聞く限りではすぐ仲の良かった姉妹……）??

ツバサ（……このまま亀裂が広がるのはなんだか……見たくないわね）

?? ツバサ（……全く、面倒な子を拾っちゃったわね）フフ??

亜里沙「ツバサさん？」

?? ツバサ「明日もガンガン行くわよ！」

?? 亜里沙「はい！」

??????????



ドゴオオアオオオ!!!  
??

亜里沙「……………で」ハアハア

?? 亜里沙「できた……………!!」ハアハア  
??

ツバサ「えええ!」??

亜里沙「できましたあ!!」

?? 亜里沙「……………あ?」フラッ  
??

ドサッ  
??

ツバサ「亜里沙……………」

?? ツバサ「亜里沙!!」ダッ

医者「全身の筋肉が炎症を起  
?? ??????????  
して  
います」  
??

ツバサ「筋肉痛……みたいなものですか？」

?? 医者「その強化版といったところですよ……が」

?? ツバサ「が？」

?? 医者「一度のアクションでこれほどのダメージということを考えて……」

?? 医者「連続ではやめておいた方がいいでしょう」??

亜里沙「……もし、してしまうとどうなるんですか？」

?? 医者「……あまりいいたくありませんが、二度とサッカーできなくなる可能性がかなり高いです」

?? 亜里沙ツバサ「!!」

?? 医師「足の……ここ、わかりますか？」

?? 医師「ここを損傷すると歩けなくなる上、二度と回復しません」

?? 医者「間を置けば大丈夫ですが、する前は一度検査をした後でお願いします」

?? 医者「手遅れにならないよう」??

亜里沙「……はい」??

ツバサ「……ありがとうございました」

????????????

テクテク ??

ツバサ「……亜里沙」??

亜里沙「……こうなったら……!」??

ツバサ「どうするつもり?」??

亜里沙「一度しか打てないなら、その威力を上げるためのトレーニングを今まで以上に頑張ります!」

??ツバサ「……ええ、それがいいわ」??

ツバサ（お姉さんに勝つためにここまで……）??

ツバサ（今の練習量でさえ、並大抵のものじゃないのに……）??

亜里沙「やるぞー!おー!」??

ツバサ（……）??

ツバサ（絶対に亜里沙が壊れないよう気をつけるわ、絢瀬さん）

????????????

亜里沙「……ツバサさん、もう寝ましたか？」??

ツバサ「……起きてるわよ」??

亜里沙「なんだか緊張して眠れなくて……」エヘヘ

?? ツバサ「……いよいよ明日だものね」

?? 亜里沙「はい！絶対お姉ちゃんに……」??

ツバサ「……」??

ツバサ（お姉さんは亜里沙がこんな感情を抱いてるとは知らない……）??

ツバサ（変なことにならないければいいけど……）

?? ツバサ（まあ無理さえしなければ何も起こらないでしょ）??

ツバサ「亜里沙」

?? 亜里沙「はい？」??

ツバサ「あの技……わかってるわね」

?? 亜里沙「……はい」

?? ツバサ「そう……」

?? ツバサ（まあいくら勝ちたいと言つても、体を壊すほどじゃないでしょうし……）??

ツバサ（大丈夫……よね？）

?? 亜里沙「ツバサさん？」

?? ツバサ「……もう寝なさい、明日は大事な日でしょ？」??

亜里沙「は、はい！そうですよね！」

?? 亜里沙「おやすみなさい！」??

ツバサ「おやすみ」

?? ???????  
ツバサ「無事仲直りできてよかったわね」??

?? 亜里沙「元はと言えば、亜里沙が勝手に始めたんですけど……」??

亜里沙「あんなにモヤモヤしてたのが全部なくなつて」

?? 亜里沙 「すごくスッキリしました！」

?? ツバサ 「……………ねえ亜里沙」

?? 亜里沙 「はい？」 ??

ツバサ 「あなたはあなたの居るべき場所に帰るべきよ」 ??

亜里沙 「それって……………」

????????

亜里沙 「……………今日までお世話になりました！」

?? ツバサ 「寂しくなるわね」 ??

亜里沙 「うう……………」ウルツ ??

亜里沙 「……………ツバサさんは、お姉ちゃんの次に尊敬する人です！」

?? ツバサ 「それは嬉しいわね」

?? 亜里沙 「えへへ」 ??

ツバサ「そっちでも元気でのよ」??

亜里沙「他の皆さんには……申し訳ないですが……」

??亜里沙「お別れ会まで開いてもらって……助っ人なのに」??

ツバサ「何言ってるのよ、みんな恨んでるように見えた？」??

亜里沙「い、いえ！だから尚更心苦しいというか……」??

ツバサ「あなたはあなたで……ハラショーなサッカープレイヤーになってきなさい  
！」

??亜里沙「ツバサさん……！」ウルツ??

ツバサ「短い間だったけど……」??

ツバサ「ありがとう亜里沙」ギユツ??

亜里沙「ツ……ツバサさん……！」ギユウツ??

—————??

ツバサ「……！」ツウー??

ゴシゴシ

??ツバサ「……」??

ツバサ「楽しかったわ、亜里沙」ニコツ

## 後半

## 第1話「お母さん!？」

穂乃果（本戦まであと一ヶ月……）ガサガサ

穂乃果（みんなのモチベーションも十分！）ジー……

穂乃果「なんだけど……」

—————

海未「はあああ!!!」ドキユツ!

角間「防いだあああ!!!」

雪穂【ハンターズネット!】

ドシユルルルル……!!



雪穂「試合の時ぐらいかっこいいところ見せてよ」  
ゴオオオオオオオ!!!

ツバサ【こうていペンギン2号!】ドキキュツ!

穂乃果【マジン・ザ・ハンド!】

穂乃果「うわああ!!」ドサツ

—————

穂乃果「……………!!」

穂乃果 ブンブン

穂乃果「いつてきまーす!」ガララ

雪穂「待っておねーちゃん、私もいく!」

穂乃果「あれ、今日店番じゃないの?」

穂乃果ママ「今日は大事な用があるから臨時休業なのよ」

穂乃果「ずるいよ雪穂の番に!!」

雪穂「いいから行くよお姉ちゃん！」グイグイ

穂乃果「ずーるーい〜!!」ズルズル

ガララ ピシヤン

穂乃果ママ「まったく……」

## 学校

凜花陽「す、すいません！遅れました！」ハアハア

にこ「ちよつとお、気が緩んでんじゃないの？」

海未「まあ時間には間に合っているのですから良いではありませんか」

にこ「10分前集合は基本でしょ？」

穂乃果「確かにそれは大事だね！」

海未「貴方は雪穂がいなければほとんど遅刻と聞いていますが」

穂乃果「凜ちゃん、花陽ちゃん！気にしなくて大丈夫だよ！」

ことり「清々しいほどの手のひら返し……」

希「流石というかなんというか……」

雪穂「いつも本当すみません……」

亜里沙「ハラショーです!」

絵里「ちよつと待って」

絵里「え、どうして亜里沙がいるの?」

亜里沙「ふっふっふ、それはね……」

監督「……緋瀬亜里沙は、助っ人としてチームに入ってもらおう」

花陽「ルール上は問題ないので大丈夫です!」パラパラ

亜里沙「ツバサさんの勧めで来たんだよ!」

穂乃果「楽しくなりそうだよね!」

ことり「うん!」

絵里「なんだ、私以外知ってたのね……」

亜里沙「ごめんね秘密にして……」

亜里沙「それと……」

バン!

「亜里沙「これ、皆さんに差し入れです！」

花陽「わあ〜!!こんなにいつ……ぱい？」

真姫「……なにこれ」

亜里沙「おでん缶です!冷えてますよ!」

絵理「……ハラショー」

雪穂(おでんは冷やして食べるものじゃない)

希(あかん、姉妹揃ってポンコツや)

絵里「あ、ありがとう亜里沙、それは練習終わりにみんなでいただきますよ!」

雪穂「そ、そうですね!!」

凜「そうにやそうにや!」

にこ「必死か」

雪穂「と、ところで!」

雪穂「亜里沙のポジションはどこなの？お姉ちゃん」

穂乃果「……ふあい？」ムグムグ

雪穂（食べてる……）

花陽（案外美味しいのかな？）

穂乃果　ゴクリ

穂乃果「キンキンに冷えてやがる!!」

凜「言いたいだけだにや」

穂乃果「海未ちゃんに任せた！」

海未「……」ハア

海未「これは私の主観ですが……」

海未「亜里沙は攻撃面でも守備面でも力を発揮できるように見えました」

真姫「つまり……リベロ？」

海未「はい、適任かと」

凜「リベロってなに？」ヒソヒソ

花陽「状況に応じて守備に回ったり、攻撃に回ったりする人のことだよ」

絵里「自由とかそういう意味があるの」

凜「……なんだかすごいにや」

希（分からなかったんやね）」

にこ（分からなかったのね）」

真姫（というかこのリペロってまさに凜がやってるのよね）」

ことり（言われてみればだね）」

海未（まあそれは……ねえ？）」

花陽（気にしない方向でいきましょう）」

絵里（というところで、最初はDFに回ってもらいたいんだけど……）」

亜里沙（うん、頑張る！）」グッ

海未（きちんと挨拶をするのがこれが初めてですネ）」

海未（これからよろしくお願いします、亜里沙）」

亜里沙（は、はい！よろしくお願い……）」クルッ

亜里沙（……しま、す？）」

亜里沙（この雰囲気……どこかで？）」

海未（どうしました？）」

MF1（どうしました亜里沙？）」

亜里沙「ヤマトナデシコ!!」ガシッ

海未「は、はい!?!」

亜里沙「よろしくお願いします!」

亜里沙「えーと……」アワアワ

海未「……ふふ」

海未「園田海未です」

亜里沙「……!」パアアアア!

亜里沙「海未さん!」キラキラキラ

海未「はっ……うぐう!!」ドサッ

亜里沙「ど、どうしたんですか海未さん!」

海未「……混じりつけない純粋な目を見たのは……久しぶりで」ハアハア  
にこ「失礼しちゃうわね」

フアサアアア……!

にこ「ここにあるじゃなくらい！」キラキラ

凜「そういうところだにや」

海未「あなた方ですよ」

凜「凜も!?!」

穂乃果「あ！そういえば」

海未「どうしました？」

穂乃果「これで1人揃ったからヒデコたちに助っ人頼まなくて大丈夫なんだ」

ことり「なんだか寂しいね……」

「ちよおつとまつたあ!!」

海未「な、何ですか!?!」

ヒデコ「なんだかんだときかれたら!!」



フミコ「答えてあげるが世のなさけ!!」

ミカ「愛と真実と悪を貫く!!」

ヒフミ「ヒフミ三人衆、ただいま参上!!」

凜（自分たちでヒフミ三人衆って言っちゃったにや）

花陽（悪を貫いちゃうんだ……）

穂乃果「ど、どうしたの三人とも!」

フミコ「試合には出なくても何かサポートしたいなって」

ヒデコ「マネージャーみたいな?」

ミカ「怪我した時用の控えとか!」

穂乃果「み、みんなあ……!」ウルウル

穂乃果「ありがとー!!」ガバツ

ヒフミ「うわああ!!!」

ドツシーン!

海未「怪我しないでくださいよまったく……」

穂乃果「えっへへ……ごめんごめん」

ヒデコ「あ、監督ー！」

ヒデコ「もうすぐ来ると思いますよ！」

監督「……そうか、助かる」

海未「まだ何かあるのですか？」

監督「お前たちを見たときまさかと思ったが……」

監督「……これが偶然か運命か」

花陽「？」

「ほーのかー！ゆーきほー！」

穂乃果雪穂「こ、この声は……」クルツ

穂乃果ママ「おーい！」ブンブン

穂乃果「お母さん!？」

雪穂「なんで!？」

花陽ママ「花陽ちゃん！」

凜ママ「りーん!!」ブンブン

花陽ママ「ちよつと、恥ずかしいから……!!」

花陽「お母さん!?!」

凜「え、なんで?」

ことり「うちのお母さんもいる!」

海未「うちもです……」

ことり海未ママ フリフリ

にこママ「ほら、今更恥ずかしがらないで!」グイグイ

真姫ママ「だ、だってえ……」

にこ真姫「まじか……」

絵里ママ「もう酔っ払ってるの?」

希ママ「そんなことないよ!」

絵里亜里沙「ロシアにいるはずじゃ……!」

希「お母さん……」

海未「こ、これは一体どういうことですか?」

穂乃果「そ、そうですよ!どうしてお母さんたちが……」

穂乃果ママ「私が説明するわ!」ババン!

穂乃果「……」スンッ

雪穂「恥ずかしい……」

穂乃果ママ「実は私たち、高校時代みんな同じサッカー部だったの」

穂乃果「うそ!?!」

にこ「あり得るの? そんなこと」

海未ママ「正部員は私たち9人だけ」

ことりママ「後の二人は助っ人を呼んでたわね」

ことり「ふふ、今の私たちみたい」

希ママ「これ私たちは、フットボールフロンティアでゆるゆるひよひたの」フラフ

ラ

希「呂律呂律」

真姫「優勝……」

監督「まあそんなわけでお前たちと試合してもらうために、この9人に集まってきたんだ」

穂乃果「もうどこから突っ込めばいいのか……」

花陽「あ、あの……」

監督「どうした？」

花陽「どうして私たち誰もこのこと知らなかったんですか？」

海未「それもそうですね、どこかから情報が入ってきてもおかしくない気が……」

監督「……」

監督「こいつらが高校生の時だぞ、なん年前だと思ってる」

母親たち「!?!」ガーン

凜ママ「まだまだ現役ですよ！」

花陽ママ「そ、そうですよ！」

もらっ

監督「……」

花陽凜ママ「監督う!!」

穂乃果「……?」

凜「か……」

「「「かんとくう!?!」」」

角間「始まりましたドリームマッチ！我が子と戦う母親の心情やいかに！！」

海末「もう考えることはやめました……」

海末「疲れるので」

絵理「ここにいるみんな、優勝サッカーチームの子供なのね」

花陽「監督が運命って言ってたのはこのこと……」

真姫「ママ、サッカーできたのね……」

凛「ここに何かすごい恥ずかしいんだけど」

凛「り、理事長と試合……」ガタガタ

希「もしボール奪ったりしたら退学させられるかも……！！」

凛「ヒイイ……！！」

ことり「そんなことしないよお！」

F  
W

真姫、絵里

M  
F

希、ことり、にこ、海未

D  
F

亜里沙（リベロ）、雪穂、花陽、凜

G  
K

穂乃果

監督「今日はこっちのチームの士気をさせてもらおう」

凜ママ「うはー！なんかこの感じ懐かしい！」

穂乃果ママ「つまみ食いで体重が……」ムニムニ

ことりママ「十分細いわよ？」

海未ママ「……着物以外を着たのは久しぶりですね」

花陽ママ「似合ってますよ」

真姫ママ「あの子と……サッカーできる日が来るなんて……！」ウルツ

にこママ「ほらほら泣かない、始まるわよ」サスサス

希ママ「あれ？どうして二人もいるの？双子？」ウフフ

絵里ママ「グラウンドから引きずり出すわよ」

F  
W

絵里ママ、真姫ママ

M  
F

凜ママ、希ママ、ことりママ、

D  
F

海未ママ、花陽ママ、にこママ

G  
K

穂乃果ママ

(特に関係ないので覚えなくて大丈夫です)



ピーーーーー

ドッ

角間 「母親チームから試合開始！一体どのような試合になるのでしょうかあ!!」

「エキシビジョンマッチ、VS母親チーム（ダイジエス  
ト）」

ピーーーーー

ドッ

角間 「母親チームから試合開始！一体どのような試合になるのでしょうかあ!!」

絵里ママ 「まずは見せてあげたら？」

真姫ママ 「私が先でいいんですか？」

希ママ 「いっっちゃお〜！」 フラフラ

真姫ママ 「うーん……わかりました！」 ダッ

真姫 「ママでも手加減しない！」 ザッ

真姫ママ 「してくれなくて結構よ」 フフ

クルッ

真姫「は、早い……！」

タツタツタツ

ことり「させません！」ザッ

真姫ママ「お願いします！」ドッ

ことりママ「任せて」トッ

凜「と、止めても退学にしないでください!!」ザッ

ことりママ「そんなことしません!!」ヒュッ!

クルッ ダッ!

凜「そんな……！」

花陽「り、凜ちゃんがあんなに簡単に……！」

ことりママ「やつちやいなさい!!」ドッ

穂乃果「上に蹴り上げた……!?!」

海未「一体……！」

真姫ママ「ふっ！」グッ

ボフアアアアアアアア!!!

ダンッ!

グルグルグル

真姫「うっそ……」

監督「……………」

真姫ママ【爆熱スクリュー!!】

ドゴオオオオオオオ!!!

希「ど、どう見ても真姫ちゃんより上やん……」

絵理亜里沙「ハラシヨ……」

穂乃果「はああああ!!!」

ゴオオオオオオ!!

穂乃果ママ「……………」

穂乃果【マジン・ザ・ハンド!】

ドシユルルルル!!!

穂乃果「…………つ、強い……!」ズズツ!

ことり「穂乃果ちゃん!!」

穂乃果「…………はあ!!」グツ

ツシユウウウ…………!!

穂乃果「…………よし!」

角間「止めたああああ!!キーパー高坂、圧巻のガード力です!」

穂乃果「ことりちゃん！」ドッ

ことり「うん！」トッ

凜「ことりちゃんこつち！」タツタツタツ

ことり「り、凜ちゃん!？」ドッ

凜「いづくにやー！」トッ

海未「あれをやるつもりですね」

海未ママ「……ただでは行かせません」ザッ

凜「アクロバットキープ！」

ザッザッ　　グルッ　　スタッ

凜「よし！」トッ

海未ママ「なかなかやりますね」

凜ママ「自慢の我が子です！」

海未ママ「知ってます」

監督「……………」

真姫「いくわよ、凜！」グッ

凜「うん！」グッ

ダンッ

ダンッ

グルグルグル

グルグルグル

凜真姫 バッ

ドキュウツ

!!!!

凜真姫「フアイアトルネードDD！」

ゴオオオオオオオオ

!!!!

にこ「止められるもんなら止めて見なさい！」

穂乃果「お母さん……」

雪穂「一体どんな技使うんだろ……」

ことりママ「頑張れー！きいちやーん！」

海未ママ「あなたなら大丈夫でしょう？」

穂乃果ママ「……」バツ

ゴオオオオオオ!!!

穂乃果「あ、あの構えって……」

花陽「あり得ないです……」

穂乃果ママ【マジン・ザ・ハンド】

ドシユウウウ………!!

穂乃果ママ「まあこんなものかしら」

穂乃果（【マジン・ザ・ハンド】ってあんなに強いのか？）

真姫「そんな……」スタツ

凜「冗談にもなっていないにや……」スタツ

海未「こ、これがお母様方の実りよ……」

「お前達!!」



ことり花陽「ヒイ……!!」ビクウ

希凜（ママ）「ごめんなさい!!」ビクッ

海未ママ「もはや条件反射ですね……」

監督「いや、俺が怒ってるのは母親チームにだ」

絵里ママ「……私たちですか？」

海未ママ「一体何がいけなかったのでしょうか？」

海未「その通りです、素晴らしいプレーに見えましたが……」

監督「せっかくの試合なんだ、手を抜かないでくれ」

花陽「手を……抜く？」

絵里「まさか……」

ことり「あれで……?」

凜ママ「いやでも監督ー」

真姫ママ「これはエキシビジョンのようなものですし……」

「ほ、本気でお願いますー!」

穂乃果「私たちじゃ力不足かもしれませんが……」

ことりママ「穂乃果ちゃん……」

絵理ママ「……わかったわ」

にこママ「そこまで言われちゃったらね」

角間「少しトラブルがありましたけど試合再開……おおつとお!?」

角間「これはどういうことでしょうか!」

にこ「な、なにこれ?」

花陽「こ、こんなの……初めて見ました」

絵里ママ「やつぱりこれがしっくりくるわ」

真姫ママ「心強いですよね」フフ

凜ママ「テンション上がる〜!!」

希ママ「よーひ、頑張るよ〜!」フラフラ

海未ママ「ほらほらしっかりしてください」

ことりママ「でも少し罪悪感を感じますね」

にこママ「……今は一人だものね」

花陽ママ「！」フリフリ

角間「デیفエンスは小泉母のみ！後のメンバーは全員上がってしまいましたあ！！」

海未「まさかこれは……」

絵理「超攻撃的サッカー」

ことり「でもそんなことしたら守りが甘くなるんじゃないかな？」

にこ「穂乃果の母親がいるじゃない」

花陽「あのキーパー力があるから全員で攻めても試合が成立するんだね」

希「それに、花陽ちゃんのお母さんの力も未知数……」

穂乃果「さすがママちゃんズ、一味違うね！」

穂乃果「みんなー！！！！しまつてこー！」

みんな「おー！！」

ピーーーーー

穂乃果ママ「ほっ！」ドッ

凜ママ「よつと！」トッ

にこ「はああ!!」ザッ

凜ママ「思い出すなーこの感じ」グッ

ザッ　　クルッ　　ズシユウ!!

凜ママ【Zスラツシュ!!】ダッ!!

にこ「えっぐいわね……!!」ガクッ

凜ママ「お願いします！」ドッ

絵理ママ「ええ」トッ

希ママ「おー、地球が回る〜」フラフラ

絵理ママ　　イラア

絵理ママ「働け酔っ払い！」ドツ

希ママ「うわつたあ!？」トツ

希ママ「パス乱暴すぎ！」

花陽「いかせません！」ザツ

希ママ「あーあ、酔いが覚めちやつた……」ザツ

ドツ

ポーン

花陽「え、くれるのか……な……!？」

グワアアアア!!!

花陽「潰されますう!!」ヒイイ!

テンテンテン……

花陽「……へ？あれ？ボールは……？」

希ママ【トリックボール】トツ

角間「立て続けに抜いた!!さつきとは勢いが段違いだあ!!」

タツタツタツ

穂乃果「く、くる！」グツ

絵理ママ「初めからやる気を出しなさいっての」

希ママ「……………!!」ムムム…

穂乃果「……………」

海未「油断はダメですよ！」

穂乃果「わ、わかってるよ！」

希ママ「まぼろしショット！」

ドキュウウウ

!!!!

フツ

穂乃果「き、消えた……………!!」

フツ

ドシュウウウ……………!!!

角間「き、決まったああ!!」

穂乃果「そんな……」

海未「あの穂乃果が触るところか反応すらできないなんて……」

海未ママ「ふふふ」トツ

海未「取り囲んでください!」

花陽凛「こ亜里沙「了解!」ザツ

海未ママ「おやおや、これでは動けませんね」

亜里沙「アイスグランド!」

ダン! パキパキパキパキ!

絵里「逃げ場のないこの状態なら……!」

海未ママ「……悪くはないです……が」

ダツ!

凛「と、跳んだ!?!」





穂乃果「マジン・ザ・ハンド！」

穂乃果「うわああ!!!」ドサッ

ドシューウウウウ……!!!

にこママ「ちよつとやりすぎなんじや……」

穂乃果「まだまだ!!」ムクッ

海未ママ「ふふ、いい返事です」

穂乃果「みんな! どんどんぶつかっていこう!」

穂乃果「こんなチャンス滅多にないよ!」

絵里「ええ!」

にこママ タッタッタッ

にこ「スピニングカット!」

ズシューウウウ!

ブワアアアアア!!!!

にこママ「つく……やるわね!」ザザザッ

にこ「へへん!」トッ

凜「あれは……！」

ことり「習得したんだね！」

海未「私が名づけたかった……」

希「ふふん」ドヤツ

海未「ま、まさか……!?!」

希「いや違うけど」

海未「なんなんですかあなた」

にこ「希！」

希「了解！」トツ

角間「矢澤、東條の連携で前線を突破したぞお!!残るは小泉母のみだ!!」

花陽ママ「えへへ」ポワポワ

希「なんだかのんびりした人やなあ……」

花陽ママ「……ふふふ」

希「……へ？」ゾクツ

フツ

花陽ママ「そう見えた？」トツ

希「うそ……いつのまに……!!?」

真姫「何今の動き……」

花陽ママ【クイックドロウ】えへへ

絵里ママ「みんな初見ではあの子の雰囲気とのギャップに驚くわよね」

花陽ママ「お願いしまーす〜!」ドツ

絵里ママ トツ

絵里ママ（絵里や亜里沙の必殺技ではぬるま湯レベル……）

絵里ママ（絶対零度の恐ろしさってものを）

絵里ママ（思い知らせてあげるわ）キツ!

ブワアアアアアア!!!

雪穂「さ……寒い……!!」ガタガタ

にこ「に……につこにつこにー……」ガタガタ  
希「やめてにこつち……!!凍る!!」ガタガタ  
にこ「あ、あんた……覚えてなさい……!!」ガタガタ  
絵里（私や亜里沙の【エターナルブリザード】とは比べ物にならない……!）  
亜里沙「ハラショー……」ブルブル

絵理ママ　　クルツ

絵理ママ【ノーザンインパクト】ドキュツ!!

ゴオオオオオオ!!!

雪穂「はあああ!!」

雪穂【ハンターズネット!】

パキパキパキ

バリエイイン!!!

雪穂「うわああ!!!」ドサツ

ゴオオオオオオ!!

穂乃果「マジン・ザ・ハンド！」

ドギョルルルルルルルルルル!!!

バチイ!

穂乃果「うわああああ!!!」ドサツ

ポーン

ことりママ「ふふ」ダツ

角間「高坂姉妹二人掛かりでなんとかはじいたボールを南母、空中で追いついたあ!!」  
にこ「降りてきたところを狙うわよ！」

海未ママ「降りてくることはありません」

海未ママ「……空があなたの領域でしょう？」

ことりママ「……なんだか恥ずかしいわね」グワアツ!

ことりママ「ファルコンウイング!!」ドキュウ!!  
ゴオオオオオオ!!!

穂乃果「うわあ!!」ドサッ  
ドシユウウウ……!

角間「決まったあああ!!」

凜「にああああ!!」バッ

ことりママ「おっと……!」クルッ

花陽「ここ!」ガッ!

ことりママ「ッ!……やるわね」

花陽「それほどでも……っとうわあ!?!」ガッ

海未ママ「連携なら負けませんよ」トッ

海未ママ「私たちも幼馴染ですから」ニコッ

ことりママ「……もう」テレッ

にこ「花陽と凜の連携が破られた……!」

海未ママ「決めてください」ドッ

真姫ママ「……準備はいいですか?」トッ

絵理ママ「もちろん」

ブワアアア!!

ブワアアア!!

真姫絵理(ママ)「ファイアブリザード!」ドキユツ!!!

ゴオオオオオオオ  
!!!!!!

にこ「一体いくつシュート持ってんのよー!!」

希「全員がエースストライカー級のシュート力……!!」

雪穂「止めるよ！お姉ちゃん！」ガッ

穂乃果「うん！」

ゴオオオオオオオ

ことり「あれは……！」

真姫「決勝で【トライペガサス】を止めた……！」

海未「【ホムラ・ザ・ハンド】です！」

花陽「あ、もうそれ決定なんだ」

穂乃果雪穂【ホムラ・ザ……】

「遅いって!!」ダダダダッ

凜「……！」

凜ママ

バッ



凜ママ「マツハウインド!!」ドキュツ！  
ゴオオオオオオオオオオオオ  
!!!!!!

穂乃果雪穂「うわああああ!!」

ドシユルルルルル……!!

凜「シユートチエイン……!」

海未「技を出す暇さえ……ないというのですか」

「うー……」グデー

花陽ママ「み、皆さん大丈夫ですか?」

海未ママ「死屍累々とはこういうことを言うのですね」

監督「これからお前たちには攻撃は星空、守備は小泉に徹底的に鍛えてもらおうと思  
う」

凜ママ「厳しくいくぞ！」

花陽ママ「よろしく」

穂乃果（ここから一ヶ月、地獄の日々が始まりました）

ことり（例えるならそう、私たちの一年生時代の山登りを一ヶ月に凝縮したような  
……）

花陽ママ「当然ながら、オフエンスメンバーにもデイフェンスは学んでもらいます」

凜ママ「自分は守備だからといって攻撃には関係ないと思ってる人々？」

凜ママ「試合に出てる以上誰にだってチャンスは来るからなく！」

花陽（正直自分が攻撃するなんて思ってたので、聞くこと知ること全てが新鮮  
でした）

花陽（まあ攻撃なんて花陽には縁のない話だけど……）

ことりママ「ほんとはもつと早く手助けしたかったんだけど、監督がね……」

真姫ママ「自分たちだけで本戦上がるまではダメだと言ってうんだから」ハア

希（という事で、みんなの母親のサポートもありながら練習を重ねていきましたと  
さ）

希 (めでたしめでた……)

絵里 (終わらないで!!)

にこ (色々あつて……色々あつたのよホント……)

花陽ママ 「花陽ちゃんにはいち早くその人の特徴を掴む訓練をしてもらいます」

花陽 「特徴を掴む?」

花陽ママ 「このあいだの試合で見せた『ディフェンス方程式』、あの技の条件はわかるでしょ?」

花陽 「その人の情報をできるだけ限り持っていること……」

花陽ママ 「でもいつも調べ切れるわけじゃない、データがない人もいる」

花陽ママ 「そんな時のための訓練です」

花陽ママ 「それと、日常での人間観察も習慣づけること」

花陽ママ 「それじゃあ始めましょうか」

花陽 「うん!」

真姫ママ「ねえパパみて！真姫ちゃんとサッカーしてきたの！」

真姫パパ「なに…!?それは本当か!？」

真姫「……別に、少し試合しただけ」

真姫パパ「パパともサッカーしに行こう！」

真姫「……練習があるから時間ない」

真姫パパ「ああああああ!!!」ガクツ

真姫、ママ「うるさい」

真姫「そうだパパ」

真姫パパ「どうした？」

真姫「おじいさんから教えてもらって、どうしてもできなかった技があるんだけど」

……」

真姫。パパ「……なんて技だ？」

真姫「【爆熱ストーム】っていう技なんだけど」

真姫。パパママ「……！」

真姫「教えてくれない？」

真姫。パパ「……すまない真姫、わたしにはわからない」

真姫「教えてもらってないの？」

真姫。パパ「ああ……だがきつとお前なら完成させられるだろう、頑張れよ」ポン

真姫「……うん」

絵里「いつのまに日本にきてたの？」

絵里ママ「ついこないだよ」

絵里ママ「そうそう、今日絵里の部屋に泊まるわ」

亜里沙絵里「え!？」ビクッ

絵里ママ「なに？何か不都合でもあるの？」

絵里（亜里沙と二人で暮らしているのがバレたら……）

亜里沙（追い出される……!!）

絵里ママ「もしかして、一緒に暮らしていること隠そうとしてる?」

亜里沙「……………へ?」

絵里「し、知ってたの!？」

絵里ママ「亜里沙を預けてたおばさんが教えてくれたわ」

亜里沙（あの人……………!黙っててくれるっていつてたのに!!）

亜里沙「怒って……………ないの?」

絵里ママ「別に……………お金は足りてる?」

絵里「……………実は少し厳しいかも」

絵里ママ「そ、じゃあもう少し入れとくわね」

亜里沙絵里「……………」

亜里沙絵里「……………!!」ウ……………!!

ダキッ!!

絵里ママ「ちよ、ちよつとなにして……………!」

絵里「今日はお母様の料理が食べたいわ!」

亜里沙「亜里沙も!」

絵里ママ「……ハア、それじゃあ買物に行きましようか」  
絵理亜里沙「フフフ！」

希「お母さんはどれくらいこっちにいろの？」

希ママ「明後日には帰ろうと思ってるけど」

希「なら明日は一緒にどこか行かない？」

希ママ「いいわね！一度そういうのして見たかったのよ」

希ママ「それで今日泊まるところなんだけど……」

希ママ「希ちゃんのお部屋に泊めさせてもらおうかしら」

希「うん、大丈夫だよ！」

希ママ「久しぶりにお風呂一緒に入りましょう！」

希ママ「その膨やかな胸をワシワシと……！」ワキワキ

希「さ、触られるのは勘弁してほしいかなあ……」

希ママ「あらあら、恥ずかしがり屋さんなのね」

希「そういう問題じゃない！」

希ママ「あ、ちょっと待ってお酒を買って……」

希「ダメ」

希ママ「い、一本だけ……」

希「ダメ」

希ママ「そ、そんなあ……」シヨボン

希「今日は……」

希ママ「？」

希「私の友達の話、いっぱい聞いて欲しいから……」ニコツ

希ママ「ぐはっ……!!!」ガクツ

希「ちよ……だいじょうぶ!?!?!」バツ

希ママ「かわいい……」

希「え？」

希ママ「うちの子がかわいくて辛い……」ガクツ

希「……」ペイツ

希ママ「いや〜ん!」ドサツ



真姫ママ「あら、あなたが小悪魔ちゃんね」

にこ「こ、小悪魔？にこが…？」ソワソワ

真姫ママ「あの人の高校生時代とそっくりだわ」

真姫ママ「よく言ってたの、にっこにっこにー！つてね」

にこ「マ……お母さんも言ってたんですか!？」

真姫ママ「子供ができたら絶対にこつて名付けてこれを教えるんだって」

真姫ママ「笑顔の魔法なんだって言ってるね」

にこ「ママ……」

真姫ママ「あなたはきつと、お母さん以上に強くなれるわよ」

にこ「が、頑張ります！にこ！」

にこ（そういえば、ママが必殺技使うとこ見れなかったわね…）

本選まであと約一ヶ月のある日の部室

花陽「うわゝ、先生に呼び止められて遅れちゃった……」ガララ

花陽「みんなもう練習始めちゃってるよね」

花陽「私も早く行かないと……」ヌギヌギ

ピキイ

花陽「うぐっ……」

花陽「……やっぱり筋肉痛すごいなあ……」

花陽「……よし、頑張ろう！」パンツ！

ガララガララ

凜「あ！かよちゃん遅いにやゝ」

花陽「凜ちゃん！ごめんね、すぐ行くから」

凜「待ってるにやゝ！」

凜「えーつと……」キョロツ

花陽「どうしたの？」

凜 「ちよつと足挫いちゃって……」 あはは

花陽 「た、大変!! 早く座って! テーピング……!」 バタバタ

凜 「だ、大丈夫! 自分でできるから!」

花陽 「お菓子と……えーつと、はい! 飲み物と……ゲームもいる!」 バタバタ

凜 「落ち着いてつてばあ!!」

自宅

穂乃果ママ 「……ねえ穂乃果」

穂乃果 「なあに?」

穂乃果ママ 「穂乃果は初めて【マシン・ザ・ハンド】を出した時、どんな感じだったの?」

穂乃果 「どうしたの急に……?」

穂乃果 「えーつとね」 うーん

穂乃果 「……みんなからパワーが集まってきて、それをボールにぶつける感じ……」

だったかな？」

穂乃果「2回めからはなんとなくブワツと……」

穂乃果ママ（なんとなく……か）

穂乃果ママ「……ひとつだけわかっていることがあるの」

穂乃果「なに？」

穂乃果ママ「あなたの必殺技、『マジン・ザ・ハンド』は……」

「まだ完成していない」

穂乃果「……え？」

穂乃果「ど、どういうこと？ 未完成って……」

穂乃果ママ「そのままの意味よ」

穂乃果ママ「仲間の力が集まって来て……それは間違ってる」

穂乃果「じゃあ……！」

穂乃果ママ「……本来それができるのはごく一部の人のみ」

穂乃果ママ「普通はみんな、自分の力しか使うことはできない」

穂乃果ママ「でもあなたは周りの力を自分の力に変換する、天性の才能があった」

穂乃果「天性の……才能？」

穂乃果ママ（カリスマ性かな……我が子ながらあつぱれ！）

穂乃果ママ「だからこそ落ちてしまった落とし穴」

穂乃果ママ「足りない最後の1ピース」

穂乃果ママ「それは……」

穂乃果「……それは？」

穂乃果ママ「……」

穂乃果ママ「……じゃあ頑張りなさい」スタスタ

穂乃果「ちよ……！ 答えは!？」バツ

穂乃果ママ「自分で考えなきゃ意味ないでしょ？」スタスタスタ

穂乃果「……………」くくく!!!

穂乃果「これじゃあ今日眠れないよおく!!」

穂乃果（でも、お母さんの技はなんていうか……凄みがあった……）

穂乃果（私の【マジン・ザ・ハンド】には無いような……凄みが）

穂乃果「……………」

パンパン!

穂乃果「……………」よし!がんばる!」ヒリヒリ

穂乃果ママ（あなたならきつと、私がたどり着けなかったところまでたどり着けるわ

……………」

穂乃果ママ（……………」頑張りなさい）

## 第2話「絢瀬絵里、氷の女王」

学校放課後

キーンコーンコーンコーン

先生「それではみなさんさようなら」

さよーならー！

絵里「んゝゝゝ……！！」ノビー

希「えーりち！お疲れさん！」

希「眠たそうやけど大丈夫？」

絵里「あ、希、ごめんなさい……最近疲れがたまつてて……」

希「もーしっかりしてよ？大会も近いんやから」

絵里「ふふ、わかつてるわ。練習行きましようか」

希「あー……えりち？」

絵里「なあに？」

希「ちよつと寄り道していい？」

絵里「？」

校舎裏自動販売機前

絵里「どうしたの？こんなところで」

希「えりち……」

絵里「？」

真姫（うゝゝ眠い……） テクテク



真姫（飲み物でも買って目覚まさないと……） テクテク

真姫（……！あれは……） ピタッ

真姫「絵里と希？」

絵里希　スタスタ

真姫「自動販売機の方に行っちゃった……」

真姫（なにかコソコソしてたような……？）

真姫「ちようどいいしついでに言ってみようかしら」

真姫「……」

真姫「海未みたいになってきてる気がする……」

真姫（居た……何か話してる……） サッ

希「えりち……」

希「氷の女王って……………なに？」

絵里「……………！」

真姫（……………！）

真姫「……………！」

真姫「氷の女王……………か」

絵里「……………どうして、それを？」

希「うちが知ってるのは、えりちがサッカーやってたっていうからネットで少し調べた内容だけ」

希「ロシアに突如現れた期待の新星、クールな目つきと氷の技が特徴的な将来を期待された選手」

絵里「……………」

希「もしそれだけなら……………」

希「亜里沙ちゃんがあんな風に言うはずない……………」

絵里「……………!!」

亜里沙「氷の女王だったくせに……………」

絵里「……………昔の話よ」

絵里（試合の時……………聞かれてた……………？）

希「お願い……………教えて、えりち」

絵里「……………」フウ

絵里「……………わかったわ」

希「……………」ゴクッ

希（もし……………えりちの過去に暗いものがあるなら……………）

—————

希「えりちな、氷の女王って呼ばれてたんよ」

絵里「ちよ、ちよつと……………」

希「氷の女王復活やね」

絵里「ちよつ……………やめなさい!!」

—————

希（うちは……………）

希（どれだけ残酷なことを悪びれもせずと言っていたのか……………）

真姫（絢瀬絵里）

真姫（小学四年生からサッカーを始めるも、メキメキと才能を伸ばし、すぐに将来を期待されるほどの選手となった）

絵里「でも、ずっとバレーばかりやってきたからか、もともとの性格なのか……………」

真姫（絵里は極端にチームプレーが苦手だった）

真姫（レベルの低い相手ならまだしも、強い相手にそれは致命的だった）

絵里「私は…………次第にワンマンプレーが増えていった」

真姫（はじめのうちはチームはなにも言わなかった…………けど）

絵里「だんだんと煙たがられるようになって…………」

絵里「中学3年の夏、サッカーをやめたわ」

絵里「チームは…………私のワンマンプレーのせいで負けた」

絵里「それから…………」

真姫（生まれ持った鋭い目つき、自分勝手なわがままプレイ、氷の技、それらを踏まえ……）

絵里「侮蔑の意味も込めてこう呼ばれた」

絵里真姫「（氷の女王……と）」

希「……!!」

希（ウチ……最低やん……）

希（人の感情を読みとるのは得意やと思ってた……でも……）

希（なにも見えてなんてなかった……）

絵里「……」

希「えりち……ウチ……」

希「……ごめんなさい」ペコリ

絵里「希……」

希「……なにもわかってなかった」

希「ちよつとだけ調べただけで全部知った気になって……」

希「ほんとに……ごめん」

絵里「……」

ふふふ

希「……えりち？」

絵里「ふふ……ふふふふ……」

絵里「あつははは!!」

希「え、えりち……!!?」

希「ま、まさか……!!」フルフル

絵里「ご、ごめんなさい……しおらしい希って新鮮で……!!」フフフフ

希「そ、それで……さっきの話……!!」

絵里「ああ、さっき話したのは事実よ」ふふ

希「あ……そう……」シユン

絵里「ふふ……んふふふ」フルフル

希「……もう!なんで笑うん!!」

絵里「だって……あなたがいたから私はまたサッカーを始めようと思ったんだから」

希「……へ?」

絵里「あなたのおかげで……氷の女王は」

絵里「私にとって苦しいものじゃなくなった」

—————



3年生初め

希「えりちち、帰ろ〜！」トテトテ

絵里「ええ、行きましょう」ガタツ

希「さつくら〜もちち、さつくら〜もちち、もっちもっちもっちもっちもっちもっちも  
ちち」テクテク

絵里「なにその歌？」クスクス

希「うちが作ったお餅の歌！」

絵里「またバカみたいなことして……」  
ぐう〜

絵里「……………」

希「……………」

絵里「お腹すいちやった……」

希「もう、えりちつてば」

希（あああゝゝえりちかわいいなああゝゝ!!!）

希「帰りパフエでも食べよつか！」

絵里「ええ」

ゝゝゝ……

絵里「あら？何か声が……」

希「えりち、そこ職員室やで？」

絵里「いや、何か真剣な声が聞こえたから……」ソ……

絵里「……え？」

希「なにになに？」グツ

絵里「ちよつ……！希、重たい！」ヒソヒソ

希「なつ……！レディに対して重たいはあかんやん!?」ヒソヒソ

絵里「レディはお餅の歌なんて歌わないわよ!!」ヒソヒソ

希「いまそれいん!?」ヒソヒソ

絵里「……………」グラッ  
希「あつ……………」グラァ

ドシーン!!

絵里「い……………たたた」

希「もう、大丈夫？」よっこいせつ

「貴方達なにしているの!!」

希「あーあ……………」

絵里「ち、違うんです！たまたま通りがかったというか……………」アワアワ

希「そ、そうです！盗み聞きなんて全く……………」ワタワタ

絵里「そうです！廃校なんてこれっぽっちも……………」

希「え」

絵里「あ」

先生　　はあ

希「はあ〜……まさか廃校なんてなあ」テクテク

希（初めて入学から卒業までまともに終われると思っただのに……）

絵里「……まだ決定じゃない」

希「へ？」

絵里「理事長は！」

希「き、今日は用事でもう帰ってこないと思うけど……」

絵里「う〜〜！」

希「あ、でも……」

絵里「なに!?!」

希「理事長の娘さんならいるはず」

絵里「どこに！」

希「確か……サッカー部」

絵里「……サッカー」

希「あれ？氷の女王さんの血が騒ぐ？」ニヤニヤ

絵里（氷の女王……）ギョツ……

絵里「……なんでもないわ、その子のところに行きましようか」ザツ

コロコロ……

絵里「サッカーボール……？」

希「あの子らが使ってるやつかな」

絵里（一年生の頃から試合にも出れない人数で毎日練習してる三人組……）

絵里（……変人……）

希「えりち！少し遊んでいかん？」

絵里「……そんなことしてる場合じゃないでしょ」

希「まあまあ、いま体験入部の最中みたいやし邪魔したらあれやん？」

希「ちょうど二人とも運動靴やし」

絵里「……少しだけよ」上着脱ぎ脱ぎ

希「よーし！」上着脱ぎ脱ぎ

希「ほっ！」ドツ

絵里「……」タツタツタツ

トツ

希「あれ？まつすぐ飛ばんなあ……」

絵里「相手の方向に送り出すように蹴るのよ」ドツ

希「おー！まつすぐきた！」トツ      ポロツ

希「おっとつと」トツ

絵里（相手の方向に送り出すように……か、どの口が言ってるのかしらね）

希「はっ！」ドツ

絵里「……！」トツ

希「まつすぐ行つた！」

絵里「……ふふ、やるじゃない」

希「えっへん！」ドヤア

絵里（パスができただけで……）

えり『『えい！』 ドッ

『ナイスパス！』

えり『『えへへ！』

絵里「……………」

「……………りち」

「……………えりち」

希「えりち！」

絵里「……………」ハッ

希「早くボールちよーだい！」

絵里「……ええ！」ドツ

希「……よいしょ！」トツ

希「止めた!!」

絵里「……ふふふ」

希「あ……！今絶対バカにした！」

絵里「ふふ、ごめんなさい」

希「もー！」プンブン

絵里「……」

希「えりち？」

絵里「希」

希「？」

絵里「一緒にサッカー部入りしましょうか」

希「ほ、ほんとに!？」

希（えりちの本気のサッカー見れるかも……!）

絵里「あ、やつぱりあのサッカー部の子達が、『サッカーで廃校を阻止する!』とか言いだしたら入りましょうか」

希「それどんな確率!？」



絵里（もし……もし私がサッカー部に入ったら）

絵里（あなたとサッカーをすることができたら……）

絵里「……ふふ」

希「絶対入る気ないやんく!!」

絵里（また……思い出せるかしら）

絵里（楽しかったあの時を）

穂乃果「よーし！穂乃果達で廃校を阻止しよう！」

絵里「！」

絵里（……神様が……やれって言うてるのかしら）

絵里（……あと隣の希がすぐく腹たつ……）

希 ニヤニヤニヤニヤ

希「えりちな、氷の女王って呼ばれてたんよ」

絵里「ちよ、ちよっと!!」

絵里（……?いつものモヤモヤがない……?）

絵里（……ワクワクの方が強いみたい）

絵里（はじめてのシユートチエイン、仲間との連携……）タツタツタツ

希『えっへん!』ドヤア

希『止めれた!!』

絵里「…………ふふ」

絵里「みんなでやるサッカー、か」

絵里「…………」

絵里「吹き荒れろ……………」

パキパキパキパキ

希「氷の女王復活やね！」

絵里「ちよ、やめなさいよ！」

絵里（いつもみたいな嫌な感じじゃない……………くすぐったいような……………）

絵里「……………」

希「……………」

絵里「あの日……あなたとボールを蹴りあって、私の中で何かが変わった」

絵里「今私がこうやってサッカーできてるのはあなたのおかげよ、希」

絵里「ありがとう」

希「……………違うやん」

希「ウチ、謝ろうと……………え？」

絵里「ふふ、今日は珍しい希がいっぱいね」

希「……………もう！からかわんといて！」

真姫「……………もういいかしら？」

絵里「あら、真姫じゃない、どうしたの？」

真姫「眠たいから飲み物を買いに来たの」

絵里「私たちも眠気覚ましに来たのよ、あたたかくなって来たから眠たくって……」

希「や、やんなあゝ、これだけポカポカ陽気やとどこでも寝れそう……」スヤスヤ

絵里「ちよ、ちよつと希!?!練習始まるから!ちよ……起きなさい!」ググググ

希「んゝ、もう食べれない」スヤスヤ

絵里「希ゝゝ!!」

真姫「……………」

真姫（さっきの話の内容が全てだと思ってた……）

真姫（暇つぶしにロシアのサッカーチームのブログを見るまでは……ね）トトトツ  
ピツ

—————

ロシアサッカーU18代表ブログ

みなさんこんにちは、寒い日が続きますね

もうすぐ始まる世界大会、もうドキドキしっぱなしです

みなさんの期待に応えられるよう、頑張りたいと思います

話は変わりますが……

試合の日が近づくといつもある女の子を思い出します

小学校から中学3年生まで一緒だったんです

その子はとても可愛くてサッカーが上手でした

メディアにも取り上げられてたんじゃないかな？

同じチームでプレイするのはとても楽しかったのですが、少しづつ違和感を覚えて来

ました

彼女があまりパスを回さなくなったのです

理由はわかっていました

彼女は、いわゆる連携が苦手がよくミスをしていました

個人技はすごかったのですがチームプレーが苦手だったようです

彼女も申し訳なさそうに私たちに相談していました

私たちは特に気にしていませんでした

彼女自身の人柄や、日頃の行動から、悪い子ではなかったからです

でも、次第に………なんというか、彼女の纏う空気が冷たくなった気がしたんです  
みんな少しずつ彼女と距離を取るようになってしまいました

最後の大会、敵はとても強かったです

唯一対抗できたのがその子だけでした

その子はディフェンスとオフENSを行ったり来たりして、何人分ものカバーをして  
いました

みんなボールを取るとその子に回しました

彼女は何度も倒され、傷だらけになりながらも、チームのために走ってくれました  
が最終的には負けてしまいました

一点差でした

もし彼女がいなければ目も当てられないほどの結果になっていたでしょう

私たちは尊敬と感謝の意を込めてある称号を彼女に送りました

【氷の女王】と

ところが、私たちのチームの親や周りの人が、傍目にはその子のワンマンにしか見え  
ない試合に怒りを覚え、有る事無い事を言いふらしました

チームがお前を嫌っているのだの

お前のワンマンのせいで負けただの

心優しい彼女はそれらの言葉を全て真実として受け止めてしまいました

その子は中学卒業後、ロシアを発ちました

最後に聞いたことがあります

「サッカー、つづけるよね？」

彼女は

「サッカーはもうしない、迷惑かけてごめん」

とだけ返してくれました

私たちがいくら誤解だと言っても彼女は信じてはくれませんでした

ただ謝るばかり、ごめんねと

せめてこちらに怒りを向けてくれればいくらか気は楽になったのに

最後に

「一緒にサッカーできて楽しかったよ!!」

と大声で叫んでも、帰って来たのは

「ごめんなさい」

と、一つのお辞儀だけでした

悲しかったです



彼女にこれほど他人行儀に頭を下げられたのは、小学校から思い出しても初めてでした

私たちがずっとプレイしてきたあの時間、一緒に笑いあって、喜んで、泣いて、悔しかったあの日々全てが

彼女にとっては思い出さたくない過去に変わってしまったのです

彼女をそんな風にしてしまったのは私たちの実力不足が原因でした

私たちはその日から必死で練習して、今は国のU18の代表になることができました  
それでも、彼女への仕打ちを考えると胸が苦しくなります

……ところが、最近サッカーで調べていたら面白いものを見つけたんです

なんだと思いますか？

ふふふ、実はですね……

その友達が……日本に行った、我らが「氷の女王」がまたサッカーを始めていたんです!!

もう昔よりはるかに綺麗になってモデルさんのようですよ!

それにあの笑顔!

あの頃と何も変わっていません

今彼女は高校三年生

二年、間が空いたようですが、また戻って来てくれました！

中学時代の友達にこのことを知らせるとみんな大喜びしました

国は違えど、同じ空の下であなたを見守っています

ハラショー！ちよつとキザだったかな？

ではこれにてさようなら！

—————

真姫「……………」ピッ

真姫（私も……………少し調べただけで全部知った気になってたみたいね）

絵里「ぜー……………はぁー……………」ヨロヨロ

真姫「絵里、私に任せて」

希「クカー……………クカー……………」

真姫「イラア……………」

ツمامミ

希「……………ッ」

希「……………」

希「…ッ!!」モゴモゴ

希「ぶはー!!」ガバツ

真姫「おはよう」

希「死ぬやん!!」

真姫「そうね」

希「冷たい!!」

真姫「ほら練習始まるわよ」

希「もおー……」ググググッ!

希「つはあー……」ダラン

真姫「それと絵里」

絵里「な、なに……?」ハア……ハア……

真姫「たまには気晴らしに母国のサッカーチームのブログでものぞいてみなさい」

絵里「?」

真姫「……何でもないわ」スタスタ

希「真姫ちゃんまって〜!」ガバツ

真姫「ヴェエエ!?」ググッ

真姫「重たいのよ希!」

希「レディ対して重たいはあかんやん!?!」

「真姫「レディは人前でぐーすか寝たりしないわよ！」  
希「今それ言う!?!」

絵里「……………デジャブ?」

## 絵里宅

絵里「まったく、一体なんだっていうのよ……………」カチカチ  
カタカタカタカタカタカタ

絵里（ロシア、サッカー……………ブログ、と）タターン！  
カチカチ

絵里「あつた…」スー……………（スクロール）

絵里「こんなの見て何か気晴らしになるのかしら……………」スー……………

絵里「えーつと？」

絵里「……………」

絵里「へえ、可愛い子がサッカーをしてた……」

絵里「ワンマンが増えて……」

絵里（ワンマン……私みたいね）

絵里「最後の大会、相手チームが強くて……」

絵里（そう、あの時の相手もとても強かった……）

絵里「一点差で負け……」

絵里（もつと私が強ければ……）

絵里「……………」

絵里「にしてもなんだか親近感湧いてくるわね、この子」

絵里「なになに？」

絵里（……………私たちは尊敬と感謝の意を込めてある称号を彼女に送りました）

絵里（ハラショー！この子は幸せ者ね）スー……

【氷の女王】と

絵里「……………」

絵里「は？」

絵里「え、どうして……………？」

絵里「氷の……………え？」

絵里「ここに書いてるの……………私？」

絵里「……………」

絵里「も、もう一度初めから……………！」 カチカチ

絵里「……………」スー……

絵里「……………」スー……

絵里「……………」スー……

絵里「……………」ウルツ

絵里「……………」ウルウル

絵里「うう……………」ああ……………」ポロツ

絵里「ああああ……………」ポロポロ

私たちがずっとプレイしてきたあの時間、一緒に笑いあつて、喜んで、泣いて、悔しがったあの日々全てが

彼女にとっては思い出したくない過去に変わってしまったのです

絵里（全部……………覚えてる……………）ゴシゴシ

絵里（ゴールを決めてみんなで抱き合ったことも……………）

絵里（夏にアイスを食べながら冗談を言い合って帰ったことも……）ウルツ  
絵里（試合で負けて、泣きながらみんなでご飯食べたことも……）ポロポロ

絵里（思い出したくないわけ……ないじゃない）ポロポロ

絵里「ああ……うぐっ……」ヒツク

絵里「みんなあ……」グスグス

絵里「……！」

絵里「そうだ……確か……」ガサゴソ

カサッ

絵里（ケータイを変えた時、どうしても消し切ることのできなかった……）グスツ

絵里（みんなの……電話番号）

絵里「……」グッ



ガチャ

亜里沙「おねーちゃん、ご飯冷めちゃう……」

ピッ

絵里「も、もしもし?」

『……どなたですか?』

絵里「あ、あの……」

絵里「えっと……」

『……イタズラなら』

絵里「ま、待って……!」

スウ……ハア……

絵里「……絵里……です」

亜里沙「……………」

パタン

亜里沙「……………まあいつか」

亜里沙「どれだけ冷めちゃったとしても……………」

絵里「うん、うん、ブログ……………読み……………読んだ」

絵里「……………うん、久し……………ッ……………！」ウルツ

絵里「うん……………うん……………」ポロポロ

絵里「……………！」

絵里「……！」ブワッ！

絵里「……………あり……………がとお……………」ポロポロ

亜里沙「何度だって温められるんだから」

## 「可愛い子分たち」

学校放課後

キーンコーンコーンコーン

先生「それではみなさんさようなら」

さよーならー！

希「えりちち、部活いこー！」

絵里「え、ええ……」ゲツソリ

希「あら、お疲れさんやね」

絵里「ちよつと昨晚……ね」

希「……なんかその言い方やらしいね」

絵里「あなたが思ってるようなことはないから安心して」

希「ん？えりちはうちが何を思ってると思ったん？」ニヤニヤ

絵里「だから……はあ、ダメ」

絵里「今日は本当に寝不足だったのよ……」ぐったり

希「体気をつけてって言ったばかりやのに……」

絵里「そういうあなたこそ疲れた顔してるわよ」

希「……やっぱりわかる？」ゲツソリ

ガラガラ

「希ちゃーん！校門に他校の男子がきてるよ！」

希「ああ……うん、ありがと」

「なにになに〜？もしかして彼氏？」

希「もしそうならどれほどいいかなあ……」シクシク

絵里「そんなに嫌なら断ればいいのに」

希「それができたらどれほどいいかなあ……」シクシク

絵里「……嘘泣き」

希「……ツチ」

絵里「舌打ち……!!」ガーン

校門

絵里「……え……ええ？」

希「……なにしにきたん？」

「なに言ってるんですか、姉さんのサポートですよ！」

希「昨日の夜もたっぷり電話したやん？」

「俺はいつでも姉さんの隣にいますよ！」

希「……はあ」

「お疲れですか！どうぞ部室へ！案内します！」

希「君は立ち入り禁止やけどね」

「そ、そんな……!!」ガーン

絵里「ちよ、ちよつといい？」

絵里「あなた確か……」

「はいー！」

幽谷「尾刈戸高の幽谷です！」

絵里「幽谷……くん？」

絵里「え、こんなキャラじゃなかったわよね？」

希「それがな……」

幽谷「姉さんはオカルトの師匠なんです！」

絵里「お、オカルト？」

幽谷「あの時感じたあの迫力……！」

幽谷「俺、一生姉さんについていきます！」

希「……」

絵里「……」

幽谷「……？」パタパタ

希絵里（尻尾が見える……）

希「とりあえず今日は帰ってね」

幽谷「そんな……!!」ガーン

希「それから、電話もよっぽどの理由がない限り、かけてこないこと」

幽谷「……!!」フラフラ

希「守れるやんね？」

幽谷「……」

幽谷「姉さん……」

幽谷「姉さんは……!!」グッ

幽谷「俺のことなんてどうでもいいんですか!？」

希「……」

幽谷「無言!!」ゴーン



部室前

希「はー疲れた……」

絵里「お疲れ様……」ポン

くく……!!

絵里「あら？部室がなんだか騒がしいわね」

希「なにかあつたんかな？」

ガラガラ

にこ「だからさつきと帰りなさいよあんたら!!」

にこ「通報するわよ!!」

「そんなこと言わないでくださいよー」

「そうっすよ！なにか手伝える事とか……」

「姉貴！」

希「……………なにこれ？」

真姫「もう、なに入り口で止まってるの？」

真姫「げ」

海未「おや？どなたですか、この方たちは」

「あー！真姫の姉貴！」

「お久しぶりです！姉貴！」

真姫「こんなところまで……………」ハア

真姫「あなたたち……………」

真姫「さっさと帰りなさい!!」

「で、でも……………」

真姫「女子校に入ってるのがバレたらあなたたち怒られちゃうでしょ？」

真姫「そんなところ……………見たくないのよ」キラキラ

「あ、姉貴いい!!」ポロポロ

「眩しい……………！眩しすぎて見えねえ!!」

「今日は帰ります！」

「また会う日まで……お元気で！」 ダッ

……

希「真姫ちゃんどこで覚えたんそんなん」

真姫「あんなこと教えるのにこちゃんしかいないじゃない」

にこ「ふっふっくん！」 ドヤッ

絵里「にこ、多分褒められてないわ」

海未「それで……何者なのですか？あの方たちは」

にこ「……はあ……」

にこ「……こないだ子供があいつらに絡まれてたから助けたのよ」

海未「にこがですか？」 ジー……

にこ「当たり前じゃない」

真姫「私もいたけどね」

真姫「その時は一回追い払ったのよ」

海未「二人ですか？あのお二方、かなり体格がしっかりしてましたが……」  
にこ「まあサッカーボールがあつたからね」

真姫「思いつきりぶつけてやったわ」

希「はー、すごいなあ」

海未「……………」

絵里「海未……………？どうしたの？」

海未「……………サッカーボールを、人を傷つけるために使つたのですか」

にこ「え、ええ……………」

海未「……………それで、どうなつたのですか？」

真姫「その時はそれで治つただけけど、また少ししたらリターンマッチに来たのよ」

にこ「で、また返り討ちにしたってわけ」

海未「……………サッカーボールですか？」

にこ真姫「……………」

希「う、海未ちゃん……………」アセアセ

海未「すみません、続けてください」

真姫「……………倒した後は急に手のひら返したように、『姉貴！姉貴！』つてなつて今に至

るわ」

海未「……………あなたたちが怪我をしなくて本当に良かったです……………」

海未「が」

にこ真姫「……………！」ビクッ

海未「サッカーボールで人を傷つけるのだけはやめてください……………」

海未「私からのささやかなお願いです……」ペコリ

希（海未ちゃんはもともと争い事は好きじゃない……）

絵里（ましてやサッカーボールを喧嘩に使うとなると……）

にこ「で、でも！やらなきゃやられてたし……」

にこ「海未は……」

にこ「にこたちとあいつら、どっちが大切なの……!!」キラキラ

海未「にここと真姫ですよ」

にこ「んう……おお……」モジモジ

希（相変わらず正直者の海未ちゃんには弱いなあ……）

海未「にこたちの安全が第一です、しかし、それは最終手段にしてほしいです……」

海未「サッカーで……」

海未「誰も傷ついて欲しくないんです……」

にこ「……ごめん……」

真姫絵里希「……」

海未「しかし、二人が無事で本当に良かったです」

海未「もし破廉恥なことをされてたらと思うと……」ワナワナ

にこ「あんた想像ぶつ飛びすぎでしょ……」

真姫「ほんと……」クルクル

希「海未ちゃんにはこつちたちが大好きなんやね」

海未「え？ああ……違いますよ」

にこ真姫「え」

希「おおう……」

海未「その……」モジッ

海未「わ、私は……」

海未「このチームのみんなが好……」

ガラララララララ

!!!!!!

穂乃果「おつくれましたましたああ!!!」

花陽「そ、そんな堂々と……」

凜「海未ちゃんの雷が飛んでくるにや……」

ことり「ご、ごめんね……」

海未「~~~~~!!!」ワナワナ

海未「穂乃果あああ!!!」クワッ!

凜「ほら〜……」

穂乃果「ち、ちが……！ちゃんと理由があるの!!」

海未「やつと来ましたか、さあ、練習ですよ」ニコッ

穂乃果「……へ？」

凜「おお……！珍しく海未ちゃんが怒らないにや……」

海未「そんなに嬉しいことを言ってくれる凜には特別メニユーを授けましょう」

海未「まさか……断らないですよね……？」ジロリ

凜「は、はいい……」ガクガク

凜（終わった）

海未「……私は先にグラウンドへむかっています」タツタツタツ

穂乃果「ほえー……海未ちゃん元気だなあ」

凜「着替えてなかったけどいいのかにや？」

希絵里にこ真姫「……ふふ」

ことり「?どうしたの？」

凜「みんなニヤニヤしてるにや……」

穂乃果「穂乃果たちがくる前に美味しいもの食べてたんだね!!」

花陽「違うと思うけど……」



絵里「なんでもないので……なんでもね」

絵里「さ、練習よ!!」

穂乃果凜花陽ことり「お、おー……?」

希（出て行くとき海未ちゃん顔真つ赤やったな〜）

絵里（途中までしか聞けなかったけど、嬉しいこと言ってくれるわね）

にこ（自分で言っただけで自分で赤面するなんて……）

絵里希にこ（後輩がかわいい……）

真姫「……」クルクル

海未（ううう〜……／／／／／／／／）タツタツタツ

海未（どうしてあのタイミングなのですか……!!!）

海未（穂乃果のおばかああ!!!!）

穂乃果「……?」ゾクッ

凜「……………ツ……………」ピクツ

凜「えーつと……………」キヨロキヨロ

花陽「どうしたの？」

凜「学校来る前少し足挫いちやって……………少し痛みが強くなって来たにや」

凜「テーピングある？」

花陽「あるよ、はい！」

凜「ありがとう」

花陽「巻いたげるね」シユルル

凜「なんだか恥ずかしいにや……………」

花陽「えつと……………こうかな？」シユルツ

真姫「違うわ、その下を斜めに……………」

花陽「……………こう？」シユルツ

真姫「違う、まずそつちを巻いてから……………」

花陽「こうか！」ギユツ

凜「つ……………ぐ……………！」

真姫 「くく!! だからあく!!」

花陽 「こうだあ!!」 ギユウウ!!

凜 「ぎにやあああああ!!」

にこ 「代わればいいのに……」

ある日の部室

にこ 「ちよ、ちよ、ちよつとこれ見て!!」

ガラガラ!!

穂乃果 「にふおふあんほーひはほ?」 もぐもぐ

真姫「相変わらず騒がしいわね……」ハムツ

希「ことりちゃんこれほんまに自分で作ったん？美味しいなあ」パクツ  
凜「これ名前なんていうんだっけ？」モシヤモシヤ

花陽「えーつとね……」ココマデデテル

ことり「ありがとう希ちゃん！マーマレードっていうの！」

海未「さすがことりですね」もぐもぐ

にこ「あら、美味しそうなの食べてるわね、私ももらうわ」

ことり「どうぞ〜」

にこ「……！」ハムツ

にこ「悔しいけど……おいしい……！」

ことり「ありがと〜！」

海未「これを食べたなら練習ですからね、食べ過ぎないように！」ハムツ

穂乃果「ふぁ〜い！」モゴモゴ

海未「……ッ……」ゴクン

海未「あなたに言ってるんです!!」

海未「もう3個も食べてるではありませんか……」

穂乃果「いやでも……」ゴクン

海未「でもじゃありません！」ピリッ

海未「まったく……」パクッ

凜「ねえねえ、海未ちゃんいくつめだっけ……？」ヒソヒソ

希「たしか……」ゴクン

花陽「もう5個目だよお……」

凜「えげつないにや……」

凜「あ、にこちゃんもう一ついつとく？」

にこ「もらうわ、ありがと」ピリッ

ハムッ

にこ「……おいしい」もぐもぐ

花陽「そういえば今何時だろ……ケータイ忘れちゃって」モグッ

にこ「今は15時45分よ」ムグッ

花陽「ありがとにこちゃん」ゴクン

絵里「ところで……」ゴクン

絵里「にこは何を慌ててたの？」

にこ「……っ……!!」ハッ ポロッ

希「絶対忘れてたやん」

にこ「お、お覚えてたに決まってるじゃない！」モグモグゴクン！

にこ「これを見なさいあんたら！」ピッ

花陽「こ、これは……！」ズイッ

花陽「私も毎日更新を確認してる高校サッカー協会フットボールフロンティア杯のブログ!!」

海未「何かあるのですか？」ズイッ

穂乃果「あ！音の木坂って書いてるよ！」

真姫（……見えない）びよんびよん

にこ「読んであげるわ！」

にこ『新参校ながら強豪校をバツタバツタとなぎ倒し、一躍優勝候補に名乗りを上げた無名校、音の木坂学院』

『なんと予選決勝ではあのUTX高校を逆転勝利で破り、本選へと駒を進めた』  
『今大会のダークホースになることは間違いないだろう』

穂乃果「ほわ……すごい書かれようだね……」

花陽「さらにコメントも沢山です！」

真姫（見えない……）ユラユラ

にこ「順番に読むわよ？」

『マグレだろどうせww』

『今が一番楽しい時』

『本選ですぐに負けるに一票』

絵里「ふふ、ひどい言われようね」

凜「なんで嬉しそうなの？」

絵里「私たちが優勝したらこの人たちどんな顔するのかって想像するだけでワクワクしてくるわ」フフフ

真姫「あなた結構歪んでるわね……」

にこ「にこーにこーよー」ツイー……

『正部員9人でとか化け物かよ』

『あれ、後三人いなかったか？』

『助っ人的なポジションだつて言つてたぞ』

『マネージャー兼選手みたいな感じか』

『にしてもよく勝つたよな』

『中学生助っ人が強かつたんじゃない？』

『言つても決めたのはみんな部員だぞ？』

『キーパーも止めてるしな』

『やべえ俺もいける気がして来た』

『この9人まとめてなんかないか？』

『神9！』

『お前ネーミングセンスどこで落としたんだよ』

『母ちゃんの腹のなか……かな』

『μ，sでどうだ』

『なんて意味？』

『9人の歌の女神とかそんな感じ』

『「音」の木坂とかけてんのかすげえな』

『職人現る』

『なんてよむの？』

『ミュージズだよバカ』

『みゅーずががんばれー！』

『てか写真見たかよ、全員顔面偏差値高すぎだろ』

『【速報】μ，sまじで女神だった』

『誰かやると思ったwww』

『燃えてきた』



『萌えると掛けたのか』

『いいんだよそんなところ凝らなくて』

穂乃果「おお……」

にこ「私たち、ネットで名前つけられるぐらい人気出てきてるってことよ！」

花陽「A——RISEみたいだね！」

凜「μ, s……か」

希「雪穂ちゃんと亜里沙ちゃんが入ってないね」

海未「……私は反対です」

海未「二人あつての音の木坂ですから」

穂乃果「ヒデコたちもね〜」

真姫「……」クルクル

にこ「ま、こんな感じかしらね」

花陽「でも、これで私たちを応援してくれる人がいるってわかったね！」

希「そういう人達がいるってだけで嬉しいね」

穂乃果「よーし！バカにしてる人たちをギャフンと言わせるぞー！」

「おー!!」

穂乃果 「応援してる人たちの期待に応えるぞー!!」

「おー!!」

穂乃果 「廃校救って優勝するぞー!!」

「おー!!」

「もうすぐ本選！」

練習

タツタツタツ

凜「はあ……はあ……」タツタツタツ

希「行かせんよ！」ザッ

凜「にやあ!!」クルツ バッ!

希「そんな動きあり!？」ガクツ

花陽「……………ふっ！」ズザッ

亜里沙「うわあ！」ガクツ

花陽「ドリブルの時一瞬足元が空いちやうときあるからそこを気をつけて」

亜里沙「はい！」

海未「はあ!!」ザザッ!

ことり「きやあ……!」ズザッ

真姫「うええ……!」ガクッ

海未「二人とも簡単に抜かれすぎですよ!」

ことり「ひい……!」

真姫「ディフェンスってあんまりしたことないのよね……!」

海未「たるみすぎです!!」

「それじゃあこのこにーが相手になるわよ?」ザッ

ガガッ!!

海未「……!」ズズッ

にこ「ほらほら、どうしたのよ海未!」ガガッ!!

海未「……つく……!!」ズザザッ!

海未「ここまで懐に入られるとやりにくいですね……さすがにこです……」

海未「………が」

クルッ

にこ「んなっ!?!」ガクッ

海未「もうひと押し欲しいですね」トッ

にこ「………つち、やるわね」

ことり「………ほえー………」

真姫「………すごい………」

海未「………!」ハッ

海未「何ぼさつとしてるんですか!次はあなた達ですよ!」

ことり真姫「………はい」

ことり真姫「………レベルが違う………」

穂乃果「……………みんな成長してるんだなあ……………」

ドキュツ!!

穂乃果「……………」ポーーーー……………」

「!?穂乃果!?!」

穂乃果「……………っへ?」クルツ

ドゴォ!!

穂乃果「へブチツ!!」

ドサツ

絵里「ちよ……………大丈夫?」タツタツタツ

穂乃果「うう……………だいじよばない……………」グズグズ

絵里「どうしてシュート練の時によそ見なんてするのよ……………」

穂乃果「だつてえ……………」

凜ママ「おーい! 次のメニュー行くぞー!」

みんな「はい！」

絵里「ほら、泣かないの」

穂乃果「ヴヴヴヴヴ……………」グズグズ

凜ママ「ちなみに今から本番な、今までののはウォーミングアップみたいなものだから  
みんな「……………え？」

練習終わり

ぜえ…………ぜえ…………ぜえ…………

花陽ママ「皆さん明日はいよいよ試合ですね〜！」

凜ママ「がんばれ〜！」

絵里「試合前に…………はあ、こんなにきつい練習…………」ぜえ…………ぜえ…………

海未「明日…………大丈夫でしょうか…………」ハア　ハア

穂乃果「もー！みんなどうしてそんなに弱気なの！」

穂乃果「フアイトだよ！」

穂乃果「……………はぁー……………」ガクツ

ことり「無理して強がるから……………」はぁ…はぁ…

ことり「起きて〜……………」ツンツン

真姫「水分は……………とつときなさいよ……………」フラフラ

凜「あ……………あぁ……………」ズズズツ

花陽「……………ニンゲン……………クウ……………」ズズズツ

にこ「まずいわ、花陽が人間をやめかけてる……………」ハアハア

希「凜ちゃんも限界なんて珍しいね」ハアハア

凜「秘密兵器の……………特訓だにや……………」ハア

絵里「へー、なんて技なの？」

凜「かよちんロケット！」

穂乃果「おお……………！カッコいい！」

凜「でもかよちんが怖がつてなかなか進まないんだにや〜」

花陽「あれは怖いよお……………」

にこ「別にどんな技でもいいけど怪我だけはしないようにしなさいよ」

花陽「にこちゃんに私たちの技を授けます……………！」



凜「【にこちゃんロケット】だにや！」  
にこ「熨斗紙つけて送り返してやるわ」

放課後公園

絵里「つく……………！」ハアハア

真姫「はあ……………!!はあ……………!!」ぜえぜえ

絵里「真姫、大丈夫？少し休んで……………」

真姫「もう一回よ!!」ゼエ……………ゼエ……………

絵里「真姫……………」

||||||||||||||||||||||||||||||||||||

絵里「真姫、ちよつといいかしら」

真姫「どうしたの？」

絵里「私と……合わせ技をして欲しいの」

真姫「『ファイアトルネード』と『エターナルブリザード』を組み合わせるんじゃないかと、二人で一つの技ってことね」

絵里「手本はあるわ」

真姫「『ファイアブリザード』でしょ?」ニヤツ

絵里「ハラショー……! さすがね」

真姫「いいわ、早速明日から始めましょう」

真姫（『爆熱ストーム』はひとまずお蔵入りかしらね）

—————

真姫絵里「はああああ!!!」バツ

ブワアアア!!                      ブワアアアア!!

真姫絵里「『ファイアブリザード!』」

ドキュウウウ!!!!

ゴオオオオオオ!!!!

ゴオオオオオオオ……

シユルルルルルル……………

テンテンテン ……………

真姫「……………！」ギリッ

真姫（ママたちにできて、私たちにできないなんて……………）

真姫「……………っ」ジャリッ

絵里（真姫のストレスがかなり溜まってる……………）

絵里（これ以上は明日の試合に支障が出るわね……………）

絵里「今日はこの辺にしておきましょう」

真姫「……………！で、でも……………！」

絵里「真姫、私たちは優勝を目指してるの」

絵里「そのためには、目先の一戦を甘くみてはいけない」

真姫「……………わかったわ」

絵里「ふふ、大丈夫よ」ナデ…

真姫「……………」ビクッ

絵里「私だってこのままで終わる気なんてないんだから」ナデナデ

真姫「……………」ならいいけど」ナデナデ

真姫「……………」ナデナデ

真姫「……………」ハッ

真姫「撫でないで！」

## 別の公園

凜「いにや!？」ドサッ

花陽「うぐう……………」ドサッ

凜「ご、ごめんかよちん！」スッ

花陽「ううん、大丈夫！」ガシッ

凜「……………」かよちん、ほんとに嫌じゃない？」グイッ

花陽「……………」私は、凜ちゃんと一緒にできるだけで楽しいよ」ニコッ

凜 「かよちゃん……」

凜 「……！メガネ落ちてるよ」 ヨイシヨ

凜 「はい、かよちゃん」 スツ

花陽 「ありがとう凜ちゃん」 スチャツ

凜 「……」

花陽 「凜ちゃん？」

凜 「あ、いや……！……えつとね」 アワアワ

凜 「真姫ちゃんと一緒にここで練習したなって」

花陽 「あの技の？」

凜 「うん！何回も何回も大変だったにや〜！」

花陽 「……」

「あら、ひどい言いようね」

凜「にや!？」クルツ

にこ「……手伝うわ、人手があつたほうがいいでしょ？」

花陽「にこちゃん！」ペアア!

凜「にこちゃん！」ガバツ

にこ「んなあああ……!!」グググツ

花陽「あ………」

にこ「降りなさい」ペイツ

凜「うぐつ……！」ドサツ

にこ「さ、始めるわよ」

にこ「何回も何回も……ね」パチン

花陽「……うん！」

凜「にやー!!!やるにやー!!」ガバツ

ガラララララララ!!!

「ゴラア!!誰だこんな時間に騒いでんのはあ!!!」

凜「………にや〜」

「………なんだ猫か………」

ピシヤリ

凜「…………やるにやー！」ヒソッ  
にこ花陽「おー！」ヒソッ

## 第3話 「V S 戦国伊賀島」

試合前バス停待ち合わせ

亜里沙 「ふあく……」 コシコシ

絵里 「まだ少し眠い？」

亜里沙 「うん、緊張して眠れなかった……」

にこ 「で、あと来てないのは……」

海未 「雪穂と穂乃果ですね」

海未 「大方穂乃果が寝坊したんでしょう」 はあ……

ことり 「早くしないとバスでちやうよおく……」



ドタバタドタバタ!

穂乃果「ぎ、ギリギリセーフ!!!」ズザザザ!

雪穂「アウトだよ……ゲホッ、ほんとすみません……」ハアハア

穂乃果「……! ハンカチ忘れた……」

雪穂「ちゃんとあるよ、はい、ティッシュも」スツ

穂乃果「ありがとう雪穂〜!」ギユツ

雪穂「次からは気をつけてよね」ヤレヤレ

海未「どちらが姉かわかりませんね……」

絵里「まったく……リーダーが遅刻なんて……」

穂乃果「う……うえりちゃあん……ギリギリ間に合ったから……ね?」

穂乃果「少し大目に……」

凜「10分前集合は基本だつて言つてなかったかにや?」ニヤニヤ

穂乃果「気にしないでいいよ、凜ちゃん」

凜「自分で言うことじゃないにやあ!!」

ヒデコ「おーい! 穂乃果ー!!」ブンブン

フミコ「こつちだよ〜!」

海未「では行きましょうか」ヨイシヨ

ミカ「μ s 御一行ご案な〜い！」  
一同「……………ん？」

穂乃果「ちよ、ちよつと待って…？」

穂乃果「知ってたの!？」

ヒデコ「ふっふっふ、我らの情報網を甘く見てもらっちゃ困るよ」ドヤツ

ヒデコ「この……………」

ザザザツ

ヒデコ「助っ人五人衆をね！」

亜里沙雪穂 フンス…!

絵里「亜里沙……………」ハア

穂乃果「で、でも……………! μ s は9人って……………」

穂乃果「私たちは……………この14人のメンバーが私たちで」

ヒデコ「とか考えてるんだろぅなってみんなで話したんだよ……………」

ヒデコ「……………穂乃果」

ヒデコ「私たちは助っ人だよ」

フミコ「そう、いわば脇役、サポート係」

ミカ「メインの穂乃果たちが目立たなくてどうするのさ!」

雪穂「みなさんが……………μ, sがどこまでいくのか見てみたい」

亜里沙「私たちは、少しでも走りやすくなる手助けができればそれでいい!」

穂乃果「みんな……………」

ヒデコ「せつかく吹いてる追い風を止めるなんて真似、絶対しちやダメだよ」

穂乃果「……………わかった」

海未「穂乃果……………」

穂乃果「ただし!」

穂乃果「気持ちはみんな一緒だからね」

ヒデコ「……………うん」ニコッ

ここ……………」

ここ「なんていうか私たちって……………周りに助けられて活動してんのね」

希「おお……………!にこつちらしからぬ発言……………!!」

ここ「たまにはいいでしょ?こういうのも」

希「自覚はあったんやね」

にこ「はっ倒すわよあんだ」

凜「μ s かゝ……！」

花陽「実はちよつと気に入ってた……なかつたり……」

真姫「これだけ励まされちゃやるしかないでしょー？」

穂乃果「よーし！今日の試合、絶対勝つぞー！」

「おーー!!」

監督「お前ら早くしろお!!バスが来てる!!」

ブロロロロロ!!!

穂乃果「や、やばっ……！」

穂乃果「急げー！」ダッ!

海未「あ、こらっ……!シューズ忘れてます！」

ことり「水筒もだよお……」

にこ「急ぐわよあんたら！」グイッ

真姫「にこちゃんそれ私の荷物！」

真姫「にこちゃんのはこっちよ！」スッ

希「真姫ちゃんそれウチの!!」

花陽「あれ……!? 財布どこしまったっけ!」 ガサゴソ  
凜「今かよちゃんが手に持つてるにやあ!!」  
絵里「ウイダー忘れた……」 ゴーン

ヒデコ「……こんなんで大丈夫かなあ……」

ミカ「もしこれで今日負けたら……」

フミコ「今の一連の流れ……」

((恥ずかしいよね……))

監督「はあ……」

戦国伊賀島 グラウンド



絵里「あんまり気負いすぎないようにね」

希「今日の相手は忍者かあゝ」

にこ「UTXに比べたら可愛いもんよ」

テクテクテク

審判「音の木坂、アツプを始めてください」  
ことり「はゝい！」

ドツ トツ ドキユウ！ バシツ

凜「ほっ！」ドツ

花陽「よっ……と」トツ

花陽「んっ……！」ドツ

ポーン…

凜「にや!？」

花陽「あ、凜ちゃんごめ……」

シユバツ!

トツ

スタン……

凜「あ、ありがとうございます……」

「……………」

凜「えつと……まだ何か？」

「絢瀬絵里か西木野真姫と勝負がしたい」

凜「え、えーつと……?」

凜（見ればわかる……）

凜（やばいやつだにやー……!!）ゴーン

タツタツタツ



にこ「どうしたの？」

凜「この人が絵里ちゃんか真姫ちゃんと勝負がしたいんだって」

にこ「はあ？……はいはい、とつとと帰りなさい、今ならなかったことにしてあげるから」

「はあ……」

「負けるのが怖いのか？ 飛んだ腰抜け集団だな」

凜「そんなわかりやすい挑発に乗る人なんていな……」

にこ「はああん??いいわ、やってやろうじゃない……!!」

凜「にこちゃんは平常運転だね……」トホホ……

にこ「で、あんた名前は？」

「お前に名乗るなはない」ババーン

にこ「……いい度胸してるじゃない」ピクピク……!

凜「にこちゃんの血管が持ちますように」

「じゃあ二人のうちどつちを……」

にこ「花陽よ」

……

「……ん?」

凜「へ?」

にこ「花陽ー! 出番よー!」

花陽「え? え?」 タツタツタツ

にこ「あんた、こいつと勝負しなさい」

花陽「……まじですか……」

にこ「大マジよ」

「お、おい……! 話が違うだろ!」

にこ「はぁあん?? あんたの要求飲んでやったんだから人ぐらいこつちで選ばせなさい  
よ」

「で、でも……」

にこ「はぁぁあんんん??」

「……」

凜「あれアイドル志望の顔じゃないよね?」

花陽「凜ちゃんシー……!!」 アワアワ

海未「まったく、何をしているのかと思えば……」

真姫「……どっちが勝つと思う？」

凜「カヨちゃんにラーメン一杯にゃ！」

希「うちも花陽ちゃんにお米一粒！」

ことり「もう少し奮発してあげようよお……」

希「米俵一俵！」

ことり「やりすぎだよお……」

雪穂「花陽さーん！がんばれー！」

「ルールは簡単だ」

「ドリブルで向こうのラインまで走って行って、Uターンして返ってくる、いいな？」

花陽「は、はい……」

にこ「じゃいくわよっ」

にこ「位置について……」

ジャリッ

にこ「よーい……」

グツ

にこ「……ふ……」 ムズツ……

にこ「フエックシユン!!」

ダツ!

にこ「ちよ、ちがつ……ああもう!」

希「あつはははは!!」

にこ「うるつさいのよあんた!」

希「あはははは!!!斬新すぎやんにこっち!」

ことり「ふふ……ふふ……!」プルプル

穂乃果「ナイスくしやみだよ!にこちゃん!」

亜里沙「ハラショーです!」

にこ「うるさい!!」

花陽「……………なんか盛り上がってますね」タツタツタツ  
「そうだな」

花陽（……ここでUターン……）

クルツ      クルツ

絵里「……こまでは互角ね」

穂乃果「がんばれー！花陽ちゃんー！」

霧隠（こいつ……遅くはないが特別速いわけじゃない……）

（ハズレをつかまされたか……）

「……………ツチ」

花陽「ヒツ……………！」ビクツ

（こうなったららぶつちぎって勝ってやる……………！）

グンツ!!

花陽（……………！格段にスピードが上がった……！）

花陽（……………私だって！）グツ

グンッ

「……その程度か……」

「がっかりだ」ダッ!

花陽（追い……っけない…!!）タッタッタッ  
フッ

シュバッ

「なっ……!!」

花陽「だ、誰?」

「……勝手なことをするな」

「試合前に……」

「……邪魔するな」

風磨「戻るぞ霧隠」

初鳥「すまなかつた」ペコッ

霧隠「……ちっ」

ドロンッ！

花陽「え？……は、はい……」キョトン

花陽「……」トボトボ

にこ「お疲れ花陽」

希「お疲れさん、花陽ちゃん！」

海未「まったく……試合前にわざわざ疲れることをするなんて……」

花陽「ご、ごめんなさい」シヨボン

審判「音の木坂ー！整列してください」

絵里「さ、行きましょう」

穂乃果「みんなー！絶対勝つよー！」

一同「おーー!!!」

花陽「ねえにこちゃん……」

にこ「どうしたの？」

花陽「どうして……花陽を出したの？」

花陽「絵里ちゃんと真姫ちゃんが疲れないため？」

にこ「……あんた」

にこ「自分が捨て駒に使われたと思ってるの？」

花陽「……」コクリ

にこ「……はぁ……」ポリポリ

にこ「いや、説明しなかったにこが悪いわね」

花陽「？」

にこ「……向こうのエース、どうだった？」

花陽「……？」

にこ「あんたが一番得意でしょうが、情報収集」

花陽「……！は、はい！」

花陽「スピードは凜ちゃんと同じかそれ以上、近くで見た感じフィジカルはそんなに

強くなく負けず嫌い」



花陽「あとは細かい癖が少々……」

にこ「ふふ、さすが花陽ね」

花陽「にこちゃん……」

凜「二人で何いちやいちやしてるにやー!!」

真姫「もう……整列よ?」クルクル

にこ「はいはいただいま」スタスタ

花陽「ま、まってえ〜!」タッタッタ

角間母（以後角間）「始まりましたフットボールフロンティア本選第一回戦!!」

角間「一体どちらのチームが次の対決へと駒を進めるのでしょうかあ!!」

F  
W

絵里、真姫

M  
F

海未、希、にこ、ことり

D  
F

雪穂、亜里沙、花陽、凜

G  
K

穂乃果

!!  
角間 「なあとお!! UTXの助っ人、  
絢瀬亜里沙が音の木坂の助っ人へと移りました

!!  
角間 「これからの活躍に期待です!!」



ツバサ「……」

監督「それができないなら手足をもがれてでも勝てと……」

ツバサ「……はい」

監督「よくわからん助っ人も入れて結局負けるとはな……」

ツバサ「……」イラア

監督「……」フウ……

監督「……お前たちはもういい」

一同「……!!」

ツバサ「……用済みということですか」

監督「その通りだ」

M F 2 「くくく!!」

M F 2 「ふざけんな!!」ガンツ!

D F 2 「……やめーや」スツ

M F 2 「なんで止め……!」

D F 2 「……」

M F 2 「……っ……」

あんじゅ「今のメンバーより強い子達なんているの?」クルクル

エレナ「……考えられないな」

監督「……それはこちらで判断する」

M F 1「いないのでしょうか？」

M F 3「いるわけないっすよね」

M F 3「今から新しい子を入部させようとしても規定で出場はできないっす」

M F 3「残りのメンバーでは音の木坂には勝てない」

M F 3「手詰まりっすよ、監督」

D F 1「自分のいうこと聞く駒が反抗的になつたらやめさせるとか……」

D F 1「バ〜〜〜ツカじゃないの？」

G K「……!!……!!……!!……!!」

あんじゆ（隣からものすごく細かい声が聞こえる……）

監督「貴様ら……」ガタツ

ツカツカツカ

スツ

ツバサ「……」

監督「……誰に向かってそんな口を聞いている？」

ツバサ「あなたですよ、監督」

監督「……いいだろう、貴様ら全員……」

「はい、ちよつとそこまで」

一同「……!?!」バツ

「ここからは私が仕切らせてもらおうよ」

ツバサ（いつの間に部屋に……）

あんじゅ（ドア……開かなかったんだけど……）

エレナ（……気配すらしなかった……）

（まるで……）

（突然現れたようだ……）

GKDF1「……」フルツ……

あんじゅMF2「……」スツ マエニタツ

GKDF1「……!」ギユツ スソツカミ

監督「貴様……誰の部屋に無断で入っていると思っっているんだ？」

「え? えーつと……」

「私？」

監督「俺の部屋だ!!」

「? だつてここ、UTX高校サッカー部の監督の部屋でしょ？」

監督「だから俺の……」

「私が監督になったから」

監督「……は?」

「みんなにも自己紹介しないとね」

コホン

「今日から監督になることになりました! よろしくね!」

一同「……」

「あれ……何か間違つた？」

監督「間違いだらけだ!!」

監督 「なん……なんだ？」

DF1 「ぶぶ、監督テンパってる……」

MF2 「やめとけバカ」

「ちゃんと理事長から許可ももらってるよ」ピラッ

監督 「なっ……！」

「自分がうまくチームをまとめられないからってこの子たちに当たるのはちよっとお門  
違いなんじゃないかなあ」

「このチームはまだまだ強くなる、あなたがいなければね」  
「さっさと出て行きなっ」

監督 「……!!」ダッ

ガンッ

監督 「つぐ……！」ヨロッ

ウィーン

タツタツタツ……



「……………さて、何か質問はある？」

ツバサ 「なにかから聞けばいいかわかりませんが……………」

ツバサ 「私はまだあなたを信用したわけじゃありません」

「……………それでもいいよ」

エレナ 「私たちはこのまま試合に出て良いんだな？」

「うん！決勝で音の木坂と戦ってもらわないと！」

あんじゅ 「随分具体的ですね？」クルクル

「それが私の目的だからね」

DF1 「はいはい！名前教えてください！」

「じゃあ……………おねーさんって呼んでね！」

MF1 「……………お名前は」

「おねーさんで」

DF2 「やから名前……………」

「おねーさんだよ」

MF3 「必死っすね……………」

お姉さん 「高校生の君たちが眩しいんだよ……………お姉さんでいさせてよ……………」

MF3 「なんか悲しい話になってきたっすね」

お姉さん 「ま、まあそれは良いとして……」コホン

お姉さん 「君たちに特別メニユーを授けるよ」

一同 「？」

お姉さん 「一回戦勝つたらね」

ズコー！

DF1 「今でいいじゃん！」

MF1 「もったいぶりますね……」

お姉さん 「さ、みんな！今日は帰った帰った！」

マーオオゴトニナラナクテヨカツタナー

ジユウブンナツテルトオモウケド

…… ソレモソウデスネ

お姉さん 「あなたは帰らなくていいの？」

ツバサ 「いえ……」 テクテク

ピタッ

ツバサ 「間違いでしたらすみませんが……」

ツバサ 「……どこかで会いましたか？」



海未「これほどとは……」  
0 | 3



花陽「はあ……はあ……」ハアハア

霧隠「……………」

霧隠「……………」ギリッ

戦国伊賀島0―3音の木坂

角間「残り時間わずか、ここまで危なげなく進めているぞ音の木坂あ!!」

初鳥「霧隠!」ドッ

霧隠「ああ…!!」トッ

花陽　　ザッ

霧隠「……………」ビクッ

霧隠（またこいつ……）

花陽【「ディフェンス方程式！」】

シュバツ！

霧隠「……くそ！」

霧隠「ツ……邪魔なんだよ!!」バツ

霧隠「伊賀島流忍法……」

霧隠【「さんぞう！」】ブウン

花陽「……はあ、はあ」ダツ！

霧隠「っ……!!よしっ！」タツタツタツ

霧隠「うぶっ……!?!」

ググググ……!ブワア!

霧隠「くそっ……!!」ドサツ

テンテンテン……

雪穂「ハンターズネット」トツ

角間「またもや止めたああ!!未だ一度もデイフェンスラインを突破されていない音の木坂!!一体何が起こっているんだあ!?!」

海未「やはり今……」

にこ「ええ、花陽が意図的に相手を抜かしてコースを限定させていた」

希「そこにあらかじめ罠を張った……と」

海未「花陽がいるだけでここまで守備のレベルが上がるんですね……」

ことり「かよちゃんすごい!」

雪穂「希さん!」ドツ

希「ほいほい!」トツ

石川「せめて追加点は……!」バツ

希「ふふ……」ニコニコ

石川「ツ……!……笑うなあ!!」

石川「しこふみ!!」ドオツ!!

グラグラグラ!!



希「……もっと強いもの知ってるからなあ……」  
グラグラ

DF2【スーパ―しこふみ！】

ドゴオオオオオオオオ  
!!!!

希「ごめんね」ダッ

石川「くそ……!!」

希「えりち！」

絵里「ええ！」タツタツタツ

高坂「いさせるか!!」パッ

高坂【かげぬい!!】

絵里「きやあ！」ドサッ

テンテンテン……

高坂「初鳥！」ドッ

初鳥「霧隠！」ドッ

霧隠「……ああ!!」トッ

角間「おおつと!!先ほどとは反対のサイドから展開するつもりだ!!」

亜里沙「はあ！」バッ

霧隠「ふん……！」クルッ

亜里沙（甘い……）ジャリッ

霧隠「っ……ちっ……！」ピタッ

霧隠（うざったい）ジロッ

花陽「……！」ハッ

花陽（あの目……さつきまでと違う……危険な感じ……）

霧隠 スウ……

花陽（あの動作……事故に見せかけての肘打ち……？）

亜里沙（いける！）バッ

花陽（亜里沙ちゃんは気づいてない……）

花陽「どうしよう……！」キョロキョロ

凜「……………にや？」キョトン

花陽（ツ……………もうやるしかない！）

花陽「凜ちゃん！」

凜「な、なに!？」

花陽「花陽を亜里沙ちゃんのところまで飛ばして！」

凜「え……………？い、今？」

花陽「今！」

凜「で、でも……………！」アタフタ

花陽「いくよ凜ちゃん！」バツ

凜「くくく！よく分からないけど分かったにや！」バツ

花陽「ほっ！」バツ

ググググ!!!

花陽（あ、待って、めちやめちや怖い）

花陽「り、凜ちゃん、そんなに全力じゃなくても……………」

凜「かよちんロケットオオオ!!!」グンツ!  
花陽「ダ……」

花陽「ダレカタスケテー!!!」ピューン!

霧隠（このまま自然に……）グワツ!  
「ダレカタスケテー!」

霧隠「……ん?」

花陽「亜里沙ちやあん!!」ガバツ

亜里沙「うわああ!!」ガシツ

ゴロゴロゴロ!!

霧隠「っ……………！」ブンッ

亜里沙「……………！」ゴロゴロ！

亜里沙（今の動き……………）

霧隠「……………！」ハッ

霧隠「俺……………今……………」

霧隠（何しようとしたんだ……………？）チラッ

亜里沙「……………」

霧隠「ッ……………」ダッ

角間「霧隠がついにデیفエンスを突破したあ！！」

霧隠「つちだるま！」ドキュッ

ゴロゴロゴロ！！バキイン！！

ゴオオオオオオオ！！！！

穂乃果 バッ

ゴオオオオオオ!!!

穂乃果【マジン・ザ・ハンド!】

グググッ……!

ドシユルルルル……!!

穂乃果「………?」

ピッピッピッ………

角間「ここで試合終了!!勝ったのは音の木坂だあ!!!  
ありがとうございますあ!!」

穂乃果「……………」グーパーグーパー

ヒデコ「一回戦突破おめでとー！」

穂乃果「…！う、うん！やったよ！」

絵里「疲れは残ってたけど思ってたより動けたわね」

凜「それよりなんでかよちゃんは亜里沙ちゃんに突っ込んで行ったの？」

ことり「すごく飛んでたね」

花陽「それは……………」その…」

亜里沙「……………」？」

亜里沙（どうして言わないんだろう……………」

海未「……………」まあ良いではありませんか、だれも怪我がなくて良かったです……………」ね？」パ

チツ

花陽「……………」う、うん！」

「……………」その……………」

花陽「あなた……!!」

凜「……どうして大きなたんこぶ二つもつけてるの？」

風魔「こいつがラブプレーしようとしてたからな」

初鳥「ほら、ちゃんと謝れ」グイッ

霧隠「……すまなかつ……」

ゴチンツ!!

霧隠「ツ……!!ほ、本当にすみませんでしたあ!!」土下座

ポロポロ

花陽「なんであんなことしたんですか？」

霧隠「つい……かっとなって……」

霧隠「止めてくれて助かった、ありがとう」ペコリ

にこ「そーよ、花陽に感謝しなさい」

絵里「大事にならなくて良かったわ」

海未「またサツカーしましょう」

花陽「みんな……気づいてたの？」

真姫「もちろん」クルクル

ことり穂乃果凜（気づかなかった……）

霧隠「次の試合……俺たちの分も頼んだ」



風魔「勝つてくれよ」

初鳥「よろしくたのむ」

ザッザッザッザッ

雪穂「う……!!」ググーツ……

穂乃果「疲れた？雪穂」

雪穂「おねーちゃんはほとんど動いてないから疲れてないのか……」ジトー

穂乃果「今日はみんながすごかったからね！」ドヤッ

雪穂「頼むよ？おねーちゃんは最後の砦なんだから」

穂乃果「うん！まかせて！」ドンッ

雪穂「はあ……帰ったらすぐ寝れそう……」

穂乃果「みんなー！雷雷軒いく？」

「……………」

穂乃果「あれ？どうしたの？」

絵里「穂乃果……私たちね……」

花陽「もう……限界です……」

雪穂「みんな疲れてるんだよ……」

監督「……今日は解散だな」

穂乃果「そっかあ……じゃあみんなの荷物持つよ！頑張ってくれたお礼に！」

海未「それじゃあお言葉に甘えて……」ドサツ

絵里「ええ……」ドサツ

にこ「落とすんじゃないわよ」ドサツ

ドサツドサツドサツドサツドサツ

穂乃果「お、多くない？」

ヒフミ「私たちもー！」ドサツドサツドサツ

穂乃果「むしろ手伝って欲しいんだけど!!」ゴーン

夕方鉄塔

穂乃果「ふーっ……重たかったなあ」ザッ

穂乃果「みんな本当に持たせるんだもん……」ムウ……

穂乃果「流石にヒデコ達は手伝ってくれたけど」フウ……

穂乃果「……さて、やりますか」

グッ

ブンッ！

フワァ

……ゴオオオオオオオ!!!

穂乃果「……っ！」グッ

ズザザザザ!!!

穂乃果「……!!」ピタッ

穂乃果（……いや、考えたくないけど違和感がずっと頭から拭えない……）

穂乃果（認めたくない、そう思いたくないけど……）

穂乃果「……まさか」

穂乃果「穂乃果そんなに強くなれてない？」

# 第4話「心残り？」

学校

凜希「はあああ!!!」バツ

凜希「たつまきおとし！」

ドゴオオオオオオオ!!!

ドシユルルルルルル………!!!

真姫「次はこつちよ！」グッ

凜「うん！」グッ

ダンッ！　　ダンッ！

グルグルグル

グルグルグル

ドキュツ!!

真姫凜「ファイアトルネードDD！」

ドゴオオオオオオオ!!

ドシユルルルルル………!!

凜「………はあく………」ドサツ

真姫「ちよつと凜、砂だらけになるわよ？」

海未「3人ともいい感じですね」

希「そうやろうそうやろう」ドヤツ

海未「すごくいい顔ですね、拳をめり込ませたくなります」

希「ひど………!?!」ゴーン

希「あ、真姫ちゃんウチのベットボトルとつて」

真姫「えーつと………これ？」

希「ありがとう」キュツキュツ

希「くく♪」ゴクッ

凜「そういえば海……………」

希「ー！ー！！」ブフウー！！

真姫「な、なにしているのよ希！！」

凜「にやああ……………」びっしより

希「うええ……………」なんでキャラメルの味するん？」ウルウル

真姫「はあ？自分のペットボトルなんだから自分が買ったんじや……………」

凜「……………」ポタポタ

海未「……………」凜

凜「い、いや……………」凜のせいじゃないよ！」キヨロキヨロ

真姫「……………」目泳ぎすぎよ

海未「りいりい……………」ゴゴゴゴ！

凜「はいい！！すみませんでしたあ！！」

希「一体どうやって……………」ってあれ？」

希「これウチのペットボトルじゃないやん」

真姫「希はいつもそれ飲んでなかった？」

希「ラベルは似てるんやけど少し違うかなあ……………」

凜「ま、間違つて飲んだら面白いなうって思つて……ね？」あはは……

希「わざわざ買つてきたんやねえ……」ユラア……

凜「の、希ちゃん！笑顔だよほら！にっこにっこにー！」

希「……………」

凜「……………」

希「にっしっしっしっし！」ニンマリ

凜「おおう………」

海未「あれほど邪にまみれた笑顔は初めて見ました」

真姫「休憩行つてるわね」スタスタ

海未「私も行きます」スタスタ

希「……………んお」ピタッ

凜「？」

希「……………まず顔洗つてきて」



凜 「?……そっか!」

凜 「今凜はキヤラメルまみれだから…」

凜 「ほっほくん!」 ピーン!

凜 「ふふふ」 ジリジリ

希 「り、凜ちゃん?」 タジツ……

凜 「ふっふっふっ」

希 「………」 ダラダラ

凜 「ワシワシMAXだにやー!!」 ガバツ

希 「いやああああ!!!」 ダダダダツ!!

にこ 「あいつらなにしてんの?」

花陽 「さ、さあ…」

穂乃果 「おでん缶うまし」 モグモグ

絵里 「もはや持参する域にまで達してしまったのね」

ことり 「キンキンに冷えてるんだって」

真姫「それ言いたいだけでしょ？」クルクル

穂乃果「キンキンに冷えてやがる!!」

海未「わかりましたから黙っててください」

凜「うゝ……まだベタベタが取れないにやゝ……」バシヤバシヤ

希「服は着替えるとして髪はな〜」バシヤバシヤ

凜「希ちゃんのせいだよ」

希「ワシワシ？」

凜「聞き間違えがヒドイ」

凜「んっ……!!」ブルブル!

希「冷たっ！」

凜「よし!これで大丈夫にや!」

希「じゃあウチらも休憩しに……」

「あ、もしかして星空さん？」

凜「ん？」クルッ

「あー！やっぱり！今ちよつといい？」

凜「あ………」チラッ

希「？」

「お、希ちゃんもいる！」

希「やほ〜」フリフリ

「いいかな？」

凜「は、はい、少しだけなら……」

「よかつたー！こつちきてー！こつちー！」

希「えーつと??」

凜「さ、先みんなのどこ行つてて！」タツタツタツ

希「ちよ、凜ちゃん!?!」

凜「すぐ戻るから！」タツタツタツ

「ちよつと後輩借りてくね!」

希「……もく……」

陸上部グラウンド

「みんなー!連れてきたよ!」

部員A「あー、その子がこの前言つてた凜ちゃんですか?部長」

部長「そう!」ドヤツ

部員B「なんでドヤ顔なんですか……?」

凜「えっと……部長? どうして凜……」

部長「ちよつとだけウチの部員のために力を貸してくれないかな」  
凜「??」

絵里「ちよつとー、休憩は10分よ?」

穂乃果「これだけポカポカ陽気だと……眠くなっちゃうね」スヤスヤ  
花陽「寝てる!」

ことり「おきてー!!」ツンツン  
にこ「あれ、凜は?」

海未「まだきていないのですか?」

真姫「どこ行ったのよまったく……」はあ……

希「……ウチが呼んでくる!」タツタツタツ

絵里「あ、ちよ……希!」

絵里「行っちゃった……」

海未「先ほどのことで喧嘩でもしたんでしょうか」

真姫「もしそうだとしたら世界一どうでもいい喧嘩の理由ランキング1位ね」

海未「では2位は……」

海未「この間、にこが真姫の肩をトントンして真姫が振り返ったところをほっぺをプ

ニつとされてしまったことで数日間のことほとんど口をきかなかったあれですかね」

真姫「あれはにこちゃんが悪いのよ」

にこ「あの後膝げりからのバックドロップ食らわしといてよく言うわ」

真姫「……知らない」プイッ

にこ「……ちよつと真姫」ポン

真姫「なに……」クルッ

プニッ

にこ「……」

真姫「……」

にこ「……」…フツ

真姫「せいっ!!」ドゴオ!!

にこ「おぐっ……!?!」ゴフツ…!

ガシツ!

真姫「はあああ!!」グワツ!

にこ「いやああ!!」ブワア……!

ボゴオオ……!!

真姫「……ふう」パンパン

にこ「に……ごお……」ピクピク

海未「今人体からしてはいけない音が鳴ったのですが……」ホゴオツテナリマシタヨ

真姫「さあね」

凜ママ「よーし、休憩終わり!行くぞー!」

「おー!!」

にこ「……お……お……お……」ガクガク

希「えーつと……確か凜ちゃんはこちらの方に……」

ザワザワ

希「?……何か騒がしい?」

「ねえあの子すごく速いね」

「陸上部にあんな子いたっけ?」

「可愛いしねえ〜!」

「わかる〜!」

希「……まさか」タツタツタツ

凜「ツ……ゴ……ル……!」ダダッ!

部長「ぬわー!負けた!」タツタツタツ



部員A B 「おおー……やっぱマジ速い」ダダダッ

凜 「はあ……はあ……」

部長 「すごいね……記録だけなら全国トップレベルだよ」

凜 「そ、そうですか？」 はあ……はあ……

部員A 「もつたいないねー」

部員B 「サッカー部次二回戦だっけ？」

凜 「はい！みんなで頑張ってます！」

部長 「陸上部来てくれると思ってたのにな」チラッ

凜 「ご、ごめんなさい！」

部員A 「ちよつと、それはダメですよ」

部長 「わかつてるよー」ムウ……！

部長 「でもサッカーが嫌になったらいつでも……」

「ウチの部員引き抜こうとするのやめてや〜」ザツザツ  
凜「希ちゃん！」

部長「やだなあ〜、冗談だよ、冗談！」

希「ほんまに〜？」ジト〜：

部長「ほんとだよ！この目に誓って！」キラキラ

希「……」

希「……」チラッ

部員A B「……」キラキラ

希「……はあー、まあいいや、行こっか」スタスタ

凜「う、うん！」タツタツ

部長「私たちはいつでも待ってるからねー！」

部員A B「いつでも大歓迎」グッ

希「やっぱり本気やん!!」

希「凜ちゃんモテモテやったね〜」スタスタ

凜「部活の体験入部の時に少し話すようになって……」スタスタ

凜「あんな風に走ったのははじめてだったけど」

希「……後悔してる？」

凜「そ、そんなこと……！」

希「……そっか」

凜「……」

凜「……ごめんね、練習抜けだしちゃって」

希「……いや、うん……」

希「……」

凜「……」

希「……凜ちゃん」

凜「なに？のぞ……わぷっ！」ギユウ！

希「凜ちゃんはウチの大事な後輩やからね」ギユウツ……！

希「凜ちゃんがいなくなると寂しいんよ」ギユウツ……

凜「希ちゃん……」

希「ワシワシもできなくなるし」

凜「台無しだにや!!」ゴーン

希「さ、戻ろつか!みんなも待ってるし」

凜「うん!」

希「よし、みんなの所まで競争!負けたらジュース奢り!」ダッ!

凜「いきなりはズるいにやー!」ダッ!

希「につししし!」タッタッタッ

凜「……」タッタッタッ

—————

希「凜ちゃんはおウチの大事な後輩やからね」ギユウツ……!

希「凜ちゃんがいなくなると寂しいんよ」ギユウツ……

凜「希ちゃん……」チラッ

凜「!」

希「……」

凜「……………ふふ」ニヘラア　ダツ！  
希「勝負する相手間違えた……………!!」ゴーン

## 「立ち込める暗雲」

希「凜ちゃん連れてきたら〜!」タツタツタツ

凜「遅れてごめんなさい!!」はあ…はあ…

絵里「もう、どこ行つてたの?」

海未「少し休憩したら入つてください」

凜「うん!…?」ジ…

にこ「……なによ」

凜「どーしてそんなにボロボロなのかにや?」

にこ「そんなのあそこの赤巻き髪に聞きなさいよ」クイツ

真姫「だ、誰が赤巻き髪よ!!」

凜「?」

海未「気にしないでください、2位の喧嘩です」

凜「??」

花陽ママ「やつと来たわね〜凜ちゃん」

凜「かよちゃんママ!」

花陽ママ「ちよつとあつちに来てほしいのよ〜」ウフフ

凜「なんだろう?」

花陽ママ「それは後のお楽しみ〜」

花陽ママ「あ、にこちゃんもね」

にこ「わ、私もですか?」

真姫「にこちゃん何したの?」

にこ「なんでにこが呼ばれたら悪いことしたみたいにいうのよ!」

海未「私も行きますね」スツ

花陽ママ「そうしてくれると助かるわ」

真姫「海未まで加わるなんて……」

にこ「にこやつぱり何かしてたのかも……」

にこ「真姫……」

にこ「今までありがとう……!!」およよ……!

真姫「にこちゃん、あなたのことは忘れないわ……!」

にこ「真姫……!」

真姫「にこちゃん……！」

にこ真姫　　ガシツ

海未「もういいですか？」

にこ真姫「あ、はい」

凜「凜たち……怒られるのかなあ……」トボトボ

にこ「今日のお昼ご飯野菜炒めだったのよ……」トボトボ

にこ「最後の晚餐にはあんまりじゃない？」

海未「あなたたちはどうしてそう悪い想像しか浮かばないのですか……？」

凜にこ「だつて……ねえ？」

海未「日頃からやましい事をしてるからそういう発想になるんですよ」

凜「やましい事なんて……つてあれ？」

凜「あれかよちんだよね？……おーい！」



花陽 クルッ

花陽 「……………！」 パアア！

花陽 「凜ちやあん！」 ブンブン

凜 「かよちん！」 タツタツタツ

花陽 「も〜！どこ行つてたの？」

凜 「ち、ちよつとね……………」 アハハ：

花陽 「あ、にこちやんも」

にこ 「なんでそんな温度差あんのよ」

凜 「ところでかよちんも何かしたのかにや？」

花陽 「えええ!？」

にこ 「違うの？」

花陽 「違うよお!!」

花陽 「聞いてないの？」

花陽ママ 「ふふ、秘密にした方が面白いかと思って」 ウフフ

海未 「説明をお願いします」

花陽ママ 「今回はね、必殺技についてみんなに集まってもらったのよ」

凜にこ 「必殺技あ!？」

凜「じゃあ海未ちゃんも？」

海未「私はあなたたちが遊ばないよう見張っておく係です」  
にこ「なるほど、信用は微塵もないと」

凜「失礼しちゃうにや〜」

花陽「うう〜……そんなに悪いことしたかなあ……」

海未「いえ、花陽は信用していますよ」ニコツ

花陽「ほんと……!?良かったああ」

にこ「……………」

凜「……………」

海未「……………」

花陽ママ「それじゃあ説明を……………」

にこ凜「凜（にこ）は!？」

海未「二人は先ほど自分で言っていたではありませんか」  
にこ「……………面白いじゃない」

凜「完璧にやりきってぎゃふんと言わせるにやあ!!」

花陽ママ「それじゃあ説明するわね〜」

花陽ママ（この子たちは見えて飽きないわね〜）ウフフ

説明終了

「ここに凜花陽「いやいやいやいや無理無理無理無理」

海未「やると言っただけではありませんか」

「ここに「そ、そうだけど……」

花陽「流石にこれは……」

凜「限度があるにや！」

海未「次の敵の情報はこの間伝えただけでしょう？」

凜「……えーつと……？」

「ここに「もちろん分かかってるわよ」

にこ「圧倒的な守備力を誇る無敵のチーム」

花陽「これまでの試合では全試合無失点」

にこ「地方のチームと違って侮るなかれ」

花陽「田舎ならではのチームワークとディフェンス力でここまで勝ち上がって来た……」

花陽にこ「千羽山高校!!」

凜「おー」パチパチ

海未「久しぶりに見ましたねそれ」

花陽ママ「その圧倒的な守備力を破ろうと無我夢中で攻撃し、守備が手薄になったところを狙う」

花陽ママ「今までどれだけのチームがそれにやられてきたか……」ヤレヤレ

海未「つまり、こちらでも確固たる守備力を身につけなければなりません」

海未「FWが心置きなく攻められるように」

凜「でも次の試合明日だし……」

にこ「非現実的って言うか……」

花陽「た、たしかに……」

海未「何言ってるんですか!!」

凜にこ花陽「……!!」ビクッ

海未「人間死ぬ気になればなんでもできるんです!!」

海未「チームのためなら一夜で城でも建てられるはずですよ!」

凜にこ花陽「ひいひい……」

花陽ママ「花陽ちゃんをやつと自分の役割を理解し始めたのはいいんだけど……」

花陽ママ「これからのことを考えるとこつちも圧倒的な守備力が欲しいなと思ってね  
〜?」

花陽「圧倒的……」

海未「そのためには3人が一番相性がいいと思ったので」

凜にこ花陽「……」

にこ「……二人とも」

凜花陽「……うん」コクリ

にこ「絶対成功させて海未にぎやふんって言わせるわよ!!」

凜「おおー!!!」

花陽「おおー……ぎやふん!?」

海未「ふふ、楽しみです」

にこ「見てなさい!」

海未（にこはなんだかんで決して手は抜かず、リーダーシップも十分……）

凜「でも明日の試合に響きそうだにや〜……」

にこ「まったく、だらしないわね〜」

凜「にこちゃん最近疲れたまりやすくなってるんじゃない?」

にこ「そうそう、一回寝たぐらいじゃ疲れが……つて、誰がおばあちゃんよ!!」

花陽「ふふふ」

海未（凜は文句を言ったりはしますが練習では誰よりも真面目でムードメーカー的存在）

在

花陽「練習終わりにラーメン行こっか!」

凜「行く!」

にこ「ほんと単純ねあんたは……」

海未（花陽は二人の中和的存在、そしてあの朗らかな雰囲気）

海未（日頃からの行動を見て……）

海未（あなたたちを疑ったことなんて一度もありませんよ）

海未「チームにこりんばな、始動です！」

にこりんばな「おー！」

海未（きつとこれからも）

凜「そうだ、凜ね、ものマネ覚えたの」

にこ「へー、どんなの？」

凜「いくよ？」 スツ

花陽「ワクワク」

海未（また凜はおかしなことを……） フフ





穂乃果 「ん？メール？」

穂乃果 「誰からだろ……」 トトツ

穂乃果 「知らないアドレスから……？」 トツ

メンバーには言わぬこと

穂乃果 「……メンバーに……？」

穂乃果 「動画がついてる、再生……と」 ピツ

穂乃果 「……」

穂乃果 「……！！」

グラウンド

海未「おや？穂乃果はどこへ行ったのですか？」

絵里「用事があるって先に帰っちゃったわよ？」

ことり「すごく慌ててたけど……どうしたのかな？」

海未「大方、ご自宅のお手伝いを忘れていたとかでしょう」ヤレヤレ

海未「さあ！練習ですよ！」

みんな「おー！」

練習終わり帰宅後

凜宅

凜「だだいまー！」ガチャッ

凜「なんとか形になってよかったにや〜」

凜「お風呂はいっっちゃおーつと！」スタスタ

ピキッ……！

凜「痛つ……!?」グラッ                   ガシッ

凜「あ、危なかつたああ……」

凜「今日ちよつとハードだったからかにや?」

凜ママ「おーい！ご飯できてるぞー！」

凜「ああ!!お風呂行こうと思つてたのに！」

穂乃果宅

雪穂「あれ?おねーちゃんまだ帰つてないの?」

穂乃果ママ「そーういえば遅いわねえ、もう練習終わつてるはずなんだけど……」

雪穂 「どうせ買い食いでもしてるんでしょ」

雪穂 「そのうち帰ってくるよ」

穂乃果ママ 「それもそうね」

穂乃果ママ 「手洗ってきなさい、先にご飯食べちゃいませよ」

雪穂 「はーい！」

鉄塔広場

ゴオオオオ!!!

ドゴオツ!!

ズザザザザ!!!

「……………」

「もう……………いっかい……………」

ブンッ!

フワッ

ゴオオオ!!

ドゴオツ!!

「うわああああ!!!」ゴロツゴロゴロ……!!

「うぐつ……!」ドサツ

ブラン……ブラン……

「……ゼツ……ゼツ……」ハア……ハア

「も………いつ……」ググツ

ドサツ

グウウウ……

「……お腹……空いたなあ」

ゴロン

「……ハア……ハア……」

「………」

――――

穂乃果「動画がついてる、再生……と」ピッ  
穂乃果「……………」

ケータイ『UTX高校第2回戦、試合開始です！』

穂乃果（これ…………！UTXの試合映像？）

穂乃果（誰が送ってくれたのかわからないけど感謝しなきゃ！）

ケータイ『FWの綺羅がボールを受け取った!!』

穂乃果（うわぁ……やっぱり迫力あるなあ…………）

穂乃果（ここからどう組み立てて…………）

ダッ！クルッ トトツ ズザザッ!!

ドシユルルルル!!!

穂乃果「……………へ？」

ケータイ『……………ゴ、ゴール!!』

ケータイ『目にも留まらぬ電光石火!! 開始数分で先制点を決めてしまいましたあ!!』

穂乃果「……………うそ」

ケータイ『さあ仕切り直して行きたいところです』

ケータイ『ピ—————!!』

シュバツ ドゴオ!! ズザツ ドシユルルル!!

ドオオ!! ズズツ! ドゴオオ!! クルツ

ドシユルル!!!!

ズザツ ドシユルルル!!

ドシユルルル!!!

ドシユルルル!!!

穂乃果「—————」

—————

穂乃果「……………つ」グツ

穂乃果（……………キーパーの穂乃果がすっかりしないと）

## 第5話 「V S 千羽山戦」

千羽山高校

海未「もうそろそろですね」

花陽「うう…緊張してきました…」

ことり「ガツチガチだね…」

花陽「だつてえ…」

希「この試合も期待してるよ、花陽ちゃん！」ポント

花陽「ピヤアア!!」ビクウツ!!

花陽 ガクツ

絵里「とどめさしてどうするのよ」

にこ「大丈夫よ、昨日の特訓の成果見せてやるんだから!」

にこ「ね、花陽、凜!」

花陽「そ、そうだね!」



凜「やるにやー！」

海未「ふふ、楽しみにしていますよ」

にこ「見てなさい！ぎやふんって言わせてやるんだから！」

海未（メンバーのやる気は十分……でも）

海未（一人、明らかに静かなんですよね……）

穂乃果「……」スウ……ハア……

海未（緊張しているのでしょうか……穂乃果が？）

海未（いえありえませんが、幼い頃から緊張とは無縁でしたから……）

海未（では一体……？）

穂乃果（……昨日の映像はショックだったけど……お陰でスッキリした）

穂乃果（このチームで一番出遅れてるのは穂乃果……）

穂乃果（決勝は多分UTXが来る……）

穂乃果（それまでもっとレベルを上げないといけない……のに）

穂乃果（ヒントすらつかめてない……）

穂乃果（あるのは……）

穂乃果ママ「足りない最後のピース……」

穂乃果（わかるかああ!!）ガシガシ

穂乃果（とりあえず、この試合は絶対失点しないようにしないと）

穂乃果（穂乃果一人で）パンパン！

海未「……穂乃果？」

穂乃果「なに？海未ちゃん」

海未「いえ、考え事をしていたようなので……もう直ぐ始まりますよ、お手洗いは行かなくて大丈夫ですか？」

穂乃果「うん、大丈夫！」ニパッ

凜「あ、凜ちよつと……」スタスタ

海未「直ぐですよ！凜！」

凜「わかつてるにやー！」タッタッタツ

花陽「……？凜ちゃん」

凜「にや？」クルツ

花陽「あ………えと………」

花陽「……大丈夫？」

凜「……」

凜「……うん」

海未「……？」

角間「やってまいりましたフットボールフロンティア本選第二回戦!!」

角間「音の木坂 v s 千羽山、優れた攻撃力を誇る音の木坂は鉄壁ディフェンスを破る

ことができるのでしょうか!!」

F  
W

絵里、真姫

M  
F

海未、にこ、希、ことり

D  
F

亜里沙、雪穂、凜、花陽

G  
K

穂乃果

ピーーーーー

ドッ

角間「今、キックオフです!!」

真姫（鉄壁守備……お手並み拝見ね）

真姫「ことり！」 ドツ

ことり「ほっ！」 トツ

炭野「いかせないっぺ！」

ことり「ふっふっふ、前の試合ではいいところなかったから」グツ

ことり「少しは活躍させてね！」 ダツ！

炭野「ぬわあ!？」

角間「抜いたあ!! 力強いドリブルだあ!!」

ことり「絵里ちゃん！」 ドツ

絵里「ええ！」 トツ

角間「開始数分、早くもゴールに迫る!!」

タツタツタツ

真姫「絵里！」

絵里「まかせて！」

絵里（小細工なんていらぬ！）

絵里「吹き荒れろ………」パキパキパキ

絵里「エターナルブリザード！」

ドゴオオオオオオオ!!

真姫「はあ！」ダンッ！

グルグルグル

角間「西木野が入って来ている！シユートチエインだあ!!」

穂乃果「いっけー真姫ちゃん！」

ドキュツ!!!

真姫【フアイアトルネード!】

ゴオオオオオオオ!!!

綾野「……………」

綾野「いくずらあ!!」

牧谷塩谷　　ザツ

綾野牧谷塩谷【無限の壁!】

ドシユルルルル!!!

テンテンテン……





海未「次は私です」ジャリッ

海未「……………」フツ  
トンッ

ズバアッ!!  
海未【菊一文字!!】  
ゴオオオオオオ  
!!!!

綾野「無限の壁！」

シュルルルルルル………!!!

テンテンテン………

海未「つく………！」

綾野「羊の鼻くそズラ」

穂乃果「次行けるよ！海未ちゃん！」

海未「もちろんです！」

綾野 ドツ！

山根「ほっ」トツ

真姫「させない！」ザツ

山根 ドツ

育井 ドツ

炭野トツ

角間「千羽山素早いパス回しです！」

にこ「掛け声なしで………」

希「なんて息のあったチームワーク……！」

炭野「今度はおいの番だ！」

炭野 「いくつぺ！」ドツ

育井 「ああ！」トツ

海未 「通しません」ザツ

育井 「都会っ子には負けねえっぺ！」バツ

育井 「モ「ン」」グラフィイント！」ボグツ

海未 「つな……!?!」

ボコボコボコ

ポンツ!

育井 「やっぱりたいしたごどねえな！」トツ

海未 「つこの……!」

育井「原野！」ドツ

原野「んだ！」トツ

花陽「行かせません！」ザツ

原野「はああ!!」

トツ　　ダダダダダダダツ!!!

原野【ラン・ボール・ラン!】

ダダダダツ!!!

花陽（この勢い……私じや止めれない……!!）ススツ

穂乃果（……ポジショニングをずらした?）

花陽「うわあ！」ドサツ

原野「オラのとこの牛より遅いつぺ!!」

角間「立て続けに千羽山の必殺技が炸裂!!音の木坂止められない!!」

穂乃果「くるっ……!!」

穂乃果（絶対に点は入れさせない…!!）グッ

原野「よし…このまま……!!?」

ドツ…!!

ビキビキビキ

カキーン!

亜里沙【アイスグランド】

シャー……!!

亜里沙「ハラショー!」トツ

原野「……なかなかやるっぺ」

花陽「ふふ……」ンベツ

海未（やはり安定感が違いますね）フフ

角間「止めたああ!!音の木坂の危機を助つ人絢瀬が凌ぎましたああ!!」

穂乃果「ありがとー!花陽ちゃん、亜里沙ちゃん!」

雪穂「いい感じだよ!」

亜里沙「えへへ」

亜里沙「凜さん!」ドツ

凜「うん!」トツ

凜「っ……」ポロツ

希「凜ちゃん!」

凜「だ、大丈夫!」トツ

凜「にこちゃん!」ドツ

にこ「ええ!」トツ

山根「……」ザッ

にこ「ちよつとあんた、レディに道を開けなさいよ」

芹沢山根育井　　ザッ

にこ「ちよ、ちよつと……」

「かごめ、かごめ、かーごめかごめ」グルグル

角間「こ、これは……千羽山の必殺技、【かごめかごめ】だあ!!」  
にこ（これ……まずい…）

「かーごめかごめ」グルグル

にこ「のぞ……」

「「たあー!!!!」」バツ

ドゴオオオオオオオ!!

にこ「きやあああ!!!」

ズザザザザ!!

山根 トツ

角間「矢澤からボールを奪ったあ!!」

雪穂「そんな……!」

亜里沙「にこさんがあんなに簡単に……」

海未「!」

海未「みなさん!すぐに立て直して……」

原田「オラのとこのリクガメより遅いつぺ!」

田主丸「いくつぺ!」トツ

花陽「しまった……!」

田主丸「はあああ!」コオオオ!

田主丸【シャインドライブ!】

パアアアアア!!!!

穂乃果「つく……!」



穂乃果（眩しすぎて……目が開けられない……!!）

凜「カバーに……!!」グッ

凜「っ……」

穂乃果（見えない……）メツムリ

穂乃果「でも!!」グッ

ゴオオオオオオ!!!

穂乃果「絶対……決めさせない!!」バツ!

にこ「目を閉じたまま……!!」

穂乃果【マジン・ザ・ハンド!】

ゴオオオオオオ!!!

ことり「お願い……!!」

海未「当たってください！」

穂乃果「はあああ!!」

「~~~~~!!」

ドシユルルルルル……………!

テンテンテン……………

穂乃果「……………」

角間「きまつたあ!!先取点は千羽山だあ!!」

穂乃果「……………ッ……………」ギリッ

ガンッ!

亜里沙「……………」ビクッ

穂乃果（いれられるような威力じゃなかった…………）

穂乃果（点を取られないようにって決めたばかりなのに…………）

穂乃果（なんで…………穂乃果は…………）

……………

海未「はあああ!!」ガッ

角間「止めたあ! 園田も先ほどの優木のように戻っていましたあ!!」

雪穂「試合の時ぐらいかっこいいところ見せてよ」ガシッ

ゴオオオオオ!!!

……………

穂乃果「一人じゃまともに止められない…………」ギユッ

雪穂「お姉ちゃん…………?」

穂乃果「努力してるのに……………」クシヤッ……………」

海未「…………穂乃果」

海未（こんな穂乃果、久しぶりに見ますね……………」

ことり「や、やれることはできてたと思うよ？」

花陽「そうだよ！あれは仕方が……………」

穂乃果「仕方がないじや意味ないんだよ……………」ジロツ

花陽「ヒツ……………」ビクツ

凜「ちよつと穂乃果ちゃん……………」ガシツ

穂乃果「…………っ！うるさい！」バツ

凜「いつ……………」グラツ

ドサツ

海未絵里「穂乃果!!」バツ

穂乃果「……………」ハツ

穂乃果「ご、ごめん凜ちゃん……………」スツ

凜「やつ…………うん」ニコツ

グイツ

凜「よつと……………」

にこ「なに急に熱くなってるのかは知らないけど、一回頭冷やしなさい」ピンツ!

穂乃果「あてっ……!」ビシッ

希「はい穂乃果ちゃん、吸って〜」

穂乃果「へ?……すう……すう……!」

希「吐いて〜〜」

穂乃果「はぁ……!」

希「……落ち着いた?」

穂乃果「うん……ごめん、ね?」

凜「凜はだいじょうぶにやー!!」

にこ「あんまり大きな声を出すとバカっぽさが目立つわよ」

凜「だからにこちゃん今日は静かなの?」

にこ「ぬぁんですってえ!」クワッ

凜「大きな声を出さない方がいいよにこちゃん」ニヤニヤ

にこ「だぁぁぁ!!腹立つこいつ!」

ことり「ふふ」クスッ

海未「穂乃果」

穂乃果「ん?」

海未「私であれば悩みの一つや二つ、聞かせてもらいますよ」

穂乃果「……！」

穂乃果「うん、ありがと」ニコッ

海未「ですからこの試合は集中してください」

海未「あなたの力が必要なんですから」

穂乃果「……そうだね」

穂乃果「ごめんみんな！取り返すよ！」

「おー！！！」

海未「……」フーツ……

穂乃果「……」

穂乃果（……そうだ）

穂乃果（私がチームのみんなを不安にさせちゃダメだ）

穂乃果（……がんばれ、リーダー）パンツ！

雪穂（……お姉ちゃん）

――

穂乃果「一人じゃ満足に止めれない……」グッ

――

雪穂（お姉ちゃんは嫌だったのかな……）

雪穂（「ホムラ・ザ・バンド」……）

雪穂「私は嬉しかったんだけどな……」ボソッ

千羽山1―0音の木坂

ピ――

角間「1点ビハインド音の木坂！ここから巻き返しが……」

田主丸「はあ!!」ガッ

真姫「きやあ!?!」ドサッ

角間「千羽山奪い取ったあ!!激しいプレーでしたが笛はなっていないせん!!」

にこ「ちよつと！今のファールでしょ!？」

原野「都会っ子は細かいっペ」ヤレヤレ

にこ「っ…こいつ…!？」

花陽「雪穂ちゃん!!」

雪穂「あっ…!？」

角間「音の木坂高坂雪穂、反応が遅れ侵入を許してしまったあ!!」

穂乃果（また、あれが来る…!）グツ

田主丸「はああ!!」コオオオ!

田主丸【シャイン…!】

花陽「させない！」ガッ!



田主丸「なに……!?!」

角間「音の木坂小泉、何というフアインプレー!!」

角間「シュートを打つ前にボールを取り返しましたあ!!」

花陽「はあ……はあ……」

花陽（ギリギリ……）

花陽「雪穂ちゃん！」ドツ

雪穂「……！」トツ

育井 ザッ

雪穂「いける……！」グツ

穂乃果「一人じゃ満足に止めれない……！」

雪穂「う……」タジッ

雪穂（あく！もうなんでお姉ちゃんが出てくるのさ!?!）

育井「はあ！」バツ

雪穂「うぐっ……！」ズザザッ！

花陽（なんで……動きが悪い……?）

雪穂「……………」ザッ ガガッ

雪穂（取ら……………れるっ……………!?）ザザッ

育井「甘いっぺ！」バッ

雪穂「んっ……………」ザッ!

雪穂（誰か……………」キョロッ……………」

凜「っ……………」

炭野 ザッ

花陽「……………」

田主丸 ザッ

亜里沙「む……………」プクー

原野「ふんっ……………」ザッ

海未「……………まずいですね」

にこ「もう一点とる気満々じゃない……………」

にこ「雪穂!一度穂乃果に……………」

雪穂「うわったあ!」グラッ

雪穂「ととっ……………」ズザザ!

角間「どうしたどうしたあ!?!パスが出せないのかあ!?!」

雪穂（本当に……まずいつ……!!）

花陽（どうしよう……どうする……？）

「……………」スウ……………」

穂乃果「雪穂ー!!」

雪穂「!?」ビクッ

花陽ことり「び、びっくりしたあ……」

穂乃果「ごめん雪穂！」

穂乃果「雪穂の大事にとってたアイス食べちゃった!!」

雪穂「はあ!?!」バッ

ズザザッ

角間「苦戦していた高坂雪穂、少し距離をとりました！」

雪穂「なにしてくれてんの!? あれ期間限定で最期の一つだったのに!!」

穂乃果「いやーお腹空いてたから……」

雪穂「絶対許さない……! ハーゲンダッツ3個だからね!!」

穂乃果「……ふふ」

雪穂「なんで笑ってんの!?!」

穂乃果「……それでいいんだよ」

雪穂「?」

穂乃果「いつも通りの雪穂なら……」

穂乃果「なんてことないでしょ?」

雪穂「!」

花陽「穂乃果ちゃん……」

にこ「あいつ……」

にこ「アイスの罪は大きいわよ……」

花陽「そこ!?!」

育井「よくわかんねえごと言つでねえでボールよごせ！」バツ

雪穂「……」トントン

雪穂（そうだよね、お姉ちゃんはキーパーなんだもん）

雪穂（自分の力で止めたいと思うのは当たり前）

雪穂「てやあ！」クルッ

育井「んなつ……！」ガクッ

雪穂（私とサッカーしたくないって言ってるわけじゃない！）

花陽（動きが戻った……！）

穂乃果「いいぞー！雪穂ー！」

雪穂（ここで負けてお姉ちゃんとサッカーできなくなる方が嫌だ！）

雪穂「凜さ……」

希「ちようだい！」

雪穂「つ……と……！」ピタッ

雪穂「希さん！」ドッ

希「よし！」トッ

「かごめ、かごめ、かーごめかごめ」

にこ「まずい……!」

角間「またしても千羽山の『かごめかごめ』だあ!!」

希「……ふむふむ」

希（対処法はある……でもタイミングが分からん……）

「かーごめかごめ」

希（このままやられるくらいなら……）

希「一か八か!」グッ

「2コマ5秒ストップ!!」

希「んん……!?!」ピタッ

「かーごめかごめ……」

希（……………1……………2……………）グッ

「今！」

希「……………」バツ

「二てやあー!!」バツ

ドゴオオオオオオオオ!!

希「うわああああ!!」ドサッ

ズザザザザザ!!

角間「捕まってしまったあ!!ボールは千羽山へと……………」

角間「こ、これは……………」

角間「ボールはどこへ……………」

山根「……………え、ボールは？」

海未「！」ダッ

ダッ

ダッ!

海未「ナイスパスです！」 トッ

ことり「いつのまに……！」

希（あのアドバイスのおかげやね……）

希（ありがとう花陽ちゃん） ブイッ！

花陽「！」 ブイッ！

原野「いくら前線までパスを繋げても、ゴールは割れないっぺ！」

海未「やってみなければ分かりませんよ」

絵里「あなたならいけるわ！海未！」

海未「……」 コクリ

フッ

トンッ………

ズバアッ!!

海未【菊一文字！】

ドゴオオオオオオオオ!!!



角間 「再び必殺シュートが千羽山ゴールを襲います！」

綾野 「無駄ズラ」

牧谷塩谷 ザッ

綾野牧谷塩谷 「無限の壁！」

ドシユルルルル!!!

角間 「しかあし!!音の木坂に巨大な壁が立ちふさがります!!」

角間 「これを打ち砕く方法は……」

グルグルグル

綾野「……………ずら!？」

真姫「はあああああ!!」ドキユツ!

【ファイアトルネード】

ギリギリギリ……………!!

角間「なんと西木野、ゼロ距離でのシユートチエインだあ!!」

角間「これはいけるかあ!？」

真姫「ふふ、驚いたかしら?」グググググッ

真姫「これなら……………!」グググググッ!

花陽「UTXを打ち崩したこの方法なら……………!」

にこ「やっちゃいなさい!真姫!」

綾野「……………!」

真姫「はああ!!」グググググッ

綾野「……………フンッ」

真姫「……………！」

綾野「豚の糞スラ」

バチイッ!!

ブワアッ!

真姫「きやあ!!」ドサツ

ゴロゴロゴロ!

絵里「真姫!」ダッ

ヒュー……………

テンテンテン……………

綾野「つち、弾いた……………」

花陽「海未ちゃんど真姫ちゃんでもダメだなんて……………」

花陽「あと残ってるのは……………」

花陽（……………でも）チラッ

にこ「凜、準備しときなさい」

凜「はあ……はあ……」

にこ「……凜？」

凜「え……!? あ、う、うん！」

にこ「……何よ、ノリ悪いわね」

凜「えへへ……」

ピッ、ピーーーーーー

角間「ここで前半終了のホイッスル！ 攻撃力が自慢の音の木坂も鉄壁守備に手も足も出ない!!」

角間「後半はどのような対抗策を講じてくるのでしようかあ!!」

トイレ

はあ……はあ……

バシヤバシヤッ

バシヤバシヤツ

フーツ……

キュツ……

ポタツ……ポタツ……

「……」ズキッ

「わがまま言ってもいい？」

控え室

海未「後半、凜と真姫で速攻をかけたと思います」

絵里「頼んだわよ、二人とも」

真姫「任せなさい」クルクル

凜　ゴクゴク

凜「がんばるにやー！」プハア

にこ「勝てるかどうかはあんたらにかかっているんだからね」

希「緊張してるならワシワシするよ〜？」ワシワシ

真姫「ヴェエエ!? 背後に立たないで！」

凜「にこちゃんしてもらったら？」

にこ「嫌に決まってるでしょ!!」

穂乃果 「ん、そろそろ時間だね、みんな行こー！」

「おー!!」

ゾロゾロ

ことり 「あれ、凜ちゃんどうしたの？」

凜 「靴紐ほどけちやって……先行ってて！」

ことり 「待ってるよ？」

凜 「だ、大丈夫、すぐ行くから！」

ことり 「そう？」

凜 「うん！」

希 「ゆっくりでいいからね」

凜 「はーい！」

ゾロゾロ

パタン

シユルルツ

グイッ

スツスツ

ペタツ

クイクイツ

トントン……

「……………よし」

(あとはまた靴下をあげて隠せば…………)

ガチャツ

凜「!?」ギクツ

凜「……………」

凜「かよちん……………」





凜【アクロバット……】グッ

凜「……!?!」グラッ

花陽「……」

—————

花陽「ウソつき」

凜「……」

花陽「本当にいいの？みんなに言わなくて」

凜「でも……!」

花陽「足の怪我はこじらせると大変だよ？」

花陽「今はまだプレイできててもこのまま続けると悪化以外ありえない……」

花陽「凜ちゃんが言わないなら私が……」

ガシッ!

花陽「!」

凜「それは……ダメ」

花陽「でも……」

凜「凜の仕事は……まだ残ってる」

凜「みんなと決勝に行きたい」

花陽「ならこの試合は休んで……」

凜「休んで!!」

花陽「っ……!!」ビクッ

凜「もし負けちゃったら……」

凜「……」

凜「一生後悔する」

花陽「……」

凜「凜が動けるうちはフィールドに立って、みんなと戦いたい」

花陽「……凜ちゃん……」

凜「ねえかよちゃん」

花陽「……なに？」

凜「わがままいっても……いい？」

花陽「……!!」

花陽（それは……ズルイよ）

—————

原野（バランスを崩した？）

原野（とにかくチャンス……！！）バツ！

凜「………に………」グツ

凜「にああ!!」クルッ

原野「つく………」ガクッ

角間「抜いたあ！必殺技と見せかけて華麗なスピンド抜きました！」

花陽「凜ちゃん………」

凜「よし！」

にこ「へえ、やるじゃない」

凜「真姫ちゃん！」ドッ

ポーン

真姫（！少し流れてる…）

育井「いただき！」トッ

凜「ご、ごめん！」

海未「謝る暇があるなら上がりなさい！」ザッ

育井「まくたお前か、都会っ子はしつこいっぺ」バツ

育井「モグラフィエント！」ボグッ

ボコボコボコ

海未「この技の対処法は……」

育井 タッタッタッ

ポンッ！

海未「あなたの動きについて行くことです！」シユバッ！

育井「なっ……!?!」

海未「真姫！」ドッ！

真姫「行くわよ、凜！」トッ

凜「うん！」

真姫凜　グツ

ダンッ！　　ダンッ！

グルグルグル　　グルグルグル

真姫凜　　バツ！

ドキュツツツ

真姫凜【ファイアトルネードDD!!】

ゴオオオオオオ!!!

角間「出ましたああ!! 予選決勝で勝ち越しを決めた【ファイアトルネードDD】!!」  
 角間「これを千羽山、止めることができるのかあ!?!」

ゴオオオオオオオオ

牧谷塩谷 ザッ!!!!

【無限の壁ー】

ドギユルルルルルル!!!

ビキビキ……………

綾野「……………!!」

真姫「いけ!!」

絵里「決まっつて!」

バリン!!

綾野「ズラッ!」ドサッ

ドシユルルルルル……………!!!

真姫「よし……！」スタツ

角間「決まったああ!!無敵の要塞を見事打ち破りました!」

角間「試合を振り出しに戻しました!!」

真姫「やったわね、凜!」クルツ

真姫「……凜?」

凜「うあああ!!」ドサツ

真姫「凜!!」ダツ

凜「ぐうう……!」ギユウツ

角間「おおつと……星空がシユート直後うづくまって動きません!!一体どうしたのでしようか!」



花陽「……っ！」ダッ

ピーーーーー！！

タツタツタツ

穂乃果「どう？真姫ちゃん」

真姫「……」クイツ

凜「ううう……!!」ビクッ

真姫「………そこまで酷くはないけど、決して軽くはないわ………この試合はやめておいたほうがいいのかも」

ことり「そんな……」

海未（一体どのタイミングで……）

海未（着地は別におかしくありませんでした、シュートの瞬間……？）

海未（いや……）

海未「凜、あなたまさか……」

角間「星空が抜けて代わりのメンバーが入ります！」

ヒデコ「精一杯やらせてもらうよ」

雪穂亜里沙「よろしくお願いします！」

花陽「よろしくお願いします」

海未「全く無茶するんですから……」はあ

海未「あなたまさか、ずっと怪我していたのを隠していたのではないですか？」

凜「……！」

凜「ここに……！」

凜「ここに……！」

凜「……！」

真姫「休憩の時もよく飲み物を飲んでたし……！」

絵里「そうなの？凜」

凜「えと……その……」

花陽「実は凜ちゃん、試合前にちよつと捻っっちゃつてたの」

凜「！」

にこ「試合の前？」

海未「……！お手洗いのあとですか？」

花陽「うん、急いで行こうとした時に挫いちやつたみたいで……」

海未「そうだったのですね」

にこ「それならそうと早く言いなさいよ、こんなになるまで黙ってるなんて」

凜「ご、ごめんなさい……」

希「まあまあ、凜ちゃんもみんなに気を使って言いだせなかったんやろうし……ね？」

にこ「うぐっ……」

にこ（たしかに少し押し付けてたところはあつたかも……）

海未「……すみません、今は凜の治療が先決ですね」

フミコ「私が医務室連れてくよ！」

ことり「うん、ありがとう！」

真姫（………ついさつきできた怪我じゃなかったけど……）

真姫（まあいいか）

海未「凜、今は一刻も早く治すことに専念してください」

凜「う、うん！」

海未「そして、試合の後に話があります」ニコツ

凜「ひい……！」ガタガタ

—————

花陽 「穂乃果ちゃん!」

穂乃果 「なに?」

花陽 「あのね……」コシヨコシヨ

穂乃果 「!…わかった、やってみる」

千羽山「音の木坂

ピ—————

角間 「音の木坂は星空の代わりにメンバーを入れ替えて試合再開です!」

角間 「しかしこれでもう【ファイアトルネードDD】を放つことはできません!!」

角間 「あと一点、お互いに緊張が走っております!」

ドツ!ドキュ!いけー!トツ、ドキュウウウ!!

真姫「はあ!!」ドキュッ!

綾野「ずらあ!!」バシッ

育井「よっ!」ドキュ!

穂乃果「てやあ!」バシッ

雪穂【ハンターズネット!】

山根「……!」ドサッ

原野【ラン・ボール・ラン!】

ことり「うわあ!!」ドサッ

角間「刻一刻と時間が過ぎていきます……」

角間「どちらも譲らぬ攻防戦……!!」

角間「一体どうなってしまうのでしょうか!？」

真姫「あれ行くわよ、絵里！」 トツ  
絵里「もうやるしかないわよね……！」

ブワアアア!!!      ブワアアア!!!

真姫絵里【ファイアブリザード!!】

ドゴオオオオオオ!!!

角間「こ、これは新必殺技かああ!？」

ことり「あの技……!？」

希「えりちたちのお母さんの……!？」

にこ「なんでもいいわ、決まりなさい!!」

真姫絵里「お願い!!」

綾野【無限の……】……?？」

ヒユウウウウ……………

テンテンテン

海未「外……れた」

角間「凄まじいシユートでしたが失速し、外れてしまいましたあ!!」

真姫「くく……!!もうっ!」ジャリッ!

絵里「ダメ……………か」

角間「ボールは千羽山へと移ります!」

綾野 ドツ

育井「ほっ!」トツ

ブワアアア!!      ブワアアア!!      ブワア!

絵里【スノー……】

原野「させないっぺ!」バツ



絵里 「つぐ……！」

角間 「千羽山原野、見事なブロックです!!」

ことり 「ここで止めます！」

育井      ボグッ

ことり (さっきの海未ちゃんて対処法は分かってる！)

ボコボコボコ

育井      バッ

ことり 「ここー！」 ガッ

ことり 「……!?!」 ズシッ

ことり (え……!?!これ……)

ことり 「……スイカ!?!」

希 (どこかのヒーロー思い出すなあ……)

ポンッ!

育井「モグラシャツフル！」

育井「都会っ子は間抜けばかりだっぺ！」

ことり「そんなあゝ……」

角間「育井がドリブルで上がっていきます！」

角間「F Wの田主丸にパスが通りました、残すはデیفエンスラインのみ!!」

にこ「海未、どうすんの!？」ハッ……ハッ……

絵里「決め手が全くないわ……」フウ……

真姫「正直……これ以上は……」はあはあ

海未「……」

ワアアアアアアアアア!!!

角間「田主丸が小泉を抜きましたあ!!」

角間「ゴールとの距離が近い、完全にフリーだああ!!」

にこ「うそ!？」

海未「ま、まずいです！」

絵里「今決められたら……」

角間「ここでの得点は勝敗を決める一点となります!!」

角間「キーパー高坂、果たして止めることが……おや!？」

タツタツタツ

角間「なんと……」

穂乃果「……」タツタツタツ

角間「高坂が田主丸に向かって走っていきます！」

にこ「なにやっつてんのよあのバカア！」

海未「ああ穂乃果……ついにヤケに……」

田主丸「いくぜ！」コオオオ!

田主丸【シャインドライブ!!】

パアアアア!!

穂乃果「！」

穂乃果（……ここ!!）バツ

ドゴオオオオ!!!

パアアアアアア!!!!

角間「眩しくて全く見る事ができません!!果たしてシユートは………」

シユルルルルル……!

穂乃果 ニツ

田主丸「な、なにつ……!?!」

角間「止めていたああ!!」

ワアアアアアアアアア!!!

角間「先程は得点を許したシュートを今度は正面からガツチリとキヤッチ！」

穂乃果「花陽ちゃんのおかげだね……」

—————

花陽「ちよつといい？」

穂乃果「なに？」

花陽「あのね」コシヨ

花陽「もし次シュート打たれそうになったら……」

花陽「花陽が出来るだけゴール前まで惹きつけるから、穂乃果ちゃんも出来るだけゴールから出てきておいて」

花陽「ゼロ距離で止めちゃえば眩しきなんて関係ないはずだから」

穂乃果「……わかった、やってみる」

—————

穂乃果（……さつき決められたシュート、今度は止められた……!!）

花陽「……」ニツ

監督（小泉はボールを取ろうと思えば取れた）

監督（だがあえて高坂に止めさせることで自信を取り戻させた）

監督（……人間の心理をよく理解してる）

穂乃果（……）

角間 「ゴールとの距離が近い、完全にフリーだああ!!」  
にこ 「うそ!？」

海未 「ま、まずいです！」

絵里 「今決められたら……」

穂乃果 「そんなに心配しなくていいじゃん……」ボソツ

亜里沙 「穂乃果さん！」 バツ

穂乃果 「……………」 ハッ

穂乃果 「亜里沙ちゃん！」 ドツ

亜里沙 「んっ……！」 トツ

角間 「残り時間はごくわずか……このまま延長戦かあ!？」

亜里沙 (亜里沙のあのシュートなら……いや、それはダメ)

亜里沙 (……………なら)

亜里沙 「……………一か八か……………!!」

穂乃果 「いっけー亜里沙ちゃん！」

亜里沙 「はあっ……………」 クルツ

田主丸 「つち……………」 ガクツ

原野 「行かせないっぺ！」

山根 ザツ

亜里沙 「っ……!!」ピタッ

花陽 「こつち！」バツ

亜里沙 「……!!お願いします！」ドツ

花陽 ドツ

亜里沙 「ハラシヨー！」トツ

タツタツタツ

角間 「絢瀬亜里沙がデイフェンスから上がって行く!!」

角間 「絢瀬妹はデイフェンダーながら強力なシユートを持っています、それに賭けよ

うというのでしょうかあ!？」

絵里 「ダメよ亜里沙……!!」

海未 「あの技は……」

亜里沙 「大丈夫です……よ！」ドツ

絵里 「え、私？」トツ





ねえお姉ちゃん  
なに？

二人であの技を打ったら……

—————

亜里沙「面白いでしょ？」フフフ

絵里「……わんぱくな妹を持つ姉の身にもなりなさい」はあ

絵里「……いくわよ亜里沙」スツ

亜里沙「うん！お姉ちゃん！」トンツ

絵里「ふっ……！」バツ

ポーン

亜里沙「てやあ!!」ドゴオ!

パキパキパキパキ

絵里亜里沙　　ザッ

角間「こ、これは……【エターナルブリザード】の体勢ですが……!？」

絵里「はあああ!!」グルグルグル

亜里沙「はあああ!!」グルグルグル

ドキュツ!!!

絵里亜里沙【ホワイトダブルインパクト!!】

ゴオオオオオオオオオ!!!

角間「出たあああああ!!!! 絢瀬姉妹による強力な新必殺技です!!」

穂乃果「あ、あんなの見たことないよ!?!」

希「えりちと亜里沙ちゃんの合体技……か」

希（よかったね、えりち……）フフ



パチンツ（ハイタツチ）

バリイン!!!

綾野「ズラアア!!」ドサツ  
ドシユウウウウ……!!!

角間「き……………」

角間 「決まったあああ!!!」

ワアアアアアアアアアア!!

ピツピツピoooooooooooo!!!

角間 「ここで試合終了のホイッスル！」

角間 「準決勝へと駒を進めたのは新必殺技で決勝点をもぎ取った音の木坂だああ!!!」

ワアアアアアアアアア!!

角間 「どちらもよく守り、よく攻めた！この試合はフットボール史に残ることまちが

いなししょう！」

角間 「実況は角間、角間でお送りしました!!」

ありがとうございます!!

絵里「……信じてたわよ」

亜里沙「うん、亜里沙も」ニコッ

穂乃果「う絵里ちゃあーん!!」ガバッ

雪穂「亜里沙ああ!!」ガバッ

絵里「ほ、穂乃果!?ちよつと……重……!」ウグッ

亜里沙「ハラシヨー!雪穂、子供みたい」クスクス

穂乃果雪穂「だって……ね?」

花陽「すごい必殺技だったしね!」

ことり「うん!ゴオオオオ、ブワアアア、ドカーンつて!」

「ここに語彙力どこに置いてきたのよ」

ことり「……」

ことり「母ちゃんの腹の……」

希「そこまでやことりちゃん」

真姫（……凜……）

真姫（勝ったわよ）グッ



「私たちはそんなに頼りないですか？」

医務室

ガチャッ

穂乃果 「凜ちゃん元気ー？」

凜 「見てたよみんな！勝ったんだね！」

にこ 「あつたりまえじゃない、私を誰だと思ってるのよ」フアサア……！

凜 「にこちゃんがアワアワしてるとこもバツチリ映ってたにや」

にこ 「うぐっ……！」ゴンッ

真姫 「それで、どうなの？具合は」

凜 「そ、それが……」チラッ

医務室の女性 「試合なんてダメですよ、走るのも控えてください」ブツブー

絵里「そ、それじゃあ次の試合は……!」

女性「次つてことは来週よね?」

女性「んー……ダメかな?」

絵里「そんな……」

女性「もし決勝まで行けたら治ってる頃だと思っから、それまでの辛抱よ」フフ

みんな「……」ツ……

にこ（凜無しで準決勝……）

海未（ディフェンス、オフエンス面でかなりの戦力ダウンですね……）

花陽（……私が……無理にでも止めてれば）

凜「お願いします、試合、出たいです」

海未「凜……」

花陽「凜ちゃん……」

女性「ダメよ」

凜「どうしても……ですか？」

女性「選手を守るのが私の役目、どうしてもよ」

凜「……」ギョッ

みんな「……」

「凜ちゃん」

凜「？」クルッ

凜「……！」

凜「……ことりちゃん……？」

ことり「……」

海未「ことり……？」

ことり「……メイド喫茶でした約束……覚えてる？」

凜「……なんでも言うこと聞くなって言ったこと？」

ことり「うん、今使うね」

凜「……」

ことり「……」

ことり「私たちを信じて……まっけて」

凜「……っ！」

ことり「絶対勝つから」

凜「……」

凜「……うん」コクリ

ことり「ありがとう凜ちゃん」ニコツ

凜「……」

凜「みんな」

凜「……ごめんなさい」ペコツ

絵里「……凜……」

凜「みんなに怪我してたこと黙ってて……」

みんな「……」

凜「……でも」

凜「凜がいなくてもみんななら次も絶対大丈夫だろうし……」

にこ「……………は？」

凜「次の試合もいつも通りみんなで……………」

にこ「ねえ」

凜「凜、ベンチから応援して……………！」

にこ「希」

希「あいあいさー！」ガバツ！

凜「な、なに…!？」アワアワ

希「ワシワシMAXー!!」ワシワシー！

凜「なんで!?なんで!？」

凜「いにやあああ!!!」

凜「はあ……………はあ……………ううん…」ビクビク

希「またつまらぬものを揉んでしまった」ワキツ

凜「ひどいにやあ!!」ゴーン！

にこ「あんたがバカなこと言うからでしょ」

にこ「……早く怪我治して戻ってきなさい」

にこ「みんな待ってるんだから」

凜「にこちゃん……」

凜「何か悪いものでも食べた？」

にこ「……」イラア

ゴチンツ!!

凜「おぐうう……!!」シュウウウ……

ことり「うわあ、痛そう」

凜「頭が……頭がああ!!」

穂乃果「ちよつと！凜ちゃんの頭が悪くなったらどうするの!?!」

真姫「……もともとそれほど良くない……」

凜「……」ガクツ

海未「やめましょう、もう凜のライフはゼロです」

帰り道廊下

海未「……真姫」

真姫「なに？」

海未「わからなければそれで良いのですが、凜のケガについて……」

海未「あれは……」ごによごによ

真姫「……ええ、たしかに」ごによごによ

海未「なるほど、やはりでしたか」

海未「ありがとうございます」

真姫「……別に」クルクル

真姫（……凜、ご愁傷様）

## 帰り道

海末「この時間になってもまだ明るいですね」テクテク

花陽「夕日が綺麗だね」テクテク

花陽「今日は穂乃果ちゃんたちとは帰らないの？」

海末「穂乃果はクレープが食べたいと一足先に帰ってしまいましたから」

凧「珍しいにやう、いつもみんな食べて帰るのに」

凧「よいしょ……つと!?」グラッ

花陽「ほっ!」ガシッ

花陽「大丈夫?まだ松葉杖慣れないみたいだね」

凧「ありがとうかよちゃん!」

海末「凧、こちらに行きましょう」

花陽「こつち?」

凧「あ、ごめんかよちゃん」

凧「凧、海末ちゃんとちよつと約束があるからここで……」

花陽「……そっか!バイバイ凧ちゃん海末ちゃん、気をつけてね!」



海未「はい、気をつけて帰ってくださいなね」

凜「ばいばーい！」ブンブン

凜「うわっ……！」グラッ

ガシッ

凜「あ、ありがと海未ちゃん……」

海未「松葉杖つきながら全力で手を振る人がいますか……」ヤレヤレ

凜「ごめんごめん……」

凜「で、どこ行くの？」

海未「すぐそこですよ」

鉄塔広場へ続く階段

海未「はあ……はあ……」ザッ……ザッ……

凜「海未ちゃん、やっぱり凜自分で歩くよ？」

海未「いえ、私がここにしようと言ったのですから……！」グググッ  
海未「なんの……これしきい……!!」ググググッ

凜「つと！」スタツ

凜「ありがと海未ちゃん！」

海未「い、いえ………」ゼエ……ゼエ……

海未「それより………何か聞こえませんか？」

凜「何か？」

バシイ！ドコオ!!ドサツ、ズザザザザザ!!

凜「聞こえる……」

凜「もしかして……喧嘩!？」

凜「ま、まずいよ……逃げないと」アワアワ

海未「……ふふ、ついて来てください」スタスタ

凜「そつちは音がしてる方だよ……!」ヒソヒソ

海未「大丈夫ですから」

凜「うう……!」

海未「ここです」

凜「……すぐ近くで音が聞こえるにや……」

海未「この物陰から覗いてみてください」

凜「一体何が……」ガサッ

凜「……え？」

穂乃果「ふんんん!!」ズザザザザザ!!

凜（ほ、穂乃果ちゃん!?）

穂乃果「ぜっ……ぜっ……ぜっ……」

穂乃果「……んっ……っ……!」ブンッ

フワッ

ゴオオオオ!!!

ドゴオオ!!

穂乃果「うわああ!!」ドサッ

凜「穂乃果ちゃ……!」ガサッ

ガシッ

海未「……」フルフル

凜「……なんで……」

ブラン……ブラン……

穂乃果「はあ……はあ……」

穂乃果「……」

穂乃果「……う……」ウルツ

凜「！」

穂乃果「わかんないよお……」ウルウル

穂乃果「強くもなれないし、みんなには当たっちゃうし……」

穂乃果「もうやだあ……」ポロポロ

凜「……うそ」

凜「穂乃果ちゃん、今日……クレープ食べるって……」

凜「それに……あんな弱気な穂乃果ちゃん初めてみた」

海未「あそこまでは私も初めてです」

海未「最近の練習の後も暗くなるまで練習してるんですよ」

凜「でもあんな無茶な練習……」

海未「私も初めから見ていたわけではありませんが……それはひどいものでしたよ」

海未「吹き飛ばされるのは当たり前」

海未「なんども転がされて、怪我をしなかったのは奇跡だったと思います」

凜「じゃあ何で……!」

海未「昔から……口癖だったんですよ」

凜「口癖?」

—————

ほのか「やるったらやる!!」

ことり「さすがにまだむりだよお……」

うみ「りふていんぐみんなで20回なんて……」

ほのか「やるったらやるの!ほらいくよ!」ドッ

イーチ!ニーイ!

ことり「……18!」ドツ

ほのか「いけるようみちゃん!」

うみ「…はい!」タタツ

うみ「……19!」ドツ

うみことり「あっ!!」

ポーン

ことり(ボールが変なとこ飛んでつちやった……)

うみ(ああ……私のせいで……ごめんなさいほのか……)ウルツ

「てやあー!!!!」ズザザッ!

うみ「ほのか!」

ことり「それはむちやだよお!!」

ほのか(…届く!)

トツ

ほのか「うぶえええ……!!」ズザザツ……

うみ「大丈夫ですかほのか!」タツタツタツ

ほのか「えっへへ!届いたよ!20回!」

ことり「うん!できたんだね、ほのかちゃん!」

うみ「う……う……」ポロツ

ほのか「う、うみちゃん!」

うみ「よかったです!」ダキッ

ほのか「ど、どうしたの?」

うみ「私が……へんなとこに……ヒック!……けとばしたから……うう……」ウルウル

うみ「ほのかがとりに……けが……ああああ!!!」ポロポロ

ほのか「?!」

ことり「じぶんがけつちやったボールをとりにつたほのかちゃんがけがするのがこわかったんだって!」



うみ「ほ、ほのががああ!!しんだらどうしようつでえええ!!」ポロポロ  
ほのか「……………」

ほのか「うみちゃん!!」

うみ「……はい……?」ピタッ

ほのか「ほのかはおつきくなってもふたりとさっつかーするの!かっつてにしなせちやだめ!」

うみ「……ふふ、ほのからしいですね」

ほのか「それより20回だよ20回!!」

うみ「はい!すごいです!」

ほのか「えっへへへ!」

ほのか「だからいったでしょ?」

ほのか「やるつたらやるって!」

—————  
(泣いてるシーンを海未ちゃんはカットして話しています)

凧「昔から穂乃果ちゃんは穂乃果ちゃんだったんだね……」

海未「あのタイヤに転がされていた時もよくいってました」

海未「やるつたらやる……絶対諦めない、と」

凜「……………」

海未「しかし」

凜「？」

海未「ここ最近は聞いていないんです」

海未「あの魔法の言葉を」

凜「どうして？」

海未「わかりませんが、だから直接訳を聞こうかと思ひまして」

海未「凜はここに居てください」ガサッ

凜「ま、まって！」ガシッ

海未「凜……………」

凜「……………本当にいいの？」

凜 「あそこにいる穂乃果ちゃんは多分……」

凜 「みんなに見せたくない穂乃果ちゃんなんじゃないかな」

海未 「……私もそう思います」

凜 「なら……！」

海未 「そう思つて……見守つて来ました」

海未 「しかし日に日に……悪くなっているんです」

凜 「悪く？」

海未 「今日の出来事、覚えてますね？」

凜 「点決められた後のこと？」

海未 「はい、今まで溜まっていた元が溢れてしまったのでしよう」

凜 「あの後雪穗ちゃんに声をかけたりゴール止めたり、普通にプレイしてたけど……」

海未 「私も踏み込むのは悪いと思います、一言言いました」

海未 「相談に乗りますよ、と」

海未「私でなくても良かったんです、誰でも相談してくれれば」

凜　　チラッ

穂乃果「うう……あ」ポロポロ

海未「あれほど追い込まれるまで放ってしまった……」

海未「頼つてくれると信じていたのに……」ギユッ

凜「海未ちゃん……」

海未「これは、私の責任でもあるんです」

凜「……」

海未「……行つてきます」ガサガサ

穂乃果（どうすればいいんだろう……）

穂乃果「……」ポロポロ

穂乃果（吐き気がする……）

ザッザッ

「最近よく曇ってますが、今日は一段と曇り空ですね」

穂乃果「!?」ガバッ!

海未「……隣、いいですか」

穂乃果「海未ちゃん……」

穂乃果「……!」ゴシゴシ

海未「………」スッ

ストンッ

穂乃果「………」!

穂乃果（いつも砂の上になんて絶対座らないのに……）

海未「………」

海未「綺麗な夕焼けですね」

穂乃果「……さっきは曇り空って言ってなかった?」

海未「太陽が陰ってしまっていたので……」

穂乃果「?」

海未「こつちの話です」

穂乃果「ふふ、なにそれ」

海未「………」

穂乃果「……………」

穂乃果「怖いんだ」

海未「……………」

穂乃果「みんなすぐく上手になってる」

穂乃果「真姫ちゃんと絵里ちゃんは言わなくてもだし」

穂乃果「希ちゃんと凜ちゃんは入部してから始めたなんて信じられないくらい上手になってるし」

穂乃果「ことりちゃんなんて、ザ・女の子って感じなのにサッカーになるとすごいし」

穂乃果「にこちゃんと花陽ちゃんは……まあこも言わなくてもわかるよね」

穂乃果「もちろん海未ちゃんもだよ」

穂乃果「……………」

穂乃果「みんなすごいんだあ……………」

穂乃果 「どんどん走って行っちゃって」

穂乃果 「穂乃果……ついていけないよ」 あはは……

海未 「……」

穂乃果 「……ねえ海未ちゃん」

海未 「……はい」

穂乃果 「キーパー……」

穂乃果 「穂乃果じゃなきゃダメ？」

海未 「……」

サアアアアアアア……………

海未（言われた意味がわかりませんでした）

海未（頭をガツーンと殴られたような、そんな衝撃でした）

海未（あなた以外に誰がいるんですか）

海未（私たちのキーパーは……………）

海未（あなたですよ、穂乃果）

海未「……………」

海未（そう言ってあげたいのに……………声が出ない）



海未（あ、私腕を振り上げて……）

海未（頭ではわかつているのに止まらない）

海未（穂乃果の顔に……）

海未（……）

凜 「ダメに決まってるにやあああ!!」 ガサツ

海未 「!?」 ピタッ

穂乃果 「り、凜ちゃん!？」

凜 「穂乃果ちゃんが辞めたら凜もやめる!」

凜 「サツカーもみんなも……大好き、だけど……っ……っ……」

凜 「穂、乃果ちゃんが……」 ウルツ

凜 「穂乃果ちゃんがやめるなら凜もやめる!!」 ポロポロ

穂乃果 「凜ちゃん……」

凜 「やめるんだからああ……!!」 ポロポロ

海未「落ちっ……落ち着いてください凜！」

凜「ううう……」ヒック

海未「どうしてあなたが一番泣いているのですか……」ガサガサ

海未「ほら、チーンってしなさい」

凜「ふんらん!!」チーン!

穂乃果「どうして二人ともここにいるの？」

海未「あなたの相談に乗りに来たのと、凜のお説教です」

凜「にや!?!」ガーン

海未「当たり前です」

穂乃果「穂乃果の相談はもう大丈夫だよ」

海未「……本当ですか？」ジトー

穂乃果 「本当だよ！ほら、この通り！」 マツスル

海未 「……わかりました」

海未 「そのかわり、また困ったら誰でもいい」

海未 「相談してくださいね」

穂乃果 「了解です！」 ビシッ

海未 「……」

海未 「凜」

凜 「ひう……!!」

海未 「こちらへ」

凜 「にゃく……」

穂乃果 「松葉杖であんなとこまで行ったんだ……早いね」

海未 「逃げ足はさすがね」

凜「……………」ちんまり

海末「真姫から聞いたのですが、この怪我はついさつきでできる怪我ではないそうです」

海末「正直に答えてください」

海末「怪我、または違和感はいつからですか？」

凜「……………」多分一ヶ月くらい前……………」

海末「多分？」

凜「うん」

凜「捻ってテーピングして治って来た頃にまた捻って……………」

凜「最近はほとんど治ってたんだけど、試合前日に家に帰った時また痛くなっちゃって……………」

海末「花陽は気づかなかったのですか？」

穂乃果「花陽ちゃん最近そういうところすぐ気付くよね」

凜「……………」口止めしてもらったの」

海未「つまり花陽は知っていたのですね」

凜「まって、かよちゃんは悪くないよ！」

海未「分かっています、誰が悪いと言いたいわけではありません」

凜「よかった……」ホッ

海未「……」

海未「私たちはそんなに頼りないですか？」

凜「え……？」

海未「あなたと真姫のお陰で同点に追いつくことができましたが」

海未「たった一試合を任せられないほど私たちが頼りないですか？」

凜「ち、違うの……!!そうじゃなくて……」

海未「なかが違うのですか？」

凜「だから……えっと……」

海未「今なら別に怒りませんから正直に言ってください」

凜「ち、違うつて……」

海未「凜!!」

凜「違うんだってば!!!」

凜「……………っ」ハッ

凜「……………」

海未「……………」

凜「多分……………穂乃果ちゃんと同じ理由……………」

穂乃果「穂乃果と?」

凜「怖くて……………不安なの」

穂乃果「……………!」

凜「……………もし凜が……………試合に出なくて……………」

凜「あれ、なんだか今日試合しやすいね」

凜 「なんてことになったらって……思うと」

海未 「……………」

海未 「にこと希」

凜 「？」

海未 「あなたがよく軽口を叩きあう二人です」

凜 「あ……………」

海未 「拒絶されるのが怖くて……………」

海未 「みんなに早く溶け込もうとちよっかいをかけていたのでしょうか？」

凜 「……………」

海未 「穂乃果も私と出会った当時、似たようなことをしていました」

穂乃果 「穂乃果が？」

海未 「私をわざと鬼にしたり、わざわざからかったりして」

海未「ゆつくり、確実に、みんなの輪に入ることができました」

凜「……………」

海未「まああの頃の私からすればやめてほしいとは思えなかったですが」

穂乃果「あはは……………」

海未「……………」

海未「凜」

凜「？」

海未「あなたは音の木坂の……………」

海未「……………」

海未「μ, sの一員です」

凜「……………！」

海未「あなたのいないサッカー部なんてありえませんが」

海未「優勝……………みんなでしましょう」



凧「……………」

海未「……………すみません、上手く話せなくて」

凧 ブンブン

凧「……………嬉しい」ニコツ

穂乃果「……………凧ちゃん」

凧「？」

穂乃果「私たちは凧ちゃんとサッカーがしたい」

凧「……………！」

穂乃果「あの言葉……………取り消したつもりはないよ」

凧「……………うん！」

穂乃果「よーし！それじゃあ今日はもう帰ろう！」

海未「練習は良いのですか？」

穂乃果「今日はもういいや！帰ろー！」

海未「……………そうですね、行きましようか」

凧「ラーメン食べるにやー！」

穂乃果「いいね！あれしよう、アブラマシマシくっつけてやつ！」

凧「あれは強敵だよ……………？」

穂乃果「今ならいける気がする！」

穂乃果「よし、凜ちゃん乗って！」

凜「穂乃果ちゃん号、発進！」ヨイシヨ

穂乃果「あいあいさー！」タツタツタツ

海未「走ると危ないですよ！私も行きますー！」タツタツタツ

夜鉄塔

「……………」ウツプ

「……………食べ過ぎた……」

「……………」グツ

ブンツ！

フワツ……

ゴオオオオオオ……！！！！



雪穂「……………」ハッ

雪穂「……………」ググッ

雪穂「……………」バカお姉ちゃん

## 第6話 「う、嘘だよね?」

部室

ガラガラ!!

花陽 「た、たいへんですう!!」

にこ 「ものすごいニュースよあんたら!!」

絵里 「にこ、ドアは静かに開けないと危ないでしょ?」

希 「いやいや、今開けたのは花陽ちゃんやん?」

真姫 「花陽があんなに乱暴なわけないじゃない」

凜 「にこちゃんらしい開け方だったにや!」

にこ 「どつちでもいいわよ!! どうしてあんたらはそうすぐに脱線するのよ!!」

絵里 「にこ、カルシウムが……」 スツ

にこ 「カルシウムブレイク!!」 ブシユウウ!!

絵里 「私のバナナオレ……!!」

凜「あの絵里ちゃんのバナナオレが一撃で……!」

希「強い……今までとは一味違う」

にこ「もう……ああー!もう、いいのよ!!それは!」

花陽「UTX二回戦の対戦結果が出ました!」

穂乃果「!……確かその試合は……」

海未「一回戦は2―0で突破していましたが……」

花陽「結果は……UTXの勝ちです……」

穂乃果「……」グッ

凜「それは当然だにや〜」

花陽「……対0で……」

ことり「……?」

絵里「ごめんなさい、よく聞こえなかったわ、もう一度いいかしら」

花陽「……」プルプル

花陽「9―0でUTXの勝ちです!!」

みんな「……」

みんな「へ?」

凜「う、嘘だよねかよちん……」

海未「さ、流石にそんなものには騙されませんよ……」

にこ「ほんと、たしかな情報よ」

絵里「そんなことって……」

花陽「試合自体は見てないけど、コメントは見れるよ」スツ

希「なにになに?」

『なんだよあいつら、ガチのポケモンじゃねえか』

『一体この短期間に何があったの?』

『これはUTXの一強だな』

『対戦相手が不憫すぎる』

真姫『せいぜい怪我しないようにしろよ、嵐みたいな試合になるから』………か』

みんな「………」

にこ「……………どう……する？」

海未「どうと言われましても……………」

にこ（流石に海未も言葉が出ないか……………）

にこ（まあこんな結果見せられたら誰でも……………）

穂乃果「練習しよっか」

みんな「!？」

にこ（……………穂乃果）

穂乃果「強くなれば……………強くならないと始まらないでしょ？」

にこ「……………簡単にいうけどどうする気？」

海未「準決勝は凜がいない上に決勝までは最長で2週間しかありません」

凜「……………」

絵里「今までと同じじゃ勝てないわ」

穂乃果「……………どうするとか、勝てないとか……………」

穂乃果「関係ないよ」

にこ「はあ？あんだそれ思考放棄っていうのよ？」



希「にこつち難しい言葉知ってるなあ」

にこ「これぐらいしってるわ!!」

穂乃果「穂乃果たちなら絶対勝てる」

穂乃果「穂乃果がやるつたらやるんだよ!!」

海未「!」

ことり「!」

凜「!」

にこ「はあー……全然根拠なんてないじゃない」

ガタツ      ガタツ

真姫「……海未?」

花陽「ことりちゃん……」

海未「練習……行きましようか」

ことり「うん! 時間なくなっちゃう」

にこ「ちよ、あんたらまで何言ってる……」

凜「いつくにやー!」ガタツ

凜「おおっと?」グラッ

花陽「凜ちゃん!」ガシッ

凜「ほらかよちゃんと真姫ちゃんも！」グイグイ

花陽「わ、わかつたから！」

真姫「ヴェエ!!引つ張らないで！」

にこ「……待ちなさい！」

花陽「……！」ビクッ

海未「…………」

穂乃果「…………」

にこ「…………」

にこ「……」はあ

にこ「海未、穂乃果、あんたはいつも通り練習仕切りなさい」

海未穂乃果「！」

にこ「花陽は私が借りるわ」

花陽「に、にこちゃん!」

にこ「……こいつらに何を言っても無駄よ」

にこ「勝つ確率を少しでもあげるために……情報収集行くわよ」

花陽「……!うん!」

希「……最初から解決策を見つけないでなかつたくせに……」ボソツ

にこ「なにかいった?」

希「べつつに〜?」

にこ「花陽、行くわよ!」スタスタ

花陽「うん!」ダツ!

海未（穂乃果、久しぶりにあなたのそれを聞きましたよ）

海未（信じて……よいのですね?）

穂乃果（…あの映像、見せた方がいいのかな）

穂乃果（でも見せるなって書いてたし……う……！）

夕方

にこ「っはー………！」ググツ……

テクテク

花陽「結局、UTXについてはほとんどわからなかったね」

花陽（あのゲームしながら歩いてる……あの動きは……ポケモンGOかな？）

にこ「でも次の相手の情報は収集したわ」

にこ「木戸川清修のね」

花陽「帰ってみんなに伝えないとだね！」

花陽（この辺子供多いなあ……へえ、近くに公園があるんだ）

にこ「ええそうね……」

花陽「……にこちゃんのいった通りになったね」

にこ「え？」

花陽「ほら、部室で……」

にこ「ああ……」

にこ「解決策なんてあの短時間で見つかるはずないんだから」

にこ「なんとか全体を鼓舞してもらおう必要があったのよ」

にこ「さすがは穂乃果ね」

花陽「やつぱりすごいなあ……」

にこ「……たしかに想定通りの展開だったけど……」

にこ「(あいつ……穂乃果ってあんなんだったつけ?)」

にこ「(……) チラッ」

花陽「？」

にこ「花陽、荷物重いでしょ？私が半分持つわ」

花陽「いやいや、これぐらい大丈夫だよ！」

花陽「それにタオルとか消毒薬とかばっかりで軽いし」

花陽「(少し意地張っちゃったかな……?)」

にこ「……じゃあお任せするわ」

にこ「ありがと花陽」

花陽 「いえいえ♪」

花陽 (よかった、怒ってないみたい) ホッ

ここ 「……あ……！」 ピタッ

花陽 「にこちゃん？」

ここ 「花陽、そのお礼にアイス買ってあげるわ」

花陽 「だ、大丈夫だから！」

ここ 「私が食べたいのよ、あんたのはついで」

ここ 「ついでなんだから気楽に受けとんなさい」

花陽 「……ふふ、ありがと」 ニコッ

花陽 (にこちゃんには敵わないなあ……) チラッ

花陽 「！」

ここ 「それじゃあ買ってくるわね！」 タッタッタッ

花陽 「あ、うん」

花陽 「………」

花陽（あの子、道路の脇でボール持ってて危ないなあ……）

花陽（注意してあげるのが一番なんだろうけど……恥ずかしい……）

花陽（ああ……そんなに走ったら……）

花陽（ほらこけちやった……）

花陽（ああ……泣かないで）

花陽（ボールは道路に転がっていつちやったね……）

花陽（取りに行かなきゃだけど車の信号が青だからこつちが青になるまで待たないとね）

ブロロロロロロ

花陽（車もきてるし……!?）サアア……！

子供「ボール！」タッタッタ

花陽「……………ダメ」

花陽（あ……………血の気が引くってこういう感じなんだ）

プツプツプツプー—————  
!!!!!!

子供「？」クルツ

花陽「ダメエエエエ!!!!!!」ダツ！  
花陽（間に合って……………!!）





花陽（間に……………合って!!!）ガバツ！  
カシヤン……………

子供「うぶっ……………！」  
キキキキキキ————  
!!!!

グシヤ……………

にこ「……………は……………」スルツ……………  
ベチャツ      ベチャツ

にこ「花陽!!!」ダッ!

ピーポーピーポーピーポーピーポー

学校

海未「希!もっと圧をかけてください!!」



「電話だよ、電話だよ」

凜「にや？にこちゃんから？」

ピッ

凜「やつほーにこちゃん！情報収集の調子は……」

凜「……………」

凜「……………え」

凜「……………かよちゃんが……」

凜「う、嘘だよね……………」

凜「……………」

凜「……………わかった」

ピッ

ザッザッ

海未「今のはにこからの電話ですな」

海未「なんと言っていたのですか？」

穂乃果「ついに弱点を掴んだとか！」

絵里「そううまくいけばいいけど……」

希「……………」

希（凜ちゃん……………？）  
凜「……………かよちゃんが……………」

凜「事故で病院に運ばれたって」

「誰が責任を取るの?」

凜 「……かよちゃんが……」

凜 「事故で病院に運ばれたって」

ドタバタドタバタ！

にこ「ちよつと、病院では静かにしなさいよ」

凜「かよちゃんは!!」

にこ「だから落ち着きなさいって……」

凜「答えて!!」ガッ

にこ「うぐつ……!」

穂乃果「待って凜ちゃん、とりあえず話聞こ?」

凜「かよちゃん……かよちゃんはどこ!!」

にこ「………大したことはないわ」

凜「……へ?」

にこ「私だつて初めから見てたわけじゃないけど……」

にこ「子供が轢かれそうになつてるところに花陽が飛び込んで、無事助けられたのよ」

希「おく、花陽ちゃんやるなあ」

にこ「車との接触はなかったんだけど……」

凜「だけど……?」

にこ「倒れた拍子に肩を強打したのと、助けられた安心感からあの子……気絶し



ちやつたのよね」

凜 「気絶……」

にこ 「もしかしたら頭でも打ってたんじゃなかったって急いで救急車を呼んだわけ」

凜 「よ……よかつたあああ」ヘナヘナア……

絵里 「ずっと誰よりも心配してたものね」

凜 「当たり前だよ!」

海未 「花陽の体は大丈夫なのですか?」

にこ 「もう目が覚めてるから軽く治療を受けてるわ」

ことり 「花陽ちゃんまで出れないなんてことになったら……」

穂乃果 「フラグだよそれ……」

にこ 「……」

にこ 「花陽の肩の具合も心配だけど何より……」ガタツ

希 「ちよ……にこっち……!」

にこ 「……」

にこ 「……ごめん、にこが一番近くにいたのに……」ペコツ

にこ 「こんなこと言いたくはないけど」

にこ 「……」一歩間違えば取り返しをつかないことになっていたかもしれない」

「ここ」だから……」

「それは違うよにこちゃん」

「ここ」！あんた……！」

凜「かよちーん!!」バツ！

真姫「凜!!タイムターム!!」グググッ

希「今飛びついたら完全にアウトやからあ!!」グググッ

凜「よがっだよおお……!!」ダー！

花陽「ふふ、鼻水垂れてるよ」スッ

ピキッ

花陽「っ……！」

絵里「……肩、ひどいの？」

花陽「……！」

「また会ったわね」

絵里「！」クルッ

凜「あー！医務室のお姉さん!!」

女性「久しぶりね、星空さん」

凜「ここのお医者さんだったんですね！」

女性「ええ、まさかまたあなたたちを担当するとは思ってなかったけど……」

女性「どう、調子は?」

凛「はい! ずっと安静です!」

女性「大丈夫、決勝までには治るわ」

絵里「すみません、少しいいですか」

女性「なにかしら?」

絵里「……花陽は……大丈夫なんですか?」

女性「……」チラッ

花陽「……」フルフル

女性「……」フウ……

女性(まあ、自分からは言にくいわよね)

女性「……小泉さんは……」

みんな「……」

女性「1週間絶対安静です」

海末「なっ……」

絵里「つてことは……」

にこ「ちよつと……」ガタツ

にこ「あんたわざと私たちをはめようつてんじゃないでしょうね!!」ツカツカ

女性「……」

海末「にこ!!」ガツ

にこ「だってそうじゃない!!凜に続いて花陽まで抜けるなんて……」

凜「……」

花陽「……」

にこ「……そんなの……あんまりじゃない……」

女性「無理をすれば小泉さんも星空さんも試合に出られるかもしれない」

にこ「!」

女性「でもそのせいで体に障害が残ってしまった時、誰が責任を取るの?」

女性「誰が一番悲しむの?」

にこ「……」

女性「私が担当になったからには、そんな子を絶対出させはしない」

みんな「……」

海未「……」

海未「私は凜に言いました」

みんな「！」

海未「私たちがそんなに頼りないのか、一試合を任せられないほど弱く見えるのか、と」

凜「……」

海未「私たちのするべきことは落ち込むことでも怒ることでもありません」

海未「前を向いて、決勝への切符を手にするのです」

海未「落ち込んでいたって二人の怪我は治りませんから」

みんな「……」

女性（……今時の高校生ってドラマみたいなこと言うのね……）

海未「……」

みんな「……………」

海未「……………て……………いう感じのこと、を……………思ってるんですけど……………」  
にこ「……………ん？」

海未「……………だから……………えと……………」

希（おやおや？）

海未「……………その……………」

海未「…………………………」

海未「……………この空気なんとかありませんか？／／／／／」カアア

みんな「……………」……………フ

みんな「あっはははは!!」

海未「わ、笑わないでください!!／／／」

希「いいこと言っただと思っただら急に照れるんやもん、かわええなあ海未ちゃん」ワシ  
ワシ

真姫「ヴェエ!?なんでその流れで私の胸を揉むのよ!!」

ことり「良いではないか、良いではないか」ジリジリ

真姫「いやああ!!」

穂乃果「あっはははは!」

にこ「と、どうかあれぐらいで真っ赤になる?普通」

海未「みなさんが黙ってしまふからじゃないですかあああ!!!／／／／／／／／／」

ワーワーキヤーキヤー

女性「……………強いよね、あなたたちは」

花陽「伊達に準決勝まで来てるわけじゃないですからね」

女性「みんなは小さい時から一緒なの？」

凜「凜とかよちん、それと二年生3人以外は高校で知り合ったんですよ」

女性（それでこの信頼感……………）

女性（事故にあつたと聞いた時、みんなで駆けつけてくる思いやり……………）

女性（この子たちなら本当に……………なんてね）

凜「あれ？そういえばかよちんメガネは？」

花陽「事故の時に割れちゃったみたい……………」

花陽「粉々になったメガネが枕元に置いてたから……………」

凜「それは災難だにや……………」

凜「でもメガネのないかよちんもかわいいにや……………」

ことり「うん！すっごくかわいい！」

にこ「いつそコンタクトにしてみるのもアリかもしれないわね」



花陽「え、え?」

海末「コンタクトの方がスポーツの時楽でしょうし、悪くないかもしれませんね」

花陽「え、えーつと……?」アワワワ

凜「かよちんコンタクトデビューだにやー!」

花陽（わ、私喋ってないのにどんどん話が進んでいく……!）

「あの……」

みんな「ん?」クルッ

「つ……!」ビクッ

穂乃果「……子供?」

ことり「サラサラの綺麗な黒髪だね」

凜「どうしたのかにや?」

子供「……えと……その……」

スツ

絵里「ふふ、ゆつくりで大丈夫よ」

子供「……！はい！」

にこ（子供と話すときは目線を合わせる、わかっているわね）

絵里「礼儀正しくて偉いわね」ナデナデ

子供「……！」

ことり（スキンシップを交えて警戒心を解く、さすが絵里ちゃん）

子供「あの、お名前を……」

絵里「名前？私の？」

子供「は、はい！」

絵里「んー、そうねー……」

絵里「……！」

絵里「私の名前はね……」

子供「……」

絵里「エリーチカよ」

希「ブフウ……!!」

ことり「うわああ……!!」

真姫「希汚い!!」

希「だって……不意打ちは卑怯やん……」プルプル

真姫「はあ!?!」

子供「エリー……チカ……」

絵里「ええ」

子供「エリーチカ……」キラキラ

絵里「ふふ、気に入ってもらえたようでよかったわ」

絵里「それで、用事って私の名前が知りたかったの?」

子供「え、えっと……!い、妹が……」

絵里「妹?」

子供「赤い髪の……妹がここにいと聞いたので……」

絵里「……?」

花陽「あ!もしかして事故の時の?」

子供「は、はい!そうです!!」

子供「今どこに……」

「こら、勝手に歩き回ったらだめですよ」

子供「ご、ごめんなさい……」

絵里「この子のお母様ですか？」

母親「はい、この度はご迷惑をおかけしてすみません」

母親「これ、大した額ではありませんが治療費に……」スツ

花陽「いや……！本当に大丈夫です!!」

母親「こういうときは受け取っていただいた方が嬉しいですよ」

花陽「……では、いただきます……」

母親「はい、ありがとうございます」

花陽（明らかに治療費以上入ってる……）

母親「……」

花陽「……？」

母親「本当にごめんなさい」ペコッ

花陽「えっ……えっ……?」

母親「貴方達今、大会中なのでしょう?」

花陽「!知ってるんですか!」

母親「私個人、サッカーがとても好きなのでよく見ているですよ」

花陽「へ……」

花陽「ということはこの辺にお住まいなんですか?」

母親「いえいえ、今日は仕事で地方から出てきたんです」

母親「普段はケータイで観戦させていただいています」

花陽「なるほど……」

母親「私がいうのもおかしな事かもしれませんが、ずっと応援してきました、音の木

坂の皆さん」

みんな「!!」

母親「そのメンバーにこんな仕打ちを……本当にごめんなさい」ペコッ

みんな「……」

花陽「……気にしないでください」

みんな「!」

母親「小泉さん……」

花陽「音の木坂は強いですから」

花陽「絶対優勝してみせます」

みんな「……………おおう」

花陽「……………」

花陽「……………／／／／／」ボンツ……………!

花陽「……………恥ずかしいね、海未ちゃん／／／」カアア

海未「花陽、わかってくれましたか……!」

ここ「どうしてあんたらはいつもいい雰囲気で終われないのよ」

凜「凜はこんなかよちゃんも好きにや〜」

穂乃果「よし!じゃああんまり長居してもあれだし帰ろー!」

みんな「おー!」

女性「病院内ではお静かに」

みんな「……………おー……………!」ヒソツ

絵里「妹、大事にしてあげてね」パチツ（ウインク）

子供「うっ……!!」ドキンッ!

ゾロゾロ

母親「……強い方々でしたね」

子供「エリーチカ……かつこよかつたですわあ……」うつとり

「お、おねいちゃあ!!」ダダダッ

子供「!!怪我はない??痛いところは……!!」

妹「ううん、だいじよぶ……」

妹「……でも」ウルッ……

妹「怖かったよおお……!!」ポロポロ

子供「はいはい、もう大丈夫よ」ナデナデ

母親「……貴方を助けてくれた方ね、小泉花陽さんというのですよ」

妹「小泉……花陽じゃん?」

母親「覚えておきなさい、貴方の命の恩人ですよ」  
妹「……花陽……しやん」

凜「ラーメンいくにやー！」

穂乃果「アブラマシマシー！」

海未「おやめなさい、この間も気分悪そうにしていたではありませんか」  
にこ「あんなの食べたら太っちゃうわ」

希「にこつちはもう少し太った方がええんやない？」  
にこ「どこ見て言ってるのよ!!」

花陽「ふふ」

花陽「……そういえばあの姉妹の瞳、綺麗だったなあ……」

花陽（まるで……）



花陽 「宝石みたいにキラキラ輝いてた」

ハンバーガーシヨップ

凜 「結局ここになるよね」

海未 「値段もお手軽ですし、ラーメン屋より長居ができますからね」

海未 「まず、花陽と凜のいないフォーメーションを考えましょう」

真姫 「二年生の人たちが入るんでしょう？」

絵里 「ええ、でも雪穂ちゃんと亜里沙のポジションも変更した方がいいかもね」

花陽 「今まで私が真ん中だったんだけど、二人に真ん中を固めて貰った方が安心かな」

海未「それが良さそうですね、穂乃果はどう思いますか？」

穂乃果「まって!!」

海未「？」

穂乃果「……まだ……」

穂乃果「まだポテトが来てない」

海未「ではこれで行きましょうか」

穂乃果「冗談じゃん!!」

ことり「チキンクリスプ美味しいよね」モグモグ

希「安いのにこの美味しさは一人暮らしに嬉しいなあ」モグモグ

凜「……共食……ムグウ……!!」

真姫「貴方学習しなさいよ!!」グググッ

にこ「あーシエイク美味しいにこ〜」

真姫「にこちゃんはまた苺？」

にこ「そ!あまーいあまーいストロベリー!」

真姫「まあなんでもいいんだけど」

にこ「やめなさいよすぐ興味なくすの!!」

数時間後ハンバーガーショップ前

穂乃果「みんな、二人が出られなくてもやることは変わらない」

穂乃果「絶対勝って、みんなで決勝に行くよ!!」

みんな「おー!」

穂乃果「それじゃあ解散!」

穂乃果「凜ちゃんと花陽ちゃんに誰か付き添ってあげてくれないかな」

にこ「じゃあにこが行くわ」

穂乃果「ありがと!それじゃあ今度こそ、解散!」

夜中

ドゴオオオオオオ!!!

穂乃果「はぁ……はぁ……」ズズ……ズ……

穂乃果（あと少し、あと少しでイメージが掴めそう……）

ブン………!

公園

タツタツタツ

真姫絵里「ファイアブリザード!!」

ドゴオオオオオオ!!!  
ゴオオオオオ……!!  
オオオ……

テンテンテン……  
真姫「もう一回……」  
絵里「ええ！」

ブワアアア  
ドゴオオオオオ!!!

ブワアアア

## 別の公園

凜「…………ふふ、凜たち二人とも試合に出れないなんてね」

花陽「も〜、笑い事じゃないよお…………」

凜「…………あはは、たしかに」

花陽「…………勝ってほしいね」

凜「違うよかよちんも」

花陽「？」

凜「勝つんだよ、みんなで」

花陽「凜ちゃん…………」

凜「……………」

凜「……………」

凜「……………／／／／／／カアアア

凜「……………恥ずかしいね、これ／／／／／／」

花陽「ようこそこちら側へ」

凜「いやだにや〜」

希宅

フー、フー

ズズズツ……………

希「……………っはー」

希「……………」

希「甘……………」

絵里宅

絵里「ただいまー」

亜里沙「お帰りお姉ちゃん！遅かったね」

絵里「……ちよつと色々あつてね」

亜里沙「ふーん？」

絵里「そうだ亜里沙」

絵里「貴方次の試合、雪穂ちゃんと花陽の場所に入つてくれる？」

亜里沙「……え？」

絵里「少し不安かもしれないけど、亜里沙なら大丈夫よ」

亜里沙「じゃ、じゃなくて！………花陽さんは？」

絵里「……少し肩を怪我しちやつて出れないのよ」

亜里沙「そんな………」

絵里「私たちの後ろ、任せたわよ」ポン

亜里沙「……うん」

ブルルルル



ピッ

亜里沙「雪穂？」

雪穂「やつぱりかけてくると思った、聞いたよ花陽さんのこと」

雪穂「ほんとにびっくりだよね」

亜里沙「うん……」

雪穂「びっくりしすぎておでん缶食べちゃったもん」

亜里沙「なんで悪いことみたいに言うの？」

雪穂「え、いやあ……えへへ」

亜里沙「ごまかした……！」

雪穂「それは置いといて、今は花陽さんのことだよ」

亜里沙「大丈夫かな……」

雪穂「決勝には出れそうだし大丈夫でしょ！」

亜里沙「そっか……」

雪穂「それより私たちの心配をしないとだよ」

亜里沙「……亜里沙、自信ない」

雪穂「今まで花陽さんについていってたけど、今度は私たちが引つ張って行かなきゃだからね」

亜里沙「……」

雪穂「大丈夫、花陽さんみたいにできるよきつと」

亜里沙「……うん」

雪穂「よし！それじゃあもう寝よつか」

亜里沙「心配で眠れないよお……」

雪穂「早く寝ないとセーラー服着たおじさんが亜里沙のこと連れてつちやうかもよ  
？」

亜里沙「ヒツ……！」サアア……！

雪穂「ほら、今も亜里沙の後ろに……」

亜里沙「あ……ああ……！」ガタガタガタガタ

雪穂「……つてまあそれは冗談として」

絵里「……亜里沙？」ポン

亜里沙「うわああああああ  
!!!!」

絵里「きやああああ  
!!!!」

雪穂「うえああああ  
!!!!」キーン……!

亜里沙「いやあああ!!」ダダダダッ!

絵里「亜里沙!?! 亜里沙あ!」

プツツ

プー、プー、プー、

雪穂「……………やりすぎた」

ことり「準決勝まで1週間もなかったけど、みんな必死に練習しました」

ことり「絶対みんなで決勝に行くんだから!」

ことり「みんな、頑張ろうね!」

ことり「えい、えい、おー!」

ことり「……………」

ことり「ちゅんちゅん」

海未「ちやんちやんみたいに言わないでください」

ことり「じゃあ海未ちゃんが言つてよ」

海未「ええ……………」

ことり「ほらせーの！」

海未「ち…ちやんちやん！」

ことり「どうして変顔するの？」

海未「してません!!」

穂乃果「あれ、花陽ちゃん予備のメガネあつたの？」

花陽「う、うん、コンタクトも持つてはいるんだけどメガネの方が楽だし」

凜「コンタクトのかよちゃんも見てみたかったにゃ〜！」

花陽「ふふ、ごめんね凜ちゃん」

## 第7話「v s 木戸川清州」

穂乃果「いやーきちやったね、準決勝」

海未「リーダーの貴方が何を言っているのですか、しつかりしてください」

ヒデコ「私とミカが出るよ」

ミカ「よろしく！」

フミコ「迷惑かけないようにしなよ〜？」

ヒデコ「あっはは、頑張るよ！」

希「わしわしー!!」

にこ「どおうわあ!？」ワシワシ

にこ「やめなさいよ!!」

ことり「良いではないか、良いではないか」

にこ「ことりも悪ノリしない!」

真姫「ねえにこちゃん、どおうわあつてアイドルには……」

にこ「誰もがみんな『きやあ!』なんて言えると思うなよ!……思うなよ!!」

真姫「そこまで必死にならなくてもいいじゃない」

凜「アイドルも大変だにや……あつ!」（水零し）

バシヤア!

花陽絵里「きやあ!」びっしより……

凜にこ真姫希「……」

花陽「だ、大丈夫、すぐ乾くから」

絵里「もう、気をつけなさいよ?」

凜「……二人はアイドルになれそうだにや」

希真姫　コクリ

絵里花陽「?」

にこ「ぬあんでよお!!」クワツ!

希「アイドルとは思えない顔をしているので自主規制」ピー

雪穂「……」カキカキ

亜里沙「……」カキカキ

穂乃果「ゆーきほ！何書いてるの？」

ことり「こ、これって……」

凜「そこにあつたのは……おびただしい数の……人」

真姫「何ナレーションチックにしてるのよ」

凜「雰囲気出るかなって」

海未「亜里沙、これは一体？」

亜里沙「雪穂に聞いたんです！緊張した時は人を丸呑みにしろって」

絵里「丸呑みはおかしい」

海未「亜里沙、それは手に書いて飲み込めばいいんですよ」

亜里沙「え……じゃあ亜里沙……手を食べないとダメなんですか？」

亜里沙「どうしよう……手、なくなっちゃう……」

穂乃果「そうじゃなくて、飲むフリでいいんだよ！」

雪穂「……ダメだよ」

穂乃果「え？」

雪穂「このプレッシャーは飲むフリなんかじゃ決して改善されない……」ガサガサ

雪穂「……なら！」ガサツ！

亜里沙「うん！」ガサツ！

雪穂「実際に書いて飲み込んじゃえば……」あー……

亜里沙「いただきまー……」あー……

穂乃果「こらこらこらこらああ!!」バツ

穂乃果「なにしてんの!？」ガシツ

穂乃果（……！手が震えてる……）

雪穂「離して！こうでもしないと……」

穂乃果「こんなの食べたって治るわけないじゃん！」

雪穂「！」ハッ



亜里沙「！」「ハッ

雪穂亜里沙「……たしかに」

ことり「人は極限状態に陥った時、突拍子もない行動をしてしまうんだね……」

にこ「雪穂まであんな風になるなんて……」

希「……それだけこの試合へのプレッシャーが強いつてことかな……」

絵里「大丈夫よ亜里沙」

亜里沙「おねーちゃん？」

絵里「もし失敗しても、みんなで支えあえばいい」

絵里「私たちがついてるわ」ニコッ

亜里沙「お姉ちゃん……！」パアアアア！

絵里「はい、元気になるおまじない」チュッ

亜里沙「えへへ……！」

にこ「姉妹でおでこにキス……さすがアメリカンね」

希「ロシア」

にこ「どっちも似たようなもんじゃない」

希「全く違う」

穂乃果「雪穂！」

雪穂「？」クルッ

穂乃果「んちゆく！」ガバッ

雪穂「いやああああ!!!」バツシイイン!!

穂乃果「ひでぶっ!!」ドサッ

雪穂「な、な、なにしようとしてんの!？」

穂乃果「緊張を和らげてあげよう……」

雪穂「今口狙ってたよね!?おでこじゃなくて!」

穂乃果「冗談だったのに」

雪穂「いや、目がマジだった」

穂乃果「……ふふ、手を見てごらん雪穂」

雪穂「は?……あ……」

穂乃果「大丈夫、雪穂は私の妹なんだから」クシヤクシヤ

雪穂「……なにそれ」ボサア……

穂乃果 ニッ

穂乃果 「よしみんな！」 バッ

穂乃果 「最初から実績なんてなにもない穂乃果たちにとって、負けて失うものなんてなにもない」

穂乃果 「全力を出し切れ！」

みんな 「おおおおおおお  
!!!!!!」

穂乃果 「……………いや、割とあるか、失うもの」

海未 「終わった後そういうこと言うのやめなさい!!」

勝 「ちよつとまぐれで勝ち上がってきたからって調子に乗りすぎっしょ」

友「僕たちとの差がどれだけあるか、わからせてあげましょう」

努「俺たちの本命はUTXだけだしな」

西垣「……………」

角間「さあやってまいりましたフットボールフロンティア準決勝、音の木坂対木戸川

清修!!」

角間「決勝へはすでにUTX高校が勝ち進んでおります!」

角間「決勝でUTX高校と戦うのはどちらのチームだあ!」

ここ「……UTXが幾つで勝ち上がったか知りたい?」

海未「……はい……いいえ」

ここ「6対0よ」

海未「……はあ」

ピーーーーー

角間「木戸川清修ボールでキックオフです!!」

ドッ

勝「おらおらお！」タッタッタッ

海未「はああ!!」ズザザッ!

勝「甘すぎつしよ！」バツ

勝「友！」ドッ

友「ふふ…」バツ

友「!？」

ことり「てやあ!!」ガッ

角間「南パスボールを弾いたあ!!ルーズボールは矢澤が拾ったぞお!!」

にこ「絵里、上がりなさい！」

絵里「ええ！」

にこ「ふっ！」ザッ ザザッ!

茂木「！」ガクッ

角間「矢澤抜いたあ!絢瀬、絶好のポジションニングです！」

勝「ちよ、まじ…!？」

にこ「絵里！」ドッ

絵里「……吹き荒れる……」パキパキパキ

絵里【エターナルブリザード!!】  
ドゴオオオオオオオ  
!!!!!!

角間「先に攻撃を仕掛けたのは音の木坂だあ!!」  
軟山「……!」

西垣「させるかあ!!」バツ

西垣【スピニングカット!!】  
ズシューウウウウ……!!  
ブワアアアアアア  
!!!!!!

シユルルルルル……!!  
……テンテンテン  
西垣「どうだ!!」トツ





友 タツタツタツ

角間 「再びドリブルで上がっていく武方三兄弟！」

海未 「デیفフェンス!!」

雪穂 (……花陽さんならこのタイミングで……!!) ダツ

亜里沙 (動き出すはず!) ダツ

ゴチンツ!!

雪穂 「うぐつ……!!」 ドサツ

亜里沙 「いっ……!?!」 ドサツ

穂乃果 「雪穂！」

絵里「亜里沙！」

友「バカすぎでしょう……」

友「努！」ドッ！

海未「しまった……!!」

グルグルグル

穂乃果「これ……杉森さんの……!」

努「バックトルネード!!」ドキュッ

ゴオオオオオオ  
!!!!

海未「穂乃果!!」

穂乃果 コク……

穂乃果「はあ……!!」バツ

ゴオオオオオオ  
!!!!!!

パチツ……パチツ……

穂乃果「!」

穂乃果（……分かる……みんなの力がパズルみたいに集まってくるのが……）

パチツ……パチツ……

パチツ……

穂乃果（……あと一つ足りない……）

穂乃果（多分これが……足りない最後のピース……）  
穂乃果（それがなんなのかはわからない……）

穂乃果【マジン・ザ・ハンド！】

ドギユルルルルルルルルルル！！！！

シューウウウウ………！！

穂乃果「……よし！」

角間「止おめたああああ！！！！真正面から武方のシユートを受け止めましたあ！！」

花陽「ナイス穂乃果ちゃん！！」

凜「乗ってきたにゃー！」

希「ふふ、グラウンドの外にいるのに一緒に戦ってるみたいやね」  
絵里「ほんとにね」

穂乃果「亜里沙ちゃん！」ドッ

亜里沙「ほっ……！」トツ　　チラッ

亜里沙（……敵が近くにいるけど……もう少し持ち込めるかな）

ミカ「亜里沙ちゃん！こっちに……」

亜里沙　　ダッ！

ミカ「ちよっ……！」

花陽「！」

角間「音の木坂絢瀬、武方に向かってかけていく!!」

亜里沙「っ……ふっ……!!」スウー……クルッ、ダッ！

友「そんな……!?!」ガクッ

努「ガキのくせに……」ガクッ

角間「まとめて二人を抜いたあ!!」

花陽（少し強引すぎる……）

海未「亜里沙！あまり無理をしては……」

勝「調子乗りすぎ………みたいなあ!!」ガッ

亜里沙「!?」ガクッ

角間「おぉーっ?!? 流石に無茶だったかあ! 武方勝に奪われてしまったあ!!」

ことり「あちゃー……」

にこ「呑気に構えてる場合じゃないでしょうが……!」

勝「まさかのチャンス到来……みたいなあ!?!」ダッ!

雪穂亜里沙「あっ……!」

ヒデコ「みたいなみたいなうるっさい!!」ズザザッ!

勝「ぬおお!?!」ドサッ

ヒデコ「よっ!」ドッ!

角間「ここは大きくクリアしました、木戸川西垣へとボールが移ります!」

穂乃果「いいよヒデコ!」

ヒデコ「任せてよ!」

西垣「もう一度だ！」ドッ

茂木 トッ

海未「行かせません」ザッ

茂木「！」ザッ クルッ！

海未（…甘い！）ガッ！

茂木「…つち…！」グラッ…

グイッ！

海未「!?」ドサッ！

海未（い…た…た…今のはフアールではないのですね…）

角間「茂木が強引にドリブル突破あ!! 笛はなっています！」

茂木（…前線にパスを…）バッ

ぞくつ…

茂木「!?」ドツ!

勝「まかせろ!」トツ

にこ「させないわよ!!」

にこ西垣【スピニングカット!】

ズシューウウウ…!!!

シューウウウ…

勝「うお…!!!危機一髪…!みたいな?」

にこ「邪魔すんじゃないわよ!」



西垣「お前が俺の技をとるからだ!!」

にこ「だからにこのだっていつてんでしようが!」

西垣「俺のだ!」

にこ「にこ!」

西垣「俺……」

友海未「それ今じゃないといけませんかね!」

西垣にこ「……ごめん」

茂木「………?」キョロツ

茂木（…今のは………?）

ことり「……………」ジーーーーー……………」

勝「このまま先取点はいただきつしよ！」タツタツタツ

雪穂亜里沙「行かせない!!」ザッ

勝「ガキンチョなんかには負けるわけない、みたいなあ!」ダッ!

雪穂（……………この距離なら亜里沙が先に行つて……………）

亜里沙（……………雪穂が先に行つて……………）

雪穂亜里沙（私（亜里沙）は横からスライディングの形がベスト!）バツ

勝「……………ん?」

タツタツタツ

花陽「……………え?」

にこ「んなつ……………!?!」

雪穂亜里沙「あ」

角間「……武方勝抜いたああ!?!」

角間「DFの高坂と絢瀬が左右に走り、その間を武方勝が悠々駆け抜けていく!!」

勝「いくぜえ!!」バツ

グルグルグル

勝【バツクトルネード!!】ドキユツ!!

ゴオオオオオオオ  
!!!!!!

穂乃果「はああ!!」グツ

ゴオオオオオオ!!!

パチツ……パチツ……

穂乃果（……そうだ、たとえこの最後のピースがわからなくても）

穂乃果（ほかのピースを大きくすれば、この穴を補えるんじゃないや……?）

ググググツ

穂乃果【マジン・ザ・ハンド!!】

シユルルルルル……!!!

シユウウウウ……!!

穂乃果「……少し、パワーアップした……!」

ピクッ……!

穂乃果「っ……いつもより体に負荷がかかる……か」

監督「……」

角間「またもや止めたあ!!これは頼もしいぞ!!」

角間「前半は残り半分ほど、先取点を勝ち取るのはどちらのチームだあ!」

にこ「……そんなに大した差はないけど……」

海未「……一つ……課題ですかね」

雪穂亜里沙「ヒデコ先輩!」

ヒデコ「ん……んん!?」ピクッ

雪穂「右の人マークです!」

亜里沙「左の人マークしてください！」

ヒデコ「おおっと……？」ピタッ

海未「……はお……」

海未「ヒデコ！目の前の方をマークしてください！」

ヒデコ「了解！」ダッ！

雪穂亜里沙「あっ……」

雪穂「とめる！」ザッ！

勝「！」ピタッ

雪穂（よし……！この隙に亜里沙が……）チラッ

亜里沙「え、そっち!？」ザザッ

雪穂（なっ……！逆!?!）

勝「何ぼーっとしてんだ、みたいなあ！」ダッ！

雪穂亜里沙「あっ……！」

角間「どうしたどうしたあ!? デイフェンスが噛み合っていないぞお!!」

希「……花陽ちゃんたちの穴は虫歯みたいなものってことかな」

真姫「……どういふこと？」

希「ぱつと見た感じはそこまで大きくないけど中身は大穴が空いてるってやつ」

真姫「……言いたいことはわかったけど虫歯って……」

希「いや、他にいいのが浮かばなくて……」

ミカ「お願いします!」 ドツ

希「了解!」 トツ

茂木 ザツ

希「……いくよお!!」 バツ!

クルツ                    スタツ

希【イリユージョンボール】

茂木「!?」ガクツ

角間「抜いたあ!!ドリップルで上がっていく!」

希「真姫ちゃん!」ドツ!

真姫「ええ!」トツ

真姫「ふっ」ダンツ!

グルグルグル

真姫【ファイアトルネード!!】ドキユツ!!

ゴオオオオオオオ  
!!!!!!



西垣「させるかよ！」バツ

西垣にこ「スピニングカット！」

ズシューウウウウ……!!!

シューウウウウ……

角間「こ、これはあ!!西垣の必殺技を相殺したあ!？」

西垣「つち……」

にこ「いやーん!お顔が怖いにこ〜」

ゴオオオオオオ!!!

軟山「……!!」グッ

軟山「タフネスブロック!!」フンッ!

シユルルルルルル!!!  
ボンッ!

角間「これもキーパー軟山、見事なブロックです!!」

勝「よっしゃー! ナイスセーブっしょ!」

真姫「……!」スタツ

ピッピッピッピッピッ

角間「ここで前半終了のホイッスル! 両者無得点で前半を終えました!」

雪穂亜里沙　ズーーン……………

にこ「あそこだけ負のオーラすごいんだけど……」ゴクゴク

希「こればかりはなあ……」パクッ

希「すっぱあ〜!」

真姫「レモンの蜂蜜漬け……ことりのお菓子スキルには驚かされるわね……」パクツ  
真姫「っ……………っ……………！」スツパー……………！」

ことり「あ、ごめん……あんまり蜂蜜に漬かってないところだったのかも……」

真姫「み、水……!!」ゴクゴク

真姫「っ……………!!」シワシワ

凜「酸っぱいの食べた後にお水飲んだら口の中キュワってなるよね」

にこ「なにそのわけわかんない擬音は」

凜「うまい擬音が出てこなかったにや」

絵里「……………ほら、レモンの蜂蜜漬けよ」

亜里沙「……………ありがと……………」しょんぼり

穂乃果「そんなに落ち込んでないで、後半も頼んだよ！」

雪穂「……………うん」しょんぼり

絵里穂乃果「……………」うーん……………

花陽「どうしたの？」

雪穂亜里沙「！」

花陽「二人らしくなかったけど」

亜里沙「……………だって…」

雪穂「……………花陽さんの抜けた穴は大きかったってことですよ……………」

花陽「二人とも……………」

フミコ「……………」

フミコ「……………」コクッ

ヒデコ「……………」

ミカ「……………」

ヒデコミカ                   コクッ

「みんなが待ってるの!!」

花陽「どうしたの？」

雪穂亜里沙「！」

花陽「二人らしくなかったけど」

亜里沙「……………だって……」

雪穂「……………花陽さんの抜けた穴は大きかったってことですよ……………」

花陽「二人とも……………」

フミコ「……………」

フミコ「……………」コクツ

ヒデコ「……」

ミカ「……」

ヒデコミカ                      コクツ

角間「いよいよ後半が始まります！」

角間「どちら也讓らぬ攻防戦、勝利の女神はどちらに微笑むのでしょうか!!」

希「雪穂ちゃんたち大丈夫かなあ……」

にこ「それも心配だけど、シユートは大丈夫なの？」

真姫「……あのキーパー思ってたより堅いわね」

絵里「【ホワイトダブルインパクト】なら亜里沙に上がってきてもらわないとだけど、  
守備がかなり手薄になるわ」

海未「……とりあえず、プレイしながら考えましょう」

ピーーーーー

ドツ

角間 「始まりましたあ!!」

絵里 「ことり!」 ドツ

ことり 「うん!」 トツ

茂木 ザツ

ことり 「……………」 うーん……

タツタツタツ

ことり 「……………!海未ちゃん!」 ドツ!

海未 「はっ!」 ドツ!

ことり 「さすが海未ちゃん!」 トツ

角間 「南、園田の連携で突破していく!!」

凜 「いけー!」

ことり 「にこちゃん!」 ドツ

にこ 「任せなさい!」 トツ

西垣 「ここで白黒つけてやる!!」 ザツ

にこ 「かかってきなさい!」

西垣「スピニングカット！」

にこ（きた……！）ガッ

ことり（……これ……！）

花陽（相手が技を出す瞬間にバックパス……！）

にこ（にこしか見てないあんたならこれは止められないでしょ……！！）

花陽（……でも）

ズシユウウウ……！！！！

ブワアアアアア！！

にこことり「うわああ！！」ドサッ

テンテンテン………

西垣「俺を甘く見過ぎたな」トッ



にこ「……ふんっ！花持たせてやったのよ」

花陽（あの人はにこちゃんだけじゃない、にこちゃんの左右、後ろ、全ての可能性を  
考えてた……）

西垣「努！」ドツ！

花陽（どこにでもいる選手じゃない…）

努「いくぜえ!!」トツ

雪穂「！」バツ

亜里沙「止める！」バツ

雪穂（私が先に突っ込めば亜里沙がサポートしやすいはず…!）

亜里沙（私が先に行けば……!）

ドガア!

雪穂亜里沙「うわあ!」ドサツ

角間「まともや衝突…!!大丈夫かあ!?!」

花陽(自分のことに精一杯で周りが見えてない……!)

勝「いくぞ!!」バツ

友「もちろん!」バツ

努「任せろ!」バツ

にこ「穂乃果、来るわよ!!」

穂乃果「……!」グツ……

—————

にこ「木戸川の戦略は……ざっくり言うとUTXと同じよ」

穂乃果「UTX?」

花陽「主力、点取り屋を3人置いて後のメンバーは守備に重点を置くことです」

海未「つまり、UTX並みの必殺技を持っている…と」

にこ「その通りよ」

絵里「で、その必殺技っていうのは？」

花陽「……………」

勝「てやあ！」ドキユツ！

努「友！」ドキユ！

友「ふんんん!!」ググツ！

勝「んぐぐ……………!!」ググツ！

友「はあ!!」グンツ！

ドキユツ!!!

ゴオオオオオオオ  
!!!!!!!

クルクルクル

スタツ

武方三兄弟【トライアングルZ!!】

花陽「ズバリ、【トライアングルZ】です」

穂乃果（この技……たしかにUTXと同レベルの迫力……!!）グッ

ゴオオオオオオオ  
!!!!

パチツ……パチツ……

穂乃果（……さつきよりも少しパズルを大きく……）

ググググ

ギチツ

穂乃果（……！枠の大きさは決まってるから無理やり大きくしちやうと……）

穂乃果【マジン・ザ・バンド!!】

ドシユルルルルル!!!!

勝「いけえ!!」

穂乃果「…っ…ぐぐ…!!」ズズツ

友努「はああ!!」

穂乃果「…っ…!?!」ブワツ!

ドサツ!!

勝「よっしやあ!!」

ガアン!

努「げっ…」

角間「高坂吹き飛ばされながらもなんとかシユートを弾いたあ!!」

角間「ボールはゴールポストに直撃、誰がボールを死守するんだあ!?!」

花陽「ナイスセーブ!」

海未「よく止めましたね、穂乃果」

穂乃果「えっへへ…」ムクツ

ピクピクッ……!

穂乃果（っ……さつきよりも負荷が……!）

ポーン……!

亜里沙友「はあ!」バツ

ガッ……!!

亜里沙「きやあ……!」ドサツ

テンテン……

勝「ナイス友!」

にこ（まずい……）

にこ「また来るわよ! ディフェンス固めて!!」

雪穂「はい!」ザッ

亜里沙「……はい!」ムクッ

勝「そんなザルなディフェンダーに止められるわけないっしょ!」ヤレヤレ

雪穂（……無視無視）

雪穂（この状況、花陽さんならきつとベストな判断を出せる……）

亜里沙（でも……）

雪穂亜里沙（私（亜里沙）にはもう何が正解なのかわからない……） ザツ……

花陽（二人の足が止まってる……!!）

海未「ヒデコ、ミカ！二人のカバーを……」

海未「！」

「亜里沙は緑のモヒカン、雪穂はピンクの73をマーク!!」

亜里沙雪穂「！」

ヒデコ「こいつはわたしらに任せて！」

亜里沙雪穂「は、はい！」 ダツ！

努友「……つち……！」 ジリッ

海未（……私が指示を出す前に……）



勝「……なかなかやるじゃん？」

ヒデコ「あんたらのうち一人でも止めればあの大技は出せないでしょ？」

勝「でもお前みたいなの素人に俺を止められるわけない、みたいなあ!!」ダツ

ヒデコ「止めるのは私じゃないよ」

ヒデコ「ミカ！」バツ

勝「なに…!？」

ミカ「うん！」ダツツ!!

キラッ!

ミカ【シューティングスター!!】

ドゴオオオオツ!!!

勝「ぐわああ!!」ドサツ

角間「DF二人の新必殺技でなんとかピンチをしのいだあ!!」

角間「しかしまだゴールは目の前、油断はできない!!」

ことり「すごい二人とも!!」

穂乃果「ヒデコー!ミカー!ナイスブロックウウ!!!」

ヒデコ「頑張るって言ったでしよ!」

ミカ「ふふん……!」ブイツ

雪穂「ヒデコ先輩、ミカ先輩……ありがとうございます!」

亜里沙「ありがとうございます!」

ヒデコ「二人とも焦りすぎなんだよ、ほら、ミカとボール回してるから少し深呼吸し

な」ドツ

ミカ トツ

雪穂 スウ……ハア……

雪穂（……たしかにあの大技にはびつくりしたけど、誰かを止めれば打てないなんて簡単にわかるはずなのに……）

亜里沙（どうして気がつかなかったんだろう……）スウ……ハア……

雪穂（前半亜里沙と衝突したのもそう、周りが見えてれば衝突なんて回避できたはずなのに……）スウ……ハア……

亜里沙（花陽さんの分も……って、気負い過ぎてたのかな……）スウ……ハア……

雪穂亜里沙「……」

雪穂亜里沙 スッ

ヒデコ「……ふふ、落ち着いたかな」ドッ

ミカ「助っ人同士、プレッシャーの重さはよくわかるからね」

ヒデコ「正直まだ足震えてるもん」

ミカ「私も」ドッ

ヒデコ「でもやっぱり……」トツ  
雪穂「ください！」タツタツタツ

ヒデコ「後輩の前ではカツコよくいたいものなんだよ！」ドツ！

雪穂「ほっ！」トツ

花陽（……がんばれ、雪穂ちゃん、亜里沙ちゃん）ギユツ

友「多少動きが良くなったぐらいで調子に乗らないことですね！」ザツ  
雪穂「……………狩の基本って知ってますか？」

友「……は？」

雪穂「決して自分は見つからないこと」フツ

友「き、消えた……!?!」

サアアアアアアア………

雪穂「木々のざわめきに足音を隠し」ザザツ

友「ど、どこに……!」キヨロツ

雪穂「過ぎ行く風に匂いを隠し」

友（声はするのに姿が見えない……）

雪穂「決して獲物に見つかってはならない」

雪穂【ハンターズハイド】

タツタツタツ

角間「い、一体何が起こったんだあ!!」武方友、棒立ちのまま抜かれてしまったあ!!」

角間「気配を消し、デیفエンダーの目を欺く新必殺技だあ!!」

勝「なにやっつてんだよ!!」

友「……消えたんです……」

勝「はあ!」

友「……声はするのに……」

勝「……つち……!行くぞ!」ダツ

友「……」タツタツタツ

にこ「……今はあの子らの好きなようにさせるのが一番良さそうね」

希「人が成長する瞬間ってなんでこんなにワクワクするんかなあ」

にこ「そうね」

希「……………いいなあ」  
にこ「？」

雪穂 タツタツタツ

亜里沙 コクツ

雪穂「亜里沙！」ドツ！

亜里沙「うん！」トツ

亜里沙「……………」

チラツ

キツ！

バチイ！

絵里「！」

絵里（……了解）ダッ！

真姫「……？」ダッ

亜里沙（……助っ人として、チームの一員として……）

亜里沙（今、最高のボールを出してみせる……!!）ザッ！

絵里　　タッタッタッ

亜里沙「……そこっ!!」ブワアア……！

パキパキパキパキ

亜里沙【氷の矢!!】

ドキュウウウ  
!!!!



角間「こ、これはあ!? 針の穴を通すかのようなロングシュート!!」

角間「一直線に絢瀬の元へ向かって行く!!」

海未「…亜里沙まで新必殺技を…!」

にこ「やるじゃない…!」

絵里「…っ…はあ!!」 トッ

絵里（あ、やばっ…!） ポーン…!

角間「おおっとトラップミスかあ!? ポールは高くバウンドしながら木戸川ゴールへ転がって行きます!!」

軟山「…!」 グッ

絵里（まずい…! 一度トラップして…）

真姫「絵里! そのままダイレクトで行くわよ!!」 タツタツタツ

絵里「え、真姫!」

真姫「はやく!!」

絵里「ああーもう! わかったわよ!!」 ダッ!

絵里

ゴオオオオオオ

真姫

ゴオオオオオオ

フワツ………

ドキュウウツツツ!!!

絵里真姫「いつけえええ!!!」

ゴオオオオオオオオ

!!!!!!

角間「こ、これは!?!前回の試合で見せた新必殺技です!!」

角間「今回は迷いなくゴールへ向かっていきます!!」

にこ「いけ!!」

希「決まって!!」

軟山「タフネス……」

ゴオオオオオオオオオ

軟山「う……うわああ!!!」

ドシユルルルル……

!!!!!!

バツ

角間「決まったああああ!!先取点は音の木坂です!!」

ワアアアアアアアアア

勝「そんな……ありえないっしょ……」

友「僕たちが……先制？」

努「……このまま終われるかよ……!」

凜「やったあ!! 一点リードだよ、かよちゃん!!」

花陽「うん、やったあ!!」

凜「このままいけば……」

花陽「みんな……頑張つて……!」ギユツ!

雪穂（……二人とも……）

亜里沙「雪穂、どうしたの?」

雪穂「……! な、なんでもないよ!」

希「えりちさつすがあゝ!!」

絵里「……どうして成功したのかしら……」

希「本人がわかってないんかい……」

真姫「……」クルクル

にこ「真姫も良くやったわ!!」ガバツ

真姫「ヴェエ!!抱きつかないで!!」クルクルクルクル

穂乃果「あの髪の毛くるくるって嬉しさに比例するんだね……」

海未「犬みたいですね」

ことり「海未ちゃん……」

ヒデコ「やったね、二人とも!」

雪穂亜里沙「ありがとうございます!」

穂乃果「穂乃果は鼻が高いよ!」

雪穂「お姉ちゃんは関係ないけどね」

穂乃果「……雪穂がイジワルする……」

絵里「ごめんなさい亜里沙……せつかくのパスをキャッチミスしちやって……」

亜里沙「ううん、大丈夫!」

亜里沙「次はもつといいパス出して見せるから!」ニコツ

絵里「ああああもううちの妹ハラシヨオオオ!!」ナデナデナデ

にこ「戻ってきなさい」

穂乃果「よし、後半残りもこの調子で行くぞー!!」

みんな「おー!」

海未「そういえば穂乃果」

穂乃果「ん？」クルッ

海未「……ナイスセーブ」スッ

穂乃果「……！」

穂乃果「…………！」

穂乃果「……まあね」スッ

コツン………！

雪穂「あ、ヒデコ先輩！」

ヒデコ「どうしたの？」

ミカ「？」

雪穂「私たちから見て先輩たちはいつだってかつこいいですよ！」

ヒデコミカ「……」

亜里沙「左に同じです！」

雪穂「逆かな」

亜里沙「逆？」

雪穂「まあいいや、それじゃあ！」タツタツタツ

亜里沙「待って雪穂〜！」タツタツタツ

ヒデコミカ「……」

ヒデコ「……もしかして聞かれてたのかなあの時」

ミカ「……だね」

ヒデコミカ「……」

ヒデコミカ「ハツズイ……」

タツタツタツ

ヒデコ「……あれ？雪穂たちが戻ってきた」

雪穂「あの！やりたいことがあるんですけどいいですか!?!」

亜里沙「ですか！」

ヒミ「？」

角間「さあ後半まだ時間は残っております！」

角間「木戸川清修が同点ゴールを決めるか、音の木坂が追加点を決めるか、ひと時も目が離せません!!」

木戸川「0—1音の木坂

ピ—————

ドツ

勝「こんな新参校に負けなんて……」トツ



友「僕たちのプライドが許しません!!」

努「俺たちのトライアングルは無敵だ!!」

にこ（一度止めてるんだから無敵じゃないけどね）

ことり「このまま逃げ切らせてもらいます!」ザッ

勝「俺たち三兄弟の連携を見せてやる!」ドッ

ドッ、クルツ、ザザッ!

ことり「さ、3人が入り乱れて何が何だか……」

海未「はああ!!」ズザザッ

努「ふんっ!」ドッ

ククツ、トツ、クルツ

にこ「こいつら……さっきまでと動きが違う……!」

希「さっきまでは個人技中心だったのに急に連携重視……!」

花陽「……この急激な変化に対応しきれなければ、一気にピンチになる……」

勝「西垣!」ドッ

西垣「おう!」

角間「一度西垣へとボールを戻したあ!」

にこ「……また会ったわね」

西垣「悪いが相手をする気は……無いんでね!!」ドツ  
にこ「なっ……!!」

海未「しまった!!」

角間「これは西垣見事なパスだあ!!敵の意表を突き前線の武方勝へと一直線にボールが向かう!!」

勝「ドンピシヤア……!みたいなあ!!」トツ

努「いくぜえ!」

友「覚悟してください!」

にこ「デیفエンスの隙間を……!!」

ヒデコミカ雪穂亜里沙「……」

ニヤツ

勝「よっしゃー!!トライアングル……」

ピピーーーーー!!

勝「なっ……?」

審判「オフサイド」バサア!

三兄弟「はあ!」

角間「少し攻め急いだから武方三兄弟!!」

勝（いや……この感じは……）

友「やられましたね」

凜「おふさいどとらっぷ?」

花陽「うん、パスの直前、ディフェンスラインを少しあげることでオフサイドを誘う高等テクニク」

花陽「一歩間違えると相手のチャンスに変わるし、何よりタイミングが難しいの」

凜「へー、なんだかすごいにやー!」

花陽（わからなかったんだね、凜ちゃん……）

真姫「いつの間にそんな作戦……」

絵里「前半の堅さは完全に取れたみたいね」  
ヒデコ「ナイスタイミングだったよ、雪穂」

雪穂「成功してよかったです！」

亜里沙「雪穂、ハラショー！」

雪穂「ふふ、ありがとう亜里沙」

角間「音の木坂ボールで試合再開です！」

観客席

ツバサ「はやく！試合終わっちゃわわ！」

エレナ「まあそう焦るな、まだ試合時間は残ってる」

ツバサ「でももうほとんど残って無いじゃない!」

あんじゅ「それはツバサが外の屋台でたこ焼きとかアイスとかいっぱい食べてたからじゃない」

ツバサ「そんなことないわ!」(両手にたこ焼き、コーンのアイス、焼きそば)

エレナ「浮かれすぎだろう」

ツバサ「だ、だつて前の監督の時は…お祭りとか全然行けなかったから……」

エレナ「……ふう…で、試合はどうなんだ?」

ツバサ「そ、そうよ!ええつと……」バツ!

ツバサ「……………」

あんじゅ「……ツバサ?」

エレナ「…まさか、負けているのか?」

ツバサ「……1……0」

ツバサ「勝ってるうう……」ふにややあ…

エレナ「ふふ、よかつたなツバサ」

ツバサ「もちろんよ、絶対リベンジするんだから!」

あんじゅ「試合時間もそこまで残ってないしこれで決まりかしら?」

エレナ「……いや、こういう時こそ最後の一発が怖いんだ」

ツバサ「全く……穂乃果さんたちがそんなのにやられるわけないじゃない」

エレナ「もちろん私もそう信じてるよ……おや？」

あんじゅ「どうしたの？」

エレナ「小泉花陽と星空凜がいないな……」

ツバサ「ほんとね、どうしたのかしら……」

エレナ「……」

勝「行くぞ!!」ダッ!

雪穂「止めます!」

亜里沙「ます!」

勝「……来たなザルディフエンダーが…!!」

雪穂（2対1……）

亜里沙（他に味方はなし……）

雪穂亜里沙（花陽さんなら……）

勝「おらあ！」ダツ！

雪穂亜里沙「……いや」グツ……

雪穂亜里沙「亜里沙（雪穂）なら!!」バツ！

勝「なっ……！」

雪穂「はああ!!」ズザザツ

勝（スライディング……こんなの跳べば）バツ！

ドツ！  
ビキビキビキ

勝「……!?しまっ……！」

カキーン





海未（……この攻撃が最後の攻撃）

海未「気を抜かないように!!」

デイフェンス陣「はい!!」

勝「おらおらおらあ!!」ダッ!

雪穂「止める……!!」ザッ

雪穂【ハンターズネット!!】

ブワアアアアアア!!!

勝「うわあ!!」ドサッ

雪穂「よし……!」

テンテン……

友「次は僕の番です!」トッ

亜里沙「行かせません!」ザッ

友「…っ！」

亜里沙「はあ！」ガガッ！

友「ふっ！」ザザザッ

ガッ ザザッ トトッ ザッ

雪穂「亜里沙！」ダッ

友（…！来ましたね…!!）

凜「…!!」ピクッ

花陽「ダメ雪穂ちゃん!!」

友（二人をこれだけ引き付ければ…!!）チラッ

勝努 コクッ

友「…これが僕たちの、全力の攻撃です!!」ドッ！

雪穂亜里沙「…しまった…!!」

穂乃果「っ…!!」グッ

エレナ（…小泉花陽と星空凜がいれば今の隙は生まれなかつただろう…）

エレナ（彼女たちの穴は大きすぎる…）

ドキユウツ  
!!!  
ゴオオオオオオオオオオ  
!!!!!!

勝「おりやあ!!」ドツ!  
努「……つらああ!!」ドツ  
友「これが僕たちの……!!」グンツ!

クルクルクルツ

スタツ

武方三兄弟〔トライアングルゼエエツト!!!〕

ゴオオオオオオオオオオ!!!

ツバサ「……この技……」

エレナ「……私たちのトライベガスと……いや、それ以上だな」

あんじゅ「最後の攻撃ほど怖いものはない、まさにその通りね」

ツバサ「穂乃果さん……」

にこ「こいつら……どこにこんなパワーを……!!」

希「最後の最後に……」

海未「穂乃果!!」

穂乃果「……………」スウ……………」

穂乃果「……………」ハア……………」

穂乃果（……………怖いけど……………）

穂乃果（みんなと決勝に行くため……………）

穂乃果（UTXと戦うため……………）

ゴオオオオオオオオオオ  
!!!!

穂乃果「やれることは全部やるんだ!!」バツ

パチツ……………パチツ……………

穂乃果（……………杵が壊れたらどうなるかわからないけど……………）

ギチツ……………!

穂乃果（お願い……………）

ギチチツ……………!

穂乃果「みんなが待ってるの!!」グググツ!!

ピシイ……………!

花陽「……………」

凛「……………? どうしたのかよちん?」

花陽「わからない……………わからないけど……………」

花陽「……………嫌な感じ」

穂乃果 「う……ああ……!!」グググッ

穂乃果 (結構きつい……けどこれで)グググッ

穂乃果 「戦える!!」バツ

穂乃果 【マジン・ザ・ハンド!!】

ドギョルルルルルルル!!!!

武方三兄弟 「いけえええ!!」

みんな 「とまれええー!!」

穂乃果 「はああ!!」グググッ

ズズズッ!

穂乃果 (押し……こまれる……!)

武方三兄弟 「らあああ!!!」

ギョルルルルル……!!!



穂乃果「……………っ……！あああああ!!!」グツ！

ツシユウウウウ……………！

穂乃果「……………」

みんな「……………」

角間「……………」

シーリーン……………

角間「……………?」

角間「……………つ」ハッ

角間「止めたあああ!!!」

ワアアアアアアアアア

角間「武方三兄弟の渾身のシュートを見事、完全に受け止めましたあ!!」

勝「……………冗談つしよ……………」

ピッピッピーーーーー!!

角間「ここで試合終了のホイッスル!!決勝へ進出したのは音の木坂だああ!!!」

ワアアアアアアアアア!!!

穂乃果 「はあ……はあ……」

穂乃果 「あっはは……膝が笑ってる……」 ガクガク

穂乃果 （……少し亀裂が入っただけでこのダメージ……）

穂乃果 （完全に壊れるとどうなるんだろう……） チラツ……

穂乃果 「……ありがとう、穂乃果のマジンさん」 ニコツ

マジン 「……」

ドロツ

穂乃果 「……え」

海未 「穂乃果ああ!!」 ガバツ

穂乃果 「うぶっ……!」

ことり「穂乃果ちゃん！」ガバツ

穂乃果「か、体がああ!!」ミシミシイ……!

希「いやー何だかんだ勝ったね〜」

真姫「…当然よ」クルクル

希「もー素直じゃないな〜真姫ちゃんは〜」ワシワシ

真姫「当たり前のようにワシらないで!!」

絵里「今日は助っ人メンバーがMVPね」

穂乃果「そうだよ! すっごい良かった!!」

雪穂「そ、そんな……前半迷惑かけちゃったし……」

亜里沙「ありがとうございます!」

ヒデコ「うん、すごく良かった!」

穂乃果「ヒデコとミカもだよ!」

ヒデコ「え? ……わぷっ!」ガバツ

穂乃果「日頃からサポートしてくれたり……」

穂乃果「ヒデコたちが助っ人で本当に良かった……!!」

ヒデコ「……も〜、なにそれ? まだ決勝残ってるんだよ?」

穂乃果「わかってるよ! でもとにかく伝えたかったの!」

ヒデコ「はいはい、ありがとう」ヤレヤレ

穂乃果「ひどい…!!」ゴーン

海未「それではみなさん、戻りましょうか」

みんな「はいい！」

人気がない場所

ヒフミ「……っふー……」ドサツ

フミコ「いやー勝てて良かったね〜」

ヒデコ「最後は少しひやつとしたけどさすが穂乃果だよね〜」

ミカ「わかる〜」

ヒデコ「今日穂乃果にお礼言われたんだ、私たちが助っ人でよかったって」

フミコ「あーそれ私も言われたよ、試合出てなかったのに」

ミカ「普段から支えてくれてありがとうって……ね？」

ヒデコ「穂乃果たちといるだけで毎日刺激的なんだから、こつちこそありがとうだよ  
ね」

フミコミカ「ねー」

ヒデコ「ああ……今になって震えて来た」フルフル

ミカ「うわ、めちゃくちゃプルプルしてる！」あはは！

フミコ「遅すぎでしょ」

ヒデコ「……………」

フミコ「ヒデコ？」

ヒデコ「……………今日、さ……試合出るってわかってたけどすごい緊張しててさ」

フミコ「……………」

ヒデコ「もし私のミスで負けたらどうしよう……とか、足引つ張つちやつたらどうし  
よう……とか」

ヒデコ「嫌な想像ばかり浮かんでてさ……」

ミカ「……………」

ヒデコ「でもいざ試合となったら普段試合に出てる後輩の方が空回ってるんだもん」

ヒデコ「それに気づいてからは緊張なんかより何とかしなきゃって気持ちの方が強く

なつて……」

ヒデコ「試合が終わってみれば」

ヒデコ「後輩からかっこいいって言われて、みんなからもお礼を言われて……」

ヒデコ「私は……物語の脇役、なのに……」

ポタポタ……

ヒデコ「こんなに幸せでいいのかなあ……」ポロポロ

ミカ「……うん……いいんだよ、それで」

ヒデコ「う……っ！ズズ……」ポロポロ

ヒデコ「すっごい……幸せなんだあ……」ポロポロ

フミコ「友達なんだから助けて当然って思ってたけど、やっぱり……感謝されると嬉

しいもんね」ナデナデ

ヒデコ「……っ……わた、し……！」ポロポロ

ヒデコ「っ……………」

ヒデコ「このチームの助っ人でよかったあ！」

にこ「ちよっとお手洗い行ってくるわ」

希「更衣室で待つてるな」

にこ「ええ」

凜「アイドルはトイレしないんじゃないの？」

にこ「…………お化粧直しよ」

凜「でもにこちゃんいつもお化粧してないにや」

にこ「うぐっ……………」

希「やめとき凜ちゃん、アイドルにも色々あるんよ……………」

凜「アイドルの闇は深いにや」



バシッ!

凜 「いにや……!?!」

希 「凜ちゃんが逃げられへんのをいいことに……」

にこ 「すぐ戻るわ」 スタスタ

にこ 「えーつと……あ、ここね」 スタスタ

にこ 「混んでなくて助かったわ……」

「……ちよつといいか?」

にこ 「……なによ、今取り込み中……」 クルツ

にこ 「!」

にこ 「……あんた」

西垣 「……さっきの試合、俺たちの負けだ」

西垣 「約束通り、あの技はお前のものだ」

にこ「……」

にこ「たしかに、私たちが試合に勝ったけど……」

にこ「私はあるに一度も勝ってない」

西垣「！」

にこ「一勝一敗って事で保留にしといてあげるわ」

西垣「お前……」

にこ「ありがたく思いなさいよ」

西垣「……」

西垣「それだと俺の勝ちでよくないか？」

にこ「はあ!? あんたそういうこと言うの!？」

西垣「だって個人では勝ってるわけだし……」

にこ「あんたがルール決めたんでしょうが!!」

西墻 「そうだけど……」

ここ 「そうなのよ!!」

西墻 「……まあいいか、今日のところは引き分けだ」

ここ 「……ええ」

西墻 「決勝、頑張れよ」

ここ 「任せなさい」

西墻 「それじゃあ」 スタスタ

ここ 「……」

西墻 「……やっぱり俺の勝ちで……」 クルツ

ここ 「早よ行け!!」

「ツバサさんって呼んでいいですか!!」

更衣室外

監督「おーい！邪魔にならないように早く行くぞー！」

更衣室

ヒフミ「はーい！」

真姫「ちよつとにこちゃん！私のシーブリーズ勝手に使ったでしょ…!!」  
にこ「なによそれぐらいケチくさいわねー、減るもんじゃあるまいし」

真姫「がつつり減ってるから言ってるのよ!!」

希「あ、あれ？胸がきつい……」ググツ

海未「それは私のです！返しなさい!!」バツ

希「ご、ごめん……」

海未「どうせ私は……胸も何もない人間ですよ……」 シクシク  
希「そこまで卑屈にならなくても……」

絵里「亜里沙、私のマトリョーシカ知らない？」

亜里沙「知らないーい」

ことり「ほ、穂乃果ちゃん大丈夫？」

穂乃果「ひ、疲労感が……」 ダルー……

雪穂「まあ……今日は頑張ったからね、手伝ってあげるよ」

穂乃果「ゆううぎいほおお!!!」 ダー……!

雪穂「鼻水汚い」

花陽「あれ……ねえ凜ちゃん、あれって……」

凜「どれ?……あー!!」

穂乃果「どうしたの凜ちゃん？」

凜「あれ!」

穂乃果「あれ?」

凜「あれ!」

穂乃果「あれれ?」

凜「あ……んふふ……ふざけないで！」

穂乃果「ごめんごめん……って……」

穂乃果「えええええ!!」

「!」クルツ

タツタツタツ

ツバサ「久しぶりね」

穂乃果「どうしてここに……」

ツバサ「あなたたちの試合を見に来たに決まってるじゃない」

穂乃果「……やっとな……ここまで来れました」

ツバサ「あとで少し、向こうで話せないかしら」

穂乃果「は、はい!今すぐにも……!!」バツ

ツバサ「……その格好で出るつもり?」

穂乃果「え?……あつ……// //」

海未「穂乃果!! なんとという格好でそんなところにいるんですか! 早く中に戻りなさい!!」

穂乃果「ご、ごめんなさ〜い!!」

穂乃果「それじゃあとで…!」

ツバサ「ええ」フリフリ

穂乃果「えーつと……」キョロキョロ

ツバサ「こつちよ」フリフリ

穂乃果「す、すいません待たせちゃって……」

ツバサ「いいのよ、こつちが急に言い出したんだから」

ツバサ「とりあえず……」スツ

ツバサ「試合お疲れ様、これは私からのプレゼントよ」コトツ

穂乃果 「コ、ココア……すみませんまたお奢ってもらって」

ツバサ 「ふふ、謝ってばかりね、穂乃果さんは」

穂乃果 「あはは……たしかに……？」

穂乃果 「穂乃果……さん？」

ツバサ 「……？」

ツバサ 「……」

ツバサ 「……」

ツバサ 「……」

ツバサ ハッ

ツバサ (あああああやちやつたああ!!!!)

ツバサ (いつもエレナたちの前では穂乃果さんって呼んでたからつい癖で……!!癖で

……!!)



ツバサ（絶対気持ち悪い先輩と思われた……うわなにこの人急に下の名前で呼んでんのこわつって思われたああ!!）

穂乃果「……………」

ツバサ（その沈黙をやめて!!）

ツバサ（あなたはいつも明るいまんなの太陽高坂穂乃果さんでしょ!?!?どうしてそんなに静かなのよおお!!）

穂乃果「あの……………ツバサ……………さん?」

ツバサ（ほらーもう私の名前呼ばれてるー!!!!）

穂乃果「あの……………ツバサさん?」

ツバサ（ほらもう穂乃果さんが呼んでるじゃない私の名前を!!……………?）

ツバサ（……………私の……………名前?）

ツバサ「……………え」

穂乃果「やっと反応してくれた」

ツバサ「あ、その……ごめんなさい、急に名前で呼んだりして」

ツバサ「嫌だったら別に……」

穂乃果「う、嬉しかったです!!」

ツバサ「へ？」

穂乃果「なんだか……少し距離が近くなった気がして……」

穂乃果「私もツバサさんって呼んでいいですか？」

ツバサ「……ええ……もちろんよ」

ツバサ（えんだああああ!!!）

ツバサ（穂乃果さんと名前で呼びあうことに予想外のタイミングで成功したわ!!）

穂乃果「やったあ!!嬉しいですツバサさん!」ニコツ

ツバサ（はいはいハラシヨーハラシヨー、ベリーハラシヨーよ、もうなにも思うこと  
はないわ）

ツバサ 「…それで話は変わるんだけど……」

ツバサ 「小泉さんと星空さんは怪我をしていたの？」

穂乃果 「……はい」

穂乃果 「でも決勝には出られるので大丈夫です！」

ツバサ 「よかった、リベンジするのにメンバーが欠けてたんじゃどうしようもないものね」

穂乃果 「リベンジだなんてそんな……」

ツバサ 「少なくとも、私たちはそのつもりでここまでやって来たわ」

穂乃果 「……」

穂乃果 「…試合のスコア、見ました」

ツバサ 「試合？」

ツバサ (ああ、私たちのか)

穂乃果 「どうやって……あれほど急激に強くなったんですか？」

ツバサ 「……」

ニコッ

ツバサ 「すごく優秀な監督が来てくれたのよ」

穂乃果 「監督？」

ツバサ 「ええ、その人は……」

「あ、いた……おい！ツバサさーん！」

ツバサ 「……噂をすればね」

穂乃果 （あれ？この声……）

お姉さん 「こんなところにいたんだ、エレナさんたちが探してたよ」

ツバサ 「ええ……」

穂乃果 （どこかで聞いたような……？）

お姉さん 「ほら、早く行って来なよ」

ツバサ 「……わかりました」 スッ

ツバサ 「ごめんなさいね穂乃果さん、決勝、楽しみにしてるわ」

穂乃果 「は、はい！こちらこそよろしくお願いします！綺羅さん！」

ツバサ 「……」

穂乃果 「……？」

穂乃果　ハッ

穂乃果「ツバサさん!!」ブンブン

ツバサ「ええ、また来週」フリフリ

ツバサ（ここで流したら次からまた綺羅さんに戻る上に気まずさから二度とツバサさんと呼ばれることはない…）

ツバサ（危なかつた……）

穂乃果「……」

お姉さん「ごめんね、話の途中だったのに」

穂乃果「いえ、あの……」

お姉さん「なに？」

穂乃果「どこかで会ったことありましたっけ？」

お姉さん「……」

お姉さん「……ふふ」ニコッ

穂乃果「！」

お姉さん「タイヤのトレーニングは順調？」

穂乃果「タイヤ……？」

穂乃果「……！」ハッ

—————

穂乃果「んく……どうすればキーパーの実践的な練習ができるんだろう……」テクテク

??「鉄塔広場のタイヤを使ってみて」ボソッ

穂乃果「へ！」クルッ

穂乃果「……だれもない……」

—————

穂乃果「あの時の!!」

お姉さん「やっと思い出してくれたかな」ニコッ

穂乃果「お姉さんのおかげで強くなれました！次の試合、よろしくおねがいます！」

ペコッ

お姉さん「まって、これあげる」スツ

穂乃果「これ……チョコ？」

穂乃果（なにか見覚えがあるような……）

お姉さん「食べてみて」

穂乃果「い、いただきます……？」パクツ

お姉さん「あんこ入りだけど」ニヤツ

穂乃果「……！」ムグツ

穂乃果「あんこあきたああ!!」ブンブン

穂乃果「……！」ハツ

穂乃果「……あ、あれ？」キョロキョロ

穂乃果「……どっか行っちゃった……」

真姫 ブワアアアア!!

絵里 ブワアアアア!!

ドキュツ!!

シユルルルルルル……!

テンテンテン……

真姫絵里「………??」

真姫絵里（………わからない）

凜宅

凜「………」



凜「……………」ピッ

『さぁ始まりましたー世界大会！世界一の称号は一体誰が手に入れるのでしょうか!!』

『ワアアアアアアアアアアア!!』

凜「……………」ジーーーーー

凜「……………」こう……………いや、こんな感じ……………？」ブツブツ

## 第8話 「『思いっきり暴れてこい』」

試合まで後6日

海未 「穂乃果、起きてください、練習行きますよ」

穂乃果 「やったああテスト100点」ムニヤムニヤ

海未 「それは間違いなく夢ですから早く起きてください」

穂乃果 「ううう……海未ちゃんがいじめる……」

ことり 「ほ、穂乃果ちゃん、今日のテストは何点だったの？」

穂乃果 「……100点……」

ことり 「え!?すごい……!!」

穂乃果 「……中の22点……」

ことり 「ああ……」ガクツ

海未 「早く支度してください」

穂乃果 「はあくらくい……」ノソノソ

ピンポンパンポーン!

『校内に残っている生徒に連絡いたします』

『現在、全国大会決勝を迎えている、音の木坂学院サッカー部についてですが……』

海未「……?何か聞いてますか?」

穂乃果「いや?」

ことり「なんだろう……」

『サプライズで全校生徒で応援に行くといっていた件について』

3人「……んん……!?」

『今、全員の出席意志が確認できたこと、チケットが確保できたことをここに報告……ええ?』

『やばいつて……! まだ穂乃果たち教室にいるって……』

ことり「あちゃー……」

『ええ!? いつもならグラウンドにいる時間じゃ……』

海末「ええ、その通りです」

『絶対穂乃果が寝ぼけてたとかだよ! 今日も眠そうだったし!!』

穂乃果「正解」

『ど、どうする?』

『くく!! もういいや! 言っちゃえヒデコ!』

『…そうだね!』

『………こほん………穂乃果』

穂乃果「……はい!」

『ごめんね、サプライズのつもりだったけど……』

『でもね穂乃果、穂乃果達はすごい、本当にすごいよ』

『メンバーも足りない、試合にも出られない、誰も見向きもしなかった……そんなサツカー部が……』

『全国のトップにまで上り詰めたんだから』

3人「……」

『もう頑張ってるのは知ってるから、頑張れなんて言わない』

『……』スウ……

『思いつきり暴れてこい!!』

3人「……っ……」

ワアアアアアアアアアアア  
!!!!!!

穂乃果「わっ……！」

海未「学校中から歓声が……」

ことり「すご……」

穂乃果「……練習行きますか！」

海未「ええ」

ことり「ふふふ」

グラウンド

海未「それでは練習を始めたいと思いますが……」チラッ

凜ママ「凜と花陽ちゃんは別メニユーナ」

凜「えー!？」

花陽ママ「治りたてで無理しちゃうとまたすぐ怪我しちゃうからね」

花陽「そんなあ〜……」

凜ママ「残りのメンバーはいつものメニューをした後、好きな練習してていいよ」

海未「わかりました」

凜ママ「よし、それじゃあ練習開始！」

みんな「おー！」

ザツ　　ザザザツ

海未「ことり、もう少し強引でも構いません」

海未「絶対取るんだという勢いで来てください」

ことり「で、でもお……」

海未「まったく……ことりは優しすぎるんですよ」ヤレヤレ

ことり「うぐっ……！」グサツ

海未「できる限りでいいです、やってみてください」

ことり「う、うん……！」

ことり「……………はあ！」ガガッ！

海未「…！いいですよ、もつとです！」

絵里「真姫、希知らない？」

真姫「さあ、どうせお手洗いとかじゃないの？」

真姫「すぐ戻ってくるわよ」

絵里「……………それもそうね、練習続けましょうか」

真姫「ええ、だんだんよくなって来てるし」

自動販売機前

希「……………」トツ

トントントーン



希「……」トントン

希「……ほっ！」トトン！

ポーン

希 フワツ

希「……」トツ

希「……」

希「……戻ろ」

穂乃果（……お母さんの言ってた足りない最後の1ピースの意味がようやくわかった）

穂乃果（けど問題はそこからだね……）ウーン

穂乃果（その最期のピース自体が一体何なのかかわかんないし）

穂乃果（ほかのピースじゃ代わりにはなれない、その歪みはそのまま穂乃果に反映される……）

穂乃果（穂乃果はいつたどこまで耐えられるのかな？）

穂乃果「……………」

にこ「ちよつと！もういい？」

穂乃果「ご、ごめんにこちゃん！」アワアワ

にこ「全く、このにこにーがシユートを打ってあげるのよ！ありがたく思いなさい！」

穂乃果「うん！ありがと！」

にこ「…んぐう……………」

にこ（海未といい穂乃果といいなんでこんなに素直な奴が多いのよ……………」

にこ（調子狂うわね……………」

穂乃果（にこちゃんなんだかんだ言つてすぐく丁寧にシユートしてくれるからね）

にこ「いくわよ！」ザッ

穂乃果「こい！」グッ

練習終わり

海未「穂乃果は今日もあそこですか？」

ことり「みたいだね〜」

ことり「お店のお手伝いって言いながら反対方向に走っていつちやったから…」

ことり「せっかくだし飲み物でも差し入れに行かない？」

海未「いいですね、あそこのコンビニで何か買って行きましようか」

ことり「やったー！」

海未（おや…前からガラの悪い方達が…）

海未（出来るだけ避けて…） スッ

ドンッ！

海未「!?」 ドサッ

ことり「海未ちゃん…!!」 バッ

海未（今わざと…!!）

チンピラー1「痛つてえ〜！」

チンピラー2「うわこれ折れてんじやね？」

チンピラー1「うわーまじ折れてる……うお!？」

海未（私一人なら逃げられますがことりがいるこの状況では……）

チンピラー1「なにこいつめちやめちや可愛いじゃん！」スツ

海未（……顎に手を……）

チンピラー2「うわーまじだ!!今からカラオケ行かね？」ガシツ

海未（……肩を馴れ馴れしく……）

海未（せめてことりだけでも……）

「……ねえ」

チンピラー1「なんだよ……つてうおお!!連れも可愛いじゃん!」

チンピラ2 「やっべーやっべー！」

ことり 「……………」

海未（……………!?!）ゾクッ

海未 「……………こと、り？」

ことり 「……………ぶつかつちやつてごめんなさい」ペコッ

チンピラ1 「いやいや、謝っても腕は治んねーし？」

チンピラ2 「いいから俺ら4人で……………」

ことり 「ごめんなさい」ニコッ

チンピラ1. 2 「……っ……」ビクッ  
海未「……………」

「おいてめーら!!」

チンピラ1. 2 「……!」ハッ

「人の知り合いになにしてんだゴラア!!」タツタツタツ

チンピラ2 「……っち、行くぞ!」

チンピラ1 「……ああ!」

タツタツタツ

海未「……………っは……………」

海未「ことり、大丈夫で……」

ことり「怖かったよ海未ちゃああん!!」ダキッ

海未「こ、ことり!?!」

海未（さっきの迫力は気のせいだったのでしょうか……）

「大丈夫すか!?!」

海未「……あなたはこの間部室に来ていた……」

ことり（……? 誰だろうこの人?）

「こういうのよく見るんで、またか、ぐらいにしか思っただけですけど」

「真姫の姉貴とにこの姉貴のご学友だと気付いて飛んで来ました!!」

海未「……ふふ、ありがとうございます」

海未「しかし……」

「?」

海未「あんな風に言っただけは相手が逆上してしまうかもしれないし、何よりあなた自身心配です」

「……!?!」

海未「す、すみません……! 助けていただいたのに上から目線で……!」アワアワ

海未「それでは私たちは行きます」

海未「……ありがとうございます」ニコッ

「い、いえ……」

海未「それでは……」ペコッ

ことり「……??」フリフリ

「………!!!」

海未「………」テクテクテク

ことり（今の人、知り合いだったのかな？）テクテク

「海未の姉貴いい!!!」

海未「は、はい!」クルッ

「俺、頑張ります!!」

海未「……ふふ、無理はしないでくださいね」

「はい!!」タッタッタッ

ことり「……ええ……?」



のちに彼が警察から何枚も感謝状をもらうようになるのはまた別の話

夕方凜宅

凜ママ「りーん！ご飯だぞー！」

……

凜ママ「りーん！」

……

凜ママ「？」

スタスタスタ

ガチャ

凜ママ「凜！さっきから読んでいるの聞こえて……？」

凜「……………」(イヤホン)

凜ママ「……………」

グイッ           ピンピンッ

凜「あつ…………ちよつと！」

凜ママ「なに聴いてたんだ？」

凜「聴いてるんじやなくて見てたの！」

凜ママ「……………それ……………」

凜「かつこよくない!？」

凜ママ「……………」

凜ママ「…………ご飯できてるぞ」

凜「すぐ行く！」バツ

タツタツタツ

凜ママ「……………へえ」

凜ママ（面白いところに目をつけたな、凜）  
ケータイ『最後まで余裕の表情です!!!』

穂乃果宅

穂乃果「ちよつと待っててー」

穂乃果ママ「あんたそれ何度目よ！ご飯冷めちゃうじゃない！」

穂乃果「今行くからあ!!」

ケータイ『圧倒的な実力差を見せつけたUTX高校ですが……』

穂乃果（……本当に、勝てるのかな……）

マジン「……………」

ドロツ

穂乃果「えっ……」

穂乃果「……！」ブンブン

穂乃果（決勝が近いから不安になってるだけ！大丈夫！）パンパン

穂乃果（みんなに迷惑はかけられないからね）

穂乃果（リーダーらしく、みんなを引っ張っていかないと）

穂乃果「やるぞー！」オー！

雪穂「オーはいいからご・は・ん!!」バンツ！

穂乃果「……はい」

試合まで後5日

凜「はあ……はあ……」

凜（もう少し……捻るのかな？）

凜「……もう一回！」

穂乃果「ふんんん!!!」

ズザザツ!!!

穂乃果「……………はあ……………はあ……………」

穂乃果「…もう一回!」

ブンツ!

真姫　　ブワアアア!!

絵里　　ブワアアア!!

真姫絵里【フアイアブリザード!】

ドゴオオオオオオオ!!!

オオオ……………

テンテンテン……………

真姫絵里「……………もう一回!!」

試合まで後3日

練習後帰り道正門

凜「今日も疲れたにや〜……」トボトボ

花陽「もう動きたくない……」とぼとぼ

絵里「……私たちより復帰組の方が疲れてるんだけど……」テクテク

凜「もうスパルタなんてもんじゃないにや！」

花陽「練習……練習……エへへ」

真姫「大丈夫よ、二人の母親がついてるんだから」テクテク

絵里「明らかに大丈夫じゃないのが約1名ね」

海未「そういえば明日から三連休ですね」テクテク

絵里「強引な話題転換嫌いじゃないわよ」

ことり「あーそういえばそうだね！………つてあれ？」

海未「……はい、普段は開いている学校も、長期休みを除いた三連休以上の場合はずつ

と閉まったままなんです」

穂乃果 「じゃあ試合までの三日間は河川敷かな？」

海未 「はい、それがいいかと」

花陽 「ちよ、ちよつと待って……」ピタッ

みんな 「？」ピタッ

花陽 「それじゃあ……」

花陽 「このメンバーが音の木坂で練習できるのって、今日が最後なんじゃ……」

みんな 「……あ……」

海未 「……決勝戦が終われば実質三年生は引退になりますし、ここでは最後ということになりますね」

花陽 「そんな……」

にこ 「何言ってるのよ、ちよくちよく顔出すに決まってるじゃない」

希 「えー？でもにこつちにそんな余裕……」

にこ 「あるわよ！」

花陽「で、でも……」

穂乃果「学校で合宿だよ!!」

みんな「……は？」

穂乃果「外から入れなくなるなら中にいればいいんだよ!」

海未「……穂乃果、あなたは本当に……」ハア

絵里「……天才ね」

海未「……はい？」

海未「絵里、今なんと……?」

絵里「外から入れないなら中にいればいい……!!パンがないならお菓子を食べればいいじゃない!!」



海未「あの……絵……」

絵里「やりましょう合宿!!」

海未「絵里いい……」ガクツ

希「ごめんな海未ちゃん、たまにおかしくなるんよこの生徒会長」

凜「合宿だつて! かよちゃん、真姫ちゃん!」

花陽「う、うん……!」

真姫「どうしてわざわざ合宿なんて……」クルクルクルクル

海未ことり「……!」フフ

穂乃果「もちろん嫌だったらこの話はなし!」

穂乃果「無理やり合宿してもつままないしね! いつも通り河川敷で練習だよ」

真姫「……!」

穂乃果「それじゃあ行くよ!」

穂乃果「やりたい人!」バツ

ババババババツ!

みんな「……」

真姫「……………」

スツ

穂乃果「…………満場一致ということで合宿決てーい！」

みんな「いえーい！」

にこ「あつれー？真姫ちゃんは反対だったんじやなかったのー？」

凜「出た…………！久しぶりの親戚のおじさんモード」

絵里「何度見てもしつくりくるわね」

花陽「あわわわ…………！」ハラハラ

にこ「ほらほら、教えなさいよ」

真姫「…………」

真姫「…………にこちゃんともつと一緒に居たかったから…………ダメ？」

にこ「づ…………づええ!?!／／／／カアア!

凜「あー！にこちゃん顔真つ赤だにやー！」

希「にこつちに照れてるー！」  
にこ「う、うるさい！見るな！」バツ

真姫 ドヤツ…！

穂乃果「真姫ちゃんもにこちゃんの扱い上手くなつたね……」

ことり「役者だね」

花陽「真姫ちゃん……」

絵里「照れてるところ申し訳ないけど、にこ」

にこ「照れてない！」クルツ

絵里「合宿の申請、どうしましょう」

みんな「あ」

数分後

ことり「うん、うんわかった!! ありがとう!!」

ピッ

絵里「どう?」

ことり「申請は1週間前には出さないとダメだったんだけど……」

ことり「もしかしたら自分が確認ミスをしてたかもしれないからって特別に許可してもらえた!」

海末「……ふう、さすが理事長ですな」

絵里「ほんとにね……」ヤレヤレ

凜「確認ミスだなんておっちょこちよいだにや〜」

希「凜ちゃん違う」

穂乃果「それじゃあ一度家に帰ってからまたここに集合!」

みんな「おー!」

穂乃果「2日分の用意持ってきてね!」

穂乃果「最終日は自分の家でゆっくりするとして……」

穂乃果「晩御飯とお風呂は初日だし済ませてよっか!」

希「てことは今日はもう寝るだけやね♪」

穂乃果「そゆこと!」

穂乃果「それじゃあ解散！」

穂乃果「ヒデコたちには私が連絡しとくね！」

解散後、帰宅途中二年生

ことり「合宿楽しみだね〜！」 テクテク

穂乃果「うん！ いっぱい遊ぼうね！」 テクテク

海未「練習です!!」

穂乃果「わかってるよう……」

ことり「それにしても……」

穂乃果海未「？」

ことり「最近の練習ハードだよねえええ……」 ガクッ

穂乃果「あはは……追い込みどきだからかな……」

海未「しかし、確実に力がついてきているのがわかります、この調子ですよ！」  
ことり「ふええ〜ん……！……ことりはもつと女の子らしくなろうと思ってたのに……」

海未「今でもことりは十分女の子らしいですよ？」

ことり　　ブンブン！

ことり「足とか腕には生傷が絶えないし筋肉もついて……」

ことり「もつと女子高生っぽいことしたいよお〜ん……」

海未「例えばどんなことですか？」

ことり「みんなで放課後クレープ食べたり……」

海未「してますね」

ことり「学校でおかし食べながらおしゃべりしたり……」

海未「してますね」

ことり「あとはマカロンとかマカロンとかマカロンとか……」

海未「何ですか急に病的なマカロン押しは……」

ことり「ねえねえ、穂乃果ちゃんはどう思う？」

穂乃果「え〜？穂乃果は……」

穂乃果「……」

穂乃果 「……………」

海未ことり 「……………」

海未ことり 「…………ふふ」 ニコッ

海未 「私もです」

ことり 「ことりも〜！」

穂乃果 「ほらほら！早く準備しないと遅刻しちゃうよ！」

海未 「はいはい、そんなに慌てないでください」

「おー今帰るかい？」

海未「？」クルツ

穂乃果「あー！八百屋のおばちゃん！」

おばちゃん「もうすぐ決勝戦でしょう？頑張んなよ！」

穂乃果「うん！頑張る！」

おばちゃん「海未ちゃんのことりちゃんもね！」

海未「はい、もちろんです」

ことり「頑張ります！」

おっちゃん「おお……！穂むらさん家の子か！大きくなつたなあ！」

穂乃果「おっちゃんは変わらないね！」

おっちゃん「あつはは！口が上手いねえ！」

おっちゃん「サッカー頑張ってるんだってな、商店街じゃその話で持ちきりだよ！」

穂乃果「もうすぐ決勝なんだ！応援よろしくね！」

おっちゃん「任せろ！商店街のジジババ集めてみんなで行つてやる！」



穂乃果 「それは賑やかそうだね……」アハハ……

穂乃果 「……つと……時間詰まってるんだった」

穂乃果 「それじゃあまたね！おっちゃんおばちゃん！」

「「頑張れー！」」

穂乃果 「ありがとー！」

海未ことり      ペコリ

学校

穂乃果 「みんなお待ちせ！」

雪穂 「すみません！今日は私のせいで遅くなりました……」ペコッ

絵里 「みんな来たところだから大丈夫よ」

亜里沙 「雪穂！お泊まり会だよ！お泊まり会！」

雪穂「えへへ……！楽しみだね亜里沙！」

亜里沙「うん！」

穂乃果「ヒデコ達は来れないって〜」

海未「用事があるなら仕方ありませんね」

ことり「それじゃあ鍵開けるね〜」ガチャッ

### 空き教室

絵里「この部屋を主に寝泊まりする部屋にします」

海未「各自荷物をまとめてあそこへ置いてください」

穂乃果「置いた人からみんなの布団を運んでね！」

海未「……っふう」ドサツ

絵里「海未は荷物少ないわね」

海未「ええまあ、自分に特別な手入れは何もしていないので」

海未「最低限の着替えだけです」

絵里「……手入れなしでこんなに肌も髪も綺麗なのね」

海未「絵里？どうしましたか？」

絵里「い、いや……！なんでもないわ、布団敷きましようか！」

海未「ええ」ニコツ

希「よいしょ……っつと！」ドサツ  
ポロツ

希「……あっ……」

花陽「……？……！」

花陽「可愛いぬいぐるみ！」

にこ「なにあんた、その年にもなってぬいぐるみと一緒にじゃないと寝られないの？」  
ニ  
ヤニヤ

凜「希ちゃんも可愛いところあるにや〜！」

希「二人も可愛いところあるよ？」ワシワシ

希「あ〜！かわいい！」

にこ「この野郎腕いでやる!!」ガバツ！

凜「搾り取ってやるにやあ!!」ガバツ！

希「ああああ痛い痛い!!」ギリギリギリ

花陽「……痛そう」

真姫「ことり……あなた枕なんて持って来たの？」

ことり「うん♪これじゃないと眠れないんだあ」

ことり「触ってみて！」

真姫「いったいどんな……」フニツ

真姫「……！なんだかい感じね」

ことり「超低反発なの！」

真姫「持参する気持ちもわかるわ」

ことり「でしよ〜！」えへへ

穂乃果「ゆ、雪穂！穂乃果のアレが……」

雪穂「はい歯ブラシ」スツ

穂乃果「さっすが雪穂！」

雪穂「おねーちゃんのやりそうなことはだいたいわかるからね」

穂乃果「いやーそんなに言われると照れちゃうよ？」

雪穂「悪い意味でだけどね」

穂乃果「ゆうきほ〜！」ガクツ

亜里沙「……ふふ」

穂乃果「あー！今亜里沙ちゃん笑った!？」

亜里沙「ご、ごめんなさい！」アワアワ

亜里沙「雪穂は穂乃果さんの事、本当に大好きなんだなって思ってた」

雪穂「は、はあ!?!なんで私がおねーちゃんなんか……」

穂乃果「その通り！雪穂はおねーちゃん子だったんだよ？」

雪穂「余計なこと言わなくていいから！」

亜里沙「だから少し雪穂が羨ましいんです」

雪穂「亜里沙には完璧な絵里さんがいるじゃん」

亜里沙「だからなの！」

穂乃果雪穂「？」

亜里沙「おねーちゃんはなんでも一人でできちゃうから……」

亜里沙「穂乃果さんみたいに少し抜けてるおねーちゃんが羨ましいなって！」

雪穂「……」

穂乃果「……」

雪穂「……まあ、ドンマイ」

穂乃果「ノーガードで右ストレートもらったような衝撃だったよ」

雪穂「上げて落とされたからね」

穂乃果「亜里沙ちゃん……恐ろしい子……!!」

亜里沙「？」キョトン

海未「貴方達いつまでそうしているのですか！」

海未「布団を運んでください！」ドサツ

絵里「……数が凄いわ……」ヨイシヨ

穂乃果「やっぱ……！」アワアワ

穂乃果「行くよ！雪穂！亜里沙ちゃん！」

雪穂亜里沙「うん（はい）！」

数分後

凜「これで……最後！」ドサツ

穂乃果「すごい！」

絵里「流石にこれだけ並べると壮観ね」

穂乃果「……」ウズウズ

花陽「……穂乃果ちゃん？」

穂乃果「……もう我慢できない！」バツ

ドサツ

穂乃果「くるくるくるくる〜！」ゴロゴロ

海未「な、何をしているのですか！」

にこ「にこも〜！」バツ

凜「凜も〜！」

花陽「り、凜ちゃん…！怒られるよ…！！」ガシッ

凜「かよちゃんもやるにや〜！」ガシッ

花陽「…：…へ？」

穂乃果「ぐるぐる〜！」ゴロゴロ

にこ「あ〜〜〜！！」ゴロゴロ

凜「にや〜〜〜！」ゴロゴロ

花陽「ダレカタスケテ〜！」ゴロゴロ

海未「今すぐやめなさい！穂乃果〜！」



穂乃果「海未ちゃんも来なよ！気持ちいいから！」  
海未「絶対に行きません！」

数分後

穂乃果「あー楽しかった！」

にこ「子供に戻った気分ね」

希「にこっち見た目はずっと子供痛い痛い痛い」ギリギリ

絵里「ほら、凜と花陽も起きて」

凜花陽「……………」

絵里「？二人とも？」

ことり「……………」

ことり「しー……………」

凜花陽「……んう……」スウ……スウ……

ことり「……寝ちやつたみたい」ヒソツ

絵里「二人とも疲れてたのね……」

海未「復帰してからは遅れを取り戻すために頑張っていましたから」

凜花陽「……くう……」スピ―

海未「……私たちも寝ましょうか」

ことり「そうだね！」

真姫「……二人が真ん中で寝てるせいで布団に入れないんだけどどうするの?」

穂乃果「雑魚寝しかないでしょ！」

真姫「……本気？」

穂乃果「本気と書いてマジ、だよ！」

真姫「はあ……」

海未「……今回は仕方ありませんね」

海未「それではみなさん各々好きな場所で寝てください」

亜里沙「やったー！」

亜里沙「おねーちゃん一緒に寝よ！」

絵里「ええいいわよ」

ことり「ことりは穂乃果ちゃんの隣〜！」

穂乃果「えへへ〜！久しぶりだねこういうの！」

海未「……………」

穂乃果「あれ〜？海未ちゃんも来たいの？」

海未「そ、そんなわけないじゃないですか!!」

穂乃果「ほらここ空いてるよ？」ホラホラ

海未「……………そこまでしつこく誘われては仕方がありません、私も一緒に寝てあげます」

穂乃果「一回誘っただけなんだけど……………」

ことり「海未ちゃん……」

海未「全く仕方ありませんね」ニコニコ

穂乃果ことり（すごく嬉しそう）

真姫（……ここでいいかしら）ゴソツ

真姫（……）スヤア

にこ（真姫は一年二人に紛れ込んだか……）  
にこ「あと残ってるのは……」チラツ

希「やーん♪そんなに見つめられたら照れるやん！」

雪穂「……っ……」アセアセ

にこ「雪穂、一緒に寝ましようか」

雪穂「は、はい！」

希「ちよっ……！ウチは!？」

にこ「あんたは草の上で寝てなさいよ」

希「いや誰が牛や」

にこ「あれ、今日は鼻に輪っかつけてないのね」

希「だから誰が牛や……!」

にこ「今日の乳搾りの出来は……」

希「だから誰が牛やああ!!」ガーツ!

にこ「……」

希「やめえやピンポイントで乳牛いじりするの!」

希「ウチだつて傷つくし……傷つくんやあ!!」

にこ「……」

希「なんで黙ってるん!? そちちから仕掛けて来たのに!」

希「仕掛けたけど思った以上に絡んで来たからめんどくさくなつたんやろ!? なあ!」

にこ「……ねえ」

希「なに!」

にこ「もう寝ない?」

希「……もういいよ、にこつちはそんな人やつたんやね……」

にこ「ええ……?」

希「……はあ、離婚前の夫婦ってこんな感じなんやろね」  
にこ「いや知らないわよ」

希「おやすみ二人とも、風邪ひかんようにね」

雪穂「お、おやすみなさい……」

にこ「おやすみ」

三人「……」

希「あ、そうやにこっち」

にこ「ん？」

希「寝る前に腰痛に効くストレッチしなくて大丈夫？」

にこ「あー、それをやらないと明日がしんどい……って」

にこ「誰がおばあちゃんよ!!」

希「……」

にこ「めんどくさがるな!!」

雪穂「寝ましようよお……」

「……頑張ろうね」

試合まであと2日

朝

穂乃果「……んう……」ムクツ

穂乃果「……?」シパシパ

穂乃果「……あそつか……合宿……」ボー……

穂乃果「……」キヨロキヨロ

穂乃果（……みんなまだ寝てる……ってあれ？）

穂乃果「海未ちゃんがない？」

ガラッ

海末「おや穂乃果、今日は珍しく早いですね」

穂乃果「どこ行つてたの？」ふわあゝ……！

海末「朝の稽古代わりにランニングをしました」

穂乃果「うえゝ……」

海末「穂乃果も行つてきてはどうですか？」

穂乃果「……おやすみなさあい」スヤア

海末「おきなさい……!!」ギリギリ

穂乃果「起ぎる起ぎる起ぎるがらあ……!!」ギリギリ

絵里「……もうなに？騒がしいわね」ムクツ

海末「絵里、おはようございます」

絵里「おはよう」ふあ………！

絵里「……！」クンツ

絵里「なんだかい匂いがするわね」

海末「気づきましたか、実は凜のお母様が朝食を作ってくれているんですよ」



絵里「凜のお母様も来てくださってたの？」

絵里「手伝わなくて大丈夫かしら……」

海未「それより他のメンバーを起こしていただけると助かります」

絵里「わかったわ」

絵里「……ん……！」 ノビー

絵里「……どうしてにこは顔にキュウリを貼り付けてるのかしら」

海未「おそらく美容のためでしょう、にこらしいです」

絵里「にこから起こして行くことにするわ」

ニコー、オキナサーイ！アサヨー

海末「……………それでは私は……………」チラッ

穂乃果「ふひい……………」スヤア

海末「このラスボスを攻略しましょうか」ポキポキ

### 食堂

凜「お腹すいたにや〜」ふあく……………!

花陽「スンスン……………この匂いは……………!」

花陽「魚沼産こしひかり……………!!」

ここ「え……………? あんた朝からそのテンションで行くつもり?」

花陽「寝ぼけた状態でお米を食べることは失礼に値しますから」キリッ

凜「さつすがかよちんだにや〜」

ここ「……………はあ、意味わかんない」

希「にこつちアイドルは朝そんなテンションで大丈夫なん?」

にこ「プロはオンとオフがはっきりしてるのよ」

真姫「にこちゃんはいつもオフじゃない」

凜「プロでもないにや」

にこ「やめなさい痛いところ突くの」

ことり「穂乃果ちゃん顔痛くない？」

穂乃果「……うん、らいひょうふ」ヒリヒリ

海未「一体どうしたんでしようね」

穂乃果「夢で両方のほっぺをつねられる夢を見たよ……」

雪穂「おねーちゃん二度寝するとなかなか起きないからね」

亜里沙「雪穂、このネバネバしたの何？」

雪穂「それは納豆って言って、大豆でできてるんだよ」

亜里沙「ハラショー……！日本には不思議な食べ物があるんだね」

凜ママ「よーし！みんな揃ったな！」

みんな「はい！」

凜ママ「それじゃあ手を合わせて！」

みんな　　パンツ！

凜ママ「いただきます！」

みんな「いただきます！」

朝食終了

凜ママ「ごちそーさまでした！」

みんな「ごちそーさまでした！」

凜ママ「30分後、グラウンド集合！」

みんな「はい！」

30分後

凜ママ「それじゃあ練習を始める！」

みんな「はい！」

ハア…!! ザザッ

テヤア! バッ

タツタツタツ

ザザッ ガッ!

お昼

凜ママ「おーい! お昼ご飯にするぞー!」

凜「おにぎりだ!」

凜ママ「時間なかったから手抜きで悪いけどな」

穂乃果「お、美味しそう……」グウ……

凜ママ「手を洗ってこい！」

みんな「はい！」

穂乃果「ひ、一口だけでも……!!」

海未「はいはい行きますよ」ガシッ

穂乃果「一個だけでもおろく……!!」ズルズル

海未「何さりげなく量を増やしているのですか!!」

みんな「いただきます！」

凜ママ「そういえばひとつだけ激辛の奴入れておいた」

海未「なんという事してくれたのですか」

凜ママ「遊び心遊び心！」

凜「……はあ」

絵里「これ頂こうかしら」スツ

絵里「海苔を巻いてなくてよかったわ」

希「えりち海苔あかんもんなあ」

ことり「へえ、絵里ちゃんにも苦手なものがあつたんだ！」

絵里「苦手というか……血筋的に海苔を消化できないのよ」

ことり「あ……お腹壊しちゃうんだね」

絵里「そうなのよ、みんな美味しそうに食べるから食べたいんだけどね……」パクツ

ことり「ほかに苦手なものはないの？」

希「あとは確か……梅干し？」

ことり「ザ、日本って感じのものばかりだね……」

希「日本食は独特なのが多いからなあ」

希「……つて、えりちどうしたん？」

絵里「……うえおいあ……」

ことり「え？」

絵里「梅干しがあ……」ウルウル

希「あちゃー……」

ことり「よく引き当てたねこの中から……」

希「まだ食べてないしうちのと交換する？」

絵里「あ、ありがと……」パクッ

絵里「……………」ピタッ

ことり「今度はなんだったの？」

絵里「……………海苔の佃煮」

希「……………ブフッ……！」

ことり「ふふ……………」クスッ

絵里「なんでこうなるのよお……………」シクシク

希「まさかうちのが海苔の佃煮やったとはなあ……………」

ことり「ことりのは天むすだったからことりのあげる！」

絵里「……………いい!!」ダーッ!

ことり「……………おむすびを譲ってここまで感謝されたのは生まれて初めてかなあ

……………」

希「まあそうそうないやろなあ……………」

絵里「美味しい……………!美味しいわ……………!!」モグモグ



花陽「美味しいです！美味しいです！」パクパクパクパク

海未「は、花陽!? そんなペースで食べていたらみんなの分が……」

花陽「美味しいです！美味しいです！」パクパクパクパク

海未「だ、誰かー！」ガシッ

凜「かよちゃんあるあるだにゃ」

海未「こんなことが頻繁にあつてたまりますか!!」

真姫　　モグモグ

にこ「……………」ジーツ……………モグモグ

真姫「……………何よ」パクッ

にこ「あんたって……………一口めちやめちや小さいわね」

真姫「悪い？大きく開けるの疲れるのよ」

にこ「いや、それはいいんだけど……」チラッ

穂乃果「あー……ん！」バクッ！

穂乃果「……おいひい！」モグモグ

にこ「正反対だなあつて」

真姫「そんなこと言ったらにこちゃんなんて二つしか食べてないじゃない」

にこ「にこは小食だからあく！そんなにいっぱい食べれないっていうかあく！」

ぐうぐう………！

にこ真姫「……」

真姫「……で、本当は？」

にこ「……だつてご飯つて糖質だし……太るし……」

真姫「ここに最後のおにぎりがあります」スッ

にこ「あつ……」

真姫「欲しい？」

にこ「……っ……！」ハッ

にこ「……べ、別に欲しくなんて……!!」

真姫「あつそ、じゃあ私が……」あ………

にこ「あー……………」

にこ「……………」ハッ

真姫「……………」ジトー…

にこ「……………」フンツッ！食べたかったら食べればいいじゃない！」

にこ「別ににはお腹なんて……………」

ぐうぐうキュルル……………」

にこ真姫「……………」

真姫「……………」はあ」スツ

にこ「……………」いいの？」

真姫「私はもういっぱい食べたしね」

にこ「……………」ま、まあお腹空いてるわけじゃないけど……………」

にこ「真姫がどーしてもって言うから私が最後の一つを……………」

穂乃果「じゃあ穂乃果がもらっていい!？」ペアア！

にこ「……………」

バクツッ！

穂乃果「あー！そんなに仕方なく食べるなら穂乃果に頂戴よお！」

真姫「一口で……………」

にこ「……………」モグモグ

凜「そういえば結局激辛のおにぎり出なかったね」

にこ「……………」モグモグ

海未「誰も被害に遭わなかったのならそれに越したことはありませんよ」

にこ「……………」モグ……………」モグ……………」

凜ママ「あつれー？たしかに入れたんだけどなあ……………」

にこ「……………」つ……………」モグツ……………」

にこ「……………」ゴフツ……………」！」「ブフツ

真姫「にこちゃん!？」

にこ「……………」……………」!!」「ブワアッ!

にこ「ん……………」!!」「ん……………」!!」「ジタバタ

凜「にこちゃん大当たりだにゃー!」あはは!

海未「よりよって最後の一つに入っていたとは……………」

凜ママ「あつははははは!!」「ヒーヒー……………」

にこ「っ……!!っ……!」ゴクツゴクツゴクツ

希「にこっち持つてるなあ!」あはは!

絵里亜里沙「……フフ」クスッ

花陽「……ん……んふっ……!」プルプル

穂乃果「……横取りしなくてよかったああ……」

にこ「……え、エグい……!!」ヒーヒー

凜ママ「よーし!みんな準備はいいか?」

花陽「……にこちゃん今何食べたい?」

にこ「ジェラート」ヒリヒリ

花陽「だよねえ……」あはは

凜ママ「練習再開!」

みんな「はい!」

ことり「はあ!!」ザッ

雪穂「ふっ!」シュバツ!

ことり「あっ……!」

にこ「ことり!!もつとあたり強く!!」

ことり「は、はいいゝ……!!」

絵里　　ブワアアア!!

真姫　　ブワアアア!!

ドキュツ!!

絵里真姫【ファイアブリザード!】

ゴオオオオオオ!!

オオオ……………

テンテンテン……………

絵里真姫「……………」はあ……………はあ……………

絵里（これは……………）

真姫（本格的にまずいかもしれないわね……………）

夕方

カー！カー！

凜ママ「これにて練習終わり！」

海未「まだ少し早くないですか？」

絵里「あと1時間は出来そうだけど……………」

凜ママ「実はこれから用事があつて……………夜ご飯作れないんだよ」

花陽「……………」と、いうことは……………」

凜ママ「そう！これぞ合宿の醍醐味！」

凜ママ「みんなでご飯作ってくれ！」

みんな「えええ!?!」

海未「……用事とあれば仕方ありません」

海未「お任せください」

凜ママ「いやーごめんね……」

凜ママ「それじゃあ頑張つて！」タツタツタツ

海未「……………」

みんな「……………」

海未「……………どうしましょう」

ズコーツ!

穂乃果「あんなに自信マンマンだったじゃん！」

海未「だ、だつて引き止めるわけにはいかないじゃないですか!!」

真姫「作りに来て貰えば？」クルクル



ことり「作りにつて……誰に？」

真姫「シエフに決まってるじゃない」クルクル

凜「とりあえず真姫ちゃんは論外ということ……」

真姫「なっ……!? 一番現実的じゃない！」

希「非現実の中での現実的やんなあ……」

花陽「ご飯……ご飯が……」

「しよーがないわねー！」

花陽「……にこちゃん………?」シクシク

にこ「私<sup>が</sup>が作<sup>つ</sup>てあげようじゃない！」

海未「ほ、本当ですか!？」

絵里「ハラシヨー! これで安心ね亜里沙！」

亜里沙「うん！」

雪穂「……はあ、無事にご飯にありつけそう……」ホツ

真姫「私ゲテモノはNGなんだけど」

凜「嫌な予感しかしないにやー」

ここ「あんたらホンツトーに可愛げないわね……!!」

海未「ではここ、お任せしてよろしいですね？」

ここ「まつかせなさい！」ドンツ！

### 調理室

ここ「花陽、これでご飯炊きなさい」ドンツ

花陽「こ、これは……!!」

ここ「あんたにししか頼めない大仕事よ」

花陽「……命に代えても成功してみせます……!!」

ここ「いや重いわ」

ここ「あとはひき肉をレンジでチンして豆腐と豆板醤と……」テキパキ

物陰

穂乃果 「ほあく……なんだかすごいね」

希 「にこつちは下の子が多いからね、家事は手慣れてるんよ」

穂乃果 「へえ〜」

海未 「こら凜！自分の分のサラダだけ少なくしない！」

凜 「海未ちゃんお母さんみただにや〜……」

海未 「……今日のメインは焼き魚にしましょうか」

凜 「ごめんじゃー！」

花陽 「あはは……」

1時間半後

ガラッ

にこ「できたわ」

凜「いい匂いだにや〜！」

にこ「ここにー特製麻婆豆腐よ！」

海未「にこ……すみません私刺激物は……」

にこ「大丈夫よ、甘口で作ったから」

海未「にこおお……!!」

にこ「花陽、例のブツは？」

花陽「ふっふっふ……」スツ

花陽「完璧だよ！」パカッ……!

ホカホカ………!

穂乃果「わあああ！」

凜「美味しそうだにやー！」

絵里「これ……土鍋？」

にこ「ええ、せっかくだからこれでご飯炊いてみようと思つてね」

花陽「おこげも綺麗にできてて……自信作です！」フンツ！

海未「ふふ、楽しみですね」

希「おこげって炊飯器と違つて少し工夫がいるんやったっけ？」

花陽「うん！何度も練習して、成功したのを記録してやっと作れるようになったんだあ！」

絵里真姫「……………」

絵里（成功の……………!!）

真姫（記録……………!!）

……………

絵里　　ゴオオオオオオオ

真姫　　ゴオオオオオオオ

フワツ……………

ドキュウウツツツ!!!

絵里真姫「いつけえええ!!!」

ゴオオオオオオオオオオ

|||||

ことり「すごいなあ……」

穂乃果「一体お米の何が花陽ちゃんをここまで駆り立てるのか……」  
ガシッ

花陽「……聞きたい？」

穂乃果「へ!？」

花陽「今夜は寝かせないよ」

穂乃果「ひ、ひい……!」

凜「凜はこんなかよちんも……好きだよ」  
にこ「何よ今の間は」

ドタバタ！

にこ「どうしたの？」

絵里「に、にこ！ 私たち今からちよつと出かけてくるわ！」

にこ「はあ!？」

真姫「ご飯は後で食べるから！」

にこ「ちよつ……！ 待ちなさいっての！」 ガシッ

絵里「いいえにこ、今の私たちは何を言われようと止められないわ」

真姫「その通りよ」

にこ「……………デザートはチョコレートケーキ」

絵里「……………」 ピクッ

にこ「サラダには新鮮なトマト」

真姫「……………」 ピクッ

にこ「……………ま、あんたらがそこまで言うなら仕方ないわね」

にこ「私たちがあんたらの分まで美味しく……………」

ガシッ

絵里真姫「……………」

絵里真姫「ごめんやん？」

にこ「うわ腹立つ」

希「二次被害」

夕食後

凜「ごちそーさまだにやー！」

花陽「おこげ……………美味しかった……………」  
ホロリ



海末「にこ、ごちそうさまでした。とても素晴らしい料理でしたね」  
ことり「美味しかったあ♪」

にこ「あつたりまえじゃない！このにこーが作ってるんだから」  
希「お風呂はどうする？」

海末「シャワーしかないので浴びたい人から浴びていきましょう」

絵里「全員分はあつたわよね？」

海末「はい、ですから順番は気にすることはありませんよ」

穂乃果「ゆうーきほー、お茶く！」ダ alun

雪穂「ちよつとおねーちゃん！家じゃないんだから自分で行きなよ！」

穂乃果「ぶうー……！」ムクツ

海末「穂乃果はどこにいてもだらしがないのですね……」ハア

絵里「それじゃあシャワー浴びて、寝たい人から寝ましょう」

穂乃果「それじゃあととりあえず解散！」

みんな「はーい！」

就寝

海未「結局みんな同時に寝るんですね」

にこ「はい、電気消すわよ」

凜「ププ……！にこちゃん顔にきゆうりついでるにや」

花陽「お腹が空いた時用の非常食かな？」

真姫「花陽以上の食いしん坊ね」

花陽「流石にあんなことしないよよ!!」

にこ「誰が食いしん坊よ!!」

にこ「美容のためのパックよパック!」

真姫「はいはい、電気消してもらえるかしら?」

にこ「ぐぬぬぬ……!!」

パチッ

海未「それではみなさん、おやすみなさい」

みんな「おやすみ」

深夜

スウ…………スウ……

穂乃果「…………ん」モゾツ

穂乃果「…………何時……？」

穂乃果「…………うえ…………まだ1時じゃん…………」

穂乃果「みんなも寝て…………？」

穂乃果「何人かいない？」

穂乃果（トイレかな）

穂乃果「…………穂乃果も行こつと」ムクツ

ジャー……………!

穂乃果「うーん？誰もいないや、別のトイレかな」ガチャ

穂乃果「……目が冴えちやつたし屋上でも行くとしますか」テクテク

穂乃果「開いてるかな」ルンルン

屋上へのドア前

穂乃果「……？ちよつと開いてる？」

穂乃果（誰かいるのかな）ソー……

穂乃果（……にこちゃん？）

にこ「……………」

穂乃果「……………っ！」ドキッ

穂乃果（……………綺麗）

にこ「……………」クルッ

にこ「穂乃果……………なにしてんのよこんな時間に」

穂乃果「えへへ……………目が覚めちゃって」

穂乃果「にこちゃんは？」

にこ「……………眠れなかったのよ」

穂乃果「そつか……………隣、いい？」

にこ「ええ」

ストン……………

にこ穂乃果「……………」

にこ「……………いよいよ明後日……………いや、もう明日か」

にこ「私たち三年生にとっては最後の大会」

穂乃果「……………」

にこ「短かかったけど……………色々あったわよね」

穂乃果「にこちゃんが初めはひねくれてたりね」ニヒヒ

にこ「ほじくり返すんじゃないわよ」ピンツ!

穂乃果「あでっ……!」ピンツ!

にこ「……私が一年生の頃、サッカー部やってたのは知ってるわよね?」

穂乃果「え?……うん、希ちゃんから聞いた」サスサス

にこ「その頃はこんなにごとに……学校のみんなから応援されるなんてこれっ

ほっちも思っでなかつたのよ」

にこ「あり得なかつた」

穂乃果「……」

にこ「私たちだけで始まって、誰の記憶にも残らないまま終わって行くんだろっとなつて思つてた」

にこ「今のメンバーが集まつた時も、それは変わらなかつた」

にこ「女子校でサッカーなんて流行らないしね」フフ

穂乃果「……ふふ、そうだね」クスツ

にこ「でもね、気づいたの」

—————

『思いつきり暴れてこい!!』

ワアアアアアアアアアア  
!!!!



深夜、屋上

にこ「ふあゝ、夜更かしはお肌に良くないのよね」

穂乃果「にこちゃんはお肌モチモチだね、なにか秘密があるの？」

にこ「洗顔とかは気をつけてるけど…やっぱりきゅうりかしらね」

穂乃果「きゅ…きゅ…きゅ？」

にこ「あれをし始めてからお肌の調子が良くなったのよね」

穂乃果「きゅうり、おそるべし…!!」

にこ「そういえば…」

にこ「にこがここに来る前に絵里と真姫が起きて出て行ったけど、どこに行ったのかしら」

穂乃果「さあ…知らな



ドゴオオオオオオオオオオオオオ  
ビリビリ……!!  
!!!!!!

穂乃果「な……なに!？」

にこ「グラウンドの方よ!」ダツ!

穂乃果「待ってよにこちゃん!」ダツ!

タツタツタツ

にこ「……はあ……! なんなのよ一体!!」ザツ

穂乃果「にこちゃ……! 速い……!」ハア、ハア

モクモクモク

「ゴホッ、ゴホッ」

二人「！」

「エリー、大丈夫？」

にこ「真姫……？」

真姫「ゴホッ……！……げ、にこちゃん……」

にこ「何よ、げ……って」

絵里「ご、ごめんなさいにこ、穂乃果、起こしちやった？」

にこ「いや、そうじゃないんだけど……」

穂乃果「二人でなにしてたの？」

絵里「練習したりなかった分をちよつとだけしてたのよ、もう終わるわ」

穂乃果「夜更かしはダメだよ二人とも！」

絵里「ふふ、ごめんなさい」

真姫「シャワー浴びに行きましょう」

絵里「ええ」

スタスタ

穂乃果「ふぁ……穂乃果も寝よーつと」スタスタ

にこ「……」

にこ（……この焦げ跡……）

スツ

にこ「冷たっ……！」 ビクツ

絵里真姫「……」 ピタツ

グツ……！

「悔いのないように」

試合まであと1日

海末「それでは各自自宅に戻って、明日に備えてください」

希「終わってみればあつという間やったなあ〜」ノビ〜!

凜「ねえねえ、昨日の夜なんだか大きな音鳴らなかつた?」

絵里真姫「……」ギクツ

にこ「寝ぼけてたんでしょ」

凜「そうなのかにや〜?確かに寝起きだったけど……」

花陽「私は聞こえなかつたかな……」

凜「じゃあ気のせいだねきつと!」

にこ「信用の差がひどい」

穂乃果「もうこのまま解散にしちゃう？」

海未「はい、練習しようかと思っただのですが、疲労も溜まっているでしょうし」

絵里「明日は万全な態勢で戦えるように、今日はしっかり休みましょう！」

穂乃果「了解しました！」ピシッ！

海未「では穂乃果、お願いします」

穂乃果「コホン……」

穂乃果「……今日までいろんなことがあったけど、やっとここまで来た」

穂乃果「明日は三年生が最後の試合……いや……」

穂乃果「このメンバーで戦う最後の試合だよ」

みんな「……」

穂乃果「……後悔の残らない、最高のプレイをしよう」チラッ

希「……！」ビクッ

穂乃果「……」スウ……

穂乃果「勝つよ!!!」

みんな「おおお!!!」バツ

穂乃果「海未ちゃんことりちゃん！クレープ食べて帰ろ！」

海未「はいはいわかりました」

ことり「いこー♪」

雪穂「ほどほどにしないと太るよ」

凜「真姫ちゃんかよちん！ラーメン行くにやー！」

真姫「……朝から？」

凜「アブラマシマシ♪」

花陽「……朝から……」ゾッ

亜里沙「おねーちゃん！ファミレスいこ！」

絵里「ええいいわよ、希も行くでしょ？」

希「……」

絵里「のーぞーみ！」

希「……う、うん！行くよ」

絵里「それじゃあ行きましようか」

亜里沙「やったー！」

希「……」

### 決戦前夜

にこ宅

にこ「こころー、ここあー、もう寝ちやいなさい」

こころ「……はい」

にこ「どうしたの？」

こころ「……い、いえ！なんでもないです……」

にこ「……こころ、言ってくれないとわからないわよ？」

ここあ「なにになに？なんの話？」

にこ「あんたはいいから、早く歯磨いて来なさい！」

ここあ「はい……」シブシブ

にこ「……で、どうしたの？」

こころ「……本当に、自分勝手なわがままなのですが……」

にこ「うん……」

こころ「明日、私たちは初めてお母様とお姉様方の試合を見に行きます」

にこ「……ええ」

こころ「そこで……」

こころ「……お姉様がシュートを決めるところを……見たいな……と」

にこ「——！」

こころ「い、いえ！なんでもないです！」

こころ「は……歯を磨いて来ますね！」タッタタッタツ

にこ「……」



にこ（普段から……我が家の家計状況を知ってか知らずか、欲しい、やりたい、食べたい、行きたい……）

にこ（そんな要求をなに一つしてこなかったところが……）

ここに「……お姉様がシュートを決めるところを……見たいな……と」

にこ「……」

凜宅

凜「……」

凜 トトツ

ケータイ『決まったああ!!!』

凜「……」ジーーーーー

凜「……こう……いや……」ブツブツ……  
凜「……！……こうか……！」バツ

穂乃果宅

穂乃果「………」

穂乃果（明日は絶対、激しい戦いになる）

穂乃果（……どんな無茶をしても、勝ってみせる）

穂乃果「……穂乃果は……リーダーなんだから」

希宅

希「……………」スツ

ズズツ

希「…………ふう」コトツ

希「……………」

希「…………悔いのないように……………」か」

……………ピンツ!

希「どう思う?ぬいぐるみさん」

ぬいぐるみ「……………」

……………

小学校の友達、Aちゃん「のぞみちゃん!これお互いに買って交換しよ!」

Aちゃん「このぬいぐるみ!」

のぞみ「え…ええ?どうしてわざわざ……………」

Aちゃん「その方が思い出になるでしょ、私の宝物にするんだから!」

のぞみ「……………」

のぞみ(宝物…………)

Aちゃん「ほら早く！」

のぞみ「……う、うん！」

希「……呪い……やんなあ」

## 第9話 「v s U T X戦い、開始！」

穂乃果宅

穂乃果ママ「雪穂ー、穂乃果起こしてきてー」

雪穂「もう……こんな大事な日まで寝坊するなんて……!!」  
「ガチャッ！」  
「スタスタ」

雪穂「おねーちゃん！今日は大事な決勝戦……つてあれ？」

雪穂「いない……」

雪穂「でも荷物はあるし……どこ行ったんだろ」

鉄塔

ザッ

穂乃果 「こんなに早起きしたのいつぶりだろ」

穂乃果 「……っんー！」 ノビー

穂乃果 「……はああー」 ダラン……

穂乃果 「ここもだいぶ馴染みの場所になつてきたな」

穂乃果 「このタイヤにはお世話になつたなあ」 ナデ……

穂乃果 「今日が終われば三年生は引退……」

穂乃果 「……寂しいなあ……」

穂乃果 「……！」 ブンブン！

穂乃果 (ダメダメ！こんな気持ちじゃ！)

穂乃果 「……頑張れりーダー！」 オー！

にこ宅

にこママ 「にこ、今日ぐらいはゆっくり寝てていのに……」 ジュー……！

にこ「これはにこのルーティーンなの」ジュー……………!

にこ「ママこそ仕事で疲れてるんだから寝てていいわよ」

にこママ「娘の大事な決勝戦に寝坊したらどうするの!」

にこママ「今日のために仕事詰めてやっとな勝ち取った有給……………!!」

にこママ「にこ達なら絶対決勝戦まで来てくれると信じてたわ!」

にこ「それは良かったわね……………よっと!」カカツ!

にこ「はい、卵焼きの完成!」

こころ「おはようございますお母様、おねー様!」トテトテ

にこ「おはよ」

にこママ「おはようこころ、顔洗っていらっしやい!」

こころ「はい!」スタスタ

にこ(……………こころ)ジュー……………!

にこママ「……………!?!」

にこママ「にこ!卵焼き!」

にこ「へ?……ああ:!!」カチッ!

にこ「……ギリギリセーフ」フー……

にこママ「珍しいわね、にこがぼーつとするなんて」

にこ「……」

花陽宅

花陽「……」メガネ

カチヤッ

花陽(……コンタクトがあるのにメガネを使うのは、めんどくさいからじゃない)

花陽(他人との間に一枚透明な壁があるような気がして、気が楽だから)

花陽「……でも、もうそんな自分とはさよならしなきゃ」

カチヤッ



ペリペリ……  
スツ

希宅

希「……………よし、こんなもんかな」

希「あとは……………」チラッ

ぬいぐるみ「……………」

希「……………この子も持つていこうかな」スツ

穂乃果宅

穂乃果「雪穂ー！行くよー！」

雪穂「なんで今日はそんなに早いのに……！ちよつと待ってて！」

穂乃果宅前

海未「……時間より早く来すぎましたかね」

ことり「あれ？海未ちゃん早いね」

海未「ことりも随分と早いですね」

ことり「えへへ、なんだか落ち着かなくて！」

海未「少し話し相手になってくれませんか？」

ことり「いいよ♪」

ガラッ！

穂乃果「……あれ？2人とも早くない!？」

海未「ど、どうしたのですか穂乃果、こんなに早くに……」

穂乃果「ふっふーん！穂乃果にだって早いときぐらいあるんだよ！」

雪穂「胸はって言われても……」

海未「まさか熱でも…!?それとも天変地異の前触れ……」

穂乃果「海未ちゃん朝から失礼だね」

雪穂「日頃の行いでしょ」

穂乃果「なにおう!」

ことり「ふふ、それじゃあ行こっか!」

穂乃果「うん!」

雪穂「はい!」

海未「雨が……いや隕石が降るかも……」ブツブツ

穂乃果「失礼!!」

絵里宅

絵里「……………」シユルツ

スツスツ

キュツ (ポニーテール結び)

絵里「……よし」

ガチャツ

亜里沙「おねーちゃん！準備できたよ！」

絵里「そう、私ももうすぐ終わるわ」ニコツ

亜里沙「……」

絵里「どうしたの？」

亜里沙「……おねーちゃん、試合行きたくないの？」

絵里「どうして？」

亜里沙「バレエの時と同じ顔してる……」

絵里「……!!」

絵里「……まあ」

絵里「行きたくないといえば行きたくないわね」

亜里沙「……!!」

絵里「……本当に楽しかった、今日まで……ずっと」

絵里「今日が終わると全て終わる」

亜里沙「……」

絵里「……なんてね！」

絵里「行きましたようか」 スツ

亜里沙「……………あ……………」

亜里沙「亜里沙は!!」

絵里「……………」ビクッ

亜里沙「……………おねーちゃんと一緒に試合に出られる最後のチャンスだから……………」

亜里沙「楽しみ……………だよ？」

絵里「……………ふふ、ごめんなさい」 ナデ…

絵里「もちろんわたしも楽しみよ」

亜里沙「……………!!」 パアアアア!!

絵里「ほらほら、時間に遅れちゃうわよ」

亜里沙「うん!」 タツタツタツ

絵里「……………」

絵里「……………最後……………か」

にこ宅

にこ「それじゃああんたら、ママの言うことちゃんと聞くのよ？」

こころ「お任せください！」

こころ「多分」

コタロウ「ん」

にこ「……こころ」

こころ「？」

にこ「……行ってくるわね」ナデナデ

こころ「え……？は、はい……」

こころ「ずるいこころばかり！わたしも！」ガシツ！

にこ「わ、わかったから抱きつかないの！」ナデナデ

にこママ「ふふ、すっかりお姉さんね」

ピンポーン

にこママ「あら？誰かしら」

にこ「……まさか」スタスタ

ガチャツ

希「やつほー！」

亜里沙「お、おはようございます！」

絵里「最後まで一緒に行きましょう！」

にこ「………」ジトー……

希「いやーん！そんなに熱い視線注がれたらウチ火傷してしまうやん！」

ギイイイ……！

ガツ！

にこ「……つ足どけなさいよ！」グググッ

希「いいやん最後までいみんなで行きたい!!」

にこ「………」ググッ……

絵里「にこ……」

にこ「……はあ」

クルツ

にこ「行つてきます」

にこママ「行つてらっしやい、私たちも後か向かうわね」

こころ「お気をつけて！」

こころ「行つてらっしやい！」

コタロウ「しやーい」ピコッ

テクテク

希「相変わらずにこっちは素直じゃないなあ」

にこ「あんたがしつこいから仕方なくよ仕方なく」

絵里「……ふふ」

にこ「何笑つてんのよ」

絵里「いや……」



絵里「もつと早くから一緒に行けばよかつたなあつて」

にこ「……………」

希「……………」

絵里「…………？2人ともどうしたの？」

にこ「…………朝からしんみりさせんじやないわよ」

希「そんなことを言うにこつちにはワシワシの刑が」ワシワシく

にこ「亜里沙ガード」スツ

亜里沙「…………え？」

希「つく…………卑怯な！」

にこ「あつはつは！勝つためならどんな手でも使つて見せるわ！」

希「さて、茶番はこの辺にして行こつか、えりち、亜里沙ちゃん」

絵里「ええ」

亜里沙「は…はい！」

にこ「ちよ……!!ここで終わったらにこがただの悪者になっちゃうじゃない!」

希「はー緊張するなあ今日」

亜里沙「それなら人という字を……」

絵里「手に書くのよ?」

亜里沙「わかつてるよ!もうっ!」プクーツ……!

希「あはは!プニプニく」プニプニ

絵里「ほんとね」プニプニプニプニプニ

にこ「話を聞けー!!」

真姫宅前

凜「真姫ちゃん遅いにや〜」

花陽「いつも早いのにね」

凜「緊張で家から出られなくなったりして」ニシシ

花陽「流石にそれはないと思うけど……」  
ガチャッ

真姫「……おはよう」

凜花陽「おはよう!」

凜「真姫ちゃん遅かったにや〜」

花陽「その手に持つてるのは……?」

真姫「2人につてママが」

凜「なになに! 食べ物?」

真姫「……ツ……よ」ボソツ

凜花陽「?」

真姫「くくく!!」

真姫「カツサンドよ!」バツ

凜花陽「……」ポカーン……

凜「……ダジャレ?」

真姫「ー／／／／カアアッ!

花陽「……わ、わー! すごく美味しそう!」

花陽「頂いちゃっていいの?」

真姫「え……ええ」

花陽「いただきまーす！」パクツ！

花陽「……っ！」モキユツ！

真姫「……どう？」

花陽「……お」

花陽「おいひい……」パアアアア！

真姫「……と、当然じゃない！うちのママが作ってるんだから」クルクル

凜「凜も凜も！」バツ

真姫「ちゃんとあるからあわてないの」

凜「早く！早く！」

真姫「……というか花陽、あなたメガネ……」

花陽「う、うん……変……かな？」

真姫「すごく似合ってるわ」

花陽「……！えへへ」へニア

凜「おいしーにゃー！」

集合場所

穂乃果海未ことり雪穂「……………!」ピタッ

絵里希にこ亜里沙「!」ピタッ

凜花陽真姫「!」ピタッ

監督「……………お前ら仲良いな」

ヒデコ「3グループ同時だったね…」

フミコ「さ!このバスだよみんな!」

ミカ「乗り遅れないようにね〜」

穂乃果「……………よし!行こう!」

みんな「おー!!」

ブ  
ロ  
ロ

穂乃果「あーーー!!!花陽ちゃんコンタクトだ!!」

ことり「かわいい！」

花陽「えへへ……！ありがとう！」

決勝戦スタジアム

ワアアアアアアアアア

角間「さーついにこの日がやってまいりました!!」

角間「フットボールフロンティア決勝、UTX高校vs音の木坂高校!!」

角間「この組み合わせは地区予選決勝での組み合わせと全く同じですが……」

角間「その際は音の木坂が見事勝利を掴みました!……がしかし、それから両チームがどれほど腕を上げたのかが気になるところです！」

角間「優勝という栄光を手にするのはどちらのチームだあ!?!」

音の木坂「!!!がんばれー!!」

生徒会長「!!」

ワ「!!!!!!」

穂乃果「すっご……!」

希「エリチ人気者やん」ニヤニヤ

絵里「お堅い生徒会長がサツカーしてるって物珍しきでしょ」

にこ（え?こいつファンクラブあること知らないの?)

希（前に言ったら「はいはい、そんなドツキリには引つかからないわ」って流された）

にこ「……はらしよー」

おっちゃん「穂乃果ちゃん!!!がんばれよ!!」

おばちゃん「負けんじゃないよ!!」

穂乃果「商店街のみんなも!」

海未「ふふ、賑やかですね」

ことり「人……人……人……」スツスツ

雪穂　ゴクゴクゴク……!

穂乃果「みんなー！！！！応援よろしくう！！」

ワーーーーー！！！！

真姫（……人）ゴクッ

亜里沙「……入！」ゴクッ

音の木坂サイド

穂乃果「……」スウ……ハア……

海未「穂乃果、大丈夫ですね」

穂乃果「……うん！」

希「……?向こうに知らない子がいる」

絵里「髪が長いし……女の子かしら」

にこ「なに、助っ人呼んでるの？」



花陽「それについてはこっちにはなにも言えない気が……」アハハ……

真姫「わざわざ決勝戦に出すぐらいだから実力はあるわよね」

ことり「……うん、どうしよう」

穂乃果「それについては前回と同じ！」

穂乃果「今は考えても仕方ないよ！目の前のことに全力を尽くそう！」

みんな「おー！！！」

海未「……………」

海未「真姫、凛、ちよつといいですか？」

真姫「？」

凛「にや？」

監督「リーダー、試合前に一言頼む」

穂乃果「はい！」

穂乃果「みんな聞いて！」

バツ！

穂乃果「……………」

みんな「……………」

穂乃果「えーつと……………」

海未「……………穂乃果？」

穂乃果「えへへ、ごめんね、なんて言えいいのか……………」

にこ「久しぶりに頭使うから錆びついてんじゃないの？」ニヤニヤ

凜「にこちゃん錆止め使う？」

にこ「にこじゃなくて!!」

希「凜ちゃん、錆止めじゃ故障してるものは治らんよ？」

にこ「だあれが故障よ!!にこはバリバリの受験生!!」

凜「あーそっかあ……!さすが希ちゃん!」ハツ……!  
にこ「納得してんじやないわよ!!」クワツ!

穂乃果「……ふふ、そうだね、そうしよう」クスクス  
みんな「?」

穂乃果「みんな」

穂乃果「特別なことは何もいらぬ」

穂乃果「いつも通り、悔いの無いよう全力を出しきろう」

希「……………」

穂乃果「勝つよ!!」

みんな「おー!!」

UTXサイド

ツバサ「ああ……！待ちに待ったこの試合！」

エレナ「浮かれすぎだバカ」

あんじゅ「エレナは楽しみじゃないの？」

エレナ「……楽しみだ」

あんじゅ「ふふ、正直でよろしい」

MF3「……ええ!?これ買うためだけに朝早起きしたんっすか!?!」

MF1「紅茶などコンビニで買えばいいではないですか」

DF2「……!!」ジユウウウ……!!

プハアツ

DF2「わかってへんなー2人とも」

DF2「あのお店にしか出せへん味っていうのがあるんよ」

MF2「でも朝早起きして買うほどじゃないすか？」

D F 2 「そんなん買ってみんなとわからんやん」

D F 2 「やらずに後悔するよりやって後悔した方が気持ちええやろ?」

M F 1 「……一瞬でもかっこいいと思ってしまった自分を殴りたいです」

D F 2 「おうおう、ようやくウチの良さがわかってきたか」

D F 1 「うわー……すぐわかりやすく調子に乗ってる……」

M F 2 「お前はど思う?」 トントン

G K 「……!」 ペラッ

みんな 「……」 ジッ

G K 「……あ……えと……」 ビクッ

G K 「……か、カツコいいです……」

D F 2 「さっすがかわええ後輩や!!」 ワシヤワシヤ!

G K 「あわわわわ……!」 ボサアッ

あんじゅ 「みんな、準備はいいかしら?」

ツバサ「あの日のリベンジを、今日果たすわよ」  
みんな「おお!!」

???「ボクは初めから出てもいいのかな？」

ツバサ「あなたは途中からって言ったでしょ」

ツバサ「くれぐれも、油断しないこと」

???「神の前には全て無力さ」

ツバサ「……………」ハア……………」

DF1「高校に入る前にはそれ治しなよ？アフロちゃん」  
アフロちゃん？「…………アフロではない！」

アフロちゃん？「ボクの名前はアフロデイド!!」

MF2「はいはいアフロ」

MF1「アフロさん大人しくしててくださいね」

MF3「アフロちゃん！」

D F 2 「アフロ」

G K 「……………アフロ」

アフロデイ「アフロじゃない!!」

お姉さん「……………」

お姉さん（さあ、どうなる……）

F W

絵里、真姫

M F

海未、ことり、にこ、希

D F

凜、花陽、雪穂、亜里沙

G K

穂乃果

ザッ

ツバサ「……………」

穂乃果「……………」

角間「両者向かい合い、言葉を交わさず見つめてついています!!」

角間「もはや言葉など不要!! 語るならばボールで語り合おうということでしょうか

!!」

ツバサ穂乃果（いや普通に緊張してるだけ…………）

角間「コイントスの結果、UTX高校ボールでスタートいたします!」

ツバサ「……………よろしく」 スッ

穂乃果「……………よろしくお願いします」 ガシッ!



観客席

穂乃果ママ「ほら!みんなこっちよ!」

海未ママ「もう始まりますね」

ことりママ「どんな試合を見せてくれるのかしらね」

にこママ「こら!ここあ、じつとしてなさい。こころはコタロウのことお願いね」

希ママ「ん〜……お酒足りるかなあ……」ガサゴソ

絵里ママ「……没収」ガサツ

希ママ「そ、そんなあ〜……!!」

凜ママ「勝てるかな〜」

真姫ママ「大丈夫よ、カツサンド差し入れてあげたから」

花陽ママ「……ダジャレ〜?」

凜ママ「ちよつと寒いな」

真姫ママ「なによ!」

穂乃果ママ「ほらほら!もう始まるみたいよ!」

!?  
」  
角間「両者配置につきました！因縁の対決を制すのはいったいどちらのチームだあ

ベンチ

ヒデコ「あれ…？このぬいぐるみ何？」

ミカ「あー、それ希先輩のだよ」

ミカ「カバンから落ちてたからそこに置いてるんだ」

ヒデコ「なんでぬいぐるみ？」

フミコ「わかんないけどご利益ありそうじゃない？」

ヒデコ「それもそうだね！置いとこう！」

ザッ

ドクン……ドクン……ドクン……ドクン……  
穂乃果「……………」

—————

ツバサ「どうも、音の木坂の皆さん」  
ツバサ「リーダーの綺羅ツバサよ」

ヒフミ「ウワアア!!!」ドサツ

凜「あああ!!!」ドサツ

花陽「きやああ!!」ドサツ

ことり「ふぐう……!!」ドサツ

ツバサ「お願い……今更私たちが言えることじゃないかもしれないけど……信じて」  
穂乃果「……」

穂乃果「わたしたち、決めたんです」

穂乃果「綺羅さんたちに本当のことを聞くまで信じようって！」

ツバサ「この前とは違う、正々堂々な勝負を！」 スッ

穂乃果「よろしくお願いします！」 ガシッ

あんじゅツバサ「はああああ!!!」 バッ

ドキュルルルルル!!!



角間「今……!!」

ツバサ「決勝で会いましょう！」スツ

穂乃果「は、はい！」ガシツ

穂乃果「………」ブルツ………!

ピ—————  
ドツ  
!!!!

角間「試合開始で……」

海未「ことり！右サイド……」

ドキユツ!!!

ドシユルルルル……!!!

海未「……」

海未「……は？」クルツ





角間 「これは宣戦布告かあ!？」

花陽 「い、一瞬でゴールまで……」

絵里 「面白いじゃない」

ツバサ 「さあ………始めましょう」 ニツ

穂乃果 「……っ」 ゾクツ

絵里ママ 「……敵は随分厄介みたいね」

希ママ 「そうよお、ボール3つ使うなんて反則よお！」 ヒツク……!

絵里ママ (いつのまに……)

「蘇りしペガサ…ス？」

ツバサ「さあ……………始めましょう」ニツ

穂乃果「……………」ゾクツ

絵里ママ「……………敵は随分厄介みたいね」

希ママ「そうよお、ボール3つ使うなんて反則よお！」ヒツク…！

絵里ママ（いつのまに…………）

穂乃果「海未ちゃん！」ドツ！

海未「はい！」トツ

角間「不意打ちを食らいながらも音の木坂、すぐさま反撃の体制!!」

海未「凜！真姫！」ドツ！

真姫「ええ！」トツ

凜「まつかせるにやー！」タツタツタツ

ツバサ「……！これは……」

角間「『ディフェンス陣営から星空が飛び出していましたあ!!奇襲を読んでいたのかあ!?!』」

真姫「凜！いくわよ！」

凜「うん！」

グツ

グツ

ダンッ！ダンッ！

グルグルグル

グルグルグル

バツ…！

ドキユツ  
!!!!

真姫凜【ファイアトルネードDD!!】

ゴオオオオオオオオオ  
!!!!

角間「鮮やかなカウンタアアアアア!!!」

角間 「前回決勝ゴールを決めたこのシュート、止めることができるのかあ!？」

G K 「……………」

あんじゅ 「前回だって」クスツ

G K 「……………」スウ……………ハア……………」

ギラツ……………!

……………

他人と関わるのが苦手だった

嫌いではない

ただ……………一人の方が楽だった

G K 「……今なんて……」

お姉さん 「だからさ」

お姉さん 「君をこのチームから外してもいいかなって」

G K 「……嫌です」

お姉さん 「でも力不足でしょ？」

G K 「……っ」

お姉さん 「……ほら、止めてみなよ」 ザッ  
ドキュッ!!

G K 「フルパワーシールド！」

ギョルルルルルルルルルル!!!

バリイン！

G K 「きやあ!!」ブワア……………!

ゴロゴロゴロ……………ドサツ！

シュルルルル……………!

テンテンテン……………

お姉さん 「…………じゃ、新しいキーパー探しとくね」 スタスタ

G K 「…………っ待ってください…………!!」 ズズツ…………

お姉さん 「…………」 スタスタ

G K 「待つて!!」 ズズツ

お姉さん 「…………」 スタスタ

他人と関わるのは苦手だ

相手が何を考えてるのかわからないし、気を使うのは疲れる

……………でも

『あなたの目、隠れて見えないわ』

『同じ一年生同士、もっと私にも頼ってよ！』

このチームは、不思議とそれを感じさせない

ここ（GK）は……………私の居場所

ここ（GK）が……………私の居場所

私の……………

居場所（ナワバリ）



ゾクツ……！

お姉さん「……！」クルツ

GK「……あと一本だけ、お願いします」ムクツ

お姉さん「……負けたら？」

GK「二度とこのチームのキーパーはしません」

お姉さん「……いいね」ジャリツ

お姉さん「はあつ……！！」ドキュツ！！

ゴオオオオオオオオオオ！！！！

—————

ゴオオオオオオオオオオオ  
!!!!!!

凜真姫「決まれ!!」

穂乃果「いっけー!!!」

G K 「……………」

G K (私の居場所を侵すのは、何であつても許さない)

D F I 「止めちやえー!」

G K 「……………」バツ……!

G K 【ビーストフアング!!】  
ガブウツ……………!!

シユルルルルルル……

G K 「……」パシツ

角間 「……と、止めたああ!!!」

ワアアアアアアアアアア!!!

角間 「さすがはUTX!!前回の借りをしっかりと返してきました!!」

あんじゅ 「ふふふ」ニコニコ

真姫 「……完璧に……」スタツ

凜 「……止められた……」スタツ

絵里 「……!二人とも切り替えて!デイフェンス!」

真姫凜 「……!了解!」ダツ!

G K 「お願い……します！」 ドツ  
ポーン……！」

トツ

角間 「ボールは統堂が抑えました！」

エレナ 「さあ、攻守交代だ」

花陽 「……！」

花陽（まさか……前回の借りを返すためにわざとシュートを……？）

にこ 「ことり！」 ダツ！

ことり 「うん！」 ダツ！

にこ（……こころ、見てなさい） チラッ

エレナ 「よそ見などしていいのか？」

にこ 「……お気遣いどうも！」 バッ

「スピニングカット！」

ズシューウウウ……………!!!

ブワアアアアアアアア!!!

エレナ「……甘いな」ダッ

ブワアア……………!

角間「なんと統堂、必殺技をもともしない正面突破あ!!」

「……」ニヤッ

ことり「はああ!!」ズザザッ!!

エレナ「ほう……………」

角間「矢澤の必殺技が目隠しになり反応が遅れたかあ!?!本命は南のスライディング

だああ!!」

「……」ここに獲った……………!!」

凜「いつけー！」

エレナ「……だが」

エレナ「惜しいな」フフ

希「…!!にこつち！ことりちゃん！違う!!」  
にこことり「え？」

M F 1「ほっ…！」トツ

角間「技を突破する前にバックパスを出していました統堂!!味方にパスが通ります  
！」

にこ「なっ…!?あの一瞬で……」

エレナ「目隠しはお互い様だろう？」クスツ  
にこ（なんて判断力の速さ……）  
にこ「海未！」

M F I「……！」ピタツ

海未「……あなたには前回の借りがありましたね」ザツ

M F I「……あの頃から互いにどれほど変わったのか……」ジャリツ……

M F I「楽しみですね」ダツ！

海未「そうです……ね!!」ダツ！

ガツ！ ザザザツ トトツ

海未「……くっ……！やはりそう簡単にはいきませんか」ガガツ

M F I「ふふ、あなたも前とは違いますね……！」トツ

M F I（間合いの取り方が上手くなっている……）

—————

U T X 高校

ツバサ「……で、話って何かしら」

エレナ「自主練習の時間がなくなってしまう」

あんじゅ「そんなに焦らなくなっただっていいじゃない」まったく……

M F 1 (三年生)「……」

M F 3 D F 2 (三年生)「……」

M F 1「……もう、私たちにパスを回してくれなくて大丈夫です」

あんじゅエレナ「!!」

ツバサ「……訳を聞いても?」

M F 1「音の木坂との試合、ボールを奪取されたのはほとんど私たちでした」

M F 3「ツバサさんたちがいくら強くても、自分たちが迷惑をかけてちゃ勝てないっ

すよ……」

D F 2「……」

ツバサ「……」



M F 1 「そういうわけでこれからは……」  
ツバサ 「なるほど」

ツバサ 「嫌だけど」ズバアツ

エレナ 「ほら、もう戻ってもいいだろう？」

あんじゅ 「ええ、大したことじゃないみたいだし」

M F 1 「なっ……！ 私たちは真剣に……！！」バツ

ツバサ 「私はこのメンバー全員で優勝を目指す」

M F 1 「ですからそのために……」

ツバサ 「力が足りないと思うなら、死に物狂いで強くなればいい」

ツバサ 「私たちもそのつもりよ」

M F 1 「……」

ツバサ 「何より……」

M F 1、3 D F 2 「？」

ツバサ「つまないじゃない、そんなサッカー」ニコツ

—————

ザツ ガガガツ トツ

海未（押しすぎるといなされるので一度少し引いて……）ザツ

M F I（……ここ！）ドツ

海未「……へ？」トツ

希「!!」

角間「おおつとこれはあ!?!激しいせめぎ合いの最中、一步距離をとった園田の胸元へ  
優しくパスを出しましたあ!!」

角間「これを丁寧にトラップで……」

海未（なつ……これ……まずつ……!）ピクツ!

M F I「落とさないでくださいね？」クルツ

希「海未ちゃん!!」

M F I 「ジャツジスルー！」 ドガアツ!!

海未 「うああ!!」 ドサツ

角間 「これは痛烈!! 強力な必殺技が園田を襲います!!」

絵里 「あの技は……!!」

希 「海未ちゃん大丈夫!」 ダツ!

海未 「……? 痛く……ない?」 ムクツ

希 「へ?」

M F I 「この技は本来敵を痛めつけるためのものではありません」

M F I 「敵の重心を崩すのに効果的な「技術」です」  
あんじゅ 「くしゅっ……！」

海未 「……やりますね」

M F I 「どういたしました」ダッ！

角間 「UTXが攻め上がります！」

花陽 「敵の動きに合わせて流すのではなく、崩す……」

雪穂 「ということは……」

希 「押しても引いても、全て対処されるってことやね……」

希 （あんちゃんとは桁違いのキレ……こっちが本家か）

M F I （よし……このまま持ち込んで……）

ゾクッ……！！

M F I 「……………！！」バツ！

ことり 「……………」ジーーーーー

ことり（海未ちゃんを傷つけるのは許さないよ？）ジーーーーー

M F I （……………全く、人は見かけによりませんね）ブルッ……………！！

タツタツタツ

角間 「ぐんぐん攻め上がっていくぞお！！この勢いを止めることが……………」

亜里沙 「はああ！！」ガッ！

M F I 「ぐっ……………！！」グラッ…

角間 「絢瀬が敵の侵入を防ぎましたあ！！」

M F I 「亜里沙……………」

亜里沙 「えへへ……………！！」トッ

亜里沙 「希さん！！」ドッ！

希「うん！」トツ

M F 3 「おおっと、行かせないっすよ！」ザッ

D F 2 「抜いてみいエセ女！」ザッ

希「……っ！」

角間「すかさず2対1の状況へと持ち込みました!!」

希（対応が早い……!）

希（「イリユージョンボール」も警戒されてる……なら!）

希「にこっち！」バッ

にこ「!?」ズザザッ!

希「…なっ…!」ピタッ

希（なんであんなところに…）

絵里「にこ! 上がりすぎよ!」

にこ「ーわかつてるわよ!」ダッ!

花陽（……にこちゃんが上がりすぎていたおかげで中盤に隙ができてる）

花陽「……! 希ちゃん危ない!」

M F 3 「もらったつす!!」バッ

【クリエイション……!】

ドガアッ……!!!

希「…………!!」

MF3【ザ・マウンテン!!】

海未「こ、これは…………!!」

絵里「この間までとレベルが違う…………!!」

お姉さん（もともとと素質のある子だったけど、ようやくイメージと実力が追いついたって感じかな）

穂乃果「希ちゃん!!」

希「…つぐぐ…!!」ズザザツ!

希「雪穂ちゃん!」ドツ

雪穂「よし…!!」トツ

角間「ギリギリのところまで高坂雪穂にボールを戻します!」

雪穂（ここは一度落ち着いて…………）トトツ

にこ「後ろ!すぐ来てるわよ!!」



雪穂「……………へ？」クルツ

あんじゅ「あらあ？少し見ない間に随分顔つきが変わったみたいね」

雪穂「つ…!?」バツ…！

雪穂（いつのまに近くに……………!!）

花陽（展開が早すぎて後手に回っちやってる……………!!）

あんじゅ「ボールちょうだい♪」バツ

雪穂「ハ、ハンターズハイド!!」

スウ……………！

ドクドクドクドク

雪穂（び、びっくりしたあ……）ドキドキ

雪穂（優木さんは……）チラッ

雪穂「……!!」

雪穂（ゆ、優木さんがいない!?)

雪穂（いつたいどこに……）キョロキョロ

「……………」ニヤッ

あんじゆ「みーつけた」

雪穂「後ろ……!!」クルッ



ツバサ「ふふ、そろそろ仕掛けさせてもらうわよ」タツタツタツ

花陽「させません！」ザツ

ツバサ「あら、コンタクトにしたのね。よく似合ってるわよ」

角間「音の木坂最後の砦小泉、3対1というこの状況、止めることができるのかあ!？」

花陽（ここで止める……!!）グツ……!

花陽【デیفエンス方……】

ツバサ「あんじゅ！」ドツ

ドツ トツ

ツバサ「悪いわね」ふふ

海未「なっ…!？」

花陽（全然間に合っていない……）

ツバサ「いくわよ！あんじゅ！エレナ！」  
あんじゅエレナ「了解！」バツ

ツバサ「……穂乃果さん」

穂乃果「！」グツ

ツバサ「先取点は頂くわ」

エレナあんじゅ　　ダッ！

タツタツタツ

ズシユウウウウウウウウ

ゴオオオオオオオオオオ  
!!!!!!

花陽「【トライペガサス】……」

絵里「最初から飛ばしてくるわね……！」

凜「大丈夫にや！穂乃果ちゃんなら……！」

ことり「……待って……これ……」

希「……何かおかしい」

ツバサ「ペガサスは今、不死鳥となって蘇る」  
ボフアアアアアアアアアア  
!!!!

ドツドツドツ

ツバサエレナあんじゅ〔ザ・フェニックス!!〕

ドゴオオオオオオオオオ  
!!!!!!

角間 「出たあああ!!! U T X 高校の究極奥義〔ザ・フェニックス〕!! 序盤から飛ばして  
いきます!」

にこ 「〔トライペガサス〕を進化させて……!!」

絵里亜里沙 「ハラシヨ………」

海未 「穂乃果!!」

穂乃果 「……任せてよ」





ピシイ…!!

穂乃果「……つぐぐ……!!」ミシイ……

穂乃果【マジン・ザ・ハンド!!】

バチイツ……!!

穂乃果 ドサツ

ドシユルルルル……!!!

凜「……え」

角間「……き、決まったあああ!!!」

角間「UTX高校の進化した必殺技に高坂手も足も出ず!!」

角間「先制点はUTXだああ!!」

ツバサ「やっぱりこの技は体力の消耗が激しいわね」ハアハア

あんじゅ「でもスタートダッシュは切れたんじゃない？」ハアハア  
エレナ「とりあえず及第点だな」ハアハア

海未「だ、大丈夫ですか穂乃果？」ガシッ

穂乃果「……う、うん……」ググッ……！

穂乃果「ごめんみんな、粘ることもできなかつた……」

穂乃果（これ以上は……）

マジン「……」

ドロツ

穂乃果「……」ブルッ……！

ことり「ううん、今のは仕方ないよ」

にこ「【トライペガサス】と比べてどうだった？」

穂乃果「正直……比べ物にならないくらい強かった……」

穂乃果（それなりにリスクを犯しても手も足も出ないくらい……）

絵里「でも攻撃も守備も思っていたほどの差じゃないわ！」

海未「ええ、これならば勝機は十分にあります」

凜「海未ちゃんさっきの……大丈夫？」

海未「ええ、本当に痛みがないのでびっくりしました、すごい方ですよ」

凜「……そっか、よかった」ホッ

にこ「なーによ凜、今日は随分としおらしいじゃない」

希「変なものでも食べたんやない？」

凜「……知らない知らない知らないにゃー!!」ダッ！

にこ希「逃げた」

穂乃果「よーし！それじゃあみんな！まだまだこれから、張り切っていこー!!!」バツ

！

みんな「おー!!!」バツ！

凜（……だつてこのメンバーで試合できるのは今日で最後だから……）

凜（誰も欠けて欲しくないから……）

花陽「凜ちゃん！始まるよー！」

凜「今いくにやー！」ダッ！

凜（……………なんてね）フフ

穂乃果「……………」ギユツ……

角間「ここでUTXメンバーチェンジです！助っ人のアフロ照……………アフロデイ？が  
加わります！」

アフロデイ「ふふ、ようやく僕の出番か」ザッ

絵里「ここであの子が出るのね」

ことり「なんだか強そうだね」

穂乃果 「みんなー！まだまだこれからだよー！」  
みんな 「おー！」

「…………どうしましよつか」

UTX 高校1—0 音の木坂

ピ—————

ドツ

角間 「1点ビハインドで音の木坂ボール!! いったいどのように展開していくのでしょ  
うかあ!!」

ツバサ 「はあ…………はあ…………」

ことり (綺羅さんまだ息が切れてる…………) トツ

ことり (これなら…………) ザツ

タツタツタツ

角間 「後衛から誰かが上がって行きます! 一体…………」

ことり 「お願い!」 ドツ!

亜里沙「はい！」トツ

角間「絢瀬だああ!!」

ツバサ「……亜里沙」……ふう

真姫絵里　ダツ!

角間「西木野と絢瀬が上がっています！一体何をするつもりだあ!？」

亜里沙「はあ…!!」バツ

パキパキパキ

亜里沙「氷の矢!!」ドキュツ!!

ゴオオオオオオオオオオ!!

角間「ボールはフィールドを縦断し一直線に前線へと向かいます!!」

花陽「よしっ……!」

凜「いつけー!」

ツバサ「……そこまでお人好しじゃないわよ」

クルクルクル

ボフアアアアアアアア

亜里沙「っ……!?!」

DF1「フレイムダンス!」



ジユウウウウ……………!

テンテンテン……………

角間「勢いを完全に止めたあ!!」

絵里真姫「!」ズザザツ……………!

DF1「へっへーん!」ブイツ!

タツタツタツ

DF2「……………ちよっ……………!前見い前!!」

にこ「どらあ!!」ガツ!

DF1「うわあ!」ドサツ

角間「これはナイスプレー!矢澤、見事ボールを奪い返しました!」

凜「にこちゃんすごいにやー!」

花陽「うん……………すごすぎるぐらい……………」

MF2「お前ホント変わってねーなあ……………」

D F I 「ううう……!!!」プルプル  
にこ「……はあ……はあ」

絵里「にこ！こつちに……」

にこ「とりやあ！」ドキユツ!!

真姫「に、にこちゃん!？」

角間「これは矢澤思い切ったプレー！シューとしたボールはまっすぐゴールへと向  
かっていきます！」

にこ（決まれ……!）

G K 「……………」バツ!

パシッ

にこ「…………ちっ」

角間「これをキーパーがっしりとキャッチしました！」

ツバサ「…………珍しいわね、矢澤さんがシュートなんて」ハア…………ハア…………

エレナ「ああ、初めて見た」ハア…………ハア…………

絵里「ドンマイにこ、惜しかったわよ」

真姫「全く…………どういふ風の吹き回し？」

にこ「…………ごめん」タッタッタツ

絵里「…………にこ？」

凜ママ「だー!!惜しかったなあ！」

にこママ「どうしたのかしら、らしくないわね…………」

こころ「お姉様……………」

D F 2 「よっしや！」 トツ

海未 「いかせません！」 ザッ！

D F 2 「……………」 ジッ

海未 「……………」 ペターン

D F 2 「……………」 ちつき」 ボソツ

海未 カチン……！

海未 「どこの話をしているのですか!!」 バツ

D F 2 「……………」 はあ」 トツ……… ザザッ！

海未 「……………」 つ……!!」 イラアッ……！

海未 「なぜ！あなたに!!ため息を!!つかねければ!!ならないの!!ですか!!」 ガッ！

ガガッ！ザッ！

D F 2 プツ……!

D F 2 「動揺しすぎやろ」クスクス

クルツ ダツ!

海未「……つくく!」ガクツ

D F 2 「……!」チラツ

D F 2 「頼んだ!!」ドツ

花陽「なっ……!」

角間「こ、これは!中盤から前線へのミドルパスです!空高く上がったボールがゆったりと前線へ向かいます!」

にこ「つち……!」ダツ!

希「にこつち!」

希(さすがに深追いしすぎじゃ……)

海未「このボールを取られてはまたシュートチャンスに……」

花陽「!?」

ツバサエレナあんじゅ「はあ……はあ……」

海未（A—R—I—S—Eの三人は動いていない……!?）

花陽（まさか……!!）

M—F—I「任せましたよ、アフロさん」

ツバサ「しっかりと決めなさいよ、アフロちゃん♪」

アフロデイ「ア・フ・ロ・デイ・だ！」ダッ

角間「アフロデイがシュート体勢!!音の木坂完全に裏をかかれたあ!」

花陽（疲れてあまり動けない綺羅さんたちの代わりの攻撃要員……少し考えれば分かる事だったのに……!!）

アフロデイ バッ!

花陽（そんな位置からシュートを……!!）ダッ!

アフロデイ「いくよ」

穂乃果「こい!!」

アフロデイ「天使の羽ばたきを聞いたことがあるかい？」

バサア……!!

バッ!

アフロデイ「ゴツドノウズ・インパクト!!」  
ドキュツ!!!

ゴオオオオオオオオオオ  
角間「助っ人アフロデイの強烈な必殺技あ!!高坂止められるかあ!?!」  
穂乃果「……………」グツ…………



パチツ……パチツ……

穂乃果（……もう少しだけ大きく……）ググツ

ピシイ…!!

マジン「………」

ドロツ

—————

穂乃果「っ……!?!」ビクツ

シユウウ……

穂乃果（やばっ……びっくりしたせいで力が……!）

ゴオオオオオオオオオ!!!

穂乃果「……つやるしかない…!!」バツ!

穂乃果「マジン・ザ・ハンド！」

ギュルルルルルル！！！！

ズズズズ……………！！

穂乃果「そ…なっ…!!？」グググッ

角間「高坂押されている!!追加点を許してしまうのかあ!!？」

絵里「うちのリーダーを舐めないでもらいたいわね」

海未「あなたなら大丈夫です!!穂乃果!!」

ことり「いけー!!！」

穂乃果「ぬぐぐぐぐ……………!!」グググッ

バチイッ

穂乃果「……………」

海未「……………穂乃……………果？」  
ドサッ

角間 「ooooooooooooooつ！」

角間 「高坂破れたああああ!!! ボールは無情にもゴールへ向かって……」

にこ花陽 「はあっ!!」 バッ!

ギョルルルル!!!

ドキュッ!!

にこ花陽 「うぐっ……!!」 ドサッ

希 「にこっち！」

雪穂 「花陽さん！」

角間 「ここは小泉と矢澤のフラインプレーー! なんとかピンチを凌ぎました!」

穂乃果 「……」

にこ 「穂乃果!! 早く起きなさい!! 切り替えて!!」 はあ……はあ……

穂乃果 「……うん」 ムクッ

花陽（……穂乃果ちゃん？）  
ポーン……！！

凜「つと……！」トツ

角間「こぼれ球は星空がおさえました！」

凜「よし！」

凜（はじめにシュートを打ったのは凜たちなのに、流れを持っていかれてる……）

花陽（凜ちゃんがボールを持って、敵は……）

真姫「凜！すぐ来てるわよ！」

アフロデイ「神の前には全て無力さ」ザッ

花陽（あくもう！考える時間をください!!）

凜「つ……！」グッ

凜【アクロバットキープ！】

ダツ　グウン　クルツ！

アフロディ「……ふふ、神をも凌ぐとは大したものだ」

MF2「お前よくそんなセリフが出てくるな」

凜「よし！」

角間「星空抜いたあ!!」

MF1「あなたには前回の借りが残ってましたね」ザツ

凜「……！」ピタッ

ことり「凜ちゃん！こっちに……」

D F 2 「させへんよお〜」 バツ  
ことり 「……っ！」

M F 2 「さあ……お相手願います」

凜（……今までの【アクロバットキープ】じゃダメ……）

凜 「なら……っ！」

凜ママ 「……」

――

凜ママ 「……これは……っ！」

ケータイ『タイムアープアップ!!!』

ケータイ『見事時間内逃げ切り成功です!!』

凧ママ（……アクロバット鬼ごっこ……か）

凧ママ「……面白いところに目をつけたな、凧」

—————

凧ママ「行け凧!!」

凧 ニコッ

MF2（……来る!）グッ

凧（凧が流れを……変えるんだ!）

凧【アクロバットキープ……】

バツ!バツ!ダツ!クルッ……シユバツ!

凧【パルクール!】



M F I 「……!!」

ワアアアアアアアアアア!!

角間 「星空までも抜いたあ!! 乗ってきたぞ音の木坂!!」

凜ママ 「よっし!!」

にこ 「あの動き……!!」

絵里 「いいわよ凜!」

凜 「えへ……!」

M F I (一見めちやくちやに見えますがどこか規則的な動き……)

M F I 「さすが……と言いたいところですが」

M F I 「前回からのあなたの成長がこれなら……」

M F 1 「少々期待はずれです」

花陽 「凜ちゃん危ない!!」

凜 「!」 ビクッ

ガガガッ……!!

凜 「!?」 グラッ!

角間 「おおつとお!? 抜かれたかに見えたM F 1、粘り強いディフェンスで食らいつき  
ます!!」

凜 (なんで……!? 抜いたはずじゃ……)

M F 1 「規則的ということは読みやすくなったということ、簡単には抜かせません  
……よ!!」 ガガッ!

凜 「ふぐつ……!!」 グラア……!

花陽 「凜ちゃん!!」



監督「1つの種目にこだわらず、雑食に他スポーツの動きを取り入れる」

監督「しなやかな筋肉と身軽な身体、ボディバランス……」

監督「……凛にしか出来ない芸当だな」

監督「……」チラッ

希「……」

角間「星空軽やかな動きで一気に抜き去ったあ!!流れを手繰り寄せます!」

M F I「……前言撤回です、やはり悔れませんか」

凛「どういたしましたにゃ!」

絵里「凛!」タッタッタ

凛「お願い!」ドッ!

ポーン！

テンテン………！

角間 「前線へパスを出すのが少し強いかなぁ!？」

絵里 「真姫!」

真姫 「ええ!」

角間 「音の木坂シュート体勢!!」

絵里 (強すぎなんかじゃない、最高のパスよ、凜)

凜 ニッ

—————

合宿夜中

絵里 「真姫もわかったんでしよう?」

絵里 「なぜ私たちがあの技を完成させられなかったのか」

真姫 「ええ」

絵里「私たちはお母様方に比べてキック力が弱い」

絵里「それを補うためには……」

真姫「あのときまぐれで起きたシチュエーション」

真姫「それこそが大切な要素の1つだった」

絵里「……もう説明なんていらぬわよね？」ジャリツ……

真姫「ええ」ジャリツ……

凜「……ふああ」ムクツ

凜「……トイレ行こ」キヨロツ

凜「ん？あれって……」

絵里（いままでの練習とマグレで成功した時との違い……）

真姫（それは……）

凜「……！」

絵里　ダッ！

真姫　ダッ！

絵里真姫（助走の有無!!）ダッ！





角間 「前回よりはるかにキレが増しております!!」

海未 「完成したんですね……!!」

絵里ママ 「へえ……!!」

真姫ママ 「真姫ちゃん大きくなったわね……!!」 ダーーツ!

ゴオオオオオオオオオオ

!!!!!!

G K 「……!!」

G K (……その技は準決勝の……)

絵里真姫 「いけええ!!!」

G K 「……止める」 スツ

G K 「ビーストファング!!」  
ガブウツ……!!

ギョルルルルル!!!!

G K 「……!あの時より……威力が!」ズズズズ……

真姫 「あんな未完成品と比べないでほしいわね!」

絵里 「今度こそいたただくわよ!」

ギョルルルルル!!!!

G K 「……つぐ……!!」ズズズズ!!

———  
G K 「わたし……私!」ポロポロ

ツバサ「ごめんなさい、勝たせてあげられなくて」ナデナデ

G K「ごえ……ごめんな、さい…!!」ギョツ

—————

G K「……!」ググツ……!

G K（もう二度と……あんな思いはしたくない!!）バツ!

バチイツ!

絵里真姫「なっ……!」

角間「こ、これはあ……!? 上手く力を上に流し弾いたあ!」

ツバサ「へえ……!」

あんじゆ（とっさの判断で……危なかったわね）

希「惜しかったよ! 次行ける次行ける!」

G K「まだまだあ!!」ザッ

あんじゆ「……!」フフ

ツバサ（あの子のあんな声……聞いたことないわね……）チラッ

GK（……早く次のシュートを………次は止めるから………！）ウズウズ……  
ツバサ「……っ」ブルッ……

ポーン！

角間「上空へ上がったボールは一体どちらがキープするのでしょうかあ!!」

真姫「絵里！」タツタツタツ

絵里「ええ！」タツタツタツ

角間「こ………これはあ!？」

ポーン………！

ブワアアアアアアアア  
ブワアアアアアアアア  
!!!!!!!

真姫（どれだけ悩んだと思ってるのよ……!）  
絵里（私たちの力は……!）  
テンテンテン………! !

フワツ……

絵里真姫「こんなものじゃない!!!」

ドキュツ!!!

絵里真姫「クロスフアイアアア!!!」

ゴオオオオオオオオ  
!!!!!!

ゴオオオオオオオオオオオオオオオオ!!!!!!

角間「再度シユートを放つてきました音の木坂あ!!」

DF2「アツ………ホかこいつら………!!」ゴーン………!

MF3「あんなシユートを連発するなんてえげつないっすね………」  
にこ「いけつ!!!」

凜「もらつたにや!!」

ゴオオオオオオオオオオオオオオオオ  
!!!!!!!

ツバサ「これは………!!」

お姉さん(………さすがは絵里さんと真姫さん………)

ツバサお姉さん「でも」

G K 「……………」グッ  
ツバサお姉さん「……………」そう」

「あなたの力はこんなものじゃない」

グルルルル……………！  
G K 「……………」っ！！」ググググッ……………！！



G K (もつと……もつと感覚を研ぎ澄ませ……!!) カツ……!!

一度敗北を知ったものは、勝利に飢える

ダ  
ラ  
ン  
……

飢えは加速する

バツ！

ガブウツ………！！！！  
シュルルルルル………！！

パシッ

絵里真姫「……………なっ……！」はあ……………はあ……………

GK【ハイビーストフアング】

!!!  
角間「先ほどよりも威力をあげた【クロスファイア】を今度はがっしりとキャッチイ

真姫「……………どうする？」

絵里「……………どうしましょっか」

GK「……………」ドッ!

ポーン……!

ツバサエレナあんじゅ「……………すう……………はあ……………」

……………スッ

花陽（……………っ！呼吸が戻った……………！）

海未（ここからが本番ですね）

凛「急いで戻らないと！」ダッ！

「優木あんじゅという人物、前半戦終了！」

ツバサエレナあんじゅ「……すう……はあ……」

……スツ

花陽（……っ！呼吸が戻った……！）

海未（ここからが本番ですね）

凜「急いで戻らないと！」ダツ！

角間「攻撃の連続で音の木坂は敵陣に寄ってしまい、非常にディフェンスが手薄になっ  
ています!!」

角間「このピンチ、凌げるかあ!？」

海未「希!」ザツ

希「うん!」ザツ

ツバサ「……凌ぐ?」

ヒュツ……!

ツバサ「そんな時間は与えない」トツ

海未希「なっ……え?」クルツ

角間「綺羅、あつという間に二人を抜き去りました!」

花陽（この勢いにパスまで加わったらいよいよ止められない……）

花陽（なら……!）

花陽「亜里沙ちゃんは統堂さん、雪穂ちゃんは優木さんのマーク!」

亜里沙雪穂「はい!」ダッ!

ツバサ「あら、あなたが相手をしてくれるの?」ザッ

花陽「……ここから先はいかせません!」ザッ

ツバサ（あんまり対峙すると余分なデータを取られかねない…）

ツバサ「……」チラッ

ツバサ「……あんじゅのこと、どう分析してる?」

花陽「……へ?」

ツバサ「のんびりしてそうだけどすごいよ彼女」フフ

花陽「……知ってます」

花陽（隙を見せちゃダメ……）ジリッ…

ツバサ「A—R—I—S—Eって一纏めにされてるけど、誰もあんじゅがすごいって言って

くれないのよ」トントン…

花陽「セクシー担当って言われてますね」

ツバサ「そんな簡単なものじゃないのだけど……」ジャリツ……

花陽（……くるっ！）グツ

ツバサ「ほっ」ドツ

花陽雪穂「………なっ…!？」

角間「こ、これは!?!完全マークされている優木にパス!?!高坂雪穂の真正面だあ!!」

花陽（一体………何考えて………）グルグル……

花陽「………っ雪穂ちゃん！取って！」

雪穂「は、はい！」バツ

角間「高坂雪穂、当然パスカットの体勢！」

ツバサ「………だから言ってるじゃない」



ツバサ「そんなに簡単なものじゃないって」  
あんじゅ「……」

彼女は幼い頃から魅力的だった

男性「私、こういうたものですが」

「……子役スカウト？」

男子中学生「俺と付き合ってください!!」

「ごめんなさい」

芸能人はオーラが違うと言われるが、彼女がまさにそうだった  
ただ、そのせいで嫌な目にあうことも少なくはなかった

女生徒 「いいよねあんたは、生れつきそんなに可愛いんだから」

(……私の苦勞も知らないくせに……)

街を歩けばスカウト、ナンパ

ひどい時にはストーカーに付きまとわれたことさえあつた

ある人に言われた

「いやー！君は他の子と違って色があるんだよね！」

彼女は憧れた

誰の目も引かない無色の女の子に

パシッ

雪穂 「……へ？」

あんじゅ 「マーク、とつくに外れてたわよ？」 トツ

角間 「ゆ、優木にパスが通りましたああ!!!」

あんじゅ「じゃあね、妹ちゃん♪」ダッ  
雪穂「ちよ……ええ？」

花陽「なんで気づかな……！」ハッ

花陽「……気づこうとしなかつた？」

ツバサ「あなたは街ですれ違う人の顔をわざわざ覚えなくてしょ？」

ツバサ「あんじゅは意識の隙間に入り込む」

あんじゅ「ツバサ！」ドッ！

ツバサ「存在感を自在に操ることができる」トッ

花陽「しまっ……！」クルッ

ピューーーーーーイ!!

ドシドシドシドシドシ

ギョオオオオオオオオ!!!

—————

ハア……ハア……

ツバサ「あと……少しなのに……」

あんじゅ「何がダメなのかしら……」

エレナ「時間から考えて次がラストだな」

3人「……」

ガタツ

3人「!」クルツ

M F 3 「ヒツ……!」ビクツ

あんじゅ「どうしてそんなに怯えるのよ」

M F 3 「いや……!」にへへ……!

ツバサ 「どうしたの？こんな時間に」

M F 3 「そ、その……練習を見てて、違和感というか……」

エレナ 「改善点か？」

M F 3 「そんな大それたものじゃないっす！」アワアワ

ツバサ 「ぜひ教えてくれないかしら」

M F 3 「でも……」

あんじゅ 「おねがぁい♪」

M F 3 「ううう……わかったっすよお……」

M F 3 「えーつと……その……」

3人 「……」コクツ

M F 3 「その必殺技には……」

M F 3 「……………」

3人 「あ」

ザッ

3人「……………」

ツバサ「最後、合わせるわよ」

あんじゅエレナ「ええ」「ああ」!!」

ダッ!

ツバサ（……言われてみれば簡単なことだった）ダンッ!

ピューーピューーイ!!

ドシユドシユドシユ

ツバサ（横のつながりと縦のスピード、今までのこうていペンギンが二次元だとすれ  
ば!）



ゴオオオオオオオオオオオオオオオオオオ  
!!!!!!

角間「【こうていペンギン2号】を進化させた必殺技、【こうていペンギン3号】が音の木坂ゴールを狙います!!」

希「また新技……!!」ブルツ

海未「穂乃果!!」

M F 3 「いけるっす!」

D F 1 「追加点いっただきー!」

穂乃果「……………」

ツバサ「……………?」

ツバサ（何か……………様子が……………）

穂乃果ママ「……………」



雪穂（強力なシュート……!!）タッタッタツ

ズザザッ!

雪穂「行くよおねーちゃん!」ガシッ

角間「高坂姉妹【ホムラ・ザ・ハンド】の体勢!!」

穂乃果「……………」

穂乃果「離れて」グイッ

雪穂「…へ?」グラッ……

トサツ

穂乃果「……………」

雪穂「…………お姉…………ちゃん？」

パチツ……………

ああ、何を悩んでたんだろう

パチツ……………

チームを勝ちに導くのが私の仕事なんだから

グググツ……………!

怖がつてる暇なんてないよね？

ピシィ……………!

穂乃果「頑張れリーダー」

バキイツ!!!

花陽「……………」

凜「……………かよちゃん……………」

花陽「……………また……………嫌な感じ」

凜「……………うん」

ゴオオオオオオオオオオ!!!  
角間「さあ高坂！これを止めることが……」

メキヨオツ……!!

シユルルルルル……! !

穂乃果「……」パシツ

「……」

「……え？」

にこ「と……止めた……の？」

絵里「……なんだか……すごく簡単に」

ことり「す、すごい……」

ツバサ「まさか……あなたがその道を選ぶなんてね」

穂乃果「……………っはあ……………」プルプル

穂乃果「……と、止め……………」

ミシミシミシミシ……………!!

穂乃果「……………ぐううう!!」ガクツ

穂乃果ママ（パズルの枠を壊せば限界以上の力を出せる反面、当然リスクもある）

穂乃果（か、身体が……………軋む）ギチィ……………

角間「見事シュートを受け止めた高坂！」

花陽（あの技、ただの技じゃない……………）

亜里沙「……………穂乃果さん」

角間「音の木坂の反撃です!!」

穂乃果「ゆ……………雪穂！」ドツ

雪穂「……」トツ

雪穂（……おねーちゃんに聞きたいことは山ほどあるけど、まずは試合に集中しな  
きゃ……！）

雪穂（そのためにはボールを……）

雪穂「はあ!!」ドキュツ…!!

角間「これは高坂大きくクリアしました！」

エレナ「いい判断だ」

ポーン……!!

角間「ポールはUTX陣営奥深くまで飛んで行きます！」

にこ「ふっ！」バツ

DF2「てやあ！」バツ

にこ（……小さいのになんてジャンプ力…!!）

ガッ

DF2 「よし！とっ……！」

「ごめんなさいにこ、ほんの少しの辛抱だから」

プワアア!!プワアアア!!プワアア!

ドッ      ピキピキピキ……カキーン!

絵里「スノーエンジェル」

DF2 「くっそ……！」カキーン

にこ「にごおお……」カキーン

ポーン!

角間「ボールを弾いたあ!!」

絵里「海未！」

海未「はい！」バツ！

DF1「させない！」

クルクルクル

ブワアアアアア!!

DF1「せんぷうじん！」

ギユオオオオオオ!!!

ヒュルルルル……パシッ

海未「……そう簡単にはいきませんか」

「ここに回転が止まったところを狙うわよ！」

クルクルクル……！



ツバサ「……………」ニッ

ツバサ「左サイド、上がるわよ!」

みんな「おお!」

タッタッタッ

海未「……………作戦をあんなに堂々と……………」

ことり「ことりたちもいこう!海未ちゃん!」

海未「え、ええ……………」

花陽（何か裏が……………でも実際にメンバーは移動してる）

花陽「右サイドには優木さんしかいないし……………」

花陽「……………」

花陽「……………」

花陽「……………」

にこ「花陽!! 右サイド!!!」

花陽「……!! 優木さん!!!」

ツバサ（気づいた…思ったより早かったわね）

ツバサ「でも遅いわ!」

クルクルクル!!

にこ「回転が加速して……!!」

D F 1【フレイムダンス!】

ボフアアア!!!

海未「炎の道が…!!」

D F 1「あんじゅさん!」ドキユ!

角間 「こ、これはあ!! 必殺技を味方へのパスへと繋げましたあ!!」

角間 「フリーの優木へとボールが渡ります!!」

雪穂亜里沙 「行かせな……!!」

クルツ フワッ!

あんじゅ 「おっ先く♪」スタツ

角間 「デイフェンダーをものともしていません! ゴールまでがら空きだあ!!」

角間 「残り時間わずか、これが前半最後のチャンスだあ!!」

ダンツ!

ピューーーーーイ!!

ドシユドシユドシユ

ギユオオオオオオオオオ!!!

にこ「ま<sup>ず</sup>い……」

ことり「お願い穂乃果ちゃん!!」

クルツ

ツバサエレナあんじゅ【こうていペンギン3号!!】

ドゴオオオオオオオオオ  
!!!!!!

にこ「もう一度止めちやいなさい!」

穂乃果「……………っ」グツ

ドロドロドロ……………

ズズズズズ……………!

絵里「……………紫の……………」

真姫「マシン……………」

監督「……………」

海未「……………何でしょう」

海未「このなんとも言えない胸騒ぎは」

花陽「……………!」ゾワッ

花陽（これ……………! さつきよりも……………）

ミシミシミシ……！

穂乃果「……っ！」

海未ママ「……懐かしいですね」

ことりママ「ええ、さすが親子ね」

穂乃果ママ「……」

穂乃果ママ（その強大な威力と引き換えに、主にすら牙を剥く）

穂乃果ママ「名付けるなら……そうねえ」

穂乃果「はああ！」バツ



にこ「よしっ！」

海未「……気のせいだったのでしょうか」

亜里沙「穂乃果さん……」

エレナ「いいのかツバサ」

ツバサ「……何が」

エレナ「壊れるぞ」

ツバサ「……手を抜けと？」

エレナ「そうじゃない、ただ……」

ドシャツ……

ツバサエレナ「ッ……！」 クルッ



海未「……………穂乃果？」

ことり「穂乃果ちゃん……………」

真姫「……………なに？」

凜「え……………え？」

ピ  
ーーーーー!!

海未「穂乃果!!」ダツ!

ことり「穂乃果ちゃん!」ダツ!

角間「どうしたのでしょうか、シユートを止めた直後倒れてしまいました……………」

角間（前日もこんなことあったような……………）

監督「……………高坂、いけるか？」

穂乃果「……………」グツタリ

監督「……………」スツ

絵里「ちよ、ちよ、ちよつと待ってください!!」ガシツ

海未「穂乃果をどうするおつもりですか?」

監督「……………」こいつが目を覚まさなければ俺が医務室へ連れていかなければならない」

雪穂「それじゃあ試合は……………」

監督「これは規則だ」

海未「……………」ギユツ……………」

海未（何故ですか穂乃果……………」

海未（……………」何故あなたはまたしても一人で……………」

「……………」やり……………」ます」ムクツ

海未「……………」!!穂乃果!!」バツ

ことり「大丈夫なの!?!」

穂乃果「う、うん……少しよろけちゃっただけだから」

監督「できるのか？」

穂乃果「や、やります！」

穂乃果「まだ試合……終わってない!!」

監督「……お前……」

「再起不能になるぞ」

みんな「!」

亜里沙（……そこまで）

絵里「……」

ツバサ「……」

監督「それでも……」

穂乃果「どうでもいい!!」

監督「!」

海未「ー……」

トトツ

ことり「う……海未ちゃん？」

穂乃果「今日の試合は特別なの……!! 今日最後まで戦えるなら……」

監督「……」

穂乃果「これからなんてどうでも……!!」

「歯あ食いしぼりなさい、穂乃果」

穂乃果「……へ？」クルッ

ズバアッ!!

ゴオオオオオオ!!!

穂乃果「なっ…!?」

ドカアッ!!!

穂乃果「あぐっ…!!」ゴロゴロ……

ドサッ!

花陽「海未ちゃん!」

海未「サッカーで……」

海未「誰も傷ついて欲しくないんです……」

絵里（……海未が）

希（……サッカーボールで）

真姫（……人を傷つけた）

ことり「……」

穂乃果「……つな……なにをするのさ!!」ムクッ

海未「……ふざけないでくださいよ」ガッ……!

穂乃果「うぐっ……!」ググッ

海未「…………」

海未「もう……………忘れてしまったかもしれませんが…………」

海未「まだ私たちが幼かった頃」

海未「サッカーのルールもよく知らない、まだそんな頃に」

海未「あなたは私に言いました」

穂乃果「…………」

海未「大きくなっても私たちとサッカーをしようと」ギョツ…………

穂乃果「…………!」

……………

ほのか「ほのかはおつきくなってもふたりとさっかーするの!」

……………

海未「…………そんなあなたが…………」

穂乃果『どうでもいい!!』

穂乃果「……………」

海未「あなた……………」

海未「最低ですね」



穂乃果「……………」

みんな「……………」

パン!

みんな「!」

スルッ

穂乃果「あでっ……!」ドサッ

監督「とりあえず医務室へ行つてこい」

監督「試合に出るか出ないかはそこにいる人が教えてくれる」

穂乃果「教えてくれる?」

監督「いいから」

穂乃果「は、はい……………」

角間「……………」ポカーン

ピーーーーーー!!!

角間「……………」ハッ

角間「ここで前半終了です!!倒れてしまった高坂は、少しふらついただけで後半も出場できるようです!!」

角間「ここまで両者一步も譲らない試合運び、UTXリードで前半は幕を下ろしました!」

ワアアアアアアアアア!!!

ベンチ

穂乃果「……………」

凜「穂乃果ちゃん、医務室付いて行こうか?」

穂乃果「……………」大丈夫」

凜「……わかった」

凜（……試合終了の瞬間、穂乃果ちゃんがゴールに立ってないなんて……）

凜（凜やだからね）タッタッタツ

穂乃果「……」フウ……

ツバサ「ため息？」

穂乃果「!?」バツ

ツバサ「……私たちは後半も手は抜かない」

ツバサ「それだけ言いに来たわ」

穂乃果「……ありがたいです」

ツバサ「……それじゃあ」クルツ

スタスタ

穂乃果「……」

チクンツ……

控え室

監督「後半はメンバーを少し変える、異論は認めない」  
凜「でもまだ穂乃果ちゃんと希ちゃんと来てないにや」

監督「大丈夫だ、あとで伝えててくれれば」

監督「…それでは発表する」

通路

希「トイレ〜トイレ〜」 テクテク

タツタツタツ

ドンッ

希「うわあ!」ドサッ

「きゃつ!」ヨロツ

ポトツ

希「いつ……ててて」

「ご、ごめんなさい!」スッ

希「いやいや、ウチもよそ見してたしごめんなあ」よいしょつと

希「何か落として……」

希「!」ビクッ

「気づかなかった……ありがとうございます!」

希「(……これ……このぬいぐるみ……)」

「……?どうしました?」

希「……A……ちゃん?」

「え……?なんで名前……」

「つてあああああ!!!」

「希ちゃん!!」

希「……今日は応援にでも来てくれたの?」

Aちゃん「ネットで希ちゃんがサッカーしてるって知ったから……」

Aちゃん「……あの時のこと、謝りたくて」  
希「……………」

希「私は謝ってほしいことなんて何も無い」

Aちゃん「……………!のぞ……………」

希「それじゃ、試合始まるから」クルツ

Aちゃん「待つて……………!希ちゃん!!」

希「……………」タツタツタツ

高校生になる前

東條希の人生には、重要人物が二人いる

一人は東條希の心に傷を負わせ

一人は東條希が再び前を向くきっかけを与えた

医務室

穂乃果「失礼します」ガラッ

女性「お、やっときたね」

穂乃果「あの……ここに行けって監督が……」

女性「こつちにきて、テーピングだけ巻いてあげる」

穂乃果「は、はい……!」

マキマキグルグル

女性「……」マキマキ

穂乃果「……」チラッ

女性「……なに？」

穂乃果「へっ……!?いや……その……」

穂乃果「怒らないのかな……って」

女性「どうして？」

穂乃果「だって……」

――――

女性「でもそのせいで体に障害が残ってしまった時、誰が責任を取るの？」

女性「誰が一番悲しむの？」

女性「私が担当になったからには、そんな子を絶対出させはしない」

――――

女性「……怪我の影響が残ることが、必ずしも苦しいことじゃない」

穂乃果「……え？」

女性「中には途中退場したことを一生引きずってしまいう人もいる」

女性「多分あなたはそういうタイプだと思ったから」

穂乃果「……」



女性「……似てるわね」

穂乃果「え？」

女性「私の両親はね、今の私と同じ仕事をしていたの」

穂乃果「そうなんですか!？」

女性「まだ物心ついたかついてないかって頃、何度か両親の仕事についていったことがあってね」

女性「他のことはなに一つ覚えてないんだけど、あることだけはずっと覚えてるの」

穂乃果「何かあったんですか？」

女性「……」フフ

女性「居たのよ、あなたみたいな子が」

穂乃果「!!」

女性「その人もボロボロになりながら、でも退場はしたくないって言って戦い続けた」  
女性「結局そのチームは優勝、その人は大会最優秀GKとして大会史に名前を残した」

穂乃果「…すごい」

女性「さてここで問題です！」

穂乃果「ええ…!?!」

女性「ボロボロのその人を退場させることは本当にその人のためになったのでしようか」

穂乃果「それは……」

女性「……ね？答えは1つじゃないんだよ」

穂乃果「……」

女性「……あなたもきつと、ここで退場した方が後悔が残るだろうから」キュッ

女性「はい！これで終わり！」バシッ

穂乃果「……ありがとうございます！」グッ

女性「もうすぐ時間だから急いで控え室に向かった方がいいかもね」

穂乃果「うわっ……！ほんとだ……」

穂乃果 「それじゃあ医務室のお姉さん! 行ってきます!」

女性 「…!」

女性 「…うん、いつてらっしゃい」 ニコッ

ガララ      ピシヤン

女性 「…ほんとと…似てるなあ」

—————

20年近く前、サッカー場医務室

「こんな状態で試合なんて出られるわけないだろう!!」

「嫌だ!! こんなところで退場なんて、絶対しない!!」

「ちよっ…暴れちゃダメだつてば」

「落ち着いてください……！」

「うるさいうるさい!! 試合に出る!!」

「ダメだ、行かせない」ガシッ

「離してっば!」グッ

ピキッ……!

「っぐ……!」ビクッ……!

「……………」

「……………なんで……………」ジワァ……

「……………あんなに頑張ってきたのに……………」ポロポロ

「……………」サスサス

「……………どうにも……………ならないのですか?」

「……………」ハァ……………」

「……………どうしても出たいか?」

「うん……………」

「……………そこに座りなさい、できるだけの処置をしてあげよう」

「……………試合……………でいいの?」

「その結果、君の体がどうなろうと私は保証できないが」

「出たい!!」

「……即答か」

「よし、時間もない、急ごう」

「はい！」

シユルツ……マキマキ、キユツ

「よし、これで終わりだ」

「やった……!!できる……試合が……!!」グツ

「もう……強引なんだから……」

「言い出したら聞かないのはいつものことですよ」

「……すぐ小言……」

「何か言いました？」

「いえべつに……」

「処置はしたがこれはあくまで応急処置だ」

「あまり過信はしすぎないように」

「はーい！」

「ほら、行きますよ」

「全く……ほんと強引ね」

「それじゃあ医務室のおっちゃん！いつてきます！」

「……無茶はするなよ」

「はーい！」

ガララピピシャツ

「パパ優しいね！」

「……………」ギユウツ……………」

「??苦しいよお、パパく……！」

「……………すまない、もう少しだけこうさせてくれ」

「……………」

—————

女性「……………父さんもこんな気持ちだったのかな」

女性（神さま、どうか彼女に不幸が訪れませんように……………）ギョツ

## 第10話 「穂乃果のために」

角間 「さあ、いよいよ後半が始まります!!」

穂乃果 「う〜く〜く〜」 ヒリヒリ

ツバサ 「……穂乃果さん顔腫れてるわね〜」

エレナ 「散々やられたんだろうな」

ツバサ 「そうみたいね」 フフ

穂乃果 「いてて……みんな手加減なしなんだもん……」

凜 「当然にや!」 フンス!

花陽 「あ……はは……」



控え室

海末「今の穂乃果の状態と亜里沙の体感から考えるに、もう穂乃果にあの必殺技を出させるわけにはいきません」

絵里「紫のマジン……」

真姫「どういうこと？」

亜里沙「おそらく使えば使うほど体を酷使してしまう、わたしの【パンサーブリザード】と同じような感じですよ」

凜「そんな……」

花陽（やっぱり……）

亜里沙「ひとつ違うのが、私は脚だけでしたが穂乃果さんは全身を酷使しているというところですよ」

ここ「はー？あいつなに馬鹿なことしてんのよ、一発引つ叩いてやるわ」ガタツ

監督「……」

ことり「にこちゃん！」

海末「落ち着いてくださいにこ」

絵里「そうよ、まず海末の話を聞きましょう」

にこ「……わかった」ストツ

海未「ありがとうございます」

にこ「で、どうするの？」

海未「はい、まず穂乃果に使わないよう伝えます」

花陽「でもあの技、普通とは違う嫌な感じがして……そんなに簡単にいくかな……」

凜「凜もやな感じしたにや……」

海未「分かっています、もしどうしてもあの技を出してしまう場合は……」

海未「……」

みんな「……」

絵里「……私はやるわ」

花陽「わ……私も！」

凜「凜もやるにやー！」

海未「あくまで最終手段ですが」

にこ「……そっー！」

にこ「……っ」グッ

監督「……」

海未「そして今、穂乃果が戻ってきたときにやりたいことがあります」

みんな「？」

海未「……」

海未「ほっぺたを力一杯引っ張ってやりたいんです」

みんな「……」パチクリ

みんな「……………ぷっ」

アツハハハハハハハハハハハハハハハ!!!

真姫「いいわね、それ」

絵里「なんだかワクワクしてきたわ!」

亜里沙「楽しそう!」

凜「はー……!はー……!」

花陽「凜ちゃんがアツプを始めました」

ことり「ことりはつんつんしてあげよーっと!」

雪穂「……日頃の恨み、晴らす時……!!」

監督「……話はまとまったみたいだな、後半のメンバーを発表する」

みんな「はい!」

—————

ツバサ「後半、暴れるわよ」

エレナ「ああ」

あんじゅ「……ん？」ジツ

ツバサ「どうしたの？」

角間「……おや!?音の木坂は二人、メンバーチェンジのようです!」

ムツスー……!!

監督「いい加減機嫌直せ」

「……ぬわぁんで……」プルプル

にこ「なんでにこがベンチに下げられるのよ!!!」

にこ（こころのためにもグラウンドにいなきやいけないのに……!!）

希「まあまあにこっち」

にこ「あんたも怒りなさいよ！自分も下げられたんでしょうが!!」

希「ん……まあ……」

希「なんとかなるんやない？」

にこ「……ッあああああ!!!」ガァ!

監督希「うるさい」

にこ「……ふんっ！」

監督「……どうして下げられたか分からなければ、お前はずっとそこにいることになるぞ」

にこ「……!」

監督「グラウンドの中には気づけないこともある、ベンチからチーム全体を見てみろ」

にこ「……………」

角間「今大会特別ルールとして一人につき一度までなら交代した選手も再交代が認められております！」

凜「本当になんであの二人が……………」

ヒデコ「まあ……………理由を聞いたらわからなくもなかったけど」

雪穂「なんだったんですか？」

ヒデコ「それは私の口からも言えないよ」

ミカ「大丈夫、それに気づけばまた戻ってくるよ」

花陽「それ…?」

穂乃果「……よしっ！」パンツ！

穂乃果「痛っ…!？」ヒリヒリ

クスッ……

穂乃果「……！」チラッ

ツバサ「……！」ハッ……！

ツバサ「……！」ニコッ

穂乃果「……！」ニッ

角間「前半は激しい戦いを見せた両チーム！」



角間「後半はどのような戦いになるのでしょうか!!」  
ワアアアアアアアアアアアアアアア!!

角間「一点ビハインドの音の木坂から試合開始です!!」

U T X 1 | 0 音の木坂

ピーーーーー!!!

絵里「ことり!」ドツ!

アフロデイ「……ふふ」

アフロディ「甘いな」ガツ！

絵里ことり「あっ！」

角間「いきなりパスカットをしてきましたアフロディ!!音の木坂隙を突かれたかあ  
!?”

海未「早速ですか……!」

エレナ「よこせアフロ」

アフロディ「全く、人使いが荒いな」

ドツ！

エレナ「……」トツ

ドキュツ!!

角間 「おおっと!? 仲間が誰もいないところにパスを出しました! パスミスかあ!?

凜 「にゃ〜?」

にこ 「……………! 凜!! 気いぬいてんじゃないわよ!!」

ツバサ 「……………!」

あんじゅ 「よっ!」 トツ

角間 「ボールの先には優木! 見事パスが通りました!」

凜 「なっ……………! いつのまに……………」

にこ 「ああもう……………」

ツバサ (……………今……………)

監督 「……………」

花陽【デイフェンス方程……】

あんじゅ「ほっ！」ドッ！

花陽（……っどうして遅れ……）

にこ「花陽!!パスじゃない!!」

花陽あんじゅ「!!」

M F 1「……！」ドッ！

花陽「はあ!!」ガッ!

角間「音の木坂小泉、敵のワンツ―を見事見破りボールを弾いたあ!!」

にこ「よし!」

フミコ「にこ先輩今のよく気づきましたね……」

にこ「見りやわかるわよあんなの」

監督「……」

ツバサ（あんじゆの特性とワンツ―の合わせ技が破られるなんてね……）

角間「ギリギリでピンチをしのいだ音の木坂あ!!しかし以前ゴール前!」

エレナ「そうやすやすとチャンスは逃さない」ザッ

花陽「っ……！」ピタッ

花陽（二度下がって……）ジャリッ……

エレナ ジリッ……

花陽「……逃してはくれませんか」

エレナ「当然だ」

花陽「……」フウ……

エレナ「……！」

花陽（……エレナさんのディフェンス時のクセ、反応速度、戦い方……）

エレナ「体重移動のタイミング、目線の動きと行動の関連性」

花陽「……へ？」

ヒュッ……！



花陽（フィジカルで負けてる分、読み合いでここまで戦って来た……のに……）  
花陽（……それすら勝てないなら……）

花陽「私……私は……」

エレナ「……」クルツ      タツタツタツ

花陽「……っ……！」ギリツ

花陽「あああああ!!!」バツ！



角間「ボールを取られても諦めない小泉!!粘り強いディフェンスだあ!!」  
エレナ「……………」

クルツ

花陽「あぐっ……!」ドシヤッ……………!

エレナ「……………悲しいな」

タツタツタツ

花陽「……………っ……………うう……」ギリツ……!!

エレナ「ツバサ」ドツ  
ツバサ「ええ」トツ

ピューーイー!!!  
ドシユドシユドシユ  
ギユオオオオオオオオ!!!

ツバサエレナあんじゅ【こうていペンギン三号!!】ドキユツ!

ゴオオオオオオオオオオオオオオオオ!!!

角間「UTXの必殺シユートが音の木坂ゴールを狙います!!」

海未絵里「……穂乃果……!」

ことり凜「穂乃果ちゃん……!」

パチツ… パチツ…

穂乃果（そっだよ、いつも通り……やれ、ば……?）

ググググツ……!

ドロドロドロ……

穂乃果「そんな……どうして……!」

海未「穂乃果!!」

にこ「つち……!海未の悪い予感が当たった……!」

穂乃果ママ（……パズルの枠とはいわば、あなた自身の器）

穂乃果ママ（限界を超えるために枠を壊したということは、今までの自分を否定したと同義）

穂乃果ママ（……魔王の支配からは逃げられない）

ゴオオオオオオオオオオオオ  
!!!!

角間「凄まじいシュートが音の木坂ゴールへと向かいます!!」

ドロドロドロ……

穂乃果（……ごめん海未ちゃん……）スッ

穂乃果「はああ……！」グツ……！

ズズズズズズ……！！！！

角間「高坂構えました！！止められるかあ!？」

穂乃果（たとえ海未ちゃんに嫌われても、ここで入れられるわけにはいかない……）

穂乃果「絶対……決めさせない！」バツ！

海未「いけますか、凜!!」ザッ

凜「まつかせるにやー!!」ザッ

穂乃果「……なっ……!？」

ドカアッ!!

海未凜「うあああ!!」ドサッ

角間「園田、星空がシュートブロックに入るものの吹き飛ばされてしまいましたあ!!!」

穂乃果「な……なに……して……」

海未「これが……私たちの答えです」ググツ……！

海未「まず穂乃果に使わないよう伝えます」

花陽「でもあの技、普通とは違う嫌な感じがして……そんなに簡単にいくかな……」

凜「凜もやな感じしたにや……」

海未「分かっています、もしどうしてもあの技を出してしまう場合は……」

海未「私が盾となります」

凜「それじゃあ海未ちゃんが……！」

絵里「穂乃果を助けるために、あなたが怪我をしたんじや本末転倒よ？」

海未「……私一人の力では足りないことも分かっています……なので……」  
ペコッ

絵里「う、海未……!？」

海未「力を貸してください」

海未「穂乃果のために」

ゴオオオオオオオオオオ!!

角間「ボールは威力を削がれながらも依然ゴールへ向かっていきます!!

穂乃果「!…穂乃果が…!」グツ

花陽（…武器を奪われた今の私に出来ること…!）タツタツタツ

花陽「はあああ!!」バツ

ギユルルルルルル!!!!

バチイツ…!!

角間「小泉止めたあ!!!音の木坂ディフェンスを固めてきたかあ!?!」

花陽「うぐつ…!」ゴロゴロ…ドサツ!

凜「かよちゃん!大丈夫?」ゴホゴホツ

花陽「うん……！平気！」ググッ

穂乃果「……なんで……」

亜里沙（……）

ワーワーキヤーキヤー！

トッ

角間「再びUTXがボールを押さえました!!」

花陽「行かせません！」ザッ！

ツバサ「……！」

花陽【デیفエン……】

ツバサ「ほっ！」ドッ！

花陽「つく……！」はあ……はあ……

花陽（さつきより遅れてる……）

角間「ここは安全にパスが通りました！」



にこ「……」

エレナ「はあ!!」ドツ!

角間「統堂ミドルシュート!!コーナーギリギリを狙います!!」

穂乃果「……っ!」グツ

絵里「ふっ!!」ガツ!

テンテンテン……!!

角間「FWの絢瀬がDFに戻ってきていました!ナイスセーブ!!UTXのコーナーキックです!!!」

穂乃果「絵里ちゃん……」

絵里「……なんて顔してるのよ、リーダー」ポンツ

亜里沙（……穂乃果さん）

角間「UTXのコーナーキックです！」

MF2「よっ！」ドキュッ！

真姫「……ふぐっ……！」ガッ！

角間「これを西木野ナイスクリア！」

絵里「いいわよ真姫！」

凜「ナイスにや！」

亜里沙（……見て……）

ポーン！

トツ

ツバサ「……いつまでこんなことを続けるつもり？」ジャリツ……

穂乃果「……っ！」

亜里沙（……チームを見て）

ピューー……イ!!!

ドシユドシユドシユドシユ!

ギユオオオオオオオオオオ!!!

穂乃果「……わ……私は……」

ツバサあんじゅエレサ【こうていペンギン三号!!】  
ドゴオオオオオオオオ  
!!!!!!

ゴオオオオオオオ!!!

角間「強力な必殺技が音の木坂ゴールを襲います!!」

海未「……つぐ……!させま……せん!」ダッ!

絵里「そんなボロボロで行かせるわけないでしょう!!」バツ!

ドガア!!

絵里「つぐ……!!」ドサツ

海未「絵里!!」

亜里沙 タツタツタツ

亜里沙（……穂乃果さんを想ってくれてる人が、こんなにたくさん……）  
ダツ……!!

亜里沙（勝ち負けよりも大切なものが、目の前にありますから）

ブワアアア……!!ブワアアア……!!

ギラン………！

ツバサ「………っ！」

絵里「亜里沙!!」

亜里沙【パンサーブリザード!!】

ドギユルルルルルルルルル  
亜里沙「……つぐぐぐ……!!!」ギリギリ……!  
角間「絢瀬亜里沙がシュートブロック!! 激しいぶつかり合いだあ!!!」  
海未「亜里沙!!」  
穂乃果「亜里沙ちゃん!!!」

亜里沙（……穂乃果さん）チラッ  
穂乃果「……!!」

（に）

(す)

(で)

(め)

(だ)

(ち  
や)

(げ)



(よ)

穂乃果「―――……」  
亜里沙 ニコッ

ギョルルルルルル!!!  
バチイツ!!!!  
亜里沙「きやあああ!!!!」  
ブワア!!

穂乃果「亜里沙ちゃん!!」バツ  
パシッ!

穂乃果「うぐっ……!」ドサツ

ゴオオオオオオオ!!!

ガァン!

角間「絢瀬姉妹による賢明なシュートブロックによつてボールはゴールポストへ!」  
角間「UTXのコーナーキックです!!」

穂乃果「だ、大丈夫!? 亜里沙ちゃん!!」バツ!

海未「亜里沙!」バツ!

亜里沙「……うう……は、はい、大丈夫です……」ムクツ

穂乃果「よかつた……」ホッ

亜里沙「ありがとうございますございます穂乃果さん、受け止めてくれて」ニコツ

穂乃果「…………っ」チクン…………

ヒデコ「本当に大丈夫なの？」

亜里沙「はい！ギリギリまで抑えましたから」

ミカ「よかったあ」

ベンチ

監督「……………どうした、さっきから黙って」

にこ「……………どうして今日はこんなにみんなバラバラなのよ」ボソツ

監督「……………」

にこ「試合はできてるけどなにかがおかしい……………足りない？……………いや、でも……………」ブ

ツブツ

にこ「……………すみ合っていない」

監督「……………なにか思い当たることがあったみたいだな」

にこ「！」パツ

監督「グラウンドで周りを気にせず自分勝手にプレイしてたら気づけなかつただろ？」

「ここに………はんっ！」

監督「行つてこい、矢澤部長」

「かつこいい先輩」

監督「行ってこい、矢澤部長」

ピーーーーーー!!

角間「ここで音の木坂メンバーチェンジです、矢澤がMFに復帰しました！」  
にこ「……」ザッ

凜「にこちゃん！」パアア！

絵里「やつと戻ってきたわね」

海未「にこ、何か手はありますか？」

「ここに……」

「ここに……」

海未「……はい？」

「ここにほら復唱！」

「ここに……」

みんな「……」

海未「……すみません、今はそういう場合は……」

「ここにじゃあどういふ場合なの？」

みんな「！」

「ここに全国の決勝、相手はUTX、観客は満員という最高の舞台」

「ここに……」

にこ「後半開始数分、一点ビハインド、敵のコーナーキックから試合再開」

みんな「……」

にこ「思ってるほど絶望的じゃないはずよ」

海未「にこ……」

にこ「はい、わかったらにこにこにー」

海未「どうしてそうなるのですか！」

にこ「いいから！はい！」パン！

海未「……に、にっこにっこにー……」

にこ「みんなも！」

「……にっこにっこにー……」

絵里「につこにつこにー……」

花陽「につこにつこにー……」

海未「につこにつこにー……」

凜「……につこ……ブフウ……!!」

花陽「凜ちゃん!?!」

ことり「ふふ……ふふふふ……!」プルプル

真姫「……」クスッ

あつはははははは!!

凜「なんでみんな……ふっ……!真顔で……あつははは!!」

ことり「すっごくシユールだよぉ」プルプル

花陽「た、確かに……ンプツ……!」

絵里「し……!仕方ないじゃない!そんなテンションじゃなかったんだから!」

凜「はいはい!海未ちゃんのモノマネ!」



凜「……………にっこにっこ……………ブフウツ!!」

海未「りーんー!!」

凜「無理無理! 思い出すだけで……………あっはははは!!」

海未「黙りなさい!」ギリギリ…!

凜「にぎやああああああ!!」ギリギリ…!

にこ「……………あと1時間もすればこの時間は終わる」

みんな「!」

にこ「ここにきてよかったって心の底から思いたい」

「……………」コクリ

にこ「勝つわよ!」

みんな「おおおおお!!」

穂乃果(……………すごいなあにこちゃんは)

ミカ           スタスタスタ

にこ「あ！ちよつと！」

ミカ「！」クルツ

にこ「……………ここまでありがとう」スツ

ミカ「……………お願いします」ニツ

パンツ！

DF2「……………あんのアホオ……………！」

MF1「亜里沙には毎回ヒヤヒヤさせられますね……………」ヤレヤレ

ツバサ「……………」

エレナ「亜里沙が心配か？」

ツバサ「……それもだけど……」チラツ  
ツバサ「ちよつとめんどくさくなるかもしれないわね」  
あんじゅエレナ「？」

角間「UTXのコーナーキックから試合再開!!両者配置につきます!!」  
にこ「……花陽」

花陽「どうしたの？」

にこ「……」ボソボソ

花陽「……!」

にこ「……」ボソボソボソボソ

花陽「……っ!」グッ

にこ「……返事は？」

花陽「はい！」ニコッ  
にこ「……………よし」ニコッ

穂乃果（……………）チクン……………チクン……………  
にげちゃだめですよ  
穂乃果「……………逃げてなんか……………」

「ほんつと今日は天気悪いわね〜！」  
穂乃果「に、にこちゃん!？」

にこ「何よ、幽霊でも見たような顔して」

穂乃果「いきなり目の前にいたからびっくりしてるの！」

にこ「あっそ」

穂乃果「対応が冷たい!!」

にこ「……ねえ穂乃果」

穂乃果「？」

にこ「あんたはさ……なんでサッカーやってんの？」

穂乃果「……は？」

にこ「だから、なんでそんなにこの試合に勝ちたいの？」

穂乃果「急にそんな……」

にこ「いいから」

穂乃果「……」

穂乃果（廃校を救うため……？いや、それもだけど……）

穂乃果（バカにした人たちをギャフンと言わせるため……？いや、それは成り行きで……）

穂乃果（三年生たちにいい思い出を残してあげたいから？……いやそれだけじゃ……）

穂乃果（……）

穂乃果「……リーダーだから」

にこ「……そ、わかった」ザッ

にこ「じゃ、行くわね」スタスタ

穂乃果「……………っ」ドクン……………

穂乃果（なんとなくわかる、多分ここだ）

穂乃果（ここが分かれ道なんだ……………）

穂乃果「……………っ穂乃果！どうすればいいのかなあ！」バツ！

にこ「……………」ピタッ

穂乃果「みんな……………頑張ってきたから……………！」

穂乃果「穂乃果が迷惑かけるわけにはいなくて……………」

穂乃果「だから無理してでもって……………なのにそのせいでまた迷惑かけちゃって……………」

にこ「……………」

穂乃果「穂乃果はリーダーなんだよ……!!」

にこ「……!」ビクッ……!

穂乃果「みんなを元気付けたり、プレーで引つ張ったりしなきゃいけないのに……なの……に……!」

穂乃果「……何もできてない」

にこ「……」

穂乃果「……思ったよ」

穂乃果「さっきみんなを元気付けたのがどうして穂乃果じゃないんだろう」

穂乃果「どうして落ち込ませたのが穂乃果なんだろうって」

にこ「……」

にこ「それで全部?」

穂乃果「……うん」

にこ「つまり……」



にこ「実力不足で迷惑かけたくないから無理したけどそれでまた迷惑かけちゃった、もうどうしていいのかわからない、ってことね？」

穂乃果「まあ……大まかには……」

にこ「……はあ……」

穂乃果「……こんなのがリーダーでがっかりした？」

にこ「いや全く」

にこ「強いて言うならそれを誰にも相談してないことにながっかりした」

穂乃果「うう……」

にこ「私たちも超人じゃないんだから全部察するなんてできない、海未あたりに言われてたんじゃない？相談しろって」

穂乃果「当ったり……」

にこ「いつつもバカやってるくせに肝心なここでは一人で抱え込みすぎなのよあんたは」ワシヤワシヤ

穂乃果「あわわわわ……！」ワシヤワシヤ

にこ「あなたは立派にリーダーやってる、頼りにしてるわよ、これでも」

穂乃果「にこちゃん……」ボサア……

にこ（……みんなで穂乃果を守ろうってなった時、正直あんに嫉妬した）

にこ（リーダーに必要な素質、そして……）

「そんなにやりたいなら一人でやればいいじゃん」

「そだね、私たちは退部するから」

にこ「ちよ……それじゃあ人数が……！」

「頑張れ〜」フリフリ

ガラガラ……ピシヤッ！

にこ「そんな……」

にこ（私が最後まで持ち得なかったものだから）

穂乃果「……？」

にこ「……というか」

にこ「そもそもあんた以外には考えらんないのよ」

穂乃果「……監督にも言われた、それ」

にこ「しつかりしなさい、リーダー」バシッ！

穂乃果「いたっ！」

にこ「どれだけつまづいたって立ち止まったっていい、ただ道を踏み外さなければ」

穂乃果「……もし踏み外しそうになったら？」

にこ「何言ってるのよ」

にこ「そのために私たち（チーム）がいるんでしようが」

穂乃果「……！」

にこ「あんたはいつつも先頭走って後ろを振り返らないんだから」

にこ「たまには先輩の背中を黙って見てなさい」ザッ

穂乃果「にこちゃん……」

穂乃果「先輩禁止だよ？」

にこ「空気読め」

海未「こっそり全て聞かせていただいていたのですが……」ヌツ

穂乃果にこ「……!!」ビクツ

海未「私にしなかつた相談をにこには随分簡単にしたものですね？穂乃果」ギリギリ  
ギリギリ……!!

穂乃果「アウ……アイアंकロウウウ……!!!」メキメキメキメキ

にこ（海未の嫉妬怖……）ゾツ……

穂乃果「ううう……！痛いよお……」

海未「自業自得です」

にこ「うえ……」

海未「……にこ」

にこ「んあ？」

海未「にこはなぜサッカーをしているのですか？」

にこ「は？なにそれ」

にこ「好き以外にないでしょ」

海未「……ふふ、にこらしいです」

にこ「あんたは？」

海未「……わかりませんか？」

にこ「まあ、あんたは穂乃果だもんね」

海未「ええ」

海未「危なっかしくて見られませんから」クスツ  
にこ（過保護…）

ピーーーーーー!!

角間「後半開始数分！まだまだ時間はたっぷり残っております！」

角間「一点ビハインドの音の木坂!!このピンチをしのげるかあ!？」

にこ「……フリー……」トントン

M F ー ドキュ!

エレナ「はあっ！」バツ!

角間「統堂ヘディングの体勢!!」

にこ「……！」ザッ

エレナ「……つく……！」

海未「せやあ!!」ドキュ!

角間 「統堂間に合わず！園田が大きくクリアしました！」

凜 「海未ちゃんさっすがー！」

エレナ 「……やるな」

にこ 「どういたしまして」ニッ

ミカ 「？今統堂さんどうして飛ばなかったんですか？」

監督 「……コーナーキックで全員がボールを見ている中、あいつだけがポジションを  
取ることだけに専念していた」

フミコ 「それって……」

監督 「どうせ跳んでも届かないからな」

ツバサ「こっち！」

DF1「は、はい！」ドツ！

ツバサ「よし」トツ

花陽「……」ザツ

ツバサ「……」ジャリツ……

ダツ！クルンツ！

ツバサ「悪いわね」タツタツタツ

角間「小泉を抜いたあ!!」

花陽「……」

—————

にこ「……花陽」



花陽 「どうしたの？」

にこ 「あんたは守備の要なの」

花陽 「……！」

にこ 「あんたがやられちゃったら私たちのデイフェンスは崩壊する」

花陽 「……花陽だって頑張ってる!!」

にこ 「そんなことわかってるわよ」

花陽 「へ？」

にこ 「もう一度言う、あんたは守備の要なの」

花陽 「……？」

にこ 「最後の砦じゃない、要なのよ」

花陽 「……！」

—————

花陽 「……凜ちゃん！」

凜 「うん！」 ザザッ!

ツバサ (小泉さんを囿に本命は星空さんのヘルプ……)

ツバサ 「……この程度で」

あんじゅ 「ツバサ!! 後ろ!!」

ツバサ「…っ!?」クルツ

花陽「はああ!!」ズザザザ!!

ツバサ（…っ！ 囧は星空さんで本命はこっち……！）バツ！

角間「UTX綺羅ツバサ!!見事ジャンプで避け……」

~~~~~

「ここに私たちの一人一人の力は強くない」

「ここにでも……あんたがいればどんな強敵にだって立ち向かえる」

「ここにあんたがいなきゃダメなの」

~~~~~

ツバサ「うぐつ……！」グググッ

ツバサ（こ、これは……！！）

ツバサ「きやあ！」ドサッ

テンテンテン……トッ

雪穂【ハンターズネット】

角間「小泉、星空、高坂の3人で綺羅の攻撃を止めましたあ！！」

ワアアアアアアアアアア  
!!!!

ツバサ「……めんどくさいわね」

花陽「私は……守備の要ですから」

花陽（3人でなんとか止めたこの人を花陽は一人で止めようとしてたんだよね）

花陽（……過信してたんだなあ、自分の力を）

監督「小泉は優れた分析力を持っているが故に、少しずつチームを頼るということを忘れていた」

ミカ「頼る………」

監督（……少しずつ、ズレを、歪みを整えろ）

にこ「次！来るわよ！」はあ……はあ……

ワーワーキヤーキヤー！

ドッ！

トッ

ドキュツ！

トッ

ツバサ「エレナ！」ドッ！

花陽「亜里沙ちゃん！」

亜里沙「はい！」バツ！

エレナ「……っ……！」 トツ ザザツ……！

角間「先ほどよりもディフェンスに勢いがついてきました！簡単にはパスを通させません！」

エレナ（矢澤にこによって小泉花陽が元のプレイを取り戻したか……）

エレナ（………確かにめんどくさいな）

ツバサ（そして何より……）

あんじゆ「……」 スウ……

タツタツタツ

にこ ズザザツ！

あんじゆ「くっ……！」 ピタッ

角間「優木を矢澤が徹底マーク！これではパスが出せません!!」

あんじゆ「あなたどうして……」

にこ「このにこにーが可愛い子を見逃すはず無いでしょうが」  
角間「音の木坂ボールを奪えない!!しかしUTXもシュートまでいけなくなってきました!」

MF1「とんだ伏兵ですね……」

エレナ「ああ、だがそれならそれで打つ手はある」

エレナ「アフロ!」ドツ!

アフロディ「ア・フ・ロ・ディ・だ!!」ダツ!

花陽「あっ……!」

バサア……………!

アフロデイ【ゴツドノウズ・インパクト!!】  
ドゴオオオオオオオオオオオ  
!!!!

ゴオオオオオオオオオオオオオオオオ!!!!  
角間「膠着状態の中、UTXがゴールを捉えました!!」  
穂乃果「……………」グツ

海未「私が止めます!」ダツ!  
ここ「あんたはここにいなさいってば」ガシツ  
海未「ここ…!?!」

にこ「……」スウ……

にこ「行くわよあんたらあ!!」ダッ!

花陽凜「了解!!」バッ!

角間「矢澤、星空、小泉がUTXのシユートに立ち塞がります!!!」  
エレナ「何をするつもりだ……?」

凜(……千羽山戦では凜のせいで……)ザッ

花陽(木戸川清州戦では花陽が……)ザッ

にこ(決勝ではにこのせい……)ザッ



――――  
花陽ママ「今回はね、必殺技についてみんなに集まってもらったのよ」  
凛「ここ」「必殺技あ!?!」

凛「ここにこれ……」  
凛「流石にこれは……」  
凛「限度があるにや!」

凛「いやいやいやいや無理無理無理無理」  
凛「やると言ったではありませんか」

凛「そ、そうだけど……」

凛「流石にこれは……」

凛「限度があるにや!」

海未「人間死ぬ気になればなんでもできるんです!!」

海未「チームのためなら一夜で城でも建てられるはずですよ!」  
凜に「花陽「ひいひい……」」

||||||||||||||||||||||||||||||||||||

にこ(……やっと揃った) チラッ

花陽凜

コクッ

にこ「にこ!!!」

凜「りん!!!」

花陽「はな!!!」

海未「……!」

クルツ……

スタツ!

ドドン……!!

にこりんばな【一夜城!!】

ギユルルルルルルルルルル!!!!

角間 「こ、これはあ!? 矢澤、星空、小泉によるシユートブロックウウウウ

!!!」

にこ 「……ツグググググ……!!」 ググググ

凛花陽 「はああああ!!!」 ググググ

バチイツ!!

アフロデイ 「何……!?」 スタツ

角間 「止おめたああ!! アフロデイのシユートをまさかの完全ブロックだあ!!」

にこりんばな「つらああああ!!」グツ

花陽ママ「あらあく♪」フフフ

海未「……ぎやふんですよ、3人とも」フフ

ことり「海未ちゃん嬉しそうだね」クスッ

海未「ええ、とつても」フフフ

にこ「ほらほらあ!ボールいったわよ!」

穂乃果「……」

どうしてだろうか

この日、初めて自分より小柄な先輩を

心の底から

「……カッ」

と感じた

にこ「まだまだ時間残ってるのに足止めてんじやないわよ！」

凜「わかってるにゃー！」

普段、おちゃらけてぶりっ子な一面もあるその先輩は  
サッカーに対してはいつも真剣だった

弱い自分と向き合いたくなくて、みんなに迷惑をかけた  
無意識のうちに逃げていた

後輩に言われるまでそのことにすら気がつかなかった  
本当に……

「……………かつゝ悪い」

何処からか、初めて先輩にかけられた言葉が聞こえた気がした

『お遊びでやるならさつさとやめなさい!』

ポーン！

ヒデコ「オーライ！」

ツバサ「ふっ！」 シュバツ！

ヒデコ「あっ……！」

角間「はじいたボールは綺羅がカット!!」  
にこ（……穂乃果、あとはあんた次第よ）

ピューー……イ!!!

ドシユドシユドシユドシユドシユドシユ

ギユオオオオオオオオオオ!!!

クルツ



ツバサエレナあんじゅ  
ドゴオオオオオオオ  
!!!!!!  
【こうていペンギン3号!!】

ツバサ「……!」

角間「おおっと!ここまてなんとかシュートブロックでゴールを防いだ音の木坂!!」

角間「しかし誰もブロックに入りません!!キーパーに全てを託しました!!」

穂乃果「……」

ツバサ「……穂乃果さん」

ツバサ「あなたの答え、見せてもらおうよ」  
穂乃果「……」グツ……

ドロドロドロ……

ズズズズ……!!

ツバサ「……」

海未「……」

にこ「……」

みんなに助けられて  
カチツ……

今まで積み上げてきたもの踏みにじって  
カチツ……

かつこ悪い、情けない、頼りない  
カチツ……カチツ……カチツ……カチツ……

穂乃果「……………でも」グツ……  
カチツ………！

穂乃果「それが穂乃果（私）だ!!」バツ!!

ゴオオオオオオオオオ  
!!!!

ツバサ ニツ

海未「穂乃果……!!」パアア……!!

ことり「穂乃果ちゃん……!!」パアア……!!

にこ「……つたく……ほんと世話がやけるんだから」

穂乃果（弱い自分を受け入れて、前を向け!!）バツ……!

穂乃果【マジン・ザ・ハンド!!】

ギュルルルルルル………!!!

………ツシユウウウウ………!

パシツ

角間 「………!!!」

角間 「止おめたあああ!!!」

ワアアアアアアアアア!!!!!!

角間 「防戦一方の中、ついにUTXのシユートを掴みました!!!」

穂乃果 「………!」ジンジン………!

穂乃果 (………普通にキャッチするのがなんだか懐かしく感じる………)

穂乃果 「ああ……やっぱり楽しいなあ」ポツリ

ツバサ 「……さ、ここから忙しくなるわよ」クルツ

エレナ 「少しは隠す努力をしないのか？」

あんじゅ 「ニツコニコじゃない」

穂乃果ママ 「パズルの枠とは自身の器」

穂乃果ママ 「弱い自分を受け止め、あなたは人としてひとまわり大きくなった」

穂乃果ママ （まあまだ最後のピースは分かっていないようだけど）

穂乃果ママ 「ようやくスタートラインに立てたわね、穂乃果」

穂乃果「みんなー!!!」

穂乃果「謝るのは試合終わったらたくさんするから!!! 試合終了までしまつてこーー!!!」バツ!

みんな「おーー!!!」バツ!

角間「音の木坂が気合を入れ直します!」

海未「野球ではないのですから……」マツタク……  
ことり（嬉しそう……）フフフ

希「はあー……すごいなあ」

監督「……リーダーになるには何が必要だと思う？」

希「んー……チームを引つ張れること、どんな時も諦めないこと、それとー……」んー

…

監督「そいつが困っていたらつい助けたくなることだ」

希「ー」

監督「どれだけ問題を起こしてもつい許してしまう、悩んでいたら手を差し伸べたくなる」

監督「そんなやつがリーダーになるんだ」

希「……」

角間「音の木坂の反撃です!!」

穂乃果「よーし！行くぞー!!!」 ドツ！

ポーン！



パシッ

穂乃果「あっ…」

海未「なっ…!?!」

アフロディ「僕のことを忘れてもらっては困るな」トッ

角間「ア、アフロディのパスカット!!音の木坂全員虚を突かれたあ!!」

花陽「凜ちゃん!!」

凜「うん!」ザッ

角間「これは素早い対応!アフロディどうする!?!」

アフロディ「ふふ、神の力を見せてあげよう」スッ

アフロディ【ヘブンズタイム】パチンッ…!

ピタッ

スタスタスタ

パチンッ……!

凜「……………あれ?」キョロキョロ

ブワアアアアアア!!!

凜「へ?へ?……………うわあああ!!」ブワア!

ドサッ

アフロディ「ふふ、どうだい?神の力は」

角間「こ、これほ……………アフロディのドリブル突破!!星空抜かれたあ!」  
にこ「凜!」

アフロディ「さあ……………」トッ

ツバサ「アフロ！」 タツタツタツ

あんじゅエレナ タツタツタツ

アフロデイ「後は任せたよ」 ドツ！

花陽「しまっ……！」

花陽（対応が早すぎる……！初めから狙われてた!?!）

ツバサ「進化したのは、こうていペンギンだけじゃない」

穂乃果「！」

ダンッ

グルグルグル!!

ヒュオッ……!!

ツバサエレナあんじゅ「ラストデスゾーン!!」  
ドゴオオオオオオオオオオオオ  
!!!!!!

ゴオオオオオオオオオオオオアアアアアア!!!!

角間「ま、またもやUTXの新必殺技だああ!!音の木坂凌げるのかあ!?!」

ここ「うっはあく……!!」ゾクゾクツ……!

花陽「敵なのに、ピンチなのに、感動しちやいます……!!」ゾワアツ……!!

穂乃果「させない!!」グツ…!

ゴオオオオオオオオオ

角間「高坂も正面から受けて立ちます!!」

にこ「止めなさい!穂乃果!!」

穂乃果【マジン・ザ・ハンド!!】バツ!

ギュルルルルル

穂乃果(……っ!!)もう驚かないって思ってたのに……いつつも想像を超えられる……

!!)

ズズズズ……!!

穂乃果「つぬぬぬぬ……!!」ググツ…

角間「少しずつ、しかし確実に押し込まれる高坂!!耐え切れるかあ!?!」

海未「………心配はしませんよ、穂乃果」

穂乃果「……………」ニツ  
タツタツタツ

ズザザツ…！

ガシッ

穂乃果「……………遅いよ雪穂」

雪穂「……………さっきのまだ怒ってるからね」

穂乃果「うう……………」

い  
にこ（……………そう、メンバーに頼ることは、情けないことでも、かつこ悪いことでもな  
い）

にこ（頼れる仲間がいるってことは、すごい事なのよ穂乃果）

穂乃果「……………任せたよ、雪穂」グツ  
雪穂「うん！」グツ

メキメキメキ……………!!  
ツバサ「……………！」ゾクツ

穂乃果雪穂【ホムラ・ザ・ハンド!!】  
ギョルルルルル!!!!  
穂乃果雪穂「はああああ!!!」ググググツ

ツシユウウウ……!!

角間「……とつ……止めたああ!!!」

ワアアアアアアアアアア

角間「二度のピンチを見事に凌ぎましたああ!!」

ツバサ「……はー」

穂乃果（……体に異変はなし……!）グツ

穂乃果「よーし!今度はディフェンスも攻撃だー!みんな攻めるよー!!」ドツ!

角間「今度こそ!音の木坂の反撃だあ!!」

雪穂「いこ!亜里沙!」

亜里沙「うん!」



海未「行きますよことり！」

ことり「ゴーゴー！」

花陽「凜ちゃん！私たちも……」

凜「真姫ちゃんいくにやー！」グイッ

真姫「わ、わかつてるわよお！」ダッ！

花陽「あ……」

凜「にやー!!」タツタツタツ

真姫「……」チラッ

花陽「……！」

花陽　ポツン……

## 「小泉花陽、嫉妬」

花陽　ポツン……

行かせないっす！

はあ！！

うわあ！！ドツ！

そっち！

まだまだあ！

おりゃあ！！

角間 「これは激しいぶつかり合い!! 主導権を握るのはどちらのチームだあ!？」

花陽 「……!」 ハッ

花陽 (何ぼーっとしてるの! せっかくチャンスなのに……) パッ……!

真姫 「次は決めるわよ! 凜!」 タツタツタツ

凜 「もちろんにや!」 タツタツタツ

キユウツ……!



凜「真姫ちゃんと一緒にここで練習したなって」  
凜「何回も何回も大変だったにや〜！」  
花陽「……………」

花陽「ーっ……！」ザワツ……！  
花陽「……………なんで……………こんな……………」はあ……はあ……

嫉妬してるんでしょ？

花陽「……もう克服した」

否定はしないんだね

花陽「……うるさい」

ほら、あれを見て

花陽「？」

いーち！にーい！さーん！パシッ

あーあ、引つかかっちゃった！

花陽「あれは……子供の頃の凜ちゃん……真姫ちゃん……？」

みんなから外れて一人で座り込んでる子は誰かな？

花陽「……私」

大きなわとび、怖くて入れない

花陽「……運動苦手だから」

凜ちゃんをとられたくないんでしょ？

花陽「……！」

新しい事始めるのは怖いくせに凜ちゃんはとられたくない

花陽「……うるさい」

傲慢だね、わがままだね、醜いね

花陽「……！」

キャー！ほら！もう一回！

はなよ「……！」

……楽しそうだね

花陽「……うん」

……はなよは一人だね

花陽「……うん」

『私もやりたい』

花陽「……」

そんな一言が怖くて言えない

花陽「……やっぱりあなた」

……そう、私は怖がりな花陽

私がいいたからあなたは小さな頃から大きな怪我もなく健康に育った

花陽「……挑戦する前に諦めてたから」

正解

でもあなた、少し変わったね

花陽「みんなが変えてくれたのかな」

変わらない方が良かったかも

花陽「そうかもね」

今まで通り凜ちゃんと2人で……

花陽「それは無理だよ」

なんで？

花陽「……だって」



花陽「みんなといる楽しさを覚えちゃったから」

……でも、私がいたら凜ちゃんと呼ばれちゃうよ？

花陽「縄跳び怖いもんね」

新しい事を始めるのがでしょ

花陽「……」フッフ

クスクス

花陽「凜ちゃんと並ぶために、花陽も挑戦しなきゃ」

………怖いけどね

花陽「いつまでも子供じゃいられないよ」

私はどうじゃない？

花陽「だーめ、何があっても一緒だよ」

でもそれじゃああの子はずつと……

はなよ「……………」

花陽「大丈夫だよ」

どうして？

花陽「私がいるから」ザツ

！

花陽「……………ねえ」

はなよ「！」ビクッ

花陽「こんなところでなにしているの？」

はなよ「……………」

花陽「……………教えてほしいなあ」

はなよ「……………りんちゃんは……………はなよとなかよしなのに……………」

花陽「りんちゃん取られちゃったの？」

はなよ「……………」コクッ

花嫁 「仲間に入れてって言うのは？」

はなよ 「……なわとび……怖い」フルフル

花陽 「……じゃあ私と行こっか！」

はなよ 「え？」

花陽 「二人なら怖くないでしょ？」

はなよ 「……うん」

花陽 「じゃあほら、手を繋いで……」ギユツ

はなよ 「……」ギユツ

花陽 「せーの！」

はなよ 「……っ……！」

いーれーてー！



あんじゅ「隙あり♪」ガッ!

海未「つぐ……!!」

角間「優木、ボールを蹴り出したあ!!」

海未（いつの間に後ろに……）

にこ「はあ……はあ……」

エレナ（元々の身体能力はあんじゅの方が上だ、正攻法なら矢澤にこのマークは怖くない）

あんじゅ（よし、このまま流れを……）

テンテンテン……

シュバツ……!

花陽「よし!」トッ

あんじゅ「なっ……!!」

角間「DFの小泉が上がってきていました!!見事ボールを奪取です!!」

にこ「いいわよ花陽！」

凜「さっすがかよちゃんにゃ！」

タツタツタツ

花陽（サッカー部に入るのを迷ってたとき、凜ちゃんが私の手を引いてくれたように）

花陽（何かを始めるときはいつも凜ちゃんが連れて行ってくれた）

角間「小泉ここからどう展開するつもりだあ!？」

タツタツタツ

花陽（……けど、初めてのUTXとの試合、私は凜ちゃんの背中を押した）

花陽（前を走る勇気もないくせに凜ちゃんの背中を押し出した）

花陽（………だから）



凜ママ「試合に出てる以上誰にだってチャンスは来るからなく！」

花陽「ふっ！」ダンッ！

クルクルクル

ググッ……ギユフッ……!!

花陽（正直自分が攻撃するなんて思ってたので、聞くこと知ること全てが新鮮でした）

花陽（まあ攻撃なんて花陽には縁のない話だけど……）

はなよ（今までと違うことをするってとつても怖いものがあるよね

花陽はなよ（うん）







バツ………！

G K 「ハイビーストフアング!!」

ガブウツ………!!!

ギユルルルル!!!!!!!

G K 「ツググググ………!!」ズズズツ………！

真姫凜花陽「はあああ!!!」

G K 「っ………！」ググググツ………！

バチイツ……!!

GK「きやああああ!!」ドサツ

シュルルルルル!!!

真姫凜花陽　スタツ

真姫凜花陽「……よし!!」グツ

角間「決まったああああ!!!!後半残り半分、音の木坂遂に同点!!」

ワアアアアアアアア!!!!

角間「試合を振り出しに戻しましたあ!!」

凜「やったにやー！かよちん真姫ちゃん！」ギューツ

真姫「……当然でしょ！」クルクル

花陽「えへへ……！」はあ……はあ……

花陽（や……やった……！）はあ……はあ……

海未「ええ、素晴らしかったです」

花陽「海未ちゃん！」

海未「そしてシユートの前、にこ、凜、花陽、雪穂……」

海未「……穂乃果」

にこ凜花陽雪穂穂乃果「！」

海未「最高のプレーでした」

みんな「……！」

凜「にや……!?う、海未ちゃんが褒めるなんて……」ゴクリ……!

にこ「縁起でもないわ……」ブルッ……!

海未「どうしてあなたたちは素直に褒められてくれないのですか？」

花陽「あ……はは……」

海未「穂乃果」

穂乃果「？」

海未「……笑って終わりましたよ」スツ……

穂乃果「……もちろん！」トンツ……！！

海未「……」フフ

海未「ついでに聞きたいのですが穂乃果」

穂乃果「どうしたの？」

海未「私ってそんなに恐いですか？」

穂乃果「……エ」フイ……

海未「穂乃果、どうして目をそらすのですか」

穂乃果「……」

海未「穂乃果」

G K 「……………」

ツバサ 「気にしないで、次集……………」

G K 「次は止めます」

ツバサ 「！」

G K 「ゴールは任せてください」ギユツ……………」

ツバサ 「……………もちろん」ニコツ

U T X 1—1 音の木坂

ビ—————！

角間 「UTXボールから試合再開です！」

ツバサ 「いくわよ!!」  
みんな 「おお!!」



「南ことり、何か」

「UTX……音の木坂

ビ……！」

角間 「UTXボールから試合再開です！」

ツバサ 「いくわよ!!」

みんな 「おお!!」

凜ママ「みんな上がってきてるなあー！」パタパタ

真姫ママ「流れが戻ってきたわね〜」

凜ママ「だなー！」パタパタ

絵里ママ「パタパタしない」

凜ママ「は、はい！すいません……」ピタッ

絵里ママ「あっ……」

凜ママ「も、もうしませんから！」ピシッ

絵里ママ「……そう」

凜ママ「………」シユン……

絵里ママ「………」

絵里ママ（あああああ………!!せつかく楽しんでるのに何小言言ってるのよ!!）

絵里ママ（そうじゃないのよ星空さん、あなたを悪く言いたいわけじゃないのよ……

！）

絵里ママ（現役の頃からそう……絶対怖がられてるわね）ハア……



ドツ!

凜「いつくにやー!」トツ

角間「星空がボールを受け取ったあ!!勝ち越しの起点となるかあ!？」

DF1「いつかせないよー!」ザッ

MF2「たまにはいいところ見せろよチビっ子!!」

DF1「あーもう、ほんと外野がうるっさいです!!」バツ

クルクルクル

ボフアアアアアアアアア!!

DF1「フレイムダンス!!」

角間「DF1が星空を捉えたあ!!」

凜「あつまあまにやー!」バツ!



ガガッ……！トツ、ザザッ……ジャリッ……！

海未「つ……！あなたもなかなかやりますね」トツ

海未（キープするのがやつと……！）

M F 3 「褒めても何も出ないっすよ！」ガガッ……！

M F 3 （特徴があるわけじゃない、シンプルに強いタイプ……めんどくさいっすね）

角間「これは激しい罅迫り合い！！両者一歩も引きません！」

真姫「海未！こっちに！」

D F 2 「させるか並乳」ザッ

真姫「並……！？」ゴーン

M F 3 （……このままじゃラチがあかないっすね）バツ！

海未（……？距離をとった？）

【クリエイション……!】

ズズズズズズ……!

海未「……!?分かれ道……」

M F 3 「さあ、どっちが安全な道つかね〜?」

海未「……」

海未（何か畏が……いや、ない方が不自然ですね）

M F 3 「正解は……」

ズザザツ!!!

ズザザツ!!!

海未「!?」

ことり 「海未ちゃん!!」

M F 3 「どっちも大外れっすよ!!」

ドガアツ……!!

D F 1、M F 2 「ハーヴェスト!!」

海未 「うぐあああ!!!」 ドサツ

ことり 「……」

角間 「園田からボールを奪ったああ!!」

M F 1 「……あーあ」

M F 1 「私は知りませんからね」

M F 2 「よっし!!」 トツ



DF1 「先輩！ツバサさん達に……」

ゾクツ……

MF2、DF1 「……っ」ビクツ……！

ことり 「……海未ちゃんを傷つけないでっ……」

ことり 「言ったよね？」ジロツ

MF2 「……言われてねえよ!!」ザッ

DF1 「初耳だよ！」 ザッ  
ことり 「……」

ことり 【アングリーバード】

MF2 「……？何を……」

あんじゅ 「上よ！」

DF1 「上……？」 バッ

キラン……！

MF2 「こ、これは……!?」 バッ！

ズガン!!

D F 1 「うわああ!!」 ドサッ

M F 2 「大丈夫か……!」 トトッ

ことり 「……外した」

M F 2 (……今一瞬だけ見えた……あれは……)

ことり ママ「猛禽類、例えば鷲なんかははるか上空から獲物を捕捉し、襲いかかる」

M F 2 「鳥型ミサイル……つてことか……!」 ジャリッ……!

ことり 「あと3発!」 バッ……!

M F 2 (……まあ) バッ

……ズガン!!

海未「ことり……」グググッ……!

にこ「あんな攻撃的なことり……初めてみたわね」ググッ……! ヨイシヨ  
凜「恐いにや……!」

ことり「……あと2発!!」バツ!

MF2 バツバツ!

ズガンズガン!!

ことり「……!」

海未「そんな……!」

MF2 「……」ニイツ

角間「MF2 避け切ったああ!!」

DF1「うっわすっごく悪い顔してる」

海未（連続であの攻撃を避けきるとは……何という体捌き……）

ことり「ちよこまかと……!」

MF2「残念だったな」ニシシ

ことり「海未ちゃんにひどいことする人は、私が許さない!」

海未「ことり……」

—————

『ううー……っ』グスッ

『あはは！こいつすぐないておもしろいな!』

『ほのかあ……ことりい……』グスグス

タツタツタツ

ザザッ!

『こらー! うみちゃんをいじめるなー!』

『ほのかがあいてだよ!!』

—————

海未(……昔はよく……こんな風にことりたちが助けに来てくれましたね)

MF2 「許さないとどうなるんだ？」

ことり 「……やる」ボソッ

MF2 「あ? なんだった？」

ことり 「ことりの………」

「おやつにしてやる」

ゾツ……

M F 2 「……へ」

バクツ……！

テンテンテン ……

トツ

ことり【ハングリーバード】





海未ちゃんが傷つけられたのを見てついカツとなっちゃった……  
今までどれだけ頑張ってもあんな風にできなかつたのに

—————

ザツ ザザザツ

海未「ことり、もう少し強引でも構いません」

海未「絶対取るんだという勢いで来てください」

ことり「で、でもお……」

海未「まったく……ことりは優しすぎるんですよ」ヤレヤレ

—————

優しいんじゃない、ただ弱いだけ

M F 2 「くっそ……！」ムクツ……！

M F 2 (上に注意を引いて、本命は下か……やられた)

ことり タッタッタッ

角間「そのままドリブルで敵陣へ切り込んでいきます!!」

海未（敵にすら気を遣っていたあのことが……）

海未ちゃんを傷つけられたのは激おこちゅんちゅん丸だけど

そのおかげで気づけた

ことり、強くなりたいよ

まだほんの一步だけど、もっともっと

そのためなら……

アフロディ「行かせないよ」ザッ

ことり「どいて!!」ダッ!





バサバサバサ！

私もみんなみたいに、《何か》を見つけられるかな

ドキユツ!!!

ことり【シャイニングバード!!】

ゴオオオオオオオオ  
!!!!!!

ゴオオオオオオオオオオオ!!!

角間「み、南の必殺シュートです!!なんと鮮やかなシュートでしょうなあ!!」  
ツバサ「……悪いけど、気合ではどうしようもないこともある」

GK「……」グッ

ことり「……自分の実力ぐらい……わかってる…!!」

ツバサ「……!」

ことり「お願い!!」

真姫「………任された」

グッ……

ダンッ!

ツバサ「………つち………!」

真姫（「ファイアトルネード」でシュートチェインを……）

真姫（……………いや……………!!）グッ

絵里「…真姫？」

ディフェンス、ドリブル、シュート

西木野真姫はディフェンス、ドリブル、どちらも得意とは言えなかった

幼少期から一人で特訓していたため、対人センスがまるで磨かれていなかったからである

代わりに……

グルグルグル!

ボフォオオオオオオオオオ

角間「西木野のシュート!!!!!!  
チエイン……いや、これは……!?」

シュートセンスだけは、チームの誰よりも磨きこまれていた

真姫「うおらああああ  
!!!!!!」  
「バツ!!」





ダラン……………

バツ……………!

G K  
【ハイビーストフアング!!!】

ギョルルルルル!!!!!!

G K 「つぐぐぐぐぐ……!!!」ズズツ……!!

ことり真姫「決まれ!!」

D F 2 「止めてまえ!!!」

ギョルルルルルル!!!!!!

G K 「……!!」ズズツ……!!

G K (この人たちは……なんで、こんなに……!!)

G K (試合の中で……強くなれるの……!?) グググツ……!!

ことり真姫「いけ!!!」

G K (……っ!……もう……限界……!!) ググツ……!!

ギョルルルルル!!!!!!

G K 「……!!」

G K 「……………」グツ…！」

ことり真姫「！」

G K (……………使えるものはなんでも使う)  
バチイツ……………！」

角間「キーパー弾かれたあ!!」

G K 「……………腕がダメなら」バツ  
ツバサ「！」

G K 「顔で!!」

バキイツ……………!!!

G K 「ブツ……!!」

ブワア……!!

ゴロゴロゴロ！ ドサツ……！

ポーン……！ テンテンテン……

シーン……

角間 「………し」

角間 「凄いだああ!!!」

ワアアアアアアアアアアア!!!!

イイゾー!! ナイスガッツ!!

角間 「UTXGK、体を張ったセーブで見事逆転を凌ぎました!!」

DF2MF2 「よっし!!」

ことり真姫 「なー!?」 ゴーン……!

角間 「音の木坂のコーナーキックで………おや？」

あんじゅ「……！」ダッ！

ポタポタ……

GK「ゴフツ……！」ポタポタ……！

あんじゅ「大丈夫!？」バツ

ピーーーーーー!!

角間「おおっと？UTX高校GKがゲガをしてしまったようです」

ナンダ？ハナジダツテ、ダイジョウブカナ

ザワザワ……ザワザワ……

GK「うう……」ダラダラ……

あんじゅ「上むいちゃダメ、鼻血は下を向かないと」

お姉さん「交代の前に軽く止血しちゃうよ」ザッ！

MFI「落ち着いて、ゆっくり呼吸してください」

D F 1 「痛い痛いのく……飛んでけー！」

M F 2 「そんなので治りや苦労しないっての」

お姉さん「……ガサゴソ

お姉さん（この血の出方……結構深く傷ついてる可能性もある）

お姉さん（試合時間はあと15分ぐらい……もうグラウンドには帰ってこれないかも）

ガシツ……！

みんな「！」

G K 「……っ」グググツ……

お姉さん「……」

みんな「……」

G K 「……」グググツ

フツ……

G K 「……………」

G K 「代わりのキーパーは……誰ですか？」

お姉さん 「……………」

みんな 「……………」

「私が変わろう」

お姉さんみんな 「！」

G K 「……………エレナさん？」



エレナ「私がキーパーに入る」

ことり「だ、大丈夫かなあ……」

真姫「あれを顔で止めるなんて……考えたくもないわね」ゾツ…

タツタツタツ

穂乃果「すっごかったよ!!ことりちゃん!真姫ちゃん!」

花陽「うん!バサバサって!」

海未「ことり……一体いつの間に」

ことり「分かんない!」

海未「……ことりらしいですね」フフ

絵里「真姫もよ!!あんなの隠し持ってたなんて!」わしやわしや!

凜「そうやって真姫ちゃんは最後にいいとこ持ってこうとするんだにやー!」わしや

わしや！

真姫「ぐえええええ………!!!」ボサア……!

にこ「出し惜しみなんてするんじゃないわよ」

真姫「……ふんっ」

にこ　　グリグリグリ………!!

真姫「ぐえええええ………!!!」

真姫（………【クロスファイア】はキック力を補うために助走を入れた）

真姫（だからあの瞬間、【爆熱ストーム】もことりの技に被せたらできると感じた）

真姫（ここまですまくいくとは思わなかったけど………）

真姫「………ことりに感謝しなきゃね」フフ

ことり「？」

真姫（………でも）

真姫（どうして「できる」って感じたのかしら）

ベンチ

希「ことりちゃん……真姫ちゃん……」

監督「成長できるのは、かつこ悪くもがき続けたやつだけだ」

希「……言いたいことがあるなら言ったほうがいいですよ」

監督「言う必要があるか？」

希「……！」

監督「お前は全て分かってるはずだ」

希「……」

監督「それに」

監督「俺は二度同じことを言うのは嫌いだ」  
希「……そ、ですか」

――――  
監督「凜!!」

凜「は、はい!」ビクッ

監督「今グラウンドの中で全力で戦っていないのはお前だけだ!!」

監督「やる気がないならグラウンドから出る!!」  
――――

希（……分かってるよ、そんなの）

希「つて……んん!」バツ

監督「……面白いことになったな」

角間 「負傷したGKはベンチへと運ばれていきます！」

パチパチパチ！

ヨクヤツタ!!カッコヨカッタゾー!!

角間 「……………おや…!？」

角間 「な、な、何と言うことでしょう!!怪我で抜けたキーパーのポジションに統堂が入りましたあ!!」

ナンダ?トウドウガキーパー?

マジカヨ!デキンノカ?

角間 「残り時間も迫る中、この采配が吉と出るか凶と出るかあ!？」

オモシロクナツテキタナ!!ガンバレ!!

監督 「……………」 チラッ

穂乃果 「はえく……………びっくりだねえ」

にこ「うそ……………」

花陽 「あり得ないです……………」

角間 「音の木坂のコーナーキックで試合再開です！」

海未「絶対とりますよ!!」

みんな「おおお!!」

エレナ「……………」コキコキ

音の木坂「—————」

ピ—————!

ドツ

# 「統堂エレナ、GK」

角間 「負傷したGKはベンチへと運ばれていきます！」

パチパチパチ！

ヨクヤツタ!!カッコヨカッタゾー!!

角間 「…………おや…!？」

角間 「な、な、何と言うことでしょう!!怪我で抜けたキーパーのポジションに統堂が入りましたあ!!」

ナンダ? トウドウガキーパー?

マジカヨ! デキンノカ?

角間 「残り時間も迫る中、この采配が吉と出るか凶と出るかあ!？」

オモシロクナツテキタナ!!ガンバレ!!

監督「……………」チラッ

穂乃果「はえく……………びつくりだねえ」

にこ「うそ……………」

花陽「あり得ないです……………」

角間「音の木坂のコーナーキックで試合再開です！」

海未「絶対とりますよ!!」

みんな「おおお!!」

エレナ「……………」コキコキ

音の木坂—————UTX

—————!!

ドッ



絵里あんじゆ「はああ!!」バツ!

角間「絢瀬と優木が飛びついたあ!」

あんじゆ「ふっ!」ガツ!

角間「優木競り勝ったあ!こぼれ球は音の木坂が押さえます!」

真姫「凜!花陽!」

凜花陽「了解!!」バツ!

グツ……ダンツ!

グルグルグル  
グルグルグル

ギユフツ……!

バツ!

ドキュツ!!!!

真姫凜花陽【ファイアトルネードTC!!】

ゴオオオオオオオオオオオ  
!!!!!!

角間 「音の木坂がゴールを捉えたあ!!交代直後の隙を突かれたかUTX高校!!」

エレナ「……………」

GK「エレナさん……………」

エレナ（……………まさかまた、ここに戻ってくるとはな）

スツ

――  
幼少期（小学生）

「みんなー！サッカーしよー！」

「いいよー！」

えれな 「……私もいい？」

「えー……統堂さんサッカー下手じゃん」

えれな 「でも……やりたい」

「キーパーならいいんじゃない？」

「うん！それなら！」

えれな 「……ありがと」

――

グツ……！

バリバリバリ!!!

コオオオオオオオオオオオオオオ……!!!

エレナ【王家の盾!!】

ギユルルルル!!!!

角間「統堂の必殺ワザです!!」

トメローー!!

ガンバレーー!!

エレナ「つぐ……!!」ズズツ……

GK「エレナさん!!」

エレナ「……!」ググツ……

エレナ「はあああ!!」グツ

バチィ!!

ポーン……!

真姫凜花陽「なっ……!」

エレナ「うぐっ……!」ゴロゴロ……ズザザ!

角間「は、弾いたああああ!!!」

海未「そんな……!」

絵里「3人とも!まだまだこれからよ、すぐに……」



UTX!!UTX!!UTX!!UTX!!  
「……っち……」

「ここ(GK捨て身のブロック……からの統堂エレナのキーパー交代、セーブ) UTX!!UTX!!UTX!!UTX!!UTX!!」  
「ここ(観客全部持っていかれた……!!)」

花陽「っ……！」ぜえ……ぜえ……

花陽(しん……どい……!!)ゴホツゴホツ

エレナ「……っ」フラツ……グツ!

エレナ(……次は……まずいかもな)

ポーン……!

真姫「凜!花陽!!」タツタツタツ

凜「うん!」

花陽「りよ、了解……!!」ハア……ハア……

エレナ「!?」

花陽（……弱音は試合が終わってから好きなかだけ吐けばいい）ハア……ハア……

グッ

ダンッ!!

ダンッ!!

グルグルグル

グルグルグル

ギユフッ

バツ……!

花陽（今……!!目の前のボールに全力を尽くす……!!）

ドキュッ!!!



真姫凜花陽「ファイアトルネードTC!!」  
ゴオオオオオオオオオオオオオオオオ!!!

角間「攻撃意思はどこにも負けない音の木坂!!残り時間も迫る中、失点は避けたいU  
TX高校!!凌げるかあ!」

DF2「……つのアホー……!!」ゴーン……!!

エレナ「……はは……馬鹿だろ」タラツ……

トメロートードー!!キメラレンナヨ!!

エレナ「……っ……簡単についてくれる」グツ

GK「エレナさん!!」

ツバサ「あら、あなたが弱音を吐くなんて珍しいわね」ザツ

あんじゅ「熱でもあるんじゃないの？」ザッ  
エレナ「……………！二人とも……………」  
ツバサ「……………私ね、意外と負けず嫌いみたい」  
海未「!!」

ピューーーーーーイ!!!

ドシユドシユドシユドシユ

角間「これは【こうていペンギン】かあ!？」

あんじゅ「ツバサにばかりいい格好はさせないわよ？」

ピューーーーーーイ!!!

ドシユドシユドシユドシユ

ツバサあんじゅ【こうていペンギン……】

—————

？あんじゅ「約束を破ると……怖いわよ？」??

フードの子「で、でも！ツバサさんたちも禁止してるワザもつてますよね？」??

エレナ「もってはいいるがそれも同じだ」??

ツバサ「一発が限度……わかつたかしら？」

??  
—————

ツバサあんじゅ【1号!!】

ドギョルルルルルルルルルルル!!!!!!

角間「綺羅と優木によるシヨートブロックです!!」

海未「1号……!?!」

穂乃果「こうていペンギンは2号と3号だけじゃ……」

亜里沙「これが……ツバサさん達が禁止していた必殺技……！」

ギョルルルルル!!!

ツバサ「……っ……あの日の悔しさは……！」

あんじゆ「1日だって……忘れたことはない……！」

ビキビキ……！

——————??

あんじゆツバサ「はああああ!!!」バツ

??ドキュルルルルル!!!??

あんじゆ「絶対に……！」ググググ??

ツバサ「止める！」ググググ??

角間「綺羅と優木がフォローに走っていたあ!!

ギョルルルルル!!!??

?????????



海未「デイ、デイフェンス!!」

ゴオオオオオオオオオオオ!!!

海未「……………!」

角間「全員攻撃を仕掛けていた音の木坂!!誰もブロックには入れません!!」

穂乃果「……………!」グッ

雪穂「私がいる!!」ザッ

穂乃果「雪穂!」

雪穂【ハンターズネツ……………!!!】

ゴオオオオオオオオオオオ!!!

ドガアッ……………!!

雪穂「うわあああ!!」ブワアッ……………!

角間「高坂吹き飛ばされてしまったあ!!」

穂乃果「雪穂!!」

穂乃果「……!!」ハッ……!

穂乃果（雪穂、飛ばされ……ポスト、ぶつかっ……危）

穂乃果（ゴール、入っちゃう……でも雪穂、が）

ゴオオオオオオオオオオオ!!!

雪穂（やっばい、体制が……!）ブワアッ……!

穂乃果「……!!」

穂乃果「雪穂!!」バッ!!

雪穂「つ……!」パシッ

海未「！」

希「あ」

ドシユルルルル……!!!

角間「……………は……………」

角間「入ったあああ!!!」

ワアアアアアアアアア!!!

角間「残り時間10分!! UTX勝ち越し!!!」

角間「連続攻撃のツケが今! 回ってきてしまいました!!」

角間「音の木坂にとっては手痛い追加点だあ!!!」

穂乃果「……………雪穂! 大丈夫!?!」 バッ



雪穂「……………なに、やってんのさ!!」ガッ!

穂乃果「……っ」

雪穂「亜里沙の時とは違う……入っちゃったんだよ!!」ゴールが!!」バツ!

雪穂「お姉ちゃんはキーパーなんだから……!!今の失点がどれだけ重たいか……」

穂乃果「……………」

海未「よく受け止めましたね穂乃果」ザッ

雪穂「……海未さん……皆さんも……」

穂乃果「……ごめん、ゴール決められちゃった……」ニヒヒ……

海未「あなたはなにも間違ったことはしていませんよ」

海未「仲間を見捨てて得た勝利で喜ぶ人なんてこのチームにはいませんからね」

にこ「今のもし、穂乃果が雪穂を見捨ててたらあんたのこと軽蔑してたわよ」ハンッ

!

凜「あ、これは照れ隠しのにこちや痛い痛い痛い」ギリギリギリ……!!

雪穂「でも……!!」

雪穂（そもそも私がでしゃばらなかつたら……）

亜里沙「コウカイアトサキニタタズ! だよ雪穂!」

雪穂「亜里沙……」

亜里沙「終わってないよ! 試合!」フンスツ!

雪穂「………だめだ私、いつもすぐ弱気になって」ブルブル……!!

パンパン!

雪穂「切り替えます!!!」キツ

亜里沙「ハラショー!」

海未「ふふ、その調子です」

ことり「うん! 頑張ろう!」

亜里沙「ドウジョウスルナラカネヲクレ! だね!」

絵里「違う、誰亜里沙に変な言葉教えたの」

希「……」スツ

監督「いくのか」

希「……ウチ……」

監督「まだ迷いが見えるが、行きたいと言うのなら止めはしない」

希「……後悔、したくないから」

監督「……そうか」

希「フミコちゃん」

フミコ「はい！」

希「このぬいぐるみ、捨ててきてくれんかな」

フミコ「へ……大事なものじゃないんですか？」

希「……お願い」

フミコ「……わかりました」

希「ふふ、ありがとう」ニコッ

タツタツタツ

ツバサ「……不本意だけど、あの時の借りは返したわよ」

あんじゅ「カラダ、バキバキ、マツサージ」

エレナ「わかったわかった、終わったらしてやるから」

MF3「やったつすねツバサさん!! あんじゅさん!!」

MF2「シビれました!!」フンスッ!

DF1「エレナさんもすごかったです!」フンスッ!

DF2「FWもGKもできるとかほんまに同じ人間かって話やんなあ……」

MF1 「ですが本当に恐ろしいのはここからです

ツバサ 「音の木坂は追い詰めれば追い詰めるほど強くなる」

ツバサ 「……………げ」

あんじゅ 「……………うん？……………うえ」

角間 「ここで東條がMFに復帰だああ

!!

角間 「残り時間10分弱!! 試合にどのような影響を及ぼすのでしょうか!!」

希 「やほ〜!」 フリフリ

絵里 「希……………」 パアアアア!

希 「残り時間も少なくなってきたやつたけど、最後まで頑張るやん!」 グツ

海未 「ふふ、頼もしいですね」

凜 「うん! ね、かよちゃん!」 クルツ

花陽「ゴホツゴホツ……!!……………え？」ゼエ…………ゼエ……

凜「か、かよちんどうしたの!？」

花陽「はは…………ちよつと…………頑張り…………過ぎ、ちやつたみたい」ゼエ…………ゼエ……  
凜「…………試合始まるまでまだあるから、少し休んでおくにや！」

花陽「あり…………がと…………！」ゼエ…………ゼエ……

希「…………迷惑かけたね」スツ

ヒデコ「…………やっぱり私は、この11人が好きです！」スツ  
パチッ!

角間「追加点を許した音の木坂!!残り時間も気になる中、どのような攻めを見せてくれるのでしょうか!!」

音の木坂1—2 U T X

ピ  
ー  
ー  
ー  
ー  
ー  
ー  
ー  
ー  
ー  
ー  
!!!

ド  
ツ  
!

ワ  
ア  
ア  
ア  
ア  
ア  
ア  
ア  
ア  
ア  
ア  
!!!

「東條希、嫌いにならないで」

希「……」スツ

監督「いくのか」

希「……ウチ……」

監督「まだ迷いが見えるが、行きたいと言うのなら止めはしない」

希「……後悔、したくないから」

監督「……そうか」



希「フミコちゃん」

フミコ「はい！」

希「このぬいぐるみ、捨ててきてくれんかな」

フミコ「へ……大事なものじゃないんですか？」

希「……お願い」

フミコ「……わかりました」

希「ふふ、ありがとう」ニコッ

タツタツタツ

角間「ここで東條がMFに復帰だああ

!!」

角間「残り時間10分弱!!試合にどのような影響を及ぼすのでしょうか!!」

希「やほ〜!」フリフリ

絵里「希……………」パアアアア!

希「残り時間も少なくなってきたけど、最後まで頑張るやん!」グツ

海未「ふふ、頼もしいですね」

凛「うん!ね、かよちん!」クルツ

花陽「ゴホツゴホツ…………!!……………え?」ゼエ…………ゼエ…………

凛「か、かよちんどうしたの!?!」

花陽「はは…………ちよつと…………頑張り…………過ぎ、ちゃったみたい」ゼエ…………ゼエ…………

凛「…………試合始まるまでまだあるから、少し休んでおくにや!」

花陽「あり…………がと…………!」ゼエ…………ゼエ…………

希「……………迷惑かけたね」スツ

ヒデコ「……………やっぱ私は、この1人が好きです！」スツ

パチツ！

角間「追加点を許した音の木坂!!残り時間も気になる中、どのような攻めを見せてくれるのでしょうか!!」

音の木坂1—2UTX

ピ—————!!!

ドツ!

ワアアアアアアアアアア!!!

希「……………」チラツ

希「!」バチツ

Aちゃん「……！」ビクッ

希（……Aちゃん……）

「……………」  
Aちゃん「のぞみちゃんおさいほーできるのー!?すつごーいー!」

のぞみ「う、うん、なんとなくだけど」

東條希は、幼い頃から器用な少女だった

Aちゃん「のぞみちゃん絵すつごく上手だね!」

のぞみ「そ、そんなことないよ……!」テレテレ

東條希はあらゆる方面で器用だった

先生「よし、今日はバスケットの授業をするぞー！二列に並べ！」

のぞみ「バスケット……？」

Aちゃん「のぞみちゃんしたことないの？」

のぞみ「うん、初めて！」

Aちゃん「じゃあ私が教えてあげる！実は私、バスケットクラブに通ってるんだ！」

のぞみ「すごい……！」キラキラ

先生「じゃあ誰か試しに……そこのおしやべりしてる2人！出ておいで！」

Aちゃん「はい！」スツ！

のぞみ「え、えええ……」スツ……

パスツ……！

ワアアアアア!!

スツゴイ! アンナノムリダヨオ……

先生「Aは5本中3本か! すごいな!」

Aちゃん「えっへへ!」

先生「次、東條!」

のぞみ「ええつと……」アワアワ

先生「東條は持ち方からだな、こうやって……」スツ  
のぞみ「……こう?」スツ

先生「そうそう! 上手いぞ!」

東條希は器用だった

先生「で、こう!」ヒュッ

……パスッ!

のぞみ「わあ……!!」　　パアアアア!

先生「さ、やってごらん!」

のぞみ「はい!」

東條希は器用だった

のぞみ（たしか、こうやって……）　　ググッ

先生「おっ! いいぞ!」

Aちゃん「がんばれー!」

のぞみ「……こう!」　　ヒュッ!

東條希は……

パスツ……！  
器用すぎた

放課後

希「ど、どうして怒ってるの……？」「ビクッ

Aちゃん「……バスケット、嘘ついてたの？」

のぞみ「嘘なんかじゃ……」

Aちゃん「初めてじゃないならそう言えばいいのに……！」

のぞみ「ほんとに初めてで……」

Aちゃん「じゃあ……！」



Aちゃん「5本全部なんて入るわけない!!」

のぞみ「それは……」

Aちゃん「心の中で私のことバカにしてたんでしょ!」

のぞみ「し、してない!!」

Aちゃん「……もういい」

Aちゃん「のぞみちゃんとは絶交する!!」

のぞみ「……!」

Aちゃん「もう話しかけてこないで!!」ダツ!

のぞみ「まっ……!」

Aちゃん「のぞみちゃんなんかだいつきらい!!!」

—————

希（それからすぐに親の転勤が決まって、本当に離れ離れになっちゃったっけ）  
希（あの日からうちは……）

「希!!」

希「……………」ハッ……………」

パシッ!

角間「交代直後の東條にボールが回りました!」

DF2「勝負やエセ女ア!!」ザッ

希「っ……………」

DF2「スーパ―しこふみ!!」

ヒュッ……………」

希「……………」ここで奪われるわけには……………」ダッ!

ガッ……!!

D F 2 「うぐつ……!」ドサッ

角間 「東條強引にデیفフェンスを抜い……」

ピッ!

希 「あ……」ピタッ

角間 「おいしい!これはファウルになりました!!少し強引すぎたかあ!?!」

D F 2 「いってて……」

希 「ご、ごめんなさい……!」スッ

D F 2 「んお……?ああ、悪いな」スッ

「ご、ごめんなさい……………」 オズオズ…

DF2 (……………あれ？この感じどつかで…………)

希「……………?なにか？」

DF2 「あ、いや、なんもない」 ガシツ

グイツ      スタツ

DF2 「……………負けへんからな！」 タツタツタツ

希「……………」

パシツ！

希「いつ……………」

絵里「ほら！シヤキツとする！」

希「……わかってるよ！」

にこ「休みすぎて体なまってんじゃないの？」ハッ！

希「……にこっち」

にこ「なに？またおばあちゃんって……」

希「勝とうね」

にこ「……？あんた大丈夫？」

希「もーひどいなあ……」プクー

希「うちにも真面目な時ぐらいあるんよ？」ポヒュー

にこ「……初耳ね」

希「ワシワシ？」

にこ「悪意がすごい」

ピッ！

ドッ！

角間「UTXボールとなりました！一刻も早く点を取り返したい音の木坂!! どうする!?!」

ツバサ「上がりなさい!!」 トツ

ザザザッ!

海未「くっ……!」

角間「あくまで追加点を狙いに行くUTX!!」

凜（かよちゃんを少しでも休ませてあげないと……!） ザッ

角間「綺羅の前に星空が立ちふさがります!」

ツバサ「……」 タッタッタッ

凜「行かせないにやー!」 バッ!

ヒュッ……クルッ

トツ

凜「……うぐっ!」

ツバサ「ごめんなさいね」

角間「星空をもっともしない綺羅!! 圧巻のドリブル突破です!!」  
凜「そんな……!!」

花陽「私……が!!」ザツ

ツバサ「……ふふ」トトツ

ザツザツ!クルツ!

花陽（フェイントからのターン……!）グツ

カクツ

花陽「……っ……!?」ドサツ

ツバサ「体力のご利用は計画的に……ってね☒」

角間「小泉足がもつれたあ!!疲労がたまってきているのかあ!？」

花陽（考えろ……私で終わりじゃない、私が抜かれた後、誰が……誰を……えーつと……）  
ゼエ……ゼエ……

花陽（……）  
ハア……ハア……

ここに（慣れないシユート3本、プラス、花陽はこの試合中ずっとフルで頭を働かせてた……）

海未（そのツケが今……）

花陽「……っ」  
ゼエ……ゼエ……

ツバサ「……！」  
ブルツ

ツバサ（体も頭も限界のはずなのに……）

花陽 キツ……!

ツバサ「……」  
フフ

角間「ダイフェンスラインを突破したあ!!」



ツバサ「あんじゅ!!」バツ!

あんじゅ「ええ!」

にこ「来るわよ穂乃果!!」

穂乃果「…!」グッ

バツ!

ツバサあんじゅ【ユニコーンブースト!!】

ドゴオオオオオオオオオオオ!!!

角間 「シユートを放ったのはUTX高校!!音の木坂凌げるかあ!?!」  
にこ 「ここに来て新必殺技……!?!」

花陽 「……でもこれ……」 ハア……ハア……

穂乃果 「マジン・ザ・ハンド!!」

ギョルルルル!!!!

角間 「高坂正面から立ち向かいます!!」

海未 「穂乃果!!」

雪穂 「お姉ちゃん!」

穂乃果 「……はあああ!!!」 グツ

シユルルルルルル………!!

穂乃果「……よし！」

角間「とおめたあ!!」

ツバサあんじゅ「……くっ……！」

穂乃果「みんなー!!まだまだ行くよー!!」

みんな「おー!!」

角間「音の木坂の守護神高坂、頼もしいプレーでチームを引っ張ります！」

海未（よし、統堂さんが抜けたおかげで攻撃力が下がってますね。これなら……）

アー！オツシイー！

海未「……！」クルッ

ドンマイドンマイ！ツギイケルゾー!!

にこ（そこは「ナイスセーブ！」でしょうが……!!）イラア……！

穂乃果「……………希ちゃん!!」ドツ!

希「…………!」トツ

角間「東條へパスが通りました!!」

花陽「の、希ちゃん!……………きて……………ます!」ハア……………ハア……………

希「くっ…………!」ピタッ

DF2「行かせへんぞエセ女あ…………!」ザッ

希「……………通してくれんかなあ」

DF2「エセには刺激が強すぎるもん見せたるわ」

希「?」

ダンッ!

D F 2 「はああああ!!」 ググッ

ゴゴゴゴゴゴ……!!!

希「……ここ、これは……!!」

ドドーン!!

D F 2 「道頓堀・ウォール!!」

希「……!!」 グラッ

角間 「なななあんとお!! グラウンドに道頓堀が出現いたしましたあ!!」

にこ 「エセ V S 本家……見ものね」

凜 「希ちやーん! 負けちやダメにやー!」

希（もうやるしか……！）グッ

「のぞみちゃんなんかだいつきらい!!」

希「ーーーーッ……!」ビクッ  
バチイッ!

希「うわあ!!」ドサッ

角間 「東條止められたあ!!」

DF2 「うちの勝ちやエセ女!」 トツ

希 「……くっそ……」

角間 「東條プレーに精彩さがありません!」

希 「大丈夫、大丈夫やから……!」

—————

中学校

あの一件以来、東條希は周りの目を気にするようになった  
周りより飛び抜けていないか、出しやばっていないか  
ただ……東條希は器用だった

ドガア……!!

希「いつ……!」ドサツ

モブヤン1「……あんたのその済ました態度、なんか腹立つんだよね」

希「……気のせいじゃない……?」ゴホッ

モブヤン2「気のせいじゃないから言ってる……の!」ドゴオツ!

希「うえ……!」

周りに合わせた態度が逆に反感を買ってしまうこともあった

希（……私に……どうしろって……）ゴホッゴホッ

「うっわ、2対1とかえっぐ」

希「!」



モブヤン1 「あ?.....ぷっ!小学生かよお前」

モブヤン2 「用がないなら帰りなチビちゃん」シツシツ

「.....」イラア.....!

「.....今うちに言った暴言は100歩譲って許したる」

「でもな.....」スツ

モブヤン「!?」

ドゴオツ...!!

モブヤン1 「ガハッ.....!」ドサッ

「目の前のイジメスルーできるほどできてないんじゃボケエ!!」

モブヤン2 「こいつ...!!」ドゴツ!

「いつ.....」グラッ.....!

「.....オラア.....!!」バキイツ.....!!

モブヤン2 「ブツ.....!」ドサッ

「……さっさとどっかいけや」

モブヤン1「……行くぞ……！」タッタッタツ

モブヤン2「つち……！」タッタッタツ

「……っはー、痛った……」サスサス

希「あ、あの……！」

「んあ？」

希「ご、ごめんなさい……私のせいで……」

「おー気にすんな、1発だけやしなもらったの」ニシシ！

希（関西弁……）

希「……どうして……助けてくれたの？」

「……多分帰ってから、「あの時行っとけばよかったなあ」ってなると思ったから」

希「？」

「やらずに後悔するより、やって後悔した方が気持ちええやろ？」

希「……！」

「ウチ好きやねんこの言葉」ニシシ

希「……やらずに後悔するより……やって後悔……う？」

「そ！ただし、全部自己責任でな！」

希「……私は……」

『だいつきらい!!』

希「……そんな勇氣、ないかなあ……」

「……」

希「でもありがとう！少しスッキリ……」

モニユツ……………!

希「……………」

「んー、発展途上といったところやなあ」モミモミ

希「……………」ペシッ!

「いけず!」

「……………それじゃあウチは帰るけど、あんま考えすぎんよーにな」

希「うん、今日はありがとう」フリフリ

「……………さつきよりマシな顔になったな」

希「……………ちよつとだけ勇気もらえたからかなあ」

「そっか、じゃあな発展途上」

希「発展途上……………!?!」ゴーン

—————

希（結局また転勤でその人とはそれから一度も話してない）  
希（あの人がみたくに強くなれたらって……ずっと思ってた）  
希（あの人がみたくに……周りの目を気にせず、自由に……）

その日から関西弁は、「わたし」にとって勇気の象徴となっていた

「勇気、出しきれてないよね？」

希「……………」ビクッ

「ふふ、びくってしたね」

希「君は……………」

「わたしはあなたの悩み、のぞみだよ」

希「悩みなのか望みなのかはつきりしてほしいなあ」

のぞみ「望みじゃなくてのぞみ！」

希「ふふ、はいはい」クスクス

のぞみ「大事な事なのに！」

希「……………のぞみちゃん、話の続き」

のぞみ「あ、そうだね！」コホン

のぞみ「……………あなた、サッカーは全力でやってるよね」

希「……………うん」

のぞみ「でも」

のぞみ「隠してることがあるよね？」

希「……………」

のぞみ「どうするの？試合終わるよ？」

希「…………無理やん」

のぞみ「…………？」

希「このチームに嫌われたらウチ、ホントに立ち直られへん」

のぞみ「だからこの悩みは閉じ込めておくって？」

希「…………うん」ニコッ

のぞみ「……………」

のぞみ「今までわたしは何回もあなたに話しかけた」

希「へ？」

のぞみ「何回呼びかけても見向きもされなかった……………」

希「…………！」

のぞみ「どうして今聞こえたんだと思う？」

希「……さあ」

のぞみ「どうしてあなたはぬいぐるみを捨ててって頼んだの？」

希「……さあ」

のぞみ「どうして今更になってあの日のことを思い出してるの？」

希「……」

のぞみ「あなたが特別なんじゃない」

希「？」

のぞみ「みんな、大なり小なり心に抱えてるものがある」

のぞみ「だから私みたいなのが生まれるの」

希「……」

のぞみ「穂乃果ちゃんや花陽ちゃんやことりちゃん、他のメンバーだって悩んでる」

のぞみ「それを取り越えたから、また前を向けてるんじゃないかな」



希「でも……」

のぞみ「しっかりしなさい！」

希「……！」ビクッ

のぞみ「このチームはそんなに簡単に離れていくような人たちばかりなの？」

希「……違うよ」

のぞみ「なら……！」

希「そんな子達だからこそ、離れてしまうのが怖いんだよ」  
のぞみ「……」

鍵穴がある、鍵もある、あとは回す勇氣だけ

『だいつきらい!!!』

幼い頃のたった一言

その一言が今でもこの子を縛り付けている

ああ、確かにこれは………

呪いだ

ワアアアアアアアアアア  
!!!!

希「……………」ビクッ

角間「綺羅にパスが回りましたあ!!ロスタイムまでの時間も残り少ない中、完全にU  
TXペースだあ!!」

UTX!!UTX!!UTX!!UTX!!

穂乃果「時間ないよ!!ぶつかって!!」

みんな「おお!!」

ツバサ タッタッタッ

雪穂「亜里沙!私たちで!」ザッ

亜里沙「うん!」ザッ

雪穂亜里沙「はああ!!」バッ!

ヒュッ……………クルン……………ダッ!

亜里沙雪穂「ぐっ……………」

角間「綺羅再び抜いたあ!!」

にこ「くっそ……………」

海未（攻撃の糸口が全く掴めない……………このままでは……………！）

希「っ……………」

「頑張れー！！音の木坂ー！！」

みんな「……………」クルツ

希「……………」Aちゃん……………」？」

アノコダレ？サア……………」

Aちゃん「ほら！！音の木坂の子達も！」

音の木坂観客「……………」ハッ……………」

角間 「さあ、試合の流れはUTXが握っております！このままUTXが……」  
音の木坂!!音の木坂!!音の木坂!!  
角間 「こ、これは……」

音の木坂!!音の木坂!!音の木坂!!

Aちゃん 「音の木坂!!」

音の木坂観客 「音の木坂!!!」

おばちゃんおっちゃん 「音の木坂!!!」

角間 「音の木坂の応援が会場に響き渡っております!」

ザワザワ……

ソウダ、オトノキモガンバツテルジャン

オトノキザカガンバレー!!

音の木坂!!音の木坂!!音の木坂!!



にこ「…遅いのよ、まったく」

真姫「すご……」

凜「うー!! テンション上がるにやー!」

DF2「こんなに盛り上がったん、初めて見た……」

MF1「いつもワンサイドゲームでしたからね」

MF3「はあく……!」ゾクゾクツ

花陽「…はあ……はあ……」ゼエ……ゼエ……

ツバサ「……?」トツ

耳を塞いでいても聞こえるほどの声援

だが、小泉花陽の耳には何一つ届いていなかった

考えていたのは

花陽（疲れた……ご飯食べてお風呂に入ってあったかいお布団でぐっすり眠りたい……）

試合とはまったく関係のないことだった

ツバサ「……行くわよ！」ダッ！

花陽（……来た……綺羅さんのクセ……えつと……）

花陽（なんだっけ？ タイミング？……じゃなくてクセ……えーつと……）

花陽（だめ、思考がまとまらない……）

ツバサ　　タツタツタツ

花陽（あーもう……）



花陽「……………めんどくさいなあっ」ボソッ  
ツバサ「ーっ……………」

トツ……………!

ツバサ「………………………………………は」

あんじゅ「…え？」

ことり「うそ……………」

花陽「……………」タツタツタツ

角間「こ、小泉綺羅からボールを奪い取ったああ!？」

ワアアアアアアアアアア!!!

凜「カヨちーん!!」

海未「【ディフェンス方程式】とは比喩物にならない速度、正確性……」  
エレナ（ここに来て……まだ成長するか、小泉花陽……！）ゾワアツ……！  
両チームが戦慄する中、当人だけが冷静だった

タツタツタツ

花陽（……？私、取ったの？誰から？綺羅さん？）ゼエ……ゼエ……

角間「……！！……！」

花陽（解説の人……何言ってるんだろ……）ゼエ……ゼエ……

ハア……ハア……

MF2「いかせねえよ！」ザツ！

海未（まずいです……今の花陽では……！）

海未「花陽！こちらに！」

花陽「……ぜえ……ぜえ……!!」

海未（聞こえていない……!!）

花陽「……はあ……はあ……!!」 ザツ

M F 2 「おらあ!!」 バツ!

花陽「……っ……!!」

何度も繰り返し見た憧れのチーム、対戦経験あり、試合終盤

データは完璧に揃っていた

花陽「はあ……はあ……!!」

極度の疲労状態の中、思考をやめた小泉が行ったこと

それは……

M F 1 「はあ！」 バツ！

花陽（……………多分……………右……………） バツ！

勘だった

M F 2 「……………！」

ただの勘ではない

これまで蓄えたデータを無意識下で分析、選択

それが小泉を最善のルートへと導いていた

花陽「……………あああああ!!!」 バツ！

【オフエンスコマンド】

シュバツ……!!!

M F 2 「くっ………そ……！」

M F 2 (動きが速いわけじゃないのに……追いつけねえ……!!!)

角間「小泉抜いたあ!!」

ワアアアアアアアアアアア!!!

花陽「ぜえ………!!ぜえ………!!」タツ………タツ………!!

イイゾー!!コイズミーン!!ハナヨチャーン!!

花陽(観客の声、聞こえる)

花陽「あっ………」フラッ

ギリギリまで張り詰めていた糸が切れた瞬間だった

ポスツ……………!

花陽「……………希……………ちゃん？」ハア……………ハア……………

希「……………なんで……………そんなになつてまで……………」

希（穂乃果ちゃんだつてそう、なんでそんなに……………）

花陽「……………後悔……………したくないから……………」

希「……………」

ああ……………嫌だ

花陽「このメンバーで、勝ちたいから……………！」ギユツ!

またあの言葉を思い出す

『やらずに後悔するより、やって後悔した方が気持ちええやろ?』

Aちゃん「希ちゃん!!」

希「……………」

カチリ……………!!

ワアアアアアアアアアアア!!!

角間 「残り時間もごくわずか!!」

角間 「小泉により勢いを取り戻した音の木坂!! 追いつけるかあ!？」

希 「……………少し休んどき、花陽ちゃん」

花陽 「へ？」ハア……………ハア……………

希 「うちに任せて」 トツ

花陽 「希ちゃん？」ハア……………ハア……………

角間「東條にボールが渡りました！」

M F 3「逃げ切らせてもらおうっす！」ザッ！

角間「UTXの素早いマーク！プレッシャーをかけてきます！」

希「……………」ジャリッ……………」

希「…………フーッ……………」トントン

ドクン…………ドクン……………」

希（……………お願い）

ドクン…………ドクン……………」

希（どうか「私」を……………」

ドクッ……………！



希  
「……  
嫌いにならないで」

「東條希、本当の自分」

希「……嫌いにならないで」

M F 3 「はああ！」 バツ！

海未 「希！来てますよ！」

凜 「希ちゃん!!」

希 「……………」

「尾刈戸高校、幽谷」

希 【呪い】

ズズズズズ……………!

M F 3 「こ、これは……………!」

ことり 「あれは……………尾刈戸高校の……………!」

海未 「なぜ希が……………」

希 「……………」

昔から、一度見たことはなんでもできた  
意識しなくても、努力しなくても  
なんでもできた  
できてしまった

幽谷「姐さん……」

ズズズズズ……!!

希「……人を呪わば穴二つ」

花陽「希……ちゃん！」ハア……ハア……

希「……ずっと苦しかった……辛かった……」

ズズズズズ……！

希「これ以上呪えるなら呪ってみろ……！」バツ……！

M F 3 「うわああああ!!」ドサツ

角間「東條抜いたあ!!しかし今のは尾刈戸高校の……?」

希（……みんなの顔を見るのが怖い）

希（でも……もう戻れない）ダツ!

ツバサ（さっきまでの東條さんじゃない……）

あんじゅ（嫌な予感がする……!）

あんじゅ「デイフェンス!」

D F 1 「行かせない!」ザツ



花陽「ど、どういうこと？」　ハア……ハア……  
海未「わかりません……が、今は希が頼りです」

DF2「エセ女ああ!!」　ザザツ……!

希「……!」

DF2「なんや変なことしてるみたいやけど、うちは絶対通させへんぞ……!」  
……ダンツ!

ゴゴゴゴゴ……!!!

ドドーン!

DF2【道頓堀・ウォール!!】

角間「再びDF2のディフェンスが立ちふさがります!!」

希「……ウチ、決めたん」

DF2「……?」

希「もう……」ジャリツ……

希「「自分」に嘘はつかないって…!!」ダツ!!

DF2「ーっ……」

『……みんなと全力で……サッカーがしたいなあ……』





希「……!!」ピタッ

角間「今の隙に戻ってきていましたUTX優木！」

希（どうする……ここで止まるわけには……）

「希!!」

希「……!!」バツ

ドツ!

ドツ!

パシッ

角間「東條と矢澤のワンツ―だあ!!優木も抜いたあ!!」

あんじゅ「なっ……!!」

こころ「お姉様！」

希「にこつち……」タツタツタツ

にこ「……ふん」タツタツタツ

絵里「ちよつと、私も呼んだんだけど」

希「エリチ……」

角間「残すは統堂エレナのみ！ロスタイムに入る前に同点に追いつきたいところ!!」

希「……えりち、にこつち、力貸してくれん？」

にこ「……はあ？あんたふざけてんの？」

希「……っ」ビクッ

にこ「いちいち遠慮してんじやないわよ」

希「……!」

にこ「つとに……あんたがこんなことできるならもっと作戦だつて立てれたのに……」  
「ブツクサブツクサ」

絵里「ふふ、私は嬉しいわよ？また一つ希のことを知れたしね☑」

希「ごめん二人とも、訳は後で話すから……」

希「うちに力を貸して！」ザッ！

ここ「ぶつつけ……」ハア…… ザッ

絵里「私は楽しいわよ？強引な希なんて初めてだもの」ザッ  
ここ「あんたのそれなんなのよ!!」

希「……ふふ」ニコッ

エレナ「……!!」

絵里（……本当に初めてだもの）

希「行くよ！」

ここ「ええ！」

絵里「任せて！」

こころ「……!!」

絵里（希が自分の事で無茶を言うなんて）

ガキンガキンガキン!!!!  
アオーオーオー!!!

希「ふっ…!!」ドッ!

希(……不思議やなあ)

にこ絵里「はああ!!」ドキユツ!!

にこ(打ち合わせなんて何もしてないのに……)

絵里(二人の考えてることがわかる……)

ゴオオオ!!!

角間「こ、これは……………」

エレナ「本当に……………なんなんだ彼女達はっ……………!!」ジャリツ……………!!

希「はああああ!!」バツ!

ドキュツ

希にこ絵里!!!!  
【グランフェンリル!!】

ゴオオオオオオオオオオオオオオオオオオ!!!!

角間「ここまで温存していたのかあ!?!音の木坂の新必殺技だああ!!」

凜「え…!?え…!?すご…!!見てかよちん!あれ!」

花陽「……希ちゃん」ハア……ハア……

ことり「あ、頭が追いつかない……」プシュー……

穂乃果「いつけー！希ちゃん！にこちゃん！絵里ちゃん！！」

ツバサ（ここまで温存……？）

ツバサ「……違う」

あんじゆ「……とっさの思いつきで……こんな……」

GK「エレナさん！！」

エレナ「……ああ……！！」スッ

グツ……！

バリバリバリバリ！！

コオオオオオオオ……

！！！！







G K 「ブツ…!!」

ゴロゴロ…ドサツ…!!

—————

エレナ（あと少し…あと少しなんだ…!!）

ツバサ「…!!」

希にこ絵里「いけえええ!!」

エレナ（止めて…!!）

グググツ…!!

エレナ「勝つんだ…!!」



ドシユルルルルルル……………!!!  
テンテンテン……………

角間「……………は……………」

角間「入ったあああ!!!」

ワアアアアアアアアアア!!!!

音の木坂「らあああああおあああ!!!!」

角間「最後の最後に追いつきました音の木坂!!残すはロスタイムのみとなりました  
!!」

角間「ロスタイムは……………7分です!!」

「こころ」「ここあ！こたろう！見て！お姉ちゃんが！すごいすごい！！」ピョンピョン！

「ここあ」「わああ……！」キラキラ

こたろう「……ねーちゃん……！」ピコッ

こころ「おねーさまー！」ピョンピョン！

にこママ（……仕事で遅くなってもいつも礼儀正しく待っていたこころ）

にこママ（こんなにはしゃいでるのを見たのはいつぶりかしら……）ウルツ……！

にこママ（……ありがとう、にこ）グツ……

エレナ「……」

スツ

エレナ「……………」パッ

ツバサ「…………大丈夫？」

エレナ「責めてくれ、惨めになる」

みんな「……………」

エレナ「…………これでは何のために代わったのかわからないな」ハハ…

ツバサ「…………あんじゅ」

あんじゅ「了解！」バツ！

エレナ「？」

あんじゅ「希直伝…!!ワシワシワシワシ…!!!」

エレナ「なっ…ちよ…やめ!!うわあああああ!!!」

DF2「ええ筋してるな…」フム…

MF2「フム…じゃねーんすよ」

エレナ「……!!……!!……!!」

あんじゅ「……案外小さいのねエレナ」

エレナ「……!!」ゴーン

ツバサ「まあお遊びは置いといて……」

ツバサ「みんな！」

M F 1 「気落ちなどしていませんよ」

ツバサ「！」

D F 2 「あつたりまえや！あのエセ女絶対倒す!!」

M F 3 「やるっす!!」

D F 1 「あと7分で終わりかー！」

M F 2 「体は疲れてんのに、まだまだできそうだな」

D F 1 「……体力馬鹿なだけじゃないですか」ボソツ

ゴチンツ!!

D F 1 「いつ……!?!」

ツバサ 「貴方達……」

M F 1 「私たちは……信じてますから」

ツバサ 「……任せなさい」

あんじゅ ナデナデ

エレナ ベシツ!

ツバサ (…ふふ、エレナがあそこまで感情的になるのも初めて見たわね)



にこ「はあ……はあ……」

にこ（……こころ、やったわよ……!!）グツ……！

こころ「……！」グツ！

凜「3人ともすごいにやー!!」

海未「ええ、首の皮一つ繋がりました」

穂乃果「希ちゃんもすごかったよー！ごぼう抜きつてああいうことなんだね！」

希「うん、そのことで……」

ことり「それはマラソンとかで使う言葉だよ穂乃果ちゃん……」

穂乃果「えー？」

希「えつと……少しいかな……」

真姫「ちよつと、まだ試合終わってないんだけど？」

希「あの……」

穂乃果「わかつてるよーだ！」

真姫「なつ……！何よその言い方は！」

穂乃果「ふんだ！今日大活躍してるくせに！」

真姫「だったら何なのよ！してるならいいじゃない！」  
穂乃果「あーほら！またそうやって……」

希「……ねえ……!!!」

ビクッ……!

………シーン

絵里「希……」

希「なんで……誰も詮索してこーへんの？」

海未「……」

希「ウチ……隠してた……他の子の技真似できるの……黙ってたのに……!」

凜「だって希ちゃん辛そうだにや〜」

希「…………へ？」

ことり「何か訳があるんだろうなってわかってるから誰も怒ってないよ」

穂乃果「後悔、しなくて済んだね！」

花陽「ナイスプレイです！」

希「……………」

『みんな、大なり小なり心に抱えてるものがある』

『それを取り越えたから、また前を向けてるんじゃないかな』

希「……………はは、敵わんなあほんと」ヘナヘナツ…

トサツ

絵里「ちよ、希!？」

にこ「腰抜かしてんじゃないわよ、まったく……………」

希「にこつちく、おんぶして〜！」

にこ「じゃあかしい!!あとちよつとなんだから最後まで頑張りなさい!!」

希「ぶう……………」プク……………」

穂乃果「……………さ、みんな!準備はいい?」

みんな「……………」バツ

穂乃果「いくぞ!!!」バツ!  
!!「!!」バツ!  
!!「!!」バツ!

穂乃果（……ただ……）  
ことり（希ちゃんが私たちに合わせていたことに、誰も気づかなかった……）  
海未（あの花陽ですら）  
希「……」

角間 「敗色濃厚の中、なんとか踏みとどまった音の木坂!!このまま逆転勝利となるか

……」

角間 「はたまた!!前回の雪辱を果たし、王者としての貫禄を見せつけるかUTX!!」

角間 「泣いても笑ってもこれで最後!いよいよ運命のキックオフです!!」

UTX 2 | 2音の木坂

ピ—————!!

ツバサ穂乃果 「勝つ「わ」よ!!!」

「「「おおおおおお!!!」」

ドツ!

お姉さん 「ほら、ちゃんとティッシュ詰めて」

GK 「こ、ごべんなざい」詰め詰め



海未「デイフェンス!!!」

角間「先に攻撃を仕掛けたのはUTX!!」

MF2「頼みます!!」ドツ!

あんじゅ「ええ!」トツ

穂乃果「雪穂!!」

雪穂「行かせない!」ザッ

角間「DFの高坂が立ちふさがります!」

雪穂(時間もない、ここで止めないと……!)

あんじゅ「悪いけどここは譲れないわよ、妹ちゃん?」

雪穂「……っ」

あんじゅ「ふっ……!」ダッ!

雪穂「……っ!」バツ!

ガガガッ!

雪穂（…………妹ちゃん妹ちゃんって……）

ザッ! ガガッ……!

花陽（……?雪穂…………ちゃん…………?）ハア…………ハア……

私がサッカー部に入ると、みんなは私をお姉ちゃんの……

「高坂穂乃果の妹」として接してきた

「あ、君が穂乃果ちゃんの妹ちゃんか〜!」

雪穂「あ…………はい」

雪穂（悪気がないのはわかってるけど、それが本当に嫌だった）

雪穂（だから高校ではサッカーをするつもりはなかった）

ガッ!ガガッ!

あんじゅ「……っ……!?!」トトツ



雪穂（でもお姉ちゃんとサッカーはしたかった）  
角間「音の木坂高坂！驚異の粘りを見せます!!」  
穂乃果「……………雪穂……………」

雪穂（高校に入る前の、最後の思い出にしようとするこのチームに入った）

雪穂（覚悟してた、また「妹」として見られるって）

雪穂（……………でも違った）

ガガッ

……………

凜「雪穂ちゃんいづくにやー！」

花陽「頑張ろうね、雪穂ちゃん」

真姫「……………雪穂ちゃん」

絵里「ふふ、あなたが雪穂ちゃんね」

希「雪穂ちゃんは将来有望やね〜」ワキワキ

にこ「やめなさい、雪穂怖がつてんでしょうが」

ヒデコ「雪穂！」

フミコミカ「雪穂ちゃん！」

—————

雪穂「————つ……!!」バツ！

あんじゅ（……来る……!）

雪穂（私のことを「お姉ちゃんの妹」じゃなく「高坂雪穂」として見てくれた）

雪穂（……嬉しかった）

雪穂　　ブワアッ！

あんじゅ（「ハンターズネット」……？）バツ！

角間「おおっと？ここで優木が距離をとりました！」

雪穂「逃がさない……!!」バツ！

あんじゅ「こ……のっ……!!」バツ！

海未「雪穂！」

にこ「今までのが設置型だとすればこれは……」

あんじゅ（追尾型捕縛ネット……!!）

雪穂「はああ!!」バツ！

【ハンターズホーネット!!】

パシユツ……!!

あんじゅ「うぐっ……!」ドサッ

ツバサ「あんじゅ！」

エレナ「……！」

角間「高坂止めたああ!!助っ人の意地を見せつけました!!」

ワアアアアアアアアアアアア!!!

穂乃果「雪穂やるう！」

あんじゅ「……やってくれるわね、妹ちゃん」

雪穂「高坂雪穂……です」

角間「さあ音の木坂一刻も早く追加点を狙いたいところ！」

雪穂（時間、ない、攻める、誰にパスを……）

タツタツタツ……パシッ!

雪穂「!!」

亜里沙「もらうよ雪穂！」トツ

雪穂「亜里沙!？」

ザツ……………!

亜里沙「……………はあああ!!!」バツ!

パキパキパキパキパキパキ……………

ツバサ(……………【氷の矢】)チラツ

D F I      コクツ!

パキパキパキ……………!

亜里沙「……………まだ……………もつと……………!」ググツ

雪穂「亜里沙!」

海未(……………性格もプレイスタイルもまるで違う二人、それでもなぜか無視できない、意

識し、刺激し合う)

海未(これを俗に……)

パキパキパキ……!!!

海未「ライバルと呼ぶのでしょうね」  
カキイン……!!!  
亜里沙「はあああ!!!」ドキュツ!!!

【氷の槍……!!】

ゴオオオオオオオオオオ  
角間「絢瀬亜里沙のロングパスだあああ  
!!!」  
D F 1「させないよー！」バツ！

クルクルクル  
ボフアアアアア  
D F 1「フレイムダンス！」  
ジュウウウウウ  
D F 1「なっ……ぐっ……!!」  
D F 1（威力が上がってる……!!）  
亜里沙「いつけえええ!!」  
ジュウウウウ……!!

ブワアツ………!

ゴオオオオオオオオオオオオ

DFI「きゃあああ!」ドサツ

亜里沙「よっし!」

角間「デیفエンスを貫いたああああ!!」

ワアアアアアアアアアアア

ツバサ（ここに来てまた……!!）

あんじゅ（どんだん後手に回っていく……）

希「あつはは……すっごいなあ……」

絵里真姫　　タツタツタツ

角間「絢瀬と西木野が走り込んでいます!!」

穂乃果「いっけー!」



パシッ

絵里「えっ……」

真姫「なっ……!!」

エレナ「……すまない、リスクを負わずに君たちに勝利しようというのが間違いだっ  
た」

ダッ!

角間「と、統堂だああ!!」

ワアアアアアアアアアア  
!!!!

エレナ           ダッ!

GK「エレナさん!」

MF3「えええ!!」

角間「統堂がペナルティエリアを飛び出し攻め上がっている!」

花陽「あ、あり得ないです……」ハア……ハア……

にこ「あの堅実な統堂エレナが……」

絵里「みんな戻って!!」

海未「にこ!ぼーっとしない!!ディフェンス!!御三方をマーク!!」

にこ「…！わかってるわよ！！」  
デイフェンス「はい！」

エレナ　　タツタツタツ

UTXメンバー　　ダツ！

花陽（他のメンバーにとっても予想外なことのはずなのにすぐ切り替えた…！）  
ツバサ（でもまだ完全には切り替えきれてない…）

花陽ツバサ（この勝負……）

（対応しきれなかった方が負ける……！！）

ことり 「はあお!!」ズザザッ!

エレナ 「…ふっ…!!」バッ!

エレナ 「……」チラッ

M F 2 「……!!」ギクッ

エレナ (まだ準備できていないか) トッ

海未 (…!!隙ができた…!!) ガッ!

エレナ 「…ぐっ…!!」チラッ

ツバサ コクッ

にこ 「……!!」

エレナ 「ツバサ!!」ドッ!

にこ 「させない…!!」ダッ!

角間 「矢澤読んでいたのかあ!?!絶好のタイミングだあ!!」

花陽（……無理だよにこちゃん……）

ギユウウウウン……!!

海未「……!ボールが曲がって……」

エレナ「来ると思っていたよ、君なら」

角間「おおっとこれは厳しい!ボールは矢澤から遠ざかるように弧を描いていく!!」  
にこ「ぐっ……!」タツタツタツ

花陽（前回と同じ……パスカットじゃ統堂さんには敵わな……）

にこ「なーんていうわけないでしょうが!!」ダツ!

エレナ「!?!」

花陽「にこちゃん!?!」ハア……ハア……

「ここに凜!!」

凜「にや!?!」

「ここに私を飛ばしなさい!!」

凜「……………?!……………!!」ハッ

凜「おまかせにや!」バツ!

花陽「あれは……………!!」ハア……………ハア……………

「ここにふつ……………!!」バツ!

凜「秘密兵器の……………特訓だにや……………」ハア

絵里「へー、なんて技なの?」

凜「かよちんロケット!」

穂乃果「おお……………!!カッコいい!」

「ここにどんな技でもいいけど怪我だけはしないようにしなさいよ」

花陽「にこちゃんに私たちの技を授けます……………!!」

にこ凜「ぬぐぐぐぐ……!!」グググッ……!

凜「【にこちゃんロケット】だにゃ!」

凜「いつけえええ!!!」ドッ!

にこ「にこおおおお!!!」ピューン!

【にこちゃんロケット】

エレナ「くそっ……!」

エレナ（小泉花陽は警戒していたが矢澤にこがあの技を使うのは想定していなかった……!）

ギユウウウウン!

ピューー!!

エレナ（追いつかれる……!!）

にこ（よし……!これなら……）バツ!

花陽「にこちゃん……!!」パアアアア……!

あんじゅ「ナイスパス☒」トツ

にこ「……なっ……」

エレナ「あんじゅ……!」

花陽「そんな……」

角間「これは統堂見事な策略!音の木坂の虚をついたあ!!」

にこ「クツソ……!」ゴロゴロ……ズザザ!

あんじゅ「……まったく……」チラッ

エレナ（助かった……）ゴメン

あんじゅ「ツバサ！」ドッ！

ツバサ「……やっぱりあなたが立ちふさがるとね」トッ

花陽「私だけじゃ……はあ、ないです……！」ハア……ハア……

雪穂　　ザッ！

ツバサ「あら奇遇ね」

【クリエイション！】

ズズズズ……！！

花陽「雪穂ちゃん！」

雪穂「花陽さん！」

ズズズズ……！！ガコンッ……！！



ツバサ「私も仲間がいるのよ」ニコッ

花陽「っ……」

角間「小泉と高坂を分断したあ!!綺羅と小泉のlonelyだあ!!」

ツバサ「いくわよ……!」ダッ!

花陽「……っはああ!!」バッ!

花陽【デیفエンスコマンド!!】

シュバッ!

ツバサ（……!!一瞬で懐に……）

花陽（まだ動ける……最後の一滴まで振り絞れ……!!）

ツバサ（警戒してたのに……動き出しが速すぎる）

花陽（綺羅さん反応しきれてない……）

ツバサ（重心を移した瞬間に……!バランスが……）グラッ……!

花陽（取った……!!）バッ!

ツバサ（取られ……!!）フツ……!

ツバサ「ああああ!!」クルンッ!

花陽「はえ……!!」スカッ……!

花陽「うぶっ……!!」ドサッ

角間「綺羅抜いたああ!!間一髪!!」

DF2「よっしやあ!!」

花陽（あの体勢から無理やり重心を引き抜いた……!?!）ゼエ……ゼエ……

ツバサ「危……ないところ、だったわ……」ハア……ハア……

ツバサ（あの一瞬でここまで読み込まれるなんて……）

花陽「人間技じゃ……ない……」ハア……ハア……

ツバサ「……あなたもね」ダッ!

角間「ゴール前はガラ空き、完全にフリーだああ!!」

穂乃果「……！」グッ

タツタツタツ

ズシユウウウ……！！

ポフォオオオオオオオオオオオオオオオオ  
!!!!!!

角間「UTX【ザ・フェニックス】の体勢!!勝ち越しを決めるかあ!?!」

穂乃果（絶対決めさせない……!!）グッ

ツバサ「……試合の中で成長する」

穂乃果「……？」

ツバサ「あなたたちからは学ぶことが多いわね」ニコッ

穂乃果「……っ……!!」ゾクッ……!

ツバサ「アフロデイ!!」

アフロデイ「ふふ、本当に人使いが荒い人達だ」タッタッタツ  
穂乃果「まさか……!!」

角間「アフロデイが走り込んでいます!! 一体……」

アフロデイ　　バサアツ……!!

ツバサ「いくわよ!!」グツ……

エレナあんじゅ「おお!!」グツ……

ダンツ……!!

雪穂「嫌……嫌……!!」

ことり「……待つてよ」

ツバサエレナあんじゅアフロデイ「はあああああ  
!!!!!!」バツ!

ドキュツ  
!!!!!!

【ゴツド・フェニックス!!!】

ゴオオオオオオオオオオオオ  
!!!!!!

ゴオオオオオオオオオオオオ  
!!!!!!

角間「残り時間はもう残っていません!!音の木坂万事休すかああ!?!」

音の木坂「……………つ……………」

海未「何ですか……これ……」

花陽「こんなの、止められるわけ……」

穂乃果「さっ………こおおおおおおい  
!!!!!!」バツ!

ツバサ「……!」

真姫「穂乃果……」

ことり「穂乃果ちゃん……」

穂乃果「勝利の女神は……!!」

穂乃果「最後まで諦めなかった方に笑うんだよ!!」グッ

ツバサ「……面白いじゃない」ニツ  
海未（……そうでした、あなたはそういう人でしたね）

真姫「シユートへの流れですが……絶対の前提条件は敵のシユートを止めること  
です」

穂乃果「！」

凜「あんなシユートを……？」

ことり「いくらなんでもそれは……」

穂乃果「無理？」

ことり「い、いや！そういうことじゃ……」

海未「できますか？」

穂乃果「……確証はないよ、でも……」グツ

穂乃果「止めなきや気が済まない！」

――

海未（どれほど絶望的な状況でも、あなたは私たちに勇気をくれた）

穂乃果「……………」ズキズキ

穂乃果「それは任せて」

穂乃果「穂乃果が止めるから！」

海未「穂乃果……………」

穂乃果「フアイトだよ！」グッ

海未（ならば私たちのすべきことは一つ……………」スウ……………」

海未「お願いします!!! 穂乃果!!!」



海未（あなたに全てを託します）

にこ絵里真姫「穂乃果!!!」

凜花陽希ことり「穂乃果ちゃん!!」

雪穂亜里沙「お姉ちゃん!!」「穂乃果さん!!」

穂乃果「……!」ブルッ……!

穂乃果（この感じ……懐かしい……）

穂乃果（初めて「マシン・ザ・ハンド」を出した時みたいな……）

穂乃果「……不思議な感じ……」

穂乃果ママ「……」

ゴオオオオオオオオオオ  
!!!!!!

穂乃果「……………」

穂乃果ママ「足りない最後のピース……」

穂乃果（なんとなくわかるんだ）

穂乃果（きつと答えは……そう遠くないところにあるって）

トブン……

海未『……ようやく気づきましたか』

穂乃果「う、海未ちゃん!」

海未『はい、私です』ニコッ

穂乃果「なんで……え?」

凜『凜達もいるにやー!』

穂乃果「みんなも……どうして?」

海未『パズルのイメージの延長線上のようなもの……ですかね』

穂乃果「??よくわかんない……」

海未『難しく考えず、いつものように、私たちの力を使ってください』スツ

パチッ

穂乃果「……!」

ことり『ことりもー!』スツ

パチッ

花陽『ご、ごめんなさい……！花陽のはみんなよりとっても小さいんです……』

海未『しかし、その形に合うのは花陽だけです。引け目を感じることはありません』

花陽『う……うん！』スツ

パチッ

希『希パワーちゅーにゅー！はーいプシユ！』

パチッ

絵里『全く希つたら……』

パチッ

にこ『にこの力貸してあげるんだからありがたく思いなさいよ』

パチッ

真姫『ナニソレ、イミワカンナイ』

パチッ

凜『にこちゃん今日も絶好調だね』

パチッ

穂乃果「……………」グッ

角間「守護神高坂の代名詞【マシン・ザ・ハンド】VS

UTX最高の必殺技【ゴッ

ド・フェニックス】!!」

角間「一体どちらに軍配が上がるのでしょうかあ!!!」

海未「穂乃果!!」

穂乃果「……………」

この瞬間、穂乃果の脳内にある映像が流れた

UTXの必殺技に手も足も出ず吹き飛ばされた、自分の未来の姿が

穂乃果「……………」みんな……………」ありがと……………」

穂乃果「でもほら、あと一つ……………」わかんないんだ」

みんな「……………」」

穂乃果 「みんなが力を貸してくれてもこれじゃ……」

穂乃果 「やっぱり穂乃果、リーダーなのに情けないね」アハハ……

海未 『……………一度……………リーダーということから離れてみてはどうですか？』

穂乃果 「へ？」

海未 『リーダーのあなたは素晴らしいと思います』

海未 『チームのために、みんなのために戦う姿はあなたがなんと言おうと立派なリーダーです』

穂乃果 「海未ちゃん……」

海未 『しかし私は……』

海未『あなた自身、「高坂穂乃果」としての気持ちが聞きたいです』  
穂乃果「私自身……?」

海未『リーダーでもGKでもないあなたに聞きます』

海未『あなたはこの試合、どうしたいのですか?』

ゴオオオオオオオオオオオオオオオオ  
監督「!!!!」

監督「……」

監督（…お前が初めて俺に見せた〔マジンザハンド〕）

監督（仲間がいない中、お前は一人で〔マジンザハンド〕を出した）

監督（ピースは揃っているんだ、気づいていないだけで）

穂乃果「……勝ちたいよ」

海未『それは……「リーダーとして」ですか?』

穂乃果「それは……」

海未『例えばですが』

海未『あなたをリーダーから解任して私がリーダーになったとしましょう』

穂乃果「ええ!?!」

海未『仮にですよおバカ』

穂乃果「うう……」

海未『……リーダーを解任されたあなたは、もう勝利を目指さないのですか?』

穂乃果「へ?」

海未『そうでしょうか?リーダーだからチームのために勝ちたい、と言うのであれば』

海未『リーダーではなくなったあなたはもう勝ちなどどうでも……』



穂乃果「そんな訳ない!!」

海未『…………』

グググッ……!

穂乃果「勝ちたいに決まってるよ!」

ググググッ……!

穂乃果「リーダーなんて関係なく…………」

グググググッ……!

穂乃果「「穂乃果」がこの試合に勝ちたいんだよ!!」

……ポソツ……!

穂乃果「……これ……」

海未「……ふふ、それがあなたのこと……最後のピースですか」

穂乃果「……これが……穂乃果のこと……」

海未「リーダーだから、チームのために、誰かのために、立派だと思います。すごく」  
海未「責任感の強いあなただから、普段はだらしがなくとも私はあなたを信頼してききました」

穂乃果「海未ちゃん……」

海未「しかし、今はそんなものは余計なものでしかありません」

海未「様々な雑念、責任、プライド、余計なものをそぎ落とし、最後に残った純粹な想い」

海未「それこそがあなたという最後のピースです」

穂乃果「……」スツ

キラキラ……!



海未『あなたのワガママを想いの限りぶつけてください』  
パチツ……！

穂乃果「……………マジン・ザ・ハンド……………」

ズズズズズズ……………!!

穂乃果ママ「……………！」ゾワツ……！

穂乃果  
【焔  
(ホムラ)  
】

試合終了

穂乃果【焔（ホムラ）】

ボフオオオオオオオオオオオオオオオオオオ  
ジワアア……………!!!!!!

絵里「……………!穂乃果のマジンが……………」  
真姫「紅に染まっっていく……………」

穂乃果 ニツ  
ツバサ「……………」ゾクツ……………!

M F l 「……………」

M F l 「彼女は一体……何者なのですか？」

海未 「……彼女は高坂穂乃果」

海未 「私たちの太陽ですよ」

ボフォオオオオオオオオオオオオオオオオオオ!!!

ツバサ 「……つ……今更驚かないわよ穂乃果さん……！」

エレナ 「ああ……！望むところだ!!」

あんじゅ 「勝つのは私たちよ!!」

アフロディ 「ふふ……」





穂乃果「勝ちたいだけ!!」グググッ!!  
ブチブチッ:!!

ハラリ……

凜「……! テーピングが……」

M F 3 「いけるっす!!!」

D F 2 「入ってまえ!!!」

ツバサエレナあんじゅ「いけええ!!!」

穂乃果(……全力でぶつかってくる好敵手「ライバル」がいる)

ギユルルルルルルルルルル  
海未「………っ………!!」

海未「穂乃果あ!!!」

ことり「穂乃果ちゃん!!!」

「「「穂乃果(ちゃん)!!!」」」

穂乃果「……………」グググッ…!!

ズザザッ!

穂乃果(……………応援してくれる仲間がいる)

雪穂「お姉ちゃん!!」

ガンバレー!!イケルゾー!!

穂乃果「……………」ズザザッ……………!!

穂乃果(……………ああ、穂乃果)グッ…!

ギ  
ユ  
ル  
ル  
ル  
ル  
ル  
!!!

穂乃果「幸せだなあ……」ポツリ

ギ  
ユ  
ル  
ル  
ル  
ル  
ル  
!!!!

ギユルルル……!!!

シユルルルル……

ルルル……

ルル……

パシツ……

角間「……………」

音の木坂「……………」

UTX「……………」

観客「……………」止めた

角間「……………」ハッ

角間「止まったああああ  
 ワアアアアアアアアア  
 音の木坂「よおおおっし  
 UTX「はああああああ  
 「!!?!!!!!!!!!!!!!!」

エレナ「~~~~!!」ガシガシ……!  
 あんじゅ「うそ、でしょ……」ゼエ……ゼエ……  
 ツバサ「……?」チラツ  
 ツバサ「……!!エレナ!」ハア……ハア……



ツバサ「戻って!! ディフェンス!!」ゼエ……ゼエ……  
エレナ「くっ……!」ダッ!

M F 3「早く戻るっす!!」ダッ!

M F 1「わかってますよ!!」ダッ!

角間「高坂ボールを持って駆け上がる!! 両チーム共全員サッカーで勝ちを狙います!!」

試合終了間際なら、時間を使い切ってシュートを打つのがセオリー  
しかし、忘れていた

ツバサ「……はあ……はあ……」タッタッタツ

ツバサ「……ふふ」ハア……ハア……

いっぶりだろうか

試合時間を気にする暇がないほど「今」に熱中したのは



ツバサ「楽しいわね、あんじゅ」ハア……ハア……  
あんじゅ「……否定はしない」ハア……ハア……

角間「ここで残り時間終了!! 真正銘ラストアクションだああ!!」

絵里「穂乃果! こっちに……」

にこ「待つて!」バツ!

絵里「にこ?」

にこ「……やらせてあげましょう」

絵里「?」

穂乃果「付いてきてる!? 二人とも!!」タッタッタツ

ほのか『わー!』タッタッタツ

海未「お待ちなさい穂乃果!」タッタッタツ

うみ『ま、まっってくださいー!』タツタツタツ  
ことり「二人とも元気だよ……」タツタツタツ  
ことり『はいよふたりともー!』タツタツタツ

M F 2 「いかせてたまるかよ!!」ザツ

角間「デイフェンスが立ちふさがりま……」

ドツ!トツ……クルツ!ザザツ……ダツ!

トツ……!

M F 2 「はあ!」ガクツ……!

穂乃果「止まるなー!いくぞー!」タツタツタツ

海未ことり「おー!」タツタツタツ

角間「こ、これは鮮やかな……連携プレイ……?」

エレナ「……はは」

あんじゅ「まるで……公園で遊んでるみたい……」  
ツバサ「楽しそう……」フフ

ほのか『おそいよふたりとも!』

うみ『まけませんー!』

ことり『ふええ……うみちゃんまでえ……』

ドツ……! ザザツ　クルツ……! トトツ

D F 2 「なんつ……やこいつら……!?!」ガクツ!

M F 3 「くっ……!」ガクツ!

穂乃果「まだまだー!」タツタツタツ

海未ことり「おー!!!」タッタッタツ

凜「あ、あんな海未ちゃん初めて見た……」

花陽「はっちゃけてるね……」アハハ……

角間「独特なりズムで敵を寄せ付けない!!高坂、園田、南、共に敵陣へ切り込んでいきます!!」

角間「息のあつたコンビネーションでの的を絞らせません!!」

真姫「多分あの3人の頭には、止められたら終わりなんてこと、これっぽっちもないんでしょうね」

希「すっごい……楽しそう」ふふ

穂乃果「はあ……はあ……」タッタッタツ

穂乃果（誰かに言っても、信じてもらえないだろうなあ……）

海未「もうバテているのですか穂乃果!」タッタッタツ

穂乃果「ま、まだまだあ!!」タッタッタツ

穂乃果（一年生の頃は部員3人しかいなかったのに……）

ことり「海未ちゃん元気だね……」タツタツタツ

穂乃果「ね……」タツタツタツ

穂乃果（今はこの大舞台であるUTXと競い合ってるなんて）

|||||

穂乃果「目指せ！フットボールフロンティア優勝!!」

海未ことり「おー!!」

|||||

あの日見た夢をずっと追いかけて来た

先生「サッカー部？ないよ」

穂乃果「ええええええ?!?!」

先生「去年まではあつたんだけどね」

穂乃果「それじゃあ……また作ります!!」

最初は小さな物語だった

エレナ「……っ来い!!高坂穂乃果!!」ザッ!

角間「統堂<sup>トウドウ</sup>ゴールまで戻りきったああ!!」

M F 3 「ギリギリ……間に合ったつすね……!」ハア……ハア……

穂乃果「はあ……!はあ……!」ザッ!



希「え……ええ!？」

穂乃果「サッカーは……もつと、こう……心の底から熱くなれるものなんです」

穂乃果「どうして杉森さんたちは、ゴールを決めても笑顔にならないんですか」  
杉森「そんなものはサッカーに必要ないだろ」

穂乃果「……!？」

漫画家「どんな手を使っても……僕たちは勝たなければいけないんだ!!」

ノベル「勝てばいいのだよ勝てば!!」

ことり「月に変わって、お仕置きです!」

「グフウ……!!」



!!  
亜里沙（これが……お姉ちゃんを越えるために編み出した、私だけの必殺シユート……）

亜里沙【パンサーブリザード!!!】

ガッ!

希「エリチあかん！」バツ

絵理「あなたは……それを知ってて亜里沙を出したの!？」ググッ

ツバサ「……ツ！あなたに……勝ちたい！彼女はそう言ってたわ」グクグッ

絵理「……はい？」グクグッ

希「エリチ!!」ググッ!

霧隠「……すまなかつ……」

ゴチンツ!!

霧隠「す、すみませんでしたああ!!」

海未「誰も怪我がなくてよかったですよ」

霧隠「俺たちの分も、勝ってくれよ」

穂乃果「任せてよ!」

海未「私たちはそんなに頼りないですか?」

凜「え……?」

海未「たった一試合を任せられないほど私たちが頼りないですか?」

凜「ち、違うの:!!そうじゃなくて……」

海未「なにが違うのですか?」

凜「だから……えっと……」

海未「今なら別に怒りませんから正直に言ってください」

凜「ち、違うって……」

海未「凜!!」

凜「違うんだってば!!!!」

女性「無理をすれば小泉さんも星空さんも試合に出られるかもしれない」  
にこ「!」

女性「でもそのせいで体に障害が残ってしまった時、誰が責任を取るの?」

女性「誰が一番悲しむの?」

にこ「……………っ」

女性「私が担当になったからには、そんな子を絶対出させはしない」

友「これが僕たちの…!!」

クルクルクル……………スタツ!!

【トライアングルゼエエツト!!!】

にこ「その頃はこんなに大ごと……学校のみんなから応援されるなんてこれっぽっちも思ってたよ」

にこ「あり得なかった」

穂乃果「……」

にこ「私たちだけで始まって、誰の記憶にも残らないまま終わって行くんだろうなっ  
て思ってた」

にこ「女子校でサッカーなんて流行らないしね」フフ

穂乃果「……ふふ、そうだね」クスツ

—————

穂乃果「……そっか」

穂乃果（あの時は茶化しちゃったけど、今ならわかるよにこちゃん）

—————

『思いつきり暴れてこい!!』

ワアアアアアアアアアア  
!!!!!!

おぼちゃん「もうすぐ決勝戦でしょう？頑張んなよ！」

おつちゃん「サッカー頑張ってるんだってな、商店街じゃその話で持ちきりだよ！」

おつちゃん「商店街のジジババ集めてみんなで行ってやる！」

「「頑張れー!」」

音の木坂ー！！がんばれー！！

生徒会長ー！！

ワーーーーー！！！！

穂乃果「すつご……！」

おっちゃん「穂乃果ちゃん！！がんばれよお！！」

おばちゃん「負けんじやないよ！！」

穂乃果「商店街のみんなも！」

穂乃果「みんなー！！！！応援よろしくう！！！」

ワーーーーー！！！！

にこ「ああ……これはもうにこ達だけの物語じやないんだって」

穂乃果「……………」

にこ「このチームも、学校のみんなも、先生も、監督も……」  
にこ「一人残らず……この物語の一部なんだって……」

――――

穂乃果（……これは……みんなで叶える物語）

穂乃果（……みんなで叶えてきた物語） チラッ

海未ことり「……」 コクッ

にこ（……色々な人に支えられて、色々な人のおかげでここまで来た）

穂乃果（応援してくれる人、冷やかす人、味方、敵……）

にこ（楽しかったこと、腹が立ったこと、悔しかったこと、不安だったこと）

穂乃果（全部全部……糧になってる）

にこ（私たちだけじゃここまで来れなかった）

にこ(……でも……)

にこ「でもね穂乃果」

—————

海未「うう……クモさん……」

穂乃果「よし！ 私たちの伝説はここから始まるんだ!!」

穂乃果「音の木坂サッカー部！ 始動!!」

ことり「おー!」

海未「おおお……」



にこ「……ぼつかみたい」

にこ「あんたらがいなかったら、何も始まってなんかいなかった」

角間「残すは統堂だけだあお!!」

穂乃果（これは……）

にこ（……っ……!）

スウ………!

にこ「あんた達が始めた物語よ!! あんたらで決着つけなさい!!」

穂乃果「……………おう!!」グッ

ギユオオオオオオオ……………!!!

海未ことり「…っ……………!」ゾワゾワッ!

海未ことり（メンバーの……………みんなの気持ちの一つに集まって……………）

海未（これが……………穂乃果がいつも感じている世界）

穂乃果「……………海未ちゃん」

海未「?」

穂乃果「あの時穂乃果を真剣に叱ってくれてありがとう」

海未「穂乃果……」

穂乃果「ことりちゃん、今日まで穂乃果の無茶にずっとついてきてくれてありがとう」  
ことり「穂乃果ちゃん……」

穂乃果「……叶えよう、私たちの……みんなの夢を!!」

海未ことり「ええ「うん」！」グッ!

ギユオオオオオオオアアアアアア  
!!!!!!

花陽「こ、小泉花陽です」

希「ウチたちも……」

絵里「チームに入れて!」

「ここにあんたたち面白い子捕まえたわね」  
「ここにいいわ、入ってあげる」

真姫「しよ、しよがないから入ってあげるのよ!!」

真姫「勘違いしないで!!」クルクル

凛「これからかける迷惑は自分で取り戻すから……」  
凛「メンバーの一人にしてください…!!」バツ

—————

グッ…

ダンッ…!!!

—————

雪穂「姉がいつもお世話になってます！」

雪穂「助っ人に入らせていただき、妹の高坂雪穂です！」

監督「……絢瀬亜里沙は、助っ人としてチームに入ってもらおう」

花陽「ルール上は問題ないので大丈夫です！」パラパラ

亜里沙「ツバサさんの勧めで来たんだよ！」

フミコ「試合には出なくても何かサポートしたいなって」

ヒデコ「マネージャーみたいなの？」

ミカ「怪我した時用の控えとか！」

コオオオオオオオオオオオ………  
!!!!

ことり「それにしても……」

穂乃果海未「？」

ことり「最近の練習ハードだよねえええ……」ガクツ

海未「しかし、確実に力がついているのがわかります、この調子ですよ！」

ことり「足とか腕には生傷が絶えないし筋肉もついて……」

ことり「もっと女子高生っぽいこともしたいよ……」

海未「例えばなんですか？」

ことり「ー……」

海未「……ー……！」

穂乃果「……」

サアアアアアア……！

ことり「……ねえ」

ことり「穂乃果ちゃんはどっ思う？」

穂乃果「えく？穂乃果はー……」

穂乃果「……」

丨丨丨丨丨丨丨丨丨丨丨丨丨丨丨丨丨丨丨丨丨丨丨

にこ「……………いけ」

おっちゃんお婆ちゃん「いけ……………!」

音の木坂「いけええええ  
!!!!」

穂乃果「……………結構楽しいよ」ニッ





ツバサ「ほら、そんなに不安そうな顔しないの」ザッ

あんじゆ「ポーカーフェイスはどこにいったのよ」ザッ

エレナ「二人とも……」

ツバサ「……あなたって全然人に頼らないわよね」

エレナ「……」

ツバサ「こういう時ぐらい頼りなさいよ、友達でしょ」ザッ

エレナ「！」

あんじゆ「全く、世話がやけるんだから」ザッ

エレナ（——ああ、そうか……）

—————

いけー！パスパス！

えれな「……」ポツーン

しゅーと！

えれな「あ……！」

パシッ

えれな（…と、とれた…!）

はやくボールだして!

えれな「え…あ、うん…」

ドツ

—————

エレナ（私はただ…「友達と」サッカーがしたかったんだな…）

ツバサ「準備はいい?エレナ」

あんじゆ「ぼーっとしてたら置いてくわよ」

エレナ「何か手があるのか?」

ツバサ「いや?」

あんじゆ「なんとかなるんじゃない?」

エレナ「…はっ、なんだそれ」ニツ

G K「エレナさん!!」

エレナ「……信じてるさ、二人とも」グッ

ゴゴゴゴゴゴ………!!!

穂乃果「……！」

海未「そう簡単には終わらせてくれませんか……！」  
ことり「………負けない！」

エレナツバサあんじゅ「はああああ!!!」

ガコンツ………!

エレナツバサあんじゅ【王家の神殿!!】



ツバサ（……中学の頃、私たちはあの人（前監督）に拾われた）

「お前の才能を俺が引き出してやる」

ツバサ「私の……才能？」

「おい、そこのお前」

あんじゆ「……スカウトですか？それなら……」

「スカウトだ、サッカーのな」

あんじゆ「……はい？」

「お前、キーパー楽しいか？」

エレナ「……知らない大人とは話さないようにしてるんだ」

「FWやってみないか？」

エレナ「……」

あんじゅ（言われた通り、私たち三人は天才と言われるほどに成長した）

「お前たちは俺の最高傑作だ」

エレナ（私たちは、私たちこそが最強と疑わなかった）

ツバサ「彼女たちが現れるまでは」

「デスゾーン!!」

穂乃果「はあああ!!!」バツ!

ギョルルルル!!!

シユウウウウ……!

ツバサ「……!」

ツバサ「……ねえ二人とも」ググツ……!  
あんじゅ「っ……あ?」プルプル



エレナ「……………つなんだ…」ググツ…!!  
ツバサ「……………」

ツバサ「私、あなたたちとチームメイトでよかったわ」  
あんじゅエレナ「……………は」  
ツバサ「楽しかった」ニツ

あんじゅ「……………」ググツ  
エレナ「……………」ググツ  
ツバサ「……………」ググツ

エレナ  
あんじゅ

フツ

ハア……

バチイツ……!!



角間「……………き」

角間「決まったああああ!!!!」  
ワアアアアアアアアアア!!!!  
UTX「……………」  
音の木坂「……………」

ピッ、ピッ、ピーーーーー!!!!

角間「ここで試合終了のホイッスル!!」

角間「長い長い戦いを制し、2年連続王者の座に君臨するUTX高校を破ったのは!!」  
角間「今大会本選初出場の……………」

角間「音の木坂学院だああああ!!!」

ワアアアアアアアアアア!!!!

ヨクヤッター!!オツカレサマー!!

パチパチパチ……………!

穂乃果「……………」ハア…ハア…  
ツバサ「……………」ハア…ハア…  
スタ…スタ…スタ…

ガシツ…！  
海未エレナ「……………」ガシツ…！  
ことりあんじゅ「……………」ガシツ…！

ハア…ハア…  
テクテク…

MF1 「ツバサさん……」

ツバサ 「……みんな、ごめんなさい」

あんじゅ 「負けちゃった」 テヘペロッ

エレナ 「……」

MF3 「……終わっちゃったんすね」

MF1 「……今の一年生に、優勝をさせてあげたかったですね」

DF2 「ツバサさんたち抜けるから来年からはきつなるぞ」 ニヒヒ

MF2 「そういうこつた、ちんちくりん」 ポンッ

DF1 「……なんで……」

DF1 「どうしてみんな悔しがらないんですか!!」

みんな 「……」

DF1 「強がっちゃってばつかみたい!!悔しいなら悔しいって言えばいいのに!!!」

MF2 「……」

DF1 「来年だとか、これからなんてどうでもいいんですよ!! 私は、先輩たちと……!!!」ジワアツ……!!

ギユツ……!

DF1 「うろう……!」ポロポロ

MF2 「……やめとけ馬鹿」ギユツ

DF2 「……三連覇を逃した……とか、そんなやなくて……!」

MF3 「ああ、「終わり」なんだ、って!」

MF1 「……楽しかったですよね!」

MF3 「……はい!」

MF1 「もつと……みんなで……!」

MF3 「……そのくだり、前も……したじやないっすか!」

MF1 「2回目は……寒いですか?」ズズツ……

MF3 「……はい、寒いつす!」ズズツ……



MF1. 3 「あっはは……！」 ポロポロ  
タツタツタツ

エレナ 「！」

GK 「……エレナ、さん」 ハア……ハア……

エレナ 「……すまなかった、君の努力を無駄にってしまった」

GK 「エレナさんがGKできるなら、もつと……もつと教えてもらいたいことがたくさんありました」

エレナ 「……」

GK 「もつと早く……知ってれば……！」 ジワア……！

エレナ 「……君はわたしにないものをたくさん持つてるよ」

GK 「でも……!!」 バツ！

エレナ 「いなくなるやつの中なんて追いかけるな」

エレナ 「これからのUTXのゴールは……」

エレナ 「……」

エレナ「これからも、UTXのゴールを頼む」  
GK「……っ…!!」ブワアッ…!

穂乃果「……はあ…はあ…」 テクテク

穂乃果「今年の入部は私たちだけかあ…」

海未「仕方ありませんよ、来年期待しましょう」

海未「……」ハア…ハア…

穂乃果「海未ちゃん！今年は!?!」ガラッ…!

海未「……0人……ですかね」

ことり「……ま、まだ迷ってるのかも……」

海未「一応夕方まで待ってみましょうか」

ことり「……」ハア…ハア…

カー、カー

ことり「……来ないね」

穂乃果「……」

海未「……今年もまた、3人ですかね」

「おーいー！」

穂乃果海未ことり「！」

凜「こつちこつち！」ブンブン！

穂乃果「……」

誰に言っても、誰も信じないだろう  
一年前は3人だった部員が

にこ絵里希花陽真姫凜雪穂亜里沙  
「お疲れ様「です」！」「ニッ

これほど素晴らしい仲間  
に囲まれているということ  
を穂乃果「っ……………」  
ジワァ……………」  
海未「……………」グッ

ことり「ううう……」ポロポロ

ワーワーキヤーキヤー！

団体から抜け出し感動に浸る人物が一人

にこ「……はぁー……」

プルプル……！

にこ（……にこ……にこ……にこ……）やったのよね。夢じゃ……ないのよね（ムニー

期待に胸を膨らまし入部したサッカー部

待っていたのは苦しい現実

仲間に出ていかれ、一人途方にくれた一年生

意地を張り、しかし諦めきれなかった二年生

もう一度、仲間を信じようと駆け出した三年生

その先に待っていたのは……

ワアアアアアアアアアア

音の木坂ー！！！！優勝おめでとー！！！！

ピューーイー！！！！イーイー！！！！

にこ「………っ……」ポロポロ

穂乃果「ありがとー！」ブンブン！

凜「ありがとにやー！」ブンブン！

真姫「どうしてあの二人あんなに元気なのよ……」

角間「えー、これにてフットボールフロンティアを終了したいと思います!!」





最終兼コラボ？

最終話兼コラボで書かせていただくはずだったもの①

このお話は「私の作品の最終話と合作を兼ねたもの」です

相手方は世界編を完結しておりますがこのお話では世界編途中までの浦の星メンバー＋セイントスノーが戦います

あちら物語が進むのに合わせて加筆していたので少しちぐはぐしてるかも  
大会後から試合まではまだ書けてなかったのでざっくり下書きのやつを…

—————

大会後

絵里一時ロシア帰国

絵里日本に帰ってきてからにこと真姫と新技練習

にこ「噂話聞く「音の木坂の悪魔が昔いたんだって」  
「へえ……」の後特売が！って走っていく

別シーン

何かしら、優勝もできた、信頼できる仲間もできた、これ以上のことは何も無いはず  
なのに……

このやり残した感じは……

海末 居合

ことり ことりは最近可愛いもの集めにハマっているようですね

凜 走る

花陽 他校分析、中学生も

希 神社

穂乃果 穂乃果ママ「あなた練習は？」

ほ「今日はお休みだもーん！」

マ「休みの日でも体ぐらいは動かしておくものよ」

ほ「ぶう……」ムクッ

マ「全く……そんなんじゃない【マジン・ザ・ハンド】を完成させるなんて出来ないわよ？」

ほ「はい」

マ「おやつはお饅頭でいい？」

ほ「えー…昨日もお饅頭だったじゃ…」

ほ「今なんていった？」

マ「へ？だから、おやつはお饅頭で…」

ほ「そうじゃなくて!!」

マ「なに、あなたまさかあれで完成だと思ってたの？」

ほ「違うの!？」

マ「わたしに『マジン・ザ・ハンド』を教えてくれた人は…本物はあんなものじゃなかったわよ」

穂乃果「そんな…」

マ「世界レベルの人でね、よくサッカーやろうぜ！つて引つ張り回されて…懐かしいわね」

穂乃果「…お母さんの必殺技は？」

マ「未完成って呼ぶのおこがましいレベルね」

穂乃果　　ガクッ：!!

マ「わたしにはあそこまでが限界だったけど、あなたは【焔】にまで行き着いた」

マ「期待してるわよ、リーダー♪」ポン

ほ「帰りたい…」

マ「こたつに入りながらなにをいう」

いきなり試合シーン

こちらは音の木坂とA―RISE

相手方は浦の星メンバー（世界編途中）＋セイントスノーです

角間「さあ試合開始です!!」

ピーーーーーー

ドッ!

ツバサ「絢瀬さん!」

絵里「ええ、任せてくだ……さい……?」トツ

チリッ……!

絵里「なに…この熱気…？」

真姫「あれは……！」

花丸「ルビイちゃん……」

ボフアアアアアアアアア!!!

ルビイ【Awaken the power!!】ググツ…!

花丸「気合い入りすぎずらああ!!」ゴーン!

理亜「何言ってるのよ、あれぐらい当然」

善子「当然とは」

千歌「あつはは!! いけいけー!」

絵里「…っ…!!」

チリイツ…!!

この距離でも感じるほどの熱量

絵里は文字通り、ルビイの実力を肌で感じていた

絵里（この迫力…ツバサさんより…!!）トツ

ツバサ「絢瀬さん！一度戻して…」

ルビイ「遅い」

ガッ!!

絵里「しまっ……!」ガクッ

角間「絢瀬ボールを奪われたあ!!黒澤ルビイの動きに全くついていけません!!」  
にこ「はっ……!やるじゃない!」ブルッ……!

海未「あんじゅ!希!」

あんじゅ「止めるわよ希!」ダッ!

希「まかせてよあんちゃん!」ダッ!

理亜「ルビイ!!」

ルビイ「うん!」ググッ!

ルビイはしゃがんだ状態で足に力を込める

あの体勢は……



凜 「ロケットスタート……！」

今にも倒れそうになりながら

ルビィ 「よーい………」 ジリッ……！

グラアツ……！

倒れそうに………

グググッ……！！

倒れ

ルビィ「ド

フツ

あんじゅ「え？」

希「消え……！」

ルビィ「ン!!!!!!」

花陽「ふぐわっ……!!」ズザザ!!!

ルビィ「……!?!」キキキツ……!!

穂乃果「花陽ちゃん！」

凜「かよちゃん!!」

善子「はあ!？」

果南「ルビィに追いついた!？」

ダイヤ「いえ、ルビィが動き出す前に……」

ダイヤ（あの状態のルビィを読み切るとは……何という予測精度……）

花陽「ここで止めるよ!」ジリッ

ルビィ「……ふふ」ニッ

花陽「……!？」

この状況は予想外のはず、なぜ笑っているのだろうか……？

エレナ「花陽!!そっちじゃない!!」

花陽「え?」

ルビィ「ルビィがボールを持つてるって、いつから勘違いしてたの?」

花陽「…!!ボールは…」

テンテンテン……

角間「黒澤ドリブルの瞬間にボールをさらに前線へと蹴り出してたあ!!」

海未「誰もいません、パスミスです！取ってください!!」

凜「まかせて！」ダッ！

あまりにも無謀な位置へのパス

誰も追いつけるはずがなかった

ルビィ「……………間に合うよね」

タッタッタッ!!

………  
そう

ルビィ「理亜ちゃん♪」  
ただ1人を除いて

パキパキパキ  
!!!!

理亜「当然!!」ダツ!!!

【A w a k e n   t h e   p o w e r !!】  
凜「!?…速っ…!」

花陽「でもギリギリ凜ちゃんが…」

理亜「何か言った？」

シユバツ!!

理亜「…っし！」トツ

角間「鹿角妹が星空を追い抜きボールを受け取ったあ!!」

真姫「速さで凜に対抗するなんて…とんでもないわね」

エレナ「マークを緩めるな!!」

花陽「あっ…!」

ルビィ ダツ!!!

花陽が理亜に気を取られた隙にマークを外しゴールへ向かう

角間「[Awaken the power]のオーラを纏った黒澤と鹿角がゴールへと駆けていく!!」

花陽「ごめん穂乃果ちゃん!!」

真姫「……ねえ絵里」

絵里「なに真姫」

真姫「………すぐく嫌な予感がするんだけど」

絵里「奇遇ね、私もよ」

ルビィ「いくよ理亜ちゃん！」バツ！

理亜「言われなくても!!」バツ！

穂乃果「………！」グッ

ブワアアアアアアア  
ブワアアアアアアア  
!!!!!!!

フワツ…

ドキュツ!!

ルビイ理亜〔クロスファイア!!〕  
ゴオオオオオオオオオオオオ  
!!!!!!

絵里真姫「やっぱりーー!!!」  
ゴオオオオオオオオオオオオ  
!!!!!!



角間「黒澤と鹿角の「クロスファイア」だああ!!世界大会でもその実力を示したこの必殺技を、高坂止められるかあ!？」

ゴオオオオオオオオオオオオオオオオオオ!!!

海未「穂乃果!!」

にこ「止めちやいなさい!!」

穂乃果「もちろん!」グッ

ボフオオオオオオオオオオオ!!!

迫り来る炎を前に穂乃果のマジンも炎を纏う

F F 決勝で行き着いた【マジン・ザ・ハンド】の先の自分だけの必殺技

最高の挨拶には最高の必殺技で答える

角間「こ、これはあ!?!炎対炎、どちらの炎が勝負を制することになるのでしょうかあ

!!」

穂乃果「はあああ!!」バツ!

穂乃果【マジン・ザ・ハンド】焰（ホムラ）”!!】

ギョルルルルルルルル

穂乃果「……っ……!?……つぐ……!!」ズズツ

ズザザツ!!

あんじゅ「嘘でしょ……」

ツバサ「これは……少し驚いたわね」

UTXの捨て身の必殺技【ゴッド・フェニックス】すら止めた穂乃果の必殺技は……

穂乃果「うわああ!!!」ブワアツ!!

ドサツ…!

ドシユルルルルル!!!!

いとも簡単に破られてしまった

ルビィ「炎対決…」スタツ!

ルビィ「ルビィ達の勝ち!!」ブイツ!

理亜「ふんっ」

角間「き、決まったあああ!!!」

角間「先制点を決めたのはジャパンの誇るストライカー黒澤と鹿角だああ!!!」

……シユウウウウ……！

ルビイ理亜「………つふうー……」

千歌「キレツキレだねルビイちゃん！理亜ちゃん！」

ルビイ「挨拶がわりだよ！」

聖良「調子は悪くなさそうですね」ナデナデ

理亜「あれぐらい当然」フンス！

鞠莉「素直じゃないんだから」ウリウリ！

理亜「じゃくま!!」ベシツ！

鞠莉「聖良には頭撫でられても嬉しそうにしてたのに……」クスン

理亜「私が悪いの？」

ダイヤ「放っておきなさい」

聖良「あ、はは……」

果南「……梨子、あとどれぐらいで行けそう？」

梨子「あと……ワン……いや、ツープレイぐらいですかね」

千歌「楽しみだね！」

善子「クツクツク、次はこの墮天使ヨハネにも出番が……」

花丸「浄化ズラ、浄化ズラ」ペイペイツ

善子「ちよ、やめつ……！物理的に塩を撒くんじやないわよ!!」

穂乃果「……………」

海未「……………」

にこ「……………」

試合序盤、まだ先取点を取られただけとは思えないほどチームは静まり返っていたツバサ（え!?一点決められただけでこんなに落ち込むの!?)

花陽（どうすれば……!）

ツバサ（こ、こうなったら私たちが元氣付けるしかないわ……！）  
花陽　コクコク

！  
ツバサ「貴方達、まだまだ試合はこれからよ！そんなに落ち込まずに……」アセアセ

花陽「そ、そうだよ！その……がんばろ！」アセアセ！

みんな「……」

絵里「……ふふ」クスツ

真姫「あはは……！」

ツバサ花陽「……へ？」

「あっはははははははははー！」

ツバサ花陽 「え……………え!?」アワワ…!!

エレナ 「この程度でこの子らが落ち込むわけないだろ」

ツバサ 「うぐっ…!!」

凜 「かよちゃん忘れたの? このチームは戦鬪民族の集まりだよ?」

花陽 「はっ…!!」

穂乃果 「聞こえているぞカカロットオオオ!!」

凜 「ベジーターアアア!!」

バシバシ!

穂乃果凜 「あうちっ…!!」

海未 「茶番はさておき、どうですか? 穂乃果」ニツ

穂乃果 「さいっこうだよ!!」ワクワク

絵里 「凜を凌ぐスピードに、穂乃果を圧倒するパワー」

にこ 「相手にとって不足なしよ!」

穂乃果 「次は…:…:穂乃果たちの番だよ!!」

みんな 「おー!!」

ドクンツ！

穂乃果「……………」ピクツ

チームの士気を高めると同時に

久しぶりの強敵を前にして

穂乃果の中の何かが変わろうとしていた

角間「開始数分で先制点を決めたのは浦の星!!」

角間「しかし音の木坂も黙っていないといった表情!!」

音の木坂0―1浦の星

ピ—————!

ドツ!



角間 「音の木坂ボールで試合再開です!!」

②

角間 「開始数分で先制点を決めたのは浦の星!!」

角間 「しかし音の木坂も黙っていないといった表情!!」

音の木坂 0―1 浦の星

ピーーーーー!!

ドツ!

角間 「音の木坂ボールで試合再開です!!」

絵里 「希!」 ドツ!

希「うん！」トツ

ダイヤ「皆さん気を引き締めてください!!」

善子「何でこつち見て言うのよ!!」

角間「絢瀬からパスを受け取った東條!ここから……おや?」

希「………」トツ

絵里「希?」

凜「どうしたのかにや?」

希「……」しっかり「見た」、この目で「ジャリツ……」!

ルビィ「……!!」

ユラア……!

希「……」つむむむ……!」ググツ

ユラアア……!!

善子「あれってまさか…」

ダイヤ「[Awaken the power]!？」

花陽「いくら見たただけで真似できるっていつても…あれを!？」

希の周りには淡いオーラがゆらゆらと漂っていた

【Awaken the power】のオーラは使用者の魂そのもの

東條希のオーラは…

花陽「…すびりちゅある」

希「…Awaken…:the…!!!」グググツ…!

ルビィ「…!!!」

ブワアツ……………!

希「……………つぷはあ……………」

穂乃果「へ？」

希「ごめん無理やった！」ドツ!

海未「希!?!」トツ

希「いやー……………きついなあ……………」ポリポリ

ダイヤ「流石に不可能だったみたいですね」フウ……

鞠莉「そんなにホイホイ真似されちゃたまったものじゃないわよ!?!」

ルビィ「あの……………希さんって……………」

絵里「ああ、希は見ただけでその人と同じプレイができるのよ」フフン!

鞠莉「どうしてエリーがドヤ顔するのデースカ?」why?

あんじゅ「ほんとにね」

ルビィ(今のを……………見ただけで……………)

理亞「……あそこまで持つていくのにそこそこ苦労したんだけど……」

聖良「あちらにも癖のある選手がいるみたいですね」

真姫あんじゅ「希は特だね」

希「くっしゅん！」

希「？」ズズツ

海未「集中してください皆さん！」トトツ

角間「東條何かをするそぶりを見せながらも失敗に終わったあ！園田へとボールが移ります！」

花丸「善子ちゃん！」

善子「行かせないわよ海未さん！」ザッ！

海未「あなたに止められますかね善子」ニッ

善子「ヨハネよ！」

海未「ふっ……！」ドッ！

ギョルルルルル!!!

海未【ひとりワンツ―！】バツ！

善子「知ってるわよその技!!」バツ！

海未「！」

角間「おおっと!?!園田の【ひとりワンツ―】を津島が先読み!!既に対策済みかあ!?!」

まだメンバーも揃っていなかった頃、戦ったチームが同じ技を使っていたのを覚えていた善子は

ボールを奪うため先読みを謀る

善子「このボールは海未さんに帰ってくるはず……！」ザッ！

ギュルルルル!!

ドッ！

善子「なっ……」

海未「……【ひとりワンツー】」

海未「なんちゃってバージョンです」ニッ

角間「これは自身の必殺技を囮に使ったあ！ボールは園田に返らずメンバーのもとへ



……」

聖良「はっ！」ガッ！

音の木坂「!？」

海未「あっ……！」

角間「鹿角ボールを弾いた!!!流れはさっそくS A Sが掴みかけているかあ!？」

海未の機転も虚しく聖良がボールをカット

大事な失点直後の攻撃での失敗

嫌な流れはジワジワとチームを蝕んでいく

海未聖良「ボールを!!」

テンテンテン…

シュバツ!!

ツバサ「ナイスパスよ海未！」トツ

海未「…どういたしました」ホッ…!

角間「ボールの先には綺羅!音の木坂なんとか助かりました!」

聖良「そう一筋縄ではいきませんか…」

ツバサ「花陽！」ドツ！

花陽「はい！」トツ

角間「DFから上がってきていた小泉、綺羅からボールを受け取ります！」

曜「ここは通さないよ！」ザッ！

ドツ

ツバサ「……今の状況はわかってる？」トツ

花陽「……だから上がってきました」ニツ

2人は肩を並べて曜へと体を向ける

ツバサ（こんな感情は……音の木坂と戦った時以来ね）

花陽（自分の力が通じるかもわからないほどの圧倒的な力を見せつけられて）

ジャリツ……！

曜「……！」

ゾクゾクするほど興奮してる  
曜「はーーーーー……………!」

ドッ! トトツ……………クルツ!

角間「綺羅と小泉のドリブル突破!! 渡辺を置き去りだあ!!」

曜「何今の…!?!」ガクツ

果南「マル! 鞠莉!」

花丸鞠莉「うん!」ダッ!

角間「国木田と小原が距離を詰める!! これは流石に厳しいかあ!?!」

曜「気をつけて!!」

曜（速いとか上手いとかじゃなかった…一体…?）

ツバサ花陽「……………」

敵の速さに、シュートに圧倒された

この事実は少しずつつチームのメンタルを追い詰めていく  
だから

そうなる前、相手が流れ（リズム）に乗る前に

ツバサ花陽「ooooooooo!!!」バツ！  
技術と分析で掻き回せ

ザツ…クンツ…!

鞠莉「お…つと…!」カクツ…!

ツバサのフェイントで鞠莉がバランスをわずかに崩す

花丸「はあ!!」バツ!

ツバサ「…ふふ」ドツ

花丸が前に出るタイミングで花陽へバックパス

鞠莉花丸「…!」バツ!

ツバサを警戒しながらすぐさま花陽へ向かう2人

花陽「……………」

の

片足が上がる瞬間

ツバサ　　ダッ！

鞠莉花丸「まずっ……！」

花陽「ツバサさん！」ドッ！

ツバサ「……っし！」トッ

角間「これは鮮やかな連携プレー！！触れることなく2人を抜いたあ！！」

にこ「やるじゃない！」

凜「いくよー！真姫ちゃんかよちん！！」ダッ！

角間「星空も上がってきています！！」

鞠莉「s o r r y 果南……！！」

ツバサ「任せたわよ！」ドッ！

真姫花陽凜「はい！」バッ！

グツ……ダンツ!

グルグルグル

グルグルグル

ギユフツ……!

バツ!

ドキュツ!!!

真姫凜花陽【ファイアトルネードTC!!】

ゴオオオオオオオオオオオオオオオオ  
!!!!

ゴオオオオオオオオオオオオオオオオ  
!!!!

角間「悪い流れを拭い去れるかあ!?音の木坂の必殺シュート!!浦の星どうする!」

鞠莉「ワーオ……!」

ルビィ「わあ……!」

曜「すごい迫力……」

敵のシュートに感心しつつも、彼女たちには絶対的な自信があった

ゴキゴキツ……!



浦の星には、  
奴がいる

「うおらあああああ!!!」  
バツ!!

浦の星の正ゴールキーパー

ズガアツ!!ズガアツ…!!

果南「もういつちよお!!」バツ!

果南【海王の三叉撃!!!】

ドガアアアアアアアア  
!!!!!!

ツシユウウウウ………!!

果南 ニツ

『海王』松浦果南

角間「とおめたああ!!!音の木坂の強力な必殺技を正面からがつしりキャッチしました  
!!」

真姫凜花陽「……！」スタツ

果南「まあまあかなん？」

鞠莉「いいわよ果南！」

花丸「海王見参ずら！」

真姫「……次は決めます」

果南「受けて立つよ！」グッ

凜花陽　　グッ！

果南「……………」

果南（……少し甘くみすぎたかな）ビリビリ……！

ツバサ「花陽、次に備えてまたディフェンスを……」クルツ

花陽「ぜー…!!はー…!!」ハア…ハア…!

ツバサ「……………」

凜「……………」ソロ〜…!

タツタツタツ

にこ「あんたら早く戻ってきなさい!!デیفエンス!!」

角間「デیفエンスを飛び出した星空は自陣へと戻って行きます!」

凜「おまたせにや!」ザッ!

海未「おや?花陽は…」

凜「……………」

凜(……………恐かった…)ブルツ…!

ガミガミガミガミ!!

ツバサ「あんなのでバテるなんて走り込みが全く足りてないわ!!今の何倍も体力をつけること!!わかった!」

花陽「ごめんなさいー!!」

角間「両チームまずはシュートを挨拶がわりに一本づつ!ここから試合はどう動いていくのでしょうか!!」

果南　　チラッ

梨子「……」

梨子「……うん」パチッ

曜「ん、結構早かったね」

梨子「せっかくの試合なのに時間かけるのももったいないもの」クスッ

千歌「怖いんだあ、こういう顔してる時の梨子ちゃん」フフ

梨子「調律は済みました、ここからは私が指揮します」

千歌「……調律は済みました、ここからは私が指揮します」ボソツ

梨子「……っ……！」ビクッ

花丸「最近善子ちゃんに影響されすぎずら」

梨子「……っ……っ……っ……！」プルプル

鞠莉「梨子はヨハネのリトルデーモンだからネ♪」

梨子「うわあああああ  
!!!!  
///  
///  
///  
///  
ダッ！」

ルビィ「逃げちゃった……」

ダイヤ「あ・な・た・た・ち!! 試合中ですわよ!!」

みんな「サーー！ イエツサーー！」ダッ！

梨子（ううう……！！ 冷静に考えると結構恥ずかしいこと言ってたああ……！！  
///  
///  
///

善子（何今の……カッコいい…!!）

海未「何か仕掛けてきそうですね…」

花陽「…っはあ…！そうだね！」ザザッ

凜「かよちゃん…お疲れ様」

にこ「お疲れ、戻って早々大変だけどここカウンター決めるわよ」

花陽「はい！」

点は決められなかったが悪い流れは切れたかなと思う花陽だった

果南「梨子！」ドツ！

前半まだ始まったばかり、ここからが本番だとばかりに力強く梨子へとボールを届ける

梨子「はい！」トツ

花陽（……！梨子さんはさつきから攻撃にもディフェンスにも消極的だった……）

花陽（一体……）

梨子「いくわよみんな!!」ダツ！

浦の星「おお!!」ダツ！

花陽（しっかり見極めて、今度はこっちが先手を取る……!!）



梨子「ダイヤさん！」ドツ！

ダイヤ「はい！」トツ

にこ「海未みたいな雰囲気してるねあんた」ザツ！

ダイヤ「あんたではありません、ダイヤですわ」

にこ「……いいわ、覚悟しなさいダイヤ！」バツ！

ガガツ！トツ…ズザザツ！

ダイヤ「っ…！」トトツ

にこ「ほらほらあ!!抜いてみなさいよ!!」ガガツ！

角間「矢澤ねちっこいデیفエンスだあ!!黒澤少しずつ後退させられている!!」

小柄な体格を生かしたデیفエンスで敵の懐へと潜り込む

あちらのことに違い突出した武器はないが泥臭いプレーと根性でダイヤに対抗する

にこ「守つてばっかじゃ抜けないわよ！」

ダイヤ「……ここまで引き付けられれば…」ボソツ

花陽「ダメにこちゃん!深追いしすぎ!」

梨子「ダイヤさん!!」

ダイヤ「…!はい!」ドツ!

にこ「ちっ……」

曜「ヨーソーロー！」トツ

凜「いかせないにやー！」ザツ！

曜「勝負したいところだけど……」

梨子「曜ちゃん!!」

曜「おーっけい！」ドツ！

凜「にや〜？」

ルビィ「ほっ！」トツ

ルビィ「梨子ちゃん！」ドツ！

梨子「よし……！」トツ

角間「先ほどとは違い落ち着いた攻めを見せていきます！」

花陽（……何だろうこの感じ……さつきより攻撃的じゃないのに……）

花陽「……嫌な感じ」

エレナ（全員が何かに導かれるように動いている…？） キョロツ

ツバサ 「これは私の考えなんだけど」

絵里 「？」

ツバサ 「司令塔って、オーケストラで言えば指揮者だと思うのよね」  
あんじゅ 「頭良さそうなこと言い出したわね」

ツバサ 「うるさい」

海未 「指揮者……ですか」

ツバサ 「ええ」

梨子 「善子ちゃんへ!!」 ドツ！

千歌 「うん！」 ドツ！

角間「浦の星流れるようなパスワークで敵陣へ攻め込んで行く!!」

梨子「♪」

花陽「ーーーー……まさか!!」

そう

すでに先手は打たれていた

ツバサ「同じチーム、同じ相手でも……」

彼女たちには見えている

ここまで数々の強敵と闘い、互いに信頼し合ったメンバーだからこそ見える  
光の道が

ツバサ「指揮者が変われば音が変わる」

## 梨子【神のタクト】

善子「善子じゃなくてヨハネよ!!」トツ

角間「津島がゴール前でボールを受け取ったあ!!完全にフリーだあ!!」

善子「クツクツクツ…」バサアツ…!

花陽「……っ穂乃果ちゃん!」

穂乃果「まかせて!」グツ!

善子「ここまであんまり出番がなかった墮天使の怒りを……受け取りなさい!!」

花丸「私情ドバドバずら」

善子「はあああああ!!!」バツ!

ドキュツ!!!

善子【デビルバースト!!】

ゴオオオオオオオオオオオオオオオ  
!!!!!!

ゴオオオオオオオオオオオオオオオ  
!!!!!!

鞠莉「2点目いただきデース!」

ルビィ「いけー!善子ちゃん!」  
角間「音の木坂一体どうす……」



善子「んなあっ……！」

穂乃果「にひひ！」

角間「とおめたあ!!!高坂見事止めました！」

角間「浦の星は追加点とはならなかったが攻撃に勢いが出てきたぞお!!」

穂乃果「……ふう」

にこ「ちよつと穂乃果！止めたのはいいけどなんで【マジン・ザ・ハンド】なのよ！」

凜「疲れちゃった？」

穂乃果「少し集中したかったんだ」

みんな「？」



穂乃果「少し……違う景色が見えそうなんだ……」

花陽「違う景色……??」

海未「……つまりどういふことかわかりますね」

凜花陽「こ」「ギクリ」

海未「穂乃果のサポート、お願いします」ニコッ

凜花陽「こ」「あああああ………！」ガクッ

エレナ「まかせてくれ」

あんじゅ「真面目か」

果南「…舐めてたわけじゃないけど…甘くないね」ペロッ…

善子「私の見せ場があ！」

千歌「さすが不運の星の元に生まれし墮天使……」

花丸「不運というか今のはシンプルに実力……」

善子「うるさい!!」

角間「さあ！見事津島のシュートを止めた高坂!!」

穂乃果「花陽ちゃん！」ドツ！

花陽「任せて！」トツ

角間「小泉から組み立てていく！音の木坂の頭脳がゴールまでの道を切り開くかあ  
!?!」

千歌「千歌が！」バツ！

梨子「千歌ちゃ……！あんまり急ぐと……」

花陽「……！」グッ

花陽（体重移動のタイミング、利き足、目線の動き）

トツ…トツ…クルツッ!

花陽「オフェンス方程式!」ダッ!

千歌「んなあ!」ガクッ

にこ「よおっし!!」

角間「小泉抜いたあ!!見事相手を読みきりました!!」

鞠莉「ちかつち!焦りすぎよ!」

千歌「うう…!!」

少しづつでも自分たちのペースにしていけないと、そのためには……

花陽（わずかな綻びも見逃さない!）

花陽「エレナさん!」ドッ!

花陽「あ…!!」

エレナ「…」トッ

梨子「めんどくさそうな人は早めに対処させてもらいます！」ザッ

曜「うん！めんどくさそうな人からだね！」

角間「ここは2人で確実に統堂を抑えにかかります!!あくまで追加点を狙っていくつもりかあ!？」

エレナ「あんまりめんどくさいを連呼しないでくれるとありがたいな」ハア…  
ため息をつきながら目線を落とす

———

梨子曜「……！」ザッ！

エレナ「！」ピタッ

梨子「……そんな風に何食わぬ顔でチャンスを狙うからめんどくさいって言ったんですよ」フフ

曜「すごいね……梨子ちゃんにあらかじめ言われなかつたら出し抜かれてたよ……」

エレナ「……どっちがめんどくさいんだか……」チラッ

梨子「！」

エレナ「では小細工なしで行くとしよう」ダッ！

梨子曜「……！」バッ！

ガガガッ！トツ……ザザッ！

エレナ「なかなか……やるっ……な……!!」トトツ

曜「どう……いたしまして!!」ガガッ！

梨子「後……少し……!!」ザザッ！

角間「紙一重で避けている統堂!!しかし時間の問題かあ!?!」

あんじゅ「ここで奪われたら台無しよ〜?」

希「結構薄情やねえ……」

あんじゅ「?何言ってるの?」

希「?」

梨子（これで決める……!）グッ

エレナ「……!」

角間「桜内必殺技の体勢!!勝負を決めに来たかあ!?!」

あんじゅ「薄情っていうか……」

梨子「アインザツ……！」

エレナ　　バツ！

梨子（しまっ……！）

あんじゅ「エレナからパスが来なかったことなんてないもの」

ドキユツ  
!!!!

角間「統堂デیفエンスをかいぐりパスを出したあ!!」

梨子「やられた…!」

曜「こんな隙間を…!?!」

エレナ「…早めに焦れてくれて助かった」ニツ

梨子「……!」



たったボール1つ分、エレナにはそれだけで十分だった

花陽「あの状態から…さすがです！」

梨子「ごめん焦っちゃった…！」

曜「お願い！」

まあ裏を返せば

さつきまで2人はボール1つ分のパスコースすら見せなかったということなのだが

ゴオオ！

真姫「私が…！」

花丸「自由にはさせないズラ！」ザッ！

真姫「もう…！」ジリッ…！」

絵里「これは…」ザッ…

ツバサ「面倒ね…」ジャリッ…

鞠莉「またマリーたちが攻撃させて貰いマース！」

角間「統堂前線へパスを出したがFWはがっちりマークされている!!これでは攻撃でき  
ない!!」

エレナ「ああ、そうなると思って」

タツタツタツ！

凜「にゃー！」ダダダッ！！

エレナ「助っ人を派遣しておいた」

凜「過重労働だにゃー！！」ダダダッ！！

角間「まともや星空が前線へ!? 追いつくのかあ!？」

花丸「止め……！」バツ！

真姫「おっと、いかせないわよ？」ガッ！

花丸「ズラー！」

エレナ（DFがFWをマークしているということは逆もまた然り）

エレナ（私たちのFWはあちらのDFを完全に封じ込める）

梨子（……！）

—————

エレナ「……どっちがめんどくさいんだか……」チラッ

梨子「！」

—————

梨子（あの時からすでにこの状況を想定して……！）

ダダダダッ!!

ゴオオ!!

角間「星空へとパスが……!」

エレナ(…!?)

凜(これ……間に合わなっ……!!)

スカッ……!

凜エレナ「……!」

角間「空……つぶったああ!!!が!!まだ間に合う距離です!!」

凜(やつちやつたやつちやつた…!!) タッタッタッ!!

テンテンテン……!

バツ!

凜「よし! 追いつい…

ルビィ「……た?」トツ……!

凜「へ」

みんな「!?!」

角間「ど、どこから現れた!?! 黒澤のパスカットオ!!」

花陽（あれに追いつくなんて……!）

果南「ナイスルビィちゃん!!」

凜「ルビィちゃんがいるの忘れてたにや…」

ルビィ「最初にあんなにアピールしたのに忘れられるのは悲しいなあ…」

……チリッ……!

花陽 (「Awaken the pmwer」……!)

再び全身にオーラを纏い始める

また……あれが来る

花陽 「止めて!!」

ダイヤ 「間に合いませんわ!」

「私を忘れてもらっては困るわね」

ガキイイイイイイン  
!!!!

浦の星「!?」

聖良「……!」

絵里「スノーエンジェル」

希「えりち!」

角間「FWでありながら強力なディフェンス技を持つ絢瀬、黒澤を氷漬けだあ!!」

絵里「ここは止めさせてもらおうわよ……って……」

絵里「……え?」

ピシイ…!!

ツバサ「……流石に」

ピキピキピキ……パリイン…!!

ツバサ「規格外すぎるわ」タラツ…

絵里「私の氷が……!!」

花陽〔Awaken the power〕のオーラは出てないってことは……素の強さがあるなの!?)

ルビィ「ルビィを凍らせるならもつと冷たく強力に、ですよ!」ダツ!  
角間「絢瀬のデیفエンスをもつとしない!!何というフィジカル!!」



聖良「私もあの時は正直泣きそうになりました……」

理亜「姉様の方が強くてかっこいい」

花丸「うちのルビィちゃんがその節は……」

絵里「もつと冷たく……強力……」

真姫「絵里！ぼーっとしない！」

絵里「わっ……かっ……かっ……わよ！」ダッ！

この時、互角の攻防に見えた両チームには  
心理面で大きな差が生じていた

チャンスを二度潰された音の木坂

ピンチを二度回避した浦の星

花陽梨子（この流れ……）

花陽（まずい……！）

梨子（チャンス……！）

花陽「みんな!!すぐにディフェンスを固めて!!」  
音の木坂「!!」

梨子（そんな隙は与えない……！）バツ!

梨子「必殺タクティクス!」

タツタツタツ!

鞠莉「マル! いくわよ!」タツタツタツ

花丸「この戦術疲れるずらー!!」タツタツタツ

曜「よーしこー!」タツタツタツ

善子「ヨーハーネー!」タツタツタツ

千歌「うおー!!」タツタツタツ

梨子「千歌ちゃん!!」タツタツタツ

理亜「ルビイ遅いんじゃない!?」タツタツタツ

ルビイ「早すぎてもダメだよ!!」タツタツタツ

聖良「こら理亜ー、迷惑かけちゃダメですよ!」タツタツタツ

果南「……すこし寂しくないこともない」ポツーン

ザザザザザザ!!!

花陽「ちよ、ちよ……ちよつとまつ…!?」

あんじゅ「これまじいんじや…!」

凜「にやあく……」

角間「浦の星が一丸となり音の木坂を飲み込んでいく!!これは……」

梨子「全員の息を合わせて、相手を圧倒する波を作る……!」

ザバアツ!!!!

浦の星【ミラクルウエーブ!!】

真姫「何よこれ……！」ガポオツ……！

花陽「この圧力……！！」ウブツ……！

凜「ツガボ……！！」ザバアツ……！

にこ「くっそ……！」バツ！

にこ【スピニングカット!!】

ズシューウウウ……

ブワアアアアア……

角間「矢澤【スピニングカット】を【ミラクルウエーブ】ぶつけたあ!!」

花陽「にこちゃん！」

海未「にこ！」

にこ「そう簡単に……!!」

梨子「飲み込む」

ザバアアアアアアアアアア

にこ「そんっ……がぼっ……!?!?!」ザバアツ!

角間「矢澤押し負けたあ!!」

海未「っ……穂乃果あ!!」ゴボオツ!

穂乃果「……!!」グッ

ザバアッ!!

梨子「準備はいい? 2人とも」トッ

曜「バツチリであります!」

千歌「早く! 早く!」

角間「DFを抜けたあ!! 残すは高坂のみ!!」

鞠莉「今度こそ2点目いただきデース!」

梨子「いくわよ!」バツ!

千歌曜「おう!」バツ!

ポーン!

梨子曜「ふっ……!!」ドゴオッ!!

ギユオオオオオオオオ!!!

ダダダダツ!!!

千歌「はああああ!!!」バツ!

ドキユツ!!

千歌曜梨子「エボリユーシヨン

G X!!」

ゴオオオオオオオオオオオオオオオ  
!!!!!!

ゴオオオオオオオオオオオオオオオ  
!!!!

角間「浦の星の強力な必殺技が音の木坂のゴールへと襲いかかる!!」



千歌曜梨子「いけええええ!!!」

ことり「穂乃果ちゃんお願い!!」

絵里「穂乃果!!」

穂乃果「……!」バツ!

穂乃果（ここで決められるわけには……!）

ポフォアアアアアアアアアアア  
!!!!

穂乃果【マシン・ザ・ハンド】焔（ホムラ）  
”!!!”

ギュルルルルル

穂乃果「……っ!!!!!!」ズズズツ!!

角間「押し込まれる高坂!!残り時間も迫る中ここは止めてカウンターを仕掛けたいところ!!」

ギョルルルルル!!!

穂乃果(結構……キツイ……!) チラツ

ツバサ「バカ……!」

前半も残り少ない中、穂乃果はカウンターに備えてグラウンドへ目を向けた  
足をすくわれるとはこういうことを言うのだろう

ギョルルルルルル!!!

穂乃果「っ……!?しまっ……!」 ブワアツ……!

バチイツ………!

ドサツ!!

角間「高坂弾かれたあ!!ボールは……」

ガアアアアン!!!

梨子「……！」

千歌「げっ……！」

ヒュウウウ……！！

テンテンテン……

海未「……ふうー……」ホッ

角間「これは高坂ゴールポストに助けられました！！浦の星のコーナーキックです！」

千歌「決まったと思ったのに……」ムウ……

曜「威力では押してたよ！」

梨子「うん！でもそう余裕があるわけでも……」

善子「フフン！もう私たちの勝利は決まったようなも……あでっ！」バシッ！

善子「何するのよズラ丸!!」

花丸「頭まで墮天し切ってる善子ちゃんに正義のチョップずら」

果南「…見てみなよ、あっちの司令塔組を」

善子「？」チラッ

花陽エレナ「ーで……いや、あの場面は……が……」

ダイヤ「浮かれてる暇などありませんわよ！」

理亜「一点なんかで満足しない」

果南「試合終了の笛がなるその瞬間まで、気を抜かずに行こう！」

みんな「おお!!」

ガンツ!!!

穂乃果「……………」

一瞬、「ボールを止める」以外に

別のことを考えた

穂乃果「すうー……………」

心の中のモヤモヤをしつかり貯めて……………」

穂乃果「……………つはあー……………」

吐き出す

海未「全く、詰めが甘いというか貴方らしいといいますが……………」ザツ

穂乃果「ギリギリ弾けてよかったよ、次は止められる」ドンッ

海未「なんども言わせないでください、心配はしませんよ」クスッ

絵里「穂乃果は大丈夫として、向こうの戦術に全く歯が立ってないことは確かだね」

海未「【神のタクト】だけでもかなり厄介ですが」

ツバサ「【ミラクルウエーブ】、連発はできないと思うけど対処はかなり難しいわね」

エレナ「あれほど圧倒的にやられてしまつては多少の流れは関係ないしな」

凜「ウエーブだけに？」

エレナ「お、うまいな」

ゴチツ!!ゴチツ!!

あんじゅ海未「気は済んだかしら？」「気は済みましたか？」

エレナ凜「あい……」シュウウウ……!

あんじゅ海未「まったたく……」

凜（和ませようと思っただけなのに……）

エレナ（な）

あんじゅ海未

ギラツ…!!

エレナ凜「ムグツ」お口チャック

花陽「あ、はは…」

絵里「ほーら！まじめに対策するわよ！」

真姫「でも今から即席の戦術を立ててもたかが知れてるわよ？」

花陽（そう、相手のレベルじゃすぐに対応されて終わる）

凜「希ちゃんのスピリチュアルパワーでなんとかするにやー！」

花陽（……すぴりちゅあるばわー……心霊、オカル……）

花陽「……!!」ハッ！

希「だーかーら！うちのスピリチュアルパワーは万能じゃ……」

ガシツ!!

希「うえあ!」ビクツ！

花陽「すぴりちゅあるばわーだよ！希ちゃん!!」

希「……へ？」

花陽「そして、みんなに聞いて欲しいことがあります！」

みんな「？」



④

花陽 「すぴりちゅあるばわーだよ！希ちゃん！！」

希 「……へ？」

花陽 「そして、みんなに聞いて欲しいことがあります！」

みんな 「？」

角間 「さあ一点リードを許している音の木坂！！前半も残りわずか、このまま後半を迎えるかあ!？」

角間 「浦の星のコーナーキックで試合再開です!!」

プーーーー!!

ドツ！

絵里「ふっ！」ガッ！

角間「絢瀬がボールを弾いた!!西木野へとボールが移ります!!」

曜「流石に高いね……!」

真姫「にこちゃん！」ドツ！

にこ「ええ！」トツ

角間「慎重にボールをつなぐ音の木坂！前半もう時間がないぞ!!」

梨子「一体……?」

果南「ここ守り切って前半終わるよ!!」

みんな「おお!!」

あんじゅ「そう簡単には終わらせないわよ〜?」ニイ〜

善子「ヒウ……!!」ビクッ

希「……」モジッ……

凜「希ちゃん何恥ずかしがってるにや!!時間ないんだってば!」

希「で、でも……」

花陽「希ちゃん!」

あんじゅ「おねがぁい♪」

希「う……う……う……!!」

希「……マ……」

「マーレーマーレーマレットマレ……」

千歌「……へ？」

希「マーレーマーレー……マレットマレ……！」

鞠莉「what!?!なにになにに怖い!!」

梨子「みんな来てます!!集中して!!」

角間「音の木坂が5人一組みとなり敵陣へ攻め込んで行きます!!」  
にこ「ちよつと!にこがセンターよ!」

ツバサ「今日一番の気迫ね」

真姫「誰がセンターでも変わらないじゃない」

絵里「まあまあ、にこにもこだわりがあるのよ」

あんじゅ「…バカね〜」  
にこ「はあああん!？」

希「マーレー…マーレー…マレトマレ…!!」

穂乃果「の、希ちゃん!あと少しだよ!頑張つて!」ファイトダヨ!

ザザザザツ!

角間「これは音の木坂巧みなフォーメーションチェンジ!!浦の星を惑わしていく!!」  
梨子(たしかに並みのチームなら翻弄されそうな戦術だけど…)

梨子「曜ちゃん!ポールを持つてるのはにこさんよ!!」

曜「任せて…!」グツ

ヒュウウウウ…!!

ドゴオオツ!!!

にこ「……!?」ザツ

角間「おおつと!? 突如上空から巨大な錨が墜落したああ!! とんでもない大きさだあ!!」

聖良「何度見てもすごいですね……」

凜「あんなのどうする気かなのにや?」

曜「いつけええええ!!!」ググググツ…!!

錨についている鎖は曜の足にしっかりと結びついている

それを力の限り振り絞り………

ブンツ………!!

真姫「嘘でしょ!?!」

絵里「待つて待つて待つて!!」

あんじゅ「こんなの何でもありじゃないー!!」

ドゴオオオオオオ!!!

ピシピシピシ…!!!

ブワアアアアアアアアア

!!!!!!

曜「スマツシユアンカー!!!」

「うわああ!!」ブワアッ!

角間「ここは渡辺のブロック!!音の木坂の攻撃を止めました!!」

叩きつけられた錨により地面はビビ割れ

噴き出した大量の水によってあたりのプレイヤーは吹き飛ばされてしまった

梨子「さすが！」

曜「これぐらいなんてことないよ！」

角間「音の木坂までもや……」

角間「……？」

果南「………っ!!」

果南「なにやってんの曜!!」

曜「へ？」

ピチャン………ピチャン………

花丸「あぐっ……！」ドサッ

千歌「のわあっ！」ドサッ



曜「え……花丸ちゃんに…千歌ちゃん？」

花丸「ひどいずら曜ちゃんー!!」

千歌「そうだそうだー!」

角間「完全に捕まったと思われたましたがこれは一体…!?音の木坂は上がり続けている!?!」

曜「なんで……え!?!」

梨子「止めて!!」

ルビイ「行かせませんよお!!」ザッ!

角間「黒澤ルビイが音の木坂に立ちふさがります!!」

ルビイ「……あれ?」ザッ

理亜「なっ…」ピタッ

角間「味方同士でマークしあってしまったあ!!一体どうした浦の星!!」

梨子「なにが起こっているの…!?」

希「マーレーマーレーマレトマレ!!」ユラユラ

穂乃果「恥ずかしさに慣れて怪しい踊りまで始めちゃったよ」

花陽「行くよみんな!!」バツ!

梨子「!」

花陽「必殺タクティクス……」

花陽【ゴーストロック!!!】  
ブワアアアアアアアアア  
!!!!!!

梨子「うえ…!!」グッ

千歌「うそっ!!」ガクッ

曜「ルビイちゃんは…!!」バツ!

ルビイ「ルビイもダメです!!」グッ

果南「?なに?みんなどうしたの!?!」

鞠莉「果南は平気なの?」ググッ…!

果南「う、うん…」

花陽（見様見真似だから効き方が甘い…でも!）

ツバサ「行くわよ!」バツ!

エレナあんじゅ「ああ「ええ」!!」バツ!

花陽「ゴールまでの道は出来ました!!」

ポーン!

ピューーイーイ!!!

ドシドシドシドシドシ

ギョオオオオオオオオオオ!!!

クルツ…!

ドキュツ!!!

ツバサエレナあんじゅ【皇帝ペンギン3号

G2!!】

ゴオオオオオオオオオオ!!!

ゴオオオオオオオオオオオオ!!!

角間「綺羅、統堂、優木の必殺シユートが浦の星ゴールを捉えました!!」

ツバサエレナあんじゅ「いけ!!!」

穂乃果「決まれええ!!」

梨子「果南さん!!」

鞠莉「果南!」

果南「まかせなよ……!!」

ゴキツ……!

ツバサ「……!」ゾアツ……!

同点に追いつくために力の限り放ったツバサたちの【皇帝ペンギン】は



……シユウウウウ……!

果南「……っし！」パシッ

ツバサ エレナ あんじゆ 「……！」 ザッ

角間 「松浦とめたあぁ!! まだ時間は残っています!!」

ツバサ 「まだ上があつたのね」

エレナ 「……バカだろ」

あんじゆ 「世の中広いわね……」

海未 「へんな悟り開かないでください!!」

鞠莉 「ナイスよ果南！」

ルビィ 「あ、動ける……」 フッ……

善子「今のはまさか……悪魔による呪われし……！」

花丸「……………」パツパツ

善子「無言の塩!!」

聖良「ぶふっ……!しよっばい!しよっばいです!」

梨子「果南さん!」バツ!

ピンチが一転チャンスに

もう本当に時間がない中、最後の攻撃権を手に入れた浦の星

追加点を狙い、梨子は「神のタクト」を発動する

先ほど同様仲間へのパスルートが光の筋で……

ツバサ「……………へえ」ニツ



梨子「あ、あれ……？」ピタッ

果南「これは……!？」

花曜「ふっふっふ……！」フフン！

花陽「完璧だよ、みんな！」ザッ！

ルビィ「うゆ……！」ザッ……

海未「パスは出させません！」ザッ！

曜「やるね海未ちゃん……！」ザッ……

希「はいはいストッププー♪」ザッ！

鞠莉「なーにがstopよ！マリーの技術で……！」ヨッ！ホッ！

希「ストップの発音無駄にいいなあ……！」ザザッ！

角間 「おおっとお!?音の木坂全員マンツーマンマークだああ!!」

角間 「これではパスが出せない!!」

千歌 「圧がすごい…」ズーン…!

にこ 「前半最後まで頑張れるわよ!」

角間 「浦の星マークを外せない!!このまま前半タイムアップかあ!？」

「……………」

花丸 「果南ちゃん!!」バツ!

真姫 「しまっ…!」

角間 「国木田がマークを外したあ!!西木野反応するも間に合わず!!」

果南 「…………ツツマル…………!!」バツ!

ブンツ  
!!!!

ポーン!

花丸「お任せズラア！」ダツ!

花陽「……………」

花陽 ニツ

梨子「…!?!花丸ちゃん待っ……………!」

ツバサ「あー…」

花陽ツバサ「0から1のパスコース、ついそこに出しちゃう「わ」よね？」

シユバツ！

花丸「へ？」

真姫「ふふ、どうだったかしら？私の演技は」トトツ……！

角間「に、西木野がパスカット!?ゴール前はがら空きだ！」

梨子（わざと花丸ちゃんをフリーにして……!）

ツバサ「はじめてにしては上出来ね」ニツ

真姫「希!!」ドツ！

希「行くよ2人とも!!」トツ

絵里にこ「ええ！」バツ！

角間「音の木坂決め切れるかあ!？」

梨子（ミラクルウエーブで流れを掴んで押し切るつもりが……）

果南「……………！」グツ

ガキンガキンガキン!!  
アオーーーーーン!!  
希「ふっ…!!」ドツ!

絵里にこ バツ!  
絵里にこ「はああ!!」ドキユツ!!

ゴオオオオ!!

希「いくよお  
!!!!」バツ!

ドキュツ!!!

希にご絵里【グランフェンリル  
G3!!】  
ゴオオオオオオオオオオオオ  
!!!!

ゴオオオオオオオオオオオオ  
!!!!

穂乃果「いつちやえ絵里ちやんたちー!」

海未「一点は返させていただきます!」

角間「音の木坂決死のシュートオ!!松浦耐えきれるかあ!?!」

果南「つぐ……!」プルプル



角間 「これは浦の星のシュートブロック!!シュートの威力を削いでいきます!!」  
にこ 「それぐらいじゃ全然効かないわよ!」

絵里 「この一点は私たちがもらうわ!」

鞠莉 「メインはマリーたちじゃナツシングよ?」ニツ

希 「……!」ピリッ……!

「ありがとう2人とも、十分だよ」

ズアアアアアアアアアア  
!!!!





果南 「っ……あああああ  
!!!!」 ググッ!

みんな 「———!」

果南 「……………」

果南 「……私がいるんだ、そう簡単には割らせない……」

シユルルルルル……パシツ……!!

角間 「ま、松浦止めたあああ!!! 音の木坂全力の攻めを見事凌ぎ切りました!!!」

にこ 「はああああ………」 ドサツ……!

凜「なにそれ！意味わかんない！」

真姫「ちよつと凜……いや、本当に意味わかんないわね」

鞠莉「ふっふーん！どう!?うちの果南は！」ドヤツ！

千歌「どうして鞠莉ちゃんが自慢げなの？」

梨子「た、助かりました果南さん……！」

果南「うん！それで多分……」

ピッピーーーーー

果南「やっぱりね！」

角間「ここで前半終了!!音の木坂0——1浦の星、浦の星は無失点で前半を終えました

！」

角間「音の木坂巻き返しなるか!!浦の星はリードを守れるか、さらに引き離すか!!」

角間「選手たちはそれぞれ控え室へと戻ります！」

## 前半終了控え室⑤

希「あ、ウチお手洗い行ってから戻るわ〜」

絵里「それじゃあ先行ってるわね」

希「ほいほーい」フリフリ

にこ「迷うんじゃないわよ」ハンツ…!

希「うーん、迷っても特にストリー的に膨らまないから迷わないと思うよ?」  
にこ「さらつとメタイのぶち込まないでくれる?」

花丸「あれ、ルビィちゃんどこ行くの?」

ルビィ「ちよつとお手洗いに……」

千歌「場所わかる？大丈夫？」

梨子「千歌ちゃん……ルビイちゃんも子供じゃないんだから……」

ルビイ「えへへ、心配してくれてありがとう！この会場の構造はなんとなくわかるよ、そういう仕様だから！」

善子「メタいつつてんのよ」

お手洗い

希「お」バツタリ

ルビイ「あ」バツタリ

希「ルビイちゃんもお手洗い？」

ルビイ「は、はい！」

希「後で少し話せる？」

ルビイ「もちろんです！」

希「じゃあ後で！」フリフリ

ルビィ「お待たせしました！」

希「いやいや〜ごめんね、少しルビィちゃんに聞きたいことがあつてなあ」  
ルビィ「聞きたいこと？」

希「うん！」

控え室

ワイワイガヤガヤ

にこ「……………なんで……………」

にこ「なんで控え室大部屋なのよ!?!」

鞠莉「いいじゃない!この時間しか一緒にいられないんだしenjoyしましょ!」

にこ「……………むう……………」

鞠莉「ほらほら!可愛い顔が台無しよ?」ムニイー!

にこ「いはいいいはいい!」ムニイー!

鞠莉「……………変な顔」ブフツ……………!

絵里「にこ!! 落ち着いて!!」ガシッ  
にこ「離せえええ!!」ジタバタ  
鞠莉「あはははは!!」ケラケラ  
果南「うちの鞠莉が迷惑かけ……ブフツ……!」プルプル  
にこ「腹立つこいつら!!」ジタバタ!

お手洗い前の廊下

ルビィ「聞きたいこと?」

希「うん! いいかな?」

ルビィ「ルビィに答えられることならなんでも大丈夫です!」

希「にしし、よかった」

希「で、聞きたいことなんやけど……」

ルビィ「ごくり……」



希「そつちの世界のうちらの姿見られへんかなーつて」

希「動画とかで」

ルビィ「！」

希「気になるやん？」クスツ

ルビィ「……」

ルビィ「嫌です!!」

希「ええ!？」

ルビィ「やです!!」

希「す、少しだけ……」

ルビィ「絶対やです!!」

希「そんな……」ガクツ……!

ルビィ「教えると…」

ルビィ「希さんに真似されかねませんから」ニツ

希「……バレたか」ニツ

ルビィ「後半はもつと飛ばしていきますからね」

希「こんな小動物みたいな見た目やのに言うことは怖いなあ」ワシヤワシヤ！

ルビィ「あわわわわわ!!」ボサアツ！

希「戻ろつか！」

ルビィ「はい！」

希「あ、それじゃあ最後にダメ元なんやけど…」

ルビィ「大丈夫ですよ、ルビィにできることならなんでも！」

希「[Awaken the power]のコツ教えて？」

ルビィ「ダメです」

真姫「あの……梨子さんって何か……音楽してたんですか？」

梨子「フフ、『何か』なんていいながら見当はついてるんじゃない？」クスツ

真姫「指を見てわかりました、ピアノしてるんですね」

梨子「それを言うなら真姫ちゃんもじゃない、綺麗な手してるからすぐわかるわ」クスツ

真姫「随分「音」をサッカーに取り入れてるんですね」ニツ

梨子「さあ、なんのことでしょうか」ニツ

梨子「……そういえばあの『ゴーストロック』って技……面白いわね」

真姫「？」

梨子「原理が」クスツ

真姫「……どうも」

真姫（まさか……いや、だとしたら早すぎる）

梨子「♪」

穂乃果「あそこ怖いんだけど……」ムグムグ

千歌「あんなにバチバチな梨子ちゃん初めて見ました……」ハグツ……！

海未「こら！もうすぐ試合が再開するんですから食べ過ぎないように！」

穂乃果「千歌ちゃんの大好物のみかんだよ！」

千歌「穂乃果さんのお家のほむまんです!!」

海未「誰も何を食べているかなど聞いていません!!食べ過ぎないようにと……」

穂乃果「これは栄養補給だよ！」

千歌「そ、そうですよ！試合を頑張るために必要なものです！」

穂乃果千歌「ねー！」

海未「……わかりました、では私が気合を入れて差し上げます」コオオオオオオ!!  
穂乃果「そ、それはないよ海未ちゃん……!!ほら、千歌ちゃんも何か……」

千歌「悪あがきはカツコ悪いですよ穂乃果さん……海未さん、やってしまってください」

穂乃果「裏切り方が手慣れてるよ!!」

海未「覚悟はいいですね?」

穂乃果「いやあああああ!!!」

衝撃で控え室が少し揺れた

凛「理亜ちゃんって陸上してたの!?!」

理亜「そんなわけないじゃない、サッカー一筋よ」

凛「なのにあんなに走り早いなんてすごいにやー!」

凛「凛いきなりスピード負けしちゃったし……」

理亜「……相手を褒めるならもう少し慎重になった方がいいわよ」  
凜「にや？」

曜「次は負けないって言われなくても伝わってくるんだけど？」フンツ  
凜「……にやは」ニツ

あんじゅ「ねえねえ！小さい頃からサッカー一筋って今も割と小さい頃じゃ  
理亜「ふっ…!!」ドゴオツ!!  
あんじゅ「ぐはっ…!!」ドサツ  
凜「何しに来たのかにやこの人」

ことり「はい、あーん♪」

花丸「あーん♪」パクツ…!

花丸「…美味しいズラア…!」パアア!

花陽「マルちゃん!こつちも…」あーん

花丸「あーん!」パクツ!

花丸「…美味しいずらあ…!」パアア!

ことり花陽(かつつつつわ…!!)

善子「あんまり食べたたら太るわよズラ丸」

花丸「善子ちゃんも食べてみるズラ、ことりさんのおやつ美味しいずらあ〜!」ムグ

ムグ

ことり「えへへ〜!ありがと〜!」

善子「…一つ頂いていいですか?」

ことり「どうぞ〜!」

善子(お菓子なんてどれも一緒でしょ、ましてや手作りなんて…)

善子「…いただきます」パクツ

善子「ヨハ〜♪」ポワポワ  
ことり花陽（あ、この子単純な子だ）

ダイヤ「ルビイは無事に帰ってこれるでしょうか……ソワソワ  
聖良「お手洗いぐらいで何ソワソワしてるんですか……おや？」チラッ

ワイワイガヤガヤ

ツバサ「みんなよく切り替えれるわね〜」ホッ！



エレナ「さっきまでばちばちだったのにな」ハッ！

聖良「……お二方は何をしているのですか？」

エレナ「いつせーのーでっ！だ」

聖良「嘘でしょう…!？」

ツバサ「高校三年間の休み時間ずっとこれしてたからもう誰にも負けないわよ」ホッ

！

エレナ「悪いな、私の勝ちだ」ニッ

聖良「3年間も何してるんですかって言うかそもそも運勝負ですし早速負けてるじゃないですか!!」

エレナ「ツツコミが忙しいな」

ツバサ「あなたもやる？」スッ

聖良「……はぁ」スッ

ツバサ「ベテランのテクニクを見せてあげるわ」ニッ

聖良「上がりです」

ツバサ「そんな…私の3年間は一体何だったの…!?」ガクツ

聖良「親御さんが泣いてますよ」

た なごやか(?)に見えるこの空気の中で、後半を見据えて悩んでいるものが何人かい

真姫「……」

真姫(…絵里が卒業したらこのチームのFWはわたしだけ)

真姫（実質私がエースになるけど……）

真姫（その称号を背負うだけの實力は、正直まだない）

真姫「……」

真姫「……ね、絵里」

絵里「ん？どうしたの？」

真姫「……エースストライカーって……なんだと思う？」

絵里「……」

絵里「……」

真姫「……！」

海未「さあみなさん！そろそろ準備を始めてください！」

みんな「はい！」

絵里「それじゃあ真姫、後半も頑張りましょう」

真姫「……ええ！」

真姫『エースストライカーって、何だと思う？』

絵里「………」

—————

ピシィッ…!!

絵里「私の氷が…！」

ルビィ「ルビィを凍らせるならもつと冷たく、強力に、ですよ！」

—————

絵里「……凜」

凜「どしたの？」

絵里「私と必殺技を打ってみたい？」

凜「………へ？」

絵里「私がシュートを打ったら、ディフェンスからそれに加わって欲しいの」

凜「り、凜が？」

絵里「野生高校戦で凜が【たつまきおとし】を代わってくれた時から思ってたの」

絵里「卒業するまでに凜と必殺技を打てたらいいなって」ニツ

絵里「前半何度も上がってきてきてキツイとは思うけど……」

凜「それは大丈夫だけど絵里ちゃんと合わせたことないから……」

凜「……少し不安だにや」

絵里「できるわよ」

凜「どうしてそう言い切れるの！」

絵里「私は凜を信じてる」

凜「……！」

絵里「根拠なんてそれで十分でしょ？」

凜「…それはずるいにや〜」ハア…

梨子「〜♪〜♪」トントトン

ことり「あれ梨子ちゃんが考える時の癖？なんだかおしやれだねー！」

千歌「いや、そんな癖なかったはずだけど…」

トン…！

梨子「曜ちゃん!!」グリーン!!

曜「はい!!ごめんなさい!!」ビクッ!

梨子「違う違う、ちよつと来てくれる?」

曜「…お怒りでない?」

梨子「お怒りでないからちよつと来て」

曜「…!」パアアアア…!

曜「はいはい!」タツタツタツ

ことり「…:梨子ちゃんって怒るとそんなに怖いのか?」

千歌「海未さんって多分本気で怒ると逆に静かになるでしょ?」

ことり「うん」

千歌「多分それに近い感じ」

ことり「ヒツ……！」

梨子「多分後半始まってすぐに来るから……」

曜「じゃああれでいい？」

梨子「ええ、それならみんなわかんなくない？」

曜「あらかじめみんなには言わないの？」

梨子「意識してるとバレて対策されてもあれだしね、不意打ちでカウンター仕掛けたいし」ニツ

曜「もうほんとに梨子ちゃんが怖いよ」



## 後半開始⑥

角間 「前半最後音の木坂が巻き返したが依然点差は0対1!!」

角間 「両者配置につきました!!」

梨子 「じゃあ曜ちゃん、頼んだわよ」

曜 「まっかせなさい！」 ドンッ！

角間 「さあ、キックオフです!!」

音の木坂0―1浦の星

ピーーーーーーーーーーーーーーーー!!

ドツ!

梨子 「善子ちゃん!」

善子 「ヨハネよ!」 トツ

角間 「FWの津島がボールを受け取ったあ!!」

にこ 「行かせないわよ!」 ザツ!

善子 「はっ!」 バツ!

善子 【デビルボール!】

パタパタパタパタ

トツ…!

にこ「はああ…!!」ガクツ…!!

善子「ヨハネには敵わないわよ!」タツタツタツ

にこ（こんなふざけたやつにやられるなんて…）

にこ「善子…!!」キツ

善子「ひつ…!ヨ、ヨハネよ!!」

角間「津島矢澤を抜いたあ!!安定したボールキープだあ!!」

ツバサ「…」

ダイヤ「いいですわ善子さん!」

善子「よし…!このまま…」タツタツタツ

あんじゅ「よーしこゝ!」ガツ!!

善子「んなあ!」ドサツ!

角間「おおつと!?優木のスライディングがクリティカルに決まってく!!津島ボール

を奪われたあ！」

角間 「前半の流れそのまま音の木坂がペースを掴むかあ!？」

穂乃果 「よーっし!!」

梨子 「…!?気づかなかった…」

善子 「いつのまに…!」 ムクッ

あんじゅ 「ひ・み・っ♪」

あんじゅ 「にこ!」 ドツ!

にこ 「花陽!希!」【ゴーストロック】行くわよ!!」 トツ

希花陽 「…!うん 「はい」!」

ザザザザッ!

角間 「またもや音の木坂が陣形を組んで攻め上がっていく!!」

希「マーレーマーレーマレトマレ！」ユラユラ

穂乃果「ああ…あの恥じらいのあつた希ちゃんが懐かしいよ」

ザザザザ!!

「ダイヤ「前半のことがあるのでむやみにディフェンスもできませんしどうしたら  
……」

曜「少し待ってて」

ダイヤ「？」

曜「すぐに動けるようになるから」ニッ

梨子（まだ……タイミングを見極めて……）

花陽 「いきます！」 バッ！

梨子 (来る……！)

花陽 「必殺タクティクス……」

花陽 【ゴーストロック!!】

ブワアアアアアア

角間 「またもや音の木坂の【ゴーストロック】だああ!!! 浦の星全員身動きが……」

梨子 「今よ曜ちゃん!!」

音の木坂 「!？」

曜（…っ！みんなついてきてよ…！！）

曜「全速前進——！！」

みんな「！！」

ダイヤ「え…？え…!?」

花陽「……！」ギクツ……！

浦の星「ヨ—ソロ—」

パアアアアアアアア

ダイヤ（あああああ…！！！！！！！！）  
つい反射で……！……つて……あれ？）

ダイヤ「動けますわ…」パタパタ

聖良「なるほど、そんな手が……」

千歌「えく!?なんで動けるの!？」

ツバサ「思つたより早く破られたわね」

真姫（やっぱりすでにタネがバレてた……!）

梨子（私の耳はみんなより敏感だからタネはすぐわかつた……）

梨子（そして……!）

梨子「花丸ちゃん！」

花丸「覚悟ズラア！」バツ!

梨子（必殺タクティクスを破られた直後は隙が大きい……!）  
にこ「ちっ……海未！」バツ!

花丸「させないズラ！」バツ!



花丸【もちもちきなこもち!!】

ブンツ!!

にこ「……っ……!!」ズズツ……

ポーン!

にこ「あぶっ……!」ゴロゴロ……ズザザ!!

花丸「避けられた……!!」

角間「なんとか奪われるのは避けた矢澤!! 弾いたボールは……」

絵里「ほっ……!」トツ

角間「絢瀬の元へ!」

花丸「ぬわー!!」

にこ「はっ……!良いところにいるじゃない!」

梨子「むう……」

タクティクスを破り不意打ちでカウンターを狙っていた梨子は予想が外れ少し残念な表情をみせた

絵里「……」トツ

一方、運良くボールを受け取った絵里は、何故かうつつむき微動だにしなかった

希「……エリチ?」

梨子「……?いただきます!」バツ!

にこ「絵里!!」

絵里「……」フー……

この間ロシアに帰った時  
おばあさまが教えてくれた

私はまだ小さい頃

ひどい吹雪の中ではぐれてしまったと

きつと私は、とても怖かったんだと思う

はぐれた時の記憶がすつぽり抜けていたから

だからその日のことをもう一度おばあさまから細かく聞いた  
匂いがする、音が聞こえる、肌で感じられるほど精密に

無くしたはずの記憶を掘り起こした

パキツ……………!

梨子「……………!」

ズザツ……………!

絵里「……………あまり近寄らないほうがいいわ」

絵里「今は私も……」ググツ……!

パキパキパキ……!!

絵里「……余裕がない……!!」グググツ……!!

梨子 ビクツ……!

チリイツ……!

みんな「……!!」

理亜聖良「……!!」

ツバサ「……味方だとこんなにもワクワクするものなのね」ニツ

あんじゅ「敵だと最悪だったけど」

エレナ「全くだ」

真姫「絵里……」

真姫「エースストライカーって……なんだと思う？」

絵里「……それは……」

絵里「かつこいいことよ！」ババン！

真姫「……真面目に話してる」ムクツ……

絵里「こつちこそ大真面目よ」

絵里「ピンチな時に流れを変えたら？」

真姫「…かっこいい？」

絵里「勝利のきっかけになれたら？」

真姫「…かっこいい」

絵里「プレイでみんなを勇気付けられたら？」

真姫「…かっこいい…！」

絵里「そういうことよ、難しく考えすぎ」ピンツ！

真姫「あたっ…！」

絵里「…私も、もう少しだけ足掻いてみようと思うの」

真姫「？」

—————

グシャグシャグシャ!!

真姫「……………っあゝゝ…もう…！」

パッ！

真姫「かつこいいじゃない……！」ニッ

梨子「……んっ……！」ジリッ……！

梨子（目の前にいるのに……近づけない……!!）

絵里「……っ……!!」パキキッ……!!



ビュオオオオオオオオオオ!!!

『お……かあさま……う……おばあ……さま？』カタカタ

子供の頃から付き合ってきた、友達のような雪が  
何を考えてるのかわからなくなつたのを覚えてる  
無表情に、無感情に攻め立てる

ああ、そうだった

あれは……

聖良理亜「……」

## 自然の暴力だ

絵里「づううるあああああ  
!!!!」パキキイツツ………  
!!!

ブワアアアアアアアアア  
!!!!  
パキパキパキ………  
!!!!

みんな「!?」

絵里「つぐ…!!」バキバキバキ…!!

穂乃果「絵里ちゃんが…!!」

花陽「凍ってる…」

氷の膜が身体を覆い尽くす

彼女の放つ冷気があたりの草木を固めていく

ゴアアアアアアアアア

千歌「梨子ちゃん逃げて!」

梨子（この勢い…まずっ…!）バツ!

角間「たまらず距離をとった桜内!! 絢瀬の辺りを氷塊が取り囲んでいく!!!」

落ちる、限界まで  
パキパキ……！

落とせ、限界から  
パキパキパキ……ガキイン……！！

ジリジリ……！

絵里「…あつ…!!」ズキツ…!

己の冷気に身を灼かれながら、少女は純粹に勝利を見据える

穂乃果「いつけえええ!!」

絵里「うおおああああああああ!!」バツ!!

ドキュツ!!!

ゴオオオオオオオ!!!

角間「絢瀬極限状態からシュートを放ったあ!!」

梨子「シュートブロツク!!」

ダイヤ「お任せを！」

絵里「…:…あら、いいの? そんなにのんびりしてて」パキイ…!

梨子「…!?!」

ダダダダッ!!!

凜「ふうっ……!!!」ダダダダッ!!!

角間「星空デیفエンスから上がってきている!! 今日何度目だあ!?! そこからシユートに加わるつもりか!?!」

梨子「嘘でしょ!?!」

果南「届くはずない……!」

ダイヤ「私の方が早いですわ!」バツ!

角間「黒澤シユートブロックの体勢!! 星空厳しいかあ!?!」

—————

絵里「私は凜を信じてる」

凜「……!」

絵里「根拠なんてそれで十分でしょ？」

凜「つづづづ……!!」ダダダダッ!!

ゴオオオオオオオオオ

絵里「凜!!」パキキツ……!

梨子「ダイヤさん!早くシュートブロックを……!!」

ダイヤ「は、はい!」バツ!

相手に必殺技の隙を与えるな

ダイヤ「ラ・フラ……！」

凜「遅いよ!!」バツ!

ダイヤ「……!?!」

梨子「まさか……っ」

絵里「凜!!」

みんな「凜「ちゃん」!!」

ツバサ「星空さん!!」



その一撃は、チームに勇気を与える…

凜「このボールにかける絵里ちゃんの思い……………」

凜「受け取ったあああああ  
!!!!」バツ!!

## 反撃の狼煙だ

ドキュツ  
!!!!絵里凜【氷結のグングニル!!!】  
バキバキバキバキバキ  
ゴオオオオオオオオオオオオ  
!!!!!!ゴオオオオオオオオオオオオ  
!!!!

角間 「出ましたあああ!!! 音の木坂の新必殺技です!!!」  
千歌 「さつきまでのシュートと迫力が全く違う…!!!」  
聖良 「皮膚がひりつく…!!」 ヒリッ…!  
理亜 「むっ…」 ムスッ

穂乃果 「あっははは!! いけー!!!」  
ツバサ 「伸び代なんてわからないものね」 フフ

ゴオオオオオオオオオオオオ  
ゴキッ……!!  
小細工なんていらぬ

ズアアアアアアア  
!!!!

正面からねじ伏せる!!  
バツ!!

果南【真・海竜の逆鱗槍!!】  
ドギユルルルルルル  
!!!!!!

果南 「つつ……!! ……ぐうう!!」 ググツ  
グググツ……!

角間 「松浦押されている!! 前半無失点で抑えてきた浦の星の守護神がついに破られる  
かあ!?!」

鞠莉 「果南……!!」

果南 「ぐっ………そお……!!」 ググツ……!

絵里凜 「いけええ!!!」

穂乃果 「入れ!!」

パキパキパキパキ!!!!!!  
果南 「!?凍っ……!!」 ググツ……!!



絵里「……ありがとう凜、私のわがままに付き合ってくれて」ニツ  
凜「はー……っ！ぜえ……凜っ……が……絵里ちや……の、お願い……！断るわけ、ない……じゃ  
んっ……!!」

絵里「……今すぐ凜を働かせすぎた責任を感じてるわ」ダラダラ

凜「この責任は重々感じて欲しいにや!!」ハア……!

穂乃果「2人ともナイスシュート!!」ガバツ!

絵里凜「のわああ!!」ガバツ!

海未「こら穂乃果!今は2人に休んでもらう時ですよ!」

エレナ「だが気持ちはわかるな、私も少しテンションが上がってしまった」

花陽「へ……?」

ツバサ「え、今上がってるの?」

みんな(思ってること言ってくれた……)

エレナ「失礼だな」

にこ「まーなにはともあれ同点よ!穂乃果!」

穂乃果「うん!まだまだ試合はここからだよ!張り切っていこー!!」

みんな「おー!!」

真姫「絵里」

絵里「？」

真姫「……………かつこよかつたわ」ニツ

絵里「……………まだまだだよ」ニツ

果南「……………はぁー」ドサツ

前半あれだけ自信を持って止めてたからかな

空が青いなあなんてことを思いながら仰向けのまま動けなかった

ダイヤ「背中汚れますわよ」

果南「…ユニフォームでそんなこと気にする？」クスツ

千歌「果南ちゃん！ドンマイ！」ニイツ！



果南「いや点取られた時が今日一番の笑顔」

理亜「根性が足りない」

果南「手厳しい……！」

花丸「お餅！」

果南「だから!?!」

聖良「……皆さん元気付けようとしてよくわからないことになってますね」

曜「理亜ちゃんのは本音な気がするけど……」アハハ……

果南「……ごめんみんな、心配かけちゃったね」

千歌「まあ本当はそんなに心配してないんだけどね」

果南「そんな……！」ゴーン……!

千歌「果南ちゃんならって信じてるから」ニツ

果南「…バカ千歌」フイツ：

鞠莉「あれ？果南照れてるの？」

花丸「後ろ向いても耳が真つ赤ズラ」

果南「あーもう！っさいな!!」バツ！

果南「まだまだ試合始まったばかりだよ!!気を引き締めて点取りに行こう!!」

みんな「おー!!」

千歌「あー！千歌が締めるはずだったのに！」

果南「ね、梨子！次の作戦を…」クルツ

梨子「【神のタクト】封じのマンツーマンディフェンスはそんなに毎回できないはずだし凜ちゃんの体力も考えてそこを突いていくのも視野に入れながらこちらはどんな攻めを見せるかが問題になってくるんだけどそれ以上にあちらの守りを読み切らないと簡単には崩せない守備力を持つてるから不用意に責めることはできないだから攻撃力

の高いルビイちゃん理亜ちゃん千歌ちゃんの動きを効果的に……」ブツブツ

鞠莉「ストツプストツプ梨子!! 果南が怯えてるわ!」

果南「松浦、梨子、怖い」ギョッ

ルビイ花丸善子理亜（普段しつかりしてるのにこういう時どうしてここまでポンコツになれるんだろ…）

梨子「とりあえずルビイちゃんと理亜ちゃん、お願いできる?」

ルビイ「うん!」

理亜「わかった」

ことり「それじゃあ行ってくるね希ちゃん！」

希「頑張つて〜！」フリフリ

角間「控えの南と東條が交代！今試合は一度までなら再交代が認められています！」

花丸「ことりさん参戦ズラ！」

理亜「別にたいして変わらないでしょ」

自分たちの知る南ことりは「ルーラ・オブ・スペース」という異名を持ち

「ワンダーゾーン」といった強力な必殺技を使いこなす曲者

しかしこちらのことりは一目見た感じ、フィジカル面、精神面でも特に脅威になると思わなかった理亜は思ったことをそのまま口にする

ことり「♪」

理亜「気の抜けた顔してるわね」フウ

角間「試合は後半開始早々同点に！先に主導権を握るのはどちらのチームだあ!？」

音の木坂「——浦の星

千歌穂乃果「行くぞ!!」

みんな「おお!!」  
ピ—————!

⑦

音の木坂——浦の星

千歌穂乃果「行くぞ!!」

みんな「おお!!」

ピ—————!

ルビイ「理亜ちゃん!」ドツ!

角間「鹿角へとボールが渡ります!」

梨子（正直さっきの一点はまずかった…あれで勢いに乗られる前に理亜ちゃんどルビイちゃんでごつちのペースにしていきたい…）

理亜「……ふっ……!」ダツ!

ザザツ……クルツ!

真姫「うぐっ……!」ガクツ

角間「鹿角まずは1人抜いたあ!!」

梨子(ただ…)

理亜「……!!」 トツ

ことり「いらっしやあ〜い♪」

梨子(ことりさんの実力が未知数すぎる…!!)

理亜「……あなたの相手してる暇なんてないのよ」ダツ!

角間「おおつと鹿角先手必勝!! ディフェンスをさせる隙を与えません!!」

理亜(ほら、思った通り大した相手じゃ…)

ルビィ「理亜ちゃん!! 油断ダメ!!」

理亜「!?!」

♪

ガシヤン  
!!!!

理亜「はっ……!?」キキツ……!

角間「鹿角足を止めた!? 一体……」

理亜（南ことは抜いたはず……なにか起こって…）

気づけば理亜は冷たい何かに閉じ込められていた

檻?

いや……



「かーごめーかーごめー」ザッ

理亜「……！」

「かーごのなーかのとーりーはー」

ザッ……！

ことり「いーつーいーつーでーやーる。」

理亜「南ことり……！」

角間「南が鹿角を足止め!! 巨大な鳥籠の中に鹿角を完全に捉えています!!」  
海未「毎回思うんですがことりはいつ必殺技を習得しているのでしょうか…」

ことり「ふふ」テクテク

理亜「こんなので私を足止めできると…」ガシヤツ…

タラツ…!

理亜「…!」ゴシゴシ

理亜は自分が冷や汗をかいていることに気がついた

理亜（…緊張してる…? 私がこの人に?）

そこまで考えた理亜は軽く首を横に振った

いやいや、そんなはず…

ことり「かわいいね、かわいいね」

理亜「つつ…!!」ゾアアツ!!

切りそろえられた前髪の間から覗くことりと目があった

瞬間、感じた

冷たい手で

心臓に触れられているような

体温が失われていく感覚

ことり「貴方のこともっと知りたいなあ……」ニコツ

理亜「……!!!」ビシッ…!!

理亜（体が動かな……!!!）

【小夜啼鳥恋詩】



角間「同点に追いついた音の木坂！いきなり追加点のチャンスかあ!?」

ポタツ…ポタツ…!

理亜「かはっ…!!っぜえ…!!はあ…!!」ガクツ

善子「ちよっ…!どしたのよ理亜!」バツ!

額から汗が滴り落ちる

ボールを取られた直後

肺が久しぶりに酸素を取り込むのを感じ、呼吸すらできていなかったことに気づく  
理亜「……く…そっ…!」カタカタ…!

ことり「よーし!」トツ

先ほどとは打って変わっていつもの明るいことりに戻っていた

角間「絢瀬、星空のシュートからチャンスが続いていきます!!音の木坂優勢!!」

梨子（もつと警戒するべきだった……ここを乗せたら持つていかれる!!）

海未「くださいことり!!」

ことり「うん！」

ドツ！

曜「ふぐうつ……!!! トツ！

ことり海未「……!？」

梨子「曜ちゃん!!」

角間「渡辺のパスカットオ!! 浦の星踏みとどまる!!」

花陽（警戒してなかったわけじゃないけど……追いつくの!?!）

曜「……」チラッ

理亜「はっ…はっ…!!」ブルブル  
聖良「理亜…!!」

なんで

震えが止まらない、呼吸も浅い

緊張状態がずっと続いている

ことりの必殺技により受けたプレッシャーが引き金となり  
理亜の中に眠るある出来事が掘り起こされる

ゾゾゾゾ…

嫌だ、知ってる、この感じ、嫌だ  
体に不安がまとわりつくような  
二度と味わいたくないあの感覚が







れ止まれ止まれ止ま

トンツ……!

理亜「……!」バツ

曜「……」

理亜「……曜?」

顔を上げると曜が目の前にいた

私の胸に拳を当てて

曜「見えて」

と、短く言い放った

ザッ!

曜「…フー…」

曜「……準備はいい？」

「…初めてだね」

ルビィ「こんな風に曜ちゃんと合わせるのには」ニツ

曜「……理亜ちゃんと攻めるって話だったと思うけど」

曜「私が理亜ちゃんの代わりになるよ」

角間「渡辺と黒澤が並び立つ!!これは一体……」

穂乃果「まさか……」

曜「力足らずなのには目を瞑ってよ……!」ダンツ……!!

グググツ……!!

凜「あれはルビィちゃんの……!」

ルビィ「そう思うなら全力でついてきて!」ダンツ!

グググツ……!

2人は足を踏ん張り今にも倒れるほど体を前に倒す

試合の最初にルビィが見せた準備動作

ロケットスタート



始まる

曜ルビィ

【スプリントワープ【G2】【GX】!!】

ダツ!!

海未「止めまーー

ドツ！ ドツ！トツ…シユダツ!!

海未「はっ…!?!」ガクッ

角間「園田一步も動けず!! 高速ワントゥーに追いつけない!!」

鞠莉「あはは! いいわ! 派手に行きましよう!」

梨子「予定してなかったけど悪くないわ…! 曜ちゃんルビィちゃん!」

理亜「…」

エレナ「読み切れるか花陽!」

花陽「目で追うのがやつとなのに2人相手なんて…!」

ルビィ「曜ちゃん遅れてるよ!!」ヒュツ…!!

曜「くうっ…!!」ダツ!!

ドツ！トツ……シュバツ！！

曜「……っ……どうだっ……！！」トツ！

ルビィ「まだまだだ！！」ニツ

絵里「追いつけな……！！」

エレナ「くっ……！！」

角間「抜いていく抜いていく！！さらにシュート圏内へと切り込みます！！」

海末（せっかく絵里、凜、ことりが作ってくれた勢いが……！）

パタパタパタパタ……！！

リバーシ、自分の色が次々と相手の色に変わるイメージ

角間「おおっとしかし……！！」

曜「……！！」タツタツタツ！

花陽「これ以上好き勝手はさせない……！！」ザツ！



角間「小泉標的を絞ったかあ!? 渡辺に集中マークだあ!!」

渡辺「その勝負、受けて立つよ…!!」グツ…!!

曜はさらに足に力を込める

ググツ…!

花陽「…」ブツブツブツ

…考えろ、ひと時も思考を止めるな

今のプレイだけでも曜さんの色々な動きが見られた

速さ、利き足、得意な攻撃パターン、重心の位置

花陽（見極めろ…!!）キツ…!!

花陽【「ディフェンス方程式!」バツ!

曜「……………」

たしかに花陽ちゃんの分析はすごいよ

今の動き出しだつて的確で素早い

試合開始に比べて精度がどんどん上がってきてて

蜘蛛の巣みたいにしわじわと領域を広げられてる感じ

花陽（いける…!!）

でも

曜「少し足りなかったね」

ダンツ…!!

花陽「空へ跳んでっ…!?!」ガクツ…!

ダツ!ダツ!ダツ!!!

曜【エクストリームワープ!!】

角間「渡辺が空へと駆けだした!!ここにきて隠していた新必殺技で小泉を抜きさりました!!」

穂乃果「空で…【スプリントワープ】!?!」

【エクストリームワープ】は今の自分の限界点、故に体力の消耗が激しい  
それでも使った理由…

花陽【スプリントワープ】が平面の世界なら【エクストリームワープ】は立体…!!」

花陽（掴んだと思ったのに…っ…!!）ジャリッ…!

【スプリントワープ】が破られる気配がしたから

曜は花陽を決して侮らなかった

曜「っは…!怖いなあ…!!」タツタツタツ!!

海未「花陽まで抜かれては……！」  
パタパタ……！」

ああまずい、また色が変わる音がする

曜「……つぶはあ……！お願い！」ドツ！

ダイヤ「準備はいいですか2人とも!!」バツ！

千歌ルビィ「はい「うん」!!」バツ！

角間「黒澤と高海が上がってきたあ!!小泉綺麗につられてしまいました!!」

花陽「……!!」ギリツ……！」

千歌「……は絶対……決めてみせる!!」

パタパタパタパタ………！

せつかく掴みかけた流れ

逆転への道筋が見えていながら浦の星の素早い機転により

パタパタ………！

パタンツ………！

今、盤面は敵の色一色に染まりきった

海未「………」

角間「ゴール前は完全にフリーだ!!」

穂乃果「来おおおおい!!」パンツ！

グツ……ダンツ!!!

グルグルグル!!      グルグルグル!!

ギユオオオオオオオオオオ!!!!

バツ!

ドキュツ!!

ルビイダイヤ千歌【サンシャイントルネードTC!!!】  
ゴオオオオオオオオオオオオ!!!!!!



海未（すみません穂乃果、今の私達では……！）グツ

穂乃果「うぐぐぐ……!!!」ズズッ……!

花陽「頑張つて穂乃果ちゃん！」

花陽（ここで失点するのはまずい……！）

凜「穂乃果ちゃん!!」

絵里「穂乃果!!」

ギョルルルルルルルルル!!!

千歌「押し切れええ!!!」

ルビィダイヤ「いける……!!」

果南「決まれ!!」

穂乃果「……つぐう……!!」グググッ……!!!

決勝でツバサさんたちと戦つて、たくさん悩んで、苦しんで



みんなで乗り越えてやっど日本一になった  
でもまだまだこんなに強い子たちがいて

穂乃果「……っはは……！」グググッ！

世界って広いなあなんて呑気なことを考えながら  
気づけば笑っていた

ツバサ「……！」

バチイツ!!!

あんじゅ「あ……」

ドサッ！

ドシユルルルル  
!!!!!!

角間「き、決まったあああ!!!相手の攻めを見事カウンターにつなげた浦の星が貴重な追加点をもぎ取りました!!」

千歌「いやったあ!!」バツ!

曜「わわわ…!!急に飛びついたら危ないって…!」

ダイヤ「ふふ、元はと言えば2人が巻き返してくれたからですわ」ニツ

曜「いやー全力だったね」あはは…

ルビィ「次はもつとスピード上げてみよつと♪」

曜「昔の優しいルビィちゃんはどこに行ったんだよう……」クスン

千歌 ヨシヨシ

果南「ここ取れたのは大きいよ!」

花丸「たたみかけるずらあ!!」

鞠莉「あの頃のふわふわしたマルは一体どこに…!」

曜「果南ちゃんに完全に感化されてるね」

スウーーーーー……！！

ハアーーーーー……！！

理亜「……」

フルツ……！！

理亜（まだ抜け切らない……）

理亜（南ことり、多分狙ったわけじゃないだろうけどここまで乱されるなんて……）

聖良「……理亜、大丈夫ですか？」

理亜「……ちよつと動揺しただけ、もう動ける」

聖良「だいたいですがね」

理亜「……? どういう……」

ルビィ「理亜ちゃん！」

理亜「ルビィ……！」

さつきは自分が止まってしまったせいで作戦が狂った  
一体何を言ってくるのかと理亜は身構えたが……

ルビィ「もう終わり？」ニツ

理亜「……言うじゃない」ニツ

聖良（理亜に効く一番の特効薬はルビィさんなのかもしれないね）クスツ  
僅かに寂しさを覚えながらも聖良は安心したように頬を緩ませた

梨子（……今の理亜ちゃんに中途半端な声かけは逆効果ね）

梨子（理亜ちゃん是不安定、でもここで抑えるとそれこそ終わっちゃう）

梨子「……賭けるしかないかしら」フウ……

バシツ!!

理亜「痛つ……!!」ビクツ!

梨子「頼んだわよ」ニツ

理亜「……わかってる」

梨子（…『わかった』とは言ってくれないのね）

理亜「……」グツ

ザアアア……！

風の動きに合わせて擦れ合う木の葉の音が心地いい

穂乃果「………うっ……！」ピクツ

意識がハッキリしてくるにつれて自分が吹き飛ばされたことを思い出した

海未「穂乃果！大丈夫ですか!？」ザッ

なかなか起き上がらない穂乃果を心配して海未が駆け寄ってくる

それほど海未はさっきのシュートに圧倒されていた

穂乃果「い……てて……！」ムクッ

海未「一体何度目でしょうかね、この光景も」フフ

倒れている穂乃果に手を貸しながらどこか楽しそうに微笑む

穂乃果「あんまりお馴染みになりたくないけどね」アハハ！

たくさん**の強敵と戦ってきた、その度に見た光景**

不思議と安心している自分たちがいた

穂乃果「……ねえ海未ちゃん」

海未「……なんですか？」

穂乃果『キーパー……穂乃果じゃなきやダメ……?』

穂乃果「サッカーって……楽しいねえ」

海未「……!」

なぜだろう、穂乃果の口からその言葉を聞いたことが無性に嬉しかった

海未「……そんな呑気なことを言ってる場合ですか」ピンツ!

穂乃果「あてっ……!」

にこ「海未のいう通りよ!」

穂乃果「にこちゃん!」

にこ「せっかくの押せ押せがたった一手でひっくり返されたのよ、そんなに樂觀的じゃ後半全部持つてかれるわ」

穂乃果「ふう……！」

花陽「エレナさんは今【ディフェンス方程式】使えますか？」

エレナ「……私は花陽ほど人を読み込むのが得意じゃない、前回は花陽が相手だったからできただけだ」

花陽「そうですか……」

エレナ「その代わりと言ってはなんだが……」

エレナ「……いや、やっぱいいい」

花陽「？」

ツバサ「突破口が分からなければ試合の中で見つけるしかない」

ツバサ「誰かが見つけるんじゃない、主役は他でもない自分自身、肝に銘じなさい」

みんな「おお!!」

海未（チームを締める時はやはり綺羅さんが頼りになりますね）

花陽（綺羅さんに気合い入れてもらえるなんて感動だよ〜！）

ここ（分かる〜）

海未「2人とももうただのファンじゃないですか」



ことり「理亜ちゃん大丈夫かなあ……」

あんじゆ「入ってきてすぐ人のトラウマ掘り返すなんて大したものね」

ことり「そんなつもりじゃなかつたんです!!」

あんじゆ「あーあ、一年生になんて残酷な……」

ことり「だからちが……!」

あんじゆ「悪い女ね〜」

ことり「うわー!!!」

海未「あまりことをいじめるのはやめていただけますか?」 ミシツ……!

ことり「海未ちゃん……!」

あんじゆ「あなたのセコム怖すぎない?」 イタイイタイ

タイトル「野性解放」

ザッ!

角間「両者配置につきます！後半まだ始まったばかり、結果は誰にもわかりません!!」

穂乃果「……!」

千歌「……!」

負けないよ

こちらこそ

穂乃果千歌

ニッ

角間「さあ追加点をもぎ取った浦の星!!音の木坂再び追い込まれました!!  
角間「互いにペースの探り合いが始まっています!」  
ペースの探り合い?

梨子「……」

そんなに生易しいものじゃない

花陽「……」

相手を読み切れ、奪い取れ

勝つのは

穂乃果千歌「……」

私たちが

音の木坂1—2浦の星

ピ—————!!  
ドツ

ルビィ「はああ!!」ガツ!!

真姫「なっ…!!」ガクツ…!!

角間「おおっと早速黒澤がボールを奪ったああ!!」

千歌「よっし!!」

にこ「ちよ……!!何してんのお真姫!」

真姫「ごめん!!」

ルビィ「理亜ちゃん!」ドツ!

理亜「……!!」トツ

角間「再び鹿角からボールを回していく!」

花陽「やっぱりそうきますか……!!」

海未（シンプルかつ最も面倒ですね）

ことり「行かせません!」ザッ!

理亜「……!!」ビタッ……!!

角間「先ほど止めた南が再び鹿角の前に立ちはだかります!」

いつもの理亜なら迷わず抜きにかかっていただろう  
しかし……

理亜「……ルビイ！」ドツ！

ルビイ「！」トツ

無意識とは行動に現れる

角間「ここはパスを回して回避していききました！」

花陽（消極的なパスは見逃さない……！）

ガガガツ！！

ルビイ「っ……!？」トトツ！

凜「ポーツとしていいのにかにや？」ガガツ！

角間「星空が素早いマーク!!前半から動きが全く落ちません！なんという運動量だあ

!!

海未「先ほど攻められていた間に少し休めたようですね」

にこ「それでも体力馬鹿すぎるわ…」

ルビィ「ううくく…つと!!」クルツ!

凜「のわあ!!」ガクツ!

角間「しかしここは華麗にかわしていく!!」

穂乃果「おいしい!」

にこ「次行けるわよ!」

ルビィ「危ない…」トツ

梨子（ボールは取られなくても爆発力が足りない…）チラツ

理亜「……っ」

梨子（理亜ちゃんはやっぱり動きが固い…どうする、どう攻める…!）

たとえ試合を優勢に進めていようと

一瞬の停滞が命取りになることを梨子は理解していた

梨子（ここはひとまず【神のタクト】で…!!）

ダイヤ「ルビイ!!」ダツ!

梨子「!?!」

ルビイ「?……っ!……うん!」バツ!

真姫「なっ……あれは……!!」

グツ…

ダンツ…!!ダンツ…!!

理亜「……!!」

梨子「ルビイちゃん!?ダイヤさん!」

あんじゅ「嘘でしょ!?!」

角間「センターラインからシユート体勢!!攻撃のリズムを変えてきたかあ!?!」



穂乃果「そんなところから……!!」グツ

理亜（何を考えて……打ち合わせも何もしてない、走れってこと？それとも本当に直接狙いに行った？）

不安な時は体より先に頭が働いてしまう

理亜（どうする……私はどう動けば……!）ジャリツ……!!

ガシツ!

理亜「!?!」グイツ……!

曜「うだうだ考えずに走りなよ!!」ダツ!

理亜「ちよ……離して!!」ダツ!

角間「渡辺が鹿角の手を引いて上がっていく!?!」

花陽「……」

あんなところからシュートを打つても敵にボールをプレゼントするようなものだ  
じゃあそれ以外

シュート以外の残された選択肢は……

花陽（……シュートに見せかけたFWへのパス……！）

ツバサ「マーク!!」

同様の思考を巡らせていたツバサは一足先にチームへ指示を出す

花陽「私も……!!」ダッ!

グルグルグル!!グルグルグル!!

バツ……!

ドキュツ  
!!!!

ルビイダイヤ【ファイアトルネードDD!!】  
ゴオオオオオオオオオオオオオオオオオ  
!!!!

ゴオオオオオオオオオオオオオオオオ  
!!!!

角間 「黒澤姉妹がシュートを放ったあ!!」  
ギユウウウン!!

角間 「しかしこれはゴールを外して……」

海未 (やはりシュートではなくパス……!)

それは信頼か非情か

角間「鹿角へのパスだああ!!!」

理亜「…っ…!!」

自分を見失っている理亜に対し同情のかけらもないキラークラス

FWとしての役目を果たせといわんばかりの勢いで理亜へと襲いかかる

梨子「今の理亜ちゃんにあんなボール…!!」

聖良「あの2人だから出せるんですよ」

梨子「それってどういう…」ハッ…!!

梨子「…確かにそうかもしれないね」

ルビイダイヤ「…!!」

—————

理亜「私達に勝つたんでしょ?今、同点なんでしょ?今決められたらまずいってことぐらい、あなたなら分かってるでしょ!!!」

理亜「頑張りなさいよ!!!」  
 アンタが倒れるのは試合に勝ったあとよ!!!今は立つの!!!  
 理亜「動けえええええ!!!」

!!!

理亞「黒澤姉えええええ!!!」ズザザ…!  
 理亞「繋ぐって言ったでしょ!!!」パキキ…!!  
 理亞「本当の黒澤ダイヤを見せて!!!」ドツ!

角間「黒澤姉妹のパスに合わせて鹿角が走る!!しかし読まれている!!音の木坂DFが集まっています!!」

花陽「これだけ囲めば…!!」タッタッタツ  
 あんじゅ「油断はダメよ、相手は変態なんだから」タッタッタツ  
 ことり「変態…」アハハ… タッタッタツ  
 にこ「わーかってるわよ!」タッタッタツ

角間 「鹿角完全に囲まれたあ!!」

梨子 「……っ」 ギュツ

タツタツタツ

曜 「……ねえ理亜ちゃん」

理亜 「……?」

曜 「また同じことで悩んでるんだね」 フフ

理亜 「……は?」

煽りにも聞こえるその言葉に思わず反応してしまう

曜「難しく考えすぎなんじゃない？」

理亜「……………」

こんな状態になったことがないからそんな気楽なことが言えるのだろうか  
理亜は少なからず曜に対して失望の感情を露わにした

曜「だってもう理亜ちゃんは全部体験したことでしょ？」

理亜「……………」

曜「初めて克服した時、失敗するの怖がつてた？期待を裏切るかもなんて考えてた？」

躊躇って足が動かないなら、強引に動かしてやる!!

いいから黙って私の言うことを聞け体!!

ゴオオオオオオオオオオオオ!!

角間 「黒澤姉妹が繋いだボールが鹿角へと向かう!!」

花陽 「理亜ちゃんを抑えます!!」

にこ 「にこがいく!!」 バツ!

にこ 「ふっ……!」 ブンツ!!

ズシユウウウウ………!!

ブワアアアアアアアア!!!

にこ 「スピニングカット!!」



角間 「ここは素早いディフェンス!! 矢澤が止めにかかります!」

花陽 「タイミングは完璧……! これで……」

ここ「……………!」

オーストラリア戦

絶対的な場面

技  
超えるつもりだったライバルに鼓舞され、周りに助けられてようやく完成させた必殺

それでも決められなかった

みんなが信じてくれたのに

期待を裏切った

その日から、ゴールに向かうとあのシーンがフラッシュバックするようになり

ついにはシュートが打てなくなってしまう

後ろを向こうとする自分を無理矢理前に向かせて乗り越えた

…はずなのに、またそれに悩まされている

ブワアツ……!!!!

にこ「…!?」【スピニングカット】が……!!

花陽「うぐっ……！」ブワツ!!

パキパキパキパキ!!!!

理亜【Awaken The Power!!!】

ブワアアアアアア!!!!

トツ!

角間「鹿角【Awaken The Power】で【スピニングカット】を正面突破あ!!矢澤、小泉ごと吹き飛ばしボールを受け取りました!!」

にこ「なんつ……で、通じないのよ……!!」ギリツツバサ「……!!」

角間「勢いを取り戻したかあ!？」

梨子（取り戻した……というより弱い自分を必死に振り払おうとしているだけのように見える……）

理亜（止まるな、考えるより先に体を動かせ……!!）

花陽「くっ……!!」ブワアッ!

ゴロゴロ……ズザザザ!!

花陽「……つあんじゅさん!!ことりちゃん!!左右から挟んで!!」

あんじゅことり「ええ「うん」!」ダッ!

スピニングカットと同時に飛ばされた花陽は体勢を立て直しながら指示を飛ばす  
彼女は守備の要だから

花陽（ここで畳み掛けないともう後がない……!!）

理亜「……………！」

ズシツ…！

理亜（落ち着け、大丈夫…大丈夫だから…）

ルビイとダイヤが繋いでくれたこのボールですら、今の理亜には重くのしかかる

曜「……………」ポリポリ

肝心な時に上手く話せないなあなんてことを思いながら頭を掻く

子供の頃、よく周りの人に言われた

曜ちゃんは天才だねって

でも高校に入って、サッカーを始めて本物の天才たちに出会った

もちろん努力をしているのは知ってる

人一倍ストイックなのも

でも

努力じゃ超えられない壁の先に彼女たちはいる  
『私が理亜ちゃんの代わりになるよ』

……なれないのはわかってる、でも

天才（すごい人）たちに少しでも追いつきたかった

「凡才はどれだけ足掻こうと天才にはなれない」

曜と理亜

気丈に振る舞っているように見えてどこか脆く繊細な2人

あの時、理亜の胸に当てた手は震えていた

理亜（……本当はわかってる、曜が私に伝えたかった事）

送られたのは

『見せて』

たった三文字の短い一言

の  
裏の言葉

『私は少しでも先に進むよ』

『理亜ちゃんはどうする?』



ルビイが戻ってきた時に  
ルビイが継承したことを後悔するぐらい…強くなつてやる  
使いこなしてやる  
!!!!

「見てなさいルビイ…私がアンタの技…」

理亞「奪つてやるんだから…!!」

—————

パキパキパキ…ツ!

………言われなくても

花陽「……!?!」



ザッザッ……ヒュッ……!!

ブワアアアアアアアア!!!

あんじゅことり「きやあああ!!」ブワアッ!!

ドサッ……!!

「……ハア……パキイツ……!」

こんな壁、何度だって超えてやる

角間「鹿角がデیفエンダーを吹き飛ばした!! 圧倒的な突破力だあ!!」

花陽「あの2人が抜かれた……!?!」

凜「抜かれたっていうレベルじゃないにや!!」

あんじゅ「ことのせいでもつとめんどくさいことになったんだけど!!」ムクツ……！  
ことり「だからわざとじゃないんですってば!!」ムクツ……！

曜「……悔しいなあもうっ……!!」クシヤッ……！

今の自分では到底たどり着けない場所を軽々と走る理亜に少しばかりの嫉妬をにじませるがその表情はどこか嬉しそうだった

梨子「理亜ちゃん……!!」

理亜「こんなところで立ち止まってる暇なんてないのよ」トツ

ルビィ「帰ってくるまで随分かかったね」ニツ

曜「……ルビィちゃんのその余裕も怖いよ」

聖良「信頼ゆえですね」

曜「本当に可愛いルビィちゃんはどこに……」

「……!!」

曜「！」クルッ

理亜「タラタラしてたら見えないとこまで行つちやうから」ニッ  
曜「……舐めんな後輩」ニッ

穂乃果「来なよ理亜ちゃん!!」パンツ!!

理亜「……」コクッ

角間「鹿角と高坂の一騎打ちだあ!!」

理亜「……つふつつ!!!」

ドゴオツ…!!

理亜はかかと落として地面にボールを叩きつけ力を溜める

理亜「はあああああ!!!」グググツ……!!!

パキパキパキパキ……!!!

ブワアアアアアアアアアア!!!!

理亜の叫びとともに冷気が高まる

その光景はまさに…

絵里「……自然の……暴力……」

理亜「あああああああ!!!」グググツ…!!  
もう二度と、こんなことが起きないように  
弱い心を持った自分が顔を出さないように  
過去の自分との

決別の叫び

ルビィ「……つつ……!!」

ルビィ「いけええ理亜ちゃん!!」

理亜「うおああああ!!!」クルツ……!

ドキユツ!!!!

理亜【Awaken the beast!!】

ゴオオオオオオオオオオオオオオオオ  
バキバキバキバキバキバキバキ  
!!!!!!



穂乃果「最後まで諦めなかった方に笑うんだよ!!」ジャリツ……!!

角間「高坂構えたああ!!」

ゴオオオオオオオオ!!!

希「あれは……【マジン・ザ・ハンド】……!」

聖良「無駄ですよ、今の理亜は止められません!」

穂乃果「……無駄かどうかは!!」グググツ……!!

理亜「……!!」

穂乃果「やってみてから考える!!」バツ!!

メキメキメキ……!!

みんな「!?!」

角間「高坂のマジンが姿を変えて……!」



彼女の必殺技は感情に左右される

【焰】の元は「勝ちたい」という純粋な想い

自分の中の一番の願い

ただ、それが別のものに入れ替わっていたら

「勝ちたい」以上の感情が芽生えていたら

『ねえ海未ちゃん』

『サツカーって……』

穂乃果「……………!!」ニツ！  
理亜「……………!!」ゾクツ…！

ギユルルルルルルルルルル  
穂乃果「つ…!!」ズズツ……………！  
角間「高坂踏みとどまる!?!鹿角のシユートを掴んで離しません!!」  
理亜「決まれええ!!」  
凜「止まれ!!」  
穂乃果「……………つっ悪いけど…!!」ググツ…!!  
ルビィ「!」

ギユルルルルルルル  
ツシユウウウウ……!!!

パシッ!!

理亜「なっ……!?!」

穂乃果「ここは止めさせてもらうよ!」

角間「と……止めたああああ!!!高坂見事止めました!!」

海未「穂乃果ああああ!!!」

ことり「穂乃果ちやあああん!!」

あんじゅ「……あなたたちの幼馴染なんなのほんと……クスツ

鞠莉「That's great!!まさに「グレイト・ザ・ハンド」ね!」

花丸「褒めてる場合じゃないぞらあ!!」

角間「音の木坂の反撃です!!」

にこ「……」

角間 「音の木坂の反撃です!!」

穂乃果 「にこちゃん!」 ドツ!

角間 「矢澤へのパスだあ!!」

にこ 「……任せて!」 トツ!

ツバサ (……矢澤さん?)

先程理重が過去のトラウマを思い出し、自信を喪失していたが

千歌「はああ!!」ズザザ!

ここ「!」バツ!

ここ(そんなスライディングでやられるわけ…!)

千歌「いよっ…!!」ガッ!

ここ「なっ…」グラッ…

ドサッ

思いつめていたのはにこも例外ではなかった

穂乃果「にこちゃん!？」

希「にこっち!？」

角間「矢澤ボールを奪われた!?!珍しいミスだ!!」

にこ「つく…!」

この試合一度も通用しなかった自慢の必殺技「スピニングカット」に加え

ここまで大した働きができていないストレス

エキシビジョンとはいえ、意識しない方が無理がある

希（にこっち無駄に責任感強いからなあ…）

海未「花陽!!凜!!にこのカバーを!!」

花陽凜「う、うん!」

角間「浦の星再びチャンスだあ!!」

『…っなんで……なんでえ……？』ポロポロ

ムクツ…

にこ（…なんか一瞬、あの頃を思い出した）

ーーー数年前

自分がまだ希望に溢れていたあの頃

そして

自分が無力だと叩きつけられたあの頃を

…  
…  
…  
…  
…  
…

にこ（っ…黄昏てる場合じゃない…!!）ブンブン!!

まわりつく記憶を振りほどきには前を向いた

にこ（花陽と凜がカバーに向かつてくれる…ここで私が粘らないと…!）

ザッ…ザッ…!

誰かが近づく

にこ「……綺羅…ツバサ？」

ツバサ「……少し気になったんだけど」

ツバサ「あなたは今、どっちなの？」

にこ「…」

ああ、思い出す



『…本気で言ってるの?』

『うん、バイバイ』

一年生の途中、メンバーが誰もいなくなってサッカー部は廃部になった  
小さい頃から夢みてた憧れの舞台

「フットボールフロンティア」で全国の猛者たちと競い合う

そんな理想と現実のギャップから精神的に不安定になりながら  
『……』

ツインテールを解くことはなかった

ワーワー！キョウハキテクレテアリガトー！

にこ『この子…可愛いわね』カチカチ

「自分勝手すぎでしょ」

「みんながみんな日本一目指してるわけじゃないんだけど」  
「違うんだよ、にこと私たちは」

「…一緒にいるの…しんどい」

ポタツ…ポタツ…!

にこ『…!』ズズツ

ピピピピ!

にこ『学校……行かなきゃ』ゴシゴシ

シユルツ…

キユツ!

にこ『……よし!』パンツ!

精神的支柱の1つ

サッカーができなくなったあの頃の自分にとって  
アイドルという存在だけが自分の心の支えだったのかもしれない  
あの頃アイドルという存在がなければ  
矢澤には今ここにはいなかっただろう

「ここに……で、誰よあんた？」

「ひっ……バレてた……」

いつのまにかには何も無い空間にいた

希や花陽、絵里が自分の中の後悔と向き合った場所

「ここに（これ、希の言ってた……）」

何も無い真っ白な空間

ニコ「……わたしの名前はニコ！」ニコッ！

後悔の空間

にこ「……何よ、にこは心残りなんてないんだけど」

ニコ「本当に〜?」

にこ「はああん??」 イラッ

ニコ「やあくん! そんなに睨まれるとニコこわーい!  
なぜだろう、イラっとした

にこ「あんたなんか結構ってる暇なんてないのよ、早く試合に戻らないと……」  
バツ  
ジャラッ……!

にこ「……なにこれ」

にこは自身の足に結びついている鎖に気がついた  
もう一つの端はニコへと繋がっている

にこ「……外れないんだけど」 ガシヤガシヤ

にこ（……結構錆びてるわね……）

ニコ「ん〜? 別に今に始まったことじゃないよ?」

にこ「は？じゃあいつからこんな…」

ニコ「高校一年のあの日だよ」

にこ「…!!」

『なんで……みんな辞めちゃうのよお……っ!!』ポロポロ

ニコ「精神的に限界だったにこは」

ニコ「つらい記憶をアイドルという偶像で包み、蓋をした」

にこ「…あんたまさか」

ニコ「ニコ♪」

角間「さあボールを奪った高海！反撃のチャンスだあ！！」

ツバサ「ねえ…おしえて」

ニコ「……………」

ツバサ「今のあなたはアイドル？サッカー選手？」

ニコ「あの日からはこれはこれまで以上にアイドルにこだわるようになったね  
ニコ……………」

自分と鎖で繋がれたこの状態

依存

真つ先にそんな言葉が思い浮かんだ

ニコ「そんなに睨んでもにこが私を必要としてる限り絶対にこの鎖は切れないんだよ、アイドルのニコニー大事でしょ？」

にこ「……」

ニコ「別にそれでいいじゃん、今まで通り、「アイドルとしてサッカーしてれば」

にこ「……」

ニコ「……っねえ、無視しないでよ」

にこ「……随分と急かすのね」

ニコ「……っ」ビクッ

笑顔を絶やさなかったニコの表情がわずかに強張った

にこ「私は……」



にこ「弱かった、あんたに頼らないと今にも崩れてしまいそうぐらい」  
にこ「…………でも今は」

にこ「1人のサッカー選手として」サッカーがしたい」

まつすぐと、なんの揺らぎもなくにこは答えた

ニコ「…また、一年生の頃の二の舞になるかも…」

どこか焦りが見えるニコ、まるで何かを察しているようなかのように

にこ「あいつらが簡単に離れるわけないでしょうが」

ニコ「!」

にこ「…私はもう」



ニコ「ー…」

ピシイッ…!

鎖に亀裂が入る音がした

ズズズ…ズズ…!

ツバサ「……!」

ツバサ（これは…）

にこ「……じゃあね」ガシヤツ

ニコ「私は……いらなの？」

にこ「ええ」ガシヤガシヤ

視線すら合わせずにこは鎖を外す

ニコ「……これまでずっと……頼ってきてたのに……」

にこ「……！」

ニコ「いらなくなったらそうやって切り捨てるんだ……!!みんな!!」

にこ「何よ……なんでそんなに怒って……」

ニコ「……みんな!!最初は友達だったのに!!」

にこ「!!」

—————

『バイバイ、にこ』

パタン…

にこ」………」

ポロポロ

—————

ニコ「うづう……！」ポロポロ  
にこ「………」

…なぜすぐに気がつかなかったんだろう  
この子はアイドルのにこじゃなかった

1人になって、アイドルにしか頼るものがなくなったあの頃のにこだ  
ニコ「なんで…なんでえ…っ…」ギョツ…!

にこの服に顔をうずめ泣きじやくる

にこ(……あの時の感情は、今でもはつきりと思い出せる)

自分の中では区切りをつけたつもりだったけど、無意識にまだ引きずっていたみたい  
だ

ニコ「ひとりにしないでよお……」ズズツ…!

にこ(………)

さつきまであれほど憎たらしかったのに、今では吐き気がするほどほっとけなかつた

にこ「あんたを切り捨てるなんて、誰がそんなこと言ったのよ」

ニコ「？」

にこ「私ね、ずっと引つかかってた」

にこ「大会で優勝して、仲間ができて、願いは叶ったはずなのに、思い残すことなく何も無いはずなのに」

にこ「心のモヤモヤが消えないの」

ニコ「……」

にこ「でもあんたと話してスッキリした」

にこ「にこはきつと、この試合を最後にサッカーをやめる」

ニコ「！」

にこ「だからお願い、この試合だけは……アイドルとか、関係ないこと全部忘れて夢中でプレイしたい」

ニコ「……やだ」

にこ「あんたは私の中の……苦しかった部分を全て背負ってくれた」

にこ「……ありがとう」

ニコ「……」ゴシゴシ

にこ「ひとまずアイドルのにこにーはお休み、わかった？」ナデ：

ニコ「……でも」ズズツ……！

にこ「……」

いつからだっただろう

友達が怖くなくなったのは

「明日」が当たり前になったのは

別れ際、馬鹿正直なあいつらがいつも言ってくれるあの言葉に

にこ「……ー」

私はどれだけ救われていただろう



にこ「……………また…ね…？」

ニコ「……………！」

ゴシゴシゴシ!!

ニコ「……………うん、また！」ニコツ!

にこ「……………」ニツ

みんな怖いんだ、1人になるのは

だから約束する

「次」また会えるように

バキツ……!

ズズズズツ……

千歌「……！」ピタッ

梨子「なに…あれ？」

ここ　ズズズズ…

絵里「にこの体から黒いオーラが…」

希「にこつち…？」

ツバサ「……っ」ブルッ

にこの体から吹き出すドス黒いオーラを間近で感じながらツバサは悟った  
超えたな、と

ここ　ギロッ…!!

千歌「ー…!!」ビクッ…!

ガガガッ!!ザッ……ガガッ!!!

千歌「ふぐうつ……!!」トトツ……!!

梨子「千歌ちゃん!!」

千歌（一瞬で詰められてっ……!!!?）

角間「これは矢澤が猛チャージ!!ボールを奪われた直後気合いで高海へ飛びつきます!!」

ガガガッ……ザザ!!

千歌「んむうつ……!!」ガガガッ!!!

千歌「つ……ぷはあ!」トツ……!!

にこ「へえ、やるじゃない」ザッ

角間「高海を止めたあ!!自身が作ってしまったピンチをなんとか抑えました!」  
花陽凜「!」ピタッ

絵里「……今のにこの動き…見た?」

真姫「?いつものデیفエンスじゃない、多少気合いは入ってたみたいけど」

絵里「それだけじゃないわよ」

真姫「?」

曜「変わった?」

梨子「……」

梨子（力強くしなやかな動き、さつきまでとまるで違う…）

曜「油断は禁物ってことでいい？」

梨子「……油断どころか」

にこ「……」ザッ

千歌「……！」ジリッ…

私たちの知っている矢澤にことこちらの矢澤にこはどちらも矢澤にこだった  
プレイスタイルこそ違えど普段の立ち振る舞いから言動、笑い方まで  
すべて同じだった

筈なのに……

穂乃果「……なんか」

穂乃果「いつものにこちゃんじゃないみたい」

穂乃果（でも、嫌な感じじゃない…）

今まで何度も見たはずなのにこの笑顔が

にこ「あつは……！」ニッ

千歌「……」ゾッ…

とても怖いものに見えた

ニコ「……………」

ちぎれた鎖を手にはニコは立ち尽くしていた

にこはまたねと言いのこし行ってしまった

にこには楽しい記憶が詰まっている

ニコには苦しい記憶が詰まっている

私が居なくなれば

今度は純粹に、アイドルを、サッカーを楽しむことができるだろう

ニコ「……………」

ジャラツ……………」

鎖は全体的に錆びており、ボロボロだ

最近まで綺麗だったのに、あの日から瞬く間に腐敗が進んだ

『あんたはいつつも先頭走って後ろを振り返らないんだから』

『たまには先輩の背中を黙って見てなさい』

…薄々感じてた、にこが本当の意味で立ち直ろうとしていることに

わたし（不安の受け皿）がいらなくなってきたことに

心細くて仕方なかった

—————

えーん、えーん

?? 「どうしたの？」

にこ 「……一人になっちゃった」グスツ

?? 「……大丈夫、わたしがいるよ」

にこ 「? あんた誰よ？」

?? 「……」

ニコ 「わたしはニコ、ほら、元気出して」

にこ 「……あんたはそばにいてくれるの？」



ニコ「うん！」

ニコ「…信用できない」

ニコ「……………」

ジャラララララ!!

ニコ「！」ガチャン

ニコ「これで安心？」

ニコ「……………うん、安心する」

ニコ「ほら、にっこにっこにー！」

ニコ「わたしはずっとそばにいるよ」

ニコ「……………絶対？」

ニコ「うん！一人は寂しいし」

ニコ「ふふ、確か……………に……………？」フラッ

ドサッ

ちゅんちゅん！

ムクツ

にこ「……………なんの夢…見てたんだっけ」

ニコ（……………）

わたしの役目が終わって、このまま消えるんだと思つてた  
でも

にこは私を一人にしないと求めてくれた

苦しい思い出すら抱えて一緒にいてくれると言つてくれた  
……………次会うときはなんて言おう

こんにちは？久しぶり？

いや、まずは……………

最高の笑顔で「アレ」を見せてもらおうか

にこ「……ふふ」  
千歌「っ……！」  
ジリッ

梨子（また状況が変わった……なにがあったの？ツバサさんと少し話してすぐに……）

ツバサ「今の矢澤さんはそつとやちよつとじや止まらないわよ」ニツ

あんじゆ「すごく自信満々などこ悪いけどあなた声かけただけじゃない」

凜「……ねえ海未ちゃん」

海未「何ですか？」

凜「凜ね、魚嫌いなんだ」

海未「……?」

凜「元はそうでもなかったんだけど」

凜「小さいとき骨が喉に刺さってから嫌いになっちゃった」

凛 「星空凛だに……です！」

凛 「刺さったままにしてるとその間ずっとモヤモヤした気持ちになっちゃってヤなんだけど」

花陽 「無理して変わらなくていいんだよ」

凛 「！」

凛 「取れた時はすごく気持ちがいいんだにや」

海未 「そうですか……」

凛 「うん！」

海未 「……凛」

凛 「ん？」

海未「一体何の話だったのですか？」

凜「にゃ!?」ガーン…!

ここ「おらあ!!」バツ!

千歌（来るっ…!!）ザッ

ガガッ!! トツ…ズザッ…ガガガッ!!!

ここ「はあく!! いいわよもつと来なさいよ!!」ガガッ!!

千歌「んにいつ!!」ズザッ!

千歌（さつきまでとプレイが違いすぎてっ…体が追いつかない…!!）ジッ

ここ「ふっ!」バツ!

千歌（…！また、あの目だ…っ）

千歌はにこの目に変化を感じていた

千歌（さつきまでとは違う。深く、底が見えないほど暗い…でもどこか解放されたような…）

にこ「うおらあああ!!!」バツ!!

千歌（――…悪魔みたいな目）

ズシユウウウウ…!!!

ズアアアアアアアアアア!!!

千歌「うわあああ!!!」

曜梨子「千歌ちゃん!!」

テンテンテン

コロコロ……

トツ

にこ【デーモンカット】ニツ

角間「迷いのない激しいプレイ!!先ほどのミスで吹っ切れたかあ!?!」

希（これが…アイドルを捨てたにこっちのプレイ…）

真姫「うおらーって叫ぶのはいいの？アイドル的に」

にこ「にこはサッカーしてんのだよ!!黙ってなさい!!」



穂乃果「いいぞーにこちゃん！」

にこ「いくわよ！」ダツ！

梨子「何でこう予想外が起こるかなっ……!!」ダツ！

鞠莉「だから面白いんじゃない！」

果南「さー気い引き締めなよ!!勝負どころだからね!!」

みんな「おお!!」

ツバサ「味方に気圧されてる場合じゃないわよ!!攻め時を見逃さない!!」

みんな「……は、はい!!」

にこ「!」タツタツタツ

曜「ここは通行止めですよっ!」ザザッ!

にこ「……」キョロッ

聖良「……!」ジリッ

にこ（曜を抜いても後ろには聖良が…）

ツバサ（さあ見せて矢澤さん、あなたの「全力の」プレーを）

にこ「……………」

あのエキシビジョンマッチの時、ママは必殺技を使わなかった

手を抜くことが嫌いな監督がそれを指摘しなかったことは、使ってはいけない理由があつたのだろう

にこ「……………ふうー……………」

……………今ならわかる、なんでにこが小悪魔って言われたのか

『ねえ知ってる？昔、音の木坂の悪魔って呼ばれた人がサッカー部にいたんだって』  
点と点が線でつながった気がした

ズシユズシユズシユズシユズシユ  
曜聖良「なっ…!?!」ジリッ…!!  
!!!!

角間「矢澤【デーモンカット】でDF2人を取り囲んだあ!!」

梨子「……………!」

にこ（これが……………今のにこの全力…!!）

一度捕まれば二度と出ることはできない絶対領域

にこ【デビルズ・サンクチュアリ】

ズアアアアアアアアアアアア  
!!!!!!

曜聖良「うぐああっ!!」ブワア!!

デーモンカットのオーラが渦を巻き、中にいるプレイヤーを搦めとる  
角間「矢澤渾身の新必殺技!! 渡辺と鹿角を飲み込む、まさに魔の聖域だあ!!」

……ドサツ!!

曜「つ…キツツイなあ…!!」ググツ

聖良「わたしのところまでつ…威力も…!!」ゴホツ…!

花丸（善子ちゃんが好きそう…）チラツ

善子「……………」

花丸「？」

鞠莉（超広域ディフェンス、タクティクスブレイクとしてもかなり面倒くさそうデー

ス…………）ウーム…………

梨子（……もうさつきまでのにこさんと思わないほうがいいわね）

梨子「…………けど」

梨子「ディフェンス!!にこさんにつられすぎないように!!マーク2人!!」  
みんな「おお!!」

ザザザ!!

にこ「つち……随分対応が早いじゃない……!」

ダイヤ「そうしなければならぬところでずつと戦ってきたからですわ!」ザツ!

花丸「ここで止めるズラ!!」ザザツ

角間「瞬時に守備の形を組み立てる浦の星!!矢澤完全に足を止められた!!」

にこ「……やつと……来れたわよ」

ダイヤ花丸「?」

にこ「……!!」キツ……!

にこ「希いい!!」ドキュツ!!

希「……!!」

梨子（マークを外していない……希さんにパス……!?）

真姫「何やってるのよにこちゃん!! 何でわざわざ希に……」

理亜「ルビィ!!」

ルビィ「いただきます!」ダッ!

真姫「ほらあ!!」

にこ　　コクッ

希「……」

—————

ワーワー!

希「うわあ……!これがサッカーの試合かあ……!」

にこ「あれ、希本来に来たんだ」

希「うん!サッカーには少し興味があつたから、頑張つてねにこっち!」

「ここにまっかせなさいよ！」ニツ

希「にこつち……」

にこ「……希……わたし、1人になっちゃった……」

にこ「どこで間違ったかなあ……」ポロポロ

希「……う、うちがサッカー部に入るよ!!だから……」

にこ「……あんたはあの金髪といえるのが楽しいって言ってたでしょ、半端なことすんじゃないわよ」

希「でも……」

にこ「それに……今は誰のことも信じたくないし……」

にこ「……」

にこ「サッカーをするつもりもない」

希「っ……」

にこ「もしわたしが、またサッカーに向き合えたら、その時は……」  
にこ「あんたを一番に呼ばせてもらおうわ」

希「そっ……！」

にこ「……バイバイ」

希「っ……!!」ギリッ……！

希「うちは……諦めないから!!にこっちのサッカーしてる姿、絶対また見るから!!」

—————

希（あの日から、ようやくにこっちをサッカーの世界に連れてくることのできた）

希『あれ〜？にこっちやつと入部か〜』

希『今頃入部ってどれだけツンデレ…』

にこ『希……!!』



あれから何度も呼ばれた、わたしの名前  
でも今、本当に、何故だろう

『希い!!!』

クンツ………!

ルビィ「なっ……」スカツ

希「うちのボールよ?」トツ

やっと……名前を呼んでくれた気がした

カチツ…カチツ…

あの日から止まっていた私たちの時計が  
動き出す

⑨

これまで二種類の音を持つ人は何度か見てきた  
人間と墮天使、二つの顔を持つ善子ちゃんがいい例だ  
でも……これは……？

希「はああ!!」

クルツ…ザザザツ ……ダツ!!

角間「東條止まらない!!矢澤の気持ちさがこもったボールをしつかりと受け止め前線へ  
と駆け上がる!!」

梨子（音の数が……）

梨子「2、いや……3、4……5……!?」

梨子（こんなの……ありえない……!!）

希（はは……!キツツイ……）

梨子「……っ!」ゾクッ

希「なあっ!!」ダッ!!

梨子「あぐっ……!?!」ガクッ

角間「またもや抜いたあ!!」

希の武器は一度見たプレイをコピーでできること

連続でのコピーは体かなりの負担を強いるが関係ない

エレナ「思い出すな、決勝での東條希のプレイを」

ツバサ「いきなりは心臓に悪いほんとうに」

トットツ……シュダッ!!

花丸「そっち……!?!」ガクッ

希（次は…誰をつ…！）

今の希は常に最適な誰かを写し続ける  
誰にも止めることは……

「これは骨が折れそうね、ヨハネ♪」

「……」

希「……！」タッタタツ

角間「東條の前に小原と津島が立ちはだかる!! 勢いに乗っている東條を止められる  
かあ!？」

鞠莉「残念だけどこここまでよ!!」バツ!

希（……まずは一人）

「……………」

ツバサ ザツ…クンツ…!

鞠莉「お……つと……！」カクツ…!

希（前半に一度見れてよかつた…!）

情報が多いほどコピーはより精巧さを増す

千歌「鞠莉ちゃん!!」

曜「あれを止めるのはいくら鞠莉ちゃんでも…!」

ダイヤ「…忘れたのですか二人とも」

千歌曜「？」

ダイヤ「私たちの必殺タクティクスを一人で壊滅させたのは誰だと思っ  
ていますの？」

鞠莉「♪」

希「UTX高校、綺羅ツバサ」

バツ!!

角間「先に仕掛けたのは東條だあ!!」

鞠莉「……それ、めんどくさいのよねえ」

スツ

テクニク勝負に持ち込まれると厄介だと判断していた鞠莉はすでにその対策を立てていた

バチバチバチツ!!!

花陽「……!」

【グランド・スイーパー】のオーラが鞠莉の体に取り込まれる

希「なに……して……っ!」ザザツ……!

エネルギーが収束していく、大気が震える

鞠莉「耐えられるもんなら耐えてみなさい!!」ググググツ……!!

先のことを想像するより早く

希「……あ」

本能が「逃げろ」と叫んでいた

海未「希!!!」

鞠莉【グラウンド・ゼロ】



……パラパラパラ

爆発後の異常な静けさ

【グランド・スイーパー】とは比べ物にならない規模、威力

爆発の中心にいた鞠莉と希はタダでは済まないだろう

ユラツ……

立ち込める砂けむりの中、揺れる影が一つ

絵里「そんな……」

鞠莉「んんん!! excellent!!」ノビー!

爆発の中心、文字通り『爆心地』となったはずの鞠莉は無傷、呑気に伸びをしながらこちらへ歩いてくる

あんじゅ「……バカはどっちのチームにもいるものね」

凜「うっそー……」

角間「……す、凄まじい爆発でしたが……」

絵里「希は……!!」

ゴロゴロゴロ!!!

ズザザツ……!!

「ゴホッ……!!はあっ……!!」 ユラツ……

海未「……あれは……」

ボフアア!!

希「ギリツギリ……!!」ダツ!!

角間「東條無事だああ!!!ダメージを食らいながらなんとかボールをキープ!!」

角間「砂煙の中から速度を緩めず駆け抜ける!!」

鞠莉「What's!?!」ゴーン……!

ダイヤ「ツメが甘いですわ!!!」

花丸「タフずら……」

にこ「あのでかい脂肪で助かったんでしょ」

花陽「おっぱいはそこまで万能じゃないよ!!」

希（抜けた……!!これでは……!）

「あら、私は無視するの?希さん」

希「後ろ…!!」バツ!

「……………」

これは、エキシビジョンマッチ  
なんでもありの特別な試合  
それなら……

ガッ!!

希「はえ…!?!」ガクツ…!!

善子「日本代表リベロを甘く見てもらっちゃ困るわよ」クスツ

【Deep Resonance】

私が出てきてもいいわよね？

角間「つ、津島だああ!!!デフェンスに戻っていた津島が共鳴により見事ボールを奪い  
ました!!」

凜「なにあれ!?動きが全然違うよ!?!」

海未「成長…というわけでもなさそうですね」

ここ「…面白いじゃない」ニツ

花陽「……………」

さつきから試合の流れが……

花陽「なんでずっと押されるんだろ…」

エレナ「……花陽？」

花陽「っ…！」ハッ！

花陽「ご、ごめんなさい！集中します！」

ツバサ「さあみんな、またデیفエンスよ！気を引き締めて！」

みんな「はい!!」

海未（なぜ少し嬉しそうなのですか…）はあ…

ツバサ「♪」

梨子「もうっ…すぐ勝手するんだから！」

花丸「あとでチョップを食らわせるから安心するズラ」

善子「…？」ゾクッ

善子がお仕置きを受けるのはまた後のお話

善子「千歌！」ドツ！

千歌「……」トツ

角間「高海へボールが渡ったあ!!」

あんじゅ「んゝ、とりあえず足止めさせてもらおうかしら」ザツ！

千歌「……」ブツブツ

あんじゅ「？」

曜「千歌ちゃん……？」

ダメ…ダメだつてば…!!

いいじゃん！善子ちゃんもやってたし

でも…

エキシビジョンだよ？ワンプレイだけだから！

ううゝゝ…!!

あんじゅ「うだうだやってるならボールもらうわよ」バツ！

曜「千歌ちゃん!!」

千歌「……」

ガツ……トツ……クルツ！

千歌? 「……よし」トツ

角間「コンパクト!!しかし激しい緩急!!優木を振ったあ!!」

あんじゅ「あ、あら……?」ポリポリ

にこ「なに簡単に抜かれてんの……よっ!!」ブンツ!!



ズシューウウ……!!  
ズアアアアアアアアア  
ここに【デーモンカット!!】

花陽「にこちゃん!？」

さつきまで前線寄りにいたはずのにこがデイフェンスに参加していることに驚く花陽

しかしすぐさま切り替える、コレがいまの矢澤にこなのだから

にこ「流石にこれで…」

「……そんなの」

にこ「……!」

ブワアアアアアア!!!

チカ「きかねえええ!!!」ダッ!!

にこ「…っこいつ…!!!」

角間「高海千歌ゴリ押しの正面突破あ!!」

理亜「…脳筋」

梨子曜「チカちゃん!!!」

チカ「ひう…!」ビクッ

花陽（あの必殺技を破る突破力…）

花陽「囲みます!!」

ザザザッ  
!!!

角間「音の木坂デイフェンダー陣が高海を囲む!!」

海未「いくら千歌といえどコレは…」

チカ「…ふふ」

みんな「！」

千歌「こうなったら千歌の出番だよね！」バツ！

ザツ!!クルツ……ズシュ!!

凜「この技はっ……!!」ガクツ

千歌【Zスラツシュ!!】

角間「星空を抜い……！」

海未「ことり!!」バツ！

ことり「うん!!」バツ！

梨子（……！止まることのない波状攻撃……！）

千歌「……でも」クンツ……！

海未「ことり「!?!」」

ザッ……クルッ……！

千歌【リバーズ・乙スラッシュ!!】

ズシュウウウウ……!!!

みんな「きやああああ!!!」ブワァッ!!

ドサドサッ……!!

千歌のドリブルにより音の木坂のデイフェンス陣は皆吹き飛ばされてしまった

真姫「……見間違いかしら？」

絵里「現実から目をそらさないで、真姫」

ツバサ「デیفエンス全滅したんだけど…規格外すぎない？」クスクス  
真姫絵里「笑い事じゃないんですけど!!」クワツ!!

ツバサ「ご、ごめんなさい…」

千歌「……」スツ

チカ「いくよ、止めて見なよ、チカのシユート」ジャリツ……!  
ギユオオオオオオオオオオオ  
!!!!!!

果南「ちよつと…いいのダイヤ！」

ダイヤ「ええ、あくまでエキシビジョンですから」

ダイヤ「半殺しで勘弁してあげましょう」

聖良（妥協して半殺しなんですか？）

花丸（優しいズラ〜）

聖良（優しいんですか？）

ギユオオオオオオオオオ

チカ「うおあああああ  
!!!!!!」バツ!!



穂乃果 「さあっ!!!こおおお

曜 「バツチリだよちかちゃん！」

穂乃果 「!!」バツ！

チカにばかり気を取られて気づかなかった  
はるか上空から曜の叫ぶ声が聞こえる

曜 (私の飛び込み技術で一番得意な技!!)

「前逆宙返り3回半抱え型」

曜 「いっけええええええ!!!」バツ!!

ドキュツ!!

曜 【Xブラストオ!!】

ゴオオオオオオオオオオアアアアア  
!!!!!!



角間「高海と渡辺のシユートチエイン!!!

## 構想??

理亜ちゃんオーバーサイクロン

飢えは加速する

思い出させてくれてありがとう

忘れかけていた

ルビイの圧倒的な力に焦がれていたあの感情を

あの時の悔しさ（飢え）を

反射

それすなわち



「全日本高校陸上100メートル!!日本記録を大幅に更新!!」  
「その選手の名は——……!!」

---

凜「……ふぐうつ……!!」トツ……!!

理亜「……なっ……んで!!」ガクツ……!!

真姫

鞠莉のエネルギーを体に貯める

足りないならそれを補う方法 技術

体に溜めてインパクトの瞬間爆発させる

豪炎寺のマキシマムファイア

運転や料理

みんな、最初は考えながら手足を動かす

次はあーだったな、ここはこーだったな

ただ、数を重ねることに

―――……、―――……

ただたどしい手つきからジョジョに洗練されていく

体が、思考に慣れてくる

分析も同じだ

初めて戦う相手、初めて繰り出される必殺技

能力が足りない自分にとって

この瞬間だけは自分の無力さを思い知る

最初は追いつけない、間に合わないプレイ……

花陽（…でも）

「!?」

ガガガッ…!!!ズザッ!!

甘えるな、何度も何度も体に叩き込め

（…っ、この子、だんだん動きが鋭く…!）

ああ、近づいてる

決勝、あの時、疲労の中で到達したあの極地に

無駄な情報が削ぎ落とされていく感覚

手足が勝手に動く感覚

データが…

花陽「……体に馴染む感覚」ニコッ

「……は」

た  
凜はサッカーを始めてから持ち前の運動神経でいろいろなことができるようになって

ドリブル、ディフェンス、シュート

ただ、まだ荒さが見える

お前は不器用なんだ

トトツ

お前は相手に対応するために色んな動きを取り入れたな

うん！頑張ったにや！

…ふざけるな、何がしたい？

へ？

お前ほどのポテンシャルがあるのなら

相手に合わせるんじゃないやなく……

相手に「合わせせろ」

対応を強要しろ

サッカー歴の浅いお前が後出して勝とうとするな

ウイニングロジック

神のタクトF I

デイフェンスコマンドv o 1 2

ウイニングロジックがあるせいで常に神のタクトを発動していなくてはならない  
選手の体力はみるみる削られる

デイフェンスコマンドV o 1 2

凜自信ないよ…

私は凜ちゃんならできると信じてるよ

でも…

私は信じられる？

うん！



それじゃあ…

私（花陽）が信じるあなた（凜ちゃん）を信じて

【ウイニングロジック】はエレナの視野と花陽の分析で相手の動きを見破る

そこにさらに花陽がアイコンタクトで一瞬で味方に指示を出す

つまり

超広域視野、無意識下での分析、瞬時の情報共有

【ウイニングロジック vol. 2】

ヒラヒラヒラヒラ迷い込む

まるで綺麗な蝶々のように

曜「…!!」

花陽ちゃんの分析はすごいよ  
まるで蜘蛛の巣みたいに……

張られた罨へ導かれ

曜（まさかもう……

花陽　　ニツ

その生涯を終えるのだ

キラんツ……!!

【アングリーバード!!!】

ありえない

いくらルビイが人並みはずれた身体能力を持つていても

花陽が人より身体能力が劣つていると言つても

一度抜かれた状態から再び正面に現れるなど

ありえな……

ルビイ「ありえないなんてこと、絶対にありえない……！」ハア……！

花陽「つ……!!」

汗がすごい、息も乱れて

花陽（必死なんだ、全力を尽くして、不可能を可能にしようとしてる）

ルビイが力を出し尽くしているのは理解しているが、不意の出来事に体が追いつかな

い

花陽（だめ……取られる……!!）

凜「横取り!!」ガッ!!

ルビイ花陽「!?」

なぜ：私の動きについてこれるのですか？

：園田流、我が家に代々伝わる日舞です

あなたの舞を見た時、体に電流が走りました

父の方が練り上げられているはずの舞

種類は違えど

キレも表現力も父の方が優れているはずなのに：

———：

『風』

無風状態の海面のこと、波は立たず水面は鏡のようになる

穂乃果が自分をないがしろにする発言をした時

水面に波が立ち、ざわめきだった

心の乱れ

己を律せられぬものは未熟者

父にそう教えられ鍛錬を重ねてきた

：はずなのに

なぜでしょう

あなたの舞を見ていると

ザザザザア……

たまらなく水面が歪む

穂乃果を叱った時とは違う、醜い感情

『嫉妬』

穂乃果「……海未ちゃん？」

海未「……ごめんなさいダイヤ、私は……」

海未「どうしてもあなたに負けたくないみたいです」

【演舞の舞】

海未ちゃんは嫉妬とかしないの？

するわけないでしょう

えく？

相手ができて自分ができないのはただの努力不足、鍛錬が足りていないだけです  
矢が当たらなければ当たるとまで

竹刀が速く振れなければ振れるまで

シュートが外れるなら入るまで

全てのことは努力次第だと、思っています

思っていました

「だめだ海未、全然できてない」

「え……？でも言われた通りに……」

「形だけ真似てもだめだ、感情を、気持ちを乗せて舞うんだ」

『表現力』

あの時私は、初めて才能という言葉が頭をよぎりました

ボフォオオオオオ!!

美しい、ああ、美しいな

お父様が言っていたのはこういうことだったのか

私とは大違いだ

ザワツ……

私とは……

……私も

——あなたのようにになりたいなあ——

花陽（途中式じゃ相手にもならない……!）

ほら、さつきまで手も足も出さず立ちはだかっていた問題が

ドロドロ……

いつのまにか、解（溶）けている

花陽（ルビイちゃんのドリブルには一瞬溜めがいる……!）

パスコースは塞いだ、エレナさんと2人なら……止められる!!

ルビィ、ファイトルの構え

花陽（シユートの構え……！想定の範囲内……！）

花陽「シユート警戒!!ターゲットマークを……」クルツ

ルビィが抜き去る

花陽「……へ」

花陽には全てのデータが揃っていた

もちろん、ルビィがあそこからシユートを打つ可能性があるということも

「分かっていた」

花陽「……やられた……!!」

そう、ルビィもまた

花陽が「分かっていた」ことを「理解し（わかっ）ていた」

ルビィ「情報を多く持っていた方が勝ちなんて誰が決めたの？」トツ

信じられないことは

信じることから生まれる



氷結のグングニル  
デルフィナス凍る  
果南「うるさい」  
バキイツ!!  
止める

「それなら……!」

「たしかにいい作戦ね、できないという点を除けば」

「……!」

「できるかどうかじゃないにや!やるからなないかで

「成功する確率が1%でもあるのなら挑戦」

「それ以外は無謀というのよ」

【キラークィールズ】

憧れは嫉妬に

嫉妬は目標に

目標は……

ライバルに

?

ツバサと花陽で繋いでクロスファイア

止められて神のタクト

デビルバースト止める

ルビ理亜クロスファイア

希がAwaken真似する

ツバサと花陽で攻め上がるも体力不足

「私たちとの決勝みたいにならないように今までの何倍も体力をつけること!!」

ファイトルTC

神のタクト

デビルバーストGX

エレナが凜にギリギリのパス

ルビィ、スノーエンジェル破り

ミラクルウエーブ

スピニングカット破り

エボリューションGX

ツバサによる0から1

後半

氷結のグングニル

1 | 1

希抜け

ルビィと理亜で攻め上がって！

ナイチンゲール

理亜一時離脱

曜「私が理亜ちゃんの代わりになるよ」

ルビィ曜「スプリントワープ」パス

サンシャイントルネードTC

1—2

ファイトルファイトル

ダイヤと理亜並走

全国大会で戦った時の方が怖かったですわよ？

見てください

仲間を信じろ

とでもいうのだろうか

そんなありきたりな言葉に自分で恥ずかしくなる  
ただ

嫌な気はしなかった

スピニングカット破りながらAwaken

best

楽しい気持ちから「グレイトザハンド」

ツバサがにこに「あなた小悪魔って言われたのね、ぴったりだと思っわ」クスッ  
「その様子だとあなたは、ずっと小悪魔のままなかしらね」

凜ね、魚嫌いなんだ

小さいとき骨が喉に刺さってから嫌いになっちゃった

凜「星空凜だに……です！」

刺さったままにしてると一日中モヤモヤした気持ちになっちゃってヤなんだけど

花陽「無理して変わらなくていいんだよ」

凜「！」

取れた時はすごく気持ちがいいんだにや

罅迫り合い

千歌（またこの目だ……）

千歌（深く、底が見えないほど暗い……でもどこか解放されたようにすら感じる……）

千歌（……悪魔みたいな目）

にこ悪魔

デーモンカット

奪う

お母さんたち

みんな悪いところばかりにちやうのよね

今ならわかる、なんでにこが小悪魔って言われたのか

あの時のエキシビジョンマツチの時、ママは必殺技を使わなかった

手を抜くことが嫌いな監督がそれを指摘しなかったことは、使つてはいけない理由があつたのだろう

「ねえ知ってる？昔、音の木坂の悪魔って呼ばれた人がサッカー部にいたんだって」

デビルズ・サンクチュアリ

希がいろんな人になる

M F 2、ツバサ

シユート

0 から 1

鞠莉【グラウンド・ゼロ】

ツバサさん避けてる！

善子　　ディープリゾナンス

チカ

デーモンカット　効かねー

「……っ……いつ……！」

囲まれる

「そんな馬鹿正直に突っ込んでくるならありがたく止めてやるわよ！」

「こうなったら千歌の出番だよね」

Z からのリバース

ミラクルウエーブ

デビルズサンクチュアリ

にこ止める、こぼれ球を千歌に奪われる

にこ吹き飛ばされる



「いくよ、止めて見なよ、チカのシュート」

ブラックアツシユ

Xブラスト

にこ突破されて倒れてるところから

にこ、いけますか!!

部長を甘くみてんじやないわよ!!

…!にこにつられて2人まで…!

一夜城・輝夜

グレイトザ・バンド

弾く

「このタイミング、外すはずがありませんわ」

マキシママファイア

誰かから体張ってエレナが「ファランクス」弾いてコーナー

「いいみんな?どれだけ無理だと思っても、楽しむことを忘れないで」

1人ワンツー改

蒼窮一閃

居合

刃が喉元に迫るイメージ

わたしはどうすればいいんでしょうか

穂乃果のように力強くも、希のようにトリッキードでも、凜のよう速くもありません  
自分の実力を客観視しても「そこそこの選手」止まりなんです…

ことり「そんなことないよ！海未ちゃんはすごいよ！」

穂乃果「…どうしても見つからなかったら一歩引いてみるといいんじゃない？」

海未「一歩引く？」

穂乃果「答えが見つからないってことは今はまだその時じゃないんだよ」

「きつとある日、ストーンと決まるんじゃないかな

海未「簡単に言いますけど……」

ズバアツ!!

海未『サッカーに活かせると思ったのですが…』

海未「あ」

前のところで「そういえば海未ちゃん最近必殺技の練習してるって…」

「実践レベルまでは突き詰められたと思いますがもう少し待ってください」

「あのキーパー相手では完封される可能性も普通にありますから」

指定の位置からなら圧倒的速度と威力で打ち抜ける

みんなでそのスペースを空ける

敵も察してうみ警戒

希ちちゃんが海未ちゃんの真似をして

わずかな油断も許されない思考に紛れ込んだノイズ

それが梨子の体を一瞬硬直させ

取り返しをつかない隙となる

未完成ポスト、居合【蒼弓一閃  
仲間が弾くも見当違いの方向へ

「弓」

蒼穹一閃は何も刀だけとは限らない  
海未らしいわね

動きの中で一瞬集中、

いけー

もちもちグローブで対策する

刀なら掴めなかったけど弓なら…

心当たりがあるからね

完全な不意打ちだったのに

そこまでに凜何度か失敗

花陽（蜘蛛の糸

グランフェンリルGX

アイスエイジ聖良

勝てるビジョンが…見えない…

みんな少し暗くなる

真姫と絵里が理亜ルビを止めればなんとかなる

無謀よ

花陽 「自分の得意なことで勝負しなきゃ！」

穂乃果が声出そうとした時

いつものように花陽や海未がなんとかしてくるだろう

綺羅さんや統堂さんもいる

なんとかなるだろう

そう、いつもみたいに

『誰かがきつと…』

いや

見えないなら作りあげろ

私はエースだ

エースの仕事は……

—————

真姫 「エースストライカーって…なんだと思う？」

絵里 「かつこいいことよ！」 ババン！

絵里「ピンチな時に流れを変えたら？」

絵里「勝利のきっかけになれたら？」

絵里「プレイでみんなを勇気付けられたら？」

—————

絵里は一度も

「点を決めること」とは言わなかった

それは方法にすぎない

エースの仕事は…

勝ちへと繋ぐこと

暗闇の中でその存在を示すこと

「なんとかなるわよ」

真姫「さあみんな、楽しんでいきましょう」ニツ

みんな「！」

ことりとオーバーライドで【爆熱ストーム】破られる

にこ「はっ…！」

ようやくエースとしての自覚が出て来たか

あの真姫が殻を破ろうとしてる

手なんか引いてやらないけど

邪魔もさせない

「さあみんな、楽しんでいきましょう」

元氣付ける為のハリボテとは違う、本心からの言葉

特に解決策があるわけではない

が

不思議なことに「それ」は

タツタツタツ            タツタツタツ

チームをわずかに高揚させた

憧れは嫉妬に

嫉妬は目標に

目標は…

にこ「ツバサ!!」バツ!

ツバサ「合わせなさいよにこ!!」バツ!

【アインザッツ】

にこツバサ【キラーフィールズ】

エレナが凜に限界の速さを出させる

でも早すぎてトラップしきれなさそう

トラップするとき「なんども言わせないでください、弓道と一緒にですよ」

「したことないにや」

「屁理屈言わないでください」

「ド正論だにやあ!!」

動きなのかでグツと集中して…

「自分の体を操れ」勢いを殺すトラップ

フワツ…!

梨子（凜ちゃんはシュート技を持ってないはず…）

絵里凜『氷結のグングニル!!』

梨子（…いや、ゼロじゃない!!）

花丸聖良　バツ!

ただドリブルがうまいだけじゃない

シュート、ドリブル、ディフェンス



全てをハイレベルにこなす凜のポテンシャルの高さが凜の存在を色濃く際立たせ

最強の囷となる

真姫「もつと…熱くなれる…!!」ググツ…!

ルビイの炎を見てレベルが違うと思つた

それと同時に理解できない感情が浮かんできた

ねえルビイ、私ね

あなたには敵わないだろうけど

あなたには負けたくない

『得意なもので勝負しなきゃ!』

わたしの武器はこれだけ

大会が終わった後もこれだけを磨き続けた

ボフオオオオオオオオオオオオオオオ!!!

エースとして常に前線で戦い続けたい絵里

チームの柱として支え続けたにこちゃん

どんな時でも頼りになる希

ねえ

私

私も……

あなたたちみたいになれるかしら

カオスブレイク

(足りないまきの火力はまりのグラウンドゼロを参考に火力を上げた

(そうシユートセンスだけはずば抜けてるからできる

真負ける

2—2

ことり抜け

神のタクト

押されるけどなんとかボール出す花陽

ボール出た後

A w a k e n で暴れるも

私が視野になる、花陽は焦点となれ

2人なら

全てを見通す目になれる

――

「なあ、聞いたか？」

「？」

「あつちの世界では私は梨子に協力してタクティクスを作ったらしい」

「どちらの世界でも私は脇役にしかかなれないみたいだ」

「……次そんなこと言ったら引っ叩きますよ」

自虐気味に笑う彼女に花陽は目を合わせなかった

「誰もいませんよ、このチームに、脇役なんて」

「さ、一緒に戦いましょう！」

――

エレナと花陽で【ウイニングロジック】

ルビィ負ける

「エレナ!!」

あんじゅと希で【トリックルーム】

存在感の濃さで遠近感を狂わせる

絵里「パスを正確に打つにはどうすれば……」

エレナ「練習するしかない」

絵里「そうですねが……」

エレナ「だが、コツなら教えられる」

絵里「……!」

エレナ「どこに蹴るのかを意識するんじゃない、問題は誰に蹴るかだ」

エレナ「数秒先、そこにいるであろう仲間に届けるイメージをしろ」

エレナ「そうすればボールなんて勝手に飛んでいく」

絵里「届けるイメージ……」

エレナ「……私と同じで不器用そうだな」クスツ

この回の最初に入れる

【エタブリ】

「統堂上がってきている!?!」

「人をあれだけ動かしておいて私が動かないわけにいかないだろう?」

凜「！」

【デスクラツシャーゾーン】

【デルフィナス・トリアイナ】

シュート止められる

0から1のパスターゲット、ついそこに出しちゃうよね？

浦の星

0から1

1から10に!!

全員マーク外す

ボールを出す

ルビィ追いかける

凜迫る、めっちゃめっちゃ早い

ルビィマークしてた人とニ対一

……こんなことこだわるほどじゃないかもしれないけど

—————

【ウイニングロジック】

ルビィ「——…!?!」

角間 「黒澤反応できず!! ボールを奪われた!!」

「……………少しカチンときた

負けたくないんじゃない

負けられないんだ

真姫回想、エースストライカーとは

勝ちへとつなぐこと、その存在を示すこと

「ルビィ……」

「うおおおああああ!!」 バッ!

希望の炎はまだ消えない

少し無理したから次の一歩がですに奪われそうになる

理亜が奪う

ホワイトダブルインパクト

かーしこみかしこみ!!

人の真似しかできなかつたうちが見つけた……

うちだけの必殺技……!!

神主「希ちゃんは苦しいことがあつたんだねえ

大丈夫、どんな時でも神様は見てくれるよ（内容厚く  
式神ラインズ

凄まじい技の応酬!!どちらも一歩も譲りません!!

花陽反射、くどくなりすぎないように

あなたは私の憧れですから

なんかこちやこちやする（ほんとはオリオンの最後みたいにみんなが思ってること話  
しながらチエーン繋がげるつもりだった

あんじゅ「……ツバサ、泣いてるの？」

穂乃果走ってくる

ツバサ「……」

あんじゅ「私たちの分も、託したわよ」

エレナ「…行ってこい」

トンツ……!

ツバサ「!」フワッ

こんな風に大人になっても、いつまでもみんなで……  
ジアース？イグニッション

……！こんな状況なのに落ち着いてるわね」

息を……

吸って

吐く

無意識を意識的に繰り返す

吸って

吐く



繰り返すたびに、落ちていく

あの雰囲気…ゾーン!?

いや、ゾーンじゃないけど

限りなく近いところにいる

ゾーンとは、選ばれし天才にのみたどり着ける究極の領域

曜「…」

凡才はどれだけ足掻こうと天才にはなれない

果南「…すう…はあ…」

なれないのは分かっている、でも

天才（すごい人）たちに少しでも追いつきたかった

曜「…：…見せてよ果南ちゃん」

曜「わたしたち（凡才）の可能性を」

2—2

「これで最後のプレイかな…」

不思議と落ち着いている自分がいた

「限界くらい軽く超えて見せてよ!!」

神のタクトF I

ウオタブ

凜が勘で止めかける

本当に勘だったの？

勘に引っかかる何かがあつたんじゃ…

音をヒントに真姫は見つけるがその相手はルビイだった

真姫「ああ……クソツ」

抜かれる

「今、ルビイね……」

「負ける気がしない」

ラストリゾート

サッカーをしてるだけでいろんな事を感じさせてもらって

いろんな感情を合わせて「終わりたくない…」

勝ちたいから、楽しいから、「幸せ」(ほんとは決勝で出てた

「これが穂乃果の……マジンザハンドだ!!」

触れてはいけないシュートをそのオーラごと巨大な手で包み込む

【元祖マジンザハンド?】（お母さんのミキシマックスで使う予定だったもの

## 番外編

## UTX 一年目

## 一年生入部

監督「今年から監督になった、呼び方は監督でいい。よろしく頼む」

新入部員s「ふあゝ……！」シパシパ

監督「あー見ての通り、ウチのサッカー部はそこそこ勝つことはあるが優勝とは程遠い戦績しか残していない」

ツバサエレナあんじゅ「……」

監督「だが俺が監督になっからには……」

監督 「取るなら優勝、それ以外はゴミだ」

監督 「練習は今日からだ、すぐ着替えてこい」

ツバサ 「はい！」

あんじゅ 「は〜い」

エレナ 「……はい」

「えー……いきなりかあ……」

「まあ顔合わせみたいいなもんでしょ」

「……めんどい……」

外

監督 「まあ最初だからな、校舎〜周でいいぞ」

監督 「ランニング開始」パンツ！

「〜周って……やば」

「ありえないって……」

ダッ！

「うっわ何あの子ら真面目ちゃんじゃん……」

エレナ「はあ……はあ……」タツタツタツ

あんじゆ「ふふ、あなた走り方ターミネーターみたいね」タツタツタツ

エレナ「うるさい」タツタツタツ

あんじゆ「デデンデンデデン」

エレナ「舌引っこ抜くぞ」

M F 1「話しながらなんて随分余裕なのですね？」タツタツタツ

エレナ「違う、こいつが話しかけてくるだけだ」

あんじゆ「照れなくていいのに」

エレナ「黙れキヤバ嬢」

あんじゆ「はああん??」

D F 2「はあ……はあ……なんで……こいつら……っはあ……！走りながら……話

せんねん……!!」ゼエ…ゼエ…

M F 1 「……まだ始まったばかりなのですが」

あんじゆ 「もう少しペース落としたり？最後までもたないわよ」

D F 2 「誰が手なんか抜くかあ!!ウチが一番やあ!!」

D F 2 「うおりああああ!!」ダダダダダッ!!!

あんじゆ 「……自分のペースで走ったらってことなんだけど」

エレナ 「バカばかりだ」

M F 1 「まったくです」

2時間後

ゴール地点

「あーしんど!!」

「おつかれ〜」

エレナ「……あとはあいつだけか」

MF1「最初トップでその後全員に抜かれるとは……」

DF2「ゼエ……ゼエ……」フラフラ

エレナ「やっときたな」

あんじゅ「これで全員かしら」

DF2「いや、多分もう1人……」クルツ

オエエエエエ……!!



DF2 「あ、吐いた」

ツバサ 「ハア…ハア…」 フラフラ

あんじゅ (…この関西弁にすら負けるって、どれだけ体力ないのよ…)

監督 「水分補給後、次のメニュー行くぞ」

「うっわ、あの子休憩なしとか」

「まあ弱い子に構っても仕方ないしね」

「アツハハ！ひどっ！」

ツバサ 「ハア…ハア…」

17時前

監督 「よし、次はリフティングだ。片足と両足交互それぞれ500回」

監督 「500回を一区切りにして」

監督 「合計1500回終わったやつから帰っていいぞ」

「1500!?!」

「すでに足ガツクガクなんだけど」

「……もういいや、私やめる」

「私も」

ゾロゾロ

「……まあ、流せばいいわよね」

「ん〜……やめるのもめんどくさいし………いいや」

エレナ（……残ったのは半分ぐらいか）

あんじゅ（リフティングってそんなに難しいのかしら）

監督「リフティング開始」

トントンポーン

エレナ「……！」ポロツ

エレナ（疲労のせいで安定しない……）ハア……

あんじゅ「…………ほっ…………やっ…………！」トツポロツ

トツポロツ

M F 1 「1 2 1 …… 1 2 2 …… 1 2 3 …… あっ…………！」ポロツ

D F 2 「むず…………」ポロツ

15分後

エレナ「はあ…………はあ…………」

あんじゅ「…っ！よっし4回できた!!」

エレナ「おめでとう、あと496回頑張れ」

あんじゅ「…………あなたには人の心がないのね」

エレナ「あるさ、人並みには」

あんじゅ「人並み」

「あんた待ちなさいよ!!」

みんな「!?」バツ!

エレナ「なんだ?」

あんじゅ「喧嘩かしら?」

ツバサ「……………なに?」

「なに帰ろうとしてんの?」

ツバサ「……………話聞いてなかったの?終わったたら帰っていいって」

「だから!!そんなに早く終わるわけないでしょって言うてんの!!」

ツバサ「ないでしょって言われても……………」

ツバサ「終わったんだからしようがないじゃない」

エレナ「……………は？」

「あんなにランニングでヘロヘロだったのにできるわけじゃない!!」

エレナ（その通りだ、私たちですら疲労でまともにリフティングなんて続けられない）

エレナ（それをあいつが……）

MF1「まあまあ、見てもいなかったのに突っかかるなんて失礼ですよ」

「はあ!?!あんたらは信じてるの?こんなイカサマ女のこと」

DF2「ピーピーうっさいなあ、見てた奴がおらんかったら本人の言うことが全てやろーが」

???「あ、あのー!」

DF2「んあ?」クルツ

気弱な子「わ、わたし……………見えました」

「ほーらー……ここにイカサマを立証してくれる子がいるじゃない!」

「ほらほら、みんなに言っちゃってよ！この子はズルをしましたーって！」

気弱な子「そ、その……………」

気弱な子「私、全部見てたんです」

「うんうん！」

ツバサ「……………」

気弱な子「あの人……………始まってすぐ、休憩に入ったんです」

「それでそれで！」

気弱な子「少し経ってからリフティングを始めて、わたしは疲れていたのでもっとその数を数えていたんです」

「さあみんな！ちゃんと聞いててよ！」

気弱な子「あのひと……………」

気弱な子「一回も止まることなく1500回をやりきったんです」

エレナ「……………！」

「……はい？」

気弱な子「本当に凄かったです、座ったままリフティングをして疲れてきたら高く蹴り上げて足を休ませて…」

「……なに……それじゃあ………」

「こいつは本当に1500回やりきったってこと？」

ツバサ「だから初めからそう言ってる」

エレナ「……すごいな」

「……ふ、ふぎけないですよ……」

「そんなことできるわけ……!!」

ツバサ「やろうともしてなかった奴に言われる筋合いはない」

「……………」

「……まあ、流せばいいわよね」

「……っ！」グッ……

ツバサ「それじゃあ」クルツ……

スタスタスタ……

### 帰り校舎前

エレナ「やっとおわったな」

あんじゆ「学校に残ってていい時間がね」

DF2「時間まだあったやん!!」

あんじゆ「先生に迷惑かかるでしょ、少し早めに出ないと」

DF2「むう……」プクー

MF1「結局できませんでしたね」



DF2 「他の奴ら先に帰ってたけどあれできてなかったぞ」

あんじゅ 「放っておけばいいわよそんなの」

DF2 「そんなにやる気ないんやったら他の部活にすればいいのになあ」

あんじゅ 「どうしてサッカー部に入ろうと思ったのかしら」

MF1 「……………」

MF1 「あなた方は全くの初心者の方ですがどうしてサッカーを？」

あんじゅ 「……………誘われたから」

DF2 「なんとなくやなあ……………」

MF1 「フワッフワじゃないですか」

あんじゅ DF2 「やるなら本気」よ「や！」

エレナ 「……………？」

タツタツタツ

ツバサ「ハア…ハア…」タツタツタツ

エレナ「あいつ……」

DF2「おい！もう校舎閉められるぞー！」

ツバサ「げっ…!?嘘!」ズザザツ!

ツバサ「着替えが……」サー…

あんじゅ「……え、あれからずっと走ってるの?」

DF2「うちより体力なかったもんなあ」

ツバサ「……私の家、周りより貧乏でスポーツしてる時間なんてなかったから……」

ツバサ「人より大きく出遅れてる分、何倍も頑張らなきゃ」

エレナ「……」

ツバサ「……言い訳っぽくなっちゃったわね」

ツバサ「時間教えてくれてありがとう、もう行くわ」  
タツタツタツ

あんじゅ「家庭の事情でほとんど運動する時間がなかった……か」

エレナ「通りで体力とテクニクが釣り合ってたはずだ」

DF2「空いた時間にサッカーボールいじってたんかな」

MF1「いろいろな人がいるものですね」

DF2「……う……!!もうやめやめ!暗い話は!」

DF2「お腹減ったー!」

あんじゅ「牛丼!」

DF2「あり!」

あんじゅ「ありよりの?」

DF2「ありいいいい!!!」

エレナMF1「うるさい!です」

ツバサ「よし、忘れ物ない……早くでないと」タッタッタツ  
トツ、トツ、テンテンテン……ザッ！  
ツバサ「？誰かいるの？」ソッ……

「つく……あのどこっぱち……今に見てなさいよ」トントン……  
ツバサ「！」

「ふっ……ふっ……ふっ……あっ！」ポロツ  
「……もう一回……！」

ツバサ「もう下校時間よ、あとでこっぱちは今見ちやったわ」

「……………!?!」ビクウツ…!!

ツバサ「また明日、ね」ニヤツ

「うわあああああ!!!」ダツ!

ツバサ「……………逃げた」

休日

監督「パス練開始」

エレナ「いくぞ」

あんじゅ「ばっちこい!」

エレナ「ふっ……！」ドツ！

ピューーン！

あんじゅ「……………」

エレナ「……………」

あんじゅ「……………」

エレナ「……………目にゴミが……………」イテテ

あんじゅ「ノーコン!!」

ドツ！

M F 1 「……………あつ、すみません！」

ポーン……………！

D F 2 「おりやあ!!」バツ！

パシッ……………！

M F 1 「おお……………！やりますね」

D F 2 「しっかりしてや並乳」

MF1 「……………あ？」

DF2 「…っ…!!」 ビクウツ…!!

「ねえ…」

「何よ、早くボールを……」

「ボール蹴るのだるい……」

「あんたなんでサッカー部にいるのよ」

### 昼休憩

あんじゅ 「あら、デコちゃんお昼ごはんは？」

ツバサ 「誰がデコちゃんよ」

ツバサ「……食欲なくて」クウウ……！」

あんじゅ「お腹なつたけど」

ツバサ「……クウウ……」

あんじゅ「無理があるわ」

エレナ「……」

ツバサ「私の家、周りより貧乏だったから……」

エレナ「食欲がないところすまないが、このメンチカツ食べてくれないか？」

ツバサ「え……なんで？」

エレナ「油物苦手なんだ」

ツバサ「……別にいいけど」スッ



あんじゆ「こーら、いきなりカツなんて食べたたら太るわよ」

あんじゆ「私のレタスあげるからそれから食べなさい」スツ

ツバサ「へ?……えつと……」

M F 1「ソース味を食べればご飯が食べたくなることでしょう」

M F 1「私のご飯もどうぞ」スツ

D F 2「デザートにうちのパピコも半分あげるわ!」パキツ

ツバサ「……えと……その……」

ツバサ「……ありがとう」

みんな ニツ!

先輩「おーいあんたたち! ご飯食べ終わったら準備お願い!」

みんな「はい!」

「あんた、ご飯……」

「ア……」

「自分で食べなさい」

「……ひどい」

「ひどいとは」

### 練習後

ツバサ 「はあ……はあ……」 タツタツタツ

ツバサ (課題は体力……！)

コトツ (ペットボトル)

エレナ (課題はコントロール)

エレナ (あれを狙って……)

エレナ「はあっ！」ドツ！

ポーン………スカッ………！

テンテンテン………

エレナ「くそっ………」

エレナ（私にFWなんて………出来るのか？）

ザッ………ガガッ！ズザザッ！

MF1「………やりますね」トツ

DF2「ディフェンスに小難しいテクニックはいらんからな」ニツ！

「はあ……はあ……ねえあんた」ハア…ハア…

「なーにー？」フヒィー…

「なんで残って練習してんの？いかにも面倒くさがりそうなのに」

「んー……だつてさ」

「試合に出れない方がもつとめんどくさいじゃん」

「……はっ、なによそれ」

「あれ？今私名言残しちゃったー？」

「やだなー照れちゃう」

「わかったから、どうせなら最後まで付き合いなさいよ」

「りょーかーい！」ピシッ

先輩「……今年の一年は気合が違うね……」

先輩2「あたしすらも負けてらんないよ！」

先輩「うん！」

数日後

DF2 「結局残ったのはこのメンバーだけか」

MF1 「自己紹介でもしますか？」

「ええ〜……いる？」

エレナ 「今更感も強いしな」

あんじゆ 「まあまあいいじゃない！じゃああなたから！」 ビシツ！

「な、なんで私なのよ!!」

DF2 「よし！じゃあ1番目イチャ子！」

エレナ （…イチャモンのイチャ子か？）

MF1 （イチャモンのイチャ子ですかね）

「誰がイチヤ子よ!!」

「えー……」コホン

「……爆、です……その、よろしく」

DF2 「……?バク?夢食べるやつか?」

爆 「違うわよ!!爆発の爆!!」

ツバサ 「随分変わった名前ね」

爆 「はいはい、次はあんたたちよ」

MF1 「MF1です、合気道をしていました、よろしくお願いします」

DF2 「DF2!好きなものは他人のスタイル!育ってれば育ってただけよし!よろ

しく!」

MF1 「さらっと爆弾発言していかないでください」

ツバサ 「……綺羅ツバサよ」

MF1 「それだけですか?」

ツバサ 「シンプルイズベストなのよ」

MF1 「便利な言葉ですね」

あんじゅ 「優木あんじゅ、あんじゅでいいわ」ニツ

エレナ 「よろしくキャバ嬢」

あんじゅ「ぶっ飛ばす」

DF2「つ、次！」

エレナ「統堂エレナだ、よろしく頼む」

あんじゅ「よろしくデデン」

エレナ「最後の言葉がそれでいいのか？」

DF2「はいはい次や次…!!」

ツバサ「で、あとは……」

「……なんでこっち見るのー?」

MF1「あとはあなただけですよ」

「……もー、しょうがないなあ……」

「えー、面倒（めんどろ）です、家を出た時から帰ることを考えてます、よろしく」

爆「名前の通りね」

面倒「失礼しちゃうなく、こう見えてあたしは……」

面倒「……」

DF2「……どうした？」

面倒「……説明するの……だるくなっちゃった」

爆エレナ「……はあ……」

あんじゅ「じゃあみんな、よろしくってことで練習始めましょうか」  
みんな「はい」

メンバー発表

監督「予選のオーダーを発表する」

監督「く、く、く」

―――……



監督「……綺羅」

ツバサ「はい！」

エレナ「やったな」

ツバサ「ええ！」

監督「統堂」

エレナ「わ、私か？」

監督「返事」

エレナ「は、はい！」

先輩達「すごいね……一年生で」

先輩達「頑張ってたからね」

監督「優木」

あんじゅ「はい！」

監督「最後の1人は……」

M F 1 D F 2 爆面倒「……」

監督「M F 1」

M F 1「……はい」

D F 2 爆面倒「……」

監督「次、ベンチメンバー」

あんじゅ「……なんとか一年生は全員メンバーに入ったわね」

面倒「レギュラーがいい〜!」

DF2「まあまあ、ベンチ入れただけでもまだマシやろ」

MFl「どこまで勝ってますかね」

ツバサエレナあんじゅ「優勝まで」

M F 1 「……ふふ、すみません、そうでしたね」

3年生モブ 「ちよつといい？」

エレナ 「……はい？」

3年生モブ 「あんたら全員メンバー入ったじゃん、一年で」

あんじゅ 「……はい」

3年生モブ 「私は、一年生からずっとベンチ以下で……」

3年生モブ 「今年こそはメンバーに入れると思ってた……」

ツバサ 「……」

3年生モブ 「でも、あんたらが入ってきたから……!!」

ガシツ……!!

ツバサ 「……つ!!」 ググツ……!

D F 2 「おい、何して……!」

三年生モブ「……………本当に……………頼むわよ」ググツ…  
みんな「…！」

ツバサ「……………分かってます」

三年生モブ「……………ごめんなさい、八つ当たりして」

三年生モブ「頑張ってるね」フリフリ

エレナ「……………負けられないな」

ツバサ「ええ」

あんじゅ「ほら、もう帰るわよ」

みんな「おお〜」

ツバサ「え、あなたたちも監督に誘われたの？」

あんじゅ「2人も？」

エレナ「お前、誘われたからってそういう……」

あんじゅ「デコちゃんはともかく、私は初心者だしデデンもFWは初めてだっていうし……」

あんじゅ「一体なんで集められたのかしら」

ツバサ「デコちゃんやめなさいよ」

エレナ「誰がターミネーターだ」

あんじゅ「めちやめちや食いついてくるわね」

エレナ「目的はともかく私たちは目の前に全力を尽くすだけだ」

ツバサ「ええ」

あんじゅ「あなたたち精神的に大人すぎない？」

それから私たちは

ツバサ「はあ…はあ…」タツタツタツ

課題を抱えながらも

エレナ「ふっ！」ドツ！

ポーン…！ スカツ…

エレナ「……つち」

順調に試合を勝ち進み

DF2「……もつと力強いディフェンスを……」

バツ!

ドゴオオ!!

DF2「……足りひん」

本戦の決勝進出が決まった

爆「勝負よ綺羅ツバサ!!」

ツバサ「……何回目よ」

爆「勝つまで!!」

爆「あなたのライバルとして、今日こそ私が勝つ!!」

ツバサ「またシュートコース際どさ勝負?」

爆 「いいわね、やりましょう!!」

先輩 「おい！あんまり無理させるなよー！」

爆 「わかってますよー!!」

今や綺羅ツバサは、チームの絶対的エースとなっていた

ドシユルルルル!!!

爆 「よおっし！今のはいったでしょ！」

ツバサ 「……なかなかやるわね」

爆 「もうフリーならどこにだって打てるわ！」

爆 「チームの得点王だからって油断してたら足元掬ってやるんだから！」

ツバサ 「じゃあ次は私の……」

??? タッタッタ

ツバサ 「……あなた！誰だか知らないけどグラウンドの真ん中通ると危な……」



カキーン！ ボールいったぞー！

??? 「…へ？」クルツ

ツバサ 「…っ…!!」

ツバサ（野球ボール……!!）

トトツ…

ドキュツ!!!

??? 「う、うわあああ!!」アワワ!

ゴオオオオオオオオ!!!

バチイッ!!

テンテンテン……コロコロ

「……？」

「助かったっすか？」

すみませーん！大丈夫ですかー？

「あ、は、はい！すみませんっす！」

「ボールどうぞ！」ブンッ！

パシッ

ありがとうございます！

「……ふう、怖かったっす」

ツバサ「怖かったっす〜じやないのよ」ドドン

「ひやああ!!」ビクウツ！

ツバサ「……！あなた、確か隣のクラスの……」

「はいっす！自分MF3といいます！」

爆「なんでこんなところ通ったのよ……危ないわね」

M F 3 「にへへ……急いでたもので……」二へへ……

ツバサ 「……まあ次からは気をつけてね、ボール取ってもらえる？」

M F 3 「ん、あれっすね」タツタツタツ

爆 「ったく……人騒がせね」

ツバサ 「まあただの不注意だしね」

M F 3 「いくつすよー！」

ツバサ 「はーい」

M F 3 「そー……」スツ……

ツバサ 「……！」

ツバサ (あの子……)

M F 3 「……れ！」ドツ！

ギユウウウウン！

トツ……トトツ……!

ツバサ「……」

M F 3 「おお……! バウンドさせずに受け取った……」

爆「さ、勝負の続きよ! 綺羅ツバ……」

ツバサ「……っ……」 バツ!

爆「ちよっ……!」

ドキュウウツ!!!

M F 3 「……へあ!?!」 ビクツ

ゴオオオオオオオオ!!!

M F 3 「あ、危……!」 バツ!

フワツ……!トツ……

爆「……トラツプ……した」

M F 3 「な、何するっすか!!」ザツ

ツバサ「あなた……サツカーしてたの?」

M F 3 「……元っすよ」

ツバサ「サツカー部入らない?」

爆「はあ!?!」

M F 3 「……考えとくっす」ニコツ

ツバサ「ええ、それじゃあまた」

M F 3 「……」

ツバサ「さ、勝負の続きよ」

爆「それは置いといて、あの子誘って良かったの？」

ツバサ「……あの子、たまにグラウンドの端っこで見るのよ」

爆「？」

ツバサ「多分、やりたいんじゃないかしら、サッカー」

爆「……ふーん」

M F I 「……………今のは……」

MF3 「……………」 テクテク

ピタッ

MF3 「……………」

「うっわ絵とか描いてんの?」

「オタクじゃん! キツモ」

「あたしらまで同類だと思われるじゃん」

「……………サッカー部、やめてくんない?」

MF3 「……………」 ギュッ





先輩「勝つためにここにきた!!」

みんな コクツ

先輩「全力で戦え!!!」

みんな「おお!!」

一年生ポジション

FW

ツバサ

MF

MF1、エレナ、あんじゅ

エレナ（……結局MFのまま決勝まで来た）

監督「FWやってみないか？」

エレナ（私では……力不足だったのか？）

バシッ！

エレナ「！」ハッ

ツバサ「いくわよ」ニッ

あんじゅ「準備はいい？」

エレナ「……勿論だ」ニッ

MF1「勝てば優勝、気を引き締めていきましょう」

DF2「うちの分も頼んだぞ!!」

面倒「頑張つて〜」

爆「負けんじやないわよ」

ピーーーーー！！

ドッ

角間「始まりましたあ！！」

試合は一進一退

どちらかがチャンスを作ればすかさずカウンターを狙う

いつ得点が決まってもおかしくない状態が続いていた

前半はツバサが1点を先制したところでホイッスルが鳴った

初進出ながら先制逃げ切りで前半を終えたUTX高校

しかし、それが逆に令和学園に火をつけた

後半は徹底的なツバサ潰しに加え、攻撃のリズムを変えてきた令和学園がペースをつかんでいた

まもなく試合終了

ここまで失点をしのいでいたUTXだったが……

ツバサ「ぐっ……！」ゼエ……ゼエ……

エレナ（マークが厳しいせいでもいつもの何倍も消耗が早い……）トツ

エレナ（ここは奪われるわけにはいかない）

エレナ「ふっ……！」ドッ！

DF2「……！」

エレナ（しまっ……！ボールが流れ……！）

「もらったあー！」パシッ

エレナ「くそっ……！」

角間「令和学園のカウンター!!」

「いけっ!!」ドキュッ!!!

キーパー「やばっ……!!」バツ!

ドシユルルルル!!!

角間「……き、決まっちゃったああ!!」

角間「試合終了間際、令和学園がU T X高校の背中を掴みました!!」

監督「……」

エレナ「……」ハア……ハア……

あんじゅ「……落ち着いて、まだ終わってないわ」

ツバサ「はあ……はあ……早く、位置につきなさい……！時間がもつたない……！！」ゼエ  
……ゼエ……

ピーーーーー

MFI「……メンバー交代……？」

エレナ「……私だな」

あんじゅ「いや、数字をよくみて、貴方じゃないわ」

角間「ここ、ここでUTX一年生を3人投入してきました！！隠し球かあ!？」

エレナ「……何を考えている？」

監督「……」

爆「ふつつつぶ、UTXの隠し球の登場よ」

面倒「うえ……なんでこんな状況で……だるい」

DF2「……ほんまに大丈夫なんかこいつら……」

一年生メンバー

F  
W

ツバサ、爆

M  
F

M F 3、エレナ、あんじゆ

D  
F

D F 2、面倒

先輩「みんな、時間はほとんど残ってないけど、ボールはこっちが持つてる」  
先輩「落ち着いて、一点取り切ろう!!」

みんな「はい!!」

爆（……綺羅ツバサが決めれないなら私が決める、そしたら言っでやるんだ）  
爆（どうだ、私もすごいでしょ、って）

角間 「泣いても笑っても最後のキックオフ!!」

ピーーーーーーーーーーーー!!

ドツ!

令和学園UUUTX高校

角間 「いま、始まりましたああ!!」

「マークー!」

ザザツ  
!

ツバサ 「つち……!!」ハア…ハア…

ツバサ 「お願い!」ドツ!

エレナ 「……!!」

エレナ (私の…ボール……いいのかわたしで?誰か……)

エレナ (そうだ、ほかのメンバーに取ってもらえば…)



DF2 「ぼーつとすんな!!」

エレナ 「……………」 ハッ

トツ…………ポロツ

「よっし!!」パシッ

エレナ 「しまっ……………」

角間 「統堂ファンブル!!こぼれ球を令和学園FWが拾います!!」

先輩 「止めて!!」

エレナ 「あ……………」

エレナ (…………わたしは…………)

DF2 「い……かせるかあああああ!!!」 バッ!

令和FW 「なっ……!」

【スーパードゴオオオオオオオオオ】

ドゴオオオオオオオオオオ  
!!!!!!

令和FW 「くっ………そお………!」 ガクッ

DF2 「ここまできて負けられるか」

角間 「UTX DF見事にカウンターを防いだああ!!」

あんじゅ 「ふふ、いつの間にあんなデيفェンス……」

DF2 「あっ……!」

ポーン!

キーパー 「くっ……!」 バッ

キーパー (届かない………!)

角間 「しかしボールは無情にもエンドラインを超えそうだ!!」

角間 「令和学園のコーナーキックかあ!？」

「……………この時間帯でコーナーキックかあ……………」 タツタツタツ

面倒 「そんなめんどくさいこと、させないよ」 バツ!

ドキユツ!

面倒 「頼んだ」

角間 「面倒ナイスカバー! ボールは統堂へと渡りました!!」

面倒 「…………お?」 グラツ…

面倒 「あわわわ…………!」 ヒユ…

面倒 「あでつ…………!」 ドサツ

トッ

エレナ（なぜまたわたしなんだ……先輩か誰かに……）キョロッ

D F 2 「……………」 イラア

D F 2 「いつまでウダウダやっとなねん!!」

エレナ「!」ビクッ

D F 2 「さっきから縮こまったプレイばかりしよって……」

エレナ「……………」

DF2 「どうせミスするなら挑戦してミスしろやドアホオ!!!」

エレナ 「……!!」

「試合中に仲間割れ？」 ザッ

エレナ 「……いや」

エレナ 「アドバイスです」 フツ…

(……この子、空気が変わった……)

エレナ (恐れることはない……)

エレナ (パスの先には彼女たちがいる)

エレナ（自信なんて、それだけで十分だ）チラツ  
バチイッ！

あんじゅ「……！」

エレナ（意識を向けるべきは自分じゃない、フィールド全体を見渡すんだ）  
ザッ…ザザッ！

エレナ（……？）

その瞬間

エレナ（選手の動きが……よく見える）

彼女の視界は一変する

ドキュツ  
!!!

エレナ「あんじゅ!!」

ゴオオオオオオオ  
!!!!

角間「これは統堂、まだマークを外せていない優木へパスを出したあ!!パスミスかあ

!?

令和MF「よし!いただき!」バツ!

あんじゅ「……………」ダツ!

ギュウウウン……………!

令和MF「そんな……!!」

パシッ……!

あんじゆ「ナイスパス」トツ

角間「ま、曲がったああ!!これは絶妙なコントロール!!優木へパスが通ったああ!!」

あんじゆ（……私が届くギリギリの距離）

角間「時間も残りわずか!攻めきれるかあ!?!」

あんじゆ「……もうノーコンなんて馬鹿にできないわね」タツタツタツ

「いかせない!!」

あんじゆ「……ごめんなさい」グツ……



フワアツ……!

「なにつ……!」ガクッ

あんじゆ「友達が待ってるの」ダツ!

角間「優木抜いたあ!!」

先輩「あの子達……いつの間にこれだけ……!」

あんじゆ（さて、どうしようか……）タツタツタツ

あんじゆ（デコちゃんはマーク厳しいし……）チラッ

あんじゆ「……!」

ツバサ「ゼツ……!ゼツ……!」ハア……ハア……

ツバサ（ボールを頂戴……!!）

あんじゆ ……フフ

—————

オエエエエエ!!!

あんじゆ（最初はあんなに貧弱だったのにな）

あんじゆ「……信じるわよ」

ツバサ「……」グッ

あんじゆ「ツバサ!!!」ドキユツ!!

ツバサ「……ふぐっ!」パシッ!

角間「綺羅マークを外しボールを受け取ったあ!!」

キーパー「止めろ!!」

令和DF陣「おお!!」ザツ!

角間「しかしすぐさまディフェンダーが立ちふさがる!!」

DF2「くっそ……!!」

ツバサ(…4人…)

令和DF「そんなにヘロヘロで抜かせるわけじゃないぞ!」ザツ!

ツバサ「…っ…」ピタッ

三年生モブ「止まるな!!綺羅ちゃん!!」

UTX「いけえええ!!」

—————

三年生モブ「本当に……頼むわよ……」グツ……!

先輩「はあっ!」ガッ!

DF2 「い……………かせるかああああ!!!」

面倒 「よっ！」 ドキユツ!

エレナ 「あんじゅ!!」 ドツ!

あんじゅ 「ツバサ!!」 ドツ!

—————

トツ…

ツバサ 「……………」 ゼエ…………ゼエ…………

ツバサ (……………悪いけど…………このボールは私だけのボールじゃないのよ) フー…

令和DF 「はああ!!」 バツ!

ツバサ 「…………っ！」 ギリツ…!

ツバサ 「ああああああ!!!」

ヒュッ！　　クルッ　　トッ

令和 DF 「…っはあ!」 ガクッ

角間 「ぬ、抜いたああ!!」

令和 DF 「この子…どこにそんな力が…!!」

ツバサ 「…1」

クルッ……ヒュッ!

バツ! グルンッ!

ツバサ 「…2…3…」

角間 「抜いていく抜いていく!! ゴールまであとわずかだあ!!」

ツバサ 「はあ…! はあ…!」 タツタツタツ

令和 デイフェンダー 「くっ…!」 ザッ

ツバサ「……………4…!!」ヒュツ!!

クルツ……………トツ

令和ディフェンダー「……………っ…!!」

角間「綺羅抜き切ったああ!!!残すはゴールキーパーのみ!」

爆「……………すご…」

爆（ベンチから毎試合見てたけど、間近で見るとこれほど…………）

令和キーパー「くそっ……………!」バツ!

角間「令和キーパー、綺羅との距離を詰めます!」

令和キーパー「シュートコースは塞いだ!!打つところなんてどこにも…………」

ツバサ「……………エースの仕事は、ゴールを決めることじゃない」

令和 キーパー「!」

ツバサ「必ず得点につなぐこと」

ドツ！

令和キーパー「そんな……！」

角間「ここでパス!?綺羅が令和キーパーを引きつけていたことにより……」

爆「ー………は？」トツ

角間「UTX爆、完全にフリーだああ!!」

MFI「時間がありません!!シユートを!!」

先輩「頼んだよ!!」

爆（待って………待ってよ）

爆（は、え、な、なんで………こんなタイミング、で………）ドクツ………!

爆（あんたが決めるんじゃないの?完全にその流れだったじゃない………!）ドクドク

ドクドク

爆「はっ……!!はっ……!!」ドクドクドクドク

爆（心臓うるさい、自分の体じゃないみたいにあふわふわする…）ドクドクドクドク

爆（入るの…!?!?こんな状態で……!!）

爆（綺羅ツバサは……ずっとこんなプレッシャーを……）ハア…ハア…!

彼女は本能的に悟った

入部当初からライバル視していた綺羅ツバサと自分は

根本的に違う人種なのだ



ツバサ「なに怖気付いてるのよ!!」

爆「:!?!」クルッ

ツバサ「フリーなら決めれるって言ったの……あなたでしょ!!」ハア…ハア…

爆「……!」

—————

爆「もうフリーならどこにだって打てるわよ!」

爆「FWでチームの得点王だからって油断してたら足元掬ってやるんだから!」

—————

ツバサ「足元掬ってみなさいよ!!」ハア…ハア…

令和 DF「戻れ!!」

角間「令和ディフェンダーが守備を固め始めています!UTX爆、決め切れるかあ!?!」

爆「…………うるっさいわね」ザッ……!

あの時、貴方にあの言葉を言われた時から

貴方と対等な気がしなかった

『やろうともしてなかった奴に言われる筋合いはない』

私は……………

綺羅ツバサ（すごい人）に、ずっと勝ちたかった（認めてもらいたかった）

ドキュツ!!!

令和キーパー(…! 厳しいコース…!!) バツ!

ゴオオオオオオオオ!!!

ガアンツ!!

令和キーパー(ポスト!?)

チツ…!

シユルルルルル!!!

角間「……は、はいつたああ!!!」

角間「ゴールポストに直撃するも気合いで押し込んだああ!!!」

ツバサ「……入った……」ハア……ハア……

爆「……」ハア……ハア……

ピッピッピッ……!!!

角間「ここで試合終了のホイッスル!!優勝は、UTX高校だああ!!!」

ワアアアアアアアアアアアア!!!

先輩「やったあああ!!!」ガバツ!

爆「うわあ……!」グラッ

先輩「最後よく決めたよー!!ナイスシュート!」

先輩2「他の一年生も最後の方どうしたの!?すつごかつた!!!」

DF2「ポストに当たったの入ってよかつたなあ!」

面倒「あれ外してたら延長だったからね、長引かなくてよかったよかった」ウンウン

爆「……ええ、よかった」

ツバサ「……」

三年生モブ「綺羅ちゃん！あなた最後までよかった!!」ワシヤワシヤ!

ツバサ「あ、ありがとうございます?」ボサア……!

三年生モブ「……こちらこそありがとうございます」ニコツ

あんじゆ「……」

エレナ「……」

あんじゆ「エレナ、私たち優勝しちゃったのね」

エレナ「そうみたいだなあんじゆ」

あんじゆ「……実感がわかないわね」

エレナ「私はあのミスのせいでもじやないが素直に喜べない」

あんじゆ「……」

エレナ「来年は……」

ガバツ！

エレナあんじゆ「うえああ!?!」

先輩「小難しい話なんて抜きにして喜べ喜べ！」

面倒「うわゝ……」

エレナ「……っ！私は強くなるぞ!!今よりもっと!!」

あんじゆ「じゃあ私もー！」

先輩「あつはは！いいねゝ、頑張れ！」

控え室に続く廊下

爆「……ふう」

ツバサ「決勝点おめでとう」

爆「……！綺羅ツバサ！」バツ！

ツバサ「あのシュート、狙ってたんでしょう？」

爆「……相手のキーパー、ボールに触ってた」

—————

令和キーパー（ポスト!?)

チツ……！

—————

爆「もう少し内だったら取られてたかもね」

ツバサ「……貴方に託して正解だったわ」

爆「あ、当たり前じゃない！」フンス！

爆（言え、言うのよ私！今しかないじゃない……！）

爆「……綺羅ツバサが決めれないなら私が決める、そしたら言ってやるんだ」  
爆（どうだ、私もすごいでしょ、って）

爆「……ありがとう」

ツバサ「へ？」

爆「……あ」

ツバサ「…………」



ツバサ「ふふ」クスッ  
爆「……………／／／／／」カアア…！  
こうして、私たちの一年目は幕を閉じた

## 2年目

ツバサ（……もっとボールを自由に扱えるように……！）

エレナ（ボールを取られないために、もっと視野を広げたほうがいいな）

あんじゅ（マークを外すために……あれ、使えるかしら）

大会が終わってからの数ヶ月間、監督の本格指導のもとメキメキと実力を伸ばしたメンバーは二年生となった

一年生の入部希望者が多かったため、テストを行なったが一軍入りは1人だけだったその1人とは

MF2「しああつす!! MF2です!! ツバサさんに憧れてきました!! よろしくおねがい  
しああつす!!」バツ!

ゴオオオオオオオオ!!!

DF2「……………あつつ…」パタパタ

面倒「絶対ここだけ5度は高いよ……………」

ツバサ「ふふ、私に憧れてくれるのね、ありがとう」

爆「ちよつとちよつと! 憧れるなら私にしときなさい!! オススメよ!」

エレナ「なんだ憧れのオススメって」

あんじゅ「特売品みたいね」

面倒「……………安いんだあ」ボソツ

爆「……………!」ムクウウウ……………!

MF2（……………大丈夫なのか? この人たちは…）

MF1「はいはい、遊んでないでそろそろ帰りますよみなさん」

みんな「はい！」

M F 2 (あ、この人はまともなんだな)

爆(…そういえば…)

ツバサ(彼女、結局来なかったわね……)

「クシュッ！」

M F 3 「うー…この季節の河川敷はまだ寒いつすね…」

M F 3 「…サッカー部、行けばよかったつすかね…」

シュートシュート！

あはははは!!

M F 3 「………」カリカリ…

過去のトラウマのせいで踏ん切りがつかない彼女は一人

河川敷でサッカーに勤しむ子供達をひたすらスケッチブックに描き起こしていた

MF3 「やっぱり実物見た方が描きやすいっすね〜」

次の二次創作は少年サッカーの作品を描こうとしていたようで、サッカーの動きを直に見れて満足そうだ

サッカーが嫌いなわけではない

オタクだからという理由だけで排斥してくるあの空気が嫌いなのだ

部だけではない、クラスメイトに知られるだけでもめんどくさいことになるのは分かっている

「ねーみんな！この子こんな絵描いてるんだけど！」

「え……これって漫画……？へー………こんなの描いてたんだ………うわ………」

「オタクっぽいとは思ってたけど………ここまでオタクだったんだ………」

「……………はは………」

MF3 「…………オタクで…………誰に迷惑をかけたっていうんすか」カリカリ……

「……へえ、上手いもんですね」

M F 3 「…!?!」ビックウツ!!!

バサバサッ!

突如背後から声をかけられ

驚きのあまり描いていたスケッチブックと筆記用具を落としてしまった

M F 1 「そんなに驚かなくても…」

M F 3 「だ、誰っすか!?!」ガサガサ!

落としてしまった道具をかき集めながら問いただす

M F 1 「誰って…:酷いですね、同じクラスではないですか」

M F 3 「…:…!?!」

思い出した、いつも真面目で礼儀正しい優等生な…:

M F 3 「美人さん……」

M F 1 「おや、褒めても何も出ませんよ」フフ

M F 3 「……サアア……」

知られた、知られてしまった

クラスメイトに自分が絵を描いているということ

M F 1 「……？」キョトン

いや、彼女なら不用意に広めるといふことはしないだろう

ここは冷静に……

M F 3 「……何の用つすか、用がないなら放っておいてくださいいつす」

M F 1 「……用……ですか、ありますよ」

M F 3 「？」

M F 1 「あなたを……」

M F 1 「サッカー部に勧誘しに来ました」

M F 3 「……はい？」

なぜ、彼女はわたしがサッカーでできることを知っているのだろうか

M F 3 「な、なんのことつすか…？サッカーなんて一度もしたこと……」

M F 1 「………」ピッ

—————

ツバサ 「ふっ……！」ドキュツ!!!

ゴオオオオオオオオ!!!

M F 3 「あ、危………」バツ！

フワッ………！トツ……

—————

M F 1 「実はあの時、私もいたんですよ」

M F 3 「動画撮ってたんつすか……小狡いつすね」

M F 3 「でもそれがどうしたって……」

M F 1 「……」スッ

M F 3 「……!!それは………」



彼女のケータイにはスケッチブックに絵を書きこんでいる自分が映し出されていた

M F 3 「そ……れがどうし……」

M F 1 「素晴らしい絵だったのでクラスの方々にも見てもらおうと……」

ガシツ!!!

M F 1 「……」

M F 3 「……何が目的つすか……」ギリギリ……!

M F 1 「……ふふ、言ったでしょう?」

M F 1 「サッカー部に入りませんか……と」ニツ

M F 3 「……あんた……嫌いっす」

M F 1 「いいですよ、それでも」

ふと帰り道、河川敷を歩いていると

見慣れた女性が座っているのが見えた

彼女は私が一年生の頃、部活中よくグラウンドを覗きに來ていたので印象に残っていた

目をキラキラさせながら、でもどこか影のある表情をして

そんな彼女がサッカーをしているところを見た

あれほど技術もあり、楽しそうに見ていたのにサッカーをしない

……どうしてですか？

そんな彼女と二年生で同じクラスになった

話したことはなかったが、私はいつも彼女を気にしていた

彼女はおとなしい性格だったが気付けばどこかへ言ってしまうのでなかなか話しかけられないでいた

話しかけるタイミングを伺っていたところに、この絶好のチャンスが舞い降りてきた  
彼女はどこかを見つめながら真剣に絵を描いていた

目を輝かせながらそれはそれは楽しそうに

サツカーを見ていた目と全く同じだった

近づいてみた、集中しているようであるでこちらに気づいていない

いざ話しかけようとしたその時、ポツリと彼女のつぶやきが聞こえた

MF3 『……オタクで……誰に迷惑をかけたっていうんすか』

その一言で私は瞬時に思いを巡らせた

……

私は無音カメラでそれを写真に撮った

今から私がしようとしていることをもう一度反芻する  
完全に自分本位、自己満足と言われても仕方がないだろう  
彼女の傷を抉る行為なのかも知れない  
でも……

—————

ツバサ「はああ!!」ドキュツ!!!

ドシユルル!!

MF3「……!」キラキラ……!

—————

どこか放っておけなかった

関わったことも、話したこともない彼女に対し

一緒にサッカーをしたいと、心の底から思った

そのためなら

私は悪魔にでも魂を売ろう

次の日

監督「テストの結果、こいつは1軍に入ることになった」

MF3「……よろしく願います」ジロツ

MF1「ふふ、よろしく願います」ニコツ

MF3「……」フイツ

手を抜くとまたこの人がめんどくさそうだったから真面目にやると、1軍になったツバサ「来てくれて嬉しいわ」スツ

MF3「……どうもっす」ガシツ

面倒「なんで一年生で入らなかったの〜？」

爆「いろいろ理由があるんでしょ」

面倒「うえ〜？何その真面目な答え、つまんない〜」

爆「平手打ちするわよあんた」

MF2「……」ジー

MF3「……なんっすか？」ビクツ

こういうタイプの人間にこれまでバカにされてきたからか、自然と身構えてしまう

M F 2 「……」

何か考え込んでいるようだ

二年生で入ってきたから先輩として扱つか迷っているのだろうか

M F 2 「……あたしの方が一日早かったですね、先輩」ニツ

M F 3 「あ……はは」ニツ

固くなっている自分をみて和ませてくれたのだろうか

見た目は少し怖いが悪い子ではなさそうだ

……どうせこの子も自分がオタクだと知れば手のひらを返すのだろうか

監督「練習はこれまで通り、基本放課後下校時間ギリギリ、休日は一日中だ!!」

みんな「おお!!」

M F 3 「お……お……」ヒキツ

オタクを隠しながら生活する時間が増えた、面倒くさい

………と思っていたのだが

数日後

ピーーーーーーー！！

先輩「10分休憩！」ハア…ハア…

ツバサ「あ…キツツ…」ドサツ

エレナ「これは酷いな…」ハア…ハア…

あんじゅ「水々！」ドサツ

チームの主力三人が揃って弱音を口にする

どうやら監督から必殺技の特訓を別メニューで受けているようだ

疲労が溜まっているのだろう

M F 3 「…っ…んくっ…！」プハア…！

M F 2 「先輩二年から入った割には体力全然あるんすね」

M F 3 「運動は何だかんだ続けてたっすからね」

M F 2 「へー……」

まだ入部して数日だったが少しづつ部に馴染み始めていた

………そう

油断していた

M F 2 「……あ、そういえば今日モバイルバッテリー忘れたんですけど借りていいですか？」

M F 3 「急用ですか？」

M F 2 「今日残ろうと思ってるんで遅くなるって家に連絡してきたくて」タハハ……！

M F 3 「いいつすよ、カバンの中に入ってるから自由に使うってくださいっす」

M F 2 「あざます！」 タツタツタツ



M F 3 「ふー……」

今日は帰りに河川敷で絵を描きましようかね

ふふ、どんなポーズが見れますかね

M F 3 「……」

今日は帰りに河川敷で

カバンの中にはいつも通りスケッチブックが

『……あ、そういえば今日モバイルバッテリー忘れたんですけど借りていいですか？』

『いいですよ、カバンの中に入れてるから自由に使ってくださいです』

M F 3 「……っ!!」ガバツ!!!

やってしまったやっってしまったやっってしまった

M F 3 「ちよ、ちよつとトイレに行つてくるっす!!!」ダツ!

先輩「う、うん! わかった……」

D F 2 「あんなに急いで……でっかい方か?」

面倒「デリカシ」

M F 1 「……」

M F 3 「はあ……はあ……!」タツタツタツ

人目をはばかる余裕もなく部屋まで全力でかけていく

もしかしたら見ていないかも

スケッチブックが入っていたとしても勝手に見ないだろう  
そんな淡い期待をせずにはいられなかった

MF3 「…はあ…はあ…！」 タツタツタツ

部室が見えてきた

扉は開いている

あの子はもうカバンを開けてしまっているだろう

どうか、どうか見ていませんように…!!

ガラッ…!!

MF2 「あ、先輩！」 パラパラ

MF3 「…はあ…はあ…はあ…！」

………終わった

MF2 「先輩絵とか描くんですね、こんな細かいとこまでしつかり……」  
………また………あの悪夢が始まるのか

MF2 「ところで先輩、今日の放課後空いてますか？」 テクテク  
スケッチブックを持ったまま後輩が近づいてくる

怖い

MF2 「ちよつと話したいことがあるんすけど」 ニイツ  
何で自分ばかりこんな目に……

MF3 「………わかつたつす」

自分が………何したっていうんすか

その後のことはよく覚えていない

気づけば放課後になっていた

放課後

ザッ！ザザッ！

M F 2 「……つと！こんな感じなんですけど！」

M F 3 「……えーつと……？」

M F 2 「どうすか!!」ズイツ!!

M F 3 「ひええくく……!!」

時間は少し前に遡る

M F 2 「さ、先輩を呼び出したのは他でもないすよ」  
放課後、恐る恐る後輩の元へ行くといきなり核心をついてきた  
何を言われるのだろう、みんなにバラされるのだろうか  
しかし、彼女の口から出た言葉は予想の遥か上だった

M F 2 「必殺技の練習に付き合ってください!!」 バツ!

M F 2 「……………はい？」

あまりに予想外だったため情けない声が溢れた

M F 3 「な、何で自分が？」

M F 2 「先輩人の動いてる中あれほどしつかり見えてるなら」

M F 2 「何か改善点を見つけてくれるんじゃないかと思っただんすよ！」

MF3 「……自分でいいなら」

MF2 「いよつしやあ!!」 バツ!

この日から自分たちの特訓は始まった

なぜ絵を描いてることに何も言わないのか聞いてみると

MF2 「……へ? えーつと……うまいですね?」

MF3 「そ、そうじゃなくて……!」

MF2 「そんなもん隠してるから後ろめたくなるんですよ」 バツ

MF3 「ちよ……! なにを…!」

MF2 「先輩方ー! 見てくださいよ! これすごくないですか!」

MF3 「……」 ポカーン……

彼女は部員(一軍)に自分の描いた絵を見せ始めた

MF3 (………一番知られてはいけない人に知られたのかもしれないす)

なんだなんだ？

ゾロゾロ

M F 3 (……………はは……今度こそ終わった……)

……………勘のいい皆さんならもうお気づきつすよね

ツバサ「わあ……！すごいわね！」

エレナ「力の流れが目で見える……」

あんじゅ「うつま……」

D F 2「うちもっ……！見せてっ……!!」ピョンピョン

M F 1「……………ふふ」パラッ

爆「ねね！私のこと描きなさいよ！」

面倒「それ一番嫌がられるやつだよ〜？」

先輩「くおらあ!!居残るなら練習しなさい!!」

みんな「は、はい!!」



先輩「それと、私も後で見せて!!」

M F 3 「は、はい……!」ピシッ

今までの心配はなんだと言いたくなるほど自分の悩みはすんなりとみんなに受け入れられた

M F 2 「だから言ったでしょ、隠すからダメなんすよ」

M F 3 「……一応お礼を言っておきます」

コソッ

M F 1 「ね? サッカー部入ってよかったでしょう?」ニッ

M F 3 「あんたは嫌いです」

胸のつつかえが取れたMF3はこれまでよりも人と関わるようになった  
もともと人と接するのが好きだった彼女はあつという間にチームに溶け込んだ  
そして試合の日……

監督「勝て、以上だ」

先輩「よーし！ー！戦目、気を抜かずに行くよ！」

「おおー！」

F  
W

ツバサ、爆、エレナ

M  
F

あんじゅ、MF1、MF2、MF3

DF

面倒、DF2

ピーーーーー！！

ドッ！

試合はUTXが試合を支配していた

敵がボールを持てば10秒もしないうちに奪われる

こちらがボールを持てばあっという間にゴール前

しかし、チームの表情はどこか良くなかった

敵0-2UTX

ツバサエレナあんじゆ「ふっ！」ダンッ！

角間「UTX再び連携シユートだあ!!次こそ決められるかあ!？」

グルグルグル……!

ギユオオオオオオオオオオオオ!!!

MF3「……!」

ツバサエレナあんじゆ「はああああ!!!」バツ!

ドキュッ  
!!!!

ゴオオオオオオオオ!!!

敵キーパー「止める……!」グッ

敵キーパー「……?」

ヒユウウウウ……!

テンテンテン……

角間「外したああ!!これで何本目だあ!？」

ツバサ「……まだどこかズレてる……」

エレナ「もうこれ以上修正するところなんてないだろ……」

あんじゆ「もうツバサの『ペガサスショット』で決めましよう?」

ツバサ「……それじゃ足りない、いつか止められる」

ツバサ「この『デスゾーン』を完成させないと……」

エレナあんじゆ「……」ヤレヤレ

M F 3 「……」ジーン……

M F 3 「……まさか」

D F 2 「……?」

ピーーーーーー!!

相手キーパー「ふっ!」ドキュツツ!!

相手D F「オーライ!」タツタツタツ

M F 2 「とらせねえよ!!」 バツ!  
パシッ

面倒 「お〜!」

角間 「これはM F 2 ナイスカット!! ボールを奪った!」  
相手 D F 「行かせない!」 ザッ!

M F 2 「……………」 トッ

—————

ドサッ

テンテンテン……………!

M F 2 「つち……………! あと少しなのに…」 ハア…ハア…

M F 3 「……………! ………………、……………?」 ブツブツ

M F 2 (怖いなこの人…) ゾッ

M F 3               ブツブツブツブツ

M F 2 「……………はは」クスッ

M F 2 「…何かわかりましたか？」

M F 3 「……………へあ!?!は、はい!おそらく…」

M F 2 「おお!なんすかなんすか!?!」

M F 3 「多分ですが、足の振りが足りてない気がするっす!」

M F 2 「振り上げ?」

M F 3 「ただで振り上げるんじゃない、身体全部を使って足を限界まで振り上げるっす!」

M F 3 「振り上げた後は……………」

—————





ツバサ「こっちへ！」ダツ！

M F 2「お願いします！」ドツ！！

ツバサ「……次こそ決めるわよ！！エレナ！あんじゅ！」トツ……！

エレナ「……ああ！」

あんじゅ「わかってるわよ！」

M F 3「……！シユート……」

M F 3（……言った方がいいんっすかね……でも自分なんか頼まれてもないのにア  
ドバイスなんて……）

ポンツ

M F 3「……！」ビクツ

D F 2「何か思うことがあるんやったら言っとけ、チームなんやから遠慮なんかすんな」

D F 2「もしなんか言われたらウチが守ったるから、行ってこい！」パシツ！

M F 3 「……はいつす！」ダッ！

相手キーパー「来い！」グッ！

ツバサ「今度こそ…!!」ダッ！

M F 3 「……ツ、ツバサ……さん！」タツタツタツ

ツバサ「……何、今話してる場合じゃ…」

M F 3 「ジャンプのタイミングっす!!!」

エレナ「……ジャンプのタイミング？」タツタツタツ

M F 3 「三人は順番にジャンプするっすけど、それじゃあ個人差で誰かが先に落ちちゃうんっすよ！」ハア…ハア…

ツバサ「……！それでバランスが崩れて……」

あんじゅ「じゃあ順番を変えれば……」

M F 3 「できるはずっす!!!」

相手キーパー（どうせまた外すんだろ……）

ダンッ！

グルグルグル……

ギユオオオオオオオオオオオオ

相手キーパー（……？なんかさつきと違うような……）

ギユオオオオオオオオオオオオ

相手キーパー（これ……！さつきと全然違っ……！！）

ドキュッ  
!!!!

ツバサあんじゅエレナ【デスゾーン!!】

ゴオオオオオオオオオオ!!!

角間「ここに来て完成させたああ!!新必殺技だああ!!」

MF3「はああ……!」キラキラ

相手キーパー「くっ……そおお!!」バツ!

ドシユルルルル!!!

途中ですがとりあえずこれで終わりです!

三年めに爆と面倒は同じ学校に転向して三年目の音の木坂と当たる前に出てきて【ザ・エクスプロージョン】や【コズミックブラスター】や新技で戦うことになる流れでした

「どこかで使える?」

ありがとうは言わないっすよ

何だか歌みたいですね

それでは聞いてください

「ありがとうは言わない」

やっぱりあんた嫌いっす